戦略的研究プロジェクトシリーズⅥ

大学院教育の改革

特別教育研究経費
「21 世紀知識基盤社会における大学・大学院改革の具体的方策に関する研究」
（平成 20 年度～24 年度）

平成 25 年 4 月

広島大学・高等教育研究開発センター

報告書の刊行に際して

戦略的研究プロジェクトは，「経済財政改革の基本方針 2007」（2007 年骨太の方針）を踏まえ，大学・大学院改革のための具体策に関する研究を行うことを目的に，文部科学省特別教育研究経費（戦略的研究推進経費）を得て，2008 年度から 5 カ年計画で実施され，今年度がその最終年度にあたる。こうした大きな目標の下で，①世界トップレベルの大学院教育の改革，②知識基盤社会における人材養成と教育の質保証，③高等教育の国際化・多様化と機能・役割分担，の三つの観点から研究を進め，併せて，④国立大学や地方大学の充実を目指す改革，⑤競争的資金の拡充と効率的な配分，⑥国立大学法人運営費交付金の改革についても検討し，これらの高等教育研究成果の提供のための知識基盤（データベース等）を構築することとなっている。これまでの過去 4 年間においては，5 冊の報告書を刊行（戦略プロジェクトシリーズⅠ～Ⅴ:『大学院教育の現状と課題』,『大学院教育の将来―世界の動向と日本の課題―』,『国立大学の機能に関する実証的研究－地方国立大学に注目して－』,『大学教育質保証の国際比較』,『知識基盤社会と大学・大学院改革』）してきた。本報告書は上記①②のテーマに関すると同時に，上記報告書Ⅰ，Ⅱに連なるものとなる。本報告書が今後の大学院改革や教育の質保証の問題を考える上での実証的知見として，必要不可欠なエビデンスの一翼を担えるものとなることを期待している。

2013 年 4 月

広島大学・高等教育研究開発センター・センター長
藤村正司

目　次

報告書の刊行に際して

分析編

大学院教育とは何か ……山本 眞一　1
教員と院生から見た大学院教育の現実と課題
　ーインプット・スループット・アウトプットー ……藤村 正司・李 敏　7
日本の大学院教育の現状と課題 ー『日本の大学院教育の
　人材養成機能とその問題点に関する調査』報告ー ……大膳 司・安部 保海　45
わが国の大学・大学院教育のあり方について
　ー職業を経験した立場からの自由記述分析ー ……大膳 司　75
入試選抜に見る日本の大学院教育
　ー2011 年全国調査のデータ分析を中心にー ……黄 福濤・李 敏　85
大学教員を巡る諸条件・負担感・研究業績の変化について ……島 一則　95

資料編

『大学院教育の現状と課題に関する教員調査』資料 ……　109
『大学院教育に関する院生調査』資料 ……　193
『日本の大学院教育の人材養成機能とその問題点に関する調査』資料 ……　229

分析編

大学院教育とは何か

山本　眞一 *

1. はじめに

広島大学高等教育研究開発センターが，文部科学省から「21 世紀知識基盤社会における大学・大学院改革の具体的方策に関する研究」と題する特別教育研究経費を得て，平成 20 年度から研究活動を開始したとき，我々の問題意識には，①世界トップレベルの大学院教育の改革，②知識基盤社会における人材養成と教育の質保証，③高等教育の国際化・多様化と機能・役割分担の三つの大きな柱があり，これと平行して④国立大学，地方大学の充実のための改革，⑤競争的資金の拡充と効率的配分，⑥国立大学法人の運営費交付金の改革を合わせて検討し，これらを総合して大学・大学院改革の処方箋を書き出すことにあった。中でも大学院に係る諸問題は，我々の関心事の最も主要なものであり，またわが国の高等教育のあり方を考える際にも，きわめて重要な課題である。近年，政策当局の関心事が，やや学士課程教育の改革に傾斜しつつあることは事実として認めざるを得ないが，しかし学士課程教育の背後にある諸問題は，大学院教育においてさらに先鋭に表出しつつあることを考えると，何はともあれ大学院教育およびこれを実施する「大学院システム」の改革こそが，高等教育問題の一番の肝要だと考えても不思議でない。私自身は，昨年度末の広島大学定年退職に伴いセンター長を退いたが，5 年計画で実施されたこの戦略的研究プロジェクトが最後まで大学院問題に大きな関心を持ち続けたことは，当然のことと言えよう。

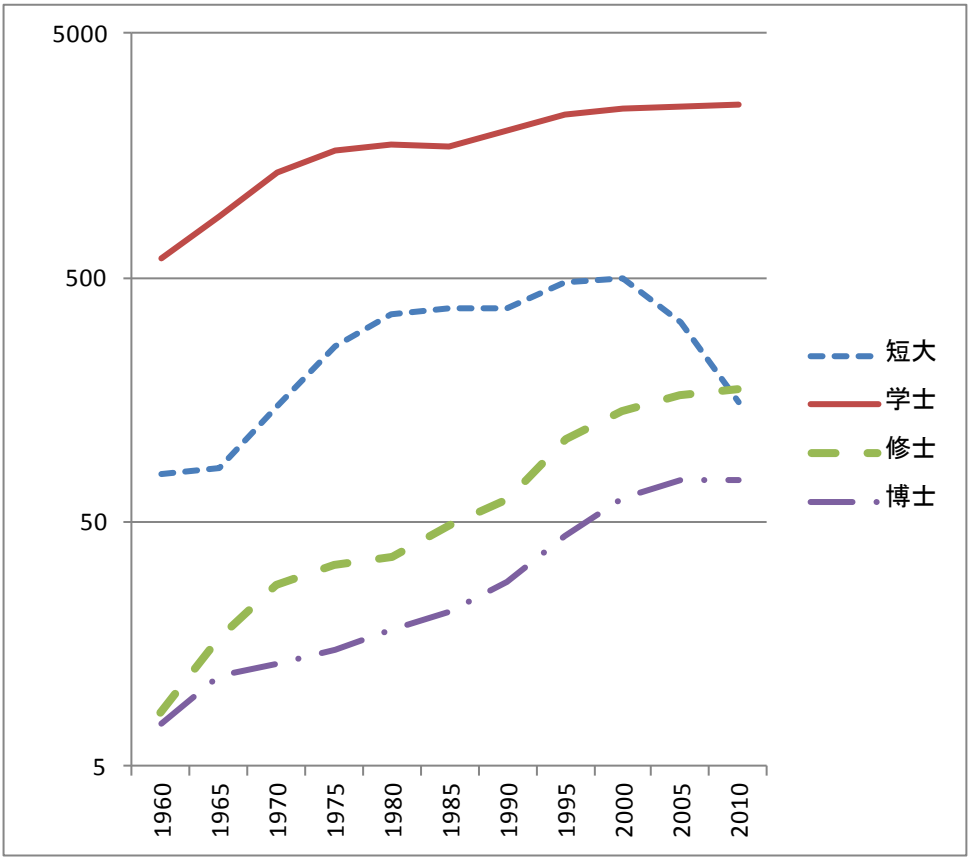
大学院問題がわが国の高等教育にとって大事であるのは，第一にこの問題がわが国における高等教育の役割・機能にかかわることであり，第二にこのことが大学院改革を遅らせる原因となっていることのためである。また，第三に今後のグローバル化・知識基盤社会化の中では，いつまでも大学院問題を現状のままで放置することは許されないことであるためでもある。以下，これらの点について論じていく。

2. わが国高等教育システムと大学院

わが国の高等教育システムは，中等教育の基礎の上に立ちつつ，専門分野の高度な知識・技術を有する高度専門人材および幅広い教養を有し各方面で中核的役割を果たす人材

* 桜美林大学大学院，教授　広島大学高等教育研究開発センター，前センター長

を養成することを主な目的し，これを支える研究活動や知識・技術を社会に生かすさまざまな活動を含めて，これまでもそしてこれからも大きな役割を果たすことが期待されている。このシステムは，2 年程度の短期高等教育（准学士），4 年間の学士課程教育（学士）および 2 年ないし 5 年の大学院教育（修士・博士）の三つの部分からなっていて，わが国のこれまでの傾向は，短期高等教育および学士課程教育に大多数の学生が集まり，大学院教育は諸外国に比べても大変小規模であると言われ続けてきた。ただ，学生の増加率を見る限り，いつの時点においても大学院教育の伸びは学士課程教育に比べて高く，このことは進学率の上昇による学士課程教育の大衆化と並んで，特記すべき事象であることに注意しなければならない。



出典：文部科学省「文部科学統計要覧」2011 年版

図 1 学生数の推移（単位千人）

ただ，大学院教育の急増については，必ずしも社会の側のニーズの増大に対応したものではなかった。これは 1990 年代初頭，18 歳人口の減少傾向が始まる中で，大学とりわけ国立大学にとっての新たな発展のフロンティアは大学院であるという認識が広がったこと，また政策当局にとっても高等教育政策の発展方向を大学院の拡充に見出したことなど，いわば生産者の側の事情があったからである。このことは 1991 年の大学審議会答申に基づき，

当時の文部省が大学院学生の 10 年で倍増という計画を打ち出し, 計画期間中にこれを達成したことに象徴される。

しかし，結果として大学院とくに博士課程修了者の就職は，以前にも増して厳しい状況となり，いわゆるオーバードクターの問題は従来の理系分野だけではなく，文系分野にも広がりを見せつつ，深刻化の度合いを深めている。政策当局は，これに対して大学院学生の経済支援に加えて，ポストドクター1 万人計画に代表されるように，大学院博士課程修了後，就職までの間の段階すなわちポストドクターの期間を通過すべき過程の一つと位置づけ，優秀な人材に手厚い経済的支援の手を差し伸べてきたが，出口である就職機会が相変わらず厳しい中で，就職者の年齢が上昇する傾向も顕著であり，研究者・技術者のライフ・サイクルの面からも深刻な課題である。

政策当局（文部省および文部科学省）の大学院改革の主眼は，1970 年代の大学院改革の本格化以来，第一には大学院教育の目的に従来の研究者養成だけではなく，高度専門職業人養成を加えてきたこと，第二には職業をもつ社会人にも学びやすいシステムを作り上げてきたこと，第三には学位の授与要件を，以前のような研究業績主義ではなく，研究者として自立して活動ができる能力主義に変え，各大学院に学位授与の円滑化を促してきたこと，など大学院教育の枠組みあるいはシステムの改革であった。2000 年代に入り，大学院教育の実質化を謳うようになり，教育課程に則った指導すなわちコースワークを重視し，所定の課程を経ることによって，より容易に学位取得に至れるような仕組みの構築に，大学院改革の重点が移りつつあることは評価できる。これによって，文系分野の学位授与数が飛躍的に増えつつあることは，政策に一定の効果がある証拠である。

3. 大学院教育と学生の就職

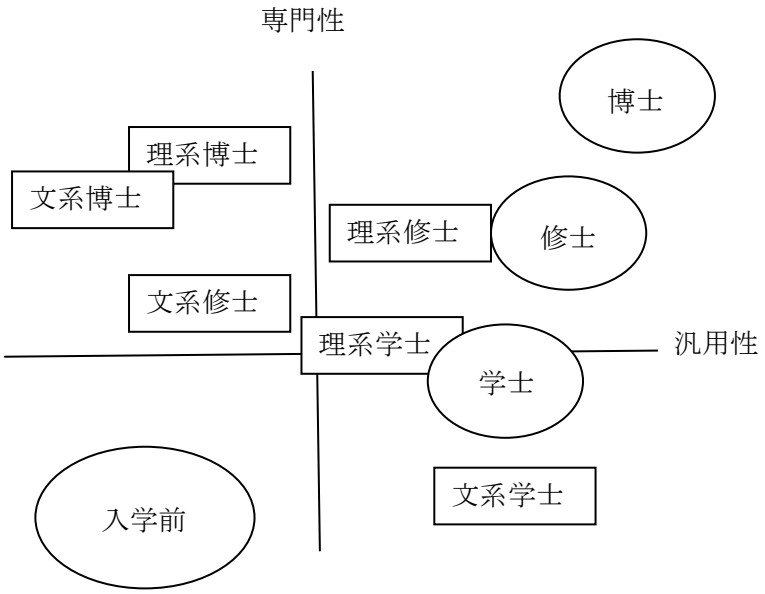
上記に述べたように，大学院改革が進みつつあるとはいえ，大学院修了者の就職状況は厳しさを増している。これは，大学院修了者の最重要就職先とみなされている若手大学教員ポストすなわち助手，助教，講師への就職機会が，大学院修了者数の増加に加えて，18 歳人口減に起因する大学教員ポストの縮減が進み，きわめて厳しい状況にあることが大きな要因である。

これへの対策として，これまで政策当局が推進してきたことは，いわゆる高度専門職への就職である。すなわち，大学の教員ポスト以外の職，たとえば企業や国公立研究所の研究員さらには企業の技術者などへの就職機会を考えるということである。しかし，このことについては，従来から大きな困難が指摘されている。その困難を図示すれば，およそ図 2 のようなことになるだろう。

大学院に限らず, 大学教育の目的は学生に専攻分野の専門的知識・技術を教え（専門性), かつ社会を主体的に担うための幅広い知識を教養として身に着けさせる（汎用性）ことである。このことを課程別に論じるならば，学士課程よりも修士課程，修士課程よりも博士

課程を修了した者のほうが,専門性も汎用性も身に着いていると考えるのが自然であろう。現に，米国はじめ諸外国ではそのような認識があるので，修士や博士の学位を有する者が大学や研究者の世界に限らず，広く産業界や官界で活躍しているのである。

ところが，わが国においては，大企業を中心に新卒「若年時新卒採用」と「終身（ただし定年まで）雇用」という雇用慣行があるとされ，これによると素質に優れた学士課程修了者を幹部社員として雇用し，採用後に職場訓練によって鍛えるというシステムが構築されてきた。このため，可塑性に富む学士課程修了者が尊重され，図 2 のように大学院に進むと専門性はともかく汎用性に欠けた人材になると信じられてきた。唯一の例外は理系修士であるが，これは工学修士がエンジニアとしての最低要件になっていることからみても明らかであろう。



注：□は現状，〇は目標とすべきもの

出典：山本眞一「汎用性のある能力養成」文部科学教育通信 216 号,2009, pp.39

図 2　課程別の専門性と汎用性

このような図式は，わが国の大学院教育の特徴であるとともに，その弱点を示すものととらえられてきた。したがって大学や国公立の研究所などアカデミックな知識・技術が尊重され，かつ教育・研究活動を担う資格要件として修士や博士の学位が有用な職場はともかく，それ以外の職業については，大学院教育は就職およびその後のキャリア・パスにむしろ有害ととらえる向きが多いので，これが大学院教育の拡充を妨げていることは，いわば周知の了解事項になっているのである。

4. これからの大学院教育

しかし，グローバル化の進展の中で，これまでのような国内的事情でのみ大学院問題を捉えることは，必ずしも適当ではない。第一に，大学院教育は狭い意味の研究者養成にとどまらず，科学技術研究システムの一環として，広い意味での優秀な研究者・技術者の養成にとって不可欠な存在になりつつある。現在，先進各国では科学技術と産業発展との結びつきが強まり，大学院と研究者・技術者養成は広く「科学システム」の一角を占める重要な要素である。このため，従来のような研究者養成至上主義には反省の余地があるが，科学技術研究を担う優秀な人材を養成する必要は，この先ますます重要になってくるものと考えられる。政府が大学院教育の実質化を促しているのも，単に高度専門職業人養成のためだけではなく，研究者・技術者の訓練の場としての大学院にも，新たな光を当てなければならないからである。

第二に，大学院は教育と研究とが交じり合う場であって，学士課程教育や研究所の研究活動に比べて複雑かつダイナミックな存在である。この大学院における教育・研究指導を実質化し，また大学院における研究活動を巡る諸問題を解決することや大学院出の価値すなわち学位の持つ意味合いを考えることは，大学改革の主要課題に直接に結びつくものである。いわば大学改革を考える視点の要とも言うべき存在である。現在，中教審で論じられ，政策当局によって進められている学士課程教育の改善・改革も，もとを質せば大学院における教育･研究システムの改善･改革の延長線上にあると言っても過言ではあるまい。この大学改革の要の仕組みを理解し，改善・改革を図ることによって，わが国の高等教育システムの質を飛躍的に向上させることが可能になる。

第三に，グローバル化は必然的に，学位・学歴と人々のキャリア・パスとの関係の見直しを各国に迫るものである。とりわけ，大学院出をさほど大事にしてこなかったわが訓にとって，グローバル化は学位・学歴を巡る国際標準に，雇用システムや政策体系をどのように調整していくかという難しい課題の解決が求められる。大学院修了者つまり修士や博士および専門職学位の保持者は，各国の人材の優秀者層の存在とその程度を表す重要な指標である。大学院にまつわるさまざまな課題を解決することによって，わが国においても，大学院修了者にさらに社会的な活躍の場を与えることが必要で，そのことによって優秀な人材が大学院の門をたたくという好循環が生まれることであろう。

教員と院生から見た大学院教育の現実と課題

ーインプット・スループット・アウトプットー

藤村　正司 * 李　敏 **

1. 課程制大学院の実質化に向けて

新制後，我が国の大学院は，アメリカの大学院を模倣して学部の上に修士課程 2 年と博士課程 3 年を置いた。それ以後，大学院は 1974 年に大学院設置基準が制定されるまで制度的には曖昧な位置づけであった。学位については旧制度を残した論文博士と新制後の課程博士が併存しているし，院生の位置づけは，理系，工学系，人文社会科学系，そして医学・保健系で著しく異なっている。組織的にも大学院の多様化が進行した。創設 30 年を経て今では古くなった「新構想」大学院大学，連合大学院，独立大学院，重点化後の部局化に伴う研究科横断的な大学院，そして法曹系が大半を占める専門職大学院などである。入学選抜は，「社会に開かれた大学院」とは裏腹に，実質オープン・アドミッションである。大学院の有無による大学間の格付け，院生の経済的支援，重点化の引き起こした就職問題（ポスドク）など，わが国の大学院は様々な問題を抱えている。こうした問題群は，新制 30 年後の宮原・川村らのレビューでも（宮原・川村，1980），新制 65 年を経た現在まで残されたままである。それどころか，荒井の指摘するように，大学院の量的拡大を経てますます混迷を深めているように見える（荒井，2011）。

大学院の拡充を唱えた 1991 年の答申「大学院の量的拡大について」は，高等教育政策が大学院にシフトしたことを表明した。事実，大学院は高度成長時代の大学進学率を上回る大学院進学者の増加をもたらした。我が国の大学院は，抜本的な制度改革による整理がなされずに，2000 年代に入って矢継ぎ早に大学院改革の答申が打ち出されるに至っている。2005 年 11 年の答申「新時代の大学院教育」では，教育課程の組織展開，国際的通用性と社会からの信頼をキーワードに，そして 2011 年 1 月「グローバル化社会の大学院教育」（答申）では，新制度時に発足した課程制大学院，つまり教育機関として大学院を位置づけた。1991 年答申は，大学院改革のファースト・ステージを演出したが，二つの答申は大学院改革のセカンド・ステージのシナリオを描いた。背景には，上記の大学院進学率上昇，社会人や留学生など学生の多様化，そして知識基盤社会の到来や科学技術立国の中核的人材養成がある。

*広島大学高等教育研究開発センター，センター長・教授
**広島大学高等教育研究開発センター，研究員

もっとも，セカンド・ステージに立つのは，限られた旧制の研究大学である。ほとんどの研究科（博士課程）は，閑古鳥が鳴いているからである。ところが，答申は博士課程進学者の低下の理由が体系化されていない研究室教育にあると見ている。つまり，伝統的な研究室教育では博士の学位が如何なる能力を保証するのか共通認識が得られないというのが，答申の見方である。そこで，「グローバル化時代の大学院教育」（2011 年 1 月）は，学位プログラムとしての大学院教育によってグローバルに活躍する博士の養成に向けて，一貫した博士課程教育の確立（コースワーク，複数専攻制，研究室ローテーション，Qualifying Exam）を提示したのである。

さらに，『第 4 期科学技術基本計画』（2011 年 8 月）では，大学院教育の抜本的強化（組織化）・実質化として次のように指摘している。「国は，広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーの育成を目指し，国際的なネットワークと産業界との連携の下，一貫性のある博士課程教育を実施する「リーディング大学院」の形成を促進する。国は，大学における研究科や専攻単位での体系的な評価の実施を促進するため，人材育成の目的，そのための達成目標の設定，教育内容と方法の明確化，コースワークの充実，教材の開発と活用等を進めることを求める。（33 頁）」と（下線：筆者）。

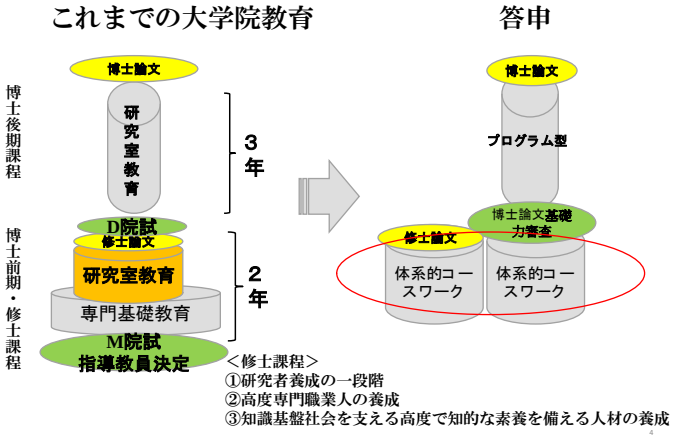


図 1 大学院教育の改善の方向性

要するに，従来の研究科・専攻・研究室のなかで行われてきた「研究室教育」を可視化し，研究科組織を横断した大括りの学位プログラム中心による教学システムが目指されているのである。なるほど，これまでのオーソドックスな大学院教育は，学部 4 年次の卒論研究，大学院入学試験時の研究計画，修士 1 年次の専門基礎教育を経て，2 年次では修士論文の作成に重点を置いていた（図 1 参照）。これに対して，答申は，アメリカの大学院教育で採用されているコースワーク（授業，セミナー，ワークショップ），TA，Qualifying Exam を経て，フィールドワークや研究プロジェクトに参加，研究計画審査，博士論文作成，口頭試験と一連のプロセスを重視する。そこで求められている能力は，専門的知識，俯瞰的

なものの見方，専門的応用能力，そしてコミュニケーション力である。

昭和 49 年に制定された大学院設置基準によれば，「修士課程は，広い視野に立って精深な学識を授け，専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うことを目的としたこと(第三条第一項)。博士課程は，専攻分野について研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的としたこと(第四条第一項)」とある。

専攻分野における高度の専門性，研究能力，そして豊かな学識を養うために，答申は指導教員に委ねられた研究室教育＝密教ではなく，アドミッション・ポリシー，ディプロマポリシー，カリキュラムポリシー，アセスメント・ポリシーの運用による教育プログラム＝顕教への転換を研究科に迫っているのである。ここには，学士課程教育のアウトカム重視の考え方が，大学院教育に適用されていると言える。それも，具体的で測定可能，達成可能，レリバントで一定の時間内に獲得した学習成果である。重要なことは，学習成果が評価に耐えうるものとして体系的に収集・分析され，期待される学習成果を学生が獲得しているかどうかが検証されるプロセスにある。

表 1 大学院教育の評価システム

	政府	専門的権威	市場
input	設置認可、定員規制 適格認定	院試 合否判定	大学ランキング 大学院案内 口コミ
throughput	コースワーク 実質化/組織化 大学院プログラム	研究室教育	
output	Qualifying Exam	学位（ 修士・ 博 審査	労働市場のグローバル化 high skill

2000 年以後に，矢継ぎ早に出されてきた答申は，繰り返し述べてきたように大学院教育の改善を研究科に課したものである。そのことは，これまで専門的権威に委ねられてきた大学院教育の評価システムに対し，政府による統制が加わったと見ることができる。表 1 は，近年の大学院改革の動向をまとめる上で，B.クラークによる高等教育をめぐる三つ権威とインプット，スループット，そしてアウトプットをクロスさせたものである。

1990 年代からの大学院の量的拡大は，労働市場を考慮しない政府と大学との共犯関係によって達成された。それは，インプットにおける規制緩和と大学院を持たなかった大学の格差是正（昇格運動）であり，あるいは教員の待遇改善であったと言える。果たして，流動化の名の下に，研究大学に院生が集中した。スループットでは，大学院教育の中身と学習成果（learning outcome）が問われているのである。政府の官僚統制（見える手）を喚起したアクターは，市場（見えざる手）である。それはインプットでは大学ランキングという“妖怪”として姿を現したが，アウトプットでは汎用能力とハイスキルを求める企業の大学院教育に対する不信感がある。市場に押されて政府は大学院教育のスループットとアウ

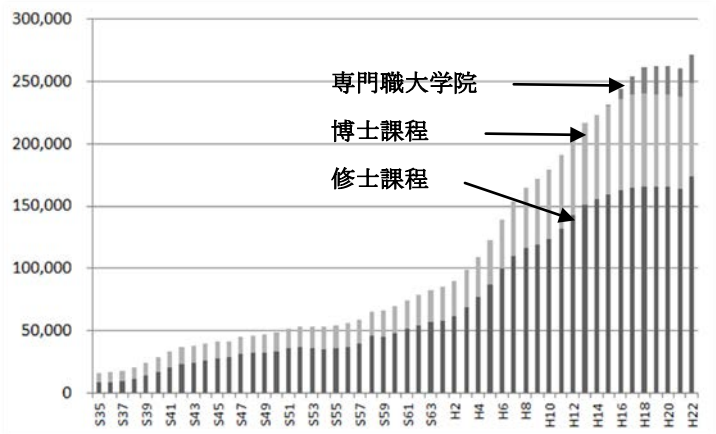
トプットを統制しようとするが，これまで大学院教育は研究を通じて行うものだと自認してきた専門的権威との間に葛藤を引き起こすことになる。

本章では，以上の文脈から，大学院改革のセカンド・ステージに立たされた大学教員と修士課程院生を対象としたアンケート調査を実施する。このことで，院生はどのように自己の能力を捉えているのか，コースワークをどの程度認知しているのか，どのような授業経験が能力を伸ばしていると認識しているのか，コースワークと伝統的な研究室教育の効果をどのように識別しているか，教員は修士課程の院生に何を期待し，大学院の実質化に向けた政府の施策をどのように認識しているのかを明らかにする。大学院教育の改善を進める上でも，実態を踏まえておく必要があると考えたからである。

とは言え，大学院教育と言っても，専門分野や大学の規模によって在籍する院生数，入学動機，修了後の進路は著しく異なる。教員自身の研究と職業教育のウエイトづけも多様である。その多様性をデータで確認しておくのが本章のねらいであるが，何よりも 90 年代から始まった重点化の帰結を教員と院生の意識で捉えておきたいというのが，本章のもう一つのねらいである。その前に，第 2 節で大学院改革のファースト・ステージを辿っておきたい。

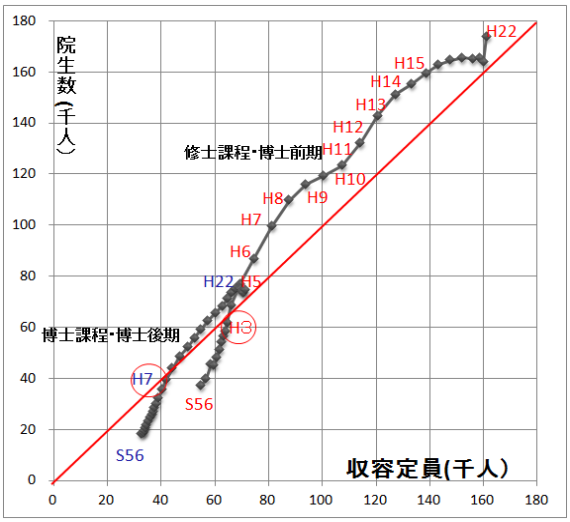
2. 大学院の拡大過程

図 3 は，『学校基本調査報告書』（各年）から大学院学生数の推移を見たものである。平成 3 年の答申「大学院の量的拡大について」以後，院生数は 10 年間で 10 万人から 20 万人の 2 倍に達している（図 2）。修士課程の過半数は理工農系，博士課程は 3 割が医歯系専門であるが，この間，図 3 に見るように修士・博士前期課程では定員の 2 割を超えて院生を受け入れたのである。



出典：文科省 『学校基本調査』各年度

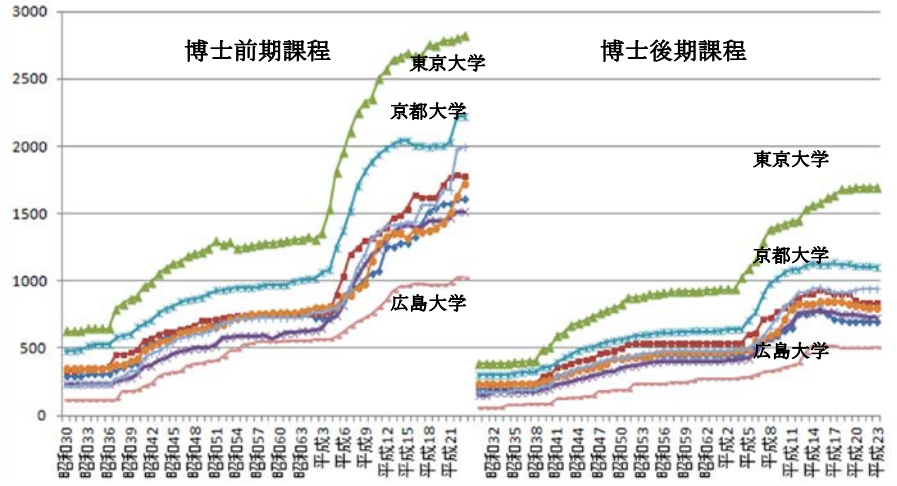
図 2 大学院学生数の状況



出典：文科省　『学校基本調査』各年度　より算出

図 3 大学院の収容定員と現員

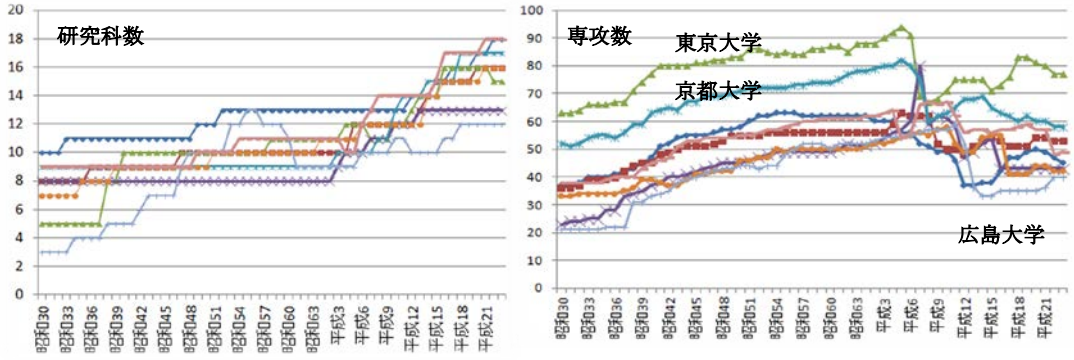
こうした大学院の重点化をリードしたのは，研究大学である。図 4 に，旧 7 帝大と広島大学について博士前期課程と博士後期課程の定員を示した。理工系では昭和 40 年代から定員は増えていたが，その当時の施設・設備等の窮状は，有馬朗人東大元学長の『大学貧乏物語』に描かれている。しかし，東大法学部の部局化を皮切りに一気に旧帝大では大学院重点化にシフトした。東京大学と京都大学では，平成 3 年以後，博士前期課程で 2 倍程度の定員増をはかっていることがわかる。重点化の結果，大学院定員で 8 つの大学に大きな格差が拡大したのである。



出典：財団法人文教協会　『全国大学一覧』各年度

図 4　旧 7 帝大と広島大学の大学院定員の推移

こうした重点化のプロセスを研究科と専攻レベルで示したのが，図 5 である。左が研究科数，右が専攻数の推移を示す。学部の上に置かれる研究科は，平成 3 年まではほぼ安定して推移していたが，平成 3 年以降は独立研究科等の新設によって研究科数は急激に増えている。同様に，専攻数も平成 3 年まで漸増傾向であった。つまり，既存の研究科のなかに専攻を新設していたのである。



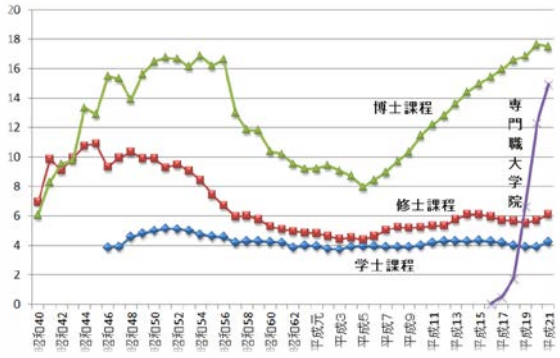
出典：財団法人文教協会 『全国大学一覧』各年度

図 5　旧 7 帝大と広島大学の研究科数と専攻数の推移

ところが，平成 3 年以降は，既存の研究科組織を改組し，あるいは大講座化により専攻数を少なくし，一専攻当たりの院生定員を増やすことで重点化をたぐり寄せたのである。大学院重点化は，教員定員を増やさず，助手ポストを教授ポストに振り替えるウルトラ C によって，つまり教育研究費と大学院手当増で賄ったといえる。

それでは，急激に膨らんだ大学院に入学した院生の状況はどのように変わったのであろうか。このことを明らかにする指標として『学校基本調査報告書』から「修業年限を越えて在籍する院生比率の推移を課程別に見てみよう（図 6)。研究科に滞留する院生の割合をみたものだが, 重点化以後はいわゆる OD 問題と呼ばれていた昭和 50 年代を越える勢いで博士後期課程の院生が研究科に留まっている。修士課程の滞留率が 6%前後で安定しているときに，博士課程院生の 16%は 3 年標準年限を修了しないで大学院に入院したままになっているのである。さまざまな要因が考えられる。就職難は言うまでもないが，後述する課程博の制度化や, 定員を充足するため無理矢理に志願者を進学させたことなどがあろう。大学院以上に急激に修業年限を越えて在籍する院生比率が高いのは, 専門職大学院である。その多くが法曹系だから，新司法試験の準備ということであろうか。

いずれにせよ，修士課程の院生はこの現実を目の当たりにしているから，博士課程には進学しないのであろう。ウェステージという視点からみれば，博士後期課程ないし専門職大学院は，高度研究者養成や高度専門職養成を謳い文句に，社会の受け皿を考慮しない甘い需要予測のもとに立ち上げたと言える。

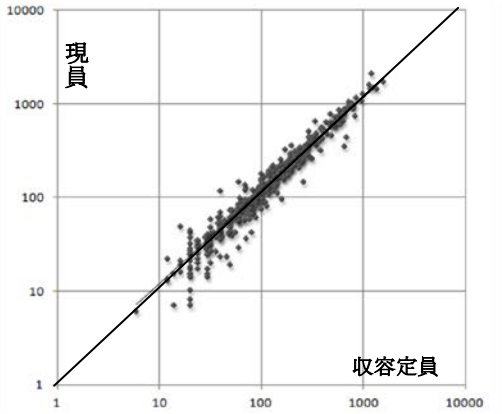


出典：文科省『学校基本調査』各年度

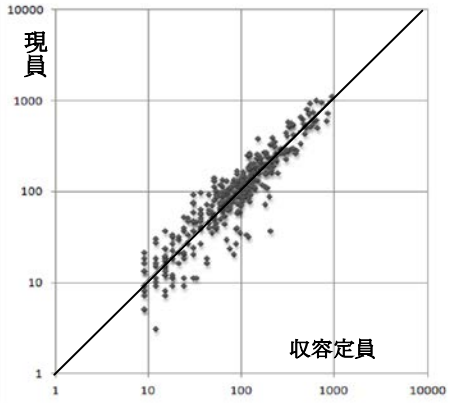
図 6 修業年限を越えて在籍する院生比率

もっとも，ウェステージの問題は，大学院生の多い旧制の研究大学の話である。図 7 と図 8 は，平成 22 年現在について課程別・設置者別に収容定員（修士課程は定員×2，博士課程は定員×3）と現員を研究科単位でプロットしたものである。グラフの両軸は対数で示した。データは,『全国大学ランキング』（朝日新聞社，平成 22 年版）である。これによって研究科単位に大学院の充足状況が把握できる。対角線から上に位置するのが定員を上回る院生を入学させている研究科，右下が定員割れしている研究科である。参考までに，設置者別・課程別に相関係数を求めると，それぞれ国立・修士課程 r=0.97（n=454），国立・博士課程 r= 0.93（n=360），私立・修士課程 r= 0.85（n=830），私立・博士課程 r=0.74（n=642）となる。研究科単位で見れば，国立大学・修士課程はほぼ直線上にある。このことから，国立大学・修士課程では，定員規制の圧力があることを予想させる。ただし，博士課程はややばらつきがあり，定員以上に入学させている研究科や逆に定員割れしている研究科もある。

(1)修士課程



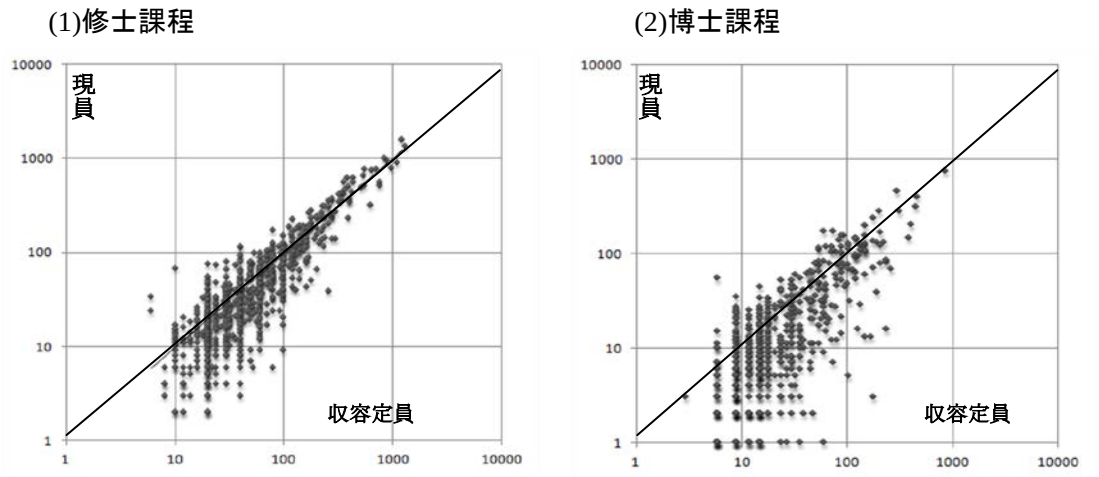
(2)博士課程



出典：朝日新聞社『全国大学ランキング』平成 22 年度

図 7　大学院研究科の収容定員と現員：国立大学

そうした定員割れの傾向は，私立大学研究科で著しい。平成 24 年現在，株式会社立を除く私立大学 598 の内，修士課程以上の研究科をもつ大学は 487 である。多くは収容定員の小さい研究科であるが，小規模研究科で博士課程の定員割れが著しい。ところで，平成 20 年度現在で私立大学の数は 589 ある。この内，半数の 290 大学が博士後期課程を持つ。しかし，『大学資料』によれば，博士授与数「0」の大学は 45，「1」は 35 大学である。博士課程をもつ私立大学の 3 割近くは，博士課程として実体がないのである。にもかかわらず，研究科が淘汰されずに存立するのは，採算よりも研究科をもつことが大学にとってアクセサリーだからであろう。



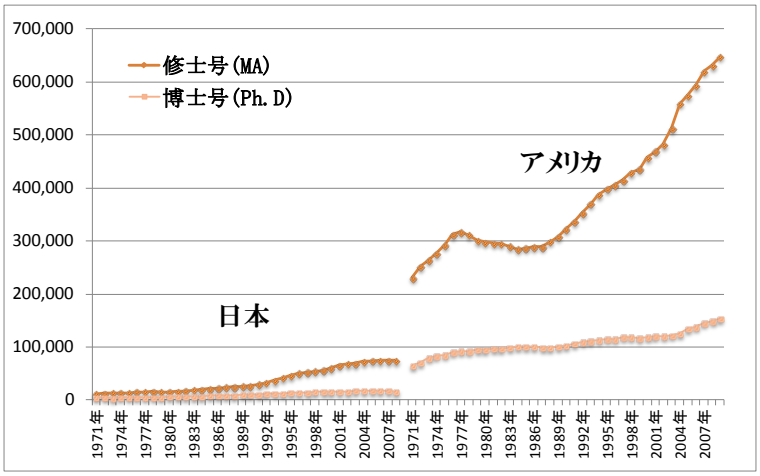
出典：朝日新聞社『全国大学ランキング』平成 22 年度

図 8　大学院研究科の収容定員と現員：私立大学

最後に，博士学位の授与状況について日本とアメリカのデータを示しておく。大学院拡充の論拠になったのが，アメリカの大学院との比較によるからである。人口規模を考慮しても，日本の大学院の学位授与数は低い。アメリカの学位授与数は，2009 年で修士は 65 万人，博士は 15 万人を超えている。アメリカ社会では後述の通り，学位がキャリアアップと賃金に直結しているからである。実際，商務省統計によれば，2008 年現在の学歴別年間収入の中央値は，大卒が 8 万 2 千ドルであるときに，修士は 9 万 5 千ドル，博士は 13 万ドルである。ただし，2011 年の Nature (April)に掲載された記事，Fix the PhD. No longer a guaranteed ticket to an academic career, the PhD system needs a serious rethink では，PhD の過剰供給を危惧してキャリアパスの多様化を紹介している。我が国でも，平成 23 年度の学校教員統計では博士課程修了者中，新規に大学教員に採用された者は 11%にすぎない。

しかし，日米の学位授与の違いは，規模だけでなく専門分野の分布にもある。『大学資料』(2012 年) によれば，平成 21 年度中の博士授与数 8,853 件の割合は，「保健」36%と「工学」24%で 6 割を占めるときに，アメリカの Ph.D.総授与数 15,8000 件の内訳は，「保健」が 36%で日本と同じ割合だが，「法律」が 28%と高く，工学は 5%にすぎない。事前統制か

ら事後統制によって想定される司法介入の蓋然性とアメリカの「法律」の博士授与の割合の高さが，わが国の専門職大学院創設の動機に繋がったのであろう。



出典：『大学資料』，Digest of Education Statistics

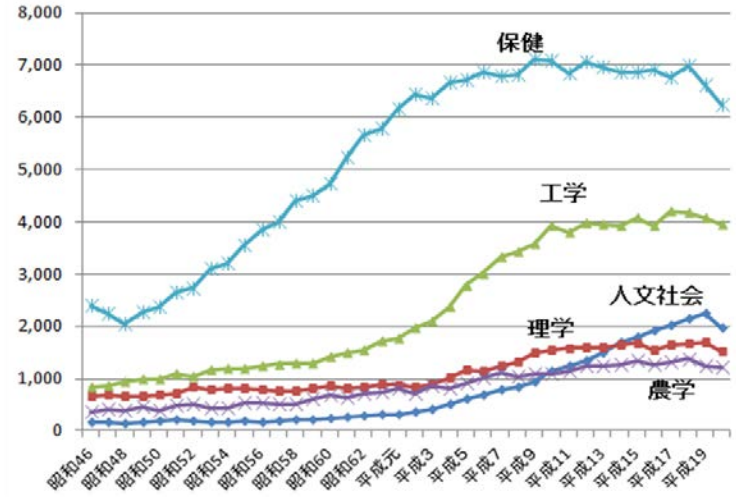
図 9 学位授与の日米比較

一方，修士授与 74,438 件の内訳をみると，日本では「工学」が全体の 42%を占めるとき，アメリカでは総数 693,000 件のわずか 6%に過ぎない。最も多いのは，「ビジネス・マネージメント・マーケッテイング」と「教育」で，ともに 26%を占める。つまり，会社と学校で管理職になるにはマスターのライセンスが必要とされているからである。そして，そうしたニーズに応える教育を大学院やプロフェショナルスクールで行っているからであろう。ここには，アメリカの大学院教育を支える多様な職能団体と資格社会がある。

次に，図 10 によって，日本の博士学位の授与状況の推移を見てみよう（甲乙計）。上述の通り，保健と工学系の占める割合が一貫して高い。だが，理学と農学も含めて頭打ちで，近年は減少傾向にある。理由は，博士後期課程に院生が進学しなくなったからである。この事実が，大学院教育の改善を求める答申の危機感の一端を占めるのであろう。

ちなみに，保健系で減少しているのは，専門医資格試験の導入と関わっている。専門医制度の浸透（医療ミスによる裁判で専門医の資格を持つことが判決に有利に働くという）により，国家試験に合格した医師の多くは，基礎研究を選択するよりも 5 年間以上の専門研修を受けた後，資格審査と専門医試験に合格して専門医を目指すからである。

図 10 は，博士授与数について，課程博士と論文博士の割合の推移を示したものである。図より，戦前から引き継いだ論文博士は，平成を迎えるまで「人文社会」で 8 割，「理学」でも 5 割近く占めていた。ところが，大学院の重点化以後は，分野にかかわらず，課程博士の割合が増加していることがわかる。反面で，こうした課程博士の制度化による圧力が，標準年限を越えて博士課程に滞留する院生の増加につながっているとも言える。現在では，人文社会系でも 8 割近くの博士論文が課程博士として受理されているのである。ただし，

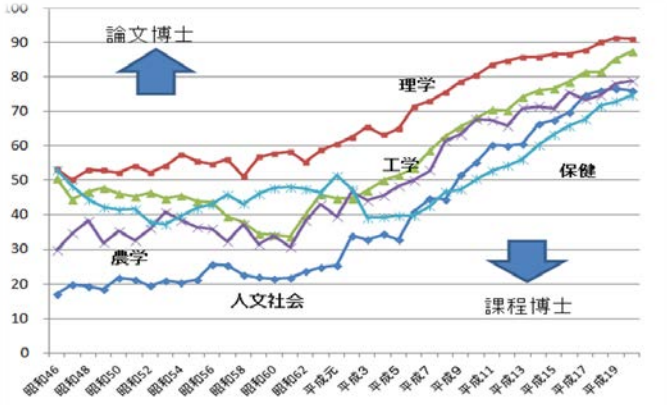


出典：『大学資料』，Digest of Education Statistics

図 10 博士学位授与数の推移

課程博受理まで何年かかっているのか，あるいは博士課程学生の何割が標準年限内に博士号を授与されているのかについての統計はない。

いずれにせよ，学位から見る限り，戦後課程制大学院として発足した我が国の大学院は，ようやく実質化したと見ることができる。しかし，答申が問題にするのは，学位を授与するまでの教育内容や方法である。



出典：『大学資料』，Digest of Education Statistics

図 11 課程博士の制度化

以下，第 3 節で，大学院拡充の担い手になり，多様な機能を持たされた修士課程（博士前期課程）に焦点化して，院生の入学動機，大学院教育の有効性，アウトカム，進路，そして大学院教育の評価などを明らかにする。

3. 大学院教育の現実

3.1. 研究枠組と調査の概要

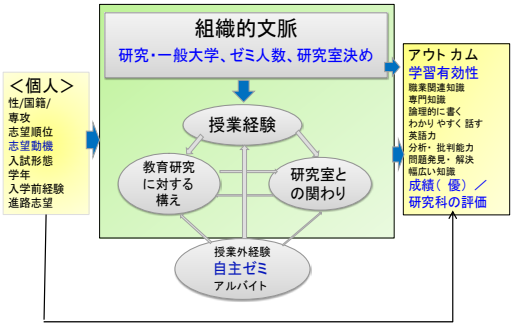


図 12 院生調査の枠組

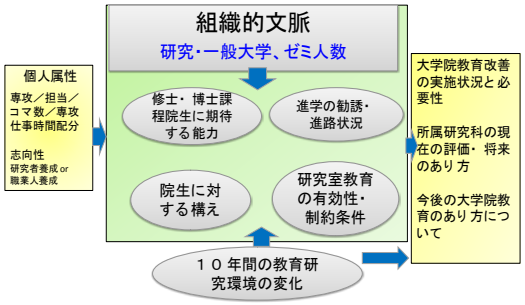


図 13 教員調査の枠組

図 12 と 13 は本調査の枠組を示している。院生調査と教員調査は，カレッジ研究と同様に，インプット，スループット，アウトプットという IEO モデルを用いる。大学院生はどういう動機で大学院に進学したのか。実際どのような大学院教育を受けたのか。その進路をどのように設計されているのか。さらに，アウトカムとして大学院教育に対する評価がどうなっているのかについて考察を試みた。院生調査の中では，特に院生の授業経験，教育研究に対する構え，研究室とのかかわり，さらに授業外経験などという組織的文脈に焦点を当てる。大学院教育のアウトカムとして成績の項目も調査表に加えた。教員調査における組織文脈の項目として，修士・博士課程の院生に期待する能力，進路の勧誘・進路状況，院生に対する構え，そして研究室教育の有効性・制約条件などの内容が含まれている。

本研究は，2011 年 12 月に広島大学高等教育研究開発センターの戦略プロジェクト研究の一環として，大学院教育を担当する教員と大学院生を対象に実施した調査の分析結果である。調査票の配布数は教員と院生が各 7,000 部となる。回収数は教員 1,036 部（有効回収率　15%），大学院院生 959 部（有効回収率　14%）である。具体的な配布方法は，①調査対象大学の大学院担当教員に，教員調査票を郵送する。院生調査表も 1 部（工学専攻のみは 2 部）同封する。②教員が指導院生に院生調査票を（1 名，工学専攻 2 名）渡す。院生調査は教員を通して行われたために，その回収率は，教員調査を若干下回っている。調査対象大学に関する詳しい内訳は表 2 のとおりである。

調査大学を決定する際には，できるだけ文系と理系，研究大学と一般大学，国公私，地方と大都市圏の均衡をとれるように工夫をしました。しかし，回収結果は，国立大学，理工系に傾っているという問題は本調査も解決できなかった。また，修士課程と博士課程の両方を調査したものの，博士課程の学生の回答数は 176 部しかないため，本論文は，修士課程を中心に分析を展開した。上述したデータ上の制限があるとは言え，研究大学・工学

表 2 調査の概要

	教員	院生
人数	1036	959
回収率	15%	14%
(1) 調査対象大学		
国立大学	13（単科大6）	
公立大学	3	
私立大学	15（単科大2）	
(2) 現在の課程		
修士課程	783	
博士課程	176	
(3) 修士入学時の選抜方法		
一般入試選抜	871	
留学生特別選抜	35	
社会人特別選抜	53	

教員サンプル

専門	人
工学	220
化学	91
経済学・経営学	80
教育学	71
農学	61
生物学	55
物理・天文学	45
法学・政治学	41
心理学	40
文学	34
情報学	34
数学	32
健康・スポーツ科学	26
史学	22
社会学	22
言語学	21
地学	18
芸術学	17
医学	15
生活科学	14
看護学	12
人文地理学	5
薬学	1
その他	42
（欠損値）	17
合計	1036

院生サンプル

専攻	人
工学	309
教育学	168
理学	138
人文科学	90
社会科学	70
学際他	68
農学	66
医歯薬	30
芸術学	6
（欠損値）	14
合計	959

系を中心とした従来の大学院調査と異なり，一般大学，人文社会専攻，特に地方の私立大学の大学院教育も視野に入れた点において，本研究の意義が大きいと評価できよう。

3.2. インプット—修士課程への進学動機

修士課程への進学動機に対する答えを回答の高い順で並べてみると,最も多い回答は「専門を深めたいから」（94.2%）と「あと 2 年間は勉強を続けたかったから」（79.9%）である（図 14)。それらの答えは，内面的な動機を表しているところに共通点がある。図 14 は大学院生全体の傾向を示した結果である。しかし，研究大学か一般大学か，理系か文系などの大学及び専攻の属性の特徴によって，修士課程へ進学する動機も違うはずであろう。

図 15 は，大学院生の修士課程への進学動機に関して，多重対応分析を実施した結果である。修士課程への進学動機を大学分類（研究大学 VS.一般大学，国公私立大学，大都市 VS.地方)，専攻，学部時代の読書習慣，進学希望時期，さらに男女別で考察を試みた。横軸と縦軸は一番寄与度（固有値）の高い変数を軸として SPSS でセッティングされた項目である。各項目の所在する位置の遠近が項目間の相対的な関連性の強弱を示している。分析結果の説明は以下のとおりである。

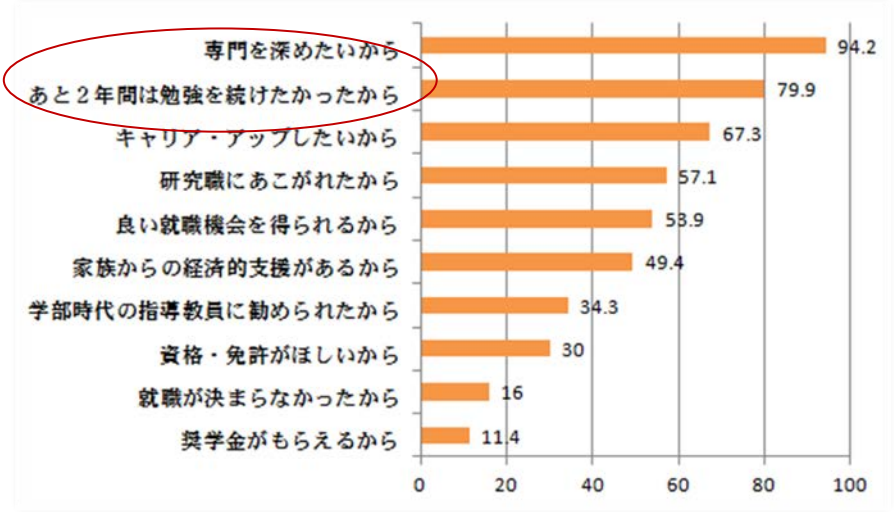
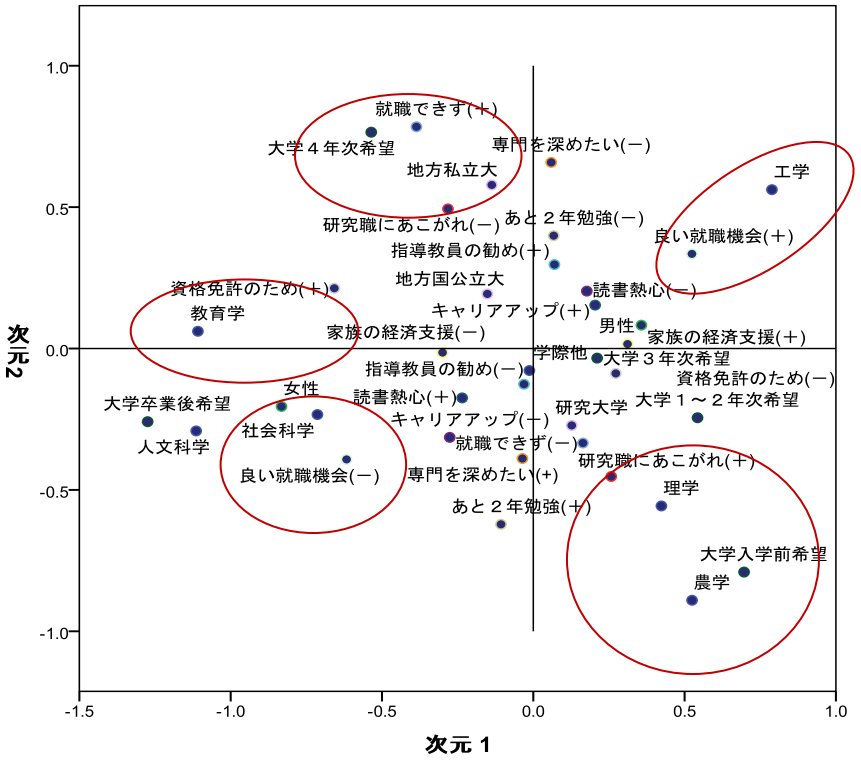


図 14 修士課程への進学動機



大学分類

専攻

学部時代の読書熱心

進学希望時期

進学理由（＋ or －）

(1) あと２年勉強したい

(2) 専門を深めたい

(3) 研究職にあこがれ

(4) 良い就職機会を得たい

(5) 家族の経済支援

(6) 指導教員に勧められて

(7) キャリアアップしたい

(8)就職できず

図 15 進学動機の布置：多重対応分析

第 1 軸は「性差・資格免許取得」である。軸の右側は，「男性，資格免許取得の動機がなし」，「左の方は女性，資格免許取得の動機あり」である。第 2 軸は，「専門を深める，あと 2 年間勉強する」という内容である。軸の下方は，「専門を深めたい，あと 2 年勉強したいという動機があり」，上方は「専門を深めたい，あと 2 年勉強したいという動機はなし」

となっている。各項目の関係を時計まわり順で説明してみると，以下のとおりである。

①工学専攻に進学したことは，よい就職機会を狙っていることと関連性が強い。②理学・農学専攻の院生は研究職にあこがれており，大学入学前にすでに大学院進学を希望した傾向がある。③女性，社会科学系の院生は，特に良い就職機会を考慮せずに進学したことが多い。そして，学部時代に読書熱心な人が多い。④地方私立大学の大学院に進学した学生は，専門を深めたいという意思が特にあるわけでもなく，就職ができなかったため，大学 4 年というぎりぎりの時点で大学進学を決めたという傾向が読み取れる。かくして，修士課程の進学動機は，大学分類，専攻などによって，かなり異なるということが図 15 から見て取れる。

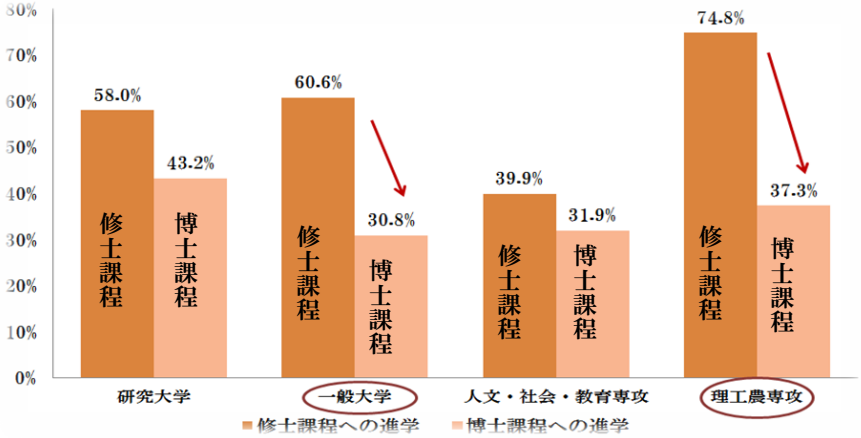


図 16 教員は大学院への進学を勧めているか？

一方，教員は果たして学部生に大学院への進学を勧めているか。これを見るのは図 16 である。修士課程への進学は，一般大学，研究大学と関係せずに，教員がある程度学部生に勧めているのに対し，博士課程への進学はあまり勧めていないという結果が見て取れる。とくに一般大学と理系においては，その傾向がなお強い。また，人文・社会・教育専攻と比べ，理工農専攻の教員は修士課程への進学を学生に勧めている特徴がある。

具体的に修士課程への進学を勧める教員はどのような特徴を持っているのか（表 3)。人文社会科学専攻の教員と比べ，理工農学専攻の教員，そして研究者養成志向の強い教員が学生に修士課程への進学を勧める傾向がある。ここで注目すべきなのは，研究室の過去 3 年の就職率が高い場合は，教員が学生に修士課程への進学をより積極的に勧めていることである。つまり，学生が内面的な動機によって大学院進学をするかどうかを判断するのに対し，教員のほうは，出口を見据えたうえで，大学院への進学を学生に勧めるという現実的な行動をとるという行動が観察できる。

表 3 修士課程への進学を勧める教員の特徴

	b	t値
女性ダミー	-.128	-1.386
教授ダミー	.046	.791
＜専攻＞		
理工農学ダミー	.233 **	3.275
人文社会科学ダミー	-.361 ***	-4.295
研究大学勤務ダミー	-.072	-1.188
研究室の過去3年就職率	.002 *	2.367
研究者養成志向（1～5）	.098 **	3.488
（定数）	2.200 ***	15.954
Adj．R2	0. 111	
N	832	

注：研究者養成志向：問「あなたの関心は，主としてどちらにありますか」

「主として研究者養成」～「主として職業人養成」（5 件法）

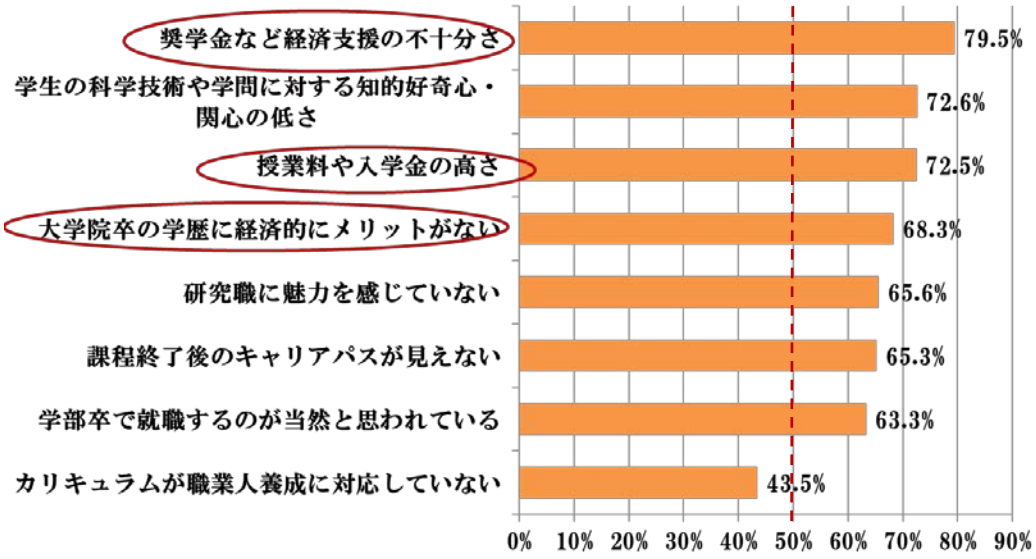


図 17 大学院に進学してほしい学部生が進学を選択しない要因

一方，逆に「大学院に進学してほしい学部生が進学を選択しない要因はどこにあるのか」という質問に対し，回答が多いのは，「奨学金など経済支援の不十分さ」（79.%），「授業料や入学金の高さ」（72.5%），「大学院卒の学歴に経済的にメリットがない」（68.3%）という経済的原因の項目である（図 17）。

3.3. スループット

（1）大学院教育に対する見方

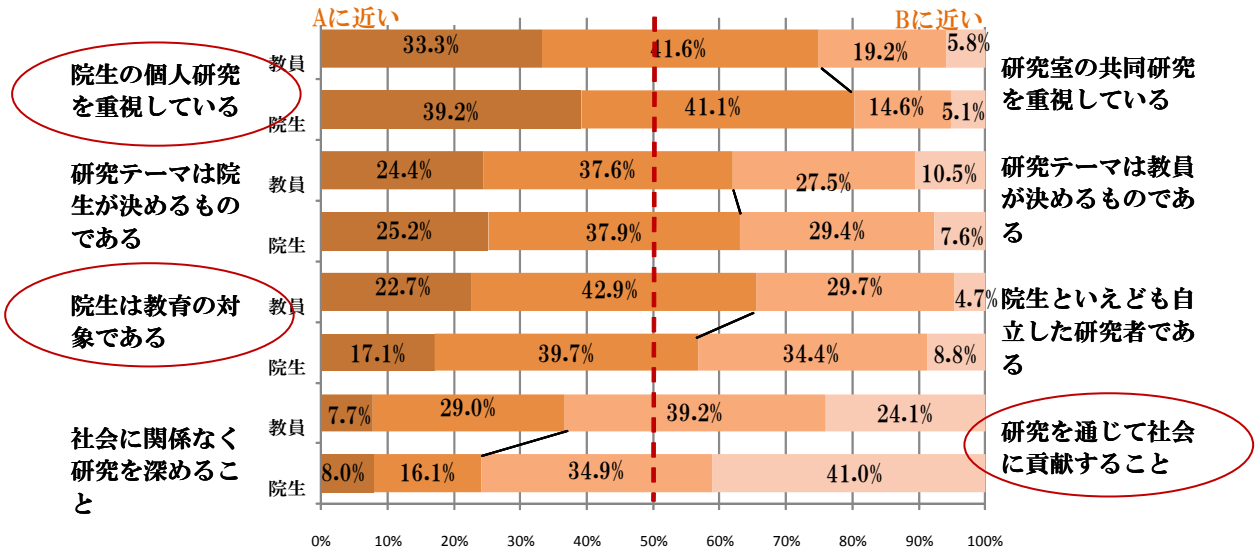


図 18 修士課程の院生に対する見方（院生・教員）

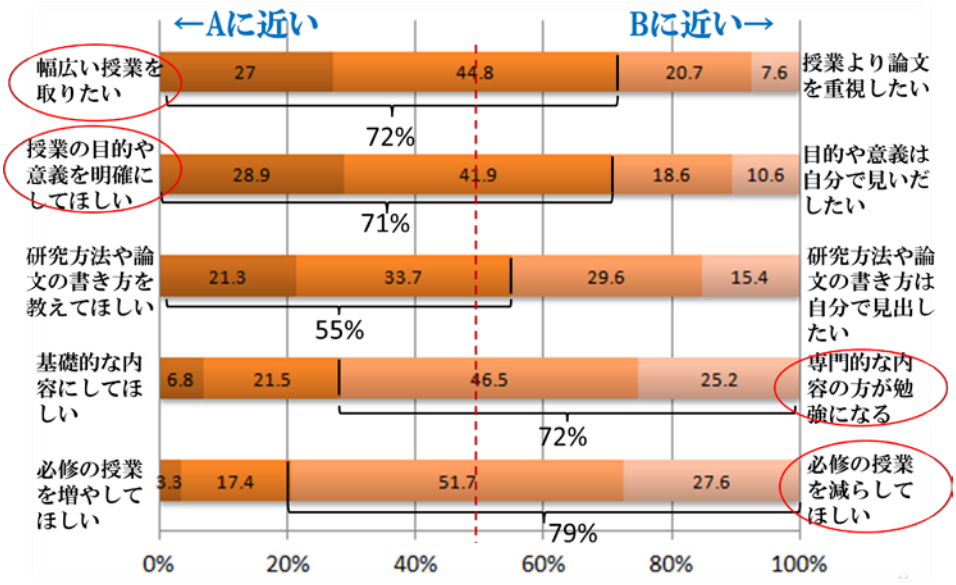


図 19 修士課程の学び方・授業の構え

図 18 は，大学院生と教員は大学院教育をどのようにとらえているのかを表した内容である。大学院生と教員の両方は，「院生は教育の対象である」という認識が多いものの，「院生の個人研究を重視している」というやや矛盾のように見える認識が広く見られる。一方，

「研究を通じて社会に貢献すること」に賛同の意見を持っている認識は教員と院生の両方の間に見られることを特筆したい。日本の大学院教育は，研究室，あるいは大学の中に閉じこもった教育であるという批判がよく耳にするが，この調査の結果を見る限り，少なくとも意識のうえでより社会に貢献すべきだという教員と院生の見方が主流である。

図 19 は，大学院生が修士課程でどのような学び方，そして授業の構えを取っているのかを示している。まず，院生の中には「幅広い授業を取りたい」と「必修の授業を減らしてほしい」という意見に賛同者が多い。幅広く勉強したいという意識を持っている人が多いであろう。一方では，「授業の目的や意義を明確にしてほしい」と「専門的な内容の方が勉強になる」という意見のように，勉強と専門を深めたいという意識を持っている院生も多くいる。このように，院生の中には，修士課程で深く幅広く勉強したいという両方の意識が同時に介在している。

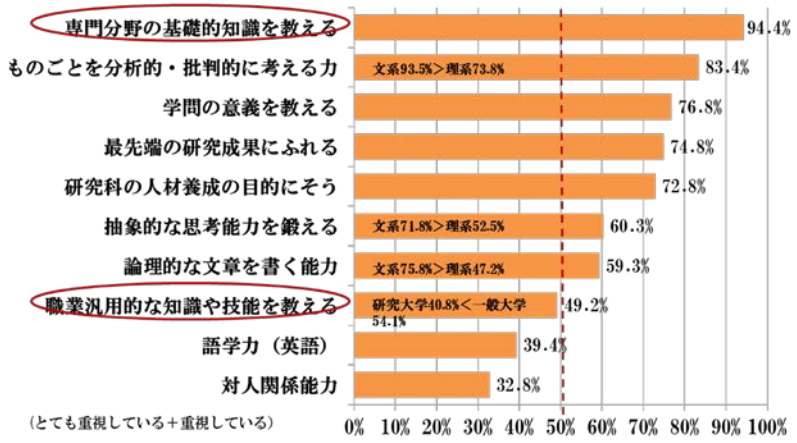


図 20 教員が授業で重視しているもの

一方，教員は授業で何を重視しているか（図 20）。「専門分野の基礎的知識を教える」（94.4%），「ものごとを分析的・批判的に考える力」（83.4%）などのように，院生が研究者になるための知識と能力の養成に力を入れている。それに対して，「職業汎用的な知識や技能を教える」ことを重視する教員は半分以下に止まっている（49.2%）。とくに研究大学においては，職業汎用的な知識や技能を大学院教育で教えることに賛同する教員はわずか 40.8%しかない。このように，大学院教育は研究者養成が中心であるという意識は教員の中に，依然として主流である。

（２）研究室教育とコースワーク

現在の施策の中でキーワードとも言える「コースワーク」という言葉に対して，大学院教育の現場において，どの程度認知されているのか。これを見たのは図 21 である。修士課程，博士課程とは関係せずに，大部分の人が「あまり知らない」か「全く知らない」と答

えている。また，53%の院生は 1 年次で修士課程の科目単位を取得すること予定である。それに加え，2 年次前期までに取得を予定したのは 28%である。かくして，早い段階で単位を取得する予定の大学院生が大多数を占めている。修士課程は 2 年間という短い時間に

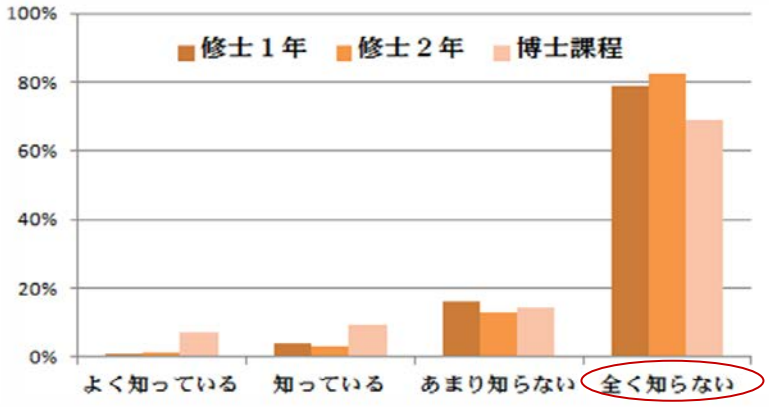


図 21 「コースワーク」という言葉を知っていますか？

（３）授業経験

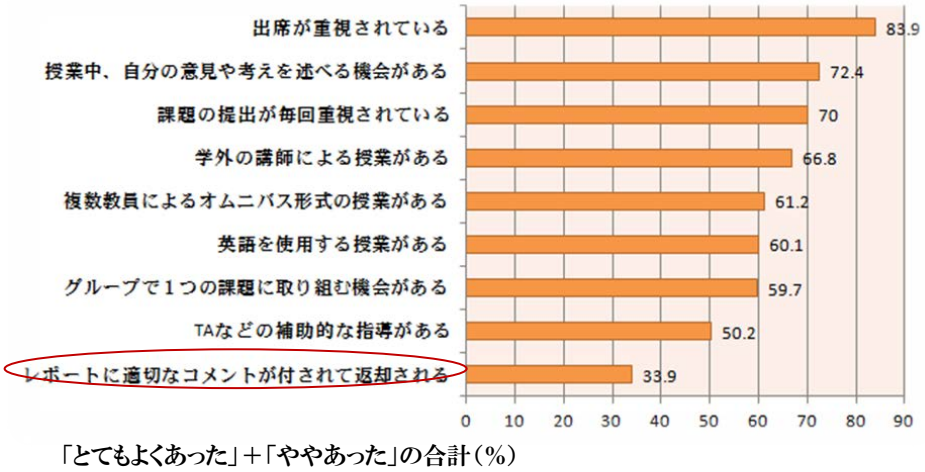


図 22 授業経験：これまで受けた授業

もかかわらず，修論執筆と就職活動を同時に遂行しなければならない。その結果，短期間で単位を取得することは，止むを得ぬ選択と言えるだろう（表省略）。

大学院生の授業経験をトータルで見たのは，図 22 である。回答数が多いのは，「出席が重視されている」(83.9%)，「授業中，自分の意見や考えを述べる機会がある」(72.4%)，「課題の提出が毎回重視されている」(70%) という回答である。それに対し，もっとも少ない回答は，「レポートに適切なコメントが付されて返却される」(33.9%) という項目である。

つまり，大学院生はあまりレポートを書かない。たとえ院生が書いても，丁寧にコメントをつけて返却されることが少ないというのが大学院教育の現状である。

3.4. アウトカム

（1）成績と習得した知識と能力

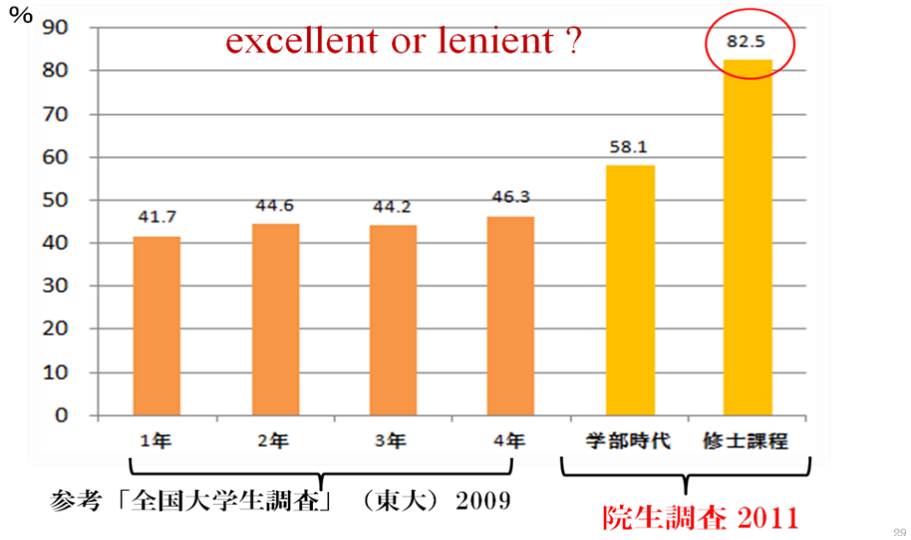


図 23 修士課程の成績「優」の平均は 8 割を超える

アウトカムとして，修士課程の成績はどうなっているのか。図 23 は 2 つの調査の結果を比べたものである。図の左の部分は，東京大学が 2009 年に実施した「全国大学生調査」の結果であり，右側は本研究の院生調査の結果である。成績「優」の割合から言えば，全国調査と比べ，本調査の大学院生は学部時代の成績が全国平均より高い。つまり，比較的に優秀な学生が大学院に進学したということが言えよう。ここで注目すべきなのは，修士課程での成績の「優」の割合が 8 割も超えており，学部時代と比べ，大幅に高まったということである。ただし，この結果をもって，大学院に進学した学生の成績がよいという結論を下すのはやや性急である。というのは，大学院教育は，研究室という狭い空間で行われるものであり，指導教員と大学院生との関係が極めて密であるという特徴が挙げられる。その中で，教員が低い成績をとても出しづらいということが指摘できる。また，図 22 で示されたように，大学院教育は，試験などのような客観的な評価方法が少なく，出席重視などの主観的な評価方法が主流なので，大学院生の成績を過大評価する可能性が考えられる。

大学院の教育を通して教員が院生にどのような知識と能力を期待するのか。また実際院生がどのような能力を身に付けたのであろうか。この問題に答えたのは，図 24 である。教員の回答を高い順で並べてみる。教員は院生が研究者になるための知識と能力の養成を重視する特徴が見て取れる。これに対して，大学院生も教員が期待した能力をある程度身に付けた。ただし，「職業汎用的能力」に関しては，まだ教員との期待とは開きがある。英語

の能力が若干低いという結果がある。

図 24 の授業経験と身に付けた能力という分析は,院生をトータルで考察したものであり,実際学生の特徴によって，当然それぞれの授業経験を持っているし，よって身に付けた能力もかなり異なるということが予想できる。このことを詳しくみたのは，図 25 である。

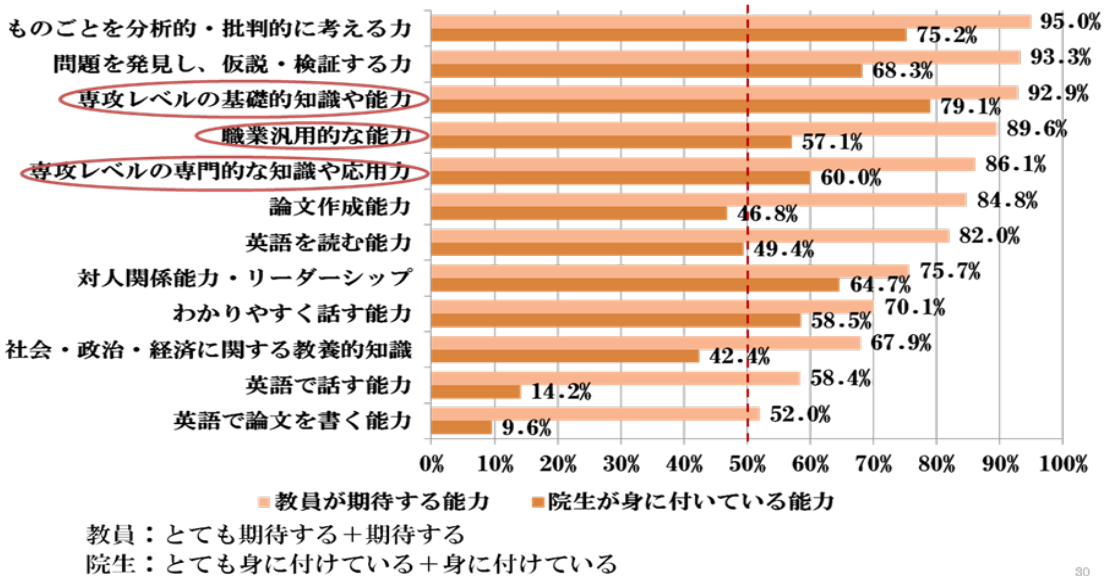


図 24 教員が期待した能力＆院生が身に付けた知識と能力

（２）大学院教育の環境と身に付けた知識と能力

図 25 は大学院の教育環境の布置を多重分析で表したものである。研究室の環境を表す項目として，大学分類（研究大学 VS.一般大学，国公私立大学，大都市 VS.地方），専攻，所属ゼミの人数（ゼミの規模），研究室（指導教員）の決定時期（入学前 VS.入学後），複数指導体制，プロジェクト参加の有無，自主ゼミ時間，授業経験の有無，さらに院生としての構え（教育の対象 VS.自立した研究者）という内容を設定した。

横軸と縦軸は一番寄与度（固有値）の高い変数を軸として SPSS でセッティングされた項目である。各項目の所在する位置の遠近が項目間の相対的な関連性の強弱を示している。分析結果の説明は以下のとおりである。

第 1 軸は「研究室の規模・複数指導体制」である。軸の右側は,「研究室の規模が大きい・複数指導体制を取っている」,軸の左側は「研究室の規模が小さい・複数指導体制を取っていない」という内容ある。第 2 軸は,「授業経験」に関する各内容である。各項目の関係を時計まわり順で説明してみると，以下のとおりである。

ゼミの人数が多ければ多いほど，複数指導体制を取っている。逆にゼミ人数が少ない場合は，単独指導体制を取ることが多い。規模の大きいゼミは理工農系が多くのに対し，人文社会系のゼミは往々に規模が小さい。ここで特に強調したいのは，ゼミの規模によって

授業経験が異なることである。軸の右下の部分に注目すると，ゼミの人数が多い場合は，複数指導やオムニバス形式の授業が行われるほか，プロジェクトの参加，TA 補助の多用，さらに学外講師の使用と英語使用などの項目との関連性が強い。それに対して，軸の左上の部分はちょうど逆の特徴を示している。ゼミの規模が小さいところは，各種の授業経験も少ない。つまり，ゼミの規模が一定にならないと，多様な授業を展開することが困難で

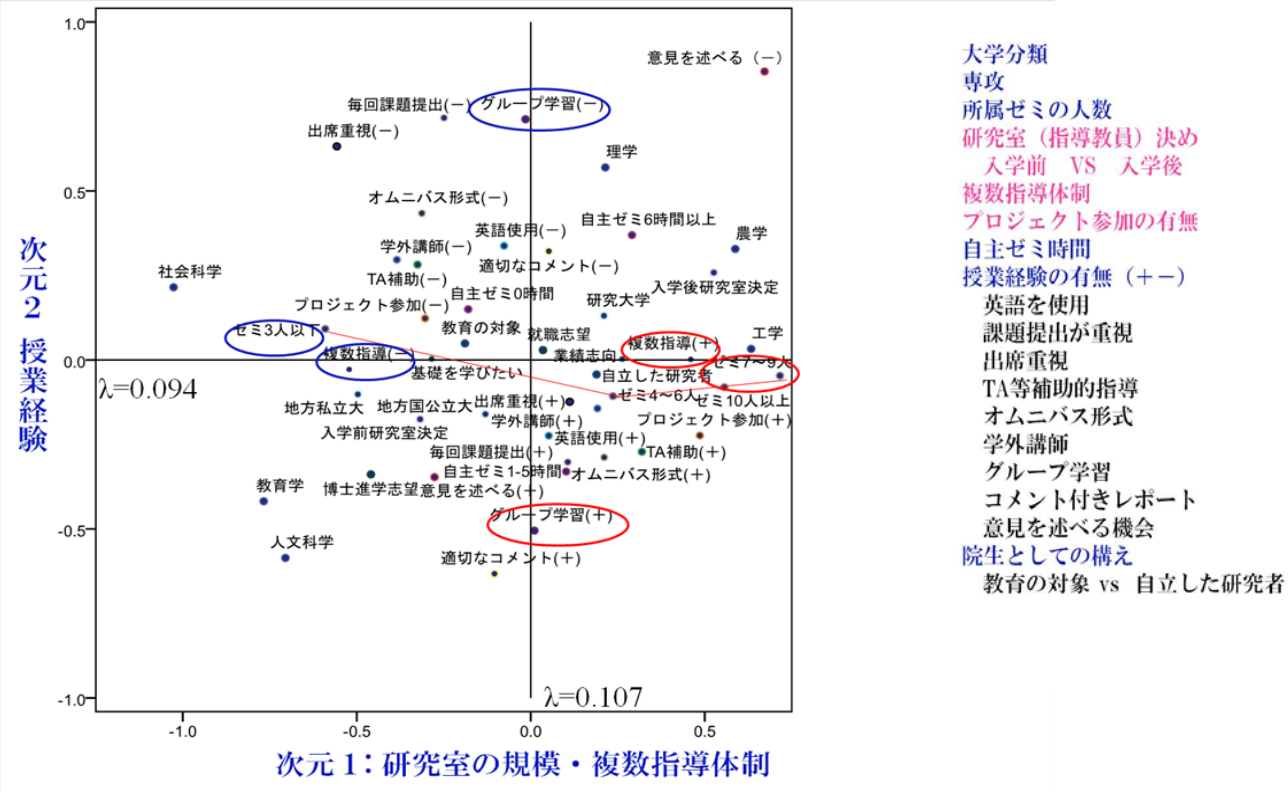


図 25 大学院の教育環境の布置

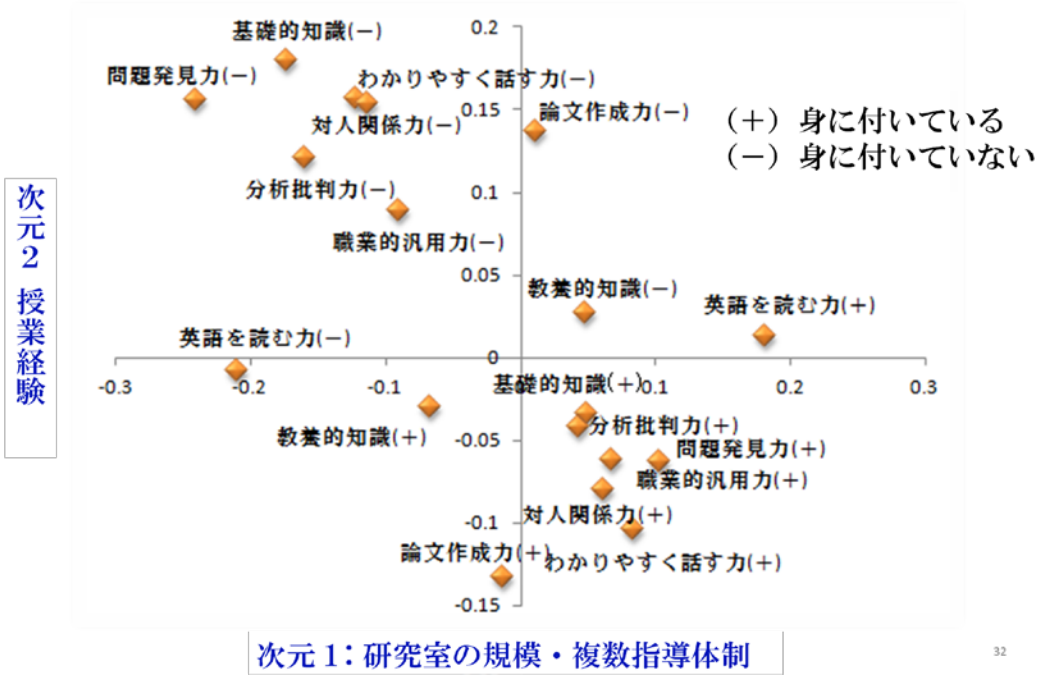


図 26 身に付けた知識と能力（補充変数）の布置

ある。言い換えれば，大学院教育の実施は，ある程度の院生を集めることが必要である。

また，文系と理系によって，ゼミの規模が違うし，授業環境もかなり異なることも指摘できる。

図 26 は，それぞれの授業環境によって，学生がどのような知識と能力を得たのかについて考察した結果である。

図 26 は図 25 の分析の上にさらに補充変数として，学生が身に付けた知識と能力の項目を投入した結果である。図 26 の軸は図 25 と同じである。見やすくするために，図 26 では授業経験に関する項目をすべて省略する。この分析を通して，どのような授業環境がどのような知識と能力を生み出すかという関係性が読み取れる。括弧の中に，符号が「＋」である場合は，対応した授業経験（図 25 にある同じ象限の授業経験）が知識と能力の獲得に有利に働くということを意味しているのに対して，符号が「−」である場合は，該当した授業経験が知識と能力の獲得に不利であるということを意味している。右下の部分は，図 25 が示したような多様な授業経験と教育環境が大学院生の知識と能力の獲得に繋がるということを意味している。逆な環境の場合は（左上の部分），知識と能力の獲得にも不利な影響を及ぼすという結果が見て取れる。要するに，授業環境と経験によって，得た知識と能力もそれぞれ異なるということがこの分析で分かる。

（３）学習有効性

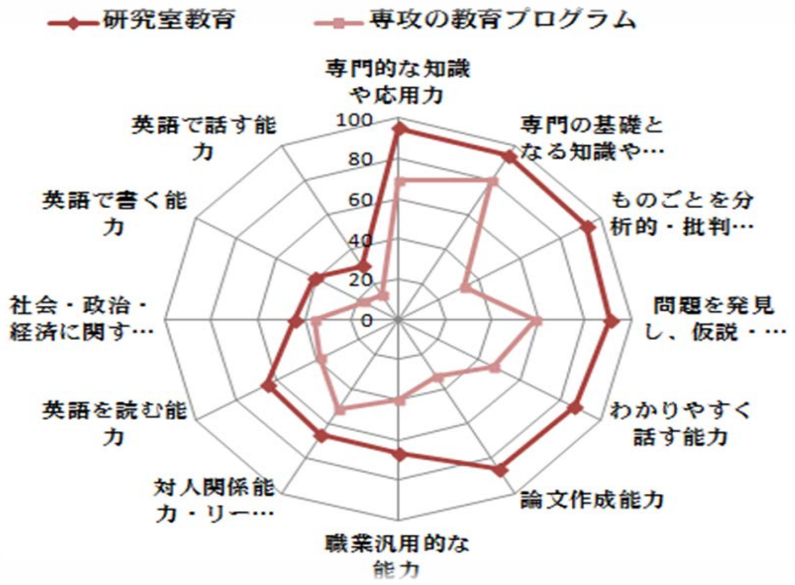


図 27 専攻の教育プログラムより研究室教育の方が有効

図 27 は専攻の教育プログラムによる教育と研究室教育は,院生にとってどちらが有効であるかを聞いた結果である。全体から言えば，研究室教育のほうが有効であると評価した院生が多い。従来のような工学を中心とする大学院教育の研究では，ほとんど研究室教育の有効性を唱えてきたが，本研究も類似した結果を示した。ただし，この結果を以て，ただちに研究室教育がコースワークより有効であるという結論に至るのは，少々早急であるかもしれないが，研究室教育をある程度評価すべきということは言えるであろう。

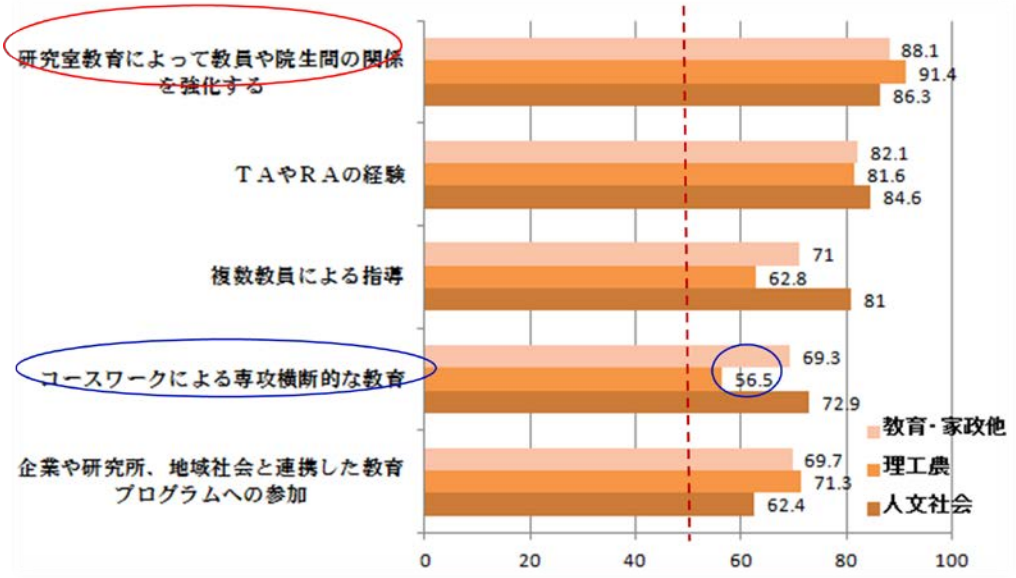


図 28 院生の能力形成にあたって，以下はどの程度有効か

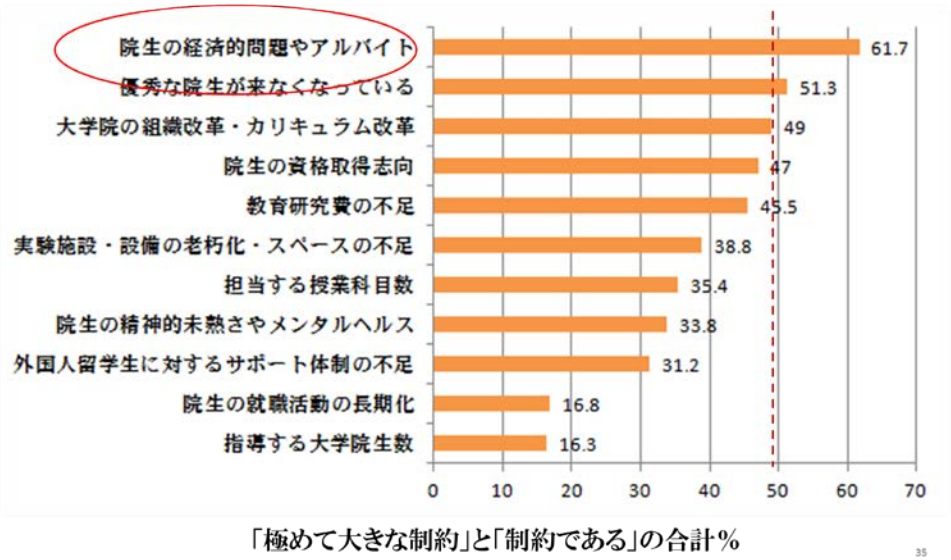


図 29 大学院教育を行っていく上での制約条件

「院生の能力形成にあたって，どのような教育方式が有効であるか」と教員に聞いたところ，「研究室教育によって教員や院生間の関係を強化する」ことが有効であると評価する教員が 9 割前後を占めている。それに対し，「コースワークによる専攻横断的な教育」が有効であると評価する教員が 7 割程度を占めており，前者を下回っている。特に理工農系の教員は研究室教育を賛同する意見が多く（91.4%），コースワークによる教育の有効性を認めた教員は半分に過ぎない（56.5%）。

「大学院教育を行っていく上で，どんなことが制約条件となっているのか」と教員に尋ねたところ，「院生の経済的問題やアルバイト」，「優秀な院生が来なくなっている」との回答が最も多い（図 29）。これは「進学してほしい院生が進学しなかった」という質問の回答と似たような結果を示している。経済的要因が大学院進学の大きな障害となっていることを示している。

（４）進路展望

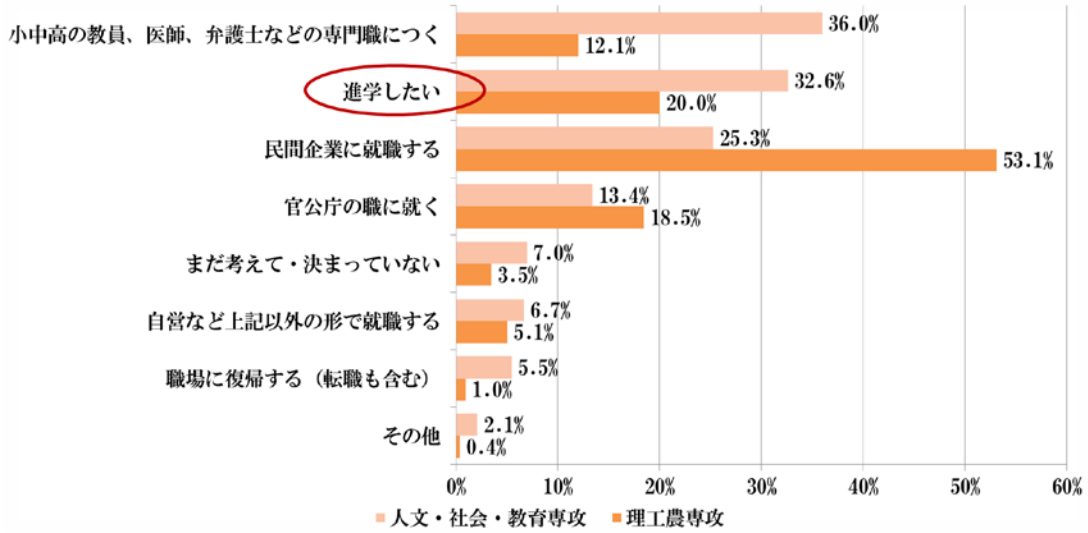


図 30 希望する進路（修士課程・複数選択）

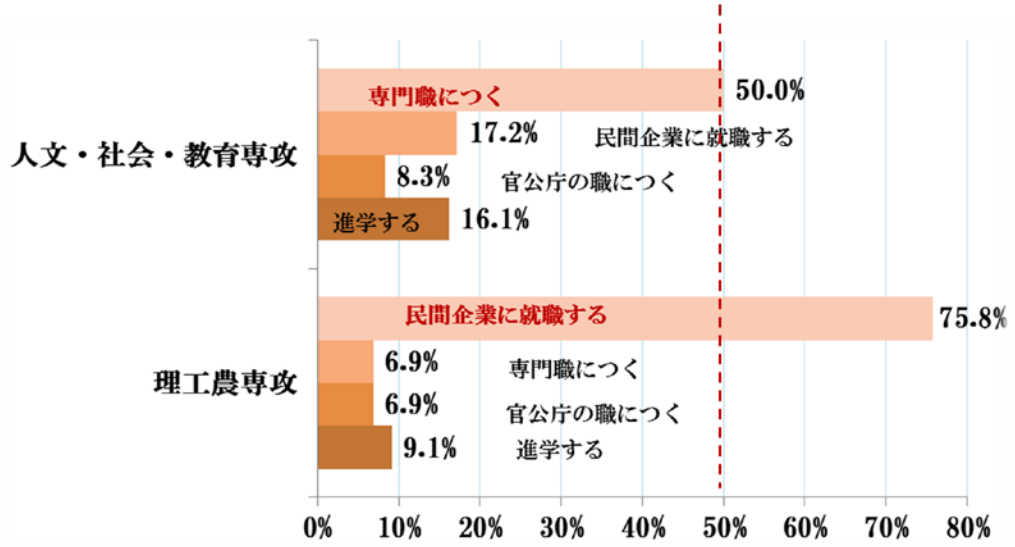


図 31 最も希望する進路（修士課程）

大学院生が希望する進路を複数選択で聞いたところ，大部分の学生は就職する意志が強い。中には，文系院生の 32.6%，理系院生の 20.0%が進学する意志を持っている。文系の学生の 36.0%は「小中高の教員，医師，弁護士などの専門職につく」という専門職意識が強い。理系の学生は半数以上が「民間企業に就職する」と答えている（図 30）。

すべての進路の中で，最も希望する進路は何かというと，進学したい院生は文系，理系ともに半分に減った。複数選択の結果と同じように，文系の半数は専門職を希望するのに対し，理系の 75.8%は民間企業に就職することを希望する（図 31）。

（５）大学院教育に対する評価

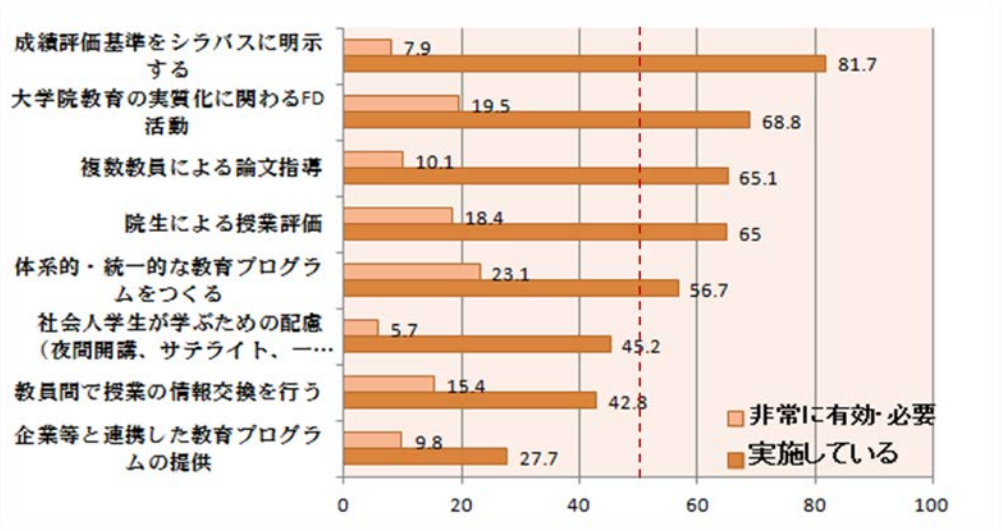


図 32 研究科における大学院教育改善の実施状況と有効性

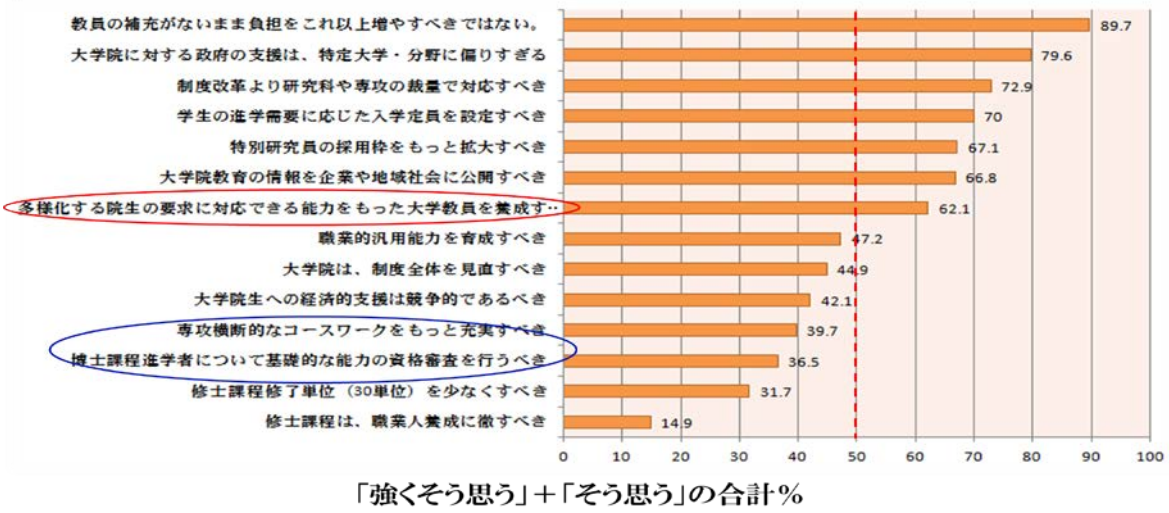


図 33 教員から見た大学院教育のあり方

図 32 は答申が打ち出した大学院教育の施策に関して，現場での実施状況及びその評価を表したものである。最近の施策は大学の現場で進められているものの，教員がそれらの政策に対する評価は必ずしも高いとは言えない。

大学院教育はどういくべきなのか。大学院教育のあり方について，教員の意見を聞いたのは，図 33 である。回答が多いのは，「教員の補充がないまま負担をこれ以上増やすべきではない」（89.7%）という負担増に反対する声。「大学院に対する政府の支援は，特定大学・分野に偏りすぎる」（79.6%）という格差解消の主張，「制度改革より研究科や専攻の裁量

で対応すべき」（72.9%）という自律性を唱える声，「学生の進学需要に応じた入学定員を設定すべき」（70%），入学定員を見直す意見などである。その他，教員の半数以上は，「特別研究員の採用枠を拡大すべき」（67.1%），「大学院教育の情報を企業や地域社会に公開すべき」（66.8%）の項目に賛同の意見を示した。また「多様化する院生の要求に対応できる能力を持った大学教員を養成すべき」と思う教員は 62.1%を占めている。これらの意見は大衆化した大学院教育に対する危機を教員が感じたものと見られる。ただし，現在の大学院改革の目玉政策と言える「専攻横断的なコースワークをもっと充実すべき」，「博士課程進学者について基礎的な能力の資格審査を行うべき」という意見に対して，教員があまり賛同しないところに注目すべきであろう。

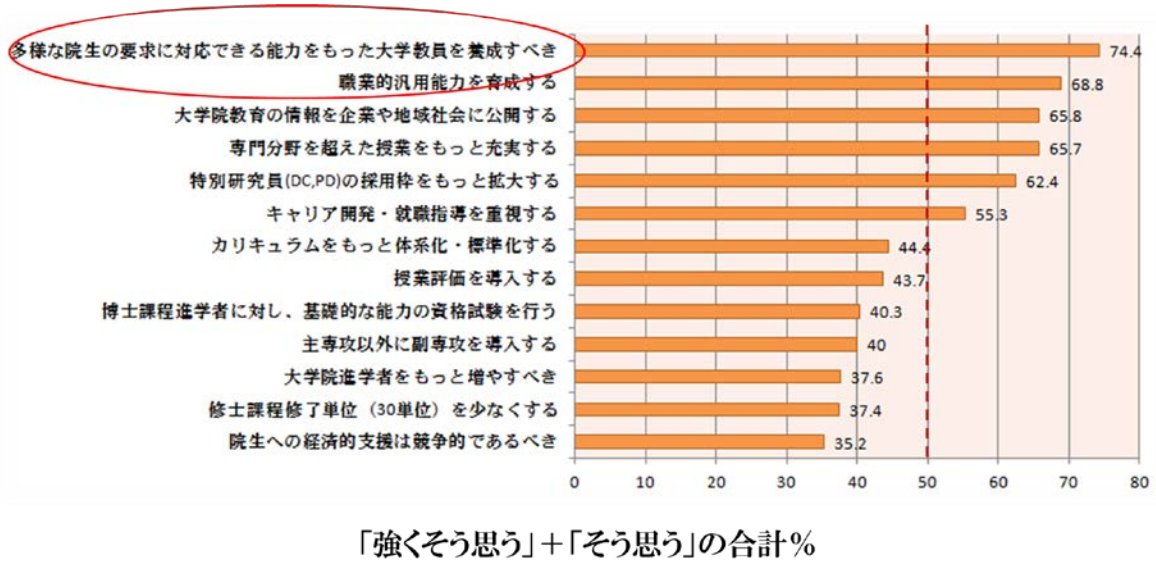


図 34 院生から見た大学院教育のあり方

それに対して，院生は大学院教育をどのように見ているのか。一番多い回答は「多様な院生の要求に対応できる能力を持った大学教員を養成すべき」（74.4%）と，「職業的汎用能力を養成する」（68.8%）というように，大学院教育をめぐる新しい環境に応じて，授業を展開すべきという意見が多い。

４．結論

本章は，大学院改革のセカンド・ステージに立たされた大学教員と修士課程院生を対象に実施した調査の結果を分析してみた。この分析を通して，現在の大学院教育の実態と問題を見出すことを目的とする。その主な知見は以下のとおりである。

（１）インプット

院生の進学動機は，専攻や大学分類によってかなり多種多様である。研究職に憧れて，

早い段階で大学院進学を希望した「早期進路決定型」の学生もいれば，単なる就職の緩衝期間として大学院進学を選択した学生もいる。

一方，大学院への進学を勧める教員は，理工系で研究志向が強く，就職状況が良いゼミのほうが多いという特徴が見られる。つまり，大学院生と比べ，教員のほうがより現実的であるということが言えよう。

（2）スループット

① コースワークという言葉は，院生には全く認知されていない。しかも院生の半数は１年で授業単位を修得。

②職業的汎用的な能力などが不足していると捉える者が多い。能力や知識は，授業経験との間には関連がある。

③大学院の教育研究環境を構成する二つの軸は，研究室の規模（複数指導体制）とグループ学習やレポートの返却の有無などの授業体験である。共同研究型の工学系と個人指導型の人文・社会科学系は教育研究環境が対照的であり，院生の能力と知識の獲得に関してもかなり異なる。

④教員は伝統的な研究室教育に対する有効性感覚は強く，院生への期待水準も高い。ただし，成績評価は相当甘い。

（3）アウトプット

①大学院生の進路に関しては，修士課程修了後の進路選択は，非常に現実的である。にもかかわらず，博士課程を選択する院生は，理系で 9%，人文・社会科学系で 16%に達している。需給問題に関わりなく，いつの時代でも基礎研究はこうした院生によって支えられている。

②教員から見た大学院教育の評価を見ると，答申が打ち出した施策の具体化は，現場レベルではまだ道半ばといわざるを得ない。それらが「有効・必要だ」と捉える教員は少なく，格差是正，負担軽減，研究科や専攻の自律性，入学定員の見直しを強調する特徴がある。ただし，将来のあり方として「大学院教育の情報を企業や地域社会に公開すべき」や「多様な院生の要求に対応できる教員の養成すべき」など大学院の大衆化に伴う危機意識は調査から見て取れる。

③院生から見た大学院教育の評価を見ると，「多様な院生の要求に対応できる能力をもった大学教員を養成すべき」，「職業的汎用能力を育成する」，「専門分野を超えた授業の充実」など答申に近い評価がある。

【参考文献】

濱中淳子（2008）「大学院改革の社会学―工学系の教育機能を検証する」東洋館出版社。
有馬朗人（1996）『大学貧乏物語』東京大学出版会。

荒井克弘（2011）「迷走する大学院教育」塚原修一・綾部広則編『日本の科学技術』原書房，第 3 巻，48-64 頁。
橋本弘信，濱中義隆，角田敏一（2011）「研究室教育再考―理工系大学院の教員意識調査の分析―」独立行政法人大学評価・学位授与機構『大学評価・学位研究』第 12 号，31-48 頁。
宮原将平・川村亮編（1980）『現代の大学院』早稲田大学出版部。

【付　録】

「大学院生調査」自由記述

・オムニバス方式の授業にて，教授毎（現在迄 5 人中 3 人）ですが，2 回目の授業が休講で，課題が提出され，レポートなのは時間的に厳しい。又，講義の資料もなく，パワーポイントでの方法も厳しい。自分で検索し，調べていますが。都合で休んだ時には何の課題もない。考えてもらいたい。

・このようなアンケートを行っても大学院教育が改善されるとは思えない。

・なぜそのような質問をするのか，説明を入れるべき。

・シラバスと実際の講義が全く違う。先生の考え方を学生にも強く求める。他の教員，院生の悪口を言う。試験・入試のときの話をする。テキストを読み上げることが大部分を占める講義。学生のやりたい研究を研究としてどのように成り立たせるか，どう強めていけるかといった指導をしてほしい。「やる意味がない」で片付けるのではなく，「こういう弱点があるからそこを強めていくにはどうすればよいか」という点から指導がほしい。

・ドクターまで進学しない修士には，研究をさせない教授がいる。教育者という考えをもっともつべきだと思う。学費を払っているのに，研究をさせてもらえないのはおかしいと思う。実験データを他者の論文データにするのも仕方ないかもしれないが快く思えない。就職活動で授業や研究室を休むことに対し，ある程度許容してもらえるとありがたい。

・院試面接の試験官が，面接時に他の（同大学の）大学院教授の悪口を言う。あれはハラスメント以外の何物でもない！学生を多数抱えている教員が役職につかず，学生の指導の経験がまったくと言ってよいほどない教員が役職についているため不都合が多い。

・英文学専攻ですが，図書館に必要な論文がほとんどありません。そのため他大学から取りよせたりするのに毎回自腹を切るので金銭的に少し厳しいです。論文の取りあつかいを増やすか，他大学からとりよせる場合は補助金などでおぎなってほしいと思います。

・外国人留学生が特定の国に偏りすぎている感がある。学生の多様性が実現できないなら，留学生受け入れの意味がないと思う。学生数に比して自習等に使う施設のキャパシティが小さいように感じられる。

・機械の充実化をしていただきたい。・施設や実験場所を人数に応じて広げてほしい。現在の社会の動向について詳しく教えてほしい。

・狭い大学院ですが，他キャンパスとはなれているので物理的にすみわけがなされていてふだんあまり交流できないのが残念です。・授業料が高い。・留学生が多いのにサポートが十分でない。

・研究室の内容が多忙すぎて，他の興味のある分野に時間をさけない（さいても，指導教官は自身の研究にのみ集中しろという）学生ではなく，研究員と見られている気がしている。全く教育はしてもらえない完全に放置。自分で勝手に進めるのなら，研究室，院生という意味がなさない。研究費をとってくるだけが教授ではない。
・研究費がほしい。補助金とか。
・授業についてただ授講して，ただレポートを出すだけで終わっている。グループディスカッションやプレゼンテーションも，講義の中に取り入れてほしい。後の就職活動にも役立つと思うから。
・授業時間数が多すぎる。研究との両立，就職との両立は非常に困難。
・発表の仕方や論文の書き方の指導，アドバイスを早めにして欲しい。
・教育活動（論文指導など）をしてもらうのに，教員が忙しそうで実際に聞きに行きづらい。
・研究室が狭く，環境が良くない。
・「学校は職業訓練の場ではない」という人がいるが，それならば好きこのんで皆大学に入学しない。大学院・大学がもう少しがんばってくれないと，大学に入る価値自体を無くすことになるだろう。
・「博士後期課程に沢山進んで欲しい」と言いながら，卒業してからの就職に苦労する現実は間違っていると思う。そこまで進んだ上でのある程度のリターンがなければ大学院に魅力がなくなるのでは。
・奨学金制度がよく分からない。どういう基準で選抜しているのかをはっきり教えてほしい。そもそも，奨学金のもらえる機会（文系）少ない。要するに，奨学金制度をしっかりしてほしい。
・指導教員との相談チャンスを増加してほしい。外国人留学生に向けの奨学金を増加してほしい。

．M2 の修論時期で授業・バイトがない状態です。自分の言葉で書かれてたり説明が足りない部分があったかなと思います。時期などを想定してくれたらよかったかなと思います。
・TA の給料の値上げ。就活と研究の両立をサポート。（交通費など）
・TOEIC や英検といった資格試験の受験補助（助成）
・おおむね良し
・おなじシステムや，コースに院生は定期に研究チーム，結果，問題などを検討しましょう。

・きちんと“研究”をしている教員が少ないのでロールモデルがない。
・キャリア教育は強く力を入れてほしいです。私は大学院入学後，事務職公務員（広島大学含む）の試験を目指しましたが，失敗しました。同じような院生の方がいらっしゃると思います。

・ソシキ的な取り組みを希望します
・バイトを（外で）あまりしなくてもよいように，TA や RA などの仕事を増やしてほしい。授業，ゼミはもっとレベルを上げてもよいように思います。

・はっきり言ってどのような教育がしたいのかほとんど明確でない。目標のみが掲げられている状況ではないだろうか。とても漠然とした印象を受け続けている。
・プログラム間の差が出すぎ。研究のほうは何もやっていない。もっと深い研究をさせるべき。研究室の教育など何一つ行なわれていない。学部の段階でできると思う。このくらいなら。高度化はもっと高度化用の授業を充実させないと潰れると思う。（質量ともに）
・もっと実社会や仕事において重要なことを教えていくべき。「統計」や「マネジメント」は学部か院のどこかで

必修にした方がよいと思う。

・もっと専門教育を重視すべきだと思う。

・意見：大学院の入試について。大学院の入試は大学受検のセンター入試とは目的が違ってくると思います。センター試験は基礎学力を測るもので，入学後の大学の座学のレベルについていけるかという目的もあると思います。それに対して，大学院では入ってからはほぼ研究が主になるので，基礎学力の他に研究活動に関する審査が合ってもいいと思いました。ただ現在，その様な審査を行なわない要因の１つとして，まだ研究をそこまで，で

・院生どうしで話ができる場所が講座のフロア内にないので困っています。研究室で話をすることはできますが，他の学生の研究活動の邪魔になってしまうため，あまり自由に会話をすることができません。談話スペースがほしいです。

・院生としての経験を大学時代で聞きたかったし，どういう道筋で今に至るなどの話も聞いてみたい。特に修士課程を終えた人がどんな仕事についているのか。その時なぜ入学をきめたのかなど。

・院生との交流を改善してほしいです。

・院生の心身のケアについてなんかしてほしかった。

・院生の部屋の確保。物理的にも居場所のない後輩の院生が多数存在している。

・院生個人々々の能力や素質をつみ取るような指導をする教員を改善して欲しい。それ以外の点は満足していて，恵まれた環境で勉強や研究する事ができたと思います。

・運動できる場所が欲しいです。体を動かしたい。

・各専門分野の教員先生の数は少ない。多様な院生に対応できない場合もあります。

・学生にプレゼンさせる授業を止めて欲しい。内容を理解していない学生のプレゼンを聞くのは，内容を理解しようとする学生にとって障害になる。内容を理解していない学生に，訳のわからない説明をされると，今まで積み重ねてきた知識までも混乱することになるので止めて欲しい。

・学生の雑用が多い。秘書なり事務員なりの必要性。設備が古過ぎる。薬品やゴミの管理ができていない。ルールの徹底。就活によって研究室のチームワークが損なわれる。

・学生支援室（工学部）の事務には，学生を支援しようとゆう意思が感じられない時がある。

・学生相談室の充実（特にパワーハラスメントについて）

・学内での研究や発表は大変有意義なものであるが，社会が求めるものと大学が育てようとしているものとの間にギャップがあると感じる。理想と現実の差をうめるということが，いかに大変なのかがわかった。

・学部の授業と比べて，院生の授業が適当すぎる。きちんと授業をやらないなら，授業料を減らしてほしい。

・教育の方々は，皆，学術的見識に優れ，研究者として生きていくには充分な教えを頂き深く感謝している。しかし，学部に比べ修了後の進路について，大学院として，ほとんどケアが無いに等しい。昨今の就職事情を理解している事務方，教員も少なく，こうした点まで深く考えて下さる指導教授に恵まれるか否かで修了後に大きな差異ができるように思われる。職が無ければ努力にも限界はある。院卒者のキャリア指導，相談など，大学院がシステム化していない。

・教育学研究科（高度化プログラム）のカリキュラムをもっと整備してほしい。M1 時は附属で，M2 時は勤務校 or 派遣校で実習を行うことになっているが，M1 時から県内の公立校で実習させてほしい。附属があまりにも特殊な環境すぎて，統一した研究にならないし，ストレートマスターさんが現場を知るチャンスを増やしてあげてほしい。ヒアリングをしてほしい。納得いかない点があるので直接訴えたい。

・教員のスタイルによって，生徒が研究をほぼ毎日しているところもあれば，ほとんどしていないところもある。「研究室」としてそれぞれがスタイルをもつことは良いが，同じ「大学院」として生徒の研究スタイルに制限を加えるべきだ。
・教員間が仲悪いので考えた方がいいと思います。何を意図した講議か分からない講議が多いので，精査すべきと思います。教員の立場が大事なのか見栄なのか，学部生のことを考えていない話題が教授会で出ていると聞く。特に卒論生の配置決めなどで…。
・教授や準教授が複数名いる様な大きな組織の研究室がないので，そういった環境があったら良いと思います。

・教職との関わり，意義を重要視する授業が目立ちますが，純粋に学問や専門的分野について学ぶ風潮があってもいいのではないかと考えます。（教育大学であることを意識しすぎているような気がします）
・教務科の大学院生へのサポートを改善すべき。学生の負担が増えて困っています。
・具体的に専門分野と就職情報など力を入れてほしい。
・経済的な支援がもっとあってもいいと思う。
・研究に向いているかどうか，入試前か入試で判断すべき。研究室のアマチュア化，学力低下を懸念。

・研究に集中する時間を増やすために，修士 2 年の後期に必修を入れないで欲しい。
・研究雑誌の充実。
・研究室がせまく，実験がしづらい。
・研究室が狭い。各自に専用の机が欲しい。
・研究室に日本人大学院生が少なすぎる。外国人留学生と日本人学生の割合が 8:2 です。せっかく日本にきたので，日本人との交流がもっと多くなったらと思います。
・研究室の机を一人一つにしてほしいです。
・研究室の選択や修士論文執筆など，研究に関わる部分（特に学生が個人で進めなければならないことについて）あまりにも指導方法がバラバラだったりしています。学生自身が院への進学の前に考え決めておくべきことだとは思いますが，いわゆる一般的な修士課程と異なる（教員免許取得も可能な点が。）ため，研究の方法や求められる修士論文の水準などを大学や先生方が統一し，提示してくださることを願います。
・研究室や実験室が不足している。
・研究室を選ぶ際に，自分にピッタリのテーマの研究室を選びたいので，更に細かいテーマの研究室が欲しい。

研究室生活は満足しています。
・現在，共同研究室で研究していますが，教室に窓がないため非常に息苦しいです。こういった研究室はもっと開放的な教室が良いと思います。
・現在，所属する施設には，多くの中国人留学生がいる。学生として私自身には，大きく関係しないのだが，指導できることを見こして，また，学生の将来の選択を考えた上で，教授陣が受け入れているのか，疑問に思う。

・現在の大学院生は，大学・学科・研究室などで，とても差があります。（と思います。）研究はさておき，職業に就くことができれば，職はさておき，研究成果が出せればなど，個人の目指すところもバラバラです。修士はキャリア UP のため，博士は研究など，せめて目的があれば良いなと思います。

・現在準教授は博士後期課程の博論指導ができないようになっている。準教授は博論を書いた経験も新しく，近年の研究動向にも詳しいので，指導を受けられるようにしてほしい。

・広島大学は，私の人生を大きく変えて下さいました。（もちろん良い意味で）

・拘束時間が多く，自由に研究やアルバイト等に使える時間が少ない。

・国際会議への参加や留学など，経験を積ませるべき。

・最近，中国からの留学生が増えていますが，基礎知識がなく，実験スキルもない状態で研究室に配属されているため，その負担が学生に及んでいます。留学生を迎えるのは良いことですが，もっと厳しい入学基準や，これら留学生のスキルを上げるための工夫をする必要があると感じています。

・最短修業年限で修了したいが，現実的に難しい場合，在寮期間の延長を検討してほしい。

・市大の大学院に限ったことではありませんが，金銭的に研究を十分に行うことが困難な院生がたくさんいます。私もその 1 人です。日本で研究を行うためのお金がないので留学は夢の話です。院生の授業料減免制度の拡大，研究助成の拡大を強くのぞんでいます。

・志望者が少なく，研究仲間がいない。もう少し志望者獲得に必死になってほしいが，卒後キャリアにプラスになると言い難く，教員もその点が気になってあまり大学院をすすめることはしない。では，うちの大学院は存続させておく意味はあるのだろうか？と思ってしまう。

・指導教員の決定は M1 年の後期からが良いのではと思います。

・指導教員は学生に意志や目的を明確に直接口頭で伝えるべき。下級生の指導に対する評価をするべき。（アルバイトとして）

・私が所属している研究室は，国内・国外を問わず，数多くの学会に参加する機会が与えられたので，とても感謝しています。自分のデータをアウトプットする機会を増やすことが求められていると考えます。

・私のラボ（研究科全体でも）は，教授 1 人で学部生・院生 12 人を指導しています。本来なら，助教や助手もいるべきですが，大学自体の経済力がなく，人員削減しています。教授の負担が大きく，もっと，システム化してほしい。このような状況で世界レベルの研究するのは大変です。

・私・は３０年の教師生活を終えてもう一度学ぶ側に立ちたいと思い，大学院の社会人入試をうけました。若い学生や留学生にまじって 50 才をこえてからの学びはとても新鮮で，面白いものだと学問を，交流を楽しんでいます。30 代 40 代の職場で行きづまったり悩んだりしている人たちにとって充電したり，出会いの場に院がなればいいなと思います。その年令の方がずっと目的意識をもって学びを具体的に生かせると思うからです。

・資格取得が目的に学部であるため，研究室自体（学科自体）が，研究に専念出来る環境になっていない。

・資格取得と就職（教員採用試験合格）に力を入れすぎです。大学院なのだから研究と専門的知識を身・につけるための教育に力を入れて欲しい…塾じゃないのだから！と思います。

・事務業務が遅い，履修登録の Web 利用，文献購入の簡易化。

・事務的にかたすぎます！もっとゆるいやりかたがほしい（全日本に関するコメントでしょうか…）いつでも卒業できれば辛い。決まっている時期のせ制限がよくないです…

・自主的に色々と学ぶことのできる環境は整っているので全て自分次第。唯一改善してほしい点は何らかの形で金銭的な補助がさらにあればよいと思う。

・自分の専門からちょっと外れている課題について，気軽に相談できるシステム（D 生 M 生の TA でもいいので）があればよい。ex. R の使い方，データマイニングなど

・自由に利用できる教室など（専門書などを備えた）を増やしてほしい。

・質の低い学生（特に留学生）が増えている。そして，それを「見て見ぬふり」をする教員がいる。

質問の形式がわかりづらいです。

・質問紙に対し，非常に回答しづらいです。大学院については英語教育（語学についての教育）をしっかりさせてほしいです。

・社会人向けの大学院であり，自分自身も社会人で入学した。社会に出てから院に行けば良かったと何度か思っていても，なかなか時間的に通学が難しかったので，夜間・土日開講の院の存在は本当にありがたい。

・社会人入学後期課程の学生で授業中にコーヒーを 1 人だけ持ちこんで飲んだり，授業に積極的でない人がいるため，順番で発表しなければいけないのにいつもいいのがれをして後に伸ばしたり自分の担当の範囲をしない人がいる。何のために入学したのだろうかと思う。若い学生もいるのに恥ずかしい思いがする。

・授業では，学生が経験したことをもとに授業が進められるが，もう少し教育について日本のかかえる課題，世界のトレンドなど，大きな視野をもって考えられる授業内容にしてほしい。（どちらのバランスも大切にしてほしい…理論と実践）

・授業の連絡をもっと早く確実な方法をとってほしい

・授業内容がシラバスと違う時がある。少しならいいが，たくさんあって困っている。専門知識を深めるためにも，対応づけは，確実にしてほしい。

・修道大学は年間の学費が 36 万円と比較的安く，ありがたく思っています。

・十分満足しているが，他専攻や他大学との交流が増えると良いのではないかと思う。

・女性研究者に対するキャリアプランの指導や，相談窓口を充実させてほしい。文系女性研究者に対するそういった取り組みはまだ少ないように思う。

・少しボーダレスで入学できてしまうことに疑問を感じています。また大学生・大学院生共に論文の書き方を知らないのが現状です。なので，論文を書く前段階で，論文の種類の説明及び各種論文の書き方，特に正確な実験計画の立て方を教えるべきだと思います。また「こうした理由では実験が成り立たない」といったことなどもしっかり説明する必要があると思います。最後にシラバスの書き方が教員によって異なっているのには納得いきません

・新しい農学キャンパス校舎を作るのはいいが，川内キャンパスや青葉山の本屋みたいに，見た目重視で効率の悪い建築はやめてほしい。利便性重視

・新潟大学の生徒は余り研究に熱心ではない気がします。（一部研究室を除く）

・進学したのに数週間以上も大学に来ない大学院生が数名いるので，修了の基準として出席日数のようなものを設けても良いと思う。

・人生の先行きが指導教授に委ねられている部分が大きく，人間関係での心労が多い。
・生物圏科学研究科の教員のレベルが低すぎる。業積がある人が教授になっていない。ここ最近５年間の論文数を調べてみて下さい。他大に劣るのは明らか。
・先生のひとりよがりな講義もあったりするので，あまり考えが深まらない。（一方的に話す）→議論にしようとしても反対意見は却下される傾向があり，あまり活発にならない。（その先生に合うか合わないかが見られてしまう）
・専攻（組織）としてのビジョンが無いため，教授と学部生をつなぐ博士院生として，どの様に行動すれば良いかの方針が見えない。従って，組織としてのビジョンを示し，そこに向かうための目標・課題・計画を院生に示してほしい。
・専攻の専門分野を網羅するだけの教員がいない。ある程度は仕方ないと思うが，明らかに教員の数が足りない
・専門科目が極めて少ない。研究科の構成上，致し方ないことではあるが，専門外の科目についても質が低く，積極的に受講するインセンティブにならない。しかし，専門外の講義は，受講すべきだと考えている。
・他の学校の事をしらないので現状があたり前と思っているのでよく分かりません。すいません。分析御苦労様です。
・他学部と共同研究するチャンスをつくってほしい
・他大学（特に学力レベル・偏差値が低いところ）から入ってきた学生に対して，基礎力を補う補講などがあればよいと思う。入学してから学力の差を見せつけられ，辞めたいと思うことが何度かあったため，サポート的なものがほしい。
・他大学との交流が活発になるといい。
・他大学の院生の交流できる機会が欲しい。学内でも，ちがう専攻の学生と交流する機会がほとんどない。
・大学は教育機関で，大学院は職業訓練であり自立してキャリアアップすべき場と考えている。しかし，大学院は最近その概念に溺れて，（多様性協調性）に欠け，自立性しか養えない機関になってしまっている。学校は学問は勿論だが，人として生活するための礎を教え，学生が生きる力を培う場であるべきだと私は思う。昨今の師は排他的な考えを持つものが多い。そんな師を院生側からも厳格に評価できる制度が設けられるべきだ。
・大学や大学院の進学率が高すぎる。
・大学院であっても，社会人になってから必要な知識の目的が認識できた人に対しては，一つでも専門能力のある人であれば入学を許可してくれる大学院が増えれば良いと思う。当大学院は目的意識のある人を受け入れてくれるので私はこの研究科に満足している。入学当初より格段に知識がついた。
・大学院での「教育」を強調する傾向には，懐疑的です。また，本アンケートの参考資料としての有用性には異論ありませんが，「大学院のあり方」を問うには，記号選択のアンケート方式では簡易に過ぎる気がします。
大学院でも，英語の授業はもちろん，中国語などの言語の授業を受けれるようにしてほしい。履修登録の仕組みが複雑なので，簡易化してほしい。
・大学院のみならず，大学もですが，授業が教科書の暗記でつまらない。教科書にあることなら自分でよめばほぼ理解できるので必要ない。もっと新しいことや，しっかり授業をきかないとわからないものをしたい。読めばわかるものは必要があればよむので，やる必要はないと思う。簡単すぎてつまらない。

・大学院の授業を夜から昼間に変えてほしい。夜の授業はつらい。英語の話す能力を高める授業を行ってほしい。必修単位や必修科目を減らし，専門的な知識をより体系的に教えてほしい。（流球大学）
・大学院院生について，研究交流や読書会を充実させる。単位は少なくし，個々の授業を充実させる

・大学院教育をうけるために必要なコースごとの基礎的読書，IT 技能などを，せめて合格の時点で教えてほしい。E メールで問い合せをしたけれど，返事はなかったため。IT 技能は留学生や社会人には crucial な問題だと思う。授業の第一声が「ハイ，座ってスライドを立ち上げて…」でした。今ならできますが。基本図書は京都大学は公開しています。
・教育をもっとよくしたいという考えは素晴しいが，トップダウンで改善することに意義はあるのか？本来，院生というのは，社会人と同じく自分で考えて行動するべきなのでは?
・大学院在籍の学生の学問以外に教育。集団生活において大切なコト等。教員の学生指導に対する指導。

・大学院生が集まりやすい場を設けてほしい。大学は学部生の居場所の意味あいが強いと感じるので…

・大学院生が少ないため，学部生の頃よりも大学院に特化した情報が少ないので，もっと大学院の存在や大学院生向けの情報をアピールして欲しい。
・大学院生に対する経済支援をもっと充実させてほしい。
・大学院生の授業料を減らす，あるいはなくすべき。優秀な頭脳の持ち主が，授業料が負担となって，研究をあきらめることは，日本の将来にとって大きな損失である。
大学院生の数をもっと増やし，学生同士の交流が増えるようにしてほしい。
・大学教員の養成にもっと力を入れるべきだと思う。熱心な先生もいますが，そうじゃない先生もたくさんいる。

・大学全体に要望があります。研究助成や競争的研究費獲得に年令制限があります（若手研究所）研究というフィールドの「若手」は経験年数であり実年齢ではないと考え「若手 35 才以下」などという条項は削除した募集を行って頂きたい又は社会人として積んできたキャリアと実情をふまえて新たな研究に情熱を持つものを受け入れる体制づくりを求めます。
・誰でも，大学院生になれるので，進学する基準をもっと厳しくしてほしい。なぜこんな人が大学院生なのかと思うことが多い。院生の質を落としつつあるので，成績の基準を高くし，院生としてふさわしい人材のみを残してほしい。
・単位を減らすか，研究する時間をもっと作れるような授業の時間割にするべきだ。
・中国以外から留学生も増やすべきである。研究のしかた，論文の書き方の授業を充実すべきである。学内の賞などの選考方法，過程を公表すべきである。
・中国人留学生が学ばなさすぎる。レポート，出席などないのに，単位が出るのはおかしい。入学選考基準がおかしいのでは。
・同期の学生が目的意識をもっておらず，「研究」という点ではほとんど相互に影響しあえていない。研究室の使用制限がきつい。
・徳島大学院の臨床心理学専攻コースに入学しております。指導教員（境先生）にとても良くしていただいて，尊敬できる先生の元で勉強できて幸せです。恥ずかしいのでここに書きます。
・特にないです。学生がもう少し自立すべきだと考えています。

・入学する際の試験がもう少し競争的であった方がよいと思います。そのために，他大学の学部生に対して，広島大学の大学院を積極的に宣伝してほしいです。

・博士課程で生き残っていくために，どのような力（例えば英語，統計など）がどの程度必要になるのかを事前に示してもらえると，良いのではないかと思います。

・博士課程の学生やポスドクなどに対する経済的な支援が少ないと感じます。

・博士後期に進学しやすい（したくなるような）環境作り。

・必修の授業を減らしてほしい。

・必修単位が論文指導のみで基本的に後期博士課程向けの授業がないにもかかわらず，授業料が学部と同じ額である点。いくつかの私学のように授業料が安価であれば，進学者が増え大学院の研究・交流が活性化されるはずである。

・必須単位数が 40 単位と多く，研究がおろそかになる。教員の負担も大きく，浅い授業になってしまう。もっと深く，長期にわたって受けられる授業がほしい。←これを色々選べるようなしくみがほしい。

・不必要な授業（専攻外の授業例：土木科の生徒が建築学科の科目を取らなければならない等）が多い。そのため，研究にさく時間が少なくなってしまった。

・閉鎖的で旧態依然としたところが大いに残されていると思います。時代の流れに合わせて変えるべきところは変えていくべきだと思うのですが，そういった変化を望んでいないようです。大学院が置かれる環境も変化していく中で，それでは生き残っていけないのではないかと思います。

・本学では，長期履修制度（教員免許取得プログラム）3 年コースがあるが，同じ授業を受講する際に明らかに専門知識，基礎知識の理解度に差があり，結局学部の時と同じような授業を 2〜3 時間きくはめになることがある。出来れば授業を分けてほしい。

・問 27 の質問はおかしいと思います。「アルバイト」と「研究時間」が逆では……。

・理学部と工学部が別々になっていることはマイナスだと思う。同じようなカリキュラムの学科が理学部と工学部両方にあることに意味がないと思う。

・冷暖房の完備掃除（ゴミとか，とても汚い）

・論文の書き方のサポートを充実させる必要があるように思います。

・論文執筆へのよりきめ細かい指導があれば，非常に助かります。

日本の大学院教育の現状と課題

－『日本の大学院教育の人材養成機能とその問題点に関する調査』報告－

大膳　司 *　安部　保海 **

21世紀は，新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す，いわゆる「知識基盤社会」の時代であると言われている。この「知識基盤社会」においては，個人の人格形成の上でも，社会・経済・文化の発展・振興や国際競争力の確保等の国家戦略の上においても，大学とりわけ大学院は極めて重要な役割を果たし，国際競争が激化する今後の社会では，各国の大学院システムないし高等教育政策そのものの総合力が問われることとなる。

日本においても，臨時教育審議会第1次答申（1986年）の提言を受け1987年9月に設置された大学審議会において大学院制度の量的・質的改革答申が出された[1]。

特に，1991年に答申された提出された「大学院の整備充実について」では，2000年における大学院の規模について「全体としては，少なくとも現在（1991年）の規模の2倍程度に拡大することが必要である」と提言されるとともに，1996年に閣議に於いて決定された第1期科学技術基本計画において，創造的な研究開発活動の展開のための施策として，「ポストドクター等1万人支援計画」が打ち出されるなど，博士課程の量的拡充が図られてきた。

その結果，図1に示すように1990年代後半から2010年代にかけて，修士課程，博士課程，専門職学位課程への入学者数が上昇していった。しかしながら，日本経済の停滞も原因して，博士課程へは2003年以降，専門職学位課程は2008年以降，修士課程は2010年以降減少している。

その反面，全入学者に対する社会人入学者の比率は，平成 15 年度以降，修士課程ではほぼ 1 割で変化がない。

法科大学院を代表とする専門職学位課程では，当初の 86%から 38%へと減少したが，現在でも，入学者の 4 割近くを社会人が占めている。その変動もあってか，博士課程への進学者のうち社会人の占める比率は 2003 年の 21.7%から 2011 年の 35%へと拡大している。

若者人口が減少する中で，大学院の更なる充実を達成するためには，社会人学生の確保が重要な施策とは言えないであろうか。

そこで，高度な研究・教育の場として飛躍的な充実が期待される大学院教育の現状と今

* 広島大学高等教育研究開発センター，教授
** 広島大学高等教育研究開発センター，研究員

後の課題を探るために，有識者を対象にアンケート調査を以下の通り実施した。

なお，本調査は，文部科学省から交付された『21 世紀知識基盤社会における大学・大学院改革の具体的方策（代表者　山本眞一）』の一環として実施されたものである。

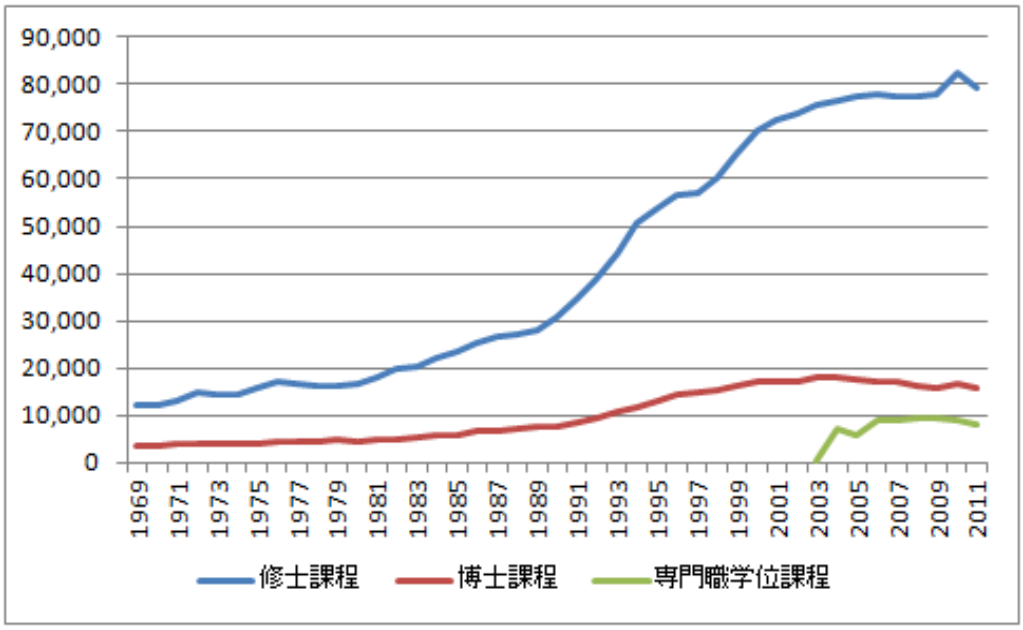


図 1 修士課程・博士課程・専門職大学院課程への入学者数

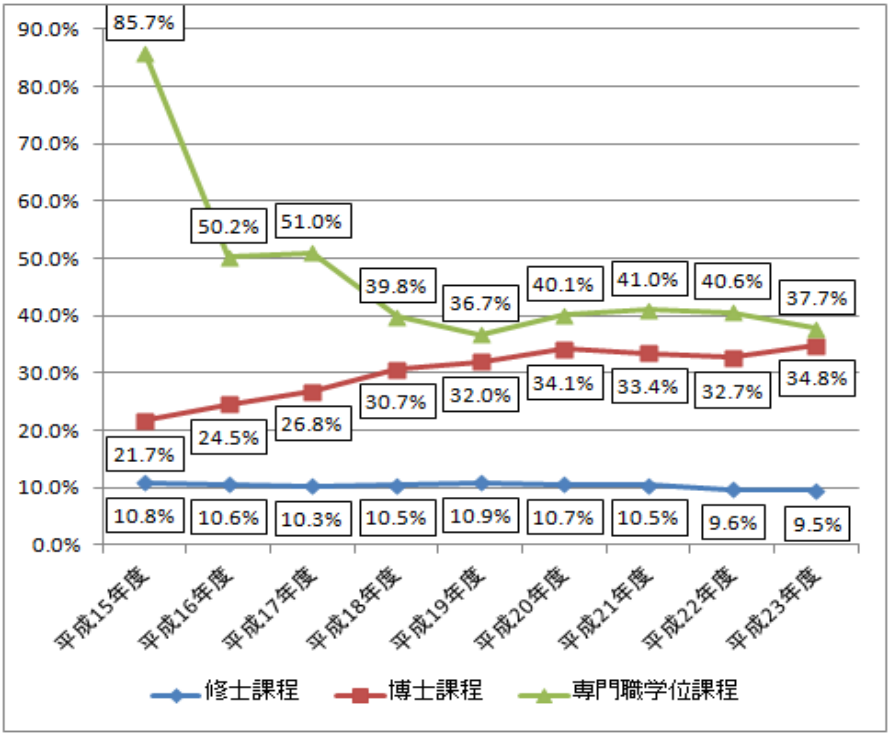


図 2 社会人入学者比率

調査方法

各中央省庁の課長 484 名，東京都，新潟県，広島県，香川県に所在する都・県庁（課長 492 名）と上場企業・中小企業（総務部長各 558 名と 192 名），計 1726 名に調査票「日本の大学院教育の人材養成機能とその問題点に関する調査」と返信用封筒を 5 部ずつ入れて，部署の従業員のうち，大学院修了者に配布してもらうよう依頼した。もし大学院修了者に配布不可能な場合は，大学卒者に配布してもらった。

なお，調査は，平成 23 年 12 月から平成 24 年 1 月にかけて実施した。

表 1　調査票配布数と回収率

	省庁職員				都･県庁職員			
	総数	配布数 (A)	回答数 (B)	回答率 (C)=(B)/((A)*5)	総数	配布数 (A)	回答数 (B)	回答率 (C)=(B)/((A)*5)
東京都		484	166	6.9%		243	96	7.9%
新潟県						93	141	30.3%
広島県						116	180	31.0%
香川県						40	54	27.0%
計		484	166	6.9%		492	471	19.1%
	上場企業労働者				中小企業労働者			
	総数	配布数 (A)	回答数 (B)	回答率 (C)=(B)/((A)*5)	総数	配布数 (A)	回答数 (B)	回答率 (C)=(B)/((A)*5)
東京都		455	44	1.9%		56	4	1.4%
新潟県		38	7	3.7%		12	1	1.7%
広島県		44	8	3.6%		75	13	3.5%
香川県		21	4	3.8%		49	6	2.4%
計		558	63	2.3%		192	24	2.5%
	合計							
	総数	配布数 (A)	回答数 (B)	回答率 (C)=(B)/((A)*5)				
東京都		1238	310	5.0%				
新潟県		143	149	20.8%				
広島県		235	201	17.1%				
香川県		110	64	11.6%				
計		1726	724	8.4%				

回答者の属性

なお，回答者の属性は以下の通りである。

①性　回答者の多くは男性（8 割）であった。

②年代　回答者の多くは若手で，4 割が 34 歳以下，44 歳以下でみると 7 割であった。

③卒業学部の専門　回答者が卒業した学部の専門は，社会科学系が 4 割，工学系が 2 割，

農・水産学系が 15%となっていた。分析では，理学系，工学系，理工学系を合わせて，「理工学系」とした。また，構成比が 3%より少ない健康科学・医学系，教員養成・教育科学系，人間科学系，その他をまとめて「その他」とした。

④修士課程入学の時期　修士課程入学の時期を学士課程卒業直後(88%)と就職後進学(12%)に分けて分析した。

⑤取得最高学位　回答者が現在取得している最高学位は，学士号取得者最も多く（62%），続いて，修士号（35%），博士号（3%）となっていた。

⑥希望する働き方　現在の職場で昇進を希望する者は 26%，現在の職場で専門性を高めるは 60%，転職は 14%であった。

表 2　回答者の属性

性		年代			
男性	女性	34歳以下	35～44歳	45～54歳	55歳以上
577	140	273	227	177	35
80.5%	19.5%	38.3%	31.9%	24.9%	4.9%

学士課程の専攻学問									
人文科学系	社会科学系	理学系	工学系	農学・水産学系	健康科学・医学系	教員養成・教育科学	理工学系	人間科学系	その他
63	260	31	148	106	17	17	26	4	15
9.2%	37.8%	4.5%	21.5%	15.4%	2.5%	2.5%	3.8%	0.6%	2.2%

修士課程への入学タイミング		取得学位			希望する働き方		
学士課程卒業直後進学	就職後進学	学士号	修士号	博士号	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職
229	30	439	244	21	169	383	90
88.4%	11.6%	62.4%	34.7%	3.0%	26.3%	59.7%	14.0%

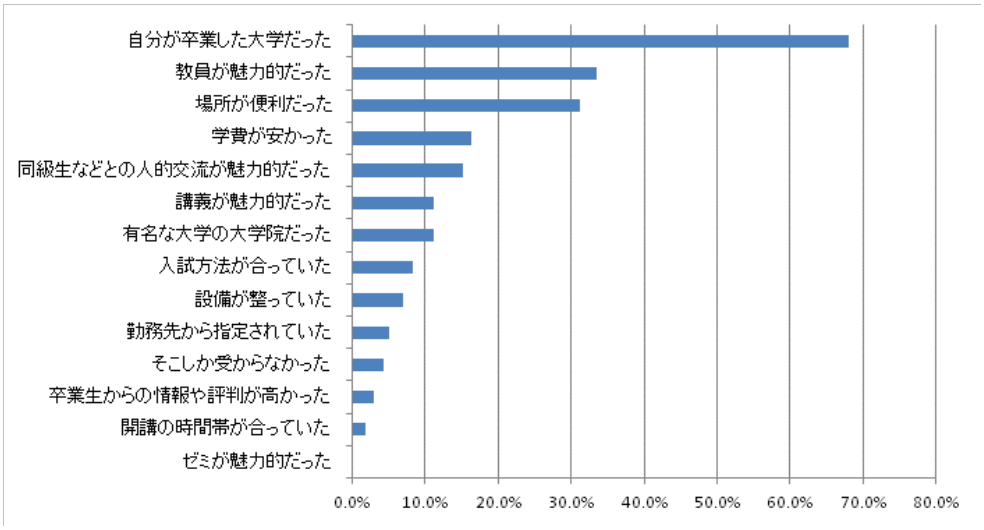
1.　大学院教育の学習成果　－受講経験から－

ここではアンケート回答者のうち，大学院での学習経験を持つ回答者を対象とした，大学院での学習経験・学習成果・満足度等に対する質問（B1~B9）への回答傾向の分析結果を提示する。分析ではまず，個別の質問について，回答の単純集計結果及び因子分析を含めた回答結果の傾向を示し，その後複数の質問の因子間の相関の有無についてみる。

1.1.　個別質問の回答結果

B1：大学院選択の際の重視項目（複数選択）

B1 では進学した大学院を選ぶ際に何を重視したかについて質問しており，回答結果は図 1-1-1 の通りである。



注：有効回答人数 275 人。

図 1-1-1 大学院選択における重視項目

最も回答が多かったのは「自分が卒業した大学だった」であり，70%以上の回答者が選択している。さらに回答結果に対し因子分析を行うと以下のようになる。

表 1-1-1 大学院選択における重視項目（因子分析）

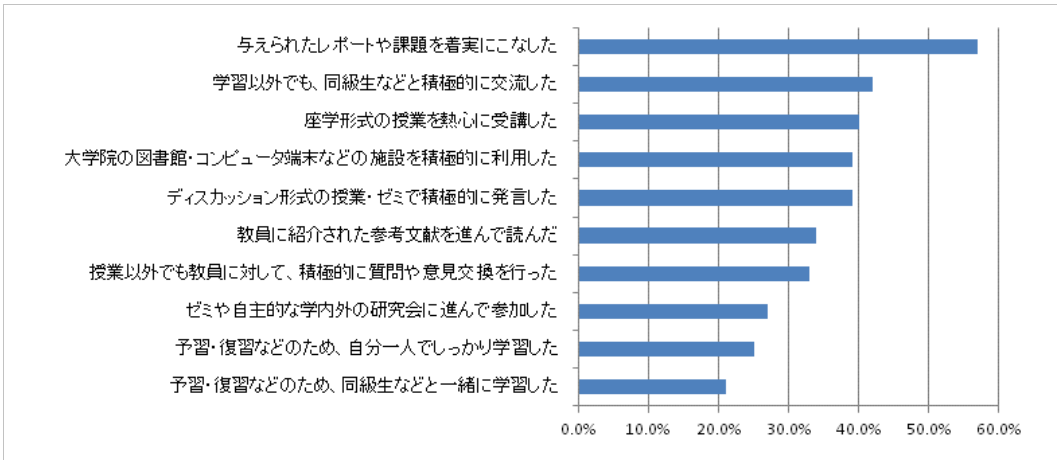
	進学時の所属の影響（受動的選択）	求める条件との一致（能動的選択）	教育内容・環境の魅力（積極的選択）
自分が卒業した大学だった	0.988	−0.153	0.022
勤務先から指定されていた	−0.373	−0.185	0.128
学費が安かった	0.040	0.490	0.082
有名な大学の大学院だった	−0.043	0.388	0.063
入試方法が合っていた	0.036	0.353	0.023
場所が便利だった	0.073	0.313	0.058
設備が整っていた	0.009	0.246	0.031
開講の時間帯が合っていた	−0.112	0.194	0.015
講義が魅力的だった	−0.093	0.128	0.495
教員が魅力的だった	−0.065	0.131	0.402
卒業生からの情報や評判が高かった	−0.061	0.091	0.326
同級生などとの人的交流が魅力的だった	0.099	0.053	0.290
そこしか受からなかった	0.013	0.091	−0.228

注：回転はバリマックス法，因子抽出法は最尤法を利用。

抽出された各因子と回答者の属性との間の関係としては，まず「進学時の所属の影響」に関して，進学が就職前であったか就職後であったかの違いとの間に相関がみられる（有意水準 1%，相関係数 0.506）。勤務先からの指定が就職後であるのは当然であるが，進学が学部卒業直後である場合は，自大学の大学院へと進学する内部進学が多いこともここから示唆される。また進学の就職前後の違いは「教育内容・環境の魅力」とも相関がみられ（有意水準 1%，相関係数 0.163），いったん就職してから進学したグループはより教育内容や環境を吟味して進学先を選択している様子が伺える。

B2：大学院での学習状況（複数選択）

大学院での学習状況についての回答結果は図 1-1-2，因子分析の結果は表 1-1-2 で与えられる。この結果と回答者の属性との関係をみると，最終学位が修士であるか博士であるかの違いと「教員との積極的な交流を通した学習」の回答傾向に相関が存在する（有意水準 1%，相関係数 0.174）。これは博士課程の指導が，修士課程と比較してより研究室指導を中心としていることを反映していると考えられる。また「同級生との交流を通した学習」は，回答者の年齢と相関があり（有意水準 1%，相関係数 0.204），年齢の若い回答者の方がよりこの因子の項目を選択する傾向がみられる。このことには，近年の大学院拡大にともない，専攻や研究室の構成員が増えたことも影響しているのではないかと推察される。これらに加え「授業や課題を通した独習による学習」は，進学が就職後であったか否かと相関があり（有意水準 1%，相関係数 0.179），いったん就職してから進学した回答者の方がより独習による学習スタイルをとる傾向が伺える。



注：有効回答者数 275 人。

図 1-1-2 大学院での学習状況

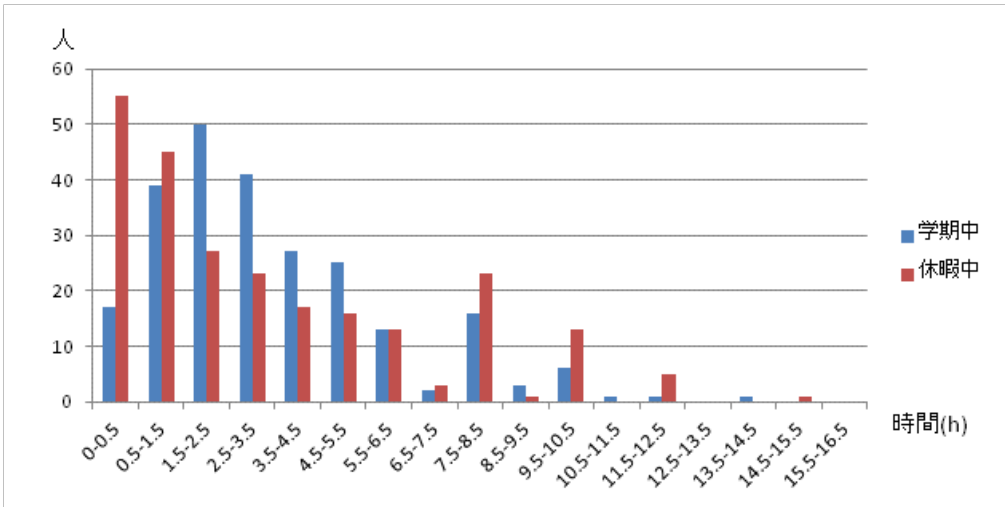
表 1-1-2 大学院での学習状況（因子分析）

	教員との積極的な交流を通した学習	授業や課題を通した独習による学習	同級生との交流を通した学習
授業以外でも教員に対して、積極的に質問や意見交換を行った	0.589	−0.153	0.221
教員に紹介された参考文献を進んで読んだ	0.482	0.279	0.106
ディスカッション形式の授業・ゼミで積極的に発言した	0.450	0.063	0.234
大学院の図書館・コンピュータ端末などの施設を積極的に利用した	0.414	0.305	0.096
与えられたレポートや課題を着実にこなした	−0.054	0.551	0.059
座学形式の授業を熱心に受講した	0.077	0.483	0.113
予習・復習などのため、自分一人でしっかり学習した	0.333	0.437	0.038
ゼミや自主的な学内外の研究会に進んで参加した	0.340	−0.135	0.491
予習・復習などのため、同級生などと一緒に学習した	0.057	0.122	0.410
学習以外でも、同級生などと積極的に交流した	0.165	0.163	0.388

注：回転はバリマックス法，因子抽出法は最尤法を利用。

B3：授業外学習時間

B3 では大学院在籍時における授業外学習時間について質問している。結果を度数分布で表示したものが図 1-1-3 である。回答者が最も多いのは，学期中では 1.5〜2.5 時間（50 人），休暇中では 0~0.5 時間（55 人）であり，学期中の方がより固定的な学習時間を確保している様子が伺えるが，平均学習時間は学期中 3.46 時間，休暇中 3.35 時間とあまり大きな差は見られない。

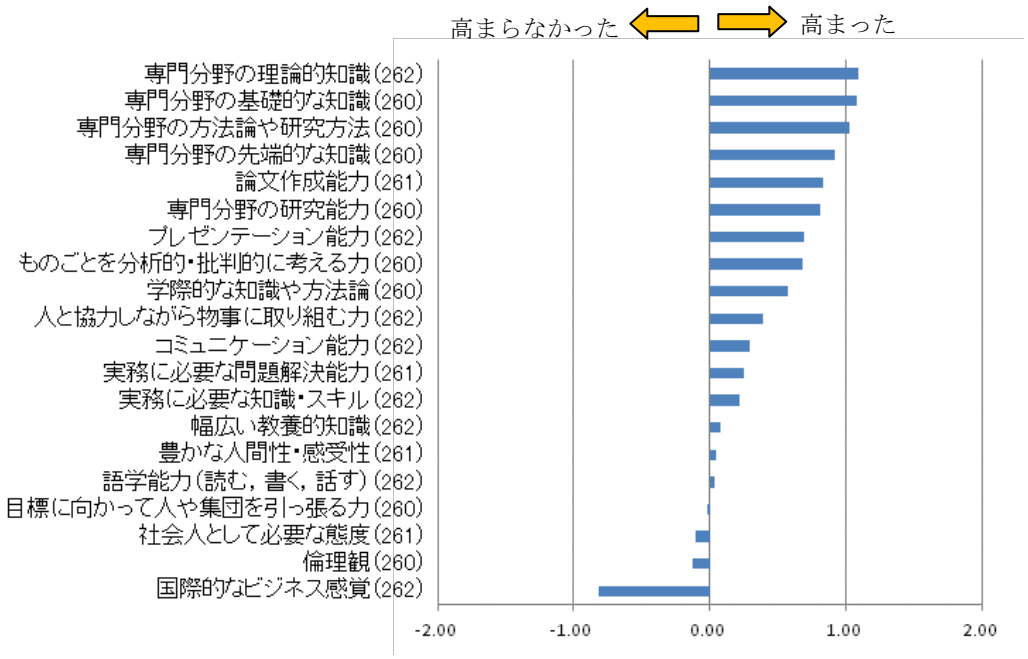


注：有効回答者数 242 人。

図 1-1-3 大学院在籍時の授業外学習時間

B4：獲得知識・能力

B4 では質問紙にあげた複数の知識・能力について，大学院での学習によりそれぞれどの程度身についたと感じているかについて 5 段階で質問している。結果を図 1-1-4 に示す。



注 1：質問票では「とても高まった」を 1，「高まらなかった」を 5 とする 5 段階で質問しているが，上図では「とても高まった」を 2，「高まらなかった」を-2 とする 5 段階に取り直している。

注 2：括弧内は有効回答者数。

図 1-1-4 能力の高まりの程度（平均点）

また回答結果の因子分析結果は表 1-1-3 で与えられる。

表 1-1-3 能力の高まりの程度（因子分析）

	一般的な教養・能力	専門分野の知識・能力	実務的能力
コミュニケーション能力	0.595	0.212	0.327
プレゼンテーション能力	0.373	0.370	0.296
幅広い教養的知識	0.549	0.214	−0.001
倫理観	0.552	0.189	0.205
社会人として必要な態度	0.574	0.103	0.264
豊かな人間性・感受性	0.730	−0.015	0.114
人と協力しながら物事に取り組	0.700	0.158	0.058
目標に向かって人や集団をひっぱる力	0.723	0.171	0.114
国際的なビジネス感覚	0.464	0.178	0.092
語学能力（読む、書く、話す）	0.362	0.331	0.077
専門分野の理論的知識	0.142	0.648	0.101
専門分野の先端的な知識	0.085	0.741	0.080
専門分野の基礎的な知識	0.161	0.427	0.106
専門分野の方法論や研究方法	0.072	0.653	0.065
学際的な知識や方法論	0.260	0.612	0.159
論文作成能力	0.275	0.521	0.152
ものごとを分析的・批判的に考える力	0.380	0.443	0.226
専門分野の研究能力	0.082	0.708	0.150
実務に必要な知識・スキル	0.259	0.251	0.631
実務に必要な問題解決能力	0.212	0.237	0.947

注：回転はバリマックス法，因子抽出法は最尤法を利用。

ここで挙げられた能力については，基本的に高まった方向に感じられているものが多いことがわかる。また因子分析の結果を含めて考えると，「専門分野の知識・能力」に含まれる能力がより高まったと感じられているのに対し，「一般的な教養・能力」に含まれる能力が高まったと感じられている程度は比較的小さいことが伺える。

B5：大学院入学時の希望職

B5 では大学院入学時に，修了後どのような職につくことを希望していたかについて質問している。結果を現在の職別に示したものが表 1-1-4，最終学歴別に示したものが表 1-1-5 になる。「その他」としては在職中の進学及び弁護士，税理士等の専門職などが含まれている。回答者における公務員の割合が多いことから，行政職を希望していたとする回答の数も多くなっているが，研究開発職，民間企業等の職員の希望も比較的多いことがわかる。最終学歴別にみると修士ではやはり，行政職，研究開発職，民間企業の希望が多いが，博士で最も多い回答は大学教員であり，アカデミック・ポストを志向する学生が博士課程へ進学し，それ以外の学生は修士課程を終了した段階で就職していることが推察される。

表 1-1-4 大学院入学時の希望職種（現在の職別）

	大学教員	民間企業・政府・地方自治体の研究開発職	ポストドクター	民間企業等の職員	官公庁等の行政職	初等中等教育の教育職	特に考えていなかった	その他
国家公務員	20	34	2	26	55	3	4	7
地方公務員	22	51	1	40	69	6	10	9
上場企業社員	0	14	1	8	1	2	1	1
中小企業社員	0	0	0	3	1	1	0	2
計	42	99	4	77	126	12	15	19

注：有効回答者数 262 人。各回答者に対し二つ以下の回答を求めている。

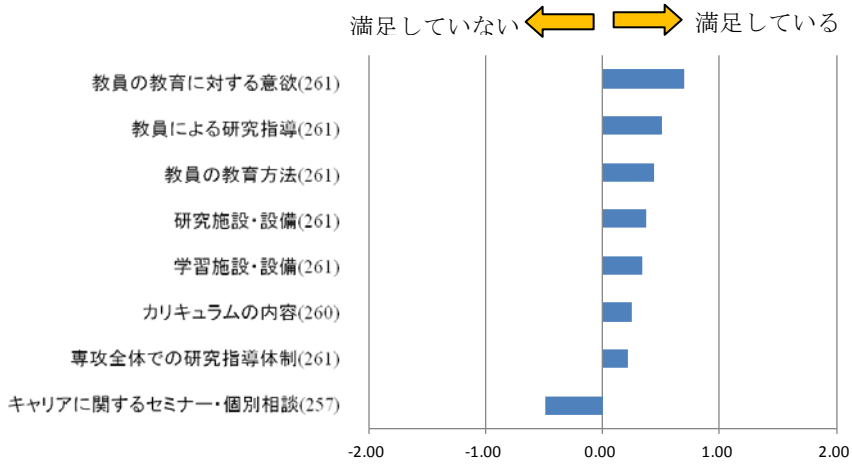
表 1-1-5 大学院入学時の希望職種（最終学位別）

	大学教員	民間企業・政府・地方自治体の研究開発職	ポストドクター	民間企業等の職員	官公庁等の行政職	初等中等教育の教育職	特に考えていなかった	その他
修士	30	84	3	71	115	12	14	16
博士	12	10	1	2	6	0	0	3
計	42	94	4	73	121	12	14	19

注：有効回答者数 251 人。

B6：満足度

B6 では質問紙にあげた複数の項目について，どの程度満足しているかについて 4 段階で質問している。結果の平均は図 1-1-5，因子分析の結果は表 1-1-6 に示す。質問票に挙げた項目についてはほぼ満足している方向に評価されているが，「キャリアに関するセミナー・個別相談」については満足していないとする回答が多くなっている。



注 1：質問票では「非常に満足している」を 1，「満足していない」を 4 として質問しているが，上図では「非常に満足している」を 2，「満足していない」を-2 とする 5 段階に取り直している。

注 2：括弧内は有効回答者数。

図 1-1-5 大学院への満足度（平均点）

表 1-1-6 大学院への満足度（因子分析）

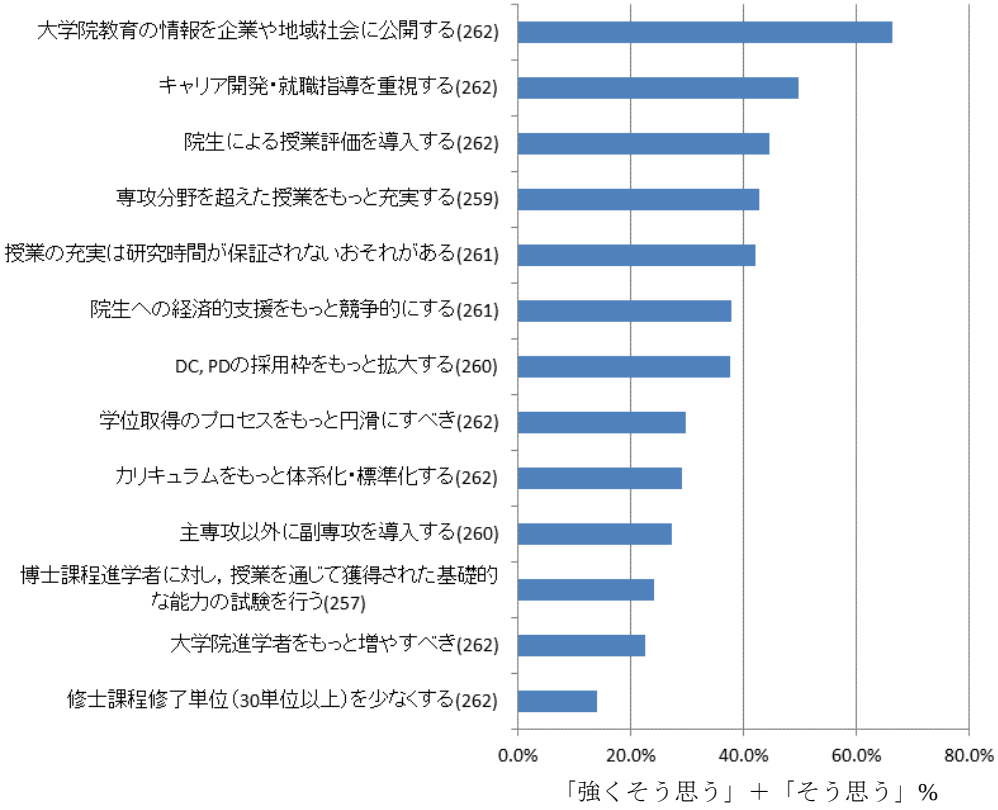
	教育内容	教育環境
教員の教育方法	0.910	0.085
教員の教育に対する意欲	0.849	0.089
教員による研究指導	0.824	0.150
専攻全体での研究指導体制	0.612	0.260
キャリアに関するセミナー・個別相談	0.463	0.201
カリキュラムの内容	0.449	0.204
学習施設・設備	0.144	0.976
研究施設・設備	0.224	0.764

注：回転はバリマックス法，因子抽出法は最尤法を利用。

B7：将来の大学院のあり方，B8：卒業後のキャリア

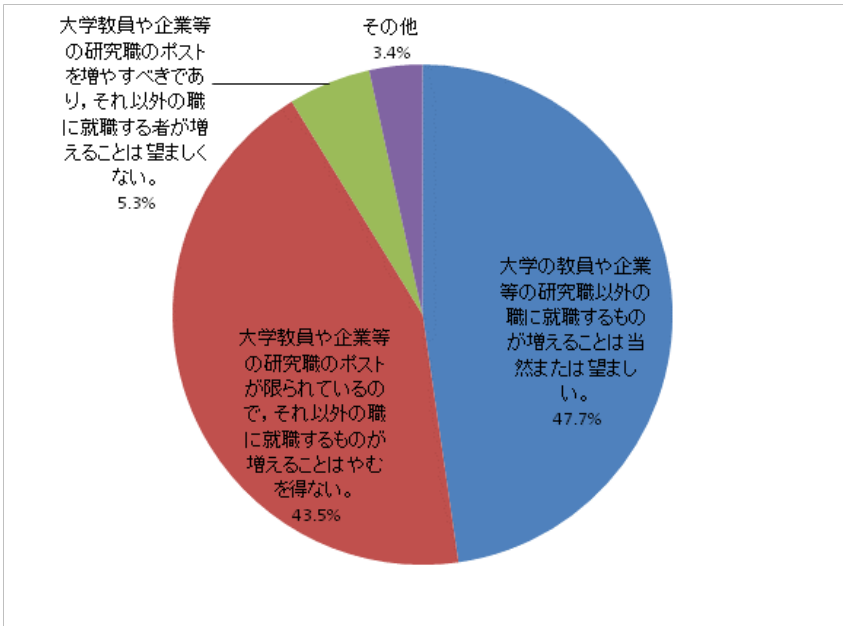
B7 では今後の大学院のあり方について，B8 では大学院修了後の院生のキャリアのあり方について質問している。B7 は質問票に挙げた複数の考え方について 5 段階で，B8 では質問票に挙げた 4 択のうち，自身の考え方に最も近い意見について回答を求めている。B7 については図 1-1-6，B8 については図 1-1-7 に結果を示す。

今後の大学院のあり方については，地域社会への情報公開やキャリア教育を重視する回答が多く，大学院と社会とのつながりの強化を求めている傾向が伺える。また卒業後のキャリアのあり方については，研究職以外の分野への進出を肯定的に捉える回答と否定的に捉える回答は拮抗しているが，いずれにせよ研究職以外の分野への進出が必要であるとする回答は 9 割を超えていることがわかる。このような意識が，B6 におけるキャリア教育への不満や B7 における社会とのつながりの強化を求める回答につながっているのではないかと推察される。



注：括弧内は有効回答者数。

図 1-1-6 将来の大学院のあり方について



注：有効回答者数 262 人。

図 1-1-7 大学院修了後のキャリアのあり方

1.2. 質問間の因子相関

次に上で見た回答結果の因子分析に関して，各回答の因子間の相関から観察される特徴をみてみる。

B1（大学院選択の際の重視項目）－B2（大学院での学習状況）

B1 と B2 の因子間の相関を表 1-2-1 に示す。これより，受動的選択を行ったグループは学習スタイルに特徴がみられない一方で，能動的選択と積極的選択を行ったグループは教員との交流を通した学習を行う傾向が伺える。また積極的選択を行ったグループは，同級生との交流を通した学習にも相関があり，より他者との交流を通した学習スタイルを選択していることがわかる。

表 1-2-1 選択の際の重視項目と学習スタイルの相関

B1 ＼ B2		教員との積極的な交流を通した学習	授業や課題を通した独習による学習	同級生との交流を通した学習
進学時の所属の影響（受動的選択）	相関係数	−0.04	−0.03	0.007
	有意確率	0.51	0.625	0.906
	N	275	275	275
求める条件との一致（能動的選択）	相関係数	.185**	0.114	0.036
	有意確率	0.002	0.06	0.549
	N	275	275	275
教育内容・環境の魅力（積極的選択）	相関係数	.262**	0.084	.230**
	有意確率	0	0.162	0
	N	275	275	275

B1（大学院選択の際の重視項目）－B4（獲得知識・能力）

B1 と B4 の因子間の相関を表 1-2-2 に示す。結果的な能力との相関がみられるのは，積極的選択を行ったグループであり，「一般的な教養・能力」と「専門分野の知識・能力」に相関がある。積極的選択を行ったグループは大学院進学の際に，教育内容や環境をより吟味して進学先を選択したと考えられ，このことが結果的な能力にも結びついている様子が伺える。

表 1-2-2 選択の際の重視項目と獲得能力の相関

B1 ＼ B4		一般的な教養・能力	専門分野の知識・能力	実務的能力
進学時の所属の影響（受動的選択）	相関係数	0.098	−0.011	0.08
	有意確率	0.127	0.869	0.21
	N	246	246	246
求める条件との一致（能動的選択）	相関係数	−0.076	−0.077	−0.102
	有意確率	0.234	0.228	0.11
	N	246	246	246
教育内容・環境の魅力（積極的選択）	相関係数	−.257**	−.151*	0.071
	有意確率	0	0.018	0.267
	N	246	246	246

B2（大学院での学習状況）－B4（獲得知識・能力）

学習スタイルと獲得能力の相関は表 1-2-3 のようになる。これよりまず，独習タイプの学習スタイルがどの能力とも相関がみられないことがわかる。図 1-1-2，表 1-1-2 からもわかるように，「与えられたレポートや課題を着実にこなした」「座学形式の授業を熱心に受講した」等，独習タイプの学習を行なっていたとする回答は非常に多いが，ここからはそれら独習タイプの学習が有効に能力に結びついていない可能性が示唆される。一方で教員との交流を通した学習や，同級生との交流を通した学習は能力との結びつきがみられ，特に教員との交流を通した学習は全ての能力との相関がある。また専門分野の知識・能力が教員との交流を通した学習との相関が強いのに対し，一般的な教養・能力は同級生との交流を通した学習との相関が強く，学習スタイルによる獲得能力の違いが存在することも示唆される。

表 1-2-3 学習スタイルと獲得能力の相関

B2 ＼ B4		一般的な教養・能力	専門分野の知識・能力	実務的能力
教員との積極的な交流を通した学習	相関係数	-.173**	-.365**	-.151*
	有意確率	0.006	0.000	0.017
	N	246	246	246
授業や課題を通した独習による学習	相関係数	-0.043	-0.064	0.069
	有意確率	0.502	0.318	0.282
	N	246	246	246
同級生との交流を通した学習	相関係数	-.321**	-.261**	-0.123
	有意確率	0	0	0.054
	N	246	246	246

B6（満足度）－B1，B2，B4

B6（満足度）と B1（選択の際の重視項目），B2（学習スタイル），B4（獲得能力）との相関を表 1-2-4 から表 1-2-5 に示す。満足度の回答は「教育内容」と「教育環境」の二つの因子に分けられるが，まず選択時の重視項目との関係では，積極的選択と教育内容の間に相関がみられ，大学院選択の際に教育内容・環境を吟味したと考えられる回答者は，結果的に教育内容に対する満足度も高くなっていることが見て取れる。また学習スタイルとの関係では，教員との交流を通した学習と同級生との交流を通した学習に教育内容への満足度と相関がみられる。学習スタイルと獲得能力の相関では，独習タイプの学習スタイルと獲得能力との相関がみられなかったが，満足度との関係においても独習タイプの学習スタイルは相関がみられない。表 1-2-6 からもわかるように，獲得能力については実務能力以外の能力は満足度との相関がみられるので，独習タイプの学習スタイルが有効な能力獲得につながらないことが結果的な満足度へも影響していることが示唆される。

表 1-2-4 選択の際の重視項目と満足度の相関

B1 ＼ B6		教育内容	教育環境
進学時の所属の影響(受動的選択)	相関係数	0.006	−0.061
	有意確率	0.93	0.332
	N	256	256
求める条件との一致(能動的選択)	相関係数	−0.052	−0.069
	有意確率	0.407	0.268
	N	256	256
教育内容・環境の魅力(積極的選択)	相関係数	−.281**	−0.004
	有意確率	0	0.952
	N	256	256

表 1-2-5 学習スタイルと満足度の相関

B2 ＼ B6		教育内容	教育環境
教員との積極的な交流を通した学習	相関係数	−.272**	−.129*
	有意確率	0.000	0.040
	N	256	256
授業や課題を通した独習による学習	相関係数	−0.014	−0.021
	有意確率	0.825	0.742
	N	256	256
同級生との交流を通した学習	相関係数	−.174**	−0.108
	有意確率	0.005	0.086
	N	256	256

表 1-2-6 獲得能力と満足度の相関

B4 ＼ B6		教育内容	教育環境
一般的な教養・能力	相関係数	.207**	.195**
	有意確率	0.001	0.002
	N	242	242
専門分野の知識・能力	相関係数	.529**	.174**
	有意確率	0	0.007
	N	242	242
実務的能力	相関係数	0.089	−0.023
	有意確率	0.169	0.721
	N	242	242

小括

ここで以上の結果のうち，特徴的な点をまとめておく。まず交流タイプの学習スタイルは各能力との相関が見られる一方で，独習タイプの学習スタイルはどの能力との相関もみられなかった。この結果からは研究室指導など交流を通した学習と比較して，コースワーク等独習による学習が現時点で有効に機能していない可能性が示唆される。

さらに大学院選択の際の重視項目とその他の質問に対する回答からは，大学院進学の際に教育内容や環境を吟味したと考えられる人ほど，熱心に交流タイプの学習を行い，結果的に感じる能力の高まりも最終的な満足度も高くなっている。

また今後の大学院のあり方や，修了者のキャリアのあり方に対する回答からは，今後ア

カデミック・ポストを増やすより，研究職以外の職への進出の増加を志向する傾向がみられ，大学院に対し，キャリア教育の充実や社会とのつながりを強化することを求めていることが伺える。

2. 今後の大学院進学について

本節では，社会人が今後の大学院進学についてどのように考えているかについて明らかにする。

2.1. 学部卒業直後の大学院進学希望の有無

まず，学部卒業後に大学院進学を考えたかどうかを質問したところ，44%が「進学を考えたと解答した。

学部卒業直後の大学院進学希望は，専門分野によって有意に異なっており，理工学系や農・水産学系では 6 割以上の卒業生が大学院進学希望であった。逆に，人文科学系や社会科学系では，大学院進学希望者が 3 割以下であった。

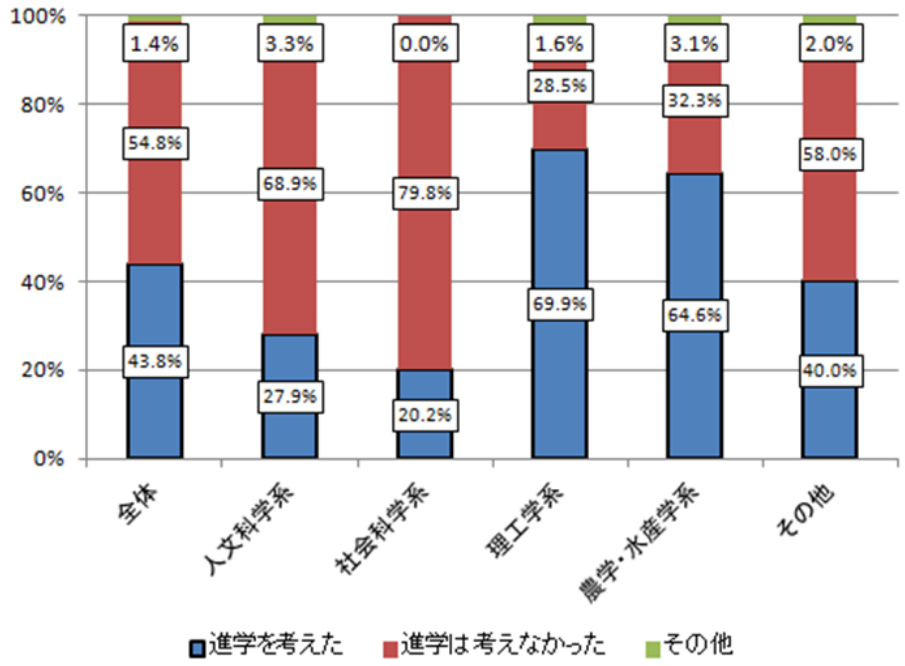


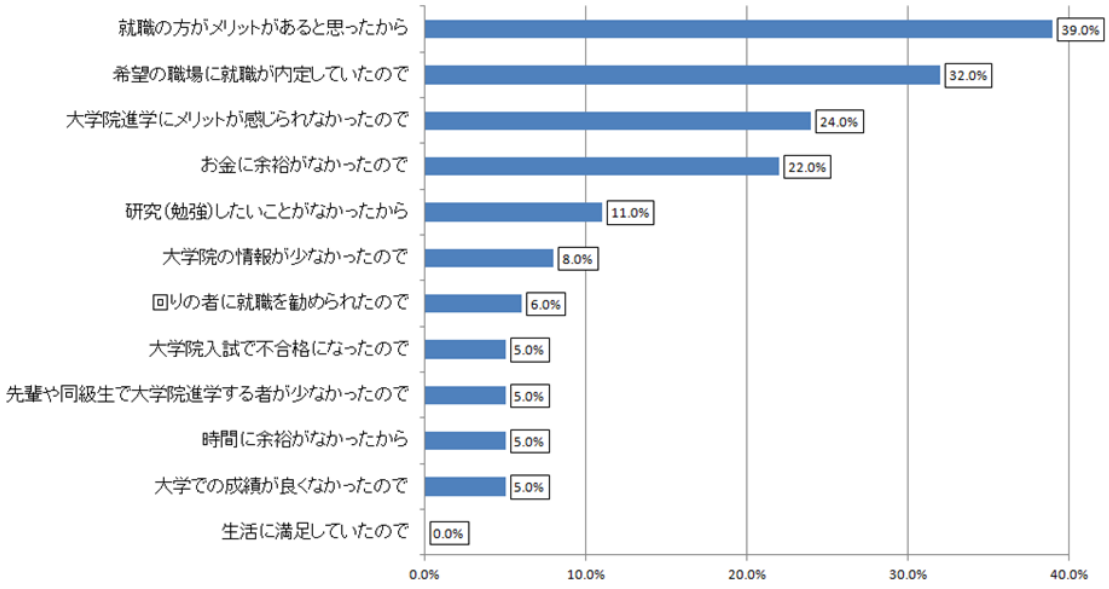
図 2-1 学部卒業直後の大学院進学希望の有無

実際に学部卒業直後進学した者は，全体では 30%であった。専門分野別でみると，理工学系や農・水産学系では 5 割以上の卒業生が大学院に進学した。逆に，人文科学系や社会科学系では，大学院進学者が 1 割程度であった。

2.2. 学部卒業直後，なぜ大学院に進学しなかったのか

学部卒業時に進学を考えたのに進学をしなった理由を尋ねたところ，最も多くの者が選択した理由は「就職の方がメリットがあると思ったから」（39%）で，続いて，「希望の職場に就職が内定していたので」（32%），「大学院進学にメリットが感じられなかったので」（24%），「お金に余裕がなかったので」（22%），となっていた。

学部卒業直後に進学しなかったのは，就職の方が進学に比べてメリットを感じたためと，進学する費用を工面できなかったから，が 2 大要因であった。



注：図中の数値は「当てはまる」を選択した比率

図 2-2　学部卒業直後，なぜ大学院に進学しなかったのか

学部卒業直後に進学しなかった理由を因子分析したところ(表 2-2），大学院に進学しなかった理由は，①進学障害の存在と②進学希望の不在，に 2 分類できることがわかった。

女性は男性よりも，②進学希望の不在，が原因で大学院に進学しなかった者が多い。

表 2-2 学部卒業直後，なぜ大学院に進学しなかったのか

	因子1 **進学障害の存在**	因子2 **進学希望の不在**
お金に余裕がなかったので	0.585	0.183
大学での成績が良くなかったので	0.459	0.009
希望の職場に就職が内定していたので	-0.324	-0.287
就職の方がメリットがあると思ったから	-0.310	0.213
時間に余裕がなかったから	0.250	-0.122
回りの者に就職を勧められたので	0.031	0.012
先輩や同級生で大学院進学する者が少なかったので	-0.114	0.455
研究(勉強)したいことがなかったから	0.057	0.373
大学院進学にメリットが感じられなかったので	-0.030	0.299
大学院入試で不合格になったので	-0.023	-0.159
大学院の情報が少なかったので	0.028	0.051
因子寄与率	0.836	0.640
寄与率(%)	7.60	5.82
累積寄与率	7.60	13.42

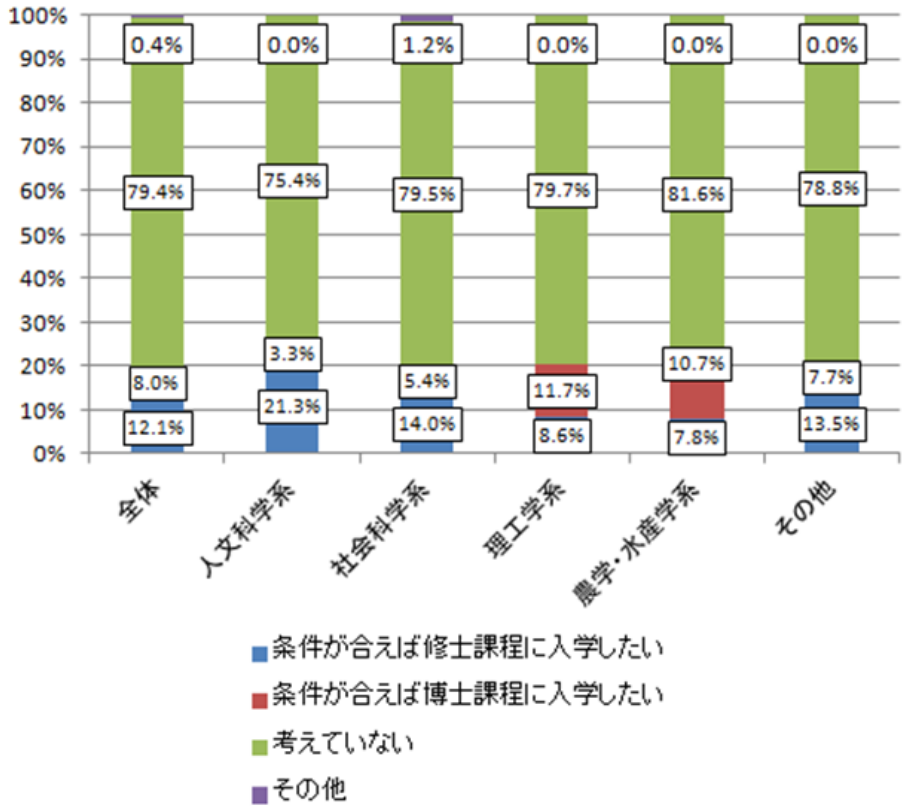
因子抽出法: 最尤法

回転法: Kaiser の正規化を伴うﾊﾞﾘﾏｯｸｽ法

2.3. 現在の大学院進学希望

現在の大学院進学希望について質問したところ，全体的には 12%が「条件が合えば修士課程に入学したい」，8%が「条件が合えば博士課程に入学したい」，8 割は「考えていない」と回答があった。

卒業学部の専門分野別にみると，人文科学系の 21%が「条件が合えば修士課程に入学したい」と回答しており，理工学系や農・水産学系では 1 割以上が「条件が合えば博士課程に入学したい」と回答していた。



注： * p<0.05

図 2-3-1 現在の大学院進学希望（学部の専攻学問別）

将来の働き別に大学院進学希望について質問したところ，「転職」を希望する者は，他の形態での働き方（「現在の職場で昇進」「現在の職場で専門性を高める」）を希望する者に比べて，大学院進学を希望している者が多い（それぞれ，38%，12%，20%）。

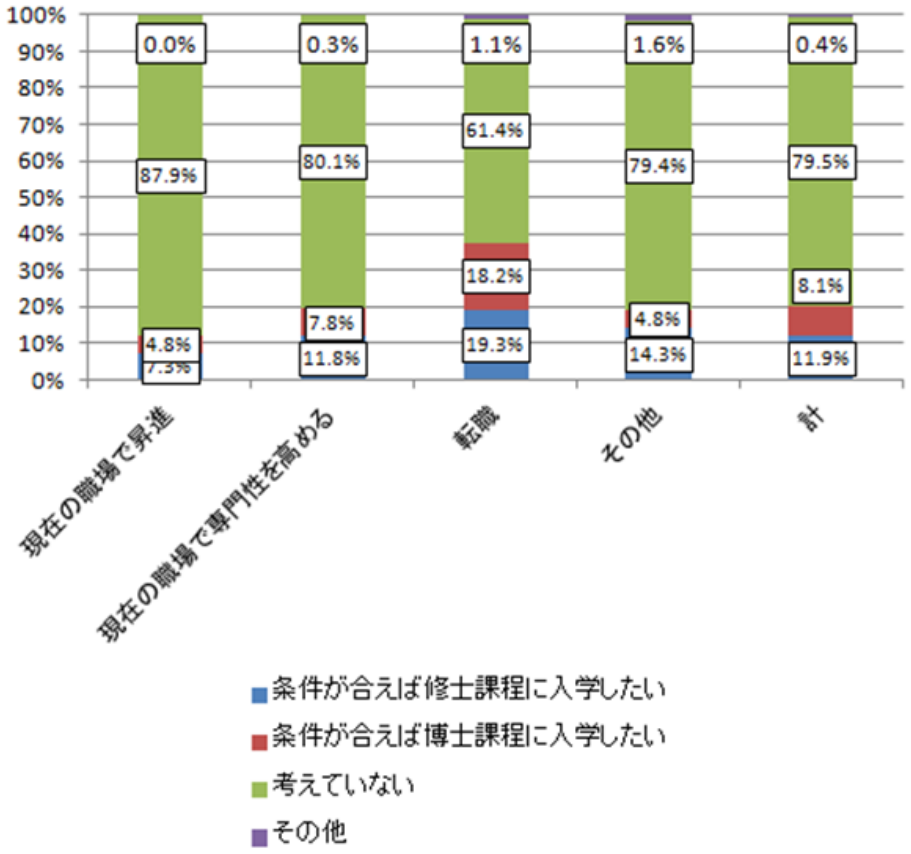
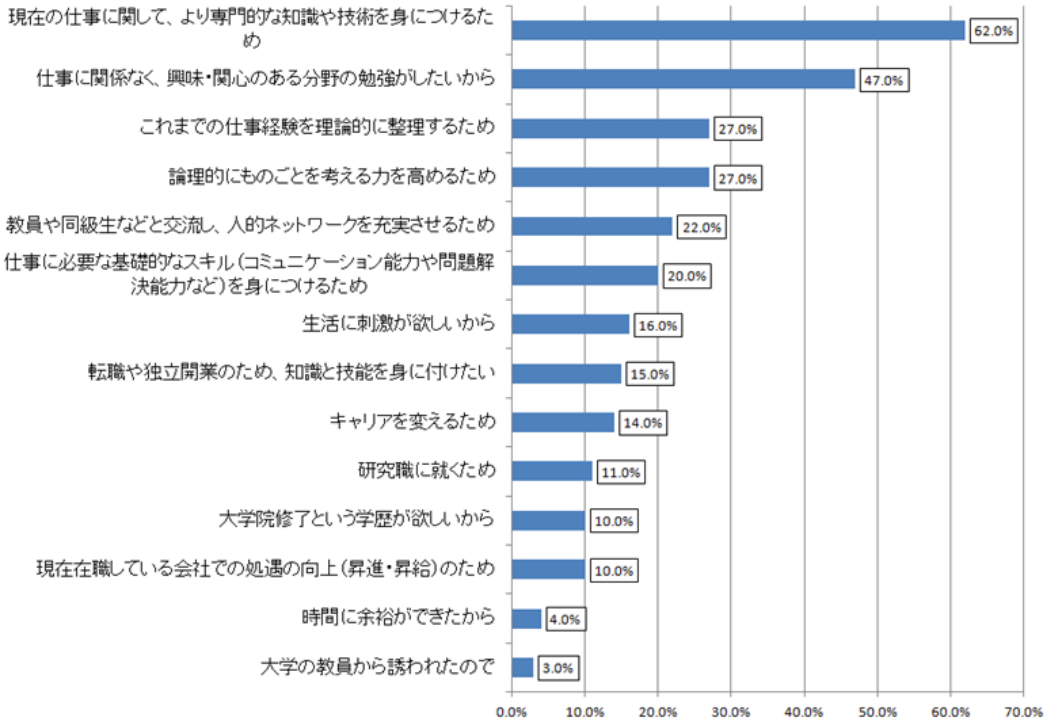


図 2-3-2 現在の大学院進学希望（将来の働き方別）

2.4. 大学院進学希望の理由

大学院に進学希望する最大の理由は，「現在の仕事に関して，より専門的な知識や技術を身につけるため」(62%)で，続いて，「仕事に関係なく，興味・関心のある分野の勉強がしたいから」（47%）であった。



注：図中の数値は「当てはまる」を選択した比率

図 2-4 大学院入学希望の理由

大学院に進学を希望する理由を因子分析したところ(表 2-4)，①興味や関心から，②現在の仕事に必要な知識や技術を習得するため，③キャリアを変えるため，の 3 分類できる。

現在の職場で昇進したいと考えている者や人文科学専攻者は，①関心や関心からを，35 歳未満の若い従業者は，②現在の仕事に必要な知識や技術を習得したいからを，転職希望者は，③キャリアを変えるためを大学院に進学希望する理由として指摘していた。

表 2-4 大学院入学希望理由の因子

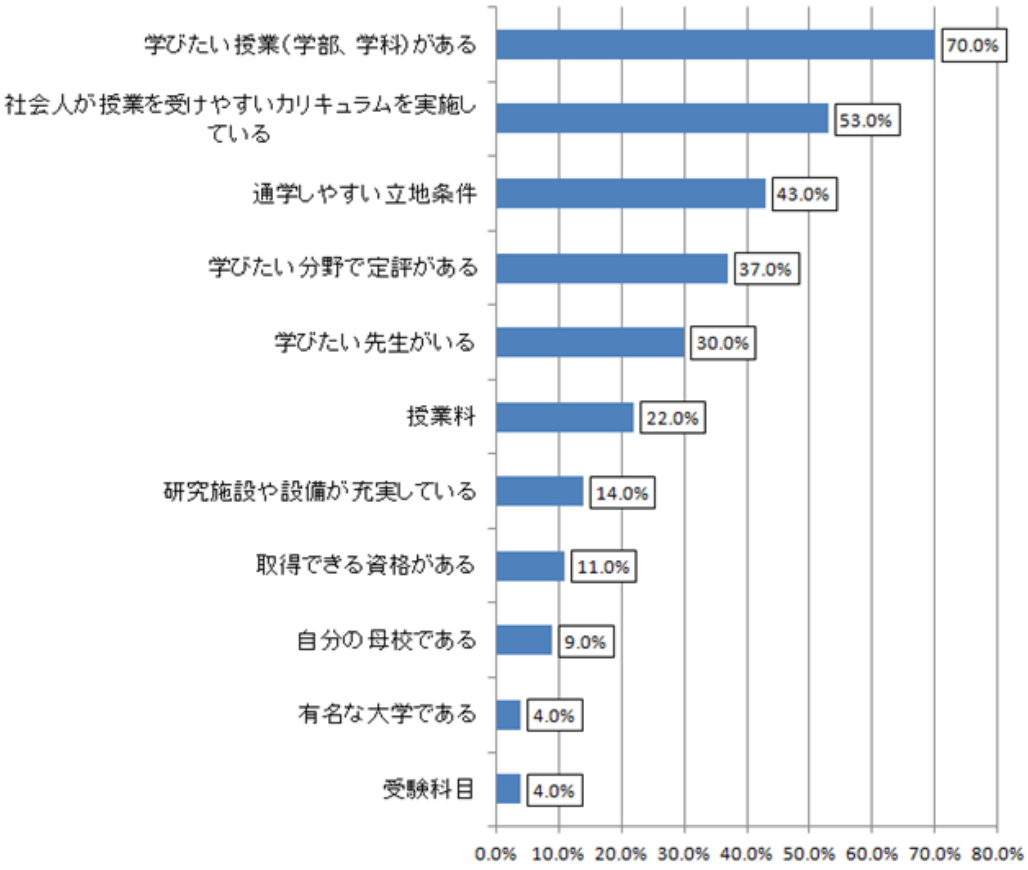
	因子1 興味や関心から	因子2 現在の仕事に必要な知識や技術を習得するため	因子3 転職するため
仕事に関係なく、興味・関心のある分野の勉強がしたいから	0.619	0.080	0.008
生活に刺激が欲しいから	0.489	0.275	0.197
これまでの仕事経験を理論的に整理するため	−0.280	0.073	0.035
時間に余裕ができたから	0.240	0.119	−0.114
現在の仕事に関して、より専門的な知識や技術を身につけるため	−0.400	0.642	−0.238
仕事に必要な基礎的なスキル(コミュニケーション能力や問題解決能力など)を身につけるため	0.134	0.352	−0.282
教員や同級生などと交流し、人的ネットワークを充実させるため	0.084	0.347	−0.032
論理的にものごとを考える力を高めるため	0.029	0.287	0.059
現在在職している会社での処遇の向上(昇進・昇給)のため	0.066	0.093	0.069
キャリアを変えるため	−0.009	0.073	0.511
研究職に就くため	−0.017	−0.071	0.384
転職や独立開業のため、知識と技能を身に付けたい	−0.024	−0.075	0.364
大学院修了という学歴が欲しいから	0.209	0.223	0.298
大学の教員から誘われたので	0.009	0.213	0.263
因子寄与率	0.993	0.96	0.897
寄与率(%)	7.09	6.86	6.41
累積寄与率	7.09	13.95	20.36

因子抽出法: 最尤法
回転法: Kaiser の正規化を伴うﾊﾞﾘﾏｯｸｽ法

2.5. 大学院進学希望の理由

大学院を選ぶ際の基準について質問した。

第 1 の選択基準は，「学びたい授業がある」（70.0%），「社会人が授業を受けやすいカリキュラムを実施している」（53.0%），「通学しやすい立地条件」（43.0%），「学びたい分野で定評がある」（37.0%），である。



注：図中の数値は「当てはまる」を選択した比率

図 2-5 大学院選択基準

大学院選択基準は，①通学容易性，②学習環境，の 2 分類できる。

修士号取得者や転職希望者は，大学院を選択する基準として，②学習環境を選択していた。

表 2-5 大学院選択基準の因子

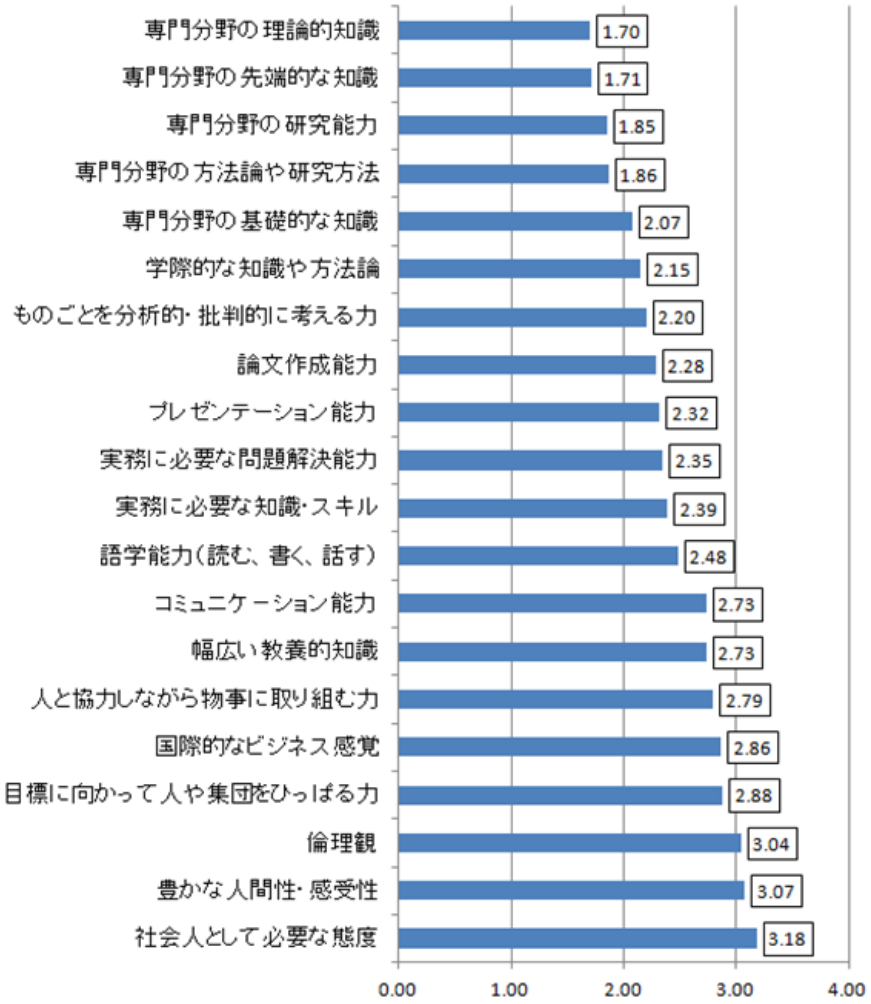
	因子1	因子2
	通学容易性	学習環境
社会人が授業を受けやすいカリキュラムを実施している	0.719	−0.060
通学しやすい立地条件	0.568	0.030
授業料	0.474	0.282
学びたい授業(学部、学科)がある	0.317	0.110
受験科目	0.194	0.005
取得できる資格がある	0.187	−0.014
自分の母校である	−0.186	−0.027
学びたい先生がいる	−0.056	0.592
学びたい分野で定評がある	0.058	0.512
研究施設や設備が充実している	−0.014	0.428
有名な大学である	0.046	0.096
因子寄与率	1.281	0.903
寄与率（%）	11.64	8.21
累積寄与率	11.64	19.85

因子抽出法: 最尤法

回転法: Kaiser の正規化を伴うﾊﾞﾘﾏｯｸｽ法

2.6. 大学院で身につけたい知識や技術

大学院で身につけたい知識や技術は，希望の高い順に，「専門分野の理論的知識」(1.70)，「専門分野の先端的な知識」（1.71），「専門分野の研究能力」(1.85)，「専門分野の方法論や研究方法」(1.86)，「専門分野の基礎的な知識」(2.07)，「学際的な知識や方法論」(2.15)など，専門的知識となっている。



注：表中の数値は，とても期待する=1，期待する=2，どちらともいえない=3，期待しない=4，まったく期待しない=5　として計算した平均値

図 2-6 大学院で身につけたい知識や技術

大学院で身につけたい知識や技術を因子分析した結果（表 2-6），①一般的な教養・能力，②専門の知識や技術，③実践的能力，の 3 分類できる。

大学院で身につけたい知識や技術として，①一般的な教養・能力を希望する者の特徴は，学士号取得者である。②専門の知識や技術を希望する者の特徴は，男性，社会科学系専攻

者，学士号取得者，仕事の上でひとり立ちしている段階の者である。③実践的能力を希望する者については，属性的な特徴は見受けられなかった。

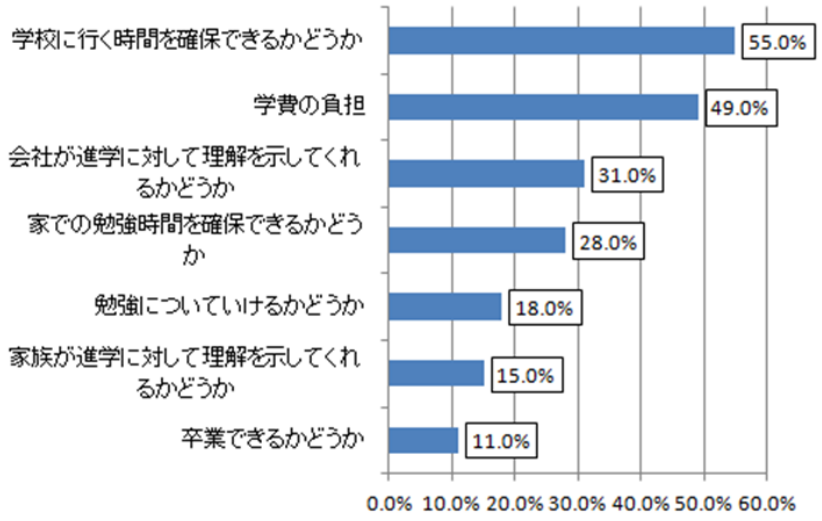
表 2-6 大学院で身につけたい知識や技術の因子

	因子1 一般的な教養･能力	因子2 専門的な知識や技術	因子3 実践的能力
豊かな人間性･感受性	0.851	0.242	0.162
社会人として必要な態度	0.847	0.264	0.193
人と協力しながら物事に取り組む力	0.838	0.262	0.176
目標に向かって人や集団をひっぱる力	0.829	0.222	0.233
倫理観	0.793	0.306	0.179
コミュニケーション能力	0.756	0.281	0.292
国際的なビジネス感覚	0.699	0.251	0.257
幅広い教養的知識	0.698	0.301	0.198
プレゼンテーション能力	0.682	0.344	0.236
語学能力(読む、書く、話す)	0.614	0.379	0.177
ものごとを分析的･批判的に考える力	0.523	0.452	0.175
専門分野の理論的知識	0.161	0.776	0.201
専門分野の先端的な知識	0.126	0.772	0.254
専門分野の方法論や研究方法	0.299	0.719	0.051
専門分野の研究能力	0.282	0.648	0.141
学際的な知識や方法論	0.432	0.606	0.062
専門分野の基礎的な知識	0.382	0.532	0.192
論文作成能力	0.496	0.508	0.089
実務に必要な知識･スキル	0.349	0.267	0.859
実務に必要な問題解決能力	0.402	0.266	0.837
因子寄与率	6.454	3.762	2.002
寄与率(%)	32.27	18.81	10.01
累積寄与率	32.27	51.08	61.09

因子抽出法: 最尤法
回転法: Kaiser の正規化を伴うﾊﾞﾘﾏｯｸｽ法

2.7. 大学院進学する上での心配や悩み

大学院に進学希望する者の中で，3 割以上の者が不安に思っている事項は，「学校に行く時間を確保できるかどうか」（55.0%），「学費の負担」（49.0%），「会社が進学に対して理解を示してくれるかどうか」（31.0%），となっていた。



注：表中の数値は「当てはまる」を選択した比率

図 2-7　大学院進学する上での不安

大学院に進学する際の不安事項を因子分析した結果（表 2-7），大学院に進学する際の不安事項は，①学習時間の確保，②入学・進学の支援，③卒業の可能性，に 3 分類できる。

修士課程進学希望者は博士課程進学希望者に比べて，①学習時間の確保　を心配していた。

表 2-7　大学院進学する上での心配や悩み

	因子1 学習時間の確保	因子2 入学・通学支援	因子3 卒業の可能性
学校に行く時間を確保できるかどうか	0.999	0.024	-0.001
家での勉強時間を確保できるかどうか	0.372	0.053	0.129
学費の負担	0.207	0.963	-0.169
会社が進学に対して理解を示してくれるかどうか	0.05	0.229	0.099
家族が進学に対して理解を示してくれるかどうか	-0.119	0.202	-0.07
卒業できるかどうか	0.085	-0.042	0.542
勉強についていけるかどうか	0.053	0.006	0.453
因子寄与率	1.206	1.026	0.559
寄与率（%）	17.23	14.65	7.99
累積寄与率	17.23	31.89	39.87

因子抽出法: 最尤法
回転法: Kaiser の正規化を伴うﾊﾞﾘﾏｯｸｽ法

小括

従業者が，学部卒業直後に大学院に進学しなかった理由は，「お金に余裕がなかった」「大学での成績が良くなかった」「希望の職場に就職が決まっていた」などの「①進学障害の存在」と，「研究したいことがなかった」「大学院進学にメリットが感じられなかった」などの「②進学希望の不在」に 2 分類できた。女性従業者は男性従業者よりも，「②進学希望の不在」が原因で大学院に進学しなかった者が多かった。

将来，「転職したい」と考えている従業者は，他の働き方（「現在の職場で昇進」「現在の職場で専門性を高める」）を考えている従業者に比べて，大学院に進学したいと考えている者が多い。

従業者が，現在，大学院に進学を希望する理由は，①興味や関心から，②現在の仕事に必要な知識や技術を習得したいから，③転職するため，に 3 分類できた。現在の職場で昇進したいと考えている者や学士課程時代に人文科学を専攻した従業者は，①興味や関心から，35 歳の以下の若い従業者は，②現在の仕事に必要な知識や技術を習得したいから，転職希望者は，③転職するため，を大学院進学希望の理由としていた。

大学院を選択する際の基準は，「社会人が授業を受けやすいカリキュラムを実施している」「通学しやすい立地条件」「授業料」などの「①通学容易性」と，「学びたい先生がいる」「学びたい分野で定評がある」などの「②学習環境」に 2 分類できた。

大学院で身につけたい知識や技術は，①一般的な教養・能力，②専門の知識や技術，③実践的能力，に 3 分類できる。博士課程進学希望者は修士課程進学希望者に比べて，①社会人基礎力や②専門の知識や技術，を習得希望していた。女性は男性に比べて，社会科学は人文科学に比べて， ②専門の知識や技術，を習得希望していた。

大学院に進学する際の心配事項は，①学習時間の確保，②入学・進学の支援，③卒業の可能性， の 3 分類できる。修士課程進学希望者は博士課程進学希望者に比べて， ①学習時間の確保，を心配していた。

まとめ

知識基盤社会において大学院教育に対する期待が高まっているにも関わらず，ここ数年，大学院進学者数が減少している。おそらく，大学院教育の成果（満足度や就職状況に対する評価）が高まらないことが原因しているのではないだろうか。

このような認識にたって，社会で働いている種々の従事者を対象としてアンケート調査を実施した。その結果，以下の 5 点の重要な発見があった。

1 つは，「将来，転職したい」と考えている従業者に，大学院に進学したいと考えている者が多い。

2 つめは，大学院を選択する際の基準は，①通学容易性と②学習環境，であった。

3 つめは，大学院進学の際に教育内容・環境を吟味したと考えられる人ほど，教員や学生と交流するタイプの学習を実施した。

4 つめは，教員や学生と交流するタイプの学習スタイルは，一般的・専門的・実務的能力を獲得するに有効な学習スタイルであった。

5 つめは，アカデミック・ポスト以外の職への進出の増加を志向する傾向がみられ，大学院に対し，キャリア教育の充実や社会とのつながりを強化することを求めている。

上記 5 つの発見からも明らかな通り，大学院進学者は，教員や学生同士の交流を通して，知識や技術を身につけて，目標とするキャリアを達成できるよう支援していく事を大学院教育に求めており，今後，大学院進学者を確保しようとするなら，大学内・外のニーズに対応した，大学院教育を展開することが必要とされている。

特に，アカデミック・ポストの増加が望めない現状においては，研究職以外の職への進出増加が求められており，企業と共同した人材養成やキャリア形成を志向することが必要なのではないだろうか。

【注】

1　大学審議会は，文部省に置かれる審議会の 1 つであり，1987 年 10 月に「大学等における教育研究の高度化，個性化及び活性化等のための具体的方策について」諮問を受けて以来，大学改革の課題に取り組んできた。特に，大学院改革については，「大学院制度の弾力化について」（1988 年）の答申以来，特に「学位制度の見直し及び大学院の評価について」「学位授与機関の創設について」「大学院の整備充実について」「大学院の量的整備について」（以上，1991 年），「夜間に教育を行う博士課程等について」(1993 年)，さらには「大学院の教育研究の質的向上に関する審議のまとめ（報告）」（1996 年），「通信制の大学院について」（1997 年）「大学院入学者選抜の改善について」(1999 年)，にいたるまで，一連の大学院改革に関する答申・報告を行った。

わが国の大学・大学院教育のあり方について

－職業を経験した立場からの自由記述分析－

大膳　司 *

本章では，調査の中で，「職業を経験した立場から，わが国の大学・大学院教育のあり方についてご意見がございましたら以下にご自由に記入して下さい」との質問への回答結果を，内容の種類別にまとめたものである[1]。

回答の内容は，「1. 大学院進学について」「2. 大学院教育のあり方」「3. 大学教員のあり方」「4. 就職問題」「5. 大学院教育に対する社会の姿勢」，の 5 つのグループに分けることができる。

1. 大学院進学について

大学院進学に関連した意見として，高校の延長線上に，大学や大学院の進学が位置しているというような認識が定着しており，進学の目的があやふやなままで進学している者がいないかとの問題意識から，高校在学中に大学院の存在目的や存在価値を伝えられていれば，目標・目的を持って大学に進学する者が増えるのではないか（【自由記述 1.1】），との意見があった。

その延長線上の問題解決策として，博士課程への進学については社会に数年でてから進学した方がよいのでは（【自由記述 1.2】），大学院の進学は出身大学とは別の大学の大学院に進学することを促進してはどうか（【自由記述 1.3】），問題意識が芽生えた時に学習できるような大学院が望ましい（【自由記述 1.4】），大学院組織自体が，上記のような問題意識の高い学生を求めるためには，入学者選抜を厳しくすべきである（【自由記述 1.5】），との意見があった。

さらには，大学院での学習機会について，気軽に学べる（ハードルが低く）機会が得られるようになれば良いと感じる（【自由記述 1.6】），社会人になってから大学院に進学する際，仕事との両立が可能なカリキュラムも充実してもらいたい（【自由記述 1.7】），との意見もあった。

【自由記述 1.1】高校在学中に大学院の存在価値や大学院の目的が明確に伝えられていれば，目標を持って大学に進学する者が増えると思います。そして大学での学びの質によ

* 広島大学高等教育研究開発センター，教授

って大学院に，しっかりとした意識を持った学生が進むことになると思います。現状は大学院で学んだといっても企業等の受入先でどれほどの期待をしているかといえば，大して期待していません。高校の延業に大学，大学の延長に大学院というような認識が定着し，進学の目的があやふやなままでは，なかなか現状は変わらないと思われます。（男性，38，学士号，社会科学系，上場企業労働者，東京都）

【自由記述 1.2】問題解決を工学もしくは理学により理論的に行なえる人材を育ててほしい。ドクターは修士卒ですぐ行くのではなく社会に数年でてから行かれたほうがいいと思われます。（男性，41，修士号，工学系，地方自治体職員，東京都）

【自由記述 1.3】大学院修士から博士に進むほど専門性が高くなりすぎ，別の分野を見る力が失なわれる。日本は卒業した大学の大学院に進学するのが普通だが，アメリカのようにこれを排し，異なる大学の大学院に進学することを義務化してはどうか。（男性，40，修士号，農学・水産系，中央省庁職員，東京都）

【自由記述 1.4】これからの日本の大学，大学院が，働らき出した社会人にとってもっと身近なものになってゆけばいいと思います。働き出した社会人が仕事をしていく上で，レベルアップしたい，直面した興味のある問題について考えを深めたいと思ったときに大学（院）で学べれば，一番大学の教育が社会に還元されると思う。（女性，25，修士号，農学・水産系，地方自治体職員，香川県）

【自由記述 1.5】米国のように教育重視でない日本の大学院では，現存の様に簡単に入学できるシステムではなく，以前の様に入学者を限定するシステムに戻した方が良いと思う。大学院卒を受け入れる体制が社会に無いのであるから，数多く入学させるのは，将来を考えると問題である。現状のシステムは，大学の教員が手足を欲しいだけのように思える。（男性，42，学士号，農学・水産系，中央省庁職員，東京都）

【自由記述 1.6】就職後，改めて大学・大学院で学ぶには，時間，経費，能力面等でハードルが高い。しかしながら，現在就いている分野，職業について，専門的に学びたいという思いの人もいると思うので，気軽に学べる（ハードルが低く）機会が得られるようになれば良いと感じる。（男性，40，学士号，社会科学系，地方自治体職員，広島県）

【自由記述 1.7】社会人になってからの大学院進学の道をもう少し拡大してもらえればと思う。また，その際，仕事との両立が可能なカリキュラムも併せて充実させて頂きたい。（男性，42，学士号，人文科学系，中央省庁職員，東京都）

2. 大学院教育のあり方

最も多かった意見は，大学院教育のあり方についてのものであった。その内容は，「1) 教育目標」「2）教育内容・研究テーマの設定」「3）教育方法・研究指導法」に 3 分類できる。

2.1. 教育目標

まず，教育目標についてであるが，大学院における教育の考え方として，専門分野の専門性を高めることだけではなく，併せて，幅広い知識を持ち，バランスの取れた人材を育成して行く工夫が求められる（【自由記述 2.1.1】），専門教育に加えて社会人となるための人間教育にもより重点を置くべき（【自由記述 2.1.2】），組織や人間関係をコントロールできる人材が求められている（【自由記述 2.1.3】），大学・大学院の目的をはっきりさせ，エリートの養成に力を入れていく必要がある（【自由記述 2.1.4】），という意見があった。

【自由記述 2.1.1】大学・大学院で専門性を高めることは重要ですが，併せて，幅広い知識を持ち，バランスの取れた人材を育成して頂きたいと思います。（男性，42，修士号，工学系，中央省庁職員，東京都）

【自由記述 2.1.2】大学院を就職待機期間と考えている学生も散見されることから，当該目的の学生に対しては，専門教育に加えて社会人となるための人間教育にも，より重点を置くべきと考えます。（男性，54，学士号，工学系，中央省庁職員，東京都）

【自由記述 2.1.3】民間として「社会に役立つ人材の育成」を今も望む処です。教養と人格を備えた，リーダーを育成する余裕のない社会情勢である。組織や人間関係をコントロールできる人材が求められている。大学教育の役割は，文化系，理科系により異なると考えるが，会社組織から求められる人材の育成にとって大学院の役割は何？　また，組織で期待される人間の育成ができるのか？専門性の高い知識を得る為，真理追及の手法取得…解析力，表現力，開発力等のスキルアップ…を考えるが，高度教育の場として，大学院の在り方はこれだけでよいのか。これからの日本を考え，各組織でリーダーになる人材を育んで頂きたい。（男性，57，学士号，工学系，上場企業労働者，新潟県）

【自由記述 2.1.4】大学院と企業などの社会との連携がうまくいっていないように思われる。そのため，大学院まで進学したのに卒業後就職口がないという問題がおきてしまう気がする。また，大学側も経営の点から多くの学生を受け入れようとするため，やる気のない学生が多く生まれ，社会的に大学の地位が低下していると思う。もっと，大学・大学院の目的をはっきりさせ，エリートの養成に力を入れていく必要があると考える。（男性，24，学士号，人文科学系，地方自治体職員，新潟県）

2.2. 教育内容・研究テーマの設定

続いて，教育目標を達成するための教育内容については，就職してから何が求められるのかを知ることで在学中の学習目標を立てることができるという意味で，**在学中から実社会との関わりを持てるカリキュラムを開発する（【自由記述 2.2.1】），という意見があった。**

さらに，研究テーマの選定については，就職市場が何を求めているのかを踏まえた能力

形成をするためにも，企業や研究機関等の大学外部機関の者の意見も参考にすること（【自由記述 2.2.2】），が指摘されていた。

【自由記述 2.2.1】大学，大学院卒業後は，就職する者が大多数である。しかし，在学中から社会とかかわりをもつことは極めて少なく，就職してから何が求められ，また，在学中には何をしておくべきかがよくわからない。そのためインターンシップの強化など，また，地域社会とのかかわりをもつカリキュラムの充実などが必要（男性，31，修士号，理工学系，中央省庁職員，東京都）

【自由記述 2.2.2】農学修士を取得したが，専門知識を発揮する就職先が驚くほど少なかった。結果として研究に励んだにもかかわらず，就職活動では苦労した。大学の研究テーマの選定には，企業や研究機関も参画して，即戦力となる人材を養成すべき。また，大学あるいは大学院を選定する際にも，就職市場が何を求めているかまで考えていなかったが，高校の進路相談，大学入学後のガイダンス等でも情報提供があれば，大学と大学院の何年かを，より必要なスキルの就得に仕向けられたと思う。大学院卒業後には企業等から引っ張りダコになるような，教育でなければ社会的損失である。（男性，33，修士号，農学・水産系，中央省庁職員，東京都）

2.3. 教育方法・研究指導法

教育方法として，受身の一般教養としてではなく，ディスカッションの形で学習すると関心が高まる（【自由記述 2.3.1】），実際に学部時代の職業インターンシップはとても参考になった（【自由記述 2.3.2】），産学協同を促進してほしい（【自由記述 2.3.3】），大学院 1 年目にコースワークを徹底的に行う（【自由記述 2.3.4】），が指摘されていた。

研究指導法として，**自主的に研究に取り組ます**（【自由記述 2.3.5】），大学院は能動的に活躍できる場の提供が重要である（【自由記述 2.3.6】），大学院教育は従来の路線で厳しく学生を鍛えるように（【自由記述 2.3.7】），との意見があった。

【自由記述 2.3.1】化学物資の安全性，標準作成など行政を支援するための専門家が日本には不足しているように思います。華々しい分野ではないかもしれませんが，実務として，大事な分野であるため，これらに関する必要性を問う時間が学生時代にあっても良いのではないでしょうか。受身の一般教養としてではなく，ディスカッションの形でとり入れていただけるとより，関心が高まると思います。（女性，41，学士号，自然科学系，中央省庁職員，東京都）

【自由記述 2.3.2】学部時代の職業インターンシップはとても参考になった。希望する職種で，就業後に活用するであろうスキルを実際に体感できるカリキュラムはとても有効だと考える。（OB による会社説明だけでなく，実業務の内容にまで言及するようなプログラム）（男性，29，修士号，工学系，上場企業労働者，東京都）

【自由記述 2.3.3】産学協同研究をもっと進めるべきと思います。民間企業には学術的な空気がもっと必要ですし，学生には社会に少しでも役立つ研究をという視点が必要と思います。少なくとも大学院は社会に出てから必要とされる情報の分析力，批判する力，そして問題解決能力を養う場としてはうってつけだと思います。今の学生の方には是非そうした意識を持っていただきたいです。（男性，32，修士号，工学系，中央省庁職員，東京都）

【自由記述 2.3.4】私は，理系で，大学院時代は，研究に没頭しておりましたが，研究を学ぶ際，誰かに教えてもらうことなくは「見て学ぶ」というのが主流になっていました。そして，自分で気になったこと，わからないことを聞くというスタンスで研究をしておりました。真の研究者を育てるのであれば，米国のように，院１年目で，徹底的に研究，実験というものを叩き込み，２年目で，実験をするという方が良い気がします。（男性，28，修士号，農学・水産系，中央省庁職員，東京都）

【自由記述 2.3.5】目先の利益にとらわれた教育をすべきではない。学生の自主性を重んじ，自立した一人の人間を育てるようにして欲しい。自主的に研究に取り組んで身につくスキル例えば企画力，立案力，思考力，コミュニケーション力等は，社会でも必ず役に立ちます。（男性，29，修士号，農学・水産系，中央省庁職員，東京都）

【自由記述 2.3.6】理系，文系とで違いはあると思うが，理系の場合，授業よりも研究に重きをおいているため，授業のあり方については特に，重要視していなかった。研究の中での人と交流により，物事のとらえ方や，解決方法等を探る，頭の働かせ方を学べた事が今にも生きている財産となっている。そのため，大学院は能動的に活躍できる場の提供が重要であると思う。（男性，35，修士号，農学・水産系，中央省庁職員，東京都）

【自由記述 2.3.7】私の場合，大学院教育は大学の延長にあり，直接それが職につながっていません。大学院で得たことも，かけがえのないことですが，大学のカリキュラムの外で学びました。必死で大学院生活を過ごした経験そのものが自分の身になると思います。学んだ内容や事柄よりもです。大学院で学んだものを生かせる社会の実現には，社会，企業自体が変わらなくてはならないし，その実現もむずかしいでしょう。この点において，大学院側が変に就職を意識して，その本分をわすれたり，即物的な研究のみになっても意味がありません。大学院教育で，きびしい研究生活を経験して自分の実力を高める。その高い能力で企業が研究職として，また職員としてやとう。もしくは，ベンチャー等で研究の成果をビジネスとする。これが全てだと思います。手を抜かず，学生をきたえあげてください。就職浪人やモラトリアムで通うほど，大学院は甘くない場所でないと日本の競争力，技術者の質は上がりません。（男性，30，修士号，工学系，地方自治体職員，東京都）

3. 大学教員のあり方

大学教員のあり方について，社会経験のある教授をもっと入れて（【自由記述 3.1】），教育者として不適格な人物に対して的確に対応ができる環境が整備されていることが望ましい（【自由記述 3.2】），教授達は研究者である前に教育者であり，学科等で指導方針をきっちり決めるべき（【自由記述 3.3】），良くない教授についても教育レベルが下がらない仕組作りをする（【自由記述 3.4】），などの意見があった。

【自由記述 3.1】海外の大学・大学院についての知識がありませんので比較はできませんが，日本の大学は，閉鎖性を感じています。社会経験のある，教授をもっと入れて，社会の動向を学生へ教えていくことが大切と考えています。（男性，39，修士号，工学系，地方自治体職員，広島県）

【自由記述 3.2】大学生活は指導教員次第なので，教育者として不適格な人物に対して的確に対応ができる環境が整備されていることが望ましい。（男性，44，修士号，工学系，中央省庁職員，東京都）

【自由記述 3.3】大学院ともなると所属する研究室以外の先生方との関わりが極端に少なくなる。良くも悪くも，研究室の先生の影響が大きく，先生に放置されると成長できない修士の人もいるのではないか。教授達は研究者である前に教育者であり，学科等で指導方針をきっちり決めるべき。（男性，25，修士号，工学系，地方自治体職員，東京都）

【自由記述 3.4】大学院で受けた教育は現在の業務の中でとても役に立っています。大学院で得た専門知識はほとんど役立ちませんが，文書の書き方，問題解決の思考プロセス，物事への取り組み方など，基本的なところが生かすことができています。大学院教育の良し悪しは教授で決まってくると感じました。そのため，良くない教授につくと教育レベルも下がると感じました。良くない教授についても教育レベルが下がらない仕組作りをするともっと良いものになっていくと思います。（男性，27，修士号，工学系，上場企業労働者，東京都）

4. 就職問題

就職問題に対応して，出口がないのに博士課程に進ませないでほしい（【自由記述 4.1】），法科大学院の制度は日本にはなじまない制度なのでやめるべきだと思う（【自由記述 4.2】），文科系の場合，その分野の研究者を目指す外，大学院教育のメリットを感じられない（【自由記述 4.3】），大学院終了者の就職口を増やす必要がある（【自由記述 4.4】），大学院の研究機能について，研究成果が社会に還元されるしくみが必要（【自由記述 4.5】），などの意見が寄せられた。

また，大学院で専攻する分野によっては，専門知識を生かして就職できる分野は制

限されてくるので，大学院に進学しないで早期に就職した方がよいのでは（【自由記述 4.6】），との手厳しいが現実的な意見もあった。

【自由記述 4.1】出口がないのに博士課程に進ませないでほしい。（男性，45，博士号，工学系，地方自治体職員，広島県）

【自由記述 4.2】法科大学院の制度は，崩壊していると思う。日本にはなじまない制度なので，やめるべきだと思う。（男性，53，学士号，社会科学系，地方自治体職員，広島県）

【自由記述 4.3】文科系学部出身者としては，特にその分野の研究者を目指す場合の外，大学院教育のメリットを感じられない。（男性，49，学士号，社会科学系，地方自治体職員，広島県）

【自由記述 4.4】日本は研究者の立場が低すぎる。日本は本来の意味のエリート教育がされていない。「科学技術立国」を目指すのであれば（特に理系の）大学院への進学をさらに増やすべきであり，そのためには，大学院終了者の就職口を増やす必要がある。（男性，54，博士号，農学・水産系，中央省庁職員，東京都）

【自由記述 4.5】大学の研究が，狭い研究分野に限られ，実社会が直面する課題とかけ離れている印象がある。また，その研究成果の発表の場が学内発行雑誌などに限られ，一般の人の目に触れない場合も多い。大学教育は，狭い大学内や学会だけではなく，社会との対話が必要であり，研究成果が社会に還元されるしくみが必要と考えます。（男性，38，学士号，社会科学系，地方自治体職員，新潟県）

【自由記述 4.6】大学院の専攻分野によって，就職できる職種が大幅に制限される。進学をしないで，早期に就職した方がよいのでは？（最近では，専門学校の人気が高まっていると聞く）今後，我が国の経済状態が大幅に改善されない限り，大学院進学は不利に働くと思われる。（男性，31，修士号，中央省庁職員，東京都）

5. 大学院教育に対する社会の姿勢

最後に，大学院教育の効果を決定する要因の一端が社会側にあるとの意見が寄せられた。

例えば，大学院を修了した後の給与等の適切な処遇のあり方が重要である（【自由記述 5.1】），官民ともに，積極的に学位取得者を巧く活用していく体制を整備していくことが求められる（【自由記述 5.2】），科学立国日本の立場から，十分な財政的支援を希望します（【自由記述 5.3】），社会人になって，必要な知識等を得る為，大学等で勉強して新たな職を得ることを日本の社会として容認する風土が必要ではないか(【自由記述 5.4】)，との主張があった。

【自由記述 5.1】仕事をしながら学ぶ，しかも質的に高いレベルで大学院教育を受ける機

会が少ないと思います。また優秀な人材を大学院に迎えるための財政支援についてもっと充実すべきと考えます。教員や公務員は大学院レベルの教育を受けることにより，一層のパフォーマンスを発揮できるはずであり，そうすべき存在であると考えます。よって質的な意味も含め大学院教育を終了した者が適切に給与にも反映（せめて授業料はとりもどせるぐらい）される仕組みが重要であると考えます。（男性，43，学士号，社会科学系，中央省庁職員，東京都）

【自由記述 5.2】修士・博士の学位を得た人が必ずしも研究職に就くわけでもない中，各人が研究の中で身に付けてきた専問的な知見が活かされてない印象が有る。官民ともにニーズを整理し，キャリアプランを示して，学位取得者を巧く活用していく体制を整備していければ…と考えることがしばしば。実際には色々難しいのでしょうが…。（男性，26，学士号，総合科学系，中央省庁職員，東京都）

【自由記述 5.3】科学立国日本の立場から，十分な財政的支援を希望します。（男性，42，修士号，工学系，地方自治体職員，東京都）

【自由記述 5.4】大学，大学院教育のあり方ではなく，社会人になって，必要な知識等を得る為，大学等で勉強して新たな職を得ることを日本の社会として容認する風土が必要ではないか。現在の日本では，30 歳で会社を辞めて，大学院等に 2 年通うと就職が困難または，年齢に見合う待偶を得ることは，難しい。（男性，38，修士号，社会科学系，地方自治体職員，広島県）

まとめ

回答者となった職業人 1 人 1 人は，個別の意見を提供してくれている。以上の大学や大学院のあり方に対する職業人の自由な意見をまとめてみると，「1．大学院進学について」「2．大学院教育のあり方」「3．大学教員のあり方」「4．就職問題」「5．大学院教育に対する社会の姿勢」，の 5 つのテーマに沿ってまとめてみた。

職業人の大学院に対する自由な意見を通して，大学院教育に意味(効果)が見いだせないので行かない方が良いというものと，大学院教育は意味があった，改善すれば意味が増す，という 2 つの方向を認識することができた。

前者のような意見を述べる職業人も，おそらく，職業社会に大学院教育の効果を評価してもらえるようになれば，大学院教育を勧める意見に変わるのではないだろうか。

大学院教育の内容が興味のわくものとなるよう，カリキュラムや教え方を工夫するとともに，その大学院教育の効果があがるよう，社会との関係作りが求められていることが認識できた。

【注】

1　以下に提示した自由記述には回答者の属性を（ ）内に示した。属性は，左から，性，年齢，取得最高学位，卒業学部の専門分野，現在の職業，現在の住所，である。

入試選抜別に見る日本の大学院教育

－2011 年全国調査のデータ分析を中心に－

黄　福濤*　李　敏**

1. 研究目的

近年，大学院教育の改革では，政府が社会人や留学生の大学院進学を積極的に推進しており，より多様な学生が大学院に進学できるように，その環境の整備に力を入れている。例えば，005 年,「新時代の大学院教育－ 国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて－」（中教審答申）の中では,「多様な学修歴を持つ社会人の大学院教育へのアクセスの拡大」（39 頁),「留学生が学ぶための環境を整備し，積極的に受け入れる」（50-51 頁）と言及した。2011 年 1 月の「グローバル化社会の大学院教育」（中教審答申）の中では,「社会人や外国人学生を含む多様な学生がそれぞれに将来の見通しを持って互いに切磋琢磨する環境の整備を進めること」に力点を置いて大学院教育を強化するというように，改善の方向性を指摘した（15 頁)。2011 年 8 月「第 2 次大学院教育振興施策要綱」（中教審答申）では，大学と企業との連携，さらに社会人の学位取得を促進する学位プログラムの在り方を検討すべきだと強調し，社会人による大学院進学を促進する方策がますます具体化されるようになった。一方，留学生の大学院進学は，アジアゲートウェイ構想の具体化のように，新たな国家戦略として高く位置付けられている。

かくして，社会人大学院生，外国人大学院生は，学部から直接大学院に進学するといった「伝統型」の大学院生との間に，進学動機，大学院での生活，さらに進路選択に関して，どのような相違があるのかについて，考察を試みる。最後は，大学院教育に対する評価を見てみる。

2. 調査概要

本文は，2011 年広島大学高等教育研究開発センターの戦略プロジェクト研究の一環として，大学院生を対象に実施した調査の結果に基づき，分析した内容である。調査票の配布数は 7,000 部である。回収数は 959 部であり，有効回収率は 14%である。調査対象大学の内訳は以下の通りである。国立大学 13 校（うち単科大学 6 校)，公立大学 3 校，さらに私立大学 15 校（うち単科大学 2 校）である。入試選抜別で見てみると，その分布は表 1 のと

*広島大学高等教育研究開発センター，教授
**広島大学高等教育研究開発センター，研究員

おりである。

調査対象者の 9 割以上は高校を卒業して，一般入試選抜を通して大学院に進学する，という「伝統型」の大学院生である。社会人特別選抜及び留学生特別選抜で進学した者はそれぞれ 5.6%と 3.7%を占めており，依然として大学院生の中のマイノリティ集団となっている。

表 1 入試選抜別で見る進学者の分布

	N	%
一般入試選抜	857	90.7
社会人特別選抜	53	5.6
留学生特別選抜	35	3.7
合計	945	100.0

以下は，大学院生の①修士課程の進学動機（Input），②大学院での生活（Throughput），さらに③将来に対する展望（Output）を分析したうえで，④将来の大学院教育に対する評価を見てみる。

3. 修士課程の進学動機（Input）

まず，修士課程の進学理由について見てみると，全体的に「あと 2 年間は勉強を続けたかった」，「専門を深めたいから」と答えた学生が多い。ただ，社会人特別選抜の院生は漠然とした目的であと 2 年間勉強するよりも，「資格・免許がほしいから」，「キャリア・アップ」したいからという明確な目的をもって進学した学生が多い。留学生特別選抜で進学した院生は，上述した継続的に勉強することと今後のキャリアという両方の目的を抱えて進学する特徴が見られる。さらに留学生の 25%は「奨学金がもらえるから」という経済的な援助も大学院進学の進路決定を促進する特徴が見られる。

表 2 修士課程の進学理由

	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜
あと2年間は勉強を続けたかったから***	81.7%	50.0%	81.8%
専門を深めたいから*	94.4%	96.1%	85.3%
資格・免許がほしいから**	28.2%	44.9%	53.1%
研究職にあこがれたから	52.7%	53.1%	58.8%
良い就職機会を得られるから***	54.4%	24.5%	81.8%
家族からの経済的支援があるから***	52.2%	12.5%	37.5%
学部時代の指導教員に勧められた***	31.0%	14.3%	34.4%
奨学金がもらえるから***	11.3%	2.0%	25.0%
キャリア・アップしたいから***	60.3%	77.6%	87.5%
就職が決まらなかったから***	16.6%	0.0%	25.0%

注：「とても当てはまる」＋「やや当てはまる」の回答

4. 大学院での生活（Throughput）

4.1. 一週間の時間配分

表 3 は，「学期中の平均的な一週間で，以下のような活動にどのくらい時間を使っていますか」という質問に対する答えである。一般入試選抜で進学した院生と比べ，授業，授業の準備，さらに論文作成のために，留学生と社会人の院生がより多くの時間を費やしている傾向が見られる。留学生は，言葉というハードルがあるため，学業を順調に進めるために，より長時間の勉強が必要であるということが推測できるだろう。留学生の語学学習の時間が長いという結果もその仮説を裏付けることができる。さらに研究室の共同研究とプロジェクトの参与時間から言えば，社会人大学院生と留学生の参加時間が一般選抜の学生より遥かに短い。一方，経済的な負担が少ない社会人大学院生と比べ，一般選抜の大学院生と留学生のアルバイト時間が長い。また，就職活動に費やす時間が一般選抜の大学院生は若干長い。

表 3 一週間の時間配分

	授業（実験・演習を含む）の出席***			授業の準備***			論文の作成*			語学の学習**			研究室の共同研究・プロジェクト***		
	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜
0h	20.0%	5.8%	0.0%	34.9%	9.4%	0.0%	21.0%	9.4%	9.1%	38.6%	48.1%	17.1%	40.1%	70.6%	31.3%
1-5h	34.0%	36.5%	22.9%	39.5%	26.4%	40.0%	26.1%	26.4%	9.1%	45.4%	28.8%	51.4%	16.8%	17.6%	46.9%
6-10h	21.0%	28.8%	37.1%	12.1%	28.3%	17.1%	18.0%	22.6%	30.3%	9.1%	9.6%	20.0%	8.3%	7.8%	12.5%
11-15h	13.0%	11.5%	28.6%	7.0%	17.0%	14.3%	11.0%	15.1%	27.3%	4.5%	5.8%	2.9%	6.3%	2.0%	3.1%
16-20h	3.3%	13.5%	5.7%	3.3%	9.4%	20.0%	7.5%	11.3%	3.0%	1.0%	3.8%	5.7%	5.2%	0.0%	6.3%
21-25h	2.8%	1.9%	2.9%	1.2%	7.5%	5.7%	3.8%	5.7%	3.0%	0.5%	1.9%	0.0%	4.3%	2.0%	0.0%
26-30h	1.8%	1.9%	0.0%	0.7%	1.9%	0.0%	2.2%	1.9%	6.1%	0.2%	0.0%	2.9%	3.7%	0.0%	0.0%
31h以上	4.1%	0.0%	2.9%	1.3%	0.0%	2.9%	10.4%	7.5%	12.1%	0.7%	1.9%	0.0%	15.2%	0.0%	0.0%

	自主ゼミ			専門書や論文を読むこと			アルバイト・非常勤講師***			就職活動**			友人との交流***		
	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜
0h	45.4%	61.5%	39.4%	2.4%	1.9%	2.9%	36.9%	54.7%	21.2%	60.5%	98.0%	75.8%	4.9%	15.4%	2.9%
1-5h	31.5%	25.0%	51.5%	35.2%	32.1%	20.6%	25.5%	13.2%	24.2%	23.6%	2.0%	12.1%	38.0%	61.5%	60.0%
6-10h	10.9%	5.8%	3.0%	26.6%	22.6%	20.6%	16.0%	7.5%	15.2%	8.5%	0.0%	3.0%	29.6%	15.4%	20.0%
11-15h	5.0%	3.8%	6.1%	17.0%	26.4%	20.6%	10.5%	5.7%	12.1%	4.3%	0.0%	3.0%	15.0%	7.7%	5.7%
16-20h	2.8%	1.9%	0.0%	7.3%	1.9%	17.6%	6.4%	3.8%	9.1%	1.4%	0.0%	6.1%	6.5%	0.0%	2.9%
21-25h	1.6%	0.0%	0.0%	4.3%	5.7%	5.9%	2.6%	1.9%	12.1%	0.5%	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%	5.7%
26-30h	1.3%	0.0%	0.0%	1.5%	1.9%	5.9%	1.0%	1.9%	6.1%	0.4%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	2.9%
31h以上	1.4%	1.9%	0.0%	5.7%	7.5%	5.9%	1.1%	11.3%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	2.7%	0.0%	0.0%

4.2. 授業経験

一方，今までの授業経験に対して，大学院生が入試選抜別でどのように考えているかについて，見てみよう。英語による授業の必要性について，一般選抜の大学院生が「とても必要」，「やや必要」と答えた比率が 9 割以上を超えているのに対し，社会人大学院生と留学生は 2 割〜3 割が必要ではないと答えている。留学生にとっては，非英語国家の日本に留学に来たため，英語授業に対する期待がそもそも高くないという解釈ができるほか，留学生の中には，日本語の運用力が英語を上回る者もいると解釈できる。そして，社会人大

学院生と留学生がとくに「課題の提出を毎回重視」している。一般選抜で進学した大学院生と比べ，そういった学生が明確な進学目的を持っているからであろう。一方，社会人大学院生の 4 割近くが，TA などの補助的な指導の必要性を高く評価していない。社会人大学院生に自立的に勉強する能力を身に付けている人が多いためであろう。この傾向は,「レポートに適切なコメントが付されて，返却する」ことの必要性に対する評価の中でも見られる。留学生は逆に授業や学習，さらに授業科目の選抜の際に，適切な指導に対する需要がとても高い。また，授業中，自分の意見や考えを述べる機会が「とても重要」と答えた学生が全体の 8 割以上を占めている。このことは逆に日本の大学院教育は，学生が自由に意見を述べる機会がまだ少ないということを意味しているのであろう。

4.3. 授業経験，及びその評価

表 4 今までの授業経験

	英語を使用する授業がある			課題の提出が毎回重視されている***			出席が重視されている			TAなどの補助的な指導がある*			複数教員によるオムニバス形式の授業がある		
	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜
とてもあった	10.9%	17.0%	8.8%	20.0%	34.6%	35.3%	43.8%	39.6%	44.1%	11.0%	3.8%	17.6%	14.0%	13.5%	5.9%
ややあった	50.2%	37.7%	38.2%	48.2%	51.9%	52.9%	41.5%	35.8%	32.4%	40.5%	26.4%	35.3%	48.8%	40.4%	44.1%
あまりなかった	38.9%	45.3%	52.9%	31.7%	13.5%	11.8%	14.7%	24.5%	23.5%	48.5%	69.8%	47.1%	37.3%	46.2%	50.0%

	学外の講師による授業がある			レポートに適切なコメントが付されて返却される***			グループで１つの課題に取り組む機会がある			授業中、自分の意見や考えを述べる機会がある***			講義科目の選択に指導教員の関与がある***		
	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜
とてもあった	9.9%	15.1%	12.1%	11.6%	15.1%	18.2%	5.2%	11.3%	21.2%	25.9%	63.5%	63.6%	7.5%	15.1%	32.4%
ややあった	58.6%	41.5%	51.5%	48.4%	45.3%	42.4%	26.5%	34.0%	51.5%	45.0%	32.7%	30.3%	22.5%	24.5%	35.3%
あまりなかった	31.5%	43.4%	36.4%	40.0%	39.6%	39.4%	68.3%	54.7%	27.3%	29.1%	3.8%	6.1%	70.0%	60.4%	32.4%

表 4 は，大学院教育の授業経験を示す内容である。検定で有意である項目について見てみると,「課題の提出が毎回重視されている」という項目では，社会人大学院生と留学生の 9 割近くが「とてもあった」,「ややあった」と答えたのに対し，一般入試で進学した大学院生は「あまりなかった」という否定的な答えをしたのは，31.7%を超えている。一方，留学生が TA などの補助的な指導が多く受けられる結果がある。「レポートに適切なコメントが付されて返却される」という項目に関して,「あまりなかった」と答えた人が 4 割近くも達している。さらに「授業中，自分の意見や考えを述べる機会がある」,「講義科目の選択に指導教員の関与がある」という授業経験を多く持っているのは，やはり社会人大学院生と留学生である。なぜ入試選抜別によって，授業経験がこのように異なるのか。大学側が提供する教育以外には，受講者本人の意欲と参加の差異もあるのではないかと推測できる。

表 5 授業経験に対する評価

	英語を使用する授業がある***			課題の提出が毎回重視されている***			出席が重視されている			TAなどの補助的な指導がある*			複数教員によるオムニバス形式の授業がある		
	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜
とても必要	39.3%	39.2%	30.3%	18.0%	21.6%	51.5%	25.3%	37.3%	37.5%	20.0%	13.7%	39.4%	16.0%	16.0%	15.2%
やや必要	53.3%	37.3%	42.4%	60.7%	74.5%	45.5%	51.8%	45.1%	31.3%	50.4%	49.0%	39.4%	54.6%	62.0%	60.6%
必要ではない	7.4%	23.5%	27.3%	21.2%	3.9%	3.0%	22.9%	17.6%	31.3%	29.5%	37.3%	21.2%	29.3%	22.0%	24.2%

	学外の講師による授業がある			グループで１つの課題に取り組む機会がある			レポートに適切なコメントが付されて返却される*			授業中、自分の意見や考えを述べる機会がある**			講義科目の選択に指導教員の関与がある***		
	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜
とても必要	31.8%	25.5%	30.0%	33.3%	23.5%	51.6%	45.2%	36.0%	73.3%	52.0%	66.7%	81.3%	8.0%	17.6%	37.5%
やや必要	57.0%	54.9%	60.0%	50.5%	52.9%	32.3%	45.7%	50.0%	23.3%	43.3%	33.3%	18.8%	33.5%	45.1%	43.8%
必要ではない	11.3%	19.6%	10.0%	16.2%	23.5%	16.1%	9.1%	14.0%	3.3%	4.7%	0.0%	0.0%	58.5%	37.3%	18.8%

「大学院教育を通して，大学院生がどのような知識や能力を身に付けているか」という質問に対し，評価が高いのは，「専門レベルの専門的な知識や能力」，及び「専門レベルの基礎的知識や能力」という専門に関する知識と能力である。また論文執筆で育てられた「物事を分析的・批判的に考える力」，「問題を発見し，仮説・検証する力」の向上にプラスになる結果が伺える。特に，留学生からの回答からみると，「物事を分析的・批判的に考える力」，「問題を発見し，仮説・検証する力」の向上のほうが「専門レベルの専門的な知識や能力」，及び「専門レベルの基礎的知識や能力」よりはもっと強調されていることがわかった。ただし，「英語を読む能力」については，社会人大学院生がそれほど評価していない。また「分かりやすく話す能力」，「論文作成能力」及び「社会・政治・経済に関する教養的知識」は，一般入試選抜の院生の評価が全体の中で，低い傾向が見られる。この質問は，あくまでも回答者の自己評価に過ぎず，回答者の本当に身に付けた知識と能力を反映したものではない。ただし，ある程度，一般入試選抜の大学院生が専門知識以外の知識と能力の学習が若干不足している結果が窺える。

4.4. 身に付けている知識と能力

表 6 身に付けている知識と能力

	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜
専攻レベルの専門的な知識や応用力	62.8%	64.2%	70.6%
専攻レベルの基礎的知識や能力	79.6%	80.8%	76.5%
英語を読む能力**	54.1%	38.5%	61.8%
英語で論文を書く能力**	12.5%	18.9%	11.8%
英語で話す能力**	14.6%	26.4%	17.6%
わかりやすく話す能力**	56.4%	73.6%	79.4%
職業汎用的な能力**	55.4%	77.4%	55.9%
論文作成能力*	47.4%	60.4%	67.6%
ものごとを分析的・批判的に考える力	76.4%	69.8%	82.4%
問題を発見し、仮説・検証する力	69.7%	66.0%	82.4%
対人関係能力・リーダーシップ	63.8%	71.7%	64.7%
社会・政治・経済に関する教養的知識*	40.5%	58.5%	58.8%

注：「身に付けている」＋「やや身に付けている」の回答

表 7 受けた授業の中で，意味があったと思う授業

	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜
最先端の研究成果にふれることができた*	60.0%	75.5%	52.9%
学問の基礎を着実に教えてくれた	79.4%	79.2%	93.9%
自然や社会との関わりで学問の意義を教えてくれた**	48.3%	66.0%	69.7%
将来役立つ実践的な知識や技能を教えてくれた	66.2%	77.4%	54.5%
教え方が工夫されていた	57.3%	67.3%	73.5%
自分の研究テーマや方法を考える上で役だった***	71.5%	92.5%	97.1%

注：「当てはまる」の回答

「今まで受けた授業の中で，意味があったと思う授業」に関して，社会人大学院生が全体的に高く評価している。それに対して，一般入試選抜の大学院生の評価は全体的に低い傾向がある。これは恐らく社会人大学院生が非常に明確な目的を持って大学院に進学したことと関係があるであろう。また留学生は「自分の研究テーマや方法を考える上で役立った」を最も高く評価した。

表 8 知識や能力を身に付ける上で，時間割上の授業（講義，演習，実験）と研究室の教育（指導教員の指導）に対する評価

	一般入試選抜		社会人特別選抜		留学生特別選抜	
	時間割上の授業	研究室の教育	時間割上の授業	研究室の教育	時間割上の授業	研究室の教育
専門的な知識や応用力***	67.4%	95.8%	84.0%	90.4%	88.2%	87.9%
専門の基礎となる知識や能力**	78.9%	94.4%	86.0%	92.2%	94.1%	97.0%
英語を読む能力**	37.0%	64.8%	46.0%	52.9%	55.9%	60.6%
英語で書く能力*	16.1%	41.4%	26.0%	36.0%	35.3%	36.4%
英語で話す能力	13.3%	30.5%	20.0%	28.0%	23.5%	30.3%
わかりやすく話す能力***	44.8%	87.1%	70.0%	84.0%	76.5%	87.5%
職業汎用的な能力***	37.8%	65.9%	68.6%	76.0%	58.8%	69.7%
論文作成能力***	29.6%	85.7%	60.8%	89.8%	63.6%	87.9%
ものごとを分析的・批判的に考える力***	56.5%	93.3%	76.5%	92.0%	85.3%	87.9%
問題を発見し、仮説・検証する力***	48.9%	90.7%	76.5%	94.0%	79.4%	93.9%
対人関係能力・リーダーシップ	34.4%	67.4%	42.0%	48.0%	50.0%	66.7%
社会・政治・経済に関する教養的知識***	34.3%	42.4%	38.0%	52.0%	64.7%	66.7%

注：「とても役立っている」+「やや役立っている」の回答

従来の「研究室教育」の代わりに，体系的「コースワーク」（時間割上の授業）による大学院教育の転換が近年の大学院改革の目玉の一つとなっている。ただし，コースワークによる教育は果たして研究室教育より効果が高いのか。またこの 2 種類の教育は，実際大学院生の入試選抜別でどのように評価されているのか。表 8 は上述した 2 つ問題について示している。本調査の中では，「時間割上の授業」を「コースワーク」の代替指標として用いられている。全体的に，すべての種類の知識や能力の習得に関して，「研究室教育」がより役立っているという傾向が大学院生全体に見られる。ただし，社会人大学院生と留学生の「時間割上の授業」に対する評価は，「研究室教育」に及ばないものの，一般入試選抜の

大学院生よりはかなり高い。つまり，一般入試選抜で進学した大学院生にとっては，研究室教育の効果がコースワークによる教育を上回る特徴がある。ただし，ここで強調したいのは，この分析結果のみでは，すぐに研究室教育がコースワークより勝っているという結果を導くことができない。研究室教育の特徴の一つは，教員と学生との間に，密な人間関係を持っているため，コースワークより知識獲得の上で，受けた影響が高いように見えるためであろう。このような傾向は，学部時代において，時間割上の授業をメインとする一般入試で進学した大学院生にとっては,研究室教育の魅力を一層感じられているであろう。

5. 将来に対する展望（Output）

表 9 は修士修了後の進路展望を示すものである。一般入試の大学院生は，半数近くが研究職を目指しているのに対し,「自分が何に向いているのかは，まだ分からない」という進路未定の者も半数に達している。そして,「課程修了後のキャリア」に対し，不安を感じている者も 6 割以上を超えている。一方，社会人大学院生は 6 割以上が研究職を目指し，自分の適性もはっきり分かっているし，将来のキャリアに対し不安を感じている者がもっとも少ない。留学生は，研究職を目指す者が 60%を超えたものの，自分の適性が不明瞭で,将来のキャリアに対する不安を持っている者の割合もかなり高い。

表 9 進路展望

	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜
将来、研究職を目指して研究を進めたい	49.2%	62.0%	60.0%
自分に何が向いているか、まだわからない***	49.6%	16.0%	32.4%
課程修了後のキャリアに不安がある**	61.0%	40.0%	67.6%

注：「とても当てはまる」+「当てはまる」の回答

表 10 希望する進路（複数選択）

	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜
同じ研究科の博士後期課程に進学する*	14.1%	24.5%	28.6%
別の研究科の博士後期課程に進学する（海外も含む）	7.6%	15.1%	14.3%
別の研究科の修士課程に入学する	2.5%	5.7%	2.9%
民間企業に就職する***	43.5%	9.4%	31.4%
小中高の教員、医師、弁護士などの専門職につく	21.8%	15.1%	20.0%
官公庁の職に就く	17.5%	5.7%	20.0%
自営など上記以外の形で就職する	6.0%	7.5%	0.0%
職場に復帰する（転職も含む）***	1.3%	28.3%	5.7%
(N)	520	33	15

表 10 は，修士終了後，希望する進路を複数選択した回答である。一般入試選抜の大学院生の 21.7%が博士課程進学を目指しているのに対し，民間企業就職，専門職，さらに公務員を目指す比率は 80%を超えている。一方，社会人大学院生と留学生の 4 割以上が博士後期課程に進学することを希望している。ただし，社会人大学院生の中に 28.3%が元職場の復帰と転職，そして 15.1%が専門職を希望している。留学生の中には，民間企業，専門職と公務員を希望する割合も 70%を越えている。つまり，一般入試の大学院生の大部分が就職を希望するのに対し，社会人大学院生と留学生は博士後期課程進学と就職を希望する者が両分されている。

表 11 は，修士課程修了後，もっとも希望する進路の回答を示している。ここでも入試選抜別で，大学院生の進路希望の相違が確認できる。一般入試選抜で進学したいわゆる「伝統型」の大学院生は，同じ研究科と別の研究科の博士課程に進学することを希望する者を合わせても 10.2%しかおらず，55.2%が民間企業に就職することを希望している。それに次ぐのは，専門職（24.2%）と公務員（7.7%）である。社会人大学院生の 42.4%が博士後期課程への進学を目指し，自営等上記以外，つまり起業を計画する者が 21.2%に達している。留学生の中にも，博士後期課程進学を目指す者が 33.4%を占めているのに対し，民間企業就職を希望する者もほぼ同じ比率（33.3%）となっている。

表 11 もっとも希望する進路

	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜
同じ研究科の博士後期課程に進学する	8.7%	30.3%	26.7%
別の研究科の博士後期課程に進学する（海外も含む）	1.5%	12.1%	6.7%
別の研究科の修士課程に入学する	0.6%		
民間企業に就職する	55.2%	6.1%	33.3%
小中高の教員、医師、弁護士などの専門職につく	24.2%	12.1%	6.7%
官公庁の職に就く	7.7%		20.0%
自営など上記以外の形で就職する	1.0%	3.0%	
職場に復帰する（転職も含む）	0.6%	21.2%	6.7%
その他	0.6%	15.2%	
(N)	520	33	15
	100.0%	100.0%	100.0%

6. 将来の大学院教育に対する意見

表 12 将来の大学院教育のあり方に対する考え

	一般入試選抜	社会人特別選抜	留学生特別選抜
専門分野を超えた授業をもっと充実する	65.5%	63.5%	71.4%
博士課程進学者に対し、授業を通じて獲得された基礎的な能力の資格試験を行う***	40.5%	23.1%	60.0%
修士課程修了単位（30単位）を少なくする*	38.4%	17.3%	42.9%
職業的汎用能力を育成する*	68.0%	67.3%	88.6%
院生による授業評価を導入する**	42.2%	53.8%	71.4%
カリキュラムをもっと体系化・標準化する*	43.1%	48.1%	62.9%
キャリア開発・就職指導を重視する	55.2%	50.0%	68.6%
主専攻以外に副専攻を導入する*	38.8%	38.5%	68.6%
大学院教育の情報を企業や地域社会に公開する	65.0%	61.5%	85.7%
特別研究員(DC,PD)の採用枠をもっと拡大する*	61.9%	56.9%	88.6%
院生への経済的支援は競争的であるべき***	34.0%	34.6%	48.6%
大学院進学者をもっと増やすべき	37.0%	46.2%	42.9%
多様な院生の要求に対応できる能力をもった大学教員を養成すべき*	73.4%	78.8%	88.6%

注：「強くそう思う＋そう思う」の回答

表 12 は，将来の大学院教育のあり方に対する考えを示すものである。一般入試選抜で進学した学生の考え方は，社会人大学院生との間に似通った結果が見られる。一方，留学生はすべての項目に対して，改善すべきだと考える割合が他のタイプの学生より上回る。指摘しておきたいのは，「多様な院生の要求に対応できる能力を持った教員を養成すべき」と答えた者が 7 割から 8 割以上に達していることである。このような意見は伝統型大学院生以外の留学生と社会人留学生の中で特に多く見られる。大学院への進学者の多様化が進んでいるにもかかわらず，教育方法などは依然として旧態依然であるという問題を垣間みることができるであろう。「博士課程進学者に対し，授業を通じて獲得された基礎的な能力の資格試験を行う」，「院生による授業評価」，「カリキュラムをもっと体系化・標準化する」，「主専攻以外に副専攻を導入する」，「特別研究員（DC，PD）の採用枠をもっと拡大する」といった欧米のコースワークの慣行を日本でも普及すべきという意見が留学生の中で多い。そして，「職業的汎用能力を育成すべき」と考える院生は 7 割近くいる。この意見は，留学生の中でとりわけ突出している。

まとめ

以上のように，入試選抜別で大学院教育の現状と問題点を考察した結果，以下の結論が

得られた。

1．入試選抜別で，大学院教育に求めるものが異なる。社会人大学院生と留学生はかなり明確な目的を持って大学院に進学しているのに対し，一般入試選抜で進学した大学院生は，漠然とした目的で大学院に進学している傾向が見られる。したがって，それぞれのタイプの学生に対して異なる教育内容を開発する必要があるかも知れない。具体的には，社会人向けや留学生向けの特別コースや授業科目の開設が必要であろう。また開設の方法に関しても，それぞれの要求に沿って，工夫する必要がある。

2．入試選抜別で，大学院の過ごし方がかなり異なる。これは恐らく進学目的の違いによるものであろう。その中で，留学生が特に学習時間が長い。これは言葉の問題で，日本人大学院生より，一層学習の時間が必要であるためであろう。

3．入試選抜別によって，大学院教育から獲得した知識と技能に対する評価もかなり分かれる。この知識と技能は個人による主観評価なので，回答者の能力を客観的に代表するわけではない。ただし，大学院進学前と比較するという意味を持っているため，大学院進学の目的が明確な留学生と社会人大学院生の方が，大学院教育の効果を高く評価する傾向がある。逆に言うと，漠然とした目的で大学院に進学するなら，大学院教育への関わりも低く，よって大学院教育に対する評価も低くなると言えるであろう。

4．英語での授業の提供に関しては，何の目的で，どの学生を対象に，どういう方法に基づいて進めていけばよいか，さらに熟考する必要がある。

5．一般入試選抜の学生のうち半数近く，社会人と留学生とも 6 割以上の回答者は将来研究職に就くという希望があるようで，修士課程段階では研究者になるための基礎的な知識や能力を養う必要があると考える。

【参考文献】

中教審（2005）「新時代の大学院教育－ 国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて－」
中教審（2011）「グローバル化社会の大学院教育」
中教審（2011）「第 2 次大学院教育振興施策要綱」
橋本弘信，濱中義隆，角田敏一（2011）「研究室教育再考―理工系大学院の教員意識調査の分析―」独立行政法人大学評価・学位授与機構『大学評価・学位研究』第 12 号，pp31-48
濱中淳子（2009）「大学院改革の社会学―工学系の教育機能を検証する」東洋館出版社

大学教員を巡る諸条件・負担感・研究業績の変化について

―認識構造への注目―

島　一則*

1. 研究の背景と目的

18 歳人口の減少，規制緩和による大学数の増加，国立大学における運営費交付金の削減や私学における経常費補助金の削減など，大学（ひいては大学教員）を巡る環境は大きく変化してきている。これらの環境変化の中での大学教員に生じた様々な変化は，一連のアカデミックプロフェッション研究において，着実に実施されてきている（有本編 2008，有本編 2011）。実際に，その分析対象は極めて広く，グローバル化・国際化，アカデミック・キャリア，流動性，ジェンダー・バイアス，管理運営，労働条件，生活時間，給与，ストレス，研究業績，教育活動，研究と教育，評価など，おおよそ考えられうるテーマがカヴァーされていると言っても過言ではない。しかしながら，教員を巡る諸条件・負担感がどのように変化しているのか，そしてそれらの変化が研究業績とどのような関係になっているのかについて，教員がどのような認識（そしてその構造）を有しているのかは，必ずしも十分に明らかにはされていない。そこで，本研究では大学教員を巡る諸条件（特に研究活動に関係するもの）（3 節），教員の諸活動に対する負担感（4 節），研究業績についての認知状況（5 節）について検討する。そのうえで，研究業績に諸条件，負担感がどのような影響を与えていると教員が認識しているかについて明らかにする。最後に，以上について整理，考察することにより政策的・経営的な含意について述べることとする。

具体的な分析に入る前に，なぜここで，「認識」という主観的な要素に注目するのかについてあらかじめ述べておきたい。実際の諸条件や研究業績については，客観的データ（諸条件については基盤的研究費・競争的資金の額や教員スタッフや RA/TA の数，研究業績については研究業績の具体的な数や引用度など）に基づいて調べることが重要であることは言うまでもない。しかしながら，社会調査としてこれらを具体的に回答いただく負担は非常に大きいという点が「認識」を分析に用いた理由の一つである。しかし，それ以上に重要な意図としてあるのが，個人の認識の構造そのものに注目したいと言う点である。すなわち，諸条件の変化や負担感についてどのように感じているのかという点，研究業績がどのように変化していると認識しているのかという点，さらにはそれらの認識がどのような連関構造を有しているのかを明らかにすることは，教員の認識世界での現状を直接明らか

* 広島大学高等教育研究開発センター，准教授

にすることであり，このことには客観的データで明らかになることとは別の重要な意義を有すると考えるからである。

2. 先行研究の整理とデータ

2.1. 主要先行研究の整理

大学教員を巡る研究活動に関わる諸条件の変化に関連しては，阿曽沼（2008）で「過去三年間に何らかの研究費を個人ないしは共同研究グループの一員として交付された教員の比率」が 1992 年の 79.3%から 2007 年の 86.3%に増加していることを明らかにしている。一方，南部（2008）が 1992 年と 2007 年を比較して，教育研究旅費については 4.8%ほど「よい」と答える比率が高くなる一方で，有給の研究休暇については 2.7%減少していることが明らかにされている。また施設設備（実験室，研究設備・機器，コンピューター機器，図書館，研究室）については大きく改善していることが明らかにされている。

次に，教員の各種の負担感についてであるが，西本（2008）において，「私の仕事は相当な心理的緊張を伴っている」とする質問項目に基づいて，「そう思う」と回答した割合が 1992 年から 2007 年にかけて 55.9%から 50.1%に減少していることなどを明らかにしている。また長谷川（2008）では教員の時間に注目して，教育時間（学期中）については 1992 年と 2007 年で統計的に有意な変化はなく，研究時間（学期中・休暇中）は大きく減少し，社会サービス時間については学期中は増加，管理運営時間（学期中・休暇中）は増加となっていることが明らかにされている。

最後に研究業績の規定要因について検討した研究として 2 つの論考をここでは取り上げる。大膳（2008）では，2007 年調査データに基づいて，研究論文数の規定要因としては，規定力の強い順に「交付研究費額」「学会参加回数」「学位レベル」「関心の所在」が挙げられている。また，1992 年調査データとの比較から，時点間を通じて「学会参加回数」と「交付研究費額」が強い規定要因として存在していることが明らかにされている。また，村澤（2008）では，研究評価と研究生産性に注目し，「個人的な属性に関わる変数や所属機関の特徴に関わる変数を統制すると，研究評価の研究生産性への効果はほぼ皆無」とされている。

以上の一連の研究群はアカデミックプロフェッション研究として有本章氏を研究代表として進められてきた国際比較を含む大規模研究プロジェクトであり，非常に重要な研究群である。しかしながら，時点間の比較が 1992 年と 2007 年という点は共通しており，本稿で取り扱っている 2011 年現在とおよそ 10 年前の比較という点では対象時期が異なっており，結果についても大きく異なる可能性がある。以下では大学教員を巡る諸条件（特に研究活動に関係するもの），各種活動の負担感，研究業績の変化，さらにはこれら 3 者の関係について順次見ていくこととしよう。

2.2. データ

本論文で用いるデータは，広島大学・高等教育研究開発センターによる 2011 年 11 月実施の「大学院教育の現状と課題に関する教員調査」に基づくものであり，有効回答数は 1036，調査票配布数に対する回収率は 15%となっている。なお設置主体別の回答大学数・回答者数は，国立 13 校・661 名，公立 3 校・110 名，私立 13 校・265 名となっている。

3. 大学教員を巡る諸条件について

大学教員を巡る諸条件として，ヒト・カネについてそれぞれ「教員スタッフ」「TA/RA などの支援員」・「基盤的研究経費」「競争的資金の獲得」の変化について「およそ 10 年前と比較して，上記の事柄は現在どのように変化しましたか」との形で尋ねている。教員スタッフに関しては，増えたとする認識は 6.6%（当該の数値は「かなり増えた」＋「増えた」の有効パーセントを単純に足したものになっている。以下同様）にすぎない一方で，減少したとの回答の比率は 55.5%に達する。一方，TA/RA などの支援員に関しては，増えたとする認識は 34.6%となる一方で，減少したとの回答の比率は 9.6%にとどまる。また，基盤的研究経費が増えたとする回答は 9.7%に過ぎない一方で，減少したとの回答は 49.9%に達する。また，競争的資金の獲得について増えたとの回答は 32.6%で，減少したとの回答は 18.3%となっている。以上からは，教員スタッフや基盤的研究費などのより基盤的な研究条件は明確に悪化し，競争的資金はやや改善，TA/RA などの支援状況は改善していることが分かった。

表 1-1～1-4　諸条件の変化

表１－１　教員スタッフ			表１－２　TA/RAなどの支援員		
	度数	有効パーセント		度数	有効パーセント
かなり増えた	6	.7	かなり増えた	38	4.1
増えた	54	5.9	増えた	280	30.5
大きな変化はない	297	32.2	大きな変化はない	412	44.9
減少した	313	33.9	減少した	69	7.5
かなり減少した	199	21.6	かなり減少した	19	2.1
分からない	53	5.7	分からない	100	10.9
合計	922	100.0	合計	918	100.0
表１－３　基盤的研究経費			表１－４　競争的資金の獲得		
	度数	有効パーセント		度数	有効パーセント
かなり増えた	12	1.3	かなり増えた	55	6.0
増えた	77	8.4	増えた	244	26.6
大きな変化はない	306	33.3	大きな変化はない	372	40.5
減少した	247	26.9	減少した	123	13.4
かなり減少した	211	23.0	かなり減少した	45	4.9
分からない	66	7.2	分からない	80	8.7
合計	919	100.0	合計	919	100.0

4.　大学教員の負担感について

次に，大学教員の負担感についてであるが，こちらについては「教育負担」「競争的資金獲得申請に関する負担」「競争的資金管理に関する負担」「社会貢献・社会サービス負担」「学内業務負担」「評価活動等負担」について 10 年間の変化について尋ねている。まず，教育負担については 71.1%が増えたとの理解をしている。また，研究関係に関しては，競争的資金の獲得申請に関わる負担，競争的資金獲得後の管理業務に関する負担について，それぞれ 59.3%，47.9%が増加，社会貢献・社会サービス負担についても 64.6%が増加したと認知している。また学内業務と評価活動等への対応について 82.7%・78.1%が増えたとの認識を示している。全体的に，負担が減少したとの回答は少なく，負担感が高まっていることが明らかになる。中でも学内・評価業務と教育負担増が大きい結果となっている。

表 2-1～2-6　負担感の変化

表２－１　教育負担			表２－２　競争的資金の獲得申請に関わる負担		
	度数	有効パーセント		度数	有効パーセント
かなり増えた	298	32.4	かなり増えた	168	18.3
増えた	356	38.7	増えた	377	41.0
大きな変化はない	198	21.5	大きな変化はない	277	30.1
減少した	16	1.7	減少した	20	2.2
かなり減少した	6	.7	かなり減少した	3	.3
分からない	46	5.0	分からない	74	8.1
合計	920	100.0	合計	919	100.0
表２－３　競争的資金獲得後の管理等の業務			表２－４　社会貢献・社会サービス負担		
	度数	有効パーセント		度数	有効パーセント
かなり増えた	117	12.7	かなり増えた	149	16.3
増えた	323	35.2	増えた	441	48.3
大きな変化はない	363	39.5	大きな変化はない	247	27.1
減少した	23	2.5	減少した	10	1.1
かなり減少した	4	.4	かなり減少した	4	.4
分からない	88	9.6	分からない	62	6.8
合計	918	100.0	合計	913	100.0
表２－５　学内業務負担			表２－６　評価活動等への対応に関わる負担		
	度数	有効パーセント		度数	有効パーセント
かなり増えた	412	44.9	かなり増えた	285	31.0
増えた	346	37.7	増えた	433	47.1
大きな変化はない	86	9.4	大きな変化はない	135	14.7
減少した	16	1.7	減少した	7	.8
かなり減少した	12	1.3	かなり減少した	5	.5
分からない	45	4.9	分からない	54	5.9
合計	917	100.0	合計	919	100.0

次に以上の動向を設置主体別に見ていく（表は省略)。その際にカイ二乗検定に注目する。競争的資金の獲得申請，競争的資金獲得後の管理業務，社会貢献・社会サービス，評価活動等への対応に関わる負担に関しては，カイ二乗検定（5%水準）で有意であり，国公立大学でその負担増についての認識が高いことが明らかになった。逆に，教育負担と学内業務負担については有意ではなく，教育負担に関しては，単純な「かなり増えた」「増えた」の比率から言えば，むしろ私立大学で高くなっていることが分かる。

さらに，国立大学に限って「研究大学」と「一般大学」別に以上の動向を見ていくと（表は省略)，教育負担，社会貢献・社会サービス負担，学内業務負担が増えたという回答は一般大学で多く，有意（5%水準）となっている。一方で，競争的資金の獲得，獲得後の管理，評価活動に関わる負担については，研究大学と一般大学の間に有意な差が見られなかった（5%水準)。

5. 研究業績の量と質の変化

次に，研究業績の量と質については，「おおよそ 10 年前と比較して，あなたの現在の研究業績の数・質は大まかにどのように変化しましたか」との形で尋ねている。ここから明らかになることは，これまでの諸条件・負担感についての回答動向から推測される動向とは必ずしも軌を一にしないものになっているということである。すなわち，以上にみられる基盤的研究条件の悪化や各種の負担感の増加にもかかわらず，研究業績の量・質ともに必ずしも明確な減少・低下傾向を示していないのである。たとえば，業績の量については増加が 33.5%･減少が 31.5%, 業績の質について上昇が 27.0%･低下が 24.1%となっている。一方で，ほとんど変わらないという回答がかなりの割合で存在する（業績の量（31.4%）・業績の質（43.7%））ことが分かった。

表 3-1～3-2　研究業績の変化

表３－１　業績の量		
	度数	有効パーセント
どちらかと言えば、増加・上昇した	312	33.5
ほとんど変わらない	293	31.4
どちらかと言えば、減少・低下した	294	31.5
分からない	33	3.5
合計	932	100.0
表３－２　業績の質（1業績当たり）		
	度数	有効
どちらかと言えば、増加・上昇した	252	27.0
ほとんど変わらない	407	43.7
どちらかと言えば、減少・低下した	225	24.1
分からない	48	5.2
合計	932	100.0

それでは以上の回答傾向に設置主体による違いはあるのだろうか。この点については研究業績の量・質ともにカイ二乗値に基づけば統計的に有意な差はない（5%水準）という結果になっている（表は省略)。また国立大学に限って「研究大学」と「一般大学」別に以上の動向を見てみると，研究業績の量・質ともにカイ二乗値に基づいて統計的に有意な差は確認できなかった（5%水準）（表は省略)。

ここで，具体的な認識構造の分析に入る前に以上の分析結果の興味深い点を整理する。教育・研究を巡る環境（ヒト・カネ）について，その条件が悪化しているとの認識があり，教育，研究，社会貢献・社会サービス，学内業務や評価に対応するための負担が増えているにもかかわらず，研究業績の量も質も減少・悪化したという回答がマジョリティーにあるわけではない。主観的なデータであるがゆえの自己の正当化（自身の研究の量も質も落

ちていると回答することの忌避）といった要素が含まれている可能性は否定できないが，このデータを単純に読めば，諸条件の悪化，負担増にもかかわらず，個々の努力によって研究業績の量・質ともに上昇・維持させているグループが全体のおよそ 3 分の 2 を占めると言った状況にあるのである。

6. 研究業績の量と質とそれを巡る諸条件・負担感についての認識構造

以下では，まず諸条件間の関係をまず基礎的に相関係数（表 4）に基づいてみていくこととする。なお，その際には「分からない」との回答は欠損値扱いとして分析から排除した。相関係数が最も高いのは基盤的研究経費と教員スタッフであり，ついで基盤的研究経費と競争的資金の獲得となっている。前者は基盤的な研究経費が削減される中で，教員スタッフの不補充などの減少が起きている（と認識されている）こと，後者は基盤的な研究経費が減少しているほど競争的資金の獲得も伸び悩んでいると認識されていることを表している。また総合的に言えば，教員スタッフ，TA/RA などの支援員，基盤的研究経費，競争的資金の獲得などの教育･研究活動を巡るヒト･モノについて, 基盤的研究経費と TA/RA などの支援員との間の相関係数が有意でないが, それ以外はすべて正で有意となっている。このことは，（認識上における）好条件・悪条件の集中，条件格差の拡大が起きていることを表している。

表 4 相関係数（諸条件）

		教員スタッフ	TA, RAなどの支援員	基盤的研究経費	競争的資金の獲得
教員スタッフ	Pearsonの相関係数	1	.124**	.343**	.125**
	有意確率 (両側)		.000	.000	.000
	N	869	810	841	827
TA, RAなどの支援員	Pearsonの相関係数	.124**	1	.045	.124**
	有意確率 (両側)	.000		.206	.000
	N	810	818	800	793
基盤的研究経費	Pearsonの相関係数	.343**	.045	1	.322**
	有意確率 (両側)	.000	.206		.000
	N	841	800	853	829
競争的資金の獲得	Pearsonの相関係数	.125**	.124**	.322**	1
	有意確率 (両側)	.000	.000	.000	
	N	827	793	829	839

**. 相関係数は 1% 水準で有意 (両側) です。

一方，負担感についての相互関係（表 5）であるが，もっとも相関係数が大きいのが，競争的資金の獲得申請に関わる負担と競争的資金獲得後の管理等の業務に関する負担である（これは常識的に予想される）が，これに次ぐのが学内業務負担と評価活動等への対応

に関わる負担となっている。また，さらにこれに次ぐのが学内業務負担と教育負担である。また総合的に言えば，教育負担，競争的資金の獲得申請に関わる負担，競争的資金獲得後の管理等の業務に関する負担，社会貢献・社会サービス負担，学内業務負担，評価活動等への対応に関わる負担のいずれも相互に正の有意な相関関係となっている。このことは，（認識上の）負担感の集中，負担感格差の拡大が生じていることを表している。

表 5 相関係数（負担感）

		教育負担	競争的資金の獲得申請に関わる負担	競争的資金獲得後の管理等の業務	社会貢献・社会サービス負担	学内業務負担	評価活動等への対応に関わる負担
教育負担	Pearson の相関係数	1	.154**	.079*	.197**	.369**	.158**
	有意確率 (両側)		.000	.023	.000	.000	.000
	N	874	837	823	843	865	856
競争的資金の獲得申請に関わる負担	Pearson の相関係数	.154**	1	.590**	.196**	.327**	.363**
	有意確率 (両側)	.000		.000	.000	.000	.000
	N	837	845	827	821	836	836
競争的資金獲得後の管理等の業務	Pearson の相関係数	.079*	.590**	1	.238**	.248**	.337**
	有意確率 (両側)	.023	.000		.000	.000	.000
	N	823	827	830	811	822	823
社会貢献・社会サービス負担	Pearson の相関係数	.197**	.196**	.238**	1	.255**	.257**
	有意確率 (両側)	.000	.000	.000		.000	.000
	N	843	821	811	851	844	836
学内業務負担	Pearson の相関係数	.369**	.327**	.248**	.255**	1	.426**
	有意確率 (両側)	.000	.000	.000	.000		.000
	N	865	836	822	844	872	856
評価活動等への対応に関わる負担	Pearson の相関係数	.158**	.363**	.337**	.257**	.426**	1
	有意確率 (両側)	.000	.000	.000	.000	.000	
	N	856	836	823	836	856	865

**. 相関係数は 1% 水準で有意 (両側) です。
*. 相関係数は 5% 水準で有意 (両側) です。

次に，各種の負担感に対して，教員を巡る諸条件がどのように影響をしているのかを回帰分析に基づいてみていく（表 6)。この表からは，基盤的研究費と教員スタッフの減少は教員のあらゆる負担感を悪化させる方向に影響している。また，競争的資金の獲得は教育負担を除き，各種の負担感を増やす方向で影響している。なお，表中の網かけ部分は 5%水準有意でないものを表している。また，R2 乗値はすべてのケースで 5%水準で有意。

表 6 負担感に対する諸条件変化の影響（重回帰分析）

			基盤的研究経費	競争的資金の獲得	教員スタッフ	TA, RAなどの支援員	（定数）	R2 乗 調整済みR2 乗	
教育負担	標準化されていない係数	B	−0.068	−0.030	−0.122	−0.058	4.780	R2 乗	0.042
	標準化係数	ベータ	−0.082	−0.033	−0.133	−0.056		調整済み	0.037
	有意確率		0.037	0.370	0.000	0.120	0.000	有意確率	0.000
競争的資金獲得	標準化されていない係数	B	−0.122	0.236	−0.116	0.073	3.355	R2 乗	0.107
	標準化係数	ベータ	−0.155	0.281	−0.134	0.074		調整済み	0.103
	有意確率		0.000	0.000	0.000	0.033	0.000	有意確率	0.000
競争的資金管理	標準化されていない係数	B	−0.095	0.262	−0.107	0.058	3.061	R2 乗	0.114
	標準化係数	ベータ	−0.123	0.312	−0.127	0.060		調整済み	0.110
	有意確率		0.001	0.000	0.001	0.085	0.000	有意確率	0.000
社会貢献	標準化されていない係数	B	−0.154	0.079	−0.131	0.079	3.983	R2 乗	0.091
	標準化係数	ベータ	−0.208	0.100	−0.162	0.084		調整済み	0.086
	有意確率		0.000	0.006	0.000	0.016	0.000	有意確率	0.000
学内業務	標準化されていない係数	B	−0.124	0.097	−0.112	0.009	4.503	R2 乗	0.050
	標準化係数	ベータ	−0.151	0.111	−0.125	0.008		調整済み	0.045
	有意確率		0.000	0.003	0.001	0.815	0.000	有意確率	0.000
評価活動等	標準化されていない係数	B	−0.122	0.236	−0.116	0.073	3.355	R2 乗	0.107
	標準化係数	ベータ	−0.155	0.281	−0.134	0.074		調整済み	0.103
	有意確率		0.000	0.000	0.000	0.033	0.000	有意確率	0.000

次に，業績の量と業績の質についての相関関係と同時に以上の諸条件，負担感との関係を合わせて見ていく（表 7)。研究業績の量について，教員スタッフ，基盤的研究費，競争的資金の獲得，TA/RA がすべて正で有意な関係を持っている。すなわち，これらの研究条件が低下（上昇）するほど，研究業績の量が減る（増える）と認識されている。加えて，負担感については，競争的資金の獲得申請に関わる負担，競争的資金獲得後の管理等の業務に関する負担が増えていると認識しているものは，業績の量も増えているとの認識を示している（ただし，これは因果が逆転していると考えるべきであろう)。また，研究業績の質については，TA/RA 以外の，教員スタッフ，基盤的研究費，競争的資金の獲得がすべて研究業績の質と，正の有意な関係を持っている。すなわち，これらの研究条件が低下（上昇）するほど，研究業績の質が低下（上昇）すると認識されている。なお，最後に研究業績の量と質の間には極めて高い相関があることが見て取れる。なお，濃い網かけ部分は正で有意なものを，薄い網かけ部分は負で有意なものとなっている。

表 7 相関係数（諸条件・負担感・研究業績）

		基盤的研究経費	競争的資金の獲得	教員スタッフ	TA，RAなどの支援員	教育負担	競争的資金の獲得申請に関わる負担	競争的資金獲得後の管理等の業務	社会貢献・社会サービス負担	学内業務負担	評価活動等への対応に関わる負担	業績の量	業績の質（1業績当たり）
業績の量	Pearson の相関係数	.155	.317	.108	.080	−.060	.119	.135	−.014	.007	.005	1	.512
	有意確率（両側）	.000	.000	.001	.023	.076	.001	.000	.686	.845	.882		.000
	N	848	835	859	811	864	838	823	843	864	859	899	884
業績の質（1業績当たり）	Pearson の相関係数	.192	.222	.160	.060	−.074	.055	.017	−.068	−.093	−.099	.512	1
	有意確率（両側）	.000	.000	.000	.090	.031	.116	.620	.051	.007	.004	.000	
	N	833	821	846	799	849	824	810	829	849	844	884	884

最後に，以上に見てきた諸条件・負担感の変化が研究業績の変化にどのような影響を与えているのかについてロジスティック回帰分析を用いて分析を行った結果を見ていく。具体的には，研究業績の量・質がそれぞれ増加・上昇したと回答したものを 1 とする二項ロジスティック回帰分析に基づいて確認する。なお分析には諸条件・負担感の他に教員の所属大学の設置主体，大学タイプ，職階，年齢，性別，分野，任期の有無などの変数を含めている（表 8：研究業績の量・表 9：研究業績の質）。①競争的資金の獲得が増加したものは研究業績の量・質ともに高まっている（と認識している）。②40 代，50 代，60 代の年齢層は，研究業績の質は落ちていないが，30 代と比較して量は相対的に減少している（と認識している）。③研究業績の量の増減については，研究大学と非研究大学の間で差がないが，研究業績の質については非研究大学で質の相対的な低下傾向がみられる。④その他の諸条件や負担感については，研究業績の量や質には影響を及ぼしていない（と認識されている）。

以上の結果のみからは，競争的資金の重要性が確認される一方で，基盤的研究費や教員スタッフの減少が，研究業績の量や質に影響を及ぼしていないという，極めて驚くべき結果となる。すなわち，競争的資金を増やしておけば，基盤的研究費や教員スタッフを減らしても問題ないということになる。果たして本当にそうなのか？結論は否である。

研究業績の量・質と諸条件に関する相関分析からも，基盤的研究費や教員スタッフは，これらと正の相関関係にあり，同時に競争的資金の獲得とも正の相関関係があることがわかっている。そこで，最初に競争資金の獲得を上記のロジスティック回帰分析から除くと，基盤的研究経費が研究業績の量・質に有意な影響を与えることになり，さらに基盤的研究経費を分析から除くと，教員スタッフが研究業績の量・質に有意な影響を与えることとなる（質については 10%水準）（ロジスティック回帰表は省略）。以上のことから研究業績の量と質は，競争的資金に留まらず，基盤的研究経費や教員スタッフに影響を受けており，研究業績の量・質の全体的な拡大には，競争的資金の拡充だけではなく，基盤的研究経費や教員スタッフの充実が必要になっていることが分かる。その一方で，「負担感」については，一貫して有意とはなっておらず（諸条件の変数をすべて分析から除いた場合も同じ），負担感の増減は研究業績の量と質には直接的な影響を与えていない，そこには，すなわちどれだけ負担「感」が高まっても，「研究業績の質と量」は維持しようとする教員の姿が，

浮き上がってくる。その一方で,「従来の負担が極めて小さく，相対的な負担が高まったとしても研究業績の質にも量にも影響を与えない」という状況も想定される。しかしながら，10 年前の状況が仮に負担の小さな余裕のある状況であったとしても，現在の教育，社会貢献・社会サービス，学内業務負担等が軽いとは決して言えないのではないだろうか。そうしたことを加味すると，相対的には前者の解釈が実態に近いのではないかとここでは考える。

表 8 ロジスティック回帰（研究業績の量）

	B	標準誤差	Wald	自由度	有意確率	Exp(B)
教育負担	-.004	.112	.001	1	.973	.996
社会貢献・サービス負担	.004	.130	.001	1	.975	1.004
学内業務負担	-.031	.126	.059	1	.807	.970
評価活動負担	.165	.135	1.508	1	.219	1.180
基盤的研究経費	.095	.096	.980	1	.322	1.100
競争的資金の獲得	.657	.109	36.538	1	.000	1.929
教員スタッフ	.134	.105	1.619	1	.203	1.144
TA/RAなどの支援員	.068	.116	.343	1	.558	1.070
理系ダミー	.009	.218	.002	1	.966	1.009
学際他ダミー	.108	.279	.150	1	.698	1.114
教授ダミー	1.004	.777	1.672	1	.196	2.729
准教授ダミー	.627	.749	.701	1	.402	1.872
博士学位ダミー	.024	.169	.020	1	.889	1.024
修士学位ダミー	-.096	.153	.391	1	.532	.909
男性ダミー	.270	.299	.815	1	.367	1.310
40歳代ダミー	-.990	.356	7.751	1	.005	.372
50歳代ダミー	-1.378	.397	12.035	1	.001	.252
60歳代ダミー	-1.549	.434	12.730	1	.000	.213
研究大学ダミー	-.040	.192	.043	1	.837	.961
国立ダミー	.240	.239	1.007	1	.316	1.272
公立ダミー	.530	.326	2.644	1	.104	1.700
任期制ダミー	.366	.407	.809	1	.369	1.442
定数	-4.031	1.183	11.605	1	.001	.018
サンプル数	722					
-2 対数尤度	853.282					
Cox-Snell R2 乗	.110					
Nagelkerke R2 乗	.152					

表 9 ロジスティック回帰（研究業績の質）

	B	標準誤差	Wald	自由度	有意確率	Exp(B)
教育負担	-.053	.118	.197	1	.657	.949
社会貢献・サービス負担	.242	.139	3.036	1	.081	1.274
学内業務負担	-.138	.129	1.155	1	.282	.871
評価活動負担	-.131	.139	.882	1	.348	.877
基盤的研究経費	.107	.101	1.125	1	.289	1.113
競争的資金の獲得	.423	.112	14.312	1	.000	1.527
教員スタッフ	.139	.110	1.578	1	.209	1.149
TA/RAなどの支援員	-.074	.123	.356	1	.551	.929
理系ダミー	.350	.236	2.211	1	.137	1.419
学際他ダミー	.364	.297	1.496	1	.221	1.439
教授ダミー	.611	.818	.558	1	.455	1.842
准教授ダミー	.199	.794	.063	1	.802	1.220
博士学位ダミー	-.278	.174	2.550	1	.110	.757
修士学位ダミー	.175	.157	1.245	1	.265	1.192
男性ダミー	-.134	.337	.157	1	.692	.875
40歳代ダミー	-.299	.377	.629	1	.428	.742
50歳代ダミー	-.698	.422	2.736	1	.098	.498
60歳代ダミー	-.405	.452	.803	1	.370	.667
研究大学ダミー	.408	.200	4.170	1	.041	1.504
国立ダミー	.039	.248	.025	1	.875	1.040
公立ダミー	-.084	.357	.055	1	.814	.920
任期制ダミー	.129	.410	.100	1	.752	1.138
定数	-2.545	1.247	4.165	1	.041	.078
サンプル数	711					
-2 対数尤度	781.893					
Cox-Snell R2 乗	.065					
Nagelkerke R2 乗	.094					

7. 知見と含意

まず，以上の知見を整理する。①TA/RA や競争的資金の獲得などについては，条件が向上しているが，教員スタッフや基盤的研究経費などの教員を巡る基盤的諸条件は悪化している。②教員の教育，研究，社会貢献・社会サービス，学内業務に関わるそれぞれの負担感はいずれも大きく増加している。③教員の研究業績に関して，量・質とも明確な減少・低下傾向は見られない。④教員を巡る諸条件，各種の負担感は正の相関をもち，好条件（悪条件）の集中化や，負担感格差が高まっている。⑤教員の負担感には基盤的諸条件の悪化が影響している。⑥研究業績の質について，30 代と比較して，40 代，50 代，60 代の教員の研究業績の質は低下していないが，量は減少している。⑦研究業績の質については，非研究大学で低下する傾向が強い。⑧教員の研究業績には競争的資金の獲得が強く影響している一方で，基盤的研究経費や教員スタッフ数も関係している。⑨しかし，負担感は研究業績の量・質に影響していない。

知識基盤社会において研究活動（＝科学生産性）を高めること，そして大学・大学院改革を進めることは，極めて高い社会的プライオリティーが与えられるべきことであろう。そして，そのための多くの高等教育施策がなされていることは，自明である。しかし，それらの活動・改革の担い手である大学教員（今回の分析では対象となっていないが大学職員)そのものには,これまで政策的な配慮が十分払われてこなかったのではないだろうか。

大学教員の負担感の増加がこれまでは心理的な負担のみに留まっているが，これが実質的な研究活動にいつまでも影響を及ぼさないとは言い切れない。すなわち，一定の閾値に負担感が達した時，研究活動へのアスピレーションが断ち切られる可能性は常に存在しているのである（ただし，以上は「検証された」ことではない)。いずれにせよ，大学・大学院改革の基盤をなす大学教員（そして職員）が，その力を十分に発揮しうる環境整備（諸条件，負担感への配慮等）が，今こそ求められているのではないだろうか。

８．本研究の限界と今後の課題

本分析で用いたデータは,国立大学にサンプルが偏っている。これらのことを踏まえて，設置主体や専門分野別の分析もしくは HLM 分析などにより，以上に得られた結果のより詳細な検証が今後の課題となる。

【参考文献】

有本章編　2008『変貌する日本の大学教授職』玉川大学出版部

有本章編　2011『変貌する世界の大学教授職』玉川大学出版部

阿曽沼明裕 2008「大学ファンディング」有本章編『変貌する日本の大学教授職』玉川大学出版部, 81-110

大膳司　2008「研究生産性」有本章編『変貌する日本の大学教授職』玉川大学出版部, 245-262

長谷川祐介 2008「生活時間」有本章編『変貌する日本の大学教授職』玉川大学出版部, 198-221

村澤昌崇　2008「評価」有本章編『変貌する日本の大学教授職』玉川大学出版部, 280-294

南部広孝 2008「労働条件」有本章編『変貌する日本の大学教授職』玉川大学出版部, 183-197

西本裕輝 2008「ストレス」有本章編『変貌する日本の大学教授職』玉川大学出版部, 235-242

資料編

『大学院教育の現状と課題に関する教員調査』資料

1. 資料 1 アンケート調査票

2. 資料 2 データ集計結果

大学院教育の現状と課題に関する教員調査

－協力のお願い－

●この調査は、大学院教育を担当されている先生方から、大学院の授業や院生の指導にどのように関わり、どのようなご意見をお持ちかを明らかにし、わが国の大学院教育の改善に資することを目的とするものです。

●いただいた回答は統計的に処理され、先生個人の情報が他の目的で使われることはありません。
●本調査票は**12月28日（水）までに**、同封の返信用封筒（切手不要）にてご返送ください（28日以降も受け付けています）。

●この調査は、広島大学高等教育研究開発センターが『21世紀知識基盤社会における大学・大学院改革の具体的方策に関する研究』（特別教育研究経費：研究代表 山本眞一）を得て行うものです。お問い合わせは以下にお願いします。

〒739-8512　東広島市鏡山１丁目２番２号
広島大学高等教育研究開発センター
limin@hiroshima-u.ac.jp　**李敏（℡:082-424-4392）**

まず、学部・大学院での授業についてお聞きします。

問 1. 現在どの段階の教育を担当されていますか。該当する番号に○を付けて下さい。（○は一つ）

１．学部教育のみ	２．学部教育と大学院教育	３．大学院教育のみ

問 2. ご専門は、以下のどれに分類されますか。該当する番号に○を付けて下さい。（○は一つ）

1	文学
2	言語学
3	史学
4	人文地理学
5	法学・政治学
6	経済学・経営学
7	社会学
8	心理学
9	教育学

10	数学
11	物理・天文学
12	化学
13	生物学
14	地学
15	工学
16	農学

17	医学
18	歯学
19	薬学
20	看護学

21	健康・スポーツ科学
22	生活科学
23	芸術学
24	情報学
25	その他（　　）

問 3. 本年度、何コマの授業(一回 90 分で 15 回)を担当されていますか。
( )に記入して下さい。講義、実験・実習を含みます。

a. 学士課程	b. 修士課程（博士前期課程）	b. 博士後期課程
（ ）コマ	（ ）コマ	（ ）コマ

問 4. あなた自身のご関心は、主として学部教育、あるいは大学院教育のどちらにありますか。該当する番号に○を付けて下さい。(○は一つ)

1. 主として学部教育	2. どちらかと言えば、学部教育	3. 両方ある	4. どちらかと言えば、大学院教育	5. 主として大学院教育

あなたが担当されている修士課程（博士前期課程）の授業で最も専門に近い講義科目についてお聞きします。

問 5. その授業には、毎年、何人くらいの院生が受講していますか。該当する番号に○を付けて下さい。(○は一つ)

1	0 人	2	1～5 人	3.	6～10 人	4.	11～30 人	5.	31 人以上

問 6. その授業に出席している院生の学力や学習意欲は、どの程度だと思われますか。(○は一つずつ)

(a～b それぞれに○は 1 つずつ)	極めて高い	高い	ふつう	やや低い	かなり低い
a. 専門分野の基礎的理解	1	2	3	4	5
b. 学習意欲	1	2	3	4	5

問 7. その授業で以下のような点を重視されていますか。a～j のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください(○は1つ)。

(a～j それぞれに○は 1 つずつ)	とても重視している	ある程度重視	あまり重視していない	全く重視していない
a. 最先端の研究成果にふれる	1	2	3	4
b. 研究科の人材養成の目的にそう	1	2	3	4
c. 専門分野の基礎的知識を教える	1	2	3	4
d. 学問の意義を教える	1	2	3	4
e. 職業汎用的な知識や技能を教える	1	2	3	4
f. 抽象的な思考能力を鍛える	1	2	3	4
g. 語学力（英語）	1	2	3	4
h. 論理的な文章を書く能力	1	2	3	4
i. ものごとを分析的・批判的に考える力	1	2	3	4
j. 対人関係能力	1	2	3	4

研究室の教育についてお聞きします。

問 8. 現在、あなたの研究室に所属する院生と学部学生は何人ですか。

	合計	内、他大学出身	内、社会人	内、留学生
a. 修士（博士前期）課程	人	人	人	人
b. 博士後期課程	人	人	人	人
c. 学部学生	人			人

問 9. あなたのご関心は、主として研究者養成、あるいは職業人養成のどちらにありますか。該当する番号に○を付けて下さい。（○は1つ）

1	主として研究者養成	2	どちらかと言えば、研究者養成	3	両方ある	4	どちらかと言えば、職業人養成	5	主として職業人養成

問 10-1. あなたは、修士課程(博士前期課程)の院生についてどのようにお考えですか。A と B の近い方に○をつけてください。（a～h それぞれに○は 1 つずつ）

A	←Aに近い←		→Bに近い→		B
a. 院生は教育の対象である	1	2	3	4	院生といえども自立した研究者である
b. 院生の個人研究を重視している	1	2	3	4	研究室の共同研究を重視している
c. 早い段階で研究業績を積ませたい	1	2	3	4	じっくり基礎を学ばせたい
d. 研究テーマは院生が決めるものである	1	2	3	4	研究テーマは教員が決めるものである
e. 社会に関係なく研究を深めさせたい	1	2	3	4	研究を通じて社会に貢献させたい
f. スペシャリストとして養成したい	1	2	3	4	ジェネラリストとして養成したい
g. 研究室の決定は、コースワークが終わってからでも遅くない	1	2	3	4	研究室の決定は入学時でよい
h. 院生の講義科目の選択に関与したい	1	2	3	4	講義科目の選択は院生に任せたい

問 10-2. あなたは、博士課程の院生についてどのようにお考えですか。A と B の近い方に○をつけてください。（a～f それぞれに○は 1 つずつ）博士課程を担当されていない先生は、問11へ進んで下さい。

A	←Aに近い←		→Bに近い→		B
a. 院生は教育の対象である	1	2	3	4	院生といえども自立した研究者である
b. 院生の個人研究を重視している	1	2	3	4	研究室の共同研究を重視している
c. 早い段階で研究業績を積ませたい	1	2	3	4	じっくり基礎を学ばせたい
d. 研究テーマは院生が決めるものである	1	2	3	4	研究テーマは教員が決めるものである
e. 社会に関係なく研究を深めさせたい	1	2	3	4	研究を通じて社会に貢献させたい
f. スペシャリストとして養成したい	1	2	3	4	ジェネラリストとして養成したい

問 11. あなたは、院生にどのような能力を期待していますか。修士課程（博士前期）、博士後期課程 a～l それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください（○は一つずつ）。

（修士課程、博士後期課程のそれぞれに○は１つずつ）	修士課程（博士前期課程）				博士後期課程			
	とても期待する	期待する	あまり期待しない	全く期待しない	とても期待する	期待する	あまり期待しない	全く期待しない
a. 研究室の専門的な知識や応用力	1	2	3	4	1	2	3	4
b. 専攻レベルの基礎的な知識や能力	1	2	3	4	1	2	3	4
c. 英語を読む	1	2	3	4	1	2	3	4
d. 英語で話す	1	2	3	4	1	2	3	4
e. 英語で書く	1	2	3	4	1	2	3	4
f. 職業的汎用能力	1	2	3	4	1	2	3	4
g. プレゼン・アピール能力	1	2	3	4	1	2	3	4
h. 抽象的な思考力	1	2	3	4	1	2	3	4
i. ものごとを分析的･批判的に考える力	1	2	3	4	1	2	3	4
j. わかりやすく話す能力	1	2	3	4	1	2	3	4
k. 対人関係能力・リーダーシップ	1	2	3	4	1	2	3	4
l. 社会・政治・経済に関する教養的知識	1	2	3	4	1	2	3	4

問 12. あなたは、院生の能力形成にあたって、以下の事柄はどの程度有効だとお考えですか。a～f それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください（○は一つずつ）

（a～f. それぞれに○は１つずつ）	とても有効である	有効である	あまり有効でない	全く有効でない	わからない
a. コースワークによる専攻横断的な教育	1	2	3	4	5
b. 研究室教育によって教員や院生間の関係を強化する	1	2	3	4	5
c. 複数教員による指導	1	2	3	4	5
d. ＴＡやＲＡの経験	1	2	3	4	5
e. 留学経験	1	2	3	4	5
f. 企業や研究所、地域社会と連携した教育プログラムへの参加	1	2	3	4	5

問 13. あなたは、研究室教育を行っていく上で、次の事柄はどの程度制約になっているとお考えですか。a～k それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。（○は一つずつ）

（a～k. それぞれに○は１つずつ）	極めて大きな制約となっている	大きな制約となっている	ある程度は制約となっている	制約となっていない
a. 担当する授業科目数	1	2	3	4
b. 指導する大学院生数	1	2	3	4
c. 優秀な院生が来なくなっている	1	2	3	4
d. 外国人留学生に対するサポート体制の不足	1	2	3	4
e. 実験施設・設備の老朽化・スペースの不足	1	2	3	4
f. 教育研究費の不足	1	2	3	4
g. 院生の経済的問題やアルバイト	1	2	3	4
h. 院生の就職活動の長期化	1	2	3	4
i. 院生の資格取得志向	1	2	3	4
j. 院生の精神的未熟さやメンタルヘルス	1	2	3	4
k. 大学院の組織改革・カリキュラム改革	1	2	3	4

院生の進学と進路についてお聞きします。

問 14. あなたは、大学院に進学してほしい学部生や博士課程に進学してほしいと思われる修士課程の院生が進学を選択しない要因として、下記の事柄をどのようにお考えですか。(○は一つずつ)

(学部生、修士課程院生それぞれに○は 1 つずつ)	学部生			修士課程院生		
	とても当てはまる	やや当てはまる	当てはまらない	とても当てはまる	やや当てはまる	当てはまらない
a. 学部卒(修士卒)で就職するのが当然と思われている	1	2	3	1	2	3
b. 課程修了後のキャリアパスが見えない	1	2	3	1	2	3
c. 授業料や入学金の高さ	1	2	3	1	2	3
d. カリキュラムが職業人養成に対応していない	1	2	3	1	2	3
e. 奨学金など経済支援の不十分さ	1	2	3	1	2	3
f. 大学院卒の学歴に経済的にメリットがない	1	2	3	1	2	3
g. 研究職に魅力を感じていない	1	2	3	1	2	3
h. 学生の科学技術や学問に対する知的好奇心・関心の低さ	1	2	3	1	2	3
i. 特別研究員の採択枠が少ない				1	2	3
j. 課程博士を取得することが厳しい				1	2	3

問 15. あなたは、学部学生や修士課程院生に対して修士課程や博士後期課程への進学を勧められることがありますか。

(a～b それぞれに○は 1 つずつ)	強く勧めている	勧めている	あまり勧めない	全く勧めない
a. 学部学生	1	2	3	4
b. 修士課程院生	1	2	3	4

問 16. あなたが指導された院生は、過去3年にどのような進路に進まれましたか。a.修士課程、b.博士後期課程それぞれに人数を記入して下さい。

(a～m それぞれに○は 1 つずつ)	a. 修士課程修了	b. 博士後期修了
a. 同じ研究科の博士課程後期に進学した	( ) 人	
b. 別の研究科の博士課程後期に進学した(海外も含む)	( ) 人	
c. 別の研究科の修士課程 (博士前期) に進学した	( ) 人	
d. 民間企業に正社員として就職した	( ) 人	( ) 人
e. 大学教員になった		( ) 人
f. 特別研究員(DC,PD)になった		( ) 人
g. 非常勤講師になった	( ) 人	( ) 人
h. 研究生になった	( ) 人	( ) 人
i. 小中高の教員、医師、弁護士などの専門職についた	( ) 人	( ) 人
j. 官公庁の職に就いた	( ) 人	( ) 人
k. 自営など上記以外の形で就職した	( ) 人	( ) 人
l. 元の職場に復帰した (転職も含む)	( ) 人	( ) 人
m. その他 (具体的に :)	( ) 人	( ) 人

あなたと所属する研究科についてお聞きします。

問 17. 学期中の平均的な1週間の仕事時間を全体が 10 割になるように記入して下さい。

教育活動	研究活動	社会サービス	管理運営
割	割	割	割

問 18. おおよそ 10 年前と比較して、下記の事柄は現在どのように変化しましたか。a～j それぞれについて、あてはまる番号に○をつけて下さい。

（a～j に○は 1 つずつ）	かなり増えた	増えた	大きな変化はない	減少した	かなり減少した	分からない
a. 教育負担	1	2	3	4	5	6
b. TA、RA などの支援員	1	2	3	4	5	6
c. 社会貢献・社会サービス負担	1	2	3	4	5	6
d. 学内業務負担	1	2	3	4	5	6
e. 基盤的研究経費	1	2	3	4	5	6
f. 競争的資金の獲得	1	2	3	4	5	6
g. 競争的資金の獲得申請に関わる負担	1	2	3	4	5	6
h. 競争的資金獲得後の管理等の業務	1	2	3	4	5	6
i. 評価活動等への対応に関わる負担	1	2	3	4	5	6
j. 教員スタッフ	1	2	3	4	5	6

問 19.　おおよそ 10 年前と比較して、あなたの現在の研究業績の数・質は大まかにどのように変化しましたか。a,b それぞれに○を付けて下さい。

（a, b に○は 1 つずつ）	どちらかと言えば、増加・上昇した	ほとんど変わらない	どちらかと言えば、減少・低下した	分からない
a. 業績の量	1	2	3	4
b. 業績の質（１業績当たり）	1	2	3	4

問 20. 所属する研究科では、現在、大学院教育の改善に関わる以下のことを実施されていますか。また、それは有効・必要と思われますか。（○は一つずつ）

（「実施状況」と「有効・必要性」のそれぞれに○は一つずつ）	実施状況			有効・必要性		
	実施していない	実施している	分からない	非常に有効・必要だ	ある程度有効・必要	有効・必要ではない
a. 大学院教育の実質化に関わる FD 活動	1	2	3	1	2	3
b. 成績評価基準をシラバスに明示する	1	2	3	1	2	3
c. 体系的・統一的な教育プログラムをつくる	1	2	3	1	2	3
d. 院生による授業評価	1	2	3	1	2	3
e. 複数教員による論文指導	1	2	3	1	2	3
f. 教員間で授業の情報交換を行う	1	2	3	1	2	3
g. 企業等と連携した教育プログラムの提供	1	2	3	1	2	3
h. 研究科の目的に沿った教育内容・方法の見直し・編成	1	2	3	1	2	3
i. 社会人学生が学ぶための配慮（夜間開講、サテライト、一年コースなど）	1	2	3	1	2	3

問 21. 所属する研究科について以下の事柄をどのように評価されますか。また将来において重要な課題だと思いますか。a～ｍのそれぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。（○は一つずつ）

（「現在の評価」、「将来のあり方」それぞれに○は１つずつ）	現在の評価				将来のあり方			
	かなり努力している	努力している	あまり努力していない	全く努力していない	全く重要課題ではない	あまり重要課題ではない	ある程度重要課題	きわめて重要課題
a. 研究者の養成	1	2	3	4	1	2	3	4
b. 専門職業人の養成	1	2	3	4	1	2	3	4
c. 院生の定員充足	1	2	3	4	1	2	3	4
d. 留学生の受け入れ	1	2	3	4	1	2	3	4
e. 社会人の受け入れ	1	2	3	4	1	2	3	4
f. 院生に対する経済的支援	1	2	3	4	1	2	3	4
g. 院生に対する就職支援	1	2	3	4	1	2	3	4
h. ＴＡ・ＲＡの人数	1	2	3	4	1	2	3	4
i. 女性の院生への支援	1	2	3	4	1	2	3	4
j. 研究の高度化	1	2	3	4	1	2	3	4
k. 地域社会や企業への情報提供	1	2	3	4	1	2	3	4
l. 国際化	1	2	3	4	1	2	3	4
m. 外部資金の獲得	1	2	3	4	1	2	3	4

問 22. あなたは、研究科で担当する授業、および指導学生の規模・人数について、どの程度が望ましいとお考えですか？

	授業の規模	指導学生数
a. 修士・博士課程前期	人	人
b. 博士・博士課程後期	人	人

問 23. あなたは、将来の大学院教育のあり方について、次のような意見をどのように思われますか。a～n のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。（○は一つずつ）

（a.～n.それぞれに○は１つずつ）	強くそう思う	そう思う	あまり思わない	全く思わない
a. 専攻横断的なコースワークをもっと充実すべき	1	2	3	4
b. 修士課程修了者の内、博士課程進学者について授業を通じて獲得された基礎的な能力の資格審査を行うべき	1	2	3	4
c. 修士課程修了単位（30 単位）を少なくすべき	1	2	3	4
d. 職業的汎用能力を育成すべき	1	2	3	4
e. 修士課程は、職業人養成に徹すべき	1	2	3	4
f. 学生の進学需要に応じた入学定員を設定すべき	1	2	3	4
g. 大学院教育の情報を企業や地域社会に公開すべき	1	2	3	4
h. 特別研究員の採用枠をもっと拡大すべき	1	2	3	4
i. 大学院生への経済的支援は競争的であるべき	1	2	3	4
j. 大学院は、制度全体を見直すべき	1	2	3	4
k. 教員の補充がないまま負担をこれ以上増やすべきではない。	1	2	3	4
l. 大学院に対する政府の支援は、特定大学・分野に偏りすぎる	1	2	3	4
m. 制度改革より研究科や専攻の裁量で対応すべき	1	2	3	4
n. 多様化する院生の要求に対応できる能力をもった大学教員を養成すべき	1	2	3	4

問 24. 勤務大学の設置者と所属する専攻の入学定員について、あてはまる番号に○を付けて下さい。

設置者	１．国立	２．公立	３．私立

専攻の入学定員

1. 5 人以下	2. 6～10 人	3. 11～20 人	4. 21～30 人	5. 31～40 人
6. 41～50 人	7. 51～60 人	8. 61～70 人	9. 71～80 人	10. 80 人以上

差し支えなければ、現在勤務されている大学名をご記入下さい。
（個別の大学の名前を付して集計することはありません。）

大学

問 25. 性別、年齢、国籍、職階、学位、任期について、あてはまる番号に○を付けて下さい。

性別	1. 女性	2. 男性		
年齢	1. 20・30 歳代	2. 40 歳代	3. 50 歳代	4. 60 代以上
国籍	1. 日本	2. 外国籍		
職階	1. 教授	2. 准教授	3. 講師	
学位	1. 博士(Ph.D.)	2. 修士	3. 学士	
任期	1. 終身	2. 任期付き		

問 26. 現在の勤務大学に就いた年齢、大学以外での職務経験、留学経験についてあてはまる番号に○付けて下さい。(ぞれぞれ○は一つ)

現在の勤務大学に就いた年齢	1. 20・30 歳代	2. 40 歳代	3. 50 歳代	4. 60 歳代以上		
大学以外での職務経験	1. なし	2. 官公庁	3. 民間企業	4 研究所	5. 教員・専門職	6. その他
留学経験	1. ある	2. ない				

以上で質問は、終わりです。ご協力ありがとうございました。

大学院教育のあり方や政策について、ご意見などありましたら自由に記入して下さい。

同封の返信用封筒（切手不要）にてご返送ください

『大学院教育の現状と課題に関する教員調査』資料2 集計結果

調査概要

大学分類

	度数	有効%
研究大学	382	36.9
一般大学	654	63.1
合計	1036	100.0

国公私

	度数	有効%
国立	661	63.8
公立	110	10.6
私立	265	25.6
合計	1036	100.0

専門

	度数	有効%
文学	34	3.32
言語学	21	2.05
史学	22	2.15
人文地理学	5	.49
法学・政治学	41	4.00
経済学・経営	80	7.80
社会学	22	2.15
心理学	40	3.90
教育学	71	6.93
数学	32	3.12
物理・天文学	45	4.39
化学	91	8.88
生物学	55	5.37
地学	18	1.76
工学	220	21.46
農学	61	5.95
医学	15	1.46
薬学	1	.10
看護学	12	1.17
健康・スポー	26	2.54
生活科学	14	1.37
芸術学	17	1.66
情報学	34	3.32
その他	42	4.10
合計	1025	100.00

専門分野

	度数	有効%
文系	336	33.9
理系	522	52.7
学際他	133	13.4
合計	991	100.0

性別

	度数	有効%
女性	120	11.8
男性	900	88.2
合計	1020	100.0

年齢

	度数	有効%
20 ・30歳代	114	11.1
40歳代	333	32.5
50歳代	351	34.2
60代以上	227	22.1
合計	1025	100.0

国籍

	度数	有効%
日本	1010	99.2
外国籍	8	.8
合計	1018	100.0

職階

	度数	有効%
教授	632	62.0
准教授	367	36.0
講師	20	2.0
合計	1019	100.0

学位

	度数	有効%
博士（Ph.D)	841	82.7
修士	159	15.6
学士	17	1.7
合計	1017	100.0

任期

	度数	有効%
終身	955	93.6
任期付き	65	6.4
合計	1020	100.0

問1. 現在どの段階の教育を担当されていますか。

	全体	専門分野			性別		年齢			
		文系	理系	学際他	女性	男性	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上
学部教育のみ	18 1.8%	6 1.8%	12 2.3%	0 .0%	3 2.5%	14 1.6%	7 6.2%	6 1.8%	1 .3%	3 1.3%
学部教育と大学院教育	942 95.7%	315 94.3%	496 95.9%	131 98.5%	115 96.6%	850 95.8%	105 92.9%	318 96.7%	336 97.7%	211 93.8%
大学院教育のみ	24 2.4%	13 3.9%	9 1.7%	2 1.5%	1 .8%	23 2.6%	1 .9%	5 1.5%	7 2.0%	11 4.9%

	職階			任期		国公私		
	教授	准教授	講師	終身	任期付き	国立	公立	私立
学部教育のみ	5 .8%	6 1.7%	3 15.0%	12 1.3%	5 7.7%	9 1.4%	1 .9%	8 3.1%
学部教育と大学院教育	598 95.8%	353 97.8%	16 80.0%	912 96.9%	53 81.5%	630 96.8%	109 99.1%	241 92.3%
大学院教育のみ	21 3.4%	2 .6%	1 5.0%	17 1.8%	7 10.8%	12 1.8%	0 .0%	12 4.6%

問3. 本年度、何コマの授業（一回90分で15回）を担当されていますか。講義、実験・実習を含みます。

	全体	大学分類		設置者			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	男性	女性
学士	7.134	4.853	8.465	6.036	7.997	9.512	6.6	6.9	7.7	9.1	6.9
修士	2.87	2.93	2.83	2.65	3.55	3.13	3.4	2.2	3.1	4.1	2.7
博士	.69	.87	.59	.69	1.26	.47	0.8	0.5	0.7	1.1	0.6

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
学士	6.421	9.008	6.565	5.649	6.8	7.7	8.3	7.2	5.0
修士	2.32	3.34	2.60	2.83	3.1	2.6	1.4	2.8	2.4
博士	.35	.78	.75	.65	0.9	0.4	0.0	0.7	0.4

問4. あなた自身のご関心は、主として学部教育、あるいは大学院教育のどちらにありますか。

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
主として学部教育	73 7.3%	14 3.8%	59 9.3%	34 5.3%	8 7.3%	31 12.0%	32 9.9%	26 5.1%	13 10.0%	7 6.0%	65 7.5%
どちらかと言えば、学部教育	171 17.0%	37 10.0%	134 21.1%	105 16.5%	20 18.3%	46 17.8%	47 14.6%	93 18.3%	28 21.5%	14 12.0%	155 17.8%
両方ある	589 58.7%	227 61.4%	362 57.1%	384 60.3%	70 64.2%	135 52.3%	178 55.1%	306 60.2%	76 58.5%	73 62.4%	505 58.0%
どちらかと言えば、大学院教育	118 11.8%	57 15.4%	61 9.6%	80 12.6%	6 5.5%	32 12.4%	37 11.5%	62 12.2%	10 7.7%	17 14.5%	100 11.5%
主として大学院教育	53 5.3%	35 9.5%	18 2.8%	34 5.3%	5 4.6%	14 5.4%	29 9.0%	21 4.1%	3 2.3%	6 5.1%	46 5.3%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
主として学部教育	9 8.0%	31 9.7%	24 7.1%	9 4.1%	40 6.5%	28 7.8%	4 21.1%	69 7.5%	4 6.5%
どちらかと言えば、学部教育	20 17.9%	58 18.1%	53 15.7%	40 18.0%	94 15.4%	70 19.6%	6 31.6%	162 17.5%	8 12.9%
両方ある	64 57.1%	175 54.5%	217 64.2%	123 55.4%	365 59.7%	206 57.5%	8 42.1%	542 58.5%	35 56.5%
どちらかと言えば、大学院教育	18 16.1%	38 11.8%	31 9.2%	30 13.5%	68 11.1%	45 12.6%	1 5.3%	107 11.6%	8 12.9%
主として大学院教育	1 .9%	19 5.9%	13 3.8%	20 9.0%	44 7.2%	9 2.5%	0 .0%	46 5.0%	7 11.3%

問5. その授業には、毎年、何人くらいの院生が受講していますか。

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
0人	14 1.4%	3 .8%	11 1.8%	3 .5%	2 1.8%	9 3.6%	6 1.9%	6 1.2%	2 1.5%	2 1.8%	12 1.4%
1～5人	412 41.6%	112 30.7%	300 47.9%	235 37.2%	49 45.0%	128 51.0%	176 55.5%	142 28.3%	76 58.0%	59 51.8%	346 40.1%
6～10人	247 24.9%	103 28.2%	144 23.0%	166 26.3%	26 23.9%	55 21.9%	85 26.8%	126 25.1%	23 17.6%	33 28.9%	209 24.2%
11～30人	243 24.5%	106 29.0%	137 21.9%	167 26.5%	28 25.7%	48 19.1%	37 11.7%	170 33.9%	26 19.8%	16 14.0%	224 26.0%
31人以上	73 7.4%	40 11.0%	33 5.3%	59 9.4%	3 2.8%	11 4.4%	12 3.8%	56 11.2%	4 3.1%	4 3.5%	69 8.0%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
0人	4 3.8%	0 .0%	6 1.8%	4 1.8%	10 1.6%	2 .6%	2 12.5%	11 1.2%	3 5.2%
1～5人	44 42.3%	127 39.9%	138 40.6%	100 45.7%	267 43.8%	137 38.7%	3 18.8%	380 41.4%	26 44.8%
6～10人	23 22.1%	77 24.2%	86 25.3%	57 26.0%	150 24.6%	84 23.7%	8 50.0%	231 25.2%	10 17.2%
11～30人	28 26.9%	91 28.6%	77 22.6%	44 20.1%	128 21.0%	110 31.1%	3 18.8%	226 24.6%	14 24.1%
31人以上	5 4.8%	22 6.9%	33 9.7%	13 5.9%	53 8.7%	20 5.6%	0 .0%	68 7.4%	5 8.6%

問6. その授業に出席している院生の学力や学習意欲は、どの程度だと思われますか。

a.専門分野の基礎的理解

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
極めて高い	27 2.8%	18 5.0%	9 1.5%	20 3.2%	4 3.7%	3 1.2%	16 5.1%	4 .8%	6 4.7%	5 4.5%	22 2.6%
高い	197 20.2%	90 24.9%	107 17.4%	119 19.0%	33 30.6%	45 18.5%	76 24.4%	86 17.4%	22 17.1%	15 13.4%	179 21.0%
ふつう	444 45.4%	171 47.4%	273 44.3%	298 47.6%	44 40.7%	102 42.0%	122 39.1%	240 48.6%	67 51.9%	56 50.0%	382 44.9%
やや低い	245 25.1%	72 19.9%	173 28.1%	154 24.6%	23 21.3%	68 28.0%	77 24.7%	132 26.7%	26 20.2%	24 21.4%	217 25.5%
かなり低い	64 6.6%	10 2.8%	54 8.8%	35 5.6%	4 3.7%	25 10.3%	21 6.7%	32 6.5%	8 6.2%	12 10.7%	51 6.0%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
極めて高い	5 5.0%	5 1.6%	12 3.6%	5 2.3%	18 3.0%	8 2.3%	1 6.7%	26 2.9%	1 1.9%
高い	15 14.9%	57 18.0%	77 22.8%	45 21.0%	137 22.8%	55 15.8%	2 13.3%	182 20.0%	11 20.4%
ふつう	46 45.5%	148 46.8%	148 43.9%	98 45.8%	270 44.9%	163 46.7%	6 40.0%	412 45.3%	25 46.3%
やや低い	27 26.7%	80 25.3%	79 23.4%	57 26.6%	144 23.9%	95 27.2%	4 26.7%	227 25.0%	15 27.8%
かなり低い	8 7.9%	26 8.2%	21 6.2%	9 4.2%	33 5.5%	28 8.0%	2 13.3%	62 6.8%	2 3.7%

b.学習意欲

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
極めて高い	88 9.0%	47 13.0%	41 6.7%	60 9.6%	12 11.1%	16 6.6%	55 17.7%	11 2.2%	15 11.6%	14 12.5%	74 8.7%
高い	372 38.1%	146 40.4%	226 36.7%	221 35.3%	50 46.3%	101 41.6%	156 50.2%	147 29.7%	54 41.9%	53 47.3%	315 37.0%
ふつう	393 40.2%	128 35.5%	265 43.0%	259 41.4%	38 35.2%	96 39.5%	81 26.0%	248 50.1%	50 38.8%	38 33.9%	346 40.6%
やや低い	108 11.1%	35 9.7%	73 11.9%	77 12.3%	7 6.5%	24 9.9%	17 5.5%	76 15.4%	9 7.0%	6 5.4%	102 12.0%
かなり低い	16 1.6%	5 1.4%	11 1.8%	9 1.4%	1 .9%	6 2.5%	2 .6%	13 2.6%	1 .8%	1 .9%	15 1.8%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
極めて高い	10 9.9%	24 7.6%	32 9.5%	22 10.3%	59 9.8%	27 7.7%	2 13.3%	84 9.2%	4 7.4%
高い	31 30.7%	110 34.7%	144 42.7%	83 39.0%	250 41.6%	111 31.7%	6 40.0%	339 37.3%	24 44.4%
ふつう	41 40.6%	135 42.6%	129 38.3%	83 39.0%	231 38.4%	152 43.4%	5 33.3%	368 40.5%	20 37.0%
やや低い	17 16.8%	40 12.6%	28 8.3%	23 10.8%	54 9.0%	52 14.9%	1 6.7%	102 11.2%	6 11.1%
かなり低い	2 2.0%	8 2.5%	4 1.2%	2 .9%	7 1.2%	8 2.3%	1 6.7%	16 1.8%	0 .0%

問7. その授業で以下のような点を重視されていますか。

a.最先端の研究成果にふれる

	全体	大学分類		国公私			専門分野			問25 sex 性	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても重視している	232 23.8%	113 31.3%	119 19.4%	149 23.9%	30 28.3%	53 21.6%	77 24.9%	110 22.2%	33 25.6%	27 24.3%	201 23.7%
ある程度重視	497 51.0%	178 49.3%	319 52.0%	333 53.5%	41 38.7%	123 50.2%	164 53.1%	251 50.7%	58 45.0%	62 55.9%	427 50.4%
あまり重視していない	207 21.3%	61 16.9%	146 23.8%	119 19.1%	30 28.3%	58 23.7%	60 19.4%	110 22.2%	32 24.8%	20 18.0%	184 21.7%
全く重視していない	38 3.9%	9 2.5%	29 4.7%	22 3.5%	5 4.7%	11 4.5%	8 2.6%	24 4.8%	6 4.7%	2 1.8%	36 4.2%

	問25 age 年齢				問25 position 職階			問25 term 任	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても重視している	27 26.7%	85 27.0%	68 20.3%	50 23.5%	142 23.7%	85 24.4%	2 13.3%	214 23.6%	13 24.1%
ある程度重視	51 50.5%	141 44.8%	181 54.0%	118 55.4%	317 52.9%	163 46.7%	9 60.0%	459 50.7%	29 53.7%
あまり重視していない	20 19.8%	75 23.8%	71 21.2%	39 18.3%	123 20.5%	81 23.2%	3 20.0%	196 21.6%	11 20.4%
全く重視していない	3 3.0%	14 4.4%	15 4.5%	6 2.8%	17 2.8%	20 5.7%	1 6.7%	37 4.1%	1 1.9%

b.研究科の人材養成の目的にそう

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても重視している	176 18.2%	62 17.3%	114 18.8%	125 20.2%	22 20.8%	29 12.0%	67 21.7%	80 16.4%	21 16.4%	24 21.6%	152 18.1%
ある程度重視	527 54.6%	202 56.4%	325 53.5%	342 55.3%	54 50.9%	131 54.4%	159 51.5%	266 54.6%	81 63.3%	60 54.1%	457 54.5%
あまり重視していない	229 23.7%	85 23.7%	144 23.7%	133 21.5%	25 23.6%	71 29.5%	73 23.6%	122 25.1%	23 18.0%	26 23.4%	200 23.8%
全く重視していない	33 3.4%	9 2.5%	24 4.0%	18 2.9%	5 4.7%	10 4.1%	10 3.2%	19 3.9%	3 2.3%	1 .9%	30 3.6%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても重視している	22 21.8%	65 20.6%	57 17.1%	32 15.5%	108 18.2%	64 18.4%	3 20.0%	163 18.1%	12 23.1%
ある程度重視	49 48.5%	166 52.7%	191 57.4%	115 55.8%	327 55.2%	187 53.9%	8 53.3%	494 54.9%	25 48.1%
あまり重視していない	25 24.8%	70 22.2%	78 23.4%	54 26.2%	141 23.8%	81 23.3%	4 26.7%	212 23.6%	14 26.9%
全く重視していない	5 5.0%	14 4.4%	7 2.1%	5 2.4%	16 2.7%	15 4.3%	0 .0%	30 3.3%	1 1.9%

c.専門分野の基礎的知識を教える

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても重視している	493 50.5%	204 56.4%	289 47.1%	325 52.1%	55 50.9%	113 46.3%	154 49.7%	269 54.2%	50 38.8%	58 51.8%	431 50.8%
ある程度重視	428 43.9%	137 37.8%	291 47.4%	265 42.5%	51 47.2%	112 45.9%	132 42.6%	205 41.3%	73 56.6%	47 42.0%	372 43.8%
あまり重視していない	53 5.4%	21 5.8%	32 5.2%	32 5.1%	2 1.9%	19 7.8%	24 7.7%	21 4.2%	6 4.7%	6 5.4%	45 5.3%
全く重視していない	2 .2%	0 .0%	2 .3%	2 .3%	0 .0%	0 .0%	0 .0%	1 .2%	0 .0%	1 .9%	1 .1%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても重視している	54 53.5%	176 55.5%	155 46.1%	106 50.0%	298 49.7%	185 52.7%	7 46.7%	462 50.9%	28 50.9%
ある程度重視	42 41.6%	125 39.4%	163 48.5%	91 42.9%	266 44.4%	148 42.2%	7 46.7%	395 43.5%	24 43.6%
あまり重視していない	5 5.0%	15 4.7%	17 5.1%	15 7.1%	34 5.7%	17 4.8%	1 6.7%	49 5.4%	3 5.5%
全く重視していない	0 .0%	1 .3%	1 .3%	0 .0%	1 .2%	1 .3%	0 .0%	2 .2%	0 .0%

d.学問の意義を教える

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても重視している	283 29.1%	111 30.7%	172 28.1%	188 30.2%	29 27.1%	66 26.9%	107 34.6%	130 26.3%	32 24.8%	50 45.0%	228 26.9%
ある程度重視	465 47.7%	180 49.9%	285 46.5%	310 49.8%	46 43.0%	109 44.5%	128 41.4%	251 50.7%	67 51.9%	44 39.6%	414 48.8%
あまり重視していない	202 20.7%	63 17.5%	139 22.7%	112 18.0%	28 26.2%	62 25.3%	63 20.4%	103 20.8%	28 21.7%	16 14.4%	183 21.6%
全く重視していない	24 2.5%	7 1.9%	17 2.8%	12 1.9%	4 3.7%	8 3.3%	11 3.6%	11 2.2%	2 1.6%	1 .9%	23 2.7%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても重視している	37 36.6%	91 28.8%	93 27.8%	59 27.8%	169 28.3%	107 30.6%	4 26.7%	255 28.2%	24 43.6%
ある程度重視	47 46.5%	152 48.1%	164 49.0%	96 45.3%	284 47.5%	166 47.4%	7 46.7%	435 48.1%	20 36.4%
あまり重視していない	17 16.8%	62 19.6%	69 20.6%	53 25.0%	129 21.6%	69 19.7%	4 26.7%	192 21.2%	10 18.2%
全く重視していない	0 .0%	11 3.5%	9 2.7%	4 1.9%	16 2.7%	8 2.3%	0 .0%	23 2.5%	1 1.8%

e.職業汎用的な知識や技能を教える

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても重視している	103 10.6%	36 10.0%	67 10.9%	68 10.9%	10 9.3%	25 10.3%	33 10.7%	46 9.3%	15 11.6%	20 18.0%	81 9.6%
ある程度重視	376 38.6%	111 30.8%	265 43.2%	244 39.1%	42 39.3%	90 37.0%	108 35.1%	191 38.5%	59 45.7%	55 49.5%	312 36.8%
あまり重視していない	398 40.9%	171 47.5%	227 37.0%	259 41.5%	40 37.4%	99 40.7%	128 41.6%	212 42.7%	46 35.7%	26 23.4%	370 43.6%
全く重視していない	97 10.0%	42 11.7%	55 9.0%	53 8.5%	15 14.0%	29 11.9%	39 12.7%	47 9.5%	9 7.0%	10 9.0%	85 10.0%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても重視している	19 18.8%	34 10.8%	30 9.0%	18 8.5%	57 9.5%	39 11.1%	5 33.3%	93 10.3%	8 14.5%
ある程度重視	32 31.7%	123 38.9%	119 35.5%	94 44.3%	227 38.0%	141 40.2%	2 13.3%	348 38.5%	20 36.4%
あまり重視していない	39 38.6%	120 38.0%	155 46.3%	84 39.6%	249 41.7%	144 41.0%	4 26.7%	370 40.9%	25 45.5%
全く重視していない	11 10.9%	39 12.3%	31 9.3%	16 7.5%	64 10.7%	27 7.7%	4 26.7%	94 10.4%	2 3.6%

f.抽象的な思考能力を鍛える

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても重視している	158 16.3%	66 18.4%	92 15.0%	99 15.9%	16 15.0%	43 17.6%	58 18.8%	68 13.8%	23 17.8%	20 17.9%	133 15.7%
ある程度重視	428 44.0%	168 46.8%	260 42.4%	278 44.8%	43 40.2%	107 43.9%	164 53.1%	191 38.7%	56 43.4%	62 55.4%	361 42.7%
あまり重視していない	328 33.7%	106 29.5%	222 36.2%	211 34.0%	38 35.5%	79 32.4%	72 23.3%	203 41.2%	40 31.0%	25 22.3%	299 35.4%
全く重視していない	58 6.0%	19 5.3%	39 6.4%	33 5.3%	10 9.3%	15 6.1%	15 4.9%	31 6.3%	10 7.8%	5 4.5%	52 6.2%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても重視している	26 25.7%	47 14.9%	58 17.4%	26 12.3%	94 15.7%	57 16.3%	5 33.3%	147 16.3%	10 18.5%
ある程度重視	45 44.6%	125 39.6%	147 44.0%	106 50.2%	280 46.9%	139 39.8%	4 26.7%	399 44.1%	23 42.6%
あまり重視していない	27 26.7%	121 38.3%	108 32.3%	69 32.7%	193 32.3%	126 36.1%	6 40.0%	305 33.7%	17 31.5%
全く重視していない	3 3.0%	23 7.3%	21 6.3%	10 4.7%	30 5.0%	27 7.7%	0 .0%	53 5.9%	4 7.4%

g.語学力（英語）

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても重視している	81 8.3%	32 8.9%	49 8.0%	54 8.7%	6 5.6%	21 8.6%	27 8.7%	39 7.9%	6 4.7%	12 10.7%	67 7.9%
ある程度重視	303 31.1%	121 33.5%	182 29.6%	199 31.9%	36 33.6%	68 27.8%	87 28.1%	167 33.7%	38 29.5%	28 25.0%	269 31.7%
あまり重視していない	355 36.4%	134 37.1%	221 36.0%	222 35.6%	38 35.5%	95 38.8%	96 31.0%	191 38.6%	53 41.1%	39 34.8%	312 36.8%
全く重視していない	236 24.2%	74 20.5%	162 26.4%	148 23.8%	27 25.2%	61 24.9%	100 32.3%	98 19.8%	32 24.8%	33 29.5%	200 23.6%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても重視している	8 7.9%	23 7.3%	33 9.8%	16 7.5%	58 9.7%	20 5.7%	1 6.7%	76 8.4%	3 5.5%
ある程度重視	32 31.7%	90 28.5%	106 31.5%	70 33.0%	187 31.2%	107 30.6%	5 33.3%	277 30.6%	20 36.4%
あまり重視していない	30 29.7%	118 37.3%	117 34.8%	87 41.0%	218 36.4%	130 37.1%	3 20.0%	329 36.3%	21 38.2%
全く重視していない	31 30.7%	85 26.9%	80 23.8%	39 18.4%	136 22.7%	93 26.6%	6 40.0%	224 24.7%	11 20.0%

h.論理的な文章を書く能力

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても重視している	183 18.8%	63 17.5%	120 19.6%	103 16.6%	21 19.6%	59 24.2%	94 30.3%	54 11.0%	25 19.5%	37 33.0%	142 16.8%
ある程度重視	393 40.5%	145 40.4%	248 40.5%	260 41.9%	45 42.1%	88 36.1%	141 45.5%	178 36.2%	56 43.8%	51 45.5%	338 40.0%
あまり重視していない	301 31.0%	109 30.4%	192 31.4%	194 31.3%	29 27.1%	78 32.0%	59 19.0%	190 38.6%	41 32.0%	19 17.0%	279 33.1%
全く重視していない	94 9.7%	42 11.7%	52 8.5%	63 10.2%	12 11.2%	19 7.8%	16 5.2%	70 14.2%	6 4.7%	5 4.5%	85 10.1%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても重視している	23 23.0%	36 11.4%	66 19.8%	57 26.9%	130 21.8%	46 13.2%	4 26.7%	170 18.8%	11 20.0%
ある程度重視	38 38.0%	128 40.6%	132 39.5%	91 42.9%	245 41.0%	140 40.2%	5 33.3%	362 40.1%	24 43.6%
あまり重視していない	27 27.0%	108 34.3%	107 32.0%	56 26.4%	182 30.5%	114 32.8%	4 26.7%	283 31.4%	16 29.1%
全く重視していない	12 12.0%	43 13.7%	29 8.7%	8 3.8%	40 6.7%	48 13.8%	2 13.3%	87 9.6%	4 7.3%

j.ものごとを分析的・批判的に考える力

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても重視している	335 34.5%	128 35.5%	207 33.9%	207 33.2%	40 37.4%	88 36.4%	156 50.3%	109 22.1%	49 38.3%	60 54.1%	269 31.8%
ある程度重視	476 49.0%	181 50.1%	295 48.3%	314 50.4%	52 48.6%	110 45.5%	134 43.2%	255 51.7%	70 54.7%	41 36.9%	427 50.5%
あまり重視していない	123 12.7%	41 11.4%	82 13.4%	78 12.5%	9 8.4%	36 14.9%	16 5.2%	96 19.5%	8 6.3%	8 7.2%	115 13.6%
全く重視していない	38 3.9%	11 3.0%	27 4.4%	24 3.9%	6 5.6%	8 3.3%	4 1.3%	33 6.7%	1 .8%	2 1.8%	35 4.1%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても重視している	46 45.5%	93 29.5%	107 31.9%	86 40.8%	217 36.3%	108 31.0%	5 33.3%	312 34.5%	19 35.2%
ある程度重視	39 38.6%	155 49.2%	171 51.0%	105 49.8%	297 49.7%	167 48.0%	7 46.7%	437 48.3%	30 55.6%
あまり重視していない	12 11.9%	50 15.9%	43 12.8%	17 8.1%	72 12.0%	49 14.1%	2 13.3%	119 13.2%	4 7.4%
全く重視していない	4 4.0%	17 5.4%	14 4.2%	3 1.4%	12 2.0%	24 6.9%	1 6.7%	36 4.0%	1 1.9%

j.対人関係能力

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても重視している	57 5.8%	20 5.5%	37 6.0%	36 5.8%	10 9.3%	11 4.5%	17 5.5%	18 3.6%	18 14.0%	10 8.9%	47 5.5%
ある程度重視	263 27.0%	84 23.3%	179 29.2%	167 26.8%	26 24.3%	70 28.6%	99 32.0%	106 21.4%	40 31.0%	43 38.4%	216 25.5%
あまり重視していない	437 44.8%	165 45.7%	272 44.3%	274 44.0%	47 43.9%	116 47.3%	137 44.3%	226 45.6%	59 45.7%	42 37.5%	390 46.0%
全く重視していない	218 22.4%	92 25.5%	126 20.5%	146 23.4%	24 22.4%	48 19.6%	56 18.1%	146 29.4%	12 9.3%	17 15.2%	195 23.0%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても重視している	7 6.9%	22 6.9%	14 4.2%	14 6.6%	32 5.4%	22 6.3%	3 20.0%	51 5.6%	6 10.9%
ある程度重視	30 29.7%	67 21.1%	96 28.7%	68 32.1%	178 29.8%	80 22.8%	2 13.3%	237 26.2%	20 36.4%
あまり重視していない	41 40.6%	141 44.5%	150 44.8%	99 46.7%	266 44.5%	160 45.6%	7 46.7%	411 45.4%	21 38.2%
全く重視していない	23 22.8%	87 27.4%	75 22.4%	31 14.6%	122 20.4%	89 25.4%	3 20.0%	207 22.8%	8 14.5%

問8.現在、あなたの研究室に所属する院生と学部学生は何人ですか。

		修士課程				博士課程				学部	
		全体	他大学出身	社会人	留学生	全体	他大学出身	社会人	留学生	全体	留学生
全体		3.5	.8	.2	.3	1.1	.4	.3	.2	7.8	.1
大学類型	研究大学	4.5	1.2	.2	.6	2.1	.8	.6	.3	5.8	.1
	一般大学	3.0	.6	.2	.2	.6	.1	.2	.1	9.0	.1
設置者	国立	3.9	.9	.2	.4	1.4	.5	.4	.3	5.5	.1
	公立	3.5	1.0	.3	.2	1.2	.3	.3	.2	7.8	.0
	私立	2.6	.6	.3	.2	.6	.2	.1	.1	13.6	.2
専攻分野	文系	2.5	1.0	.4	.6	1.2	.6	.3	.2	11.7	.1
	理系	4.4	.7	.1	.2	1.1	.2	.3	.2	5.2	.1
	学際他	2.9	1.1	.3	.2	1.0	.3	.3	.1	8.6	.1
性別	女性	2.4	.8	.3	.2	1.3	.7	.5	.1	9.6	.2
	男性	3.7	.9	.2	.4	1.1	.4	.3	.2	7.6	.1
年齢	20 ・30歳代	3.0	.8	.2	.2	.8	.4	.1	.2	8.7	.0
	40歳代	3.8	.9	.2	.4	1.1	.3	.3	.2	6.8	.1
	50歳代	3.7	.9	.2	.4	1.4	.6	.4	.2	8.4	.1
	60代以上	3.1	.8	.4	.3	.9	.3	.3	.2	8.1	.1
職名	教授	3.6	.9	.3	.4	1.3	.5	.4	.2	8.3	.1
	准教授	3.5	.8	.1	.3	.9	.2	.2	.2	7.0	.1
	講師	2.6	1.6	.1	.1	.6	.5	.4	.0	9.3	.1
任期	終身	3.5	.8	.2	.4	1.1	.4	.3	.2	7.7	.1
	任期付き	4.3	1.7	.3	.2	1.3	.7	.6	.2	5.7	.1

問9. あなたのご関心は、主として研究者養成、あるいは職業人養成のどちらにありますか。

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
主として研究者養成	98 9.8%	61 16.5%	37 5.9%	68 10.7%	12 11.1%	18 7.1%	34 10.6%	57 11.3%	4 3.1%	10 8.5%	87 10.1%
どちらかと言えば、研究者養成	192 19.2%	99 26.8%	93 14.8%	128 20.2%	23 21.3%	41 16.1%	58 18.1%	107 21.1%	20 15.4%	20 17.1%	170 19.7%
両方ある	406 40.7%	167 45.1%	239 38.1%	270 42.5%	46 42.6%	90 35.3%	119 37.2%	209 41.3%	56 43.1%	48 41.0%	347 40.1%
どちらかと言えば、職業人養成	191 19.1%	32 8.6%	159 25.3%	111 17.5%	21 19.4%	59 23.1%	65 20.3%	86 17.0%	32 24.6%	25 21.4%	165 19.1%
主として職業人養成	111 11.1%	11 3.0%	100 15.9%	58 9.1%	6 5.6%	47 18.4%	44 13.8%	47 9.3%	18 13.8%	14 12.0%	96 11.1%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
主として研究者養成	10 8.9%	43 13.4%	31 9.2%	13 6.0%	55 9.1%	39 10.9%	2 10.5%	90 9.8%	7 11.1%
どちらかと言えば、研究者養成	21 18.8%	71 22.1%	56 16.6%	44 20.3%	120 19.8%	68 19.0%	2 10.5%	178 19.4%	14 22.2%
両方ある	50 44.6%	116 36.1%	144 42.7%	87 40.1%	243 40.2%	146 40.8%	7 36.8%	377 41.0%	18 28.6%
どちらかと言えば、職業人養成	20 17.9%	59 18.4%	68 20.2%	44 20.3%	122 20.2%	62 17.3%	6 31.6%	174 18.9%	14 22.2%
主として職業人養成	11 9.8%	32 10.0%	38 11.3%	29 13.4%	65 10.7%	43 12.0%	2 10.5%	100 10.9%	10 15.9%

問10-1. あなたは、修士課程（博士前期課程）の院生についてどのようにお考えですか。

a.A院生は教育の対象である =B院生といえども自立した研究者である

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
Aに近い	226	80	146	142	19	65	83	108	25	31	190
	22.7%	21.7%	23.2%	22.4%	17.3%	25.7%	25.9%	21.3%	19.5%	26.5%	22.0%
Aにやや近い	428	158	270	275	47	106	132	212	69	49	376
	42.9%	42.9%	42.9%	43.4%	42.7%	41.9%	41.1%	41.7%	53.9%	41.9%	43.5%
Bにやや近い	296	105	191	186	39	71	90	163	32	34	255
	29.7%	28.5%	30.4%	29.3%	35.5%	28.1%	28.0%	32.1%	25.0%	29.1%	29.5%
Bに近い	47	25	22	31	5	11	16	25	2	3	44
	4.7%	6.8%	3.5%	4.9%	4.5%	4.3%	5.0%	4.9%	1.6%	2.6%	5.1%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
Aに近い	20	71	86	46	138	83	1	207	15
	17.9%	22.0%	25.6%	21.3%	22.8%	23.2%	5.3%	22.5%	24.6%
Aにやや近い	46	117	151	110	266	149	7	403	20
	41.1%	36.2%	44.9%	50.9%	43.9%	41.7%	36.8%	43.7%	32.8%
Bにやや近い	40	111	89	53	175	106	10	267	24
	35.7%	34.4%	26.5%	24.5%	28.9%	29.7%	52.6%	29.0%	39.3%
Bに近い	6	24	10	7	27	19	1	45	2
	5.4%	7.4%	3.0%	3.2%	4.5%	5.3%	5.3%	4.9%	3.3%

b.A院生個人研究を重視している =B研究室の共同研究を重視している

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
Aに近い	333	131	202	194	33	106	173	103	40	61	268
	33.3%	35.5%	32.1%	30.6%	30.3%	41.6%	53.7%	20.3%	31.0%	51.7%	30.9%
Aにやや近い	416	161	255	274	49	93	122	224	61	43	367
	41.6%	43.6%	40.5%	43.1%	45.0%	36.5%	37.9%	44.2%	47.3%	36.4%	42.4%
Bにやや近い	192	59	133	130	20	42	24	137	21	12	176
	19.2%	16.0%	21.1%	20.5%	18.3%	16.5%	7.5%	27.0%	16.3%	10.2%	20.3%
Bに近い	58	18	40	37	7	14	3	43	7	2	55
	5.8%	4.9%	6.3%	5.8%	6.4%	5.5%	.9%	8.5%	5.4%	1.7%	6.4%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
Aに近い	39	88	119	86	226	99	6	311	19
	35.1%	27.3%	35.2%	39.4%	37.2%	27.7%	31.6%	33.7%	30.6%
Aにやや近い	44	141	139	88	240	166	4	391	18
	39.6%	43.8%	41.1%	40.4%	39.5%	46.4%	21.1%	42.4%	29.0%
Bにやや近い	24	69	58	37	108	70	8	169	20
	21.6%	21.4%	17.2%	17.0%	17.8%	19.6%	42.1%	18.3%	32.3%
Bに近い	4	24	22	7	33	23	1	52	5
	3.6%	7.5%	6.5%	3.2%	5.4%	6.4%	5.3%	5.6%	8.1%

c.A早い段階で研究業績を積ませたい=Bじっくり基礎を学ばせたい

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
Aに近い	105 10.6%	56 15.2%	49 7.8%	67 10.6%	11 10.2%	27 10.7%	35 11.0%	55 10.9%	12 9.4%	8 6.8%	95 11.0%
Aにやや近い	356 35.9%	139 37.8%	217 34.7%	226 35.7%	41 38.0%	89 35.3%	97 30.4%	190 37.6%	56 43.8%	40 34.2%	310 36.0%
Bにやや近い	391 39.4%	134 36.4%	257 41.1%	246 38.9%	43 39.8%	102 40.5%	129 40.4%	198 39.2%	44 34.4%	47 40.2%	340 39.5%
Bに近い	141 14.2%	39 10.6%	102 16.3%	94 14.8%	13 12.0%	34 13.5%	58 18.2%	62 12.3%	16 12.5%	22 18.8%	116 13.5%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
Aに近い	10 9.0%	45 14.0%	26 7.7%	22 10.3%	62 10.3%	41 11.5%	1 5.3%	99 10.8%	3 4.9%
Aにやや近い	50 45.0%	110 34.3%	123 36.5%	69 32.2%	211 34.9%	129 36.3%	9 47.4%	333 36.3%	19 31.1%
Bにやや近い	32 28.8%	117 36.4%	144 42.7%	95 44.4%	245 40.6%	137 38.6%	6 31.6%	358 39.0%	28 45.9%
Bに近い	19 17.1%	49 15.3%	44 13.1%	28 13.1%	86 14.2%	48 13.5%	3 15.8%	128 13.9%	11 18.0%

d.A研究テーマは院生が決めるものである＝B研究テーマは教員が決めるものである

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
Aに近い	243 24.4%	94 25.6%	149 23.7%	149 23.5%	23 21.1%	71 28.0%	170 52.8%	28 5.5%	30 23.4%	59 50.0%	184 21.3%
Aにやや近い	374 37.6%	139 37.9%	235 37.4%	237 37.4%	36 33.0%	101 39.8%	124 38.5%	164 32.5%	72 56.3%	37 31.4%	329 38.1%
Bにやや近い	274 27.5%	99 27.0%	175 27.8%	178 28.1%	35 32.1%	61 24.0%	25 7.8%	220 43.6%	21 16.4%	14 11.9%	256 29.6%
Bに近い	105 10.5%	35 9.5%	70 11.1%	69 10.9%	15 13.8%	21 8.3%	3 .9%	93 18.4%	5 3.9%	8 6.8%	95 11.0%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
Aに近い	32 28.8%	65 20.1%	87 25.8%	59 27.3%	163 26.9%	73 20.5%	7 36.8%	225 24.4%	16 26.2%
Aにやや近い	42 37.8%	107 33.1%	135 40.1%	85 39.4%	227 37.4%	135 37.9%	6 31.6%	344 37.3%	24 39.3%
Bにやや近い	30 27.0%	111 34.4%	80 23.7%	51 23.6%	156 25.7%	109 30.6%	4 21.1%	255 27.7%	16 26.2%
Bに近い	7 6.3%	40 12.4%	35 10.4%	21 9.7%	61 10.0%	39 11.0%	2 10.5%	98 10.6%	5 8.2%

c.A社会に関係なく研究を深めさせたい＝B研究を通じて社会に貢献させたい

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
Aに近い	77	39	38	51	10	16	27	41	6	6	69
	7.7%	10.6%	6.0%	8.0%	9.2%	6.3%	8.4%	8.1%	4.7%	5.1%	7.9%
Aにやや近い	290	129	161	192	28	70	98	152	32	29	258
	29.0%	35.0%	25.5%	30.2%	25.7%	27.5%	30.5%	29.9%	24.8%	24.8%	29.7%
Bにやや近い	392	128	264	247	44	101	115	206	56	45	341
	39.2%	34.7%	41.8%	38.8%	40.4%	39.6%	35.8%	40.5%	43.4%	38.5%	39.3%
Bに近い	241	73	168	146	27	68	81	110	35	37	200
	24.1%	19.8%	26.6%	23.0%	24.8%	26.7%	25.2%	21.6%	27.1%	31.6%	23.0%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
Aに近い	11	29	24	12	38	36	2	75	2
	9.8%	9.0%	7.1%	5.5%	6.3%	10.0%	10.5%	8.1%	3.2%
Aにやや近い	36	101	91	62	164	116	6	268	20
	32.1%	31.3%	26.9%	28.6%	27.0%	32.3%	31.6%	29.0%	32.3%
Bにやや近い	42	115	145	84	249	133	4	366	20
	37.5%	35.6%	42.9%	38.7%	41.0%	37.0%	21.1%	39.6%	32.3%
Bに近い	23	78	78	59	156	74	7	215	20
	20.5%	24.1%	23.1%	27.2%	25.7%	20.6%	36.8%	23.3%	32.3%

f.Aスペシャリストとして養成したい＝Bジェネラリストとして養成したい

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
Aに近い	119	50	69	79	18	22	51	53	8	18	96
	12.0%	13.6%	11.0%	12.5%	16.8%	8.7%	15.9%	10.5%	6.3%	15.4%	11.1%
Aにやや近い	455	190	265	302	44	109	156	219	60	55	393
	45.8%	51.8%	42.3%	47.7%	41.1%	43.1%	48.8%	43.5%	46.9%	47.0%	45.6%
Bにやや近い	364	109	255	221	38	105	95	206	49	38	323
	36.7%	29.7%	40.7%	34.9%	35.5%	41.5%	29.7%	40.9%	38.3%	32.5%	37.5%
Bに近い	55	18	37	31	7	17	18	26	11	6	49
	5.5%	4.9%	5.9%	4.9%	6.5%	6.7%	5.6%	5.2%	8.6%	5.1%	5.7%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
Aに近い	16	48	30	22	62	50	3	107	8
	14.5%	14.9%	8.9%	10.2%	10.3%	14.1%	15.8%	11.7%	13.1%
Aにやや近い	53	148	162	88	274	168	6	425	25
	48.2%	46.0%	48.2%	40.9%	45.4%	47.3%	31.6%	46.3%	41.0%
Bにやや近い	32	106	129	94	234	118	8	337	22
	29.1%	32.9%	38.4%	43.7%	38.7%	33.2%	42.1%	36.7%	36.1%
Bに近い	9	20	15	11	34	19	2	49	6
	8.2%	6.2%	4.5%	5.1%	5.6%	5.4%	10.5%	5.3%	9.8%

g.A研究室の決定は、コースワークが終わってからでも遅くない＝B研究室の決定は入学時でよい

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
Aに近い	170 17.2%	68 18.6%	102 16.4%	113 17.9%	24 22.2%	33 13.2%	37 11.6%	110 21.9%	13 10.2%	15 12.9%	153 17.8%
Aにやや近い	259 26.2%	101 27.6%	158 25.4%	164 26.0%	22 20.4%	73 29.2%	80 25.2%	137 27.2%	31 24.4%	31 26.7%	223 26.0%
Bにやや近い	308 31.1%	114 31.1%	194 31.1%	184 29.2%	32 29.6%	92 36.8%	122 38.4%	131 26.0%	46 36.2%	40 34.5%	263 30.7%
Bに近い	252 25.5%	83 22.7%	169 27.1%	170 26.9%	30 27.8%	52 20.8%	79 24.8%	125 24.9%	37 29.1%	30 25.9%	219 25.5%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
Aに近い	27 24.1%	78 24.5%	42 12.5%	22 10.3%	81 13.5%	83 23.5%	2 10.5%	161 17.6%	7 11.7%
Aにやや近い	24 21.4%	82 25.8%	92 27.4%	57 26.8%	158 26.2%	89 25.2%	5 26.3%	229 25.0%	23 38.3%
Bにやや近い	32 28.6%	85 26.7%	101 30.1%	87 40.8%	200 33.2%	98 27.8%	7 36.8%	287 31.4%	18 30.0%
Bに近い	29 25.9%	73 23.0%	101 30.1%	47 22.1%	163 27.1%	83 23.5%	5 26.3%	238 26.0%	12 20.0%

h.A院生の講義課目の選択に関与したい＝B講義科目の選択は院生に任せたい

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
Aに近い	27 2.7%	16 4.3%	11 1.8%	17 2.7%	5 4.6%	5 2.0%	11 3.4%	13 2.6%	2 1.6%	3 2.6%	23 2.7%
Aにやや近い	168 16.9%	56 15.2%	112 17.8%	93 14.6%	22 20.4%	53 20.9%	73 22.7%	69 13.6%	21 16.4%	17 14.5%	150 17.3%
Bにやや近い	390 39.1%	140 37.9%	250 39.8%	253 39.8%	37 34.3%	100 39.5%	115 35.7%	206 40.6%	54 42.2%	40 34.2%	345 39.8%
Bに近い	412 41.3%	157 42.5%	255 40.6%	273 42.9%	44 40.7%	95 37.5%	123 38.2%	219 43.2%	51 39.8%	57 48.7%	349 40.3%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
Aに近い	5 4.5%	9 2.8%	12 3.6%	1 .5%	16 2.6%	11 3.1%	0 .0%	25 2.7%	2 3.3%
Aにやや近い	15 13.4%	55 17.1%	51 15.1%	46 21.2%	119 19.6%	46 12.8%	2 10.5%	152 16.5%	14 23.0%
Bにやや近い	31 27.7%	110 34.3%	141 41.7%	102 47.0%	256 42.2%	123 34.4%	5 26.3%	362 39.2%	20 32.8%
Bに近い	61 54.5%	147 45.8%	134 39.6%	68 31.3%	215 35.5%	178 49.7%	12 63.2%	384 41.6%	25 41.0%

問10-2. あなたは、博士課程の院生についてどのようにお考えですか

a.A院生は教育の対象である =B院生といえども自立した研究者である

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
Aに近い	21 2.7%	13 3.7%	8 1.9%	14 2.8%	1 1.1%	6 3.3%	12 5.3%	9 2.0%	0 .0%	2 2.3%	19 2.8%
Aにやや近い	83 10.6%	37 10.5%	46 10.7%	51 10.0%	9 9.8%	23 12.7%	24 10.6%	46 10.4%	8 10.0%	10 11.5%	72 10.5%
Bにやや近い	299 38.2%	139 39.6%	160 37.1%	192 37.7%	42 45.7%	65 35.9%	89 39.4%	160 36.3%	40 50.0%	36 41.4%	260 38.0%
Bに近い	379 48.5%	162 46.2%	217 50.3%	252 49.5%	40 43.5%	87 48.1%	101 44.7%	226 51.2%	32 40.0%	39 44.8%	333 48.7%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
Aに近い	1 1.1%	8 3.1%	5 1.8%	7 4.5%	16 3.3%	4 1.5%	0 .0%	19 2.6%	1 2.1%
Aにやや近い	4 4.6%	23 8.8%	33 12.1%	22 14.3%	58 12.0%	22 8.1%	2 15.4%	78 10.8%	4 8.3%
Bにやや近い	32 36.8%	88 33.6%	113 41.5%	64 41.6%	194 40.0%	99 36.4%	1 7.7%	279 38.5%	18 37.5%
Bに近い	50 57.5%	143 54.6%	121 44.5%	61 39.6%	217 44.7%	147 54.0%	10 76.9%	349 48.1%	25 52.1%

b.A院生個人研究を重視している =B研究室の共同研究を重視している

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
Aに近い	366 46.8%	173 49.3%	193 44.8%	228 44.8%	50 54.3%	88 48.6%	141 62.1%	170 38.6%	37 46.3%	47 54.0%	314 45.9%
Aにやや近い	256 32.7%	113 32.2%	143 33.2%	173 34.0%	28 30.4%	55 30.4%	57 25.1%	159 36.1%	31 38.8%	26 29.9%	227 33.2%
Bにやや近い	103 13.2%	37 10.5%	66 15.3%	72 14.1%	7 7.6%	24 13.3%	14 6.2%	76 17.3%	9 11.3%	10 11.5%	93 13.6%
Bに近い	57 7.3%	28 8.0%	29 6.7%	36 7.1%	7 7.6%	14 7.7%	15 6.6%	35 8.0%	3 3.8%	4 4.6%	50 7.3%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
Aに近い	46 52.3%	121 46.2%	126 46.3%	70 45.8%	226 46.6%	128 47.1%	7 53.8%	346 47.7%	16 33.3%
Aにやや近い	27 30.7%	84 32.1%	91 33.5%	52 34.0%	163 33.6%	85 31.3%	4 30.8%	234 32.3%	19 39.6%
Bにやや近い	9 10.2%	32 12.2%	41 15.1%	21 13.7%	65 13.4%	35 12.9%	1 7.7%	94 13.0%	8 16.7%
Bに近い	6 6.8%	25 9.5%	14 5.1%	10 6.5%	31 6.4%	24 8.8%	1 7.7%	51 7.0%	5 10.4%

c.A早い段階で研究業績を積ませたい=Bじっくり基礎を学ばせたい

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
Aに近い	373 47.8%	183 52.1%	190 44.2%	254 49.9%	44 48.4%	75 41.4%	96 42.5%	223 50.7%	41 51.3%	39 44.8%	327 47.9%
Aにやや近い	309 39.6%	123 35.0%	186 43.3%	189 37.1%	38 41.8%	82 45.3%	95 42.0%	167 38.0%	30 37.5%	33 37.9%	272 39.8%
Bにやや近い	64 8.2%	28 8.0%	36 8.4%	43 8.4%	5 5.5%	16 8.8%	23 10.2%	32 7.3%	6 7.5%	11 12.6%	53 7.8%
Bに近い	35 4.5%	17 4.8%	18 4.2%	23 4.5%	4 4.4%	8 4.4%	12 5.3%	18 4.1%	3 3.8%	4 4.6%	31 4.5%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
Aに近い	45 51.1%	137 52.5%	121 44.5%	65 42.5%	221 45.7%	139 51.1%	5 38.5%	349 48.2%	18 37.5%
Aにやや近い	35 39.8%	91 34.9%	120 44.1%	61 39.9%	195 40.3%	102 37.5%	8 61.5%	286 39.5%	20 41.7%
Bにやや近い	4 4.5%	16 6.1%	24 8.8%	20 13.1%	47 9.7%	17 6.3%	0 .0%	56 7.7%	8 16.7%
Bに近い	4 4.5%	17 6.5%	7 2.6%	7 4.6%	21 4.3%	14 5.1%	0 .0%	33 4.6%	2 4.2%

d.A研究テーマは院生が決めるものである＝B研究テーマは教員が決めるものである

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
Aに近い	294 37.7%	145 41.5%	149 34.7%	189 37.3%	33 36.3%	72 39.8%	131 57.7%	108 24.7%	36 45.0%	44 50.6%	246 36.1%
Aにやや近い	320 41.1%	134 38.4%	186 43.3%	209 41.2%	39 42.9%	72 39.8%	76 33.5%	199 45.5%	37 46.3%	29 33.3%	286 42.0%
Bにやや近い	123 15.8%	50 14.3%	73 17.0%	82 16.2%	16 17.6%	25 13.8%	8 3.5%	105 24.0%	5 6.3%	8 9.2%	114 16.7%
Bに近い	42 5.4%	20 5.7%	22 5.1%	27 5.3%	3 3.3%	12 6.6%	12 5.3%	25 5.7%	2 2.5%	6 6.9%	35 5.1%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
Aに近い	45 51.7%	102 38.9%	89 32.8%	55 36.2%	174 35.9%	110 40.9%	8 61.5%	276 38.2%	15 31.3%
Aにやや近い	29 33.3%	102 38.9%	128 47.2%	58 38.2%	210 43.3%	100 37.2%	3 23.1%	295 40.9%	21 43.8%
Bにやや近い	10 11.5%	39 14.9%	45 16.6%	29 19.1%	79 16.3%	40 14.9%	2 15.4%	113 15.7%	9 18.8%
Bに近い	3 3.4%	19 7.3%	9 3.3%	10 6.6%	22 4.5%	19 7.1%	0 .0%	38 5.3%	3 6.3%

c.A社会に関係なく研究を深めさせたい＝B研究を通じて社会に貢献させたい

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
Aに近い	132	63	69	89	17	26	36	83	8	7	122
	16.9%	18.1%	16.0%	17.6%	18.5%	14.4%	15.9%	18.9%	10.0%	8.0%	17.9%
Aにやや近い	242	117	125	163	28	51	76	144	19	25	213
	31.0%	33.5%	29.0%	32.1%	30.4%	28.2%	33.6%	32.8%	23.8%	28.7%	31.2%
Bにやや近い	253	110	143	168	30	55	71	135	33	29	224
	32.4%	31.5%	33.2%	33.1%	32.6%	30.4%	31.4%	30.8%	41.3%	33.3%	32.8%
Bに近い	153	59	94	87	17	49	43	77	20	26	123
	19.6%	16.9%	21.8%	17.2%	18.5%	27.1%	19.0%	17.5%	25.0%	29.9%	18.0%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
Aに近い	20	59	34	18	63	64	3	126	6
	22.7%	22.5%	12.5%	11.9%	13.0%	23.6%	23.1%	17.4%	12.5%
Aにやや近い	32	77	86	44	149	83	5	224	15
	36.4%	29.4%	31.6%	29.1%	30.8%	30.6%	38.5%	31.0%	31.3%
Bにやや近い	27	70	98	58	172	75	4	237	14
	30.7%	26.7%	36.0%	38.4%	35.5%	27.7%	30.8%	32.8%	29.2%
Bに近い	9	56	54	31	100	49	1	136	13
	10.2%	21.4%	19.9%	20.5%	20.7%	18.1%	7.7%	18.8%	27.1%

f.Aスペシャリストとして養成したい＝Bジェネラリストとして養成したい

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
Aに近い	329	159	170	230	38	61	103	179	31	38	283
	42.4%	45.7%	39.7%	45.5%	42.2%	33.7%	46.0%	41.0%	38.8%	43.7%	41.7%
Aにやや近い	341	149	192	216	38	87	95	193	38	39	301
	43.9%	42.8%	44.9%	42.8%	42.2%	48.1%	42.4%	44.2%	47.5%	44.8%	44.4%
Bにやや近い	83	31	52	48	11	24	18	52	10	8	74
	10.7%	8.9%	12.1%	9.5%	12.2%	13.3%	8.0%	11.9%	12.5%	9.2%	10.9%
Bに近い	23	9	14	11	3	9	8	13	1	2	20
	3.0%	2.6%	3.3%	2.2%	3.3%	5.0%	3.6%	3.0%	1.3%	2.3%	2.9%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
Aに近い	44	127	106	47	186	130	5	309	16
	50.6%	49.0%	39.1%	30.9%	38.6%	48.3%	38.5%	43.0%	33.3%
Aにやや近い	36	98	132	74	226	108	6	316	22
	41.4%	37.8%	48.7%	48.7%	46.9%	40.1%	46.2%	43.9%	45.8%
Bにやや近い	3	29	27	24	55	24	2	73	9
	3.4%	11.2%	10.0%	15.8%	11.4%	8.9%	15.4%	10.2%	18.8%
Bに近い	4	5	6	7	15	7	0	21	1
	4.6%	1.9%	2.2%	4.6%	3.1%	2.6%	.0%	2.9%	2.1%

問11. あなたは、院生にどのような能力を期待していますか。修士課程（博士前期）

問11_M_a研究室の専門的な知識や応用力

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても期待する	210 20.8%	94 25.3%	116 18.2%	140 21.7%	26 23.9%	44 17.3%	68 20.9%	111 21.7%	23 17.8%	28 24.6%	178 20.2%
期待する	658 65.3%	225 60.6%	433 68.0%	420 65.1%	72 66.1%	166 65.4%	208 64.0%	340 66.4%	89 69.0%	65 57.0%	585 66.5%
あまり期待しない	127 12.6%	50 13.5%	77 12.1%	80 12.4%	9 8.3%	38 15.0%	46 14.2%	57 11.1%	13 10.1%	19 16.7%	106 12.0%
全く期待しない	13 1.3%	2 .5%	11 1.7%	5 .8%	2 1.8%	6 2.4%	3 .9%	4 .8%	4 3.1%	2 1.8%	11 1.3%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても期待する	27 24.3%	76 23.4%	70 20.2%	35 16.2%	119 19.3%	82 22.8%	6 31.6%	195 20.9%	11 17.7%
期待する	65 58.6%	214 65.8%	224 64.6%	149 69.0%	407 66.2%	229 63.8%	12 63.2%	609 65.3%	40 64.5%
あまり期待しない	16 14.4%	32 9.8%	48 13.8%	30 13.9%	81 13.2%	44 12.3%	1 5.3%	116 12.4%	11 17.7%
全く期待しない	3 2.7%	3 .9%	5 1.4%	2 .9%	8 1.3%	4 1.1%	0 .0%	13 1.4%	0 .0%

b.専攻レベルの基礎的な知識や能力

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても期待する	301 29.7%	129 34.6%	172 26.8%	193 29.7%	32 29.4%	76 29.7%	126 38.3%	130 25.3%	33 25.4%	43 36.8%	255 28.9%
期待する	641 63.2%	217 58.2%	424 66.1%	408 62.9%	70 64.2%	163 63.7%	187 56.8%	338 65.9%	88 67.7%	65 55.6%	565 64.0%
あまり期待しない	65 6.4%	25 6.7%	40 6.2%	44 6.8%	6 5.5%	15 5.9%	13 4.0%	43 8.4%	8 6.2%	8 6.8%	57 6.5%
全く期待しない	7 .7%	2 .5%	5 .8%	4 .6%	1 .9%	2 .8%	3 .9%	2 .4%	1 .8%	1 .9%	6 .7%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても期待する	30 26.8%	97 29.7%	112 32.2%	59 27.1%	190 30.7%	100 27.6%	7 36.8%	280 29.9%	19 30.2%
期待する	74 66.1%	212 64.8%	204 58.6%	145 66.5%	382 61.8%	237 65.5%	12 63.2%	590 62.9%	40 63.5%
あまり期待しない	6 5.4%	17 5.2%	30 8.6%	12 5.5%	42 6.8%	22 6.1%	0 .0%	61 6.5%	4 6.3%
全く期待しない	2 1.8%	1 .3%	2 .6%	2 .9%	4 .6%	3 .8%	0 .0%	7 .7%	0 .0%

c.英語を読む

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても期待する	292 28.8%	133 35.7%	159 24.8%	189 29.2%	30 27.5%	73 28.5%	100 30.4%	154 30.1%	23 17.8%	31 26.7%	256 29.0%
期待する	539 53.2%	197 52.8%	342 53.4%	356 54.9%	62 56.9%	121 47.3%	138 41.9%	306 59.8%	76 58.9%	60 51.7%	471 53.3%
あまり期待しない	145 14.3%	37 9.9%	108 16.9%	81 12.5%	14 12.8%	50 19.5%	67 20.4%	46 9.0%	25 19.4%	18 15.5%	126 14.3%
全く期待しない	37 3.7%	6 1.6%	31 4.8%	22 3.4%	3 2.8%	12 4.7%	24 7.3%	6 1.2%	5 3.9%	7 6.0%	30 3.4%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても期待する	28 25.0%	96 29.4%	102 29.5%	62 28.2%	188 30.4%	92 25.5%	6 31.6%	272 29.0%	15 23.8%
期待する	65 58.0%	189 58.0%	173 50.0%	107 48.6%	296 47.9%	224 62.0%	12 63.2%	495 52.8%	38 60.3%
あまり期待しない	16 14.3%	34 10.4%	53 15.3%	42 19.1%	106 17.2%	36 10.0%	1 5.3%	134 14.3%	9 14.3%
全く期待しない	3 2.7%	7 2.1%	18 5.2%	9 4.1%	28 4.5%	9 2.5%	0 .0%	36 3.8%	1 1.6%

d.英語で話す

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても期待する	107 10.6%	60 16.1%	47 7.3%	70 10.8%	13 11.9%	24 9.4%	36 11.0%	58 11.3%	8 6.2%	10 8.6%	94 10.6%
期待する	420 41.5%	178 47.8%	242 37.8%	287 44.3%	38 34.9%	95 37.1%	118 36.0%	241 47.0%	52 40.3%	40 34.5%	375 42.5%
あまり期待しない	402 39.7%	119 32.0%	283 44.1%	244 37.7%	49 45.0%	109 42.6%	136 41.5%	188 36.6%	56 43.4%	49 42.2%	349 39.5%
全く期待しない	84 8.3%	15 4.0%	69 10.8%	47 7.3%	9 8.3%	28 10.9%	38 11.6%	26 5.1%	13 10.1%	17 14.7%	65 7.4%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても期待する	9 8.0%	37 11.3%	35 10.1%	24 11.0%	71 11.5%	30 8.3%	3 15.8%	96 10.2%	8 12.7%
期待する	44 39.3%	127 39.0%	146 42.1%	97 44.3%	253 41.0%	151 41.7%	7 36.8%	382 40.8%	32 50.8%
あまり期待しない	51 45.5%	138 42.3%	133 38.3%	79 36.1%	235 38.1%	157 43.4%	9 47.4%	378 40.3%	21 33.3%
全く期待しない	8 7.1%	24 7.4%	33 9.5%	19 8.7%	58 9.4%	24 6.6%	0 .0%	81 8.6%	2 3.2%

e.英語で書く

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても期待する	141 13.9%	71 19.1%	70 10.9%	96 14.8%	14 12.8%	31 12.1%	49 14.9%	75 14.6%	10 7.7%	10 8.6%	127 14.4%
期待する	451 44.5%	178 47.8%	273 42.5%	294 45.3%	48 44.0%	109 42.6%	118 36.0%	259 50.5%	58 44.6%	51 44.0%	395 44.7%
あまり期待しない	331 32.6%	108 29.0%	223 34.7%	204 31.4%	38 34.9%	89 34.8%	118 36.0%	150 29.2%	47 36.2%	39 33.6%	289 32.7%
全く期待しない	91 9.0%	15 4.0%	76 11.8%	55 8.5%	9 8.3%	27 10.5%	43 13.1%	29 5.7%	15 11.5%	16 13.8%	73 8.3%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても期待する	13 11.6%	50 15.3%	45 12.9%	30 13.7%	89 14.4%	43 11.9%	4 21.1%	126 13.4%	10 15.9%
期待する	48 42.9%	139 42.6%	157 45.1%	102 46.6%	273 44.2%	162 44.8%	10 52.6%	411 43.8%	37 58.7%
あまり期待しない	42 37.5%	109 33.4%	110 31.6%	69 31.5%	192 31.1%	133 36.7%	3 15.8%	313 33.4%	14 22.2%
全く期待しない	9 8.0%	28 8.6%	36 10.3%	18 8.2%	64 10.4%	24 6.6%	2 10.5%	88 9.4%	2 3.2%

f.職業的汎用能力

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても期待する	157 15.6%	58 15.6%	99 15.6%	98 15.1%	20 18.5%	39 15.5%	61 18.7%	69 13.6%	19 14.6%	30 25.6%	125 14.3%
期待する	549 54.5%	184 49.5%	365 57.5%	360 55.6%	56 51.9%	133 52.8%	154 47.2%	290 57.1%	79 60.8%	66 56.4%	476 54.3%
あまり期待しない	274 27.2%	116 31.2%	158 24.9%	173 26.7%	29 26.9%	72 28.6%	98 30.1%	139 27.4%	28 21.5%	16 13.7%	254 29.0%
全く期待しない	27 2.7%	14 3.8%	13 2.0%	16 2.5%	3 2.8%	8 3.2%	13 4.0%	10 2.0%	4 3.1%	5 4.3%	21 2.4%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても期待する	14 12.4%	58 17.8%	50 14.5%	33 15.3%	96 15.7%	57 15.8%	3 15.0%	146 15.6%	10 16.4%
期待する	65 57.5%	177 54.5%	170 49.3%	131 60.9%	327 53.4%	200 55.6%	12 60.0%	510 54.7%	31 50.8%
あまり期待しない	31 27.4%	82 25.2%	113 32.8%	47 21.9%	174 28.4%	92 25.6%	4 20.0%	253 27.1%	17 27.9%
全く期待しない	3 2.7%	8 2.5%	12 3.5%	4 1.9%	15 2.5%	11 3.1%	1 5.0%	24 2.6%	3 4.9%

g.プレゼン・アピール能力

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても期待する	317 31.2%	123 33.0%	194 30.2%	195 30.0%	39 35.8%	83 32.3%	94 28.7%	167 32.6%	45 34.4%	35 30.2%	277 31.3%
期待する	592 58.3%	212 56.8%	380 59.2%	386 59.5%	54 49.5%	152 59.1%	192 58.5%	298 58.1%	77 58.8%	73 62.9%	512 57.9%
あまり期待しない	102 10.0%	37 9.9%	65 10.1%	65 10.0%	16 14.7%	21 8.2%	40 12.2%	46 9.0%	9 6.9%	8 6.9%	92 10.4%
全く期待しない	4 .4%	1 .3%	3 .5%	3 .5%	0 .0%	1 .4%	2 .6%	2 .4%	0 .0%	0 .0%	4 .5%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても期待する	32 28.6%	112 34.3%	101 29.0%	67 30.6%	196 31.7%	108 29.9%	6 30.0%	294 31.3%	18 29.0%
期待する	67 59.8%	188 57.5%	201 57.8%	132 60.3%	358 57.8%	214 59.3%	13 65.0%	553 58.8%	32 51.6%
あまり期待しない	13 11.6%	26 8.0%	45 12.9%	18 8.2%	61 9.9%	39 10.8%	1 5.0%	91 9.7%	11 17.7%
全く期待しない	0 .0%	1 .3%	1 .3%	2 .9%	4 .6%	0 .0%	0 .0%	2 .2%	1 1.6%

h.抽象的な思考力

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても期待する	291 28.7%	124 33.1%	167 26.2%	178 27.4%	35 32.1%	78 30.6%	140 42.6%	108 21.1%	35 26.9%	41 35.0%	243 27.6%
期待する	568 56.1%	202 53.9%	366 57.4%	380 58.6%	51 46.8%	137 53.7%	166 50.5%	303 59.3%	72 55.4%	63 53.8%	499 56.6%
あまり期待しない	148 14.6%	48 12.8%	100 15.7%	89 13.7%	20 18.3%	39 15.3%	22 6.7%	98 19.2%	20 15.4%	13 11.1%	134 15.2%
全く期待しない	6 .6%	1 .3%	5 .8%	2 .3%	3 2.8%	1 .4%	1 .3%	2 .4%	3 2.3%	0 .0%	6 .7%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても期待する	38 33.6%	86 26.5%	101 29.0%	63 28.9%	190 30.7%	93 25.9%	4 20.0%	273 29.0%	15 24.6%
期待する	60 53.1%	188 57.8%	196 56.3%	119 54.6%	340 54.9%	205 57.1%	13 65.0%	527 56.1%	34 55.7%
あまり期待しない	15 13.3%	49 15.1%	49 14.1%	34 15.6%	86 13.9%	58 16.2%	3 15.0%	135 14.4%	11 18.0%
全く期待しない	0 .0%	2 .6%	2 .6%	2 .9%	3 .5%	3 .8%	0 .0%	5 .5%	1 1.6%

i.ものごとを分析的・批判的に考える力

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても期待する	427 42.0%	181 48.3%	246 38.3%	274 42.2%	51 46.8%	102 39.5%	182 55.2%	180 35.1%	53 40.5%	55 47.0%	365 41.2%
期待する	539 53.0%	177 47.2%	362 56.4%	347 53.4%	53 48.6%	139 53.9%	138 41.8%	302 58.9%	72 55.0%	58 49.6%	475 53.6%
あまり期待しない	48 4.7%	17 4.5%	31 4.8%	27 4.2%	4 3.7%	17 6.6%	10 3.0%	29 5.7%	6 4.6%	4 3.4%	43 4.9%
全く期待しない	3 .3%	0 .0%	3 .5%	2 .3%	1 .9%	0 .0%	0 .0%	2 .4%	0 .0%	0 .0%	3 .3%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても期待する	50 44.2%	139 42.5%	141 40.5%	93 42.3%	269 43.4%	149 41.2%	4 20.0%	395 42.0%	27 42.9%
期待する	56 49.6%	168 51.4%	190 54.6%	120 54.5%	325 52.4%	191 52.8%	14 70.0%	500 53.1%	32 50.8%
あまり期待しない	7 6.2%	18 5.5%	16 4.6%	7 3.2%	26 4.2%	19 5.2%	2 10.0%	43 4.6%	4 6.3%
全く期待しない	0 .0%	2 .6%	1 .3%	0 .0%	0 .0%	3 .8%	0 .0%	3 .3%	0 .0%

j.わかりやすく話す能力

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても期待する	412 40.6%	161 42.9%	251 39.3%	261 40.2%	52 47.7%	99 38.7%	139 42.2%	202 39.5%	56 42.7%	51 43.6%	357 40.4%
期待する	534 52.7%	188 50.1%	346 54.1%	345 53.2%	49 45.0%	140 54.7%	164 49.8%	276 54.0%	70 53.4%	58 49.6%	468 53.0%
あまり期待しない	65 6.4%	25 6.7%	40 6.3%	41 6.3%	8 7.3%	16 6.3%	24 7.3%	32 6.3%	5 3.8%	8 6.8%	55 6.2%
全く期待しない	3 .3%	1 .3%	2 .3%	2 .3%	0 .0%	1 .4%	2 .6%	1 .2%	0 .0%	0 .0%	3 .3%

j.わかりやすく話す能力

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても期待する	44 38.9%	133 40.8%	145 41.9%	87 39.5%	260 42.1%	137 38.0%	9 45.0%	380 40.5%	28 44.4%
期待する	63 55.8%	171 52.5%	174 50.3%	121 55.0%	319 51.6%	196 54.3%	11 55.0%	495 52.8%	31 49.2%
あまり期待しない	6 5.3%	20 6.1%	27 7.8%	11 5.0%	37 6.0%	27 7.5%	0 .0%	60 6.4%	4 6.3%
全く期待しない	0 .0%	2 .6%	0 .0%	1 .5%	2 .3%	1 .3%	0 .0%	3 .3%	0 .0%

k.対人関係能力・リーダーシップ

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても期待する	185 18.3%	80 21.5%	105 16.4%	123 19.0%	18 16.5%	44 17.1%	56 17.1%	91 17.8%	31 23.7%	25 21.6%	158 17.9%
期待する	582 57.5%	203 54.6%	379 59.1%	371 57.4%	67 61.5%	144 55.8%	173 52.9%	312 60.9%	76 58.0%	72 62.1%	502 56.9%
あまり期待しない	226 22.3%	83 22.3%	143 22.3%	143 22.1%	20 18.3%	63 24.4%	87 26.6%	101 19.7%	24 18.3%	17 14.7%	206 23.3%
全く期待しない	20 2.0%	6 1.6%	14 2.2%	9 1.4%	4 3.7%	7 2.7%	11 3.4%	8 1.6%	0 .0%	2 1.7%	17 1.9%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても期待する	21 18.8%	61 18.7%	61 17.6%	40 18.3%	112 18.1%	65 18.1%	5 25.0%	167 17.8%	16 25.8%
期待する	59 52.7%	189 58.0%	196 56.5%	131 59.8%	372 60.2%	188 52.2%	13 65.0%	540 57.6%	33 53.2%
あまり期待しない	28 25.0%	73 22.4%	79 22.8%	46 21.0%	121 19.6%	100 27.8%	2 10.0%	213 22.7%	11 17.7%
全く期待しない	4 3.6%	3 .9%	11 3.2%	2 .9%	13 2.1%	7 1.9%	0 .0%	18 1.9%	2 3.2%

j.社会・政治・経済に関する教養的知識

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても期待する	148 14.6%	64 17.2%	84 13.1%	92 14.2%	20 18.3%	36 14.0%	69 21.1%	62 12.1%	12 9.2%	27 23.3%	120 13.6%
期待する	541 53.4%	188 50.5%	353 55.0%	353 54.6%	53 48.6%	135 52.3%	181 55.4%	248 48.3%	85 64.9%	64 55.2%	470 53.2%
あまり期待しない	284 28.0%	107 28.8%	177 27.6%	178 27.5%	29 26.6%	77 29.8%	70 21.4%	176 34.3%	29 22.1%	24 20.7%	255 28.8%
全く期待しない	41 4.0%	13 3.5%	28 4.4%	24 3.7%	7 6.4%	10 3.9%	7 2.1%	27 5.3%	5 3.8%	1 .9%	39 4.4%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても期待する	12 10.7%	54 16.5%	46 13.3%	35 15.9%	95 15.4%	48 13.3%	3 15.0%	133 14.2%	13 20.6%
期待する	61 54.5%	164 50.2%	174 50.3%	137 62.3%	333 53.9%	189 52.4%	11 55.0%	497 53.0%	37 58.7%
あまり期待しない	35 31.3%	95 29.1%	109 31.5%	42 19.1%	164 26.5%	111 30.7%	5 25.0%	270 28.8%	10 15.9%
全く期待しない	4 3.6%	14 4.3%	17 4.9%	6 2.7%	26 4.2%	13 3.6%	1 5.0%	38 4.1%	3 4.8%

問11. あなたは、院生にどのような能力を期待していますか。修士課程（博士後期）

a.研究室の専門的な知識や応用力

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても期待する	661 78.2%	288 79.8%	373 77.1%	436 80.3%	78 80.4%	147 71.7%	192 76.8%	379 81.5%	66 71.7%	65 71.4%	587 79.0%
期待する	172 20.4%	70 19.4%	102 21.1%	102 18.8%	18 18.6%	52 25.4%	53 21.2%	83 17.8%	25 27.2%	24 26.4%	146 19.7%
あまり期待しない	12 1.4%	3 .8%	9 1.9%	5 .9%	1 1.0%	6 2.9%	5 2.0%	3 .6%	1 1.1%	2 2.2%	10 1.3%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても期待する	76 77.6%	237 84.3%	226 76.9%	117 70.5%	391 75.8%	249 82.7%	13 81.3%	620 78.9%	33 66.0%
期待する	22 22.4%	43 15.3%	62 21.1%	44 26.5%	113 21.9%	52 17.3%	3 18.8%	155 19.7%	16 32.0%
あまり期待しない	0 .0%	1 .4%	6 2.0%	5 3.0%	12 2.3%	0 .0%	0 .0%	11 1.4%	1 2.0%

b.専攻レベルの基礎的な知識や能力

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても期待する	589 69.5%	263 72.5%	326 67.4%	378 69.4%	69 71.1%	142 69.3%	187 74.5%	312 67.1%	61 65.6%	68 73.9%	513 69.0%
期待する	229 27.0%	82 22.6%	147 30.4%	144 26.4%	26 26.8%	59 28.8%	58 23.1%	134 28.8%	29 31.2%	21 22.8%	205 27.6%
あまり期待しない	26 3.1%	18 5.0%	8 1.7%	22 4.0%	1 1.0%	3 1.5%	6 2.4%	17 3.7%	2 2.2%	3 3.3%	23 3.1%
全く期待しない	3 .4%	0 .0%	3 .6%	1 .2%	1 1.0%	1 .5%	0 .0%	2 .4%	1 1.1%	0 .0%	3 .4%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても期待する	76 76.8%	206 73.0%	194 66.0%	108 65.1%	342 66.3%	224 73.9%	13 81.3%	547 69.4%	35 70.0%
期待する	21 21.2%	69 24.5%	87 29.6%	51 30.7%	154 29.8%	70 23.1%	3 18.8%	213 27.0%	14 28.0%
あまり期待しない	2 2.0%	7 2.5%	11 3.7%	6 3.6%	17 3.3%	9 3.0%	0 .0%	25 3.2%	1 2.0%
全く期待しない	0 .0%	0 .0%	2 .7%	1 .6%	3 .6%	0 .0%	0 .0%	3 .4%	0 .0%

c.英語を読む

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても期待する	589 69.4%	271 74.5%	318 65.6%	400 73.4%	61 62.9%	128 61.8%	162 64.5%	341 73.2%	59 62.8%	63 68.5%	518 69.4%
期待する	217 25.6%	77 21.2%	140 28.9%	127 23.3%	29 29.9%	61 29.5%	60 23.9%	118 25.3%	31 33.0%	23 25.0%	191 25.6%
あまり期待しない	36 4.2%	13 3.6%	23 4.7%	14 2.6%	6 6.2%	16 7.7%	23 9.2%	7 1.5%	3 3.2%	6 6.5%	30 4.0%
全く期待しない	7 .8%	3 .8%	4 .8%	4 .7%	1 1.0%	2 1.0%	6 2.4%	0 .0%	1 1.1%	0 .0%	7 .9%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても期待する	71 71.0%	206 73.0%	193 65.9%	114 67.9%	351 67.9%	218 71.9%	11 64.7%	548 69.4%	34 68.0%
期待する	26 26.0%	67 23.8%	82 28.0%	41 24.4%	129 25.0%	79 26.1%	6 35.3%	200 25.3%	15 30.0%
あまり期待しない	3 3.0%	8 2.8%	15 5.1%	10 6.0%	30 5.8%	6 2.0%	0 .0%	35 4.4%	1 2.0%
全く期待しない	0 .0%	1 .4%	3 1.0%	3 1.8%	7 1.4%	0 .0%	0 .0%	7 .9%	0 .0%

d.英語で話す

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても期待する	368 43.4%	174 47.9%	194 40.0%	254 46.6%	36 37.1%	78 37.9%	88 35.3%	230 49.4%	34 36.2%	29 31.5%	334 44.8%
期待する	369 43.5%	146 40.2%	223 46.0%	239 43.9%	43 44.3%	87 42.2%	105 42.2%	204 43.8%	44 46.8%	43 46.7%	322 43.2%
あまり期待しない	100 11.8%	39 10.7%	61 12.6%	46 8.4%	16 16.5%	38 18.4%	50 20.1%	29 6.2%	15 16.0%	19 20.7%	79 10.6%
全く期待しない	11 1.3%	4 1.1%	7 1.4%	6 1.1%	2 2.1%	3 1.5%	6 2.4%	3 .6%	1 1.1%	1 1.1%	10 1.3%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても期待する	37 37.0%	127 45.0%	125 42.5%	76 45.8%	234 45.3%	121 39.9%	7 41.2%	339 43.0%	25 50.0%
期待する	47 47.0%	122 43.3%	129 43.9%	68 41.0%	208 40.3%	147 48.5%	9 52.9%	342 43.3%	22 44.0%
あまり期待しない	16 16.0%	32 11.3%	34 11.6%	18 10.8%	63 12.2%	35 11.6%	1 5.9%	97 12.3%	3 6.0%
全く期待しない	0 .0%	1 .4%	6 2.0%	4 2.4%	11 2.1%	0 .0%	0 .0%	11 1.4%	0 .0%

e.英語で書く

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても期待する	472 55.6%	212 58.4%	260 53.5%	323 59.3%	47 48.5%	102 49.3%	112 44.8%	296 63.5%	43 45.7%	44 47.8%	420 56.3%
期待する	305 35.9%	123 33.9%	182 37.4%	189 34.7%	38 39.2%	78 37.7%	88 35.2%	157 33.7%	46 48.9%	35 38.0%	268 35.9%
あまり期待しない	62 7.3%	25 6.9%	37 7.6%	28 5.1%	10 10.3%	24 11.6%	43 17.2%	11 2.4%	4 4.3%	12 13.0%	49 6.6%
全く期待しない	10 1.2%	3 .8%	7 1.4%	5 .9%	2 2.1%	3 1.4%	7 2.8%	2 .4%	1 1.1%	1 1.1%	9 1.2%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても期待する	56 56.0%	163 57.8%	158 53.7%	89 53.3%	286 55.3%	167 55.1%	10 58.8%	435 55.1%	29 58.0%
期待する	33 33.0%	102 36.2%	107 36.4%	63 37.7%	178 34.4%	118 38.9%	6 35.3%	285 36.1%	19 38.0%
あまり期待しない	11 11.0%	16 5.7%	24 8.2%	11 6.6%	43 8.3%	18 5.9%	1 5.9%	60 7.6%	2 4.0%
全く期待しない	0 .0%	1 .4%	5 1.7%	4 2.4%	10 1.9%	0 .0%	0 .0%	10 1.3%	0 .0%

f.職業的汎用能力

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても期待する	221 26.2%	91 25.2%	130 27.0%	141 25.9%	25 26.0%	55 27.1%	50 20.2%	128 27.6%	29 31.2%	36 39.6%	183 24.7%
期待する	410 48.6%	165 45.7%	245 50.8%	274 50.4%	46 47.9%	90 44.3%	107 43.3%	238 51.3%	47 50.5%	43 47.3%	362 48.9%
あまり期待しない	184 21.8%	90 24.9%	94 19.5%	114 21.0%	21 21.9%	49 24.1%	74 30.0%	90 19.4%	13 14.0%	9 9.9%	171 23.1%
全く期待しない	28 3.3%	15 4.2%	13 2.7%	15 2.8%	4 4.2%	9 4.4%	16 6.5%	8 1.7%	4 4.3%	3 3.3%	25 3.4%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても期待する	25 25.0%	80 28.8%	71 24.3%	43 25.7%	133 25.9%	78 26.0%	9 52.9%	207 26.4%	13 26.0%
期待する	47 47.0%	133 47.8%	139 47.6%	89 53.3%	247 48.1%	152 50.7%	3 17.6%	381 48.6%	23 46.0%
あまり期待しない	23 23.0%	56 20.1%	73 25.0%	30 18.0%	118 23.0%	59 19.7%	4 23.5%	169 21.6%	13 26.0%
全く期待しない	5 5.0%	9 3.2%	9 3.1%	5 3.0%	16 3.1%	11 3.7%	1 5.9%	27 3.4%	1 2.0%

g.プレゼン・アピール能力

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても期待する	540 63.6%	232 63.7%	308 63.5%	341 62.5%	64 66.0%	135 65.5%	131 52.4%	322 69.1%	63 67.0%	59 64.8%	473 63.3%
期待する	272 32.0%	115 31.6%	157 32.4%	185 33.9%	26 26.8%	61 29.6%	101 40.4%	130 27.9%	26 27.7%	29 31.9%	240 32.1%
あまり期待しない	36 4.2%	17 4.7%	19 3.9%	19 3.5%	7 7.2%	10 4.9%	18 7.2%	13 2.8%	5 5.3%	3 3.3%	33 4.4%
全く期待しない	1 .1%	0 .0%	1 .2%	1 .2%	0 .0%	0 .0%	0 .0%	1 .2%	0 .0%	0 .0%	1 .1%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても期待する	65 65.0%	190 67.6%	185 62.9%	94 56.0%	329 63.5%	188 62.3%	13 76.5%	504 63.8%	28 56.0%
期待する	30 30.0%	84 29.9%	92 31.3%	66 39.3%	168 32.4%	99 32.8%	3 17.6%	255 32.3%	16 32.0%
あまり期待しない	5 5.0%	7 2.5%	16 5.4%	8 4.8%	20 3.9%	15 5.0%	1 5.9%	30 3.8%	6 12.0%
全く期待しない	0 .0%	0 .0%	1 .3%	0 .0%	1 .2%	0 .0%	0 .0%	1 .1%	0 .0%

h.抽象的な思考力

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても期待する	533 62.9%	233 64.0%	300 62.1%	337 61.9%	55 56.7%	141 68.4%	184 73.6%	267 57.5%	54 57.4%	65 71.4%	459 61.6%
期待する	261 30.8%	111 30.5%	150 31.1%	176 32.4%	31 32.0%	54 26.2%	61 24.4%	163 35.1%	29 30.9%	21 23.1%	238 31.9%
あまり期待しない	50 5.9%	19 5.2%	31 6.4%	29 5.3%	10 10.3%	11 5.3%	5 2.0%	33 7.1%	9 9.6%	5 5.5%	45 6.0%
全く期待しない	3 .4%	1 .3%	2 .4%	2 .4%	1 1.0%	0 .0%	0 .0%	1 .2%	2 2.1%	0 .0%	3 .4%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても期待する	68 68.0%	173 62.0%	191 65.2%	97 57.4%	332 64.2%	182 60.5%	13 76.5%	502 63.7%	27 54.0%
期待する	28 28.0%	85 30.5%	85 29.0%	61 36.1%	155 30.0%	96 31.9%	4 23.5%	235 29.8%	21 42.0%
あまり期待しない	4 4.0%	20 7.2%	16 5.5%	10 5.9%	28 5.4%	22 7.3%	0 .0%	49 6.2%	1 2.0%
全く期待しない	0 .0%	1 .4%	1 .3%	1 .6%	2 .4%	1 .3%	0 .0%	2 .3%	1 2.0%

i.ものごとを分析的・批判的に考える力

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても期待する	668 78.8%	289 79.2%	379 78.5%	426 78.0%	79 81.4%	163 79.5%	208 83.2%	360 77.4%	69 73.4%	76 83.5%	583 78.2%
期待する	170 20.0%	70 19.2%	100 20.7%	115 21.1%	17 17.5%	38 18.5%	40 16.0%	99 21.3%	25 26.6%	15 16.5%	154 20.6%
あまり期待しない	9 1.1%	6 1.6%	3 .6%	4 .7%	1 1.0%	4 2.0%	2 .8%	5 1.1%	0 .0%	0 .0%	8 1.1%
全く期待しない	1 .1%	0 .0%	1 .2%	1 .2%	0 .0%	0 .0%	0 .0%	1 .2%	0 .0%	0 .0%	1 .1%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても期待する	83 83.0%	228 81.1%	231 78.6%	121 72.5%	406 78.5%	238 78.8%	16 94.1%	625 79.2%	37 74.0%
期待する	15 15.0%	49 17.4%	59 20.1%	46 27.5%	107 20.7%	59 19.5%	1 5.9%	155 19.6%	13 26.0%
あまり期待しない	2 2.0%	4 1.4%	3 1.0%	0 .0%	3 .6%	5 1.7%	0 .0%	8 1.0%	0 .0%
全く期待しない	0 .0%	0 .0%	1 .3%	0 .0%	1 .2%	0 .0%	0 .0%	1 .1%	0 .0%

j.わかりやすく話す能力

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても期待する	563 66.4%	249 68.2%	314 65.0%	361 66.1%	63 64.9%	139 67.8%	160 63.7%	319 68.8%	59 62.8%	58 63.7%	496 66.5%
期待する	261 30.8%	107 29.3%	154 31.9%	172 31.5%	29 29.9%	60 29.3%	79 31.5%	136 29.3%	34 36.2%	32 35.2%	227 30.4%
あまり期待しない	22 2.6%	8 2.2%	14 2.9%	11 2.0%	5 5.2%	6 2.9%	11 4.4%	8 1.7%	1 1.1%	1 1.1%	21 2.8%
全く期待しない	2 .2%	1 .3%	1 .2%	2 .4%	0 .0%	0 .0%	1 .4%	1 .2%	0 .0%	0 .0%	2 .3%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても期待する	67 67.0%	191 68.2%	198 67.3%	102 60.7%	348 67.3%	192 63.6%	14 82.4%	524 66.4%	32 64.0%
期待する	29 29.0%	82 29.3%	88 29.9%	61 36.3%	156 30.2%	100 33.1%	2 11.8%	241 30.5%	18 36.0%
あまり期待しない	4 4.0%	6 2.1%	7 2.4%	5 3.0%	12 2.3%	9 3.0%	1 5.9%	22 2.8%	0 .0%
全く期待しない	0 .0%	1 .4%	1 .3%	0 .0%	1 .2%	1 .3%	0 .0%	2 .3%	0 .0%

k.対人関係能力・リーダーシップ

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても期待する	363 42.9%	156 43.1%	207 42.8%	243 44.8%	41 42.3%	79 38.3%	76 30.6%	229 49.2%	39 41.5%	48 53.3%	310 41.6%
期待する	372 44.0%	155 42.8%	217 44.8%	231 42.5%	46 47.4%	95 46.1%	121 48.8%	194 41.7%	44 46.8%	35 38.9%	332 44.6%
あまり期待しない	100 11.8%	48 13.3%	52 10.7%	65 12.0%	8 8.2%	27 13.1%	45 18.1%	37 8.0%	11 11.7%	6 6.7%	93 12.5%
全く期待しない	11 1.3%	3 .8%	8 1.7%	4 .7%	2 2.1%	5 2.4%	6 2.4%	5 1.1%	0 .0%	1 1.1%	10 1.3%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても期待する	44 44.4%	132 47.1%	125 42.7%	59 35.1%	219 42.4%	129 43.0%	10 58.8%	339 43.0%	19 38.8%
期待する	37 37.4%	116 41.4%	126 43.0%	90 53.6%	233 45.1%	127 42.3%	6 35.3%	347 44.0%	21 42.9%
あまり期待しない	16 16.2%	31 11.1%	37 12.6%	16 9.5%	57 11.0%	41 13.7%	1 5.9%	91 11.5%	9 18.4%
全く期待しない	2 2.0%	1 .4%	5 1.7%	3 1.8%	8 1.5%	3 1.0%	0 .0%	11 1.4%	0 .0%

l.社会・政治・経済に関する教養的知識

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても期待する	232 27.5%	101 27.8%	131 27.2%	143 26.4%	29 29.9%	60 29.1%	93 37.5%	104 22.4%	22 23.4%	37 41.1%	193 25.9%
期待する	442 52.3%	186 51.2%	256 53.1%	296 54.6%	45 46.4%	101 49.0%	116 46.8%	248 53.4%	59 62.8%	45 50.0%	391 52.6%
あまり期待しない	142 16.8%	61 16.8%	81 16.8%	83 15.3%	18 18.6%	41 19.9%	36 14.5%	91 19.6%	10 10.6%	7 7.8%	133 17.9%
全く期待しない	29 3.4%	15 4.1%	14 2.9%	20 3.7%	5 5.2%	4 1.9%	3 1.2%	21 4.5%	3 3.2%	1 1.1%	27 3.6%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても期待する	27 27.6%	77 27.4%	77 26.3%	49 29.3%	145 28.2%	78 25.9%	6 35.3%	212 27.0%	17 34.0%
期待する	48 49.0%	149 53.0%	150 51.2%	91 54.5%	268 52.0%	160 53.2%	7 41.2%	414 52.7%	24 48.0%
あまり期待しない	19 19.4%	48 17.1%	55 18.8%	20 12.0%	82 15.9%	56 18.6%	3 17.6%	133 16.9%	7 14.0%
全く期待しない	4 4.1%	7 2.5%	11 3.8%	7 4.2%	20 3.9%	7 2.3%	1 5.9%	27 3.4%	2 4.0%

問12. あなたは、院生の能力形成にあたって、以下の事柄はどの程度有効だとお考えですか。

a.コースワークによる専攻横断的な教育

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても有効である	101 10.0%	57 15.2%	44 6.9%	67 10.3%	11 10.2%	23 9.0%	54 16.3%	31 6.1%	10 7.7%	17 14.7%	83 9.4%
有効である	513 50.7%	186 49.6%	327 51.3%	315 48.6%	53 49.1%	145 56.6%	176 53.2%	236 46.5%	77 59.2%	64 55.2%	446 50.6%
あまり有効でない	290 28.7%	93 24.8%	197 30.9%	190 29.3%	33 30.6%	67 26.2%	81 24.5%	167 32.9%	33 25.4%	25 21.6%	259 29.4%
全く有効でない	51 5.0%	24 6.4%	27 4.2%	37 5.7%	6 5.6%	8 3.1%	7 2.1%	39 7.7%	4 3.1%	2 1.7%	47 5.3%
わからない	57 5.6%	15 4.0%	42 6.6%	39 6.0%	5 4.6%	13 5.1%	13 3.9%	35 6.9%	6 4.6%	8 6.9%	47 5.3%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても有効である	11 9.6%	38 11.7%	34 9.8%	17 7.8%	65 10.5%	33 9.2%	3 15.0%	94 10.0%	7 11.1%
有効である	57 50.0%	152 46.8%	184 53.2%	119 54.6%	328 53.1%	169 47.1%	11 55.0%	472 50.4%	36 57.1%
あまり有効でない	34 29.8%	96 29.5%	93 26.9%	63 28.9%	172 27.8%	107 29.8%	6 30.0%	273 29.2%	13 20.6%
全く有効でない	5 4.4%	19 5.8%	18 5.2%	9 4.1%	28 4.5%	22 6.1%	0 .0%	48 5.1%	2 3.2%
わからない	7 6.1%	20 6.2%	17 4.9%	10 4.6%	25 4.0%	28 7.8%	0 .0%	49 5.2%	5 7.9%

b.研究室教育によって教員や院生間の関係を強化する

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても有効である	288 28.4%	124 33.1%	164 25.6%	203 31.3%	32 29.4%	53 20.6%	80 24.2%	172 33.6%	32 24.6%	23 19.8%	260 29.4%
有効である	591 58.2%	199 53.1%	392 61.3%	369 56.9%	65 59.6%	157 61.1%	190 57.6%	289 56.4%	82 63.1%	68 58.6%	514 58.1%
あまり有効でない	106 10.4%	40 10.7%	66 10.3%	57 8.8%	9 8.3%	40 15.6%	48 14.5%	38 7.4%	12 9.2%	22 19.0%	84 9.5%
全く有効でない	11 1.1%	7 1.9%	4 .6%	9 1.4%	0 .0%	2 .8%	4 1.2%	5 1.0%	1 .8%	2 1.7%	9 1.0%
わからない	19 1.9%	5 1.3%	14 2.2%	11 1.7%	3 2.8%	5 1.9%	8 2.4%	8 1.6%	3 2.3%	1 .9%	18 2.0%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても有効である	37 32.5%	107 32.7%	100 29.0%	41 18.6%	172 27.8%	103 28.5%	7 35.0%	266 28.4%	18 28.1%
有効である	62 54.4%	177 54.1%	208 60.3%	138 62.7%	364 58.8%	206 57.1%	13 65.0%	547 58.3%	35 54.7%
あまり有効でない	13 11.4%	32 9.8%	28 8.1%	33 15.0%	65 10.5%	41 11.4%	0 .0%	98 10.4%	8 12.5%
全く有効でない	1 .9%	4 1.2%	4 1.2%	2 .9%	6 1.0%	5 1.4%	0 .0%	9 1.0%	2 3.1%
わからない	1 .9%	7 2.1%	5 1.4%	6 2.7%	12 1.9%	6 1.7%	0 .0%	18 1.9%	1 1.6%

c.複数教員による指導

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても有効である	163 16.0%	79 21.1%	84 13.1%	104 16.0%	20 18.3%	39 15.1%	78 23.6%	59 11.5%	17 13.1%	27 23.1%	135 15.3%
有効である	527 51.9%	187 50.0%	340 53.0%	335 51.6%	63 57.8%	129 50.0%	174 52.6%	248 48.4%	80 61.5%	70 59.8%	451 51.0%
あまり有効でない	258 25.4%	91 24.3%	167 26.0%	174 26.8%	16 14.7%	68 26.4%	65 19.6%	159 31.1%	25 19.2%	15 12.8%	237 26.8%
全く有効でない	33 3.2%	11 2.9%	22 3.4%	17 2.6%	4 3.7%	12 4.7%	8 2.4%	23 4.5%	2 1.5%	1 .9%	32 3.6%
わからない	35 3.4%	6 1.6%	29 4.5%	19 2.9%	6 5.5%	10 3.9%	6 1.8%	23 4.5%	6 4.6%	4 3.4%	30 3.4%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても有効である	24 21.1%	58 17.8%	53 15.3%	27 12.2%	94 15.2%	65 18.0%	4 20.0%	154 16.4%	9 14.1%
有効である	56 49.1%	166 50.9%	196 56.6%	104 47.1%	320 51.7%	186 51.4%	12 60.0%	486 51.8%	33 51.6%
あまり有効でない	24 21.1%	84 25.8%	77 22.3%	71 32.1%	166 26.8%	85 23.5%	3 15.0%	239 25.5%	16 25.0%
全く有効でない	4 3.5%	9 2.8%	10 2.9%	10 4.5%	21 3.4%	11 3.0%	0 .0%	29 3.1%	3 4.7%
わからない	6 5.3%	9 2.8%	10 2.9%	9 4.1%	18 2.9%	15 4.1%	1 5.0%	31 3.3%	3 4.7%

d.TAやRAの経験

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても有効である	203 19.9%	84 22.5%	119 18.5%	129 19.8%	17 15.6%	57 22.1%	58 17.6%	112 21.8%	27 20.6%	21 17.9%	181 20.4%
有効である	617 60.6%	225 60.2%	392 60.9%	395 60.7%	63 57.8%	159 61.6%	208 63.0%	303 58.9%	81 61.8%	78 66.7%	531 59.9%
あまり有効でない	153 15.0%	54 14.4%	99 15.4%	101 15.5%	22 20.2%	30 11.6%	46 13.9%	77 15.0%	20 15.3%	14 12.0%	135 15.2%
全く有効でない	28 2.8%	9 2.4%	19 3.0%	18 2.8%	4 3.7%	6 2.3%	10 3.0%	16 3.1%	1 .8%	1 .9%	26 2.9%
わからない	17 1.7%	2 .5%	15 2.3%	8 1.2%	3 2.8%	6 2.3%	8 2.4%	6 1.2%	2 1.5%	3 2.6%	14 1.6%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても有効である	29 25.4%	72 22.0%	71 20.5%	30 13.6%	116 18.7%	81 22.3%	4 20.0%	190 20.2%	12 18.8%
有効である	72 63.2%	180 55.0%	221 63.7%	138 62.4%	385 62.1%	206 56.7%	16 80.0%	577 61.3%	30 46.9%
あまり有効でない	9 7.9%	60 18.3%	43 12.4%	39 17.6%	91 14.7%	59 16.3%	0 .0%	135 14.3%	16 25.0%
全く有効でない	3 2.6%	12 3.7%	6 1.7%	7 3.2%	16 2.6%	12 3.3%	0 .0%	27 2.9%	1 1.6%
わからない	1 .9%	3 .9%	6 1.7%	7 3.2%	12 1.9%	5 1.4%	0 .0%	12 1.3%	5 7.8%

e.留学経験

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても有効である	366 36.0%	163 43.5%	203 31.6%	236 36.2%	45 41.3%	85 33.1%	126 38.1%	183 35.7%	41 31.3%	43 36.8%	318 35.9%
有効である	504 49.5%	173 46.1%	331 51.5%	322 49.4%	43 39.4%	139 54.1%	156 47.1%	257 50.1%	70 53.4%	53 45.3%	442 49.8%
あまり有効でない	92 9.0%	23 6.1%	69 10.7%	60 9.2%	11 10.1%	21 8.2%	23 6.9%	51 9.9%	16 12.2%	16 13.7%	76 8.6%
全く有効でない	18 1.8%	5 1.3%	13 2.0%	9 1.4%	5 4.6%	4 1.6%	9 2.7%	6 1.2%	1 .8%	0 .0%	18 2.0%
わからない	38 3.7%	11 2.9%	27 4.2%	25 3.8%	5 4.6%	8 3.1%	17 5.1%	16 3.1%	3 2.3%	5 4.3%	33 3.7%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても有効である	51 44.7%	129 39.4%	116 33.5%	66 29.7%	208 33.5%	142 39.2%	7 35.0%	343 36.5%	18 28.1%
有効である	43 37.7%	158 48.3%	174 50.3%	124 55.9%	324 52.2%	168 46.4%	8 40.0%	461 49.0%	35 54.7%
あまり有効でない	11 9.6%	25 7.6%	34 9.8%	22 9.9%	62 10.0%	27 7.5%	2 10.0%	86 9.1%	6 9.4%
全く有効でない	1 .9%	4 1.2%	7 2.0%	6 2.7%	12 1.9%	6 1.7%	0 .0%	17 1.8%	1 1.6%
わからない	8 7.0%	11 3.4%	15 4.3%	4 1.8%	15 2.4%	19 5.2%	3 15.0%	34 3.6%	4 6.3%

f企業や研究所、地域社会と連携した教育プログラムへの参加

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても有効である	135 13.2%	40 10.7%	95 14.8%	87 13.3%	16 14.7%	32 12.4%	41 12.4%	70 13.6%	16 12.2%	14 12.0%	120 13.5%
有効である	522 51.2%	188 50.1%	334 51.9%	337 51.7%	48 44.0%	137 53.1%	145 43.8%	272 52.9%	83 63.4%	73 62.4%	446 50.2%
あまり有効でない	236 23.2%	100 26.7%	136 21.1%	145 22.2%	24 22.0%	67 26.0%	96 29.0%	110 21.4%	24 18.3%	19 16.2%	211 23.8%
全く有効でない	54 5.3%	20 5.3%	34 5.3%	37 5.7%	9 8.3%	8 3.1%	21 6.3%	28 5.4%	2 1.5%	2 1.7%	49 5.5%
わからない	72 7.1%	27 7.2%	45 7.0%	46 7.1%	12 11.0%	14 5.4%	28 8.5%	34 6.6%	6 4.6%	9 7.7%	62 7.0%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても有効である	14 12.3%	51 15.6%	46 13.3%	23 10.4%	78 12.6%	54 14.9%	1 5.0%	122 13.0%	10 15.6%
有効である	61 53.5%	169 51.7%	165 47.6%	123 55.4%	305 49.1%	196 54.0%	14 70.0%	484 51.4%	33 51.6%
あまり有効でない	25 21.9%	69 21.1%	88 25.4%	51 23.0%	163 26.2%	65 17.9%	3 15.0%	220 23.4%	12 18.8%
全く有効でない	5 4.4%	18 5.5%	18 5.2%	12 5.4%	32 5.2%	21 5.8%	1 5.0%	49 5.2%	5 7.8%
わからない	9 7.9%	20 6.1%	30 8.6%	13 5.9%	43 6.9%	27 7.4%	1 5.0%	67 7.1%	4 6.3%

問13. あなたは、研究室教育を行っていく上で、次の事柄はどの程度制約になっているとお考えですか。

a.担当する授業科目数

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
極めて大きな制約となっている	141 13.9%	33 8.9%	108 16.9%	87 13.5%	10 9.3%	44 17.1%	46 14.0%	60 11.8%	25 19.4%	21 18.1%	120 13.6%
大きな制約となっている	217 21.5%	75 20.2%	142 22.2%	138 21.4%	15 13.9%	64 24.9%	84 25.5%	100 19.6%	24 18.6%	34 29.3%	177 20.1%
ある程度は制約となっている	397 39.3%	146 39.4%	251 39.2%	245 37.9%	49 45.4%	103 40.1%	121 36.8%	208 40.9%	50 38.8%	36 31.0%	358 40.6%
制約となっていない	256 25.3%	117 31.5%	139 21.7%	176 27.2%	34 31.5%	46 17.9%	78 23.7%	141 27.7%	30 23.3%	25 21.6%	227 25.7%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
極めて大きな制約となっている	18 15.9%	60 18.5%	40 11.6%	23 10.4%	84 13.6%	52 14.4%	4 21.1%	131 14.0%	9 14.1%
大きな制約となっている	30 26.5%	66 20.4%	78 22.6%	39 17.6%	127 20.6%	79 21.9%	5 26.3%	201 21.5%	12 18.8%
ある程度は制約となっている	44 38.9%	112 34.6%	136 39.4%	101 45.7%	249 40.4%	134 37.1%	9 47.4%	369 39.5%	23 35.9%
制約となっていない	21 18.6%	86 26.5%	91 26.4%	58 26.2%	157 25.4%	96 26.6%	1 5.3%	234 25.0%	20 31.3%

b.指導する大学院生数

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
極めて大きな制約となっている	38 3.8%	15 4.0%	23 3.6%	23 3.6%	5 4.7%	10 3.9%	19 5.8%	15 3.0%	3 2.3%	6 5.2%	32 3.6%
大きな制約となっている	126 12.5%	51 13.7%	75 11.8%	86 13.3%	12 11.2%	28 10.9%	53 16.2%	54 10.6%	11 8.5%	16 13.9%	109 12.4%
ある程度は制約となっている	371 36.8%	137 36.9%	234 36.7%	250 38.8%	31 29.0%	90 35.0%	101 30.9%	202 39.8%	51 39.2%	42 36.5%	324 36.7%
制約となっていない	474 47.0%	168 45.3%	306 48.0%	286 44.3%	59 55.1%	129 50.2%	154 47.1%	237 46.7%	65 50.0%	51 44.3%	417 47.3%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
極めて大きな制約となっている	6 5.3%	15 4.6%	10 2.9%	7 3.2%	18 2.9%	19 5.3%	1 5.3%	35 3.7%	3 4.8%
大きな制約となっている	20 17.7%	44 13.6%	38 11.0%	23 10.5%	73 11.9%	46 12.7%	4 21.1%	117 12.5%	8 12.7%
ある程度は制約となっている	40 35.4%	115 35.6%	128 37.0%	86 39.1%	228 37.0%	135 37.4%	4 21.1%	342 36.6%	25 39.7%
制約となっていない	47 41.6%	149 46.1%	170 49.1%	104 47.3%	297 48.2%	161 44.6%	10 52.6%	441 47.2%	27 42.9%

c.優秀な院生が来なくなっている

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
極めて大きな制約となっている	193 19.1%	81 21.8%	112 17.5%	121 18.8%	19 17.8%	53 20.5%	66 20.1%	100 19.7%	16 12.4%	27 23.1%	161 18.3%
大きな制約となっている	325 32.2%	101 27.2%	224 35.1%	208 32.3%	29 27.1%	88 34.0%	112 34.0%	163 32.1%	37 28.7%	39 33.3%	281 31.9%
ある程度は制約となっている	330 32.7%	109 29.4%	221 34.6%	206 32.0%	34 31.8%	90 34.7%	103 31.3%	167 32.9%	46 35.7%	38 32.5%	290 33.0%
制約となっていない	162 16.0%	80 21.6%	82 12.8%	109 16.9%	25 23.4%	28 10.8%	48 14.6%	78 15.4%	30 23.3%	13 11.1%	148 16.8%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
極めて大きな制約となっている	31 27.7%	59 18.2%	69 19.9%	32 14.5%	108 17.5%	77 21.4%	4 21.1%	182 19.5%	9 14.3%
大きな制約となっている	27 24.1%	102 31.5%	117 33.8%	76 34.5%	216 35.0%	102 28.3%	2 10.5%	305 32.6%	18 28.6%
ある程度は制約となっている	32 28.6%	105 32.4%	113 32.7%	78 35.5%	204 33.1%	116 32.2%	7 36.8%	297 31.8%	26 41.3%
制約となっていない	22 19.6%	58 17.9%	47 13.6%	34 15.5%	89 14.4%	65 18.1%	6 31.6%	151 16.1%	10 15.9%

d.外国人留学生に対するサポート体制の不足

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
極めて大きな制約となっている	103 10.4%	37 10.1%	66 10.6%	67 10.5%	13 12.5%	23 9.3%	37 11.4%	46 9.2%	12 9.5%	16 14.0%	87 10.1%
大きな制約となっている	206 20.8%	79 21.5%	127 20.4%	139 21.8%	28 26.9%	39 15.7%	77 23.7%	100 20.1%	22 17.5%	21 18.4%	182 21.0%
ある程度は制約となっている	337 34.0%	132 35.9%	205 32.9%	221 34.6%	25 24.0%	91 36.7%	100 30.8%	176 35.3%	46 36.5%	34 29.8%	299 34.6%
制約となっていない	345 34.8%	120 32.6%	225 36.1%	212 33.2%	38 36.5%	95 38.3%	111 34.2%	176 35.3%	46 36.5%	43 37.7%	297 34.3%

問13 d外国人留学生に対す

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
極めて大きな制約となっている	13 11.7%	36 11.3%	38 11.1%	16 7.6%	66 10.9%	33 9.3%	3 15.8%	95 10.3%	7 11.9%
大きな制約となっている	16 14.4%	66 20.6%	74 21.6%	48 22.7%	134 22.2%	68 19.1%	2 10.5%	191 20.7%	12 20.3%
ある程度は制約となっている	37 33.3%	104 32.5%	127 37.1%	67 31.8%	203 33.7%	127 35.7%	4 21.1%	310 33.7%	23 39.0%
制約となっていない	45 40.5%	114 35.6%	103 30.1%	80 37.9%	200 33.2%	128 36.0%	10 52.6%	325 35.3%	17 28.8%

問13 e実験施設・設備の老朽化・スペースの不足

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
極めて大きな制約となっている	188 18.6%	74 20.1%	114 17.8%	130 20.2%	25 23.1%	33 12.9%	28 8.6%	136 26.7%	15 11.6%	22 19.0%	164 18.6%
大きな制約となっている	203 20.1%	74 20.1%	129 20.2%	132 20.5%	22 20.4%	49 19.1%	52 16.0%	110 21.6%	33 25.6%	16 13.8%	186 21.1%
ある程度は制約となっている	315 31.2%	99 26.8%	216 33.8%	207 32.1%	28 25.9%	80 31.3%	109 33.4%	158 31.0%	32 24.8%	40 34.5%	272 30.9%
制約となっていない	303 30.0%	122 33.1%	181 28.3%	176 27.3%	33 30.6%	94 36.7%	137 42.0%	106 20.8%	49 38.0%	38 32.8%	258 29.3%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
極めて大きな制約となっている	24 21.6%	82 25.2%	62 17.9%	18 8.3%	95 15.4%	87 24.2%	2 10.5%	177 19.0%	9 14.1%
大きな制約となっている	23 20.7%	63 19.4%	62 17.9%	54 24.8%	124 20.1%	73 20.3%	4 21.1%	185 19.8%	16 25.0%
ある程度は制約となっている	33 29.7%	92 28.3%	121 34.9%	67 30.7%	199 32.3%	109 30.4%	5 26.3%	290 31.1%	22 34.4%
制約となっていない	31 27.9%	88 27.1%	102 29.4%	79 36.2%	199 32.3%	90 25.1%	8 42.1%	281 30.1%	17 26.6%

問13 f教育研究費の不足 と

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
極めて大きな制約となっている	254 25.0%	90 24.2%	164 25.5%	189 29.2%	33 30.6%	32 12.4%	56 17.0%	166 32.5%	19 14.6%	28 24.1%	222 25.1%
大きな制約となっている	243 24.0%	88 23.7%	155 24.1%	164 25.3%	20 18.5%	59 22.9%	71 21.6%	130 25.4%	33 25.4%	23 19.8%	218 24.7%
ある程度は制約となっている	324 32.0%	118 31.7%	206 32.1%	192 29.6%	31 28.7%	101 39.1%	118 35.9%	138 27.0%	54 41.5%	40 34.5%	279 31.6%
制約となっていない	193 19.0%	76 20.4%	117 18.2%	103 15.9%	24 22.2%	66 25.6%	84 25.5%	77 15.1%	24 18.5%	25 21.6%	165 18.7%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
極めて大きな制約となっている	32 28.8%	88 27.1%	94 27.1%	36 16.2%	141 22.7%	102 28.4%	5 26.3%	236 25.2%	13 20.3%
大きな制約となっている	28 25.2%	85 26.2%	72 20.7%	56 25.2%	135 21.7%	102 28.4%	3 15.8%	227 24.2%	15 23.4%
ある程度は制約となっている	30 27.0%	101 31.1%	117 33.7%	73 32.9%	212 34.1%	103 28.7%	7 36.8%	297 31.7%	22 34.4%
制約となっていない	21 18.9%	51 15.7%	64 18.4%	57 25.7%	133 21.4%	52 14.5%	4 21.1%	177 18.9%	14 21.9%

g.院生の経済的問題やアルバイト

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
極めて大きな制約となっている	180 17.8%	62 16.7%	118 18.5%	119 18.4%	24 22.4%	37 14.5%	66 20.1%	83 16.3%	20 15.4%	29 25.2%	149 16.9%
大きな制約となっている	290 28.7%	107 28.8%	183 28.6%	194 30.0%	29 27.1%	67 26.2%	93 28.4%	155 30.5%	29 22.3%	31 27.0%	254 28.8%
ある程度は制約となっている	402 39.8%	158 42.6%	244 38.2%	257 39.7%	38 35.5%	107 41.8%	124 37.8%	204 40.2%	60 46.2%	42 36.5%	358 40.6%
制約となっていない	138 13.7%	44 11.9%	94 14.7%	77 11.9%	16 15.0%	45 17.6%	45 13.7%	66 13.0%	21 16.2%	13 11.3%	121 13.7%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
極めて大きな制約となっている	28 25.2%	56 17.2%	62 17.9%	33 15.0%	106 17.2%	68 18.9%	4 21.1%	170 18.2%	8 12.7%
大きな制約となっている	22 19.8%	93 28.6%	104 30.1%	67 30.5%	182 29.4%	101 28.1%	3 15.8%	272 29.1%	13 20.6%
ある程度は制約となっている	43 38.7%	134 41.2%	135 39.0%	88 40.0%	246 39.8%	146 40.7%	7 36.8%	367 39.3%	32 50.8%
制約となっていない	18 16.2%	42 12.9%	45 13.0%	32 14.5%	84 13.6%	44 12.3%	5 26.3%	126 13.5%	10 15.9%

h.院生の就職活動の長期化

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
極めて大きな制約となっている	度数 大学分類 の %	128 34.5%	181 28.4%	214 33.1%	38 35.8%	57 22.4%	62 18.9%	210 41.3%	30 23.3%	29 25.2%	278 31.6%
大きな制約となっている	度数 大学分類 の %	115 31.0%	198 31.1%	191 29.5%	33 31.1%	89 34.9%	106 32.3%	162 31.9%	32 24.8%	34 29.6%	274 31.1%
ある程度は制約となっている	度数 大学分類 の %	85 22.9%	173 27.2%	160 24.7%	21 19.8%	77 30.2%	101 30.8%	110 21.7%	38 29.5%	26 22.6%	230 26.1%
制約となっていない	度数 大学分類 の %	43 11.6%	85 13.3%	82 12.7%	14 13.2%	32 12.5%	59 18.0%	26 5.1%	29 22.5%	26 22.6%	98 11.1%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
極めて大きな制約となっている	43 38.7%	124 38.2%	107 30.9%	34 15.6%	169 27.4%	127 35.4%	8 42.1%	293 31.3%	15 24.6%
大きな制約となっている	21 18.9%	101 31.1%	101 29.2%	87 39.9%	195 31.7%	113 31.5%	2 10.5%	288 30.8%	19 31.1%
ある程度は制約となっている	32 28.8%	62 19.1%	93 26.9%	69 31.7%	171 27.8%	79 22.0%	5 26.3%	237 25.3%	19 31.1%
制約となっていない	15 13.5%	38 11.7%	45 13.0%	28 12.8%	81 13.1%	40 11.1%	4 21.1%	117 12.5%	8 13.1%

j.院生の資格取得志向

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
極めて大きな制約となっている	43 4.3%	15 4.1%	28 4.4%	33 5.1%	3 2.8%	7 2.7%	17 5.2%	21 4.1%	2 1.6%	9 7.8%	34 3.9%
大きな制約となっている	126 12.5%	35 9.5%	91 14.3%	83 12.8%	11 10.4%	32 12.5%	40 12.2%	60 11.8%	18 14.0%	14 12.2%	109 12.4%
ある程度は制約となっている	348 34.5%	131 35.4%	217 34.0%	227 35.1%	34 32.1%	87 34.0%	120 36.6%	179 35.2%	39 30.2%	45 39.1%	299 34.0%
制約となっていない	491 48.7%	189 51.1%	302 47.3%	303 46.9%	58 54.7%	130 50.8%	151 46.0%	248 48.8%	70 54.3%	47 40.9%	438 49.8%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
極めて大きな制約となっている	8 7.3%	11 3.4%	21 6.1%	3 1.4%	23 3.7%	18 5.0%	1 5.3%	39 4.2%	4 6.5%
大きな制約となっている	9 8.2%	44 13.5%	43 12.4%	28 12.8%	76 12.3%	45 12.6%	2 10.5%	118 12.6%	6 9.7%
ある程度は制約となっている	39 35.5%	108 33.2%	110 31.8%	88 40.2%	217 35.2%	124 34.6%	4 21.1%	323 34.6%	22 35.5%
制約となっていない	54 49.1%	162 49.8%	172 49.7%	100 45.7%	301 48.8%	171 47.8%	12 63.2%	454 48.6%	30 48.4%

j.院生の精神的未熟さやメンタルヘルス

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
極めて大きな制約となっている	194 19.3%	67 18.1%	127 20.0%	123 19.0%	18 16.8%	53 20.9%	45 13.8%	124 24.4%	14 10.9%	25 21.7%	168 19.1%
大きな制約となっている	279 27.7%	94 25.4%	185 29.1%	193 29.9%	32 29.9%	54 21.3%	91 28.0%	140 27.5%	39 30.5%	36 31.3%	239 27.2%
ある程度は制約となっている	379 37.7%	164 44.3%	215 33.8%	238 36.8%	40 37.4%	101 39.9%	134 41.2%	181 35.6%	47 36.7%	42 36.5%	330 37.6%
制約となっていない	154 15.3%	45 12.2%	109 17.1%	92 14.2%	17 15.9%	45 17.8%	55 16.9%	64 12.6%	28 21.9%	12 10.4%	141 16.1%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
極めて大きな制約となっている	24 21.6%	71 21.9%	73 21.0%	26 12.0%	115 18.7%	73 20.4%	4 21.1%	184 19.7%	10 16.7%
大きな制約となっている	41 36.9%	99 30.6%	84 24.2%	53 24.5%	156 25.4%	114 31.8%	5 26.3%	260 27.8%	16 26.7%
ある程度は制約となっている	32 28.8%	117 36.1%	125 36.0%	100 46.3%	238 38.7%	128 35.8%	7 36.8%	343 36.7%	31 51.7%
制約となっていない	14 12.6%	37 11.4%	65 18.7%	37 17.1%	106 17.2%	43 12.0%	3 15.8%	148 15.8%	3 5.0%

k.大学院の組織改革・カリキュラム改革

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
極めて大きな制約となっている	109 10.8%	28 7.7%	81 12.6%	68 10.6%	13 12.1%	28 10.8%	35 10.6%	57 11.3%	14 10.8%	16 13.8%	91 10.4%
大きな制約となっている	231 22.9%	89 24.3%	142 22.2%	156 24.3%	23 21.5%	52 20.1%	73 22.2%	118 23.4%	30 23.1%	30 25.9%	199 22.6%
ある程度は制約となっている	413 41.0%	150 41.0%	263 41.0%	263 41.0%	39 36.4%	111 42.9%	146 44.4%	197 39.0%	50 38.5%	47 40.5%	360 41.0%
制約となっていない	254 25.2%	99 27.0%	155 24.2%	154 24.0%	32 29.9%	68 26.3%	75 22.8%	133 26.3%	36 27.7%	23 19.8%	229 26.1%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
極めて大きな制約となっている	15 13.4%	37 11.5%	41 11.9%	16 7.2%	61 9.9%	47 13.2%	1 5.3%	102 10.9%	7 11.3%
大きな制約となっている	28 25.0%	74 22.9%	79 23.0%	48 21.7%	137 22.2%	85 23.8%	3 15.8%	215 23.0%	12 19.4%
ある程度は制約となっている	50 44.6%	123 38.1%	129 37.5%	107 48.4%	251 40.6%	149 41.7%	9 47.4%	376 40.3%	31 50.0%
制約となっていない	19 17.0%	89 27.6%	95 27.6%	50 22.6%	169 27.3%	76 21.3%	6 31.6%	241 25.8%	12 19.4%

問14. あなたは、大学院に進学してほしい学部生や博士課程に進学してほしいと思われる修士課程の院生が進学を選択しない要因として、下記の事柄をどのようにお考えですか。

学部生

a. 学部卒（修士卒）で就職するのが当然と思われている

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても当てはまる	314 31.5%	80 21.9%	234 37.1%	163 25.5%	29 27.4%	122 48.4%	155 47.8%	88 17.5%	52 40.6%	45 39.8%	265 30.4%
やや当てはまる	317 31.8%	106 29.0%	211 33.4%	193 30.2%	39 36.8%	85 33.7%	111 34.3%	143 28.5%	50 39.1%	35 31.0%	275 31.6%
当てはまらない	366 36.7%	180 49.2%	186 29.5%	283 44.3%	38 35.8%	45 17.9%	58 17.9%	271 54.0%	26 20.3%	33 29.2%	331 38.0%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても当てはまる	34 30.4%	94 29.5%	107 31.4%	75 34.7%	207 34.1%	97 27.3%	8 40.0%	291 31.6%	19 31.1%
やや当てはまる	33 29.5%	90 28.2%	105 30.8%	86 39.8%	201 33.1%	105 29.6%	6 30.0%	292 31.7%	17 27.9%
当てはまらない	45 40.2%	135 42.3%	129 37.8%	55 25.5%	199 32.8%	153 43.1%	6 30.0%	339 36.8%	25 41.0%

b.課程終了後のキャリアパスが見えない

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても当てはまる	329 33.0%	118 32.2%	211 33.5%	179 28.0%	31 29.5%	119 47.2%	180 55.7%	104 20.7%	34 26.4%	50 43.5%	277 31.9%
やや当てはまる	321 32.2%	104 28.4%	217 34.4%	206 32.2%	34 32.4%	81 32.1%	97 30.0%	156 31.1%	57 44.2%	34 29.6%	279 32.1%
当てはまらない	346 34.7%	144 39.3%	202 32.1%	254 39.7%	40 38.1%	52 20.6%	46 14.2%	242 48.2%	38 29.5%	31 27.0%	312 35.9%

	年齢				職階			任期		
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き	任期付き
とても当てはまる	42 37.5%	108 33.6%	104 30.7%	72 33.5%	326 33.0%	201 33.1%	121 34.1%	5 25.0%	307 33.3%	20 32.3%
やや当てはまる	30 26.8%	79 24.6%	122 36.0%	85 39.5%	316 32.0%	210 34.6%	100 28.2%	5 25.0%	297 32.2%	15 24.2%
当てはまらない	40 35.7%	134 41.7%	113 33.3%	58 27.0%	345 35.0%	196 32.3%	134 37.7%	10 50.0%	317 34.4%	27 43.5%

c.授業料や入学金の高さ

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても当てはまる	253 25.6%	76 21.1%	177 28.1%	148 23.4%	18 17.3%	87 34.4%	79 24.9%	131 26.1%	32 24.6%	37 33.0%	211 24.4%
やや当てはまる	465 47.0%	173 48.1%	292 46.3%	305 48.2%	48 46.2%	112 44.3%	151 47.6%	231 46.1%	68 52.3%	51 45.5%	409 47.2%
当てはまらない	272 27.5%	111 30.8%	161 25.6%	180 28.4%	38 36.5%	54 21.3%	87 27.4%	139 27.7%	30 23.1%	24 21.4%	246 28.4%

	年齢				職階			任期		
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き	任期付き
とても当てはまる	249 25.4%	20 18.0%	90 28.2%	91 27.0%	48 22.3%	161 26.6%	85 24.2%	3 15.0%	229 25.0%	18 29.5%
やや当てはまる	462 47.0%	51 45.9%	137 42.9%	163 48.4%	111 51.6%	275 45.5%	176 50.1%	8 40.0%	435 47.4%	26 42.6%
当てはまらない	271 27.6%	40 36.0%	92 28.8%	83 24.6%	56 26.0%	169 27.9%	90 25.6%	9 45.0%	253 27.6%	17 27.9%

d.カリキュラムが職業人養成に対応していない

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても当てはまる	96 9.6%	34 9.3%	62 9.8%	57 8.9%	10 9.5%	29 11.5%	43 13.3%	36 7.2%	12 9.2%	15 13.2%	79 9.1%
やや当てはまる	337 33.8%	103 28.1%	234 37.1%	197 30.8%	36 34.3%	104 41.3%	120 37.2%	151 30.1%	54 41.5%	36 31.6%	297 34.1%
当てはまらない	563 56.5%	229 62.6%	334 53.0%	385 60.3%	59 56.2%	119 47.2%	160 49.5%	314 62.7%	64 49.2%	63 55.3%	494 56.8%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても当てはまる	12 10.6%	30 9.4%	33 9.7%	20 9.2%	61 10.0%	32 9.0%	3 15.0%	87 9.4%	8 13.1%
やや当てはまる	36 31.9%	98 30.8%	112 32.9%	87 40.1%	211 34.7%	115 32.5%	5 25.0%	310 33.6%	21 34.4%
当てはまらない	65 57.5%	190 59.7%	195 57.4%	110 50.7%	336 55.3%	207 58.5%	12 60.0%	526 57.0%	32 52.5%

e.奨学金など経済支援の不十分さ

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても当てはまる	290 29.1%	93 25.5%	197 31.3%	185 29.0%	28 26.4%	77 30.6%	104 32.4%	138 27.4%	35 27.1%	33 28.7%	252 29.0%
やや当てはまる	501 50.4%	188 51.5%	313 49.7%	321 50.4%	54 50.9%	126 50.0%	164 51.1%	248 49.3%	71 55.0%	66 57.4%	429 49.4%
当てはまらない	204 20.5%	84 23.0%	120 19.0%	131 20.6%	24 22.6%	49 19.4%	53 16.5%	117 23.3%	23 17.8%	16 13.9%	187 21.5%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても当てはまる	33 29.5%	83 25.9%	103 30.4%	68 31.6%	188 31.0%	93 26.2%	5 26.3%	272 29.5%	13 21.7%
やや当てはまる	51 45.5%	165 51.4%	181 53.4%	99 46.0%	308 50.7%	178 50.1%	10 52.6%	464 50.3%	31 51.7%
当てはまらない	28 25.0%	73 22.7%	55 16.2%	48 22.3%	111 18.3%	84 23.7%	4 21.1%	187 20.3%	16 26.7%

f.大学院卒の学歴に経済的にメリットがない

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても当てはまる	305 30.7%	98 26.8%	207 32.9%	181 28.4%	29 27.6%	95 37.7%	161 49.8%	91 18.2%	37 28.7%	54 47.4%	248 28.6%
やや当てはまる	375 37.7%	122 33.3%	253 40.2%	230 36.1%	39 37.1%	106 42.1%	120 37.2%	180 35.9%	59 45.7%	38 33.3%	330 38.0%
当てはまらない	315 31.7%	146 39.9%	169 26.9%	227 35.6%	37 35.2%	51 20.2%	42 13.0%	230 45.9%	33 25.6%	22 19.3%	290 33.4%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても当てはまる	47 41.6%	86 27.0%	109 32.2%	61 28.2%	198 32.6%	100 28.2%	5 25.0%	286 31.0%	17 28.3%
やや当てはまる	33 29.2%	106 33.2%	135 39.9%	96 44.4%	237 39.0%	122 34.5%	8 40.0%	342 37.1%	25 41.7%
当てはまらない	33 29.2%	127 39.8%	94 27.8%	59 27.3%	172 28.3%	132 37.3%	7 35.0%	294 31.9%	18 30.0%

g.研究職に魅力を感じていない

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても当てはまる	201 20.3%	69 19.0%	132 21.0%	122 19.2%	24 22.6%	55 22.0%	80 25.0%	84 16.8%	24 18.5%	31 27.2%	167 19.3%
やや当てはまる	450 45.4%	165 45.3%	285 45.4%	284 44.7%	51 48.1%	115 46.0%	151 47.2%	211 42.2%	65 50.0%	52 45.6%	390 45.0%
当てはまらない	341 34.4%	130 35.7%	211 33.6%	230 36.2%	31 29.2%	80 32.0%	89 27.8%	205 41.0%	41 31.5%	31 27.2%	309 35.7%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても当てはまる	35 31.0%	65 20.4%	64 18.9%	36 16.7%	119 19.7%	73 20.7%	6 30.0%	185 20.1%	15 24.6%
やや当てはまる	38 33.6%	131 41.2%	160 47.3%	115 53.5%	294 48.6%	144 40.8%	7 35.0%	416 45.2%	26 42.6%
当てはまらない	40 35.4%	122 38.4%	114 33.7%	64 29.8%	192 31.7%	136 38.5%	7 35.0%	319 34.7%	20 32.8%

h.学生の科学技術や学問に

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても当てはまる	256 25.8%	64 17.5%	192 30.6%	151 23.7%	26 24.5%	79 31.6%	75 23.5%	137 27.1%	27 21.1%	36 31.6%	219 25.2%
やや当てはまる	466 46.9%	158 43.2%	308 49.0%	291 45.6%	50 47.2%	125 50.0%	142 44.5%	236 46.7%	74 57.8%	48 42.1%	408 47.0%
当てはまらない	272 27.4%	144 39.3%	128 20.4%	196 30.7%	30 28.3%	46 18.4%	102 32.0%	132 26.1%	27 21.1%	30 26.3%	241 27.8%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても当てはまる	32 28.3%	79 24.8%	84 24.7%	61 28.5%	157 25.9%	92 26.0%	5 25.0%	242 26.2%	13 22.0%
やや当てはまる	48 42.5%	147 46.1%	154 45.3%	109 50.9%	288 47.5%	158 44.6%	9 45.0%	424 45.9%	31 52.5%
当てはまらない	33 29.2%	93 29.2%	102 30.0%	44 20.6%	161 26.6%	104 29.4%	6 30.0%	257 27.8%	15 25.4%

修士課程院生

a. 学部卒（修士卒）で就職するのが当然と思われている

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても当てはまる	401 41.7%	135 36.7%	266 44.8%	264 42.9%	35 33.7%	102 42.1%	76 24.5%	258 51.9%	46 40.7%	36 33.3%	361 42.8%
やや当てはまる	353 36.7%	138 37.5%	215 36.2%	225 36.5%	39 37.5%	89 36.8%	130 41.9%	171 34.4%	42 37.2%	38 35.2%	310 36.7%
当てはまらない	208 21.6%	95 25.8%	113 19.0%	127 20.6%	30 28.8%	51 21.1%	104 33.5%	68 13.7%	25 22.1%	34 31.5%	173 20.5%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても当てはまる	44 40.0%	137 44.5%	139 41.7%	78 38.0%	232 39.7%	154 44.5%	9 50.0%	372 41.8%	23 37.7%
やや当てはまる	35 31.8%	107 34.7%	124 37.2%	85 41.5%	227 38.8%	119 34.4%	5 27.8%	326 36.6%	24 39.3%
当てはまらない	31 28.2%	64 20.8%	70 21.0%	42 20.5%	126 21.5%	73 21.1%	4 22.2%	193 21.7%	14 23.0%

b.課程終了後のキャリアパスが見えない

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても当てはまる	584	225	359	375	64	145	188	319	60	69	513
	61.2%	61.5%	61.0%	61.2%	62.7%	60.4%	62.0%	64.3%	52.2%	63.3%	61.4%
やや当てはまる	255	90	165	163	24	68	84	126	35	18	229
	26.7%	24.6%	28.0%	26.6%	23.5%	28.3%	27.7%	25.4%	30.4%	16.5%	27.4%
当てはまらない	116	51	65	75	14	27	31	51	20	22	94
	12.1%	13.9%	11.0%	12.2%	13.7%	11.3%	10.2%	10.3%	17.4%	20.2%	11.2%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても当てはまる	85	196	195	108	335	227	15	549	33
	77.3%	63.2%	59.5%	53.7%	57.9%	65.6%	83.3%	62.0%	54.1%
やや当てはまる	15	73	89	72	170	80	1	229	19
	13.6%	23.5%	27.1%	35.8%	29.4%	23.1%	5.6%	25.9%	31.1%
当てはまらない	10	41	44	21	74	39	2	107	9
	9.1%	13.2%	13.4%	10.4%	12.8%	11.3%	11.1%	12.1%	14.8%

c.授業料や入学金の高さ

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても当てはまる	292	110	182	188	27	77	88	162	29	39	250
	30.6%	30.6%	30.6%	30.9%	26.0%	31.8%	28.9%	32.8%	25.2%	36.1%	29.9%
やや当てはまる	418	160	258	274	43	101	136	208	57	48	365
	43.8%	44.4%	43.4%	45.1%	41.3%	41.7%	44.7%	42.1%	49.6%	44.4%	43.7%
当てはまらない	244	90	154	146	34	64	80	124	29	21	221
	25.6%	25.0%	25.9%	24.0%	32.7%	26.4%	26.3%	25.1%	25.2%	19.4%	26.4%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても当てはまる	24	103	110	52	187	100	3	272	16
	22.4%	33.2%	33.6%	25.5%	32.1%	29.3%	16.7%	30.8%	26.2%
やや当てはまる	45	129	146	95	241	163	7	386	30
	42.1%	41.6%	44.6%	46.6%	41.3%	47.8%	38.9%	43.7%	49.2%
当てはまらない	38	78	71	57	155	78	8	226	15
	35.5%	25.2%	21.7%	27.9%	26.6%	22.9%	44.4%	25.6%	24.6%

d.カリキュラムが職業人養成に対応していない

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても当てはまる	135	45	90	86	14	35	52	57	20	20	114
	14.1%	12.3%	15.2%	14.0%	13.5%	14.6%	16.8%	11.6%	17.4%	18.2%	13.6%
やや当てはまる	343	123	220	218	28	97	116	173	43	34	306
	35.8%	33.6%	37.2%	35.5%	26.9%	40.4%	37.4%	35.2%	37.4%	30.9%	36.5%
当てはまらない	480	198	282	310	62	108	142	262	52	56	418
	50.1%	54.1%	47.6%	50.5%	59.6%	45.0%	45.8%	53.3%	45.2%	50.9%	49.9%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても当てはまる	15	42	48	30	84	47	3	124	9
	13.6%	13.7%	14.5%	14.6%	14.4%	13.7%	16.7%	14.0%	14.5%
やや当てはまる	38	93	123	86	223	111	6	316	24
	34.5%	30.3%	37.3%	42.0%	38.2%	32.3%	33.3%	35.6%	38.7%
当てはまらない	57	172	159	89	277	186	9	447	29
	51.8%	56.0%	48.2%	43.4%	47.4%	54.1%	50.0%	50.4%	46.8%

e.奨学金など経済支援の不十分さ

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても当てはまる	407 42.4%	174 47.5%	233 39.2%	287 46.7%	45 43.3%	75 31.0%	138 44.8%	214 43.1%	43 37.4%	45 40.9%	357 42.5%
やや当てはまる	401 41.8%	147 40.2%	254 42.8%	252 41.0%	38 36.5%	111 45.9%	123 39.9%	205 41.3%	55 47.8%	48 43.6%	349 41.5%
当てはまらない	152 15.8%	45 12.3%	107 18.0%	75 12.2%	21 20.2%	56 23.1%	47 15.3%	77 15.5%	17 14.8%	17 15.5%	134 16.0%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても当てはまる	45 40.9%	137 44.1%	148 44.8%	73 36.0%	249 42.6%	147 42.5%	6 33.3%	382 43.0%	19 30.6%
やや当てはまる	46 41.8%	121 38.9%	140 42.4%	92 45.3%	243 41.6%	145 41.9%	8 44.4%	366 41.2%	33 53.2%
当てはまらない	19 17.3%	53 17.0%	42 12.7%	38 18.7%	92 15.8%	54 15.6%	4 22.2%	141 15.9%	10 16.1%

f.大学院卒の学歴に経済的にメリットがない

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても当てはまる	473 49.3%	181 49.3%	292 49.3%	312 50.7%	50 48.1%	111 46.3%	157 51.0%	247 49.9%	48 41.7%	59 53.6%	411 49.0%
やや当てはまる	311 32.4%	107 29.2%	204 34.5%	186 30.2%	32 30.8%	93 38.8%	96 31.2%	156 31.5%	47 40.9%	36 32.7%	269 32.1%
当てはまらない	175 18.2%	79 21.5%	96 16.2%	117 19.0%	22 21.2%	36 15.0%	55 17.9%	92 18.6%	20 17.4%	15 13.6%	159 19.0%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても当てはまる	68 61.8%	155 50.0%	168 51.2%	82 40.0%	282 48.4%	177 51.2%	9 50.0%	445 50.1%	26 41.9%
やや当てはまる	25 22.7%	90 29.0%	110 33.5%	81 39.5%	191 32.8%	111 32.1%	3 16.7%	284 32.0%	22 35.5%
当てはまらない	17 15.5%	65 21.0%	50 15.2%	42 20.5%	110 18.9%	58 16.8%	6 33.3%	159 17.9%	14 22.6%

g.研究職に魅力を感じていない

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても当てはまる	257 26.9%	97 26.5%	160 27.2%	174 28.3%	30 28.8%	53 22.4%	69 22.6%	145 29.4%	26 22.6%	27 25.2%	226 27.0%
やや当てはまる	419 43.9%	161 44.0%	258 43.8%	265 43.2%	44 42.3%	110 46.4%	148 48.5%	200 40.5%	54 47.0%	54 50.5%	360 43.0%
当てはまらない	279 29.2%	108 29.5%	171 29.0%	175 28.5%	30 28.8%	74 31.2%	88 28.9%	149 30.2%	35 30.4%	26 24.3%	252 30.1%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても当てはまる	45 41.3%	84 27.5%	79 24.0%	48 23.3%	147 25.2%	100 29.3%	7 38.9%	237 26.8%	20 32.3%
やや当てはまる	36 33.0%	125 41.0%	152 46.2%	102 49.5%	272 46.6%	137 40.2%	6 33.3%	391 44.2%	22 35.5%
当てはまらない	28 25.7%	96 31.5%	98 29.8%	56 27.2%	165 28.3%	104 30.5%	5 27.8%	256 29.0%	20 32.3%

h.学生の科学技術や学問に対する知的好奇心・関心の低さ

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても当てはまる	189 19.8%	52 14.2%	137 23.2%	118 19.2%	21 20.4%	50 20.9%	45 14.8%	107 21.6%	22 19.3%	26 23.9%	161 19.3%
やや当てはまる	434 45.4%	157 43.0%	277 46.9%	268 43.7%	41 39.8%	125 52.3%	136 44.6%	227 45.9%	55 48.2%	46 42.2%	381 45.6%
当てはまらない	332 34.8%	156 42.7%	176 29.8%	227 37.0%	41 39.8%	64 26.8%	124 40.7%	161 32.5%	37 32.5%	37 33.9%	294 35.2%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても当てはまる	20 18.2%	62 20.1%	56 17.1%	50 24.5%	117 20.1%	65 19.0%	4 22.2%	176 19.9%	11 18.0%
やや当てはまる	49 44.5%	128 41.6%	150 45.9%	102 50.0%	274 47.1%	146 42.6%	7 38.9%	398 45.0%	30 49.2%
当てはまらない	41 37.3%	118 38.3%	121 37.0%	52 25.5%	191 32.8%	132 38.5%	7 38.9%	311 35.1%	20 32.8%

i.特別研究員の採択枠が少ない

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても当てはまる	344 36.4%	145 39.5%	199 34.4%	229 37.7%	45 43.3%	70 29.9%	104 34.1%	185 37.9%	41 36.3%	49 45.0%	290 35.1%
やや当てはまる	380 40.2%	144 39.2%	236 40.8%	235 38.7%	34 32.7%	111 47.4%	130 42.6%	188 38.5%	47 41.6%	36 33.0%	343 41.5%
当てはまらない	221 23.4%	78 21.3%	143 24.7%	143 23.6%	25 24.0%	53 22.6%	71 23.3%	115 23.6%	25 22.1%	24 22.0%	194 23.5%

i.特別研究員の採択枠が少な

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても当てはまる	43 39.4%	124 40.7%	109 33.3%	65 32.8%	207 35.8%	121 35.9%	10 55.6%	327 37.2%	14 24.1%
やや当てはまる	40 36.7%	112 36.7%	145 44.3%	82 41.4%	243 42.0%	131 38.9%	4 22.2%	354 40.3%	24 41.4%
当てはまらない	26 23.9%	69 22.6%	73 22.3%	51 25.8%	128 22.1%	85 25.2%	4 22.2%	197 22.4%	20 34.5%

j.課程博士を取得することが厳しい

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
とても当てはまる	132 13.9%	41 11.2%	91 15.7%	67 11.0%	16 15.4%	49 20.8%	65 21.3%	39 8.0%	21 18.6%	29 26.6%	101 12.2%
やや当てはまる	355 37.5%	145 39.6%	210 36.1%	224 36.9%	39 37.5%	92 39.0%	128 42.0%	167 34.1%	46 40.7%	31 28.4%	321 38.7%
当てはまらない	460 48.6%	180 49.2%	280 48.2%	316 52.1%	49 47.1%	95 40.3%	112 36.7%	284 58.0%	46 40.7%	49 45.0%	407 49.1%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
とても当てはまる	14 12.8%	46 15.1%	41 12.5%	30 15.1%	82 14.2%	45 13.3%	2 11.1%	123 14.0%	5 8.5%
やや当てはまる	37 33.9%	94 30.8%	136 41.5%	86 43.2%	237 41.0%	109 32.2%	7 38.9%	334 38.0%	19 32.2%
当てはまらない	58 53.2%	165 54.1%	151 46.0%	83 41.7%	259 44.8%	185 54.6%	9 50.0%	422 48.0%	35 59.3%

a.学部学生

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
強く勧めている	155 15.3%	56 15.1%	99 15.5%	103 15.9%	20 18.7%	32 12.5%	22 6.7%	114 22.3%	13 10.0%	10 8.6%	145 16.5%
勧めている	448 44.3%	159 42.9%	289 45.2%	308 47.5%	43 40.2%	97 37.9%	108 33.1%	268 52.4%	54 41.5%	40 34.5%	403 45.8%
あまり勧めない	309 30.6%	125 33.7%	184 28.8%	180 27.8%	32 29.9%	97 37.9%	147 45.1%	97 19.0%	51 39.2%	53 45.7%	248 28.2%
全く勧めない	99 9.8%	31 8.4%	68 10.6%	57 8.8%	12 11.2%	30 11.7%	49 15.0%	32 6.3%	12 9.2%	13 11.2%	84 9.5%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
強く勧めている	12 10.6%	72 22.2%	51 14.9%	20 9.1%	101 16.5%	50 13.8%	3 15.0%	146 15.6%	9 15.0%
勧めている	52 46.0%	138 42.5%	155 45.2%	98 44.5%	263 42.9%	167 46.1%	9 45.0%	414 44.2%	27 45.0%
あまり勧めない	35 31.0%	84 25.8%	99 28.9%	87 39.5%	190 31.0%	107 29.6%	7 35.0%	283 30.2%	20 33.3%
全く勧めない	14 12.4%	31 9.5%	38 11.1%	15 6.8%	59 9.6%	38 10.5%	1 5.0%	93 9.9%	4 6.7%

b.修士課程院生

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
強く勧めている	44 4.4%	21 5.6%	23 3.7%	28 4.4%	8 7.7%	8 3.2%	16 5.0%	25 4.9%	3 2.4%	5 4.5%	39 4.5%
勧めている	309 31.0%	141 37.6%	168 27.1%	218 33.9%	27 26.0%	64 25.7%	86 26.9%	165 32.4%	37 29.8%	34 30.6%	271 31.1%
あまり勧めない	469 47.1%	169 45.1%	300 48.3%	293 45.6%	52 50.0%	124 49.8%	167 52.2%	229 44.9%	58 46.8%	46 41.4%	416 47.7%
全く勧めない	174 17.5%	44 11.7%	130 20.9%	104 16.2%	17 16.3%	53 21.3%	51 15.9%	91 17.8%	26 21.0%	26 23.4%	146 16.7%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
強く勧めている	1 .9%	19 5.9%	13 3.8%	11 5.1%	31 5.1%	12 3.3%	1 5.3%	40 4.3%	3 5.0%
勧めている	33 29.7%	94 29.2%	109 32.0%	70 32.7%	206 34.2%	95 26.5%	3 15.8%	279 30.2%	27 45.0%
あまり勧めない	49 44.1%	147 45.7%	163 47.8%	105 49.1%	282 46.8%	172 47.9%	8 42.1%	438 47.4%	25 41.7%
全く勧めない	28 25.2%	62 19.3%	56 16.4%	28 13.1%	84 13.9%	80 22.3%	7 36.8%	167 18.1%	5 8.3%

問16　あなたが指導された院生は、過去3年にどのような進路に進まれましたか。

a.修士課程修了

		同じ研究科の博士課程後期に進学した	別の研究科の博士課程後期に進学した（海外も含む）	別の研究科の修士課程（博士前期）に進学した	民間企業の正社員として就職した	非常勤講師になった	研究生になった	小中高の教員、医師、弁護士などの専門職についた	官公庁の職についた	自営など上記以外の形で就職した	元の職場に復帰した（転職も含む）
全体		.66	.11	.15	3.04	.10	.05	.60	.29	.13	.25
大学類型	研究大学	1.06	.09	.14	3.48	.05	.02	.65	.36	.10	.30
	一般大学	.43	.11	.16	2.78	.12	.06	.57	.26	.15	.21
設置者	国立	.69	.09	.15	3.15	.09	.04	.75	.37	.12	.31
	公立	.74	.09	.19	3.05	.05	.02	.49	.21	.06	.15
	私立	.56	.14	.14	2.77	.14	.08	.28	.14	.20	.14
専攻分野	文系	.64	.15	.10	1.08	.12	.07	1.14	.27	.14	.54
	理系	.67	.06	.20	4.64	.04	.03	.19	.34	.13	.03
	学際他	.74	.14	.06	2.11	.22	.06	.82	.22	.15	.22
性別	女性	.58	.11	.07	1.23	.23	.07	.97	.17	.08	.54
	男性	.68	.11	.16	3.32	.08	.04	.55	.31	.14	.21
年齢	20 ・30歳代	.41	.06	.07	1.75	.07	.03	.32	.17	.06	.08
	40歳代	.63	.09	.14	3.26	.09	.04	.47	.24	.11	.25
	50歳代	.73	.10	.17	3.52	.09	.03	.84	.33	.09	.28
	60代以上	.75	.17	.19	2.75	.13	.09	.57	.38	.27	.29
職名	教授	.79	.12	.15	3.46	.11	.06	.69	.34	.16	.32
	准教授	.47	.08	.14	2.46	.07	.03	.48	.23	.08	.11
	講師	.15	.00	.05	1.70	.20	.05	.20	.10	.10	.40
任期	終身	.65	.10	.15	3.04	.09	.04	.60	.27	.14	.20
	任期付き	.97	.17	.12	3.43	.20	.15	.55	.62	.09	.98

b.博士課程修了

		民間企業に正社員として就職した	大学教員になった	特別研究員（DC、PD）になった	非常勤講師になった	研究生になった	中小高の教員、医師、弁護士などの専門職についた	官公庁の職についた	自営など上記以外の形で就職した	元の職場に復帰した（転職も含む）	その他
全体		.15	.24	.17	.10	.03	.03	.03	.01	.10	.03
大学類型	研究大学	.20	.43	.28	.18	.04	.05	.05	.01	.14	.05
	一般大学	.12	.13	.10	.06	.02	.02	.02	.01	.07	.03
設置者	国立	.17	.29	.19	.08	.03	.03	.03	.01	.12	.04
	公立	.13	.23	.23	.11	.02	.05	.02	.02	.13	.03
	私立	.11	.14	.09	.15	.04	.02	.03	.01	.04	.02
専攻分野	文系	.04	.32	.13	.21	.04	.02	.04	.01	.06	.02
	理系	.23	.18	.21	.02	.02	.03	.02	.01	.12	.04
	学際他	.16	.26	.17	.14	.04	.05	.08	.00	.11	.05
性別	女性	.05	.26	.14	.15	.04	.04	.01	.01	.07	.02
	男性	.16	.24	.17	.10	.03	.02	.04	.01	.10	.04
年齢	20 ・30歳代	.09	.10	.15	.00	.04	.02	.04	.00	.03	.00
	40歳代	.14	.17	.16	.08	.03	.02	.02	.01	.06	.04
	50歳代	.17	.29	.19	.11	.02	.02	.03	.01	.14	.05
	60代以上	.17	.35	.17	.19	.05	.06	.06	.02	.13	.02
職名	教授	.18	.31	.18	.14	.03	.03	.04	.01	.14	.04
	准教授	.11	.13	.15	.05	.03	.02	.02	.01	.03	.03
	講師	.05	.05	.05	.00	.00	.00	.00	.00	.10	.00
任期	終身	.14	.23	.17	.10	.03	.03	.03	.01	.10	.04
	任期付き	.34	.46	.20	.18	.06	.06	.08	.00	.12	.00

問17. 学期中の平均的な1週間の仕事時間を全体が10割になるように記入してください。

		教育活動	研究活動	社会サービス	管理運営
全体		3.46	3.10	.89	1.77
大学類型	研究大学	3.94	2.47	1.00	1.90
	一般大学	3.76	2.70	.96	1.85
設置者	国立	3.59	2.73	.98	1.87
	公立	3.39	2.98	1.05	1.96
	私立	4.35	2.50	.87	1.77
専攻分野	文系	3.97	2.54	.96	1.73
	理系	3.48	3.02	.95	1.94
	学際他	4.26	2.04	1.02	1.84
性別	女性	4.35	2.14	1.03	1.85
	男性	3.70	2.79	.96	1.87
年齢	20 ・30歳代	4.17	2.97	.86	1.73
	40歳代	3.77	2.74	.99	1.86
	50歳代	3.68	2.56	1.00	2.12
	60代以上	3.76	2.80	.93	1.57
職名	教授	3.68	2.60	.99	2.02
	准教授	3.94	2.89	.94	1.64
	講師	4.70	2.85	.71	1.75
任期	終身	3.79	2.69	.97	1.91
	任期付き	3.67	3.05	.89	1.23

問18. おおよそ10年前と比較して、下記の事柄は現在どのように変化しましたか。

a.教育負担

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
かなり増えた	298 32.4%	88 26.4%	210 35.8%	180 31.1%	25 24.8%	93 38.8%	85 29.5%	150 31.5%	49 41.2%	39 38.6%	258 31.9%
増えた	356 38.7%	118 35.4%	238 40.5%	224 38.7%	44 43.6%	88 36.7%	107 37.2%	192 40.3%	44 37.0%	29 28.7%	320 39.6%
大きな変化はない	198 21.5%	94 28.2%	104 17.7%	129 22.3%	26 25.7%	43 17.9%	70 24.3%	104 21.8%	18 15.1%	19 18.8%	178 22.0%
減少した	16 1.7%	9 2.7%	7 1.2%	9 1.6%	2 2.0%	5 2.1%	5 1.7%	9 1.9%	2 1.7%	1 1.0%	15 1.9%
かなり減少した	6 .7%	5 1.5%	1 .2%	5 .9%	0 .0%	1 .4%	4 1.4%	2 .4%	0 .0%	0 .0%	6 .7%
分からない	46 5.0%	19 5.7%	27 4.6%	32 5.5%	4 4.0%	10 4.2%	17 5.9%	19 4.0%	6 5.0%	13 12.9%	32 4.0%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
かなり増えた	31 35.6%	111 36.9%	103 31.6%	53 26.2%	186 32.2%	109 33.7%	3 27.3%	285 33.2%	12 23.5%
増えた	20 23.0%	119 39.5%	131 40.2%	83 41.1%	224 38.8%	125 38.7%	1 9.1%	326 38.0%	23 45.1%
大きな変化はない	11 12.6%	51 16.9%	79 24.2%	57 28.2%	144 25.0%	51 15.8%	3 27.3%	187 21.8%	9 17.6%
減少した	2 2.3%	5 1.7%	5 1.5%	4 2.0%	10 1.7%	6 1.9%	0 .0%	14 1.6%	2 3.9%
かなり減少した	0 .0%	3 1.0%	0 .0%	3 1.5%	3 .5%	3 .9%	0 .0%	5 .6%	1 2.0%
分からない	23 26.4%	12 4.0%	8 2.5%	2 1.0%	10 1.7%	29 9.0%	4 36.4%	42 4.9%	4 7.8%

b.TA、RAなどの支援員 と 大学分類 のクロス表

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
かなり増えた	38 4.1%	20 6.0%	18 3.1%	33 5.7%	2 2.0%	3 1.3%	9 3.1%	26 5.5%	0 .0%	5 5.0%	32 4.0%
増えた	280 30.5%	127 38.4%	153 26.1%	201 34.8%	26 25.7%	53 22.1%	79 27.4%	169 35.5%	29 24.6%	21 20.8%	257 31.8%
大きな変化はない	412 44.9%	137 41.4%	275 46.8%	250 43.3%	40 39.6%	122 50.8%	135 46.9%	199 41.8%	64 54.2%	42 41.6%	365 45.2%
減少した	69 7.5%	14 4.2%	55 9.4%	30 5.2%	18 17.8%	21 8.8%	17 5.9%	37 7.8%	10 8.5%	7 6.9%	62 7.7%
かなり減少した	19 2.1%	4 1.2%	15 2.6%	10 1.7%	4 4.0%	5 2.1%	6 2.1%	10 2.1%	2 1.7%	3 3.0%	16 2.0%
分からない	100 10.9%	29 8.8%	71 12.1%	53 9.2%	11 10.9%	36 15.0%	42 14.6%	35 7.4%	13 11.0%	23 22.8%	75 9.3%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
かなり増えた	2 2.3%	11 3.6%	19 5.9%	6 3.0%	25 4.3%	13 4.0%	0 .0%	37 4.3%	1 2.0%
増えた	13 14.9%	98 32.5%	93 28.7%	75 37.3%	182 31.7%	96 29.6%	0 .0%	262 30.5%	15 29.4%
大きな変化はない	37 42.5%	130 43.0%	147 45.4%	97 48.3%	267 46.4%	136 42.0%	6 54.5%	382 44.5%	25 49.0%
減少した	6 6.9%	27 8.9%	30 9.3%	6 3.0%	42 7.3%	26 8.0%	1 9.1%	66 7.7%	3 5.9%
かなり減少した	2 2.3%	8 2.6%	8 2.5%	1 .5%	11 1.9%	8 2.5%	0 .0%	19 2.2%	0 .0%
分からない	27 31.0%	28 9.3%	27 8.3%	16 8.0%	48 8.3%	45 13.9%	4 36.4%	92 10.7%	7 13.7%

c.社会貢献・社会サービス負担

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
かなり増えた	149 16.3%	44 13.3%	105 18.0%	111 19.2%	23 23.0%	15 6.4%	39 13.6%	90 19.1%	16 13.4%	12 12.0%	135 16.8%
増えた	441 48.3%	158 47.9%	283 48.5%	288 49.8%	58 58.0%	95 40.4%	131 45.6%	239 50.6%	61 51.3%	45 45.0%	392 48.8%
大きな変化はない	247 27.1%	97 29.4%	150 25.7%	134 23.2%	12 12.0%	101 43.0%	87 30.3%	110 23.3%	34 28.6%	27 27.0%	217 27.0%
減少した	10 1.1%	5 1.5%	5 .9%	5 .9%	1 1.0%	4 1.7%	6 2.1%	4 .8%	0 .0%	0 .0%	10 1.2%
かなり減少した	4 .4%	1 .3%	3 .5%	1 .2%	0 .0%	3 1.3%	1 .3%	2 .4%	1 .8%	0 .0%	4 .5%
分からない	62 6.8%	25 7.6%	37 6.3%	39 6.7%	6 6.0%	17 7.2%	23 8.0%	27 5.7%	7 5.9%	16 16.0%	45 5.6%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
かなり増えた	14 16.1%	60 19.9%	54 16.6%	21 10.7%	85 14.9%	64 19.8%	0 .0%	148 17.4%	1 1.9%
増えた	39 44.8%	154 51.2%	158 48.6%	88 44.9%	275 48.2%	157 48.5%	5 45.5%	406 47.7%	29 55.8%
大きな変化はない	14 16.1%	65 21.6%	91 28.0%	76 38.8%	176 30.9%	68 21.0%	2 18.2%	228 26.8%	16 30.8%
減少した	0 .0%	1 .3%	5 1.5%	4 2.0%	8 1.4%	2 .6%	0 .0%	8 .9%	2 3.8%
かなり減少した	0 .0%	0 .0%	1 .3%	3 1.5%	4 .7%	0 .0%	0 .0%	4 .5%	0 .0%
分からない	20 23.0%	21 7.0%	16 4.9%	4 2.0%	22 3.9%	33 10.2%	4 36.4%	58 6.8%	4 7.7%

d.学内業務負担

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
かなり増えた	412 44.9%	131 39.6%	281 48.0%	262 45.4%	50 49.5%	100 41.8%	126 43.8%	219 46.1%	50 42.4%	51 50.5%	358 44.4%
増えた	346 37.7%	131 39.6%	215 36.7%	224 38.8%	34 33.7%	88 36.8%	105 36.5%	184 38.7%	46 39.0%	32 31.7%	310 38.5%
大きな変化はない	86 9.4%	36 10.9%	50 8.5%	45 7.8%	12 11.9%	29 12.1%	25 8.7%	45 9.5%	12 10.2%	3 3.0%	82 10.2%
減少した	16 1.7%	9 2.7%	7 1.2%	9 1.6%	0 .0%	7 2.9%	9 3.1%	5 1.1%	2 1.7%	1 1.0%	14 1.7%
かなり減少した	12 1.3%	5 1.5%	7 1.2%	6 1.0%	1 1.0%	5 2.1%	7 2.4%	4 .8%	1 .8%	1 1.0%	11 1.4%
分からない	45 4.9%	19 5.7%	26 4.4%	31 5.4%	4 4.0%	10 4.2%	16 5.6%	18 3.8%	7 5.9%	13 12.9%	31 3.8%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
かなり増えた	30 34.5%	150 49.7%	171 52.8%	60 30.0%	288 50.1%	120 37.2%	3 27.3%	401 46.8%	9 17.3%
増えた	29 33.3%	112 37.1%	114 35.2%	89 44.5%	205 35.7%	135 41.8%	2 18.2%	318 37.1%	22 42.3%
大きな変化はない	5 5.7%	21 7.0%	25 7.7%	35 17.5%	52 9.0%	32 9.9%	2 18.2%	74 8.6%	12 23.1%
減少した	1 1.1%	3 1.0%	5 1.5%	7 3.5%	12 2.1%	4 1.2%	0 .0%	13 1.5%	2 3.8%
かなり減少した	1 1.1%	2 .7%	1 .3%	8 4.0%	9 1.6%	3 .9%	0 .0%	10 1.2%	2 3.8%
分からない	21 24.1%	14 4.6%	8 2.5%	1 .5%	9 1.6%	29 9.0%	4 36.4%	40 4.7%	5 9.6%

e.基盤的研究経費

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
かなり増えた	12 1.3%	8 2.4%	4 .7%	7 1.2%	2 2.0%	3 1.3%	6 2.1%	6 1.3%	0 .0%	1 1.0%	11 1.4%
増えた	77 8.4%	39 11.8%	38 6.5%	43 7.4%	8 7.9%	26 10.8%	27 9.4%	40 8.4%	7 5.9%	8 7.9%	68 8.4%
大きな変化はない	306 33.3%	109 33.0%	197 33.4%	159 27.5%	26 25.7%	121 50.4%	109 37.8%	135 28.4%	46 38.7%	22 21.8%	282 34.9%
減少した	247 26.9%	85 25.8%	162 27.5%	176 30.4%	29 28.7%	42 17.5%	63 21.9%	146 30.7%	30 25.2%	32 31.7%	212 26.2%
かなり減少した	211 23.0%	69 20.9%	142 24.1%	157 27.2%	30 29.7%	24 10.0%	54 18.8%	128 26.9%	25 21.0%	20 19.8%	189 23.4%
分からない	66 7.2%	20 6.1%	46 7.8%	36 6.2%	6 5.9%	24 10.0%	29 10.1%	21 4.4%	11 9.2%	18 17.8%	46 5.7%

	年齢				職階			任期		
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き	任期付き
かなり増えた	3 3.4%	4 1.3%	4 1.2%	1 .5%	12 1.3%	6 1.0%	6 1.9%	0 .0%	12 1.4%	0 .0%
増えた	7 8.0%	31 10.3%	23 7.1%	16 8.0%	77 8.4%	50 8.7%	26 8.0%	1 9.1%	74 8.6%	3 5.8%
大きな変化はない	15 17.2%	94 31.1%	110 33.7%	87 43.5%	306 33.4%	217 37.7%	83 25.6%	3 27.3%	277 32.3%	25 48.1%
減少した	14 16.1%	81 26.8%	99 30.4%	51 25.5%	245 26.8%	151 26.2%	92 28.4%	1 9.1%	231 26.9%	13 25.0%
かなり減少した	22 25.3%	75 24.8%	76 23.3%	38 19.0%	211 23.1%	131 22.7%	79 24.4%	1 9.1%	205 23.9%	5 9.6%
分からない	26 29.9%	17 5.6%	14 4.3%	7 3.5%	64 7.0%	21 3.6%	38 11.7%	5 45.5%	59 6.9%	6 11.5%

f.競争的資金の獲得

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
かなり増えた	55 6.0%	30 9.1%	25 4.3%	39 6.7%	10 10.0%	6 2.5%	20 6.9%	26 5.5%	6 5.0%	7 6.9%	48 5.9%
増えた	244 26.6%	110 33.2%	134 22.8%	174 30.1%	22 22.0%	48 20.0%	83 28.8%	132 27.7%	22 18.5%	29 28.7%	213 26.3%
大きな変化はない	372 40.5%	124 37.5%	248 42.2%	221 38.2%	39 39.0%	112 46.7%	116 40.3%	180 37.8%	62 52.1%	30 29.7%	337 41.7%
減少した	123 13.4%	33 10.0%	90 15.3%	71 12.3%	20 20.0%	32 13.3%	23 8.0%	83 17.4%	12 10.1%	11 10.9%	112 13.8%
かなり減少した	45 4.9%	10 3.0%	35 6.0%	28 4.8%	2 2.0%	15 6.3%	9 3.1%	30 6.3%	4 3.4%	8 7.9%	37 4.6%
分からない	80 8.7%	24 7.3%	56 9.5%	46 7.9%	7 7.0%	27 11.3%	37 12.8%	25 5.3%	13 10.9%	16 15.8%	62 7.7%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
かなり増えた	3 3.4%	28 9.3%	18 5.5%	6 3.0%	37 6.4%	18 5.6%	0 .0%	55 6.4%	0 .0%
増えた	20 23.0%	94 31.1%	82 25.2%	47 23.4%	153 26.6%	86 26.5%	3 27.3%	230 26.8%	11 21.2%
大きな変化はない	29 33.3%	115 38.1%	140 43.1%	87 43.3%	246 42.7%	120 37.0%	3 27.3%	345 40.2%	24 46.2%
減少した	6 6.9%	34 11.3%	51 15.7%	32 15.9%	76 13.2%	45 13.9%	1 9.1%	116 13.5%	6 11.5%
かなり減少した	1 1.1%	13 4.3%	17 5.2%	14 7.0%	32 5.6%	13 4.0%	0 .0%	41 4.8%	3 5.8%
分からない	28 32.2%	18 6.0%	17 5.2%	15 7.5%	32 5.6%	42 13.0%	4 36.4%	71 8.3%	8 15.4%

g.競争的資金の獲得申請に関わる負担

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
かなり増えた	168 18.3%	66 19.9%	102 17.4%	125 21.6%	18 18.0%	25 10.5%	60 20.8%	81 17.1%	21 17.6%	20 19.6%	147 18.2%
増えた	377 41.0%	156 47.0%	221 37.6%	254 43.8%	45 45.0%	78 32.6%	110 38.1%	209 44.0%	45 37.8%	46 45.1%	329 40.7%
大きな変化はない	277 30.1%	84 25.3%	193 32.9%	146 25.2%	31 31.0%	100 41.8%	78 27.0%	148 31.2%	41 34.5%	18 17.6%	256 31.7%
減少した	20 2.2%	6 1.8%	14 2.4%	15 2.6%	1 1.0%	4 1.7%	6 2.1%	11 2.3%	1 .8%	2 2.0%	17 2.1%
かなり減少した	3 .3%	0 .0%	3 .5%	1 .2%	0 .0%	2 .8%	0 .0%	3 .6%	0 .0%	0 .0%	3 .4%
分からない	74 8.1%	20 6.0%	54 9.2%	39 6.7%	5 5.0%	30 12.6%	35 12.1%	23 4.8%	11 9.2%	16 15.7%	56 6.9%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
かなり増えた	14 16.1%	69 22.8%	60 18.5%	25 12.5%	114 19.8%	54 16.7%	0 .0%	162 18.9%	6 11.8%
増えた	32 36.8%	132 43.6%	138 42.5%	74 37.0%	230 39.9%	140 43.2%	4 36.4%	355 41.3%	19 37.3%
大きな変化はない	16 18.4%	82 27.1%	102 31.4%	76 38.0%	184 31.9%	88 27.2%	2 18.2%	258 30.0%	15 29.4%
減少した	2 2.3%	3 1.0%	8 2.5%	7 3.5%	11 1.9%	8 2.5%	1 9.1%	17 2.0%	3 5.9%
かなり減少した	0 .0%	1 .3%	0 .0%	2 1.0%	3 .5%	0 .0%	0 .0%	2 .2%	0 .0%
分からない	23 26.4%	16 5.3%	17 5.2%	16 8.0%	34 5.9%	34 10.5%	4 36.4%	65 7.6%	8 15.7%

h.競争的資金獲得後の管理等の業務

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
かなり増えた	117 12.7%	53 16.0%	64 10.9%	83 14.3%	17 17.0%	17 7.1%	43 14.9%	56 11.8%	14 11.8%	14 13.7%	102 12.6%
増えた	323 35.2%	137 41.4%	186 31.7%	225 38.9%	39 39.0%	59 24.7%	101 34.9%	175 36.9%	38 31.9%	35 34.3%	285 35.3%
大きな変化はない	363 39.5%	111 33.5%	252 42.9%	213 36.8%	33 33.0%	117 49.0%	100 34.6%	198 41.8%	49 41.2%	33 32.4%	327 40.5%
減少した	23 2.5%	6 1.8%	17 2.9%	12 2.1%	2 2.0%	9 3.8%	9 3.1%	6 1.3%	6 5.0%	1 1.0%	22 2.7%
かなり減少した	4 .4%	0 .0%	4 .7%	0 .0%	1 1.0%	3 1.3%	0 .0%	4 .8%	0 .0%	0 .0%	4 .5%
分からない	88 9.6%	24 7.3%	64 10.9%	46 7.9%	8 8.0%	34 14.2%	36 12.5%	35 7.4%	12 10.1%	19 18.6%	67 8.3%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
かなり増えた	12 13.8%	50 16.5%	45 13.8%	10 5.0%	79 13.7%	38 11.7%	0 .0%	115 13.4%	2 3.9%
増えた	26 29.9%	122 40.3%	110 33.8%	64 32.2%	202 35.1%	118 36.4%	2 18.2%	303 35.3%	18 35.3%
大きな変化はない	24 27.6%	108 35.6%	135 41.5%	95 47.7%	232 40.3%	121 37.3%	5 45.5%	338 39.4%	21 41.2%
減少した	2 2.3%	1 .3%	11 3.4%	9 4.5%	17 3.0%	6 1.9%	0 .0%	19 2.2%	3 5.9%
かなり減少した	0 .0%	0 .0%	1 .3%	3 1.5%	3 .5%	1 .3%	0 .0%	3 .3%	0 .0%
分からない	23 26.4%	22 7.3%	23 7.1%	18 9.0%	42 7.3%	40 12.3%	4 36.4%	80 9.3%	7 13.7%

i.評価活動等への対応に関わる負担

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
かなり増えた	285 31.0%	102 30.7%	183 31.2%	207 35.7%	32 32.0%	46 19.2%	82 28.4%	156 32.8%	39 32.8%	32 31.4%	249 30.8%
増えた	433 47.1%	160 48.2%	273 46.5%	281 48.4%	48 48.0%	104 43.5%	138 47.8%	223 46.9%	55 46.2%	51 50.0%	379 46.9%
大きな変化はない	135 14.7%	47 14.2%	88 15.0%	55 9.5%	12 12.0%	68 28.5%	46 15.9%	64 13.5%	18 15.1%	6 5.9%	128 15.8%
減少した	7 .8%	1 .3%	6 1.0%	3 .5%	1 1.0%	3 1.3%	4 1.4%	3 .6%	0 .0%	0 .0%	7 .9%
かなり減少した	5 .5%	1 .3%	4 .7%	1 .2%	1 1.0%	3 1.3%	2 .7%	3 .6%	0 .0%	0 .0%	5 .6%
分からない	54 5.9%	21 6.3%	33 5.6%	33 5.7%	6 6.0%	15 6.3%	17 5.9%	26 5.5%	7 5.9%	13 12.7%	40 5.0%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
かなり増えた	26 29.9%	103 34.0%	113 34.8%	42 21.0%	183 31.8%	100 30.9%	1 9.1%	277 32.2%	7 13.7%
増えた	27 31.0%	147 48.5%	155 47.7%	102 51.0%	276 47.9%	152 46.9%	2 18.2%	404 47.0%	24 47.1%
大きな変化はない	11 12.6%	35 11.6%	45 13.8%	44 22.0%	95 16.5%	34 10.5%	4 36.4%	119 13.9%	13 25.5%
減少した	1 1.1%	0 .0%	3 .9%	3 1.5%	4 .7%	3 .9%	0 .0%	6 .7%	1 2.0%
かなり減少した	0 .0%	0 .0%	2 .6%	3 1.5%	4 .7%	1 .3%	0 .0%	4 .5%	1 2.0%
分からない	22 25.3%	18 5.9%	7 2.2%	6 3.0%	14 2.4%	34 10.5%	4 36.4%	49 5.7%	5 9.8%

j.教員スタッフ

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
かなり増えた	6 .7%	2 .6%	4 .7%	4 .7%	0 .0%	2 .8%	1 .3%	2 .4%	2 1.7%	1 1.0%	5 .6%
増えた	54 5.9%	28 8.4%	26 4.4%	35 6.0%	4 4.0%	15 6.3%	26 8.9%	25 5.3%	1 .8%	7 6.9%	46 5.7%
大きな変化はない	297 32.2%	124 37.1%	173 29.4%	151 26.0%	23 22.8%	123 51.3%	108 37.1%	138 29.0%	38 32.2%	17 16.7%	276 34.1%
減少した	313 33.9%	101 30.2%	212 36.1%	222 38.2%	33 32.7%	58 24.2%	79 27.1%	183 38.4%	41 34.7%	36 35.3%	275 34.0%
かなり減少した	199 21.6%	60 18.0%	139 23.6%	137 23.6%	37 36.6%	25 10.4%	55 18.9%	109 22.9%	28 23.7%	28 27.5%	169 20.9%
分からない	53 5.7%	19 5.7%	34 5.8%	32 5.5%	4 4.0%	17 7.1%	22 7.6%	19 4.0%	8 6.8%	13 12.7%	39 4.8%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
かなり増えた	0 .0%	2 .7%	3 .9%	1 .5%	4 .7%	1 .3%	1 9.1%	4 .5%	2 3.9%
増えた	6 6.9%	17 5.6%	14 4.3%	16 8.0%	32 5.5%	20 6.2%	1 9.1%	45 5.2%	7 13.7%
大きな変化はない	17 19.5%	75 24.8%	109 33.3%	94 46.8%	222 38.5%	71 21.8%	1 9.1%	277 32.2%	15 29.4%
減少した	24 27.6%	112 37.0%	121 37.0%	56 27.9%	190 32.9%	118 36.3%	2 18.2%	295 34.3%	17 33.3%
かなり減少した	18 20.7%	80 26.4%	71 21.7%	30 14.9%	114 19.8%	83 25.5%	2 18.2%	193 22.4%	5 9.8%
分からない	22 25.3%	17 5.6%	9 2.8%	4 2.0%	15 2.6%	32 9.8%	4 36.4%	47 5.5%	5 9.8%

問19. おおよそ10年前と比較して、あなたの現在の研究業績の数・質は大まかにどのように変化しましたか。

a.業績の量

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
どちらかと言えば、増加・上昇した	312 33.5%	130 38.6%	182 30.6%	208 35.5%	36 35.6%	68 27.8%	101 34.5%	158 32.8%	39 32.5%	37 35.2%	272 33.3%
ほとんど変わらない	293 31.4%	109 32.3%	184 30.9%	179 30.5%	27 26.7%	87 35.5%	87 29.7%	152 31.6%	46 38.3%	27 25.7%	263 32.2%
どちらかと言えば、減少・低下した	294 31.5%	86 25.5%	208 35.0%	179 30.5%	34 33.7%	81 33.1%	89 30.4%	159 33.1%	31 25.8%	33 31.4%	258 31.6%
分からない	33 3.5%	12 3.6%	21 3.5%	20 3.4%	4 4.0%	9 3.7%	16 5.5%	12 2.5%	4 3.3%	8 7.6%	24 2.9%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
どちらかと言えば、増加・上昇した	38 41.8%	119 38.6%	102 31.3%	52 25.6%	190 32.8%	115 34.7%	4 30.8%	290 33.3%	18 34.0%
ほとんど変わらない	22 24.2%	90 29.2%	99 30.4%	80 39.4%	190 32.8%	99 29.9%	2 15.4%	270 31.0%	19 35.8%
どちらかと言えば、減少・低下した	13 14.3%	92 29.9%	120 36.8%	69 34.0%	193 33.3%	96 29.0%	3 23.1%	279 32.1%	14 26.4%
分からない	18 19.8%	7 2.3%	5 1.5%	2 1.0%	7 1.2%	21 6.3%	4 30.8%	31 3.6%	2 3.8%

b.業績の質（1業績当たり）

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
どちらかと言えば、増加・上昇した	252 27.0%	114 33.8%	138 23.2%	162 27.6%	20 19.8%	70 28.6%	85 29.0%	122 25.4%	30 25.0%	25 23.8%	222 27.2%
ほとんど変わらない	407 43.7%	143 42.4%	264 44.4%	253 43.2%	49 48.5%	105 42.9%	120 41.0%	221 45.9%	53 44.2%	39 37.1%	366 44.8%
どちらかと言えば、減少・低下した	225 24.1%	64 19.0%	161 27.1%	141 24.1%	27 26.7%	57 23.3%	65 22.2%	123 25.6%	28 23.3%	32 30.5%	191 23.4%
分からない	48 5.2%	16 4.7%	32 5.4%	30 5.1%	5 5.0%	13 5.3%	23 7.8%	15 3.1%	9 7.5%	9 8.6%	38 4.7%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
どちらかと言えば、増加・上昇した	25 27.5%	88 28.6%	83 25.5%	54 26.6%	165 28.4%	81 24.5%	2 15.4%	232 26.7%	15 28.3%
ほとんど変わらない	32 35.2%	128 41.6%	148 45.4%	98 48.3%	250 43.1%	150 45.3%	4 30.8%	380 43.7%	25 47.2%
どちらかと言えば、減少・低下した	14 15.4%	82 26.6%	82 25.2%	47 23.2%	149 25.7%	74 22.4%	2 15.4%	214 24.6%	10 18.9%
分からない	20 22.0%	10 3.2%	13 4.0%	4 2.0%	16 2.8%	26 7.9%	5 38.5%	44 5.1%	3 5.7%

問20. 所属する研究科では、現在、大学院教育の改善に関わる以下のことを実施されていますか。また、それは有効・必要と思われますか。
実施状況
a.大学院教育の実質化に関わるFD活動

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
実施していない	171 17.9%	57 16.3%	114 18.8%	94 15.5%	29 27.9%	48 19.4%	64 20.8%	80 16.3%	20 16.5%	16 14.2%	153 18.3%
実施している	658 68.8%	242 69.3%	416 68.4%	426 70.4%	69 66.3%	163 65.7%	202 65.8%	339 69.2%	88 72.7%	80 70.8%	570 68.3%
分からない	128 13.4%	50 14.3%	78 12.8%	85 14.0%	6 5.8%	37 14.9%	41 13.4%	71 14.5%	13 10.7%	17 15.0%	111 13.3%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
実施していない	16 14.4%	55 17.5%	65 19.9%	34 16.8%	120 20.6%	46 13.3%	5 25.0%	160 17.9%	11 20.8%
実施している	66 59.5%	222 70.7%	225 69.0%	142 70.3%	393 67.4%	249 72.0%	8 40.0%	619 69.2%	32 60.4%
分からない	29 26.1%	37 11.8%	36 11.0%	26 12.9%	70 12.0%	51 14.7%	7 35.0%	116 13.0%	10 18.9%

b.成績評価基準をシラバスに明示する

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
実施していない	129 13.4%	45 12.9%	84 13.8%	75 12.4%	18 17.3%	36 14.4%	53 17.2%	52 10.6%	16 13.2%	13 11.5%	113 13.5%
実施している	784 81.7%	280 80.0%	504 82.6%	498 82.2%	83 79.8%	203 81.2%	244 79.2%	416 84.6%	96 79.3%	96 85.0%	681 81.4%
分からない	47 4.9%	25 7.1%	22 3.6%	33 5.4%	3 2.9%	11 4.4%	11 3.6%	24 4.9%	9 7.4%	4 3.5%	43 5.1%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
実施していない	13 11.7%	40 12.7%	40 12.2%	35 17.2%	85 14.6%	42 12.1%	2 10.0%	124 13.8%	5 9.1%
実施している	89 80.2%	257 81.8%	280 85.6%	155 76.0%	477 81.7%	286 82.2%	15 75.0%	731 81.6%	44 80.0%
分からない	9 8.1%	17 5.4%	7 2.1%	14 6.9%	22 3.8%	20 5.7%	3 15.0%	41 4.6%	6 10.9%

c.体系的・統一的な教育プログラムをつくる

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
実施していない	261 27.2%	99 28.4%	162 26.6%	143 23.6%	42 40.4%	76 30.5%	102 33.1%	116 23.7%	35 28.9%	28 24.8%	230 27.5%
実施している	543 56.7%	197 56.4%	346 56.8%	357 59.0%	51 49.0%	135 54.2%	158 51.3%	298 60.8%	61 50.4%	64 56.6%	473 56.6%
分からない	154 16.1%	53 15.2%	101 16.6%	105 17.4%	11 10.6%	38 15.3%	48 15.6%	76 15.5%	25 20.7%	21 18.6%	132 15.8%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
実施していない	25 22.5%	79 25.2%	92 28.2%	64 31.4%	169 29.0%	87 25.0%	4 20.0%	247 27.6%	13 23.6%
実施している	53 47.7%	190 60.7%	193 59.2%	104 51.0%	341 58.6%	190 54.6%	8 40.0%	507 56.7%	30 54.5%
分からない	33 29.7%	44 14.1%	41 12.6%	36 17.6%	72 12.4%	71 20.4%	8 40.0%	140 15.7%	12 21.8%

d.院生による授業評価

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
実施していない	286 29.8%	62 17.7%	224 36.7%	155 25.6%	45 43.3%	86 34.4%	114 37.0%	139 28.3%	26 21.5%	31 27.4%	251 30.0%
実施している	624 65.0%	274 78.3%	350 57.4%	421 69.5%	57 54.8%	146 58.4%	179 58.1%	331 67.3%	86 71.1%	72 63.7%	546 65.2%
分からない	50 5.2%	14 4.0%	36 5.9%	30 5.0%	2 1.9%	18 7.2%	15 4.9%	22 4.5%	9 7.4%	10 8.8%	40 4.8%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
実施していない	17 15.3%	84 26.8%	100 30.6%	82 40.2%	190 32.5%	93 26.7%	1 5.0%	267 29.8%	17 30.9%
実施している	86 77.5%	212 67.5%	211 64.5%	114 55.9%	368 63.0%	234 67.2%	18 90.0%	585 65.3%	34 61.8%
分からない	8 7.2%	18 5.7%	16 4.9%	8 3.9%	26 4.5%	21 6.0%	1 5.0%	44 4.9%	4 7.3%

e.複数教員による論文指導

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
実施していない	291 30.3%	78 22.3%	213 35.0%	184 30.4%	27 26.0%	80 32.1%	80 26.1%	159 32.3%	43 35.5%	30 26.8%	257 30.7%
実施している	624 65.1%	255 72.9%	369 60.6%	397 65.5%	73 70.2%	154 61.8%	211 68.7%	313 63.6%	71 58.7%	74 66.1%	544 65.0%
分からない	44 4.6%	17 4.9%	27 4.4%	25 4.1%	4 3.8%	15 6.0%	16 5.2%	20 4.1%	7 5.8%	8 7.1%	36 4.3%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
実施していない	29 26.1%	93 29.6%	95 29.1%	72 35.5%	177 30.4%	103 29.6%	5 25.0%	272 30.4%	15 27.3%
実施している	71 64.0%	210 66.9%	223 68.2%	118 58.1%	383 65.7%	226 64.9%	13 65.0%	582 65.0%	38 69.1%
分からない	11 9.9%	11 3.5%	9 2.8%	13 6.4%	23 3.9%	19 5.5%	2 10.0%	41 4.6%	2 3.6%

f.教員間で授業の情報交換を行う

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
実施していない	443 46.2%	155 44.3%	288 47.4%	274 45.2%	48 46.2%	121 48.8%	139 45.3%	234 47.6%	57 47.5%	50 44.6%	390 46.7%
実施している	410 42.8%	156 44.6%	254 41.8%	266 43.9%	49 47.1%	95 38.3%	141 45.9%	201 40.9%	47 39.2%	47 42.0%	357 42.7%
分からない	105 11.0%	39 11.1%	66 10.9%	66 10.9%	7 6.7%	32 12.9%	27 8.8%	57 11.6%	16 13.3%	15 13.4%	89 10.6%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
実施していない	45 40.5%	147 47.0%	144 44.0%	106 52.2%	270 46.3%	159 45.8%	9 45.0%	422 47.2%	17 30.9%
実施している	46 41.4%	135 43.1%	150 45.9%	76 37.4%	258 44.3%	143 41.2%	7 35.0%	375 41.9%	30 54.5%
分からない	20 18.0%	31 9.9%	33 10.1%	21 10.3%	55 9.4%	45 13.0%	4 20.0%	97 10.9%	8 14.5%

g.企業等と連携した教育プログラムの提供 と 大学分類 のクロス表

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
実施していない	539 56.4%	169 48.4%	370 61.0%	323 53.4%	75 72.1%	141 57.1%	180 58.8%	266 54.2%	71 59.2%	56 50.0%	473 56.7%
実施している	265 27.7%	117 33.5%	148 24.4%	181 29.9%	13 12.5%	71 28.7%	69 22.5%	158 32.2%	26 21.7%	28 25.0%	237 28.4%
分からない	152 15.9%	63 18.1%	89 14.7%	101 16.7%	16 15.4%	35 14.2%	57 18.6%	67 13.6%	23 19.2%	28 25.0%	124 14.9%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
実施していない	51 46.4%	159 50.8%	202 61.8%	123 60.9%	351 60.2%	173 50.1%	9 45.0%	505 56.5%	28 52.8%
実施している	31 28.2%	103 32.9%	84 25.7%	47 23.3%	157 26.9%	102 29.6%	5 25.0%	247 27.6%	15 28.3%
分からない	28 25.5%	51 16.3%	41 12.5%	32 15.8%	75 12.9%	70 20.3%	6 30.0%	142 15.9%	10 18.9%

b.社会人学生が学ぶための配慮（夜間開講、サテライト、一年コースなど）

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
実施していない	401 41.9%	161 46.1%	240 39.4%	228 37.7%	51 49.5%	122 48.8%	111 36.3%	225 45.7%	54 44.6%	34 30.4%	362 43.3%
実施している	433 45.2%	127 36.4%	306 50.2%	287 47.4%	45 43.7%	101 40.4%	176 57.5%	177 36.0%	57 47.1%	68 60.7%	360 43.1%
分からない	124 12.9%	61 17.5%	63 10.3%	90 14.9%	7 6.8%	27 10.8%	19 6.2%	90 18.3%	10 8.3%	10 8.9%	114 13.6%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
実施していない	46 41.4%	130 41.7%	137 41.9%	86 42.2%	246 42.2%	143 41.2%	10 50.0%	381 42.6%	17 30.9%
実施している	40 36.0%	139 44.6%	156 47.7%	96 47.1%	277 47.5%	145 41.8%	8 40.0%	396 44.3%	32 58.2%
分からない	25 22.5%	43 13.8%	34 10.4%	22 10.8%	60 10.3%	59 17.0%	2 10.0%	117 13.1%	6 10.9%

有効・必要性

a.大学院教育の実質化に関わるFD活動

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
非常に有効・必要だ	51 5.7%	22 6.7%	29 5.1%	29 5.1%	4 4.2%	18 7.8%	23 8.3%	24 5.1%	3 2.7%	7 6.7%	44 5.6%
ある程度有効・必要	589 65.7%	217 66.6%	372 65.1%	384 67.4%	63 66.3%	142 61.2%	176 63.5%	317 67.4%	69 61.1%	71 67.6%	512 65.4%
有効・必要ではない	257 28.7%	87 26.7%	170 29.8%	157 27.5%	28 29.5%	72 31.0%	78 28.2%	129 27.4%	41 36.3%	27 25.7%	227 29.0%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
非常に有効・必要だ	4 3.7%	19 6.4%	18 5.8%	10 5.6%	31 5.7%	18 5.5%	1 5.3%	47 5.6%	2 4.8%
ある程度有効・必要	74 69.2%	190 64.0%	199 64.2%	122 68.2%	363 66.9%	207 63.3%	12 63.2%	555 65.6%	29 69.0%
有効・必要ではない	29 27.1%	88 29.6%	93 30.0%	47 26.3%	149 27.4%	102 31.2%	6 31.6%	244 28.8%	11 26.2%

b.成績評価基準をシラバスに明示する

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
非常に有効・必要だ	89 9.8%	45 13.5%	44 7.7%	56 9.7%	3 3.1%	30 12.8%	35 12.4%	49 10.3%	3 2.7%	12 11.4%	77 9.7%
ある程度有効・必要	548 60.4%	199 59.8%	349 60.7%	352 61.0%	63 65.6%	133 56.6%	168 59.6%	296 62.1%	63 55.8%	66 62.9%	477 60.1%
有効・必要ではない	271 29.8%	89 26.7%	182 31.7%	169 29.3%	30 31.3%	72 30.6%	79 28.0%	132 27.7%	47 41.6%	27 25.7%	240 30.2%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
非常に有効・必要だ	15 13.9%	39 13.1%	21 6.7%	14 7.6%	50 9.1%	32 9.7%	5 26.3%	79 9.3%	8 16.7%
ある程度有効・必要	59 54.6%	164 55.0%	206 65.6%	116 63.0%	345 62.6%	191 57.9%	9 47.4%	516 60.6%	27 56.3%
有効・必要ではない	34 31.5%	95 31.9%	87 27.7%	54 29.3%	156 28.3%	107 32.4%	5 26.3%	256 30.1%	13 27.1%

c.体系的・統一的な教育プログラムをつくる

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
非常に有効・必要だ	176 19.5%	80 24.3%	96 16.7%	110 19.3%	19 20.0%	47 19.8%	75 26.5%	81 17.2%	10 9.0%	25 24.3%	150 19.0%
ある程度有効・必要	540 59.8%	182 55.3%	358 62.4%	344 60.2%	54 56.8%	142 59.9%	150 53.0%	306 64.8%	65 58.6%	57 55.3%	478 60.5%
有効・必要ではない	187 20.7%	67 20.4%	120 20.9%	117 20.5%	22 23.2%	48 20.3%	58 20.5%	85 18.0%	36 32.4%	21 20.4%	162 20.5%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
非常に有効・必要だ	26 24.1%	67 22.7%	54 17.1%	28 15.5%	105 19.2%	62 18.8%	6 33.3%	164 19.4%	10 20.8%
ある程度有効・必要	57 52.8%	167 56.6%	203 64.4%	111 61.3%	337 61.5%	191 58.1%	9 50.0%	508 60.0%	27 56.3%
有効・必要ではない	25 23.1%	61 20.7%	58 18.4%	42 23.2%	106 19.3%	76 23.1%	3 16.7%	174 20.6%	11 22.9%

d.院生による授業評価

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
非常に有効・必要だ	71 7.9%	30 9.0%	41 7.2%	40 7.0%	7 7.3%	24 10.3%	28 9.9%	38 8.0%	3 2.7%	10 9.5%	60 7.6%
ある程度有効・必要	529 58.5%	197 58.8%	332 58.3%	350 60.9%	53 55.2%	126 54.1%	160 56.5%	268 56.5%	72 64.3%	61 58.1%	464 58.7%
有効・必要ではない	304 33.6%	108 32.2%	196 34.4%	185 32.2%	36 37.5%	83 35.6%	95 33.6%	168 35.4%	37 33.0%	34 32.4%	267 33.8%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
非常に有効・必要だ	7 6.5%	29 9.7%	21 6.8%	13 7.0%	42 7.7%	25 7.6%	3 15.8%	63 7.4%	6 12.8%
ある程度有効・必要	68 63.0%	170 56.9%	191 61.8%	99 53.5%	314 57.5%	199 60.1%	11 57.9%	497 58.5%	29 61.7%
有効・必要ではない	33 30.6%	100 33.4%	97 31.4%	73 39.5%	190 34.8%	107 32.3%	5 26.3%	289 34.0%	12 25.5%

e.複数教員による論文指導

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
非常に有効・必要だ	209 23.1%	99 29.7%	110 19.2%	127 22.0%	28 29.2%	54 23.2%	93 33.0%	81 17.0%	26 23.4%	30 28.8%	178 22.5%
ある程度有効・必要	513 56.6%	175 52.6%	338 59.0%	326 56.5%	50 52.1%	137 58.8%	151 53.5%	276 58.0%	63 56.8%	63 60.6%	444 56.1%
有効・必要ではない	184 20.3%	59 17.7%	125 21.8%	124 21.5%	18 18.8%	42 18.0%	38 13.5%	119 25.0%	22 19.8%	11 10.6%	170 21.5%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
非常に有効・必要だ	31 28.4%	74 24.9%	72 22.7%	31 17.3%	116 21.2%	85 25.5%	8 42.1%	198 23.3%	10 20.8%
ある程度有効・必要	59 54.1%	167 56.2%	176 55.5%	109 60.9%	319 58.4%	179 53.8%	10 52.6%	481 56.7%	27 56.3%
有効・必要ではない	19 17.4%	56 18.9%	69 21.8%	39 21.8%	111 20.3%	69 20.7%	1 5.3%	170 20.0%	11 22.9%

f.教員間で授業の情報交換を行う

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
非常に有効・必要だ	165 18.4%	68 20.5%	97 17.1%	102 17.8%	21 22.3%	42 18.1%	70 25.1%	74 15.7%	12 10.9%	29 27.9%	135 17.2%
ある程度有効・必要	604 67.3%	222 67.1%	382 67.4%	387 67.7%	62 66.0%	155 66.8%	165 59.1%	333 70.6%	82 74.5%	63 60.6%	535 68.2%
有効・必要ではない	129 14.4%	41 12.4%	88 15.5%	83 14.5%	11 11.7%	35 15.1%	44 15.8%	65 13.8%	16 14.5%	12 11.5%	114 14.5%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
非常に有効・必要だ	29 26.9%	55 18.5%	58 18.5%	22 12.6%	96 17.7%	62 18.8%	6 31.6%	149 17.7%	14 31.1%
ある程度有効・必要	61 56.5%	204 68.7%	215 68.5%	122 69.7%	369 68.2%	219 66.4%	11 57.9%	574 68.0%	26 57.8%
有効・必要ではない	18 16.7%	38 12.8%	41 13.1%	31 17.7%	76 14.0%	49 14.8%	2 10.5%	121 14.3%	5 11.1%

g.企業等と連携した教育プログラムの提供

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
非常に有効・必要だ	89 10.1%	27 8.3%	62 11.1%	43 7.7%	11 12.0%	35 15.2%	25 9.2%	44 9.5%	14 12.8%	10 10.0%	79 10.2%
ある程度有効・必要	478 54.2%	172 53.1%	306 54.8%	317 56.6%	39 42.4%	122 53.0%	123 45.1%	278 59.8%	57 52.3%	60 60.0%	414 53.5%
有効・必要ではない	315 35.7%	125 38.6%	190 34.1%	200 35.7%	42 45.7%	73 31.7%	125 45.8%	143 30.8%	38 34.9%	30 30.0%	281 36.3%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
非常に有効・必要だ	14 13.2%	36 12.3%	28 9.1%	11 6.4%	47 8.9%	35 10.7%	7 38.9%	81 9.8%	7 15.9%
ある程度有効・必要	66 62.3%	154 52.6%	154 49.8%	101 59.1%	281 53.0%	182 55.8%	8 44.4%	451 54.3%	22 50.0%
有効・必要ではない	26 24.5%	103 35.2%	127 41.1%	59 34.5%	202 38.1%	109 33.4%	3 16.7%	298 35.9%	15 34.1%

j.社会人学生が学ぶための配慮（夜間開講、サテライト、一年コースなど）

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
非常に有効・必要だ	137 15.4%	40 12.4%	97 17.1%	82 14.5%	17 18.1%	38 16.5%	64 23.0%	44 9.5%	22 19.8%	14 14.0%	123 15.8%
ある程度有効・必要	539 60.7%	192 59.6%	347 61.3%	356 63.1%	48 51.1%	135 58.7%	163 58.6%	279 60.4%	74 66.7%	67 67.0%	466 59.8%
有効・必要ではない	212 23.9%	90 28.0%	122 21.6%	126 22.3%	29 30.9%	57 24.8%	51 18.3%	139 30.1%	15 13.5%	19 19.0%	190 24.4%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
非常に有効・必要だ	16 15.1%	43 14.8%	49 15.8%	29 16.3%	86 16.0%	47 14.6%	4 21.1%	123 14.8%	13 27.7%
ある程度有効・必要	67 63.2%	165 56.7%	190 61.3%	114 64.0%	324 60.1%	196 60.9%	13 68.4%	505 60.6%	28 59.6%
有効・必要ではない	23 21.7%	83 28.5%	71 22.9%	35 19.7%	129 23.9%	79 24.5%	2 10.5%	205 24.6%	6 12.8%

問21. 所属する研究科について以下の事柄をどのように評価されますか。また将来において重要な課題だと思いますか。

a.(現在の評価)研究者の養成

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
かなり努力している	141 14.7%	99 28.4%	42 6.9%	98 16.2%	19 18.4%	24 9.6%	59 19.2%	65 13.3%	15 12.3%	13 11.6%	128 15.3%
努力している	461 48.1%	200 57.3%	261 42.8%	300 49.6%	57 55.3%	104 41.4%	130 42.2%	253 51.6%	55 45.1%	50 44.6%	404 48.3%
あまり努力していない	284 29.6%	41 11.7%	243 39.8%	165 27.3%	22 21.4%	97 38.6%	92 29.9%	142 29.0%	40 32.8%	35 31.3%	248 29.6%
全く努力していない	73 7.6%	9 2.6%	64 10.5%	42 6.9%	5 4.9%	26 10.4%	27 8.8%	30 6.1%	12 9.8%	14 12.5%	57 6.8%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
かなり努力している	13 11.8%	50 15.9%	53 16.3%	25 12.2%	96 16.4%	45 13.0%	0 .0%	131 14.7%	9 15.8%
努力している	55 50.0%	157 50.0%	148 45.4%	98 47.8%	270 46.2%	178 51.3%	7 35.0%	428 47.9%	28 49.1%
あまり努力していない	32 29.1%	76 24.2%	105 32.2%	70 34.1%	181 31.0%	94 27.1%	8 40.0%	267 29.9%	15 26.3%
全く努力していない	10 9.1%	31 9.9%	20 6.1%	12 5.9%	37 6.3%	30 8.6%	5 25.0%	67 7.5%	5 8.8%

b.(現在の評価)専門職業人の養成

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
かなり努力している	179 18.7%	73 21.0%	106 17.4%	122 20.3%	15 14.6%	42 16.8%	89 29.0%	64 13.1%	20 16.5%	31 27.7%	147 17.6%
努力している	533 55.8%	180 51.9%	353 58.1%	334 55.5%	59 57.3%	140 56.0%	145 47.2%	285 58.4%	76 62.8%	51 45.5%	476 57.1%
あまり努力していない	210 22.0%	82 23.6%	128 21.1%	131 21.8%	24 23.3%	55 22.0%	61 19.9%	121 24.8%	22 18.2%	26 23.2%	181 21.7%
全く努力していない	33 3.5%	12 3.5%	21 3.5%	15 2.5%	5 4.9%	13 5.2%	12 3.9%	18 3.7%	3 2.5%	4 3.6%	29 3.5%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
かなり努力している	21 19.3%	63 20.2%	59 18.1%	35 17.2%	120 20.6%	56 16.3%	3 15.0%	169 19.0%	8 14.0%
努力している	54 49.5%	163 52.2%	194 59.5%	120 58.8%	333 57.1%	184 53.5%	10 50.0%	497 55.9%	32 56.1%
あまり努力していない	28 25.7%	76 24.4%	63 19.3%	42 20.6%	115 19.7%	88 25.6%	5 25.0%	193 21.7%	14 24.6%
全く努力していない	6 5.5%	10 3.2%	10 3.1%	7 3.4%	15 2.6%	16 4.7%	2 10.0%	30 3.4%	3 5.3%

c.(現在の評価)院生の定員充足

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
かなり努力している	158 16.5%	76 21.9%	82 13.5%	122 20.2%	12 11.7%	24 9.6%	60 19.5%	75 15.3%	19 15.7%	15 13.5%	143 17.1%
努力している	552 57.7%	207 59.7%	345 56.7%	377 62.4%	61 59.2%	114 45.8%	159 51.8%	306 62.6%	68 56.2%	60 54.1%	486 58.2%
あまり努力していない	213 22.3%	54 15.6%	159 26.1%	94 15.6%	26 25.2%	93 37.3%	76 24.8%	96 19.6%	28 23.1%	33 29.7%	176 21.1%
全く努力していない	33 3.5%	10 2.9%	23 3.8%	11 1.8%	4 3.9%	18 7.2%	12 3.9%	12 2.5%	6 5.0%	3 2.7%	30 3.6%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
かなり努力している	14 12.7%	59 18.8%	54 16.6%	31 15.2%	98 16.8%	56 16.2%	2 10.0%	148 16.6%	10 17.5%
努力している	63 57.3%	185 59.1%	190 58.5%	111 54.4%	329 56.5%	205 59.2%	13 65.0%	518 58.2%	26 45.6%
あまり努力していない	30 27.3%	62 19.8%	69 21.2%	51 25.0%	134 23.0%	74 21.4%	4 20.0%	196 22.0%	16 28.1%
全く努力していない	3 2.7%	7 2.2%	12 3.7%	11 5.4%	21 3.6%	11 3.2%	1 5.0%	28 3.1%	5 8.8%

d.(現在の評価)留学生の受け入れ

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
かなり努力している	114 11.9%	59 17.0%	55 9.0%	92 15.2%	4 3.9%	18 7.2%	48 15.6%	53 10.9%	10 8.2%	15 13.5%	99 11.9%
努力している	445 46.5%	196 56.5%	249 40.9%	328 54.3%	44 43.1%	73 29.2%	151 49.0%	227 46.6%	56 45.9%	43 38.7%	398 47.7%
あまり努力していない	302 31.6%	83 23.9%	219 36.0%	152 25.2%	42 41.2%	108 43.2%	85 27.6%	161 33.1%	42 34.4%	36 32.4%	261 31.3%
全く努力していない	95 9.9%	9 2.6%	86 14.1%	32 5.3%	12 11.8%	51 20.4%	24 7.8%	46 9.4%	14 11.5%	17 15.3%	77 9.2%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
かなり努力している	13 11.8%	45 14.3%	34 10.5%	22 10.8%	65 11.2%	49 14.1%	0 .0%	111 12.5%	3 5.3%
努力している	56 50.9%	150 47.8%	151 46.6%	86 42.2%	257 44.2%	170 49.0%	13 65.0%	412 46.3%	27 47.4%
あまり努力していない	31 28.2%	91 29.0%	111 34.3%	67 32.8%	195 33.6%	101 29.1%	4 20.0%	284 31.9%	16 28.1%
全く努力していない	10 9.1%	28 8.9%	28 8.6%	29 14.2%	64 11.0%	27 7.8%	3 15.0%	83 9.3%	11 19.3%

c.(現在の評価)社会人の受け入れ

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
かなり努力している	119 12.4%	48 13.8%	71 11.7%	86 14.2%	12 11.7%	21 8.4%	58 18.9%	37 7.6%	20 16.4%	16 14.4%	103 12.3%
努力している	466 48.7%	184 52.9%	282 46.4%	326 54.0%	51 49.5%	89 35.7%	162 52.8%	225 46.1%	57 46.7%	57 51.4%	404 48.4%
あまり努力していない	293 30.6%	99 28.4%	194 31.9%	162 26.8%	34 33.0%	97 39.0%	72 23.5%	177 36.3%	37 30.3%	33 29.7%	257 30.8%
全く努力していない	78 8.2%	17 4.9%	61 10.0%	30 5.0%	6 5.8%	42 16.9%	15 4.9%	49 10.0%	8 6.6%	5 4.5%	71 8.5%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
かなり努力している	11 10.0%	47 15.0%	36 11.1%	25 12.3%	72 12.4%	46 13.3%	1 5.0%	114 12.8%	5 8.9%
努力している	53 48.2%	153 48.7%	161 49.5%	96 47.3%	283 48.7%	166 47.8%	12 60.0%	432 48.5%	26 46.4%
あまり努力していない	35 31.8%	86 27.4%	108 33.2%	64 31.5%	187 32.2%	101 29.1%	4 20.0%	275 30.9%	18 32.1%
全く努力していない	11 10.0%	28 8.9%	20 6.2%	18 8.9%	39 6.7%	34 9.8%	3 15.0%	70 7.9%	7 12.5%

f.(現在の評価)院生に対する経済的支援

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
かなり努力している	82 8.6%	38 11.0%	44 7.2%	41 6.8%	15 14.6%	26 10.5%	27 8.9%	46 9.4%	7 5.7%	9 8.2%	73 8.7%
努力している	446 46.7%	192 55.3%	254 41.8%	299 49.5%	40 38.8%	107 43.1%	128 42.0%	245 50.1%	55 45.1%	49 44.5%	391 46.8%
あまり努力していない	366 38.3%	103 29.7%	263 43.3%	230 38.1%	36 35.0%	100 40.3%	129 42.3%	168 34.4%	53 43.4%	42 38.2%	321 38.4%
全く努力していない	61 6.4%	14 4.0%	47 7.7%	34 5.6%	12 11.7%	15 6.0%	21 6.9%	30 6.1%	7 5.7%	10 9.1%	50 6.0%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
かなり努力している	10 9.1%	34 10.9%	25 7.7%	13 6.4%	52 9.0%	28 8.1%	2 10.0%	79 8.9%	3 5.4%
努力している	44 40.0%	152 48.6%	155 47.5%	92 45.5%	279 48.0%	151 43.6%	11 55.0%	416 46.7%	26 46.4%
あまり努力していない	47 42.7%	111 35.5%	122 37.4%	85 42.1%	216 37.2%	142 41.0%	6 30.0%	342 38.4%	21 37.5%
全く努力していない	9 8.2%	16 5.1%	24 7.4%	12 5.9%	34 5.9%	25 7.2%	1 5.0%	54 6.1%	6 10.7%

g.(現在の評価)院生に対する就職支援

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
かなり努力している	100 10.5%	28 8.1%	72 11.8%	57 9.5%	10 9.7%	33 13.3%	24 7.8%	63 12.9%	10 8.3%	11 10.0%	89 10.7%
努力している	442 46.3%	163 47.1%	279 45.8%	291 48.3%	39 37.9%	112 45.0%	114 37.3%	253 51.7%	58 47.9%	43 39.1%	396 47.4%
あまり努力していない	354 37.1%	138 39.9%	216 35.5%	225 37.3%	41 39.8%	88 35.3%	143 46.7%	155 31.7%	43 35.5%	45 40.9%	302 36.2%
全く努力していない	59 6.2%	17 4.9%	42 6.9%	30 5.0%	13 12.6%	16 6.4%	25 8.2%	18 3.7%	10 8.3%	11 10.0%	48 5.7%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
かなり努力している	11 10.0%	44 14.1%	31 9.5%	14 6.9%	61 10.5%	36 10.4%	3 15.0%	96 10.8%	4 7.1%
努力している	44 40.0%	135 43.3%	162 49.7%	99 48.8%	273 46.9%	156 45.2%	7 35.0%	417 46.9%	22 39.3%
あまり努力していない	46 41.8%	111 35.6%	117 35.9%	78 38.4%	216 37.1%	127 36.8%	9 45.0%	323 36.3%	25 44.6%
全く努力していない	9 8.2%	22 7.1%	16 4.9%	12 5.9%	32 5.5%	26 7.5%	1 5.0%	54 6.1%	5 8.9%

h.(現在の評価)TA・RAの人数

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
かなり努力している	61 6.4%	33 9.5%	28 4.6%	48 8.0%	5 5.0%	8 3.2%	20 6.6%	33 6.8%	7 5.8%	6 5.5%	55 6.6%
努力している	532 56.1%	225 65.0%	307 50.9%	374 62.3%	45 44.6%	113 45.6%	138 45.2%	311 64.1%	67 55.4%	54 49.1%	472 56.9%
あまり努力していない	291 30.7%	76 22.0%	215 35.7%	152 25.3%	40 39.6%	99 39.9%	113 37.0%	126 26.0%	35 28.9%	39 35.5%	251 30.2%
全く努力していない	65 6.8%	12 3.5%	53 8.8%	26 4.3%	11 10.9%	28 11.3%	34 11.1%	15 3.1%	12 9.9%	11 10.0%	52 6.3%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
かなり努力している	10 9.1%	25 8.0%	20 6.2%	6 3.0%	38 6.6%	21 6.1%	2 10.0%	58 6.5%	3 5.5%
努力している	59 53.6%	174 55.9%	186 57.2%	111 55.5%	314 54.4%	200 58.1%	11 55.0%	503 56.8%	24 43.6%
あまり努力していない	34 30.9%	95 30.5%	97 29.8%	65 32.5%	183 31.7%	102 29.7%	5 25.0%	267 30.1%	22 40.0%
全く努力していない	7 6.4%	17 5.5%	22 6.8%	18 9.0%	42 7.3%	21 6.1%	2 10.0%	58 6.5%	6 10.9%

j.(現在の評価)女性の院生への支援

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
かなり努力している	29 3.1%	18 5.2%	11 1.8%	24 4.0%	1 1.0%	4 1.6%	8 2.6%	10 2.1%	9 7.4%	4 3.6%	25 3.0%
努力している	239 25.2%	102 29.6%	137 22.6%	175 29.2%	17 16.5%	47 19.0%	58 19.0%	134 27.7%	37 30.6%	26 23.6%	208 25.1%
あまり努力していない	492 51.8%	175 50.7%	317 52.4%	303 50.6%	55 53.4%	134 54.0%	172 56.2%	246 50.8%	55 45.5%	52 47.3%	437 52.7%
全く努力していない	190 20.0%	50 14.5%	140 23.1%	97 16.2%	30 29.1%	63 25.4%	68 22.2%	94 19.4%	20 16.5%	28 25.5%	160 19.3%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
かなり努力している	2 1.8%	12 3.9%	9 2.8%	6 3.0%	17 2.9%	12 3.5%	0 .0%	27 3.0%	2 3.7%
努力している	29 26.6%	81 26.0%	78 24.0%	49 24.4%	138 23.8%	93 27.1%	3 15.8%	221 24.9%	15 27.8%
あまり努力していない	55 50.5%	148 47.6%	174 53.5%	114 56.7%	317 54.7%	162 47.2%	11 57.9%	458 51.6%	30 55.6%
全く努力していない	23 21.1%	70 22.5%	64 19.7%	32 15.9%	108 18.6%	76 22.2%	5 26.3%	181 20.4%	7 13.0%

j.(現在の評価)研究の高度化

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
かなり努力している	156 16.4%	90 25.9%	66 10.9%	110 18.3%	22 21.4%	24 9.6%	49 16.0%	92 18.9%	12 9.9%	10 9.0%	145 17.4%
努力している	498 52.2%	192 55.2%	306 50.5%	317 52.7%	49 47.6%	132 52.8%	137 44.6%	275 56.5%	63 52.1%	52 46.8%	441 52.9%
あまり努力していない	240 25.2%	55 15.8%	185 30.5%	141 23.5%	27 26.2%	72 28.8%	96 31.3%	101 20.7%	33 27.3%	37 33.3%	200 24.0%
全く努力していない	60 6.3%	11 3.2%	49 8.1%	33 5.5%	5 4.9%	22 8.8%	25 8.1%	19 3.9%	13 10.7%	12 10.8%	47 5.6%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
かなり努力している	16 14.5%	53 16.9%	54 16.6%	33 16.4%	102 17.6%	48 13.8%	6 30.0%	138 15.5%	18 31.6%
努力している	48 43.6%	165 52.5%	175 53.8%	107 53.2%	309 53.4%	177 51.0%	5 25.0%	460 51.8%	30 52.6%
あまり努力していない	32 29.1%	74 23.6%	79 24.3%	54 26.9%	141 24.4%	93 26.8%	6 30.0%	233 26.2%	7 12.3%
全く努力していない	14 12.7%	22 7.0%	17 5.2%	7 3.5%	27 4.7%	29 8.4%	3 15.0%	57 6.4%	2 3.5%

k.（現在の評価）地域社会や企業への情報提供

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
かなり努力している	73	29	44	53	8	12	21	44	7	6	67
	7.6%	8.3%	7.2%	8.8%	7.8%	4.8%	6.8%	9.0%	5.8%	5.4%	8.0%
努力している	475	170	305	312	57	106	118	286	58	51	420
	49.7%	48.9%	50.2%	51.7%	55.9%	42.4%	38.3%	58.7%	47.9%	45.9%	50.4%
あまり努力していない	337	130	207	209	30	98	132	138	44	47	285
	35.3%	37.4%	34.1%	34.7%	29.4%	39.2%	42.9%	28.3%	36.4%	42.3%	34.2%
全く努力していない	70	19	51	29	7	34	37	19	12	7	62
	7.3%	5.5%	8.4%	4.8%	6.9%	13.6%	12.0%	3.9%	9.9%	6.3%	7.4%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
かなり努力している	8	34	14	17	37	34	2	67	6
	7.3%	10.8%	4.3%	8.4%	6.4%	9.8%	10.0%	7.5%	10.5%
努力している	47	156	168	102	296	167	8	442	28
	42.7%	49.7%	51.7%	50.5%	51.0%	48.1%	40.0%	49.7%	49.1%
あまり努力していない	41	109	117	68	201	125	8	315	19
	37.3%	34.7%	36.0%	33.7%	34.7%	36.0%	40.0%	35.4%	33.3%
全く努力していない	14	15	26	15	46	21	2	65	4
	12.7%	4.8%	8.0%	7.4%	7.9%	6.1%	10.0%	7.3%	7.0%

l.（現在の評価）国際化

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
かなり努力している	159	88	71	122	16	21	47	94	13	17	141
	16.6%	25.3%	11.7%	20.2%	15.5%	8.4%	15.3%	19.3%	10.7%	15.3%	16.9%
努力している	426	194	232	295	42	89	139	222	50	43	379
	44.6%	55.7%	38.2%	48.9%	40.8%	35.6%	45.1%	45.5%	41.3%	38.7%	45.4%
あまり努力していない	306	60	246	156	36	114	99	151	44	35	269
	32.0%	17.2%	40.5%	25.9%	35.0%	45.6%	32.1%	30.9%	36.4%	31.5%	32.2%
全く努力していない	65	6	59	30	9	26	23	21	14	16	46
	6.8%	1.7%	9.7%	5.0%	8.7%	10.4%	7.5%	4.3%	11.6%	14.4%	5.5%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
かなり努力している	16	58	56	29	107	49	3	145	14
	14.5%	18.5%	17.2%	14.4%	18.4%	14.1%	15.0%	16.3%	24.6%
努力している	47	133	154	90	255	159	9	398	22
	42.7%	42.4%	47.2%	44.6%	43.9%	45.8%	45.0%	44.7%	38.6%
あまり努力していない	34	99	98	74	186	111	5	287	17
	30.9%	31.5%	30.1%	36.6%	32.0%	32.0%	25.0%	32.2%	29.8%
全く努力していない	13	24	18	9	33	28	3	60	4
	11.8%	7.6%	5.5%	4.5%	5.7%	8.1%	15.0%	6.7%	7.0%

m.（現在の評価）外部資金の獲得

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
かなり努力している	237	125	112	167	33	37	71	138	21	24	212
	24.8%	35.9%	18.4%	27.7%	32.0%	14.8%	23.1%	28.3%	17.4%	21.6%	25.4%
努力している	490	191	299	335	49	106	131	280	60	52	434
	51.3%	54.9%	49.2%	55.6%	47.6%	42.4%	42.5%	57.4%	49.6%	46.8%	52.0%
あまり努力していない	177	27	150	85	15	77	77	60	30	25	149
	18.5%	7.8%	24.7%	14.1%	14.6%	30.8%	25.0%	12.3%	24.8%	22.5%	17.8%
全く努力していない	52	5	47	16	6	30	29	10	10	10	40
	5.4%	1.4%	7.7%	2.7%	5.8%	12.0%	9.4%	2.0%	8.3%	9.0%	4.8%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
かなり努力している	27 24.5%	90 28.7%	79 24.2%	41 20.3%	149 25.6%	80 23.1%	6 30.0%	219 24.6%	17 29.8%
努力している	53 48.2%	161 51.3%	180 55.2%	94 46.5%	285 49.1%	192 55.3%	9 45.0%	463 52.0%	23 40.4%
あまり努力していない	20 18.2%	45 14.3%	56 17.2%	54 26.7%	117 20.1%	55 15.9%	4 20.0%	161 18.1%	13 22.8%
全く努力していない	10 9.1%	18 5.7%	11 3.4%	13 6.4%	30 5.2%	20 5.8%	1 5.0%	47 5.3%	4 7.0%

a.(将来のあり方)研究者の養成

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
全く重要課題ではない	33 3.5%	6 1.8%	27 4.5%	14 2.4%	3 3.0%	16 6.5%	13 4.3%	14 2.9%	5 4.2%	8 7.5%	24 2.9%
あまり重要課題ではない	145 15.4%	16 4.7%	129 21.5%	84 14.1%	10 10.0%	51 20.7%	51 17.1%	63 13.0%	29 24.4%	13 12.1%	130 15.8%
ある程度重要課題	405 43.1%	120 35.4%	285 47.4%	251 42.3%	40 40.0%	114 46.3%	121 40.5%	215 44.4%	47 39.5%	47 43.9%	354 43.0%
きわめて重要課題	357 38.0%	197 58.1%	160 26.6%	245 41.2%	47 47.0%	65 26.4%	114 38.1%	192 39.7%	38 31.9%	39 36.4%	315 38.3%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
全く重要課題ではない	5 4.7%	16 5.2%	9 2.8%	3 1.5%	14 2.4%	16 4.7%	2 10.0%	29 3.3%	3 5.6%
あまり重要課題ではない	14 13.1%	42 13.6%	55 17.0%	32 16.2%	93 16.2%	47 13.9%	5 25.0%	140 16.0%	4 7.4%
ある程度重要課題	47 43.9%	109 35.3%	143 44.3%	104 52.8%	256 44.7%	135 39.8%	9 45.0%	380 43.3%	21 38.9%
きわめて重要課題	41 38.3%	142 46.0%	116 35.9%	58 29.4%	210 36.6%	141 41.6%	4 20.0%	328 37.4%	26 48.1%

b.(将来のあり方)専門職業人の養成

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
全く重要課題ではない	25 2.7%	10 3.0%	15 2.5%	15 2.5%	3 3.0%	7 2.9%	7 2.3%	15 3.1%	2 1.7%	3 2.8%	21 2.6%
あまり重要課題ではない	72 7.7%	31 9.2%	41 6.8%	42 7.1%	10 10.0%	20 8.2%	22 7.4%	40 8.3%	8 6.8%	6 5.6%	66 8.0%
ある程度重要課題	485 51.8%	174 51.6%	311 51.8%	295 49.8%	56 56.0%	134 54.7%	138 46.2%	270 56.0%	55 46.6%	57 53.3%	422 51.5%
きわめて重要課題	355 37.9%	122 36.2%	233 38.8%	240 40.5%	31 31.0%	84 34.3%	132 44.1%	157 32.6%	53 44.9%	41 38.3%	311 37.9%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
全く重要課題ではない	2 1.9%	9 2.9%	9 2.8%	4 2.0%	14 2.4%	10 3.0%	1 5.0%	23 2.6%	2 3.7%
あまり重要課題ではない	20 18.9%	17 5.5%	20 6.2%	15 7.6%	40 7.0%	26 7.7%	5 25.0%	67 7.7%	5 9.3%
ある程度重要課題	46 43.4%	160 52.1%	173 53.6%	104 52.8%	297 51.8%	173 51.5%	8 40.0%	451 51.6%	28 51.9%
きわめて重要課題	38 35.8%	121 39.4%	121 37.5%	74 37.6%	222 38.7%	127 37.8%	6 30.0%	333 38.1%	19 35.2%

c.(将来のあり方)院生の定員充足

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
全く重要課題ではない	43 4.6%	21 6.2%	22 3.7%	23 3.9%	4 4.0%	16 6.6%	20 6.8%	14 2.9%	8 6.8%	3 2.8%	38 4.7%
あまり重要課題ではない	164 17.6%	56 16.5%	108 18.2%	94 15.9%	25 25.3%	45 18.5%	47 15.9%	85 17.7%	25 21.2%	21 19.8%	142 17.4%
ある程度重要課題	448 48.0%	173 51.0%	275 46.3%	301 50.9%	31 31.3%	116 47.7%	139 47.0%	231 48.0%	59 50.0%	53 50.0%	389 47.6%
きわめて重要課題	278 29.8%	89 26.3%	189 31.8%	173 29.3%	39 39.4%	66 27.2%	90 30.4%	151 31.4%	26 22.0%	29 27.4%	248 30.4%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
全く重要課題ではない	6 5.7%	14 4.6%	18 5.6%	4 2.0%	23 4.0%	18 5.4%	2 10.0%	40 4.6%	3 5.6%
あまり重要課題ではない	23 21.7%	55 18.0%	53 16.6%	33 16.7%	93 16.3%	67 19.9%	3 15.0%	154 17.7%	10 18.5%
ある程度重要課題	45 42.5%	141 46.2%	160 50.0%	99 50.0%	275 48.3%	157 46.7%	10 50.0%	415 47.7%	25 46.3%
きわめて重要課題	32 30.2%	95 31.1%	89 27.8%	62 31.3%	178 31.3%	94 28.0%	5 25.0%	261 30.0%	16 29.6%

d.(将来のあり方)留学生の受け入れ

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
全く重要課題ではない	59 6.3%	16 4.7%	43 7.2%	30 5.1%	5 5.0%	24 9.8%	23 7.7%	28 5.8%	7 5.9%	8 7.5%	48 5.8%
あまり重要課題ではない	226 24.1%	67 19.7%	159 26.5%	137 23.1%	27 27.0%	62 25.2%	74 24.8%	109 22.5%	34 28.6%	26 24.3%	199 24.2%
ある程度重要課題	501 53.4%	195 57.4%	306 51.1%	326 55.0%	52 52.0%	123 50.0%	148 49.7%	271 56.0%	63 52.9%	60 56.1%	435 52.9%
きわめて重要課題	153 16.3%	62 18.2%	91 15.2%	100 16.9%	16 16.0%	37 15.0%	53 17.8%	76 15.7%	15 12.6%	13 12.1%	140 17.0%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
全く重要課題ではない	9 8.4%	19 6.2%	21 6.5%	9 4.5%	35 6.1%	22 6.5%	1 5.0%	56 6.4%	2 3.7%
あまり重要課題ではない	29 27.1%	69 22.4%	78 24.2%	49 24.7%	134 23.4%	87 25.7%	3 15.0%	208 23.7%	16 29.6%
ある程度重要課題	48 44.9%	167 54.2%	179 55.6%	105 53.0%	312 54.5%	171 50.4%	14 70.0%	473 54.0%	24 44.4%
きわめて重要課題	21 19.6%	53 17.2%	44 13.7%	35 17.7%	91 15.9%	59 17.4%	2 10.0%	139 15.9%	12 22.2%

e.(将来のあり方)社会人の受け入れ

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
全く重要課題ではない	41 4.4%	16 4.7%	25 4.2%	24 4.1%	3 3.0%	14 5.7%	6 2.0%	30 6.2%	3 2.5%	5 4.7%	35 4.3%
あまり重要課題ではない	217 23.2%	79 23.3%	138 23.1%	137 23.1%	27 27.0%	53 21.6%	55 18.5%	124 25.7%	27 22.7%	25 23.6%	190 23.1%
ある程度重要課題	522 55.7%	192 56.6%	330 55.2%	336 56.8%	52 52.0%	134 54.7%	162 54.5%	274 56.7%	67 56.3%	62 58.5%	454 55.3%
きわめて重要課題	157 16.8%	52 15.3%	105 17.6%	95 16.0%	18 18.0%	44 18.0%	74 24.9%	55 11.4%	22 18.5%	14 13.2%	142 17.3%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
全く重要課題ではない	6 5.7%	18 5.8%	14 4.4%	3 1.5%	20 3.5%	18 5.3%	2 10.0%	39 4.5%	1 1.9%
あまり重要課題ではない	34 32.1%	77 25.0%	66 20.6%	40 20.2%	121 21.2%	92 27.2%	3 15.0%	201 23.0%	16 29.6%
ある程度重要課題	49 46.2%	161 52.3%	194 60.4%	115 58.1%	325 56.9%	179 53.0%	12 60.0%	488 55.8%	26 48.1%
きわめて重要課題	17 16.0%	52 16.9%	47 14.6%	40 20.2%	105 18.4%	49 14.5%	3 15.0%	146 16.7%	11 20.4%

f.(将来のあり方)院生に対する経済的支援

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
全く重要課題ではない	16 1.7%	6 1.8%	10 1.7%	12 2.0%	1 1.0%	3 1.2%	4 1.4%	11 2.3%	1 .8%	1 .9%	15 1.8%
あまり重要課題ではない	78 8.3%	19 5.6%	59 9.9%	42 7.1%	12 12.0%	24 9.9%	27 9.1%	31 6.4%	11 9.3%	11 10.3%	65 7.9%
ある程度重要課題	486 52.0%	164 48.7%	322 53.8%	304 51.4%	41 41.0%	141 58.0%	158 53.4%	250 51.8%	58 49.2%	52 48.6%	426 52.1%
きわめて重要課題	355 38.0%	148 43.9%	207 34.6%	234 39.5%	46 46.0%	75 30.9%	107 36.1%	191 39.5%	48 40.7%	43 40.2%	312 38.1%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
全く重要課題ではない	2 1.9%	4 1.3%	8 2.5%	2 1.0%	9 1.6%	6 1.8%	1 5.0%	14 1.6%	2 3.8%
あまり重要課題ではない	9 8.4%	24 7.8%	23 7.1%	20 10.3%	49 8.6%	25 7.4%	2 10.0%	72 8.2%	4 7.7%
ある程度重要課題	57 53.3%	150 48.7%	161 50.0%	116 59.8%	293 51.5%	177 52.4%	12 60.0%	450 51.4%	31 59.6%
きわめて重要課題	39 36.4%	130 42.2%	130 40.4%	56 28.9%	218 38.3%	130 38.5%	5 25.0%	339 38.7%	15 28.8%

g.(将来のあり方)院生に対する就職支援

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
全く重要課題ではない	19 2.0%	7 2.1%	12 2.0%	9 1.5%	5 5.0%	5 2.0%	5 1.7%	9 1.9%	2 1.7%	3 2.8%	16 2.0%
あまり重要課題ではない	90 9.6%	29 8.6%	61 10.2%	57 9.6%	10 10.0%	23 9.4%	25 8.4%	44 9.1%	12 10.1%	11 10.3%	77 9.4%
ある程度重要課題	508 54.3%	180 53.4%	328 54.8%	328 55.4%	49 49.0%	131 53.7%	172 57.9%	264 54.8%	54 45.4%	55 51.4%	446 54.5%
きわめて重要課題	319 34.1%	121 35.9%	198 33.1%	198 33.4%	36 36.0%	85 34.8%	95 32.0%	165 34.2%	51 42.9%	38 35.5%	280 34.2%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
全く重要課題ではない	2 1.9%	5 1.6%	9 2.8%	3 1.5%	12 2.1%	6 1.8%	1 5.0%	16 1.8%	3 5.7%
あまり重要課題ではない	11 10.4%	28 9.1%	32 10.0%	18 9.2%	57 10.0%	28 8.3%	4 20.0%	82 9.4%	7 13.2%
ある程度重要課題	65 61.3%	158 51.1%	174 54.2%	109 55.6%	295 51.8%	194 57.4%	12 60.0%	474 54.2%	27 50.9%
きわめて重要課題	28 26.4%	118 38.2%	106 33.0%	66 33.7%	206 36.1%	110 32.5%	3 15.0%	302 34.6%	16 30.2%

h.(将来のあり方)TA・RAの人数

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
全く重要課題ではない	26 2.8%	8 2.4%	18 3.0%	13 2.2%	2 2.0%	11 4.5%	13 4.4%	9 1.9%	4 3.4%	1 .9%	25 3.0%
あまり重要課題ではない	199 21.2%	64 18.9%	135 22.6%	117 19.8%	23 23.0%	59 24.1%	71 23.9%	88 18.2%	27 22.7%	25 23.6%	171 20.8%
ある程度重要課題	554 59.1%	199 58.7%	355 59.4%	361 61.0%	52 52.0%	141 57.6%	162 54.5%	303 62.6%	67 56.3%	61 57.5%	488 59.4%
きわめて重要課題	158 16.9%	68 20.1%	90 15.1%	101 17.1%	23 23.0%	34 13.9%	51 17.2%	84 17.4%	21 17.6%	19 17.9%	138 16.8%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
全く重要課題ではない	3 2.8%	10 3.3%	6 1.9%	7 3.6%	14 2.4%	11 3.3%	1 5.0%	23 2.6%	3 5.8%
あまり重要課題ではない	20 18.7%	69 22.5%	60 18.6%	50 25.4%	123 21.5%	70 20.8%	5 25.0%	183 20.9%	15 28.8%
ある程度重要課題	56 52.3%	177 57.7%	199 61.6%	120 60.9%	347 60.7%	188 55.8%	12 60.0%	520 59.3%	27 51.9%
きわめて重要課題	28 26.2%	51 16.6%	58 18.0%	20 10.2%	88 15.4%	68 20.2%	2 10.0%	151 17.2%	7 13.5%

i.(将来のあり方)女性の院生への支援

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
全く重要課題ではない	66 7.1%	28 8.3%	38 6.4%	41 6.9%	6 6.1%	19 7.8%	18 6.1%	38 7.9%	8 6.8%	6 5.6%	59 7.2%
あまり重要課題ではない	245 26.2%	82 24.3%	163 27.3%	155 26.2%	29 29.3%	61 24.9%	83 27.9%	117 24.3%	30 25.4%	26 24.3%	218 26.7%
ある程度重要課題	495 52.9%	166 49.1%	329 55.1%	310 52.5%	46 46.5%	139 56.7%	149 50.2%	272 56.4%	58 49.2%	50 46.7%	438 53.5%
きわめて重要課題	129 13.8%	62 18.3%	67 11.2%	85 14.4%	18 18.2%	26 10.6%	47 15.8%	55 11.4%	22 18.6%	25 23.4%	103 12.6%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
全く重要課題ではない	9 8.5%	27 8.8%	23 7.2%	7 3.6%	37 6.5%	25 7.4%	3 15.8%	60 6.9%	5 9.6%
あまり重要課題ではない	28 26.4%	77 25.0%	81 25.2%	59 30.1%	160 28.1%	78 23.1%	6 31.6%	230 26.3%	14 26.9%
ある程度重要課題	50 47.2%	152 49.4%	174 54.2%	116 59.2%	307 53.9%	175 51.8%	7 36.8%	462 52.9%	26 50.0%
きわめて重要課題	19 17.9%	52 16.9%	43 13.4%	14 7.1%	66 11.6%	60 17.8%	3 15.8%	122 14.0%	7 13.5%

j.(将来のあり方)研究の高度化

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
全く重要課題ではない	15 1.6%	6 1.8%	9 1.5%	10 1.7%	0 .0%	5 2.0%	4 1.3%	9 1.9%	2 1.7%	3 2.8%	11 1.3%
あまり重要課題ではない	67 7.1%	14 4.1%	53 8.8%	41 6.9%	8 8.0%	18 7.4%	27 9.1%	25 5.2%	12 10.1%	8 7.5%	59 7.2%
ある程度重要課題	403 42.9%	104 30.6%	299 49.9%	231 38.8%	47 47.0%	125 51.2%	128 43.0%	199 41.1%	58 48.7%	47 44.3%	350 42.5%
きわめて重要課題	454 48.3%	216 63.5%	238 39.7%	313 52.6%	45 45.0%	96 39.3%	139 46.6%	251 51.9%	47 39.5%	48 45.3%	403 49.0%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
全く重要課題ではない	3 2.8%	6 1.9%	6 1.9%	0 .0%	6 1.0%	6 1.8%	2 10.0%	13 1.5%	1 1.9%
あまり重要課題ではない	6 5.6%	18 5.8%	30 9.3%	13 6.6%	46 8.0%	20 5.9%	1 5.0%	67 7.6%	0 .0%
ある程度重要課題	37 34.6%	105 34.1%	155 48.1%	103 52.0%	263 45.9%	127 37.6%	8 40.0%	374 42.7%	23 42.6%
きわめて重要課題	61 57.0%	179 58.1%	131 40.7%	82 41.4%	258 45.0%	185 54.7%	9 45.0%	422 48.2%	30 55.6%

k.(将来のあり方)地域社会や企業への情報提供

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
全く重要課題ではない	23 2.5%	10 2.9%	13 2.2%	11 1.9%	3 3.0%	9 3.7%	6 2.0%	14 2.9%	2 1.7%	1 .9%	21 2.6%
あまり重要課題ではない	168 17.9%	70 20.6%	98 16.4%	95 16.0%	20 20.2%	53 21.7%	73 24.6%	71 14.7%	18 15.1%	14 13.2%	150 18.3%
ある程度重要課題	560 59.8%	194 57.2%	366 61.2%	372 62.6%	55 55.6%	133 54.5%	168 56.6%	295 61.1%	75 63.0%	73 68.9%	482 58.7%
きわめて重要課題	186 19.9%	65 19.2%	121 20.2%	116 19.5%	21 21.2%	49 20.1%	50 16.8%	103 21.3%	24 20.2%	18 17.0%	168 20.5%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
全く重要課題ではない	7 6.5%	5 1.6%	9 2.8%	2 1.0%	11 1.9%	9 2.7%	2 10.0%	21 2.4%	1 1.9%
あまり重要課題ではない	25 23.4%	52 16.9%	63 19.7%	26 13.1%	105 18.4%	59 17.5%	3 15.0%	161 18.4%	6 11.1%
ある程度重要課題	56 52.3%	183 59.4%	187 58.4%	132 66.7%	346 60.6%	196 58.0%	12 60.0%	517 59.2%	38 70.4%
きわめて重要課題	19 17.8%	68 22.1%	61 19.1%	38 19.2%	109 19.1%	74 21.9%	3 15.0%	175 20.0%	9 16.7%

j.(将来のあり方)国際化

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
全く重要課題ではない	21 2.2%	11 3.2%	10 1.7%	14 2.4%	0 .0%	7 2.9%	6 2.0%	10 2.1%	5 4.2%	3 2.8%	17 2.1%
あまり重要課題ではない	112 11.9%	20 5.9%	92 15.3%	62 10.4%	11 11.0%	39 15.9%	41 13.8%	50 10.3%	18 15.0%	7 6.6%	103 12.5%
ある程度重要課題	503 53.5%	167 49.1%	336 56.0%	316 53.1%	51 51.0%	136 55.5%	165 55.4%	250 51.7%	67 55.8%	62 58.5%	436 52.9%
きわめて重要課題	304 32.3%	142 41.8%	162 27.0%	203 34.1%	38 38.0%	63 25.7%	86 28.9%	174 36.0%	30 25.0%	34 32.1%	268 32.5%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
全く重要課題ではない	4 3.7%	6 1.9%	8 2.5%	3 1.5%	11 1.9%	8 2.4%	1 5.0%	17 1.9%	3 5.5%
あまり重要課題ではない	15 14.0%	34 11.0%	41 12.7%	21 10.6%	70 12.2%	38 11.2%	3 15.0%	109 12.4%	2 3.6%
ある程度重要課題	54 50.5%	152 49.4%	177 55.0%	118 59.3%	304 53.0%	185 54.7%	10 50.0%	469 53.5%	29 52.7%
きわめて重要課題	34 31.8%	116 37.7%	96 29.8%	57 28.6%	189 32.9%	107 31.7%	6 30.0%	281 32.1%	21 38.2%

m.(将来のあり方)外部資金の獲得

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
全く重要課題ではない	26 2.8%	12 3.5%	14 2.3%	17 2.9%	1 1.0%	8 3.3%	14 4.7%	7 1.4%	4 3.4%	4 3.8%	22 2.7%
あまり重要課題ではない	63 6.7%	17 5.0%	46 7.7%	34 5.7%	5 5.0%	24 9.8%	32 10.7%	13 2.7%	16 13.4%	5 4.7%	56 6.8%
ある程度重要課題	428 45.6%	136 40.0%	292 48.7%	253 42.5%	45 45.0%	130 53.3%	155 52.0%	194 40.1%	62 52.1%	52 49.1%	370 45.0%
きわめて重要課題	422 44.9%	175 51.5%	247 41.2%	291 48.9%	49 49.0%	82 33.6%	97 32.6%	270 55.8%	37 31.1%	45 42.5%	375 45.6%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
全く重要課題ではない	4 3.7%	8 2.6%	8 2.5%	6 3.0%	15 2.6%	10 3.0%	1 5.0%	24 2.7%	2 3.7%
あまり重要課題ではない	9 8.4%	15 4.9%	20 6.2%	18 9.1%	40 7.0%	21 6.2%	1 5.0%	58 6.6%	4 7.4%
ある程度重要課題	45 42.1%	110 35.7%	164 50.9%	107 54.0%	269 46.9%	143 42.3%	11 55.0%	398 45.4%	24 44.4%
きわめて重要課題	49 45.8%	175 56.8%	130 40.4%	67 33.8%	249 43.5%	164 48.5%	7 35.0%	396 45.2%	24 44.4%

問22. あなたは、研究科で担当する授業、および指導学生の規模・人数について、どの程度が望ましいとお考えですか？

	授業の規模	指導学生数	授業の規模	指導学生数
大学分類	(修士課程)	(修士課程)	(博士課程)	(博士課程)
全体	11.69	4.06	5.63	2.17
研究大学	14.11	4.66	6.76	2.63
一般大学	10.33	3.72	4.88	1.85
国立	12.07	4.11	6.07	2.31
公立	10.43	3.68	5.04	2.00
私立	11.30	4.10	4.88	1.90
文系	8.63	3.31	4.57	2.12
理系	14.21	4.65	6.33	2.20
学際他	9.48	3.55	4.85	2.07
女性	9.35	3.86	5.69	2.29
男性	11.98	4.10	5.64	2.16
20 ・30歳代	11.73	3.45	5.53	1.99
40歳代	12.19	4.42	5.90	2.19
50歳代	11.20	4.08	5.86	2.31
60代以上	11.65	3.83	4.83	1.97
教授	11.70	4.15	5.63	2.23
准教授	11.45	3.95	5.66	2.09
講師	14.76	3.88	4.92	2.00
終身	11.31	4.01	5.54	2.15
任期付き	17.06	4.75	7.00	2.48

問23. あなたは、将来の大学院教育のあり方について、次のような意見をどのように思われますか。

a.専攻横断的なコースワークをもっと充実すべき

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
強くそう思う	58 6.1%	33 9.5%	25 4.1%	37 6.2%	7 6.9%	14 5.6%	28 9.1%	19 3.9%	7 5.8%	10 9.0%	47 5.6%
そう思う	320 33.6%	115 33.0%	205 33.9%	177 29.5%	34 33.3%	109 43.6%	119 38.6%	140 28.9%	44 36.7%	47 42.3%	271 32.6%
あまり思わない	468 49.2%	156 44.8%	312 51.7%	318 53.0%	45 44.1%	105 42.0%	139 45.1%	251 51.8%	61 50.8%	47 42.3%	417 50.1%
全く思わない	106 11.1%	44 12.6%	62 10.3%	68 11.3%	16 15.7%	22 8.8%	22 7.1%	75 15.5%	8 6.7%	7 6.3%	97 11.7%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
強くそう思う	6 5.4%	22 7.0%	18 5.6%	11 5.4%	38 6.6%	20 5.7%	0 .0%	53 6.0%	5 8.8%
そう思う	37 33.3%	95 30.3%	105 32.6%	82 40.6%	209 36.2%	99 28.4%	11 55.0%	294 33.1%	24 42.1%
あまり思わない	51 45.9%	154 49.0%	166 51.6%	96 47.5%	273 47.3%	184 52.9%	7 35.0%	439 49.5%	24 42.1%
全く思わない	17 15.3%	43 13.7%	33 10.2%	13 6.4%	57 9.9%	45 12.9%	2 10.0%	101 11.4%	4 7.0%

b.修士課程修了者の内、博士課程進学者について授業を通じて獲得された基礎的な能力の資格審査を行うべき

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
強くそう思う	56 5.9%	26 7.5%	30 5.0%	31 5.2%	6 5.9%	19 7.6%	24 7.9%	23 4.7%	5 4.2%	8 7.4%	47 5.6%
そう思う	291 30.6%	93 26.7%	198 32.9%	174 29.0%	28 27.7%	89 35.6%	105 34.4%	131 26.9%	40 33.3%	43 39.8%	245 29.4%
あまり思わない	465 48.9%	178 51.1%	287 47.7%	301 50.3%	49 48.5%	115 46.0%	141 46.2%	249 51.1%	62 51.7%	46 42.6%	416 49.9%
全く思わない	138 14.5%	51 14.7%	87 14.5%	93 15.5%	18 17.8%	27 10.8%	35 11.5%	84 17.2%	13 10.8%	11 10.2%	125 15.0%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
強くそう思う	9 8.3%	18 5.7%	14 4.3%	14 6.9%	33 5.7%	22 6.3%	1 5.3%	49 5.5%	7 12.3%
そう思う	32 29.4%	86 27.4%	100 31.1%	71 35.1%	193 33.4%	87 25.1%	7 36.8%	269 30.4%	19 33.3%
あまり思わない	48 44.0%	154 49.0%	166 51.6%	97 48.0%	273 47.3%	182 52.4%	8 42.1%	438 49.5%	23 40.4%
全く思わない	20 18.3%	56 17.8%	42 13.0%	20 9.9%	78 13.5%	56 16.1%	3 15.8%	129 14.6%	8 14.0%

c.修士課程修了単位（30単位）を少なくすべき

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
強くそう思う	89 9.3%	33 9.5%	56 9.2%	58 9.7%	6 5.8%	25 10.0%	14 4.5%	64 13.2%	8 6.7%	7 6.3%	79 9.5%
そう思う	213 22.3%	70 20.2%	143 23.5%	138 23.0%	18 17.5%	57 22.7%	54 17.4%	113 23.3%	34 28.3%	20 18.0%	190 22.8%
あまり思わない	515 54.0%	187 54.0%	328 53.9%	317 52.8%	56 54.4%	142 56.6%	187 60.3%	244 50.2%	66 55.0%	70 63.1%	444 53.2%
全く思わない	137 14.4%	56 16.2%	81 13.3%	87 14.5%	23 22.3%	27 10.8%	55 17.7%	65 13.4%	12 10.0%	14 12.6%	121 14.5%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
強くそう思う	13 11.7%	46 14.7%	18 5.5%	11 5.4%	36 6.2%	48 13.9%	4 20.0%	81 9.1%	7 12.5%
そう思う	25 22.5%	75 24.0%	62 19.1%	51 25.1%	123 21.2%	87 25.1%	2 10.0%	204 22.9%	9 16.1%
あまり思わない	58 52.3%	147 47.1%	195 60.0%	114 56.2%	335 57.7%	167 48.3%	9 45.0%	480 53.9%	29 51.8%
全く思わない	15 13.5%	44 14.1%	50 15.4%	27 13.3%	87 15.0%	44 12.7%	5 25.0%	125 14.0%	11 19.6%
全体	111 100.0%	312 100.0%	325 100.0%	203 100.0%	581 100.0%	346 100.0%	20 100.0%	890 100.0%	56 100.0%

d.職業的汎用能力を育成すべき

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
強くそう思う	51 5.3%	12 3.4%	39 6.4%	29 4.8%	7 6.9%	15 6.0%	21 6.8%	18 3.7%	6 5.0%	11 9.8%	39 4.7%
そう思う	400 41.8%	104 29.9%	296 48.7%	240 39.8%	38 37.3%	122 48.6%	114 36.8%	212 43.4%	56 47.1%	50 44.6%	347 41.6%
あまり思わない	426 44.6%	188 54.0%	238 39.1%	284 47.1%	46 45.1%	96 38.2%	143 46.1%	215 44.1%	53 44.5%	46 41.1%	376 45.0%
全く思わない	79 8.3%	44 12.6%	35 5.8%	50 8.3%	11 10.8%	18 7.2%	32 10.3%	43 8.8%	4 3.4%	5 4.5%	73 8.7%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
強くそう思う	4 3.6%	17 5.4%	14 4.3%	15 7.4%	35 6.0%	14 4.0%	2 10.5%	47 5.3%	4 7.0%
そう思う	41 36.9%	124 39.6%	139 42.8%	95 46.6%	247 42.4%	144 41.5%	6 31.6%	369 41.4%	26 45.6%
あまり思わない	53 47.7%	149 47.6%	140 43.1%	83 40.7%	251 43.1%	160 46.1%	11 57.9%	400 44.9%	24 42.1%
全く思わない	13 11.7%	23 7.3%	32 9.8%	11 5.4%	50 8.6%	29 8.4%	0 .0%	75 8.4%	3 5.3%

e.修士課程は、職業人養成に徹すべき

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
強くそう思う	19 2.0%	4 1.2%	15 2.5%	12 2.0%	3 2.9%	4 1.6%	14 4.5%	2 .4%	2 1.7%	3 2.7%	16 1.9%
そう思う	123 12.9%	23 6.6%	100 16.4%	65 10.8%	11 10.7%	47 18.8%	41 13.2%	59 12.1%	19 16.0%	9 8.0%	111 13.3%
あまり思わない	534 55.9%	187 53.9%	347 57.1%	340 56.5%	51 49.5%	143 57.2%	169 54.5%	269 55.0%	74 62.2%	74 66.1%	458 54.9%
全く思わない	279 29.2%	133 38.3%	146 24.0%	185 30.7%	38 36.9%	56 22.4%	86 27.7%	159 32.5%	24 20.2%	26 23.2%	249 29.9%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
強くそう思う	2 1.8%	4 1.3%	6 1.8%	7 3.5%	13 2.2%	5 1.4%	1 5.0%	19 2.1%	0 .0%
そう思う	5 4.5%	36 11.5%	44 13.5%	36 17.8%	89 15.3%	33 9.5%	1 5.0%	108 12.1%	13 22.8%
あまり思わない	55 49.5%	165 52.7%	186 57.1%	127 62.9%	341 58.7%	178 51.3%	10 50.0%	504 56.6%	26 45.6%
全く思わない	49 44.1%	108 34.5%	90 27.6%	32 15.8%	138 23.8%	131 37.8%	8 40.0%	259 29.1%	18 31.6%

f.学生の進学需要に応じた入学定員を設定すべき

	全体	大学分類		0			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
強くそう思う	151 15.8%	66 18.9%	85 14.0%	107 17.7%	20 19.6%	24 9.6%	61 19.7%	78 15.9%	8 6.7%	20 17.9%	130 15.6%
そう思う	518 54.2%	171 49.0%	347 57.2%	340 56.3%	51 50.0%	127 50.8%	154 49.8%	271 55.3%	74 62.2%	50 44.6%	464 55.5%
あまり思わない	239 25.0%	93 26.6%	146 24.1%	130 21.5%	25 24.5%	84 33.6%	80 25.9%	113 23.1%	33 27.7%	33 29.5%	203 24.3%
全く思わない	48 5.0%	19 5.4%	29 4.8%	27 4.5%	6 5.9%	15 6.0%	14 4.5%	28 5.7%	4 3.4%	9 8.0%	39 4.7%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
強くそう思う	16 14.4%	68 21.6%	48 14.7%	18 8.9%	84 14.5%	66 18.9%	1 5.0%	144 16.1%	7 12.3%
そう思う	55 49.5%	157 49.8%	180 55.2%	125 61.9%	324 55.9%	179 51.3%	11 55.0%	485 54.4%	28 49.1%
あまり思わない	29 26.1%	73 23.2%	85 26.1%	52 25.7%	146 25.2%	84 24.1%	7 35.0%	218 24.4%	19 33.3%
全く思わない	11 9.9%	17 5.4%	13 4.0%	7 3.5%	26 4.5%	20 5.7%	1 5.0%	45 5.0%	3 5.3%

g.大学院教育の情報を企業や地域社会に公開すべき

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
強くそう思う	81 8.5%	33 9.5%	48 7.9%	50 8.3%	12 11.7%	19 7.6%	30 9.7%	37 7.6%	8 6.7%	14 12.5%	67 8.0%
そう思う	557 58.3%	182 52.4%	375 61.7%	346 57.6%	54 52.4%	157 62.5%	178 57.8%	287 58.8%	72 60.0%	66 58.9%	489 58.6%
あまり思わない	292 30.6%	124 35.7%	168 27.6%	189 31.4%	35 34.0%	68 27.1%	90 29.2%	149 30.5%	40 33.3%	29 25.9%	256 30.7%
全く思わない	25 2.6%	8 2.3%	17 2.8%	16 2.7%	2 1.9%	7 2.8%	10 3.2%	15 3.1%	0 .0%	3 2.7%	22 2.6%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
強くそう思う	7 6.3%	34 10.9%	24 7.4%	16 7.8%	51 8.8%	29 8.4%	1 5.0%	78 8.8%	2 3.5%
そう思う	64 57.7%	162 51.9%	198 60.9%	132 64.7%	345 59.3%	194 56.1%	13 65.0%	510 57.3%	42 73.7%
あまり思わない	33 29.7%	107 34.3%	98 30.2%	52 25.5%	173 29.7%	111 32.1%	6 30.0%	277 31.1%	13 22.8%
全く思わない	7 6.3%	9 2.9%	5 1.5%	4 2.0%	13 2.2%	12 3.5%	0 .0%	25 2.8%	0 .0%

h.特別研究員の採用枠をもっと拡大すべき

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
強くそう思う	188 19.7%	85 24.5%	103 17.0%	131 21.8%	20 19.6%	37 14.7%	61 19.9%	104 21.4%	17 14.2%	22 19.8%	165 19.8%
そう思う	451 47.3%	160 46.1%	291 48.0%	275 45.8%	52 51.0%	124 49.4%	134 43.6%	242 49.7%	57 47.5%	50 45.0%	398 47.8%
あまり思わない	274 28.8%	88 25.4%	186 30.7%	170 28.3%	25 24.5%	79 31.5%	99 32.2%	120 24.6%	41 34.2%	35 31.5%	235 28.2%
全く思わない	40 4.2%	14 4.0%	26 4.3%	24 4.0%	5 4.9%	11 4.4%	13 4.2%	21 4.3%	5 4.2%	4 3.6%	35 4.2%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
強くそう思う	28 25.5%	66 21.2%	67 20.6%	27 13.4%	108 18.6%	74 21.4%	4 21.1%	182 20.5%	5 8.9%
そう思う	49 44.5%	143 45.8%	158 48.5%	100 49.5%	283 48.7%	156 45.1%	10 52.6%	423 47.6%	26 46.4%
あまり思わない	28 25.5%	89 28.5%	88 27.0%	67 33.2%	169 29.1%	98 28.3%	4 21.1%	245 27.6%	24 42.9%
全く思わない	5 4.5%	14 4.5%	13 4.0%	8 4.0%	21 3.6%	18 5.2%	1 5.3%	39 4.4%	1 1.8%

i.大学院生への経済的支援は競争的であるべき

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
強くそう思う	59 6.2%	28 8.0%	31 5.1%	35 5.8%	7 6.8%	17 6.7%	28 9.1%	21 4.3%	3 2.5%	8 7.1%	50 6.0%
そう思う	343 35.9%	128 36.8%	215 35.4%	210 34.9%	40 38.8%	93 36.9%	102 33.0%	192 39.3%	41 34.2%	43 38.4%	298 35.7%
あまり思わない	462 48.3%	159 45.7%	303 49.8%	291 48.4%	46 44.7%	125 49.6%	154 49.8%	227 46.5%	60 50.0%	52 46.4%	404 48.4%
全く思わない	92 9.6%	33 9.5%	59 9.7%	65 10.8%	10 9.7%	17 6.7%	25 8.1%	48 9.8%	16 13.3%	9 8.0%	83 9.9%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
強くそう思う	11 9.9%	25 8.0%	15 4.6%	7 3.4%	34 5.8%	24 6.9%	1 5.0%	58 6.5%	1 1.8%
そう思う	45 40.5%	98 31.4%	118 36.2%	82 40.2%	216 37.0%	120 34.7%	5 25.0%	321 36.0%	19 33.3%
あまり思わない	41 36.9%	157 50.3%	164 50.3%	98 48.0%	285 48.9%	161 46.5%	12 60.0%	428 48.0%	29 50.9%
全く思わない	14 12.6%	32 10.3%	29 8.9%	17 8.3%	48 8.2%	41 11.8%	2 10.0%	84 9.4%	8 14.0%

j.大学院は、制度全体を見直すべき

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
強くそう思う	112 11.8%	45 13.1%	67 11.1%	68 11.4%	15 14.7%	29 11.6%	55 17.9%	40 8.3%	11 9.2%	16 14.3%	94 11.4%
そう思う	313 33.1%	101 29.4%	212 35.1%	204 34.3%	27 26.5%	82 32.8%	117 38.1%	146 30.3%	39 32.8%	45 40.2%	266 32.2%
あまり思わない	449 47.4%	163 47.5%	286 47.4%	277 46.6%	49 48.0%	123 49.2%	119 38.8%	249 51.7%	59 49.6%	46 41.1%	398 48.2%
全く思わない	73 7.7%	34 9.9%	39 6.5%	46 7.7%	11 10.8%	16 6.4%	16 5.2%	47 9.8%	10 8.4%	5 4.5%	68 8.2%

j.大学院は、制度全体を見直すべき

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
強くそう思う	10 9.0%	47 15.3%	29 8.9%	25 12.5%	65 11.3%	45 13.1%	2 10.0%	100 11.3%	11 20.0%
そう思う	41 36.9%	87 28.2%	111 34.2%	73 36.5%	193 33.4%	112 32.7%	5 25.0%	295 33.4%	17 30.9%
あまり思わない	48 43.2%	139 45.1%	169 52.0%	92 46.0%	279 48.4%	155 45.2%	11 55.0%	422 47.7%	22 40.0%
全く思わない	12 10.8%	35 11.4%	16 4.9%	10 5.0%	40 6.9%	31 9.0%	2 10.0%	67 7.6%	5 9.1%

k.教員の補充がないまま負担をこれ以上増やすべきではない

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
強くそう思う	483 50.6%	178 51.1%	305 50.2%	341 56.8%	49 47.6%	93 36.9%	160 51.9%	243 49.9%	62 51.7%	64 57.7%	415 49.6%
そう思う	374 39.2%	140 40.2%	234 38.6%	221 36.8%	38 36.9%	115 45.6%	121 39.3%	196 40.2%	41 34.2%	41 36.9%	329 39.4%
あまり思わない	85 8.9%	27 7.8%	58 9.6%	32 5.3%	12 11.7%	41 16.3%	23 7.5%	40 8.2%	16 13.3%	5 4.5%	80 9.6%
全く思わない	13 1.4%	3 .9%	10 1.6%	6 1.0%	4 3.9%	3 1.2%	4 1.3%	8 1.6%	1 .8%	1 .9%	12 1.4%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
強くそう思う	68 61.3%	178 57.1%	164 50.3%	73 35.8%	265 45.5%	202 58.4%	11 55.0%	460 51.7%	20 35.1%
そう思う	34 30.6%	109 34.9%	130 39.9%	99 48.5%	252 43.3%	114 32.9%	6 30.0%	343 38.5%	26 45.6%
あまり思わない	7 6.3%	20 6.4%	29 8.9%	29 14.2%	57 9.8%	26 7.5%	2 10.0%	74 8.3%	11 19.3%
全く思わない	2 1.8%	5 1.6%	3 .9%	3 1.5%	8 1.4%	4 1.2%	1 5.0%	13 1.5%	0 .0%

l.大学院に対する政府の支援は、特定大学・分野に偏りすぎる

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
強くそう思う	365 38.5%	100 29.0%	265 43.9%	241 40.4%	43 42.2%	81 32.3%	122 40.4%	186 38.1%	39 32.5%	55 50.0%	308 37.1%
そう思う	390 41.1%	146 42.3%	244 40.4%	236 39.6%	36 35.3%	118 47.0%	109 36.1%	203 41.6%	64 53.3%	39 35.5%	347 41.8%
あまり思わない	181 19.1%	92 26.7%	89 14.7%	114 19.1%	20 19.6%	47 18.7%	67 22.2%	91 18.6%	16 13.3%	16 14.5%	162 19.5%
全く思わない	13 1.4%	7 2.0%	6 1.0%	5 .8%	3 2.9%	5 2.0%	4 1.3%	8 1.6%	1 .8%	0 .0%	13 1.6%

	年齢				職階			任期	
	20・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
強くそう思う	42 38.2%	133 42.6%	130 40.1%	60 30.0%	216 37.4%	141 40.8%	5 26.3%	351 39.7%	14 24.6%
そう思う	41 37.3%	111 35.6%	140 43.2%	96 48.0%	257 44.5%	120 34.7%	10 52.6%	358 40.5%	27 47.4%
あまり思わない	25 22.7%	64 20.5%	51 15.7%	40 20.0%	96 16.6%	80 23.1%	4 21.1%	164 18.6%	14 24.6%
全く思わない	2 1.8%	4 1.3%	3 .9%	4 2.0%	8 1.4%	5 1.4%	0 .0%	11 1.2%	2 3.5%

m.制度改革より研究科や専攻の裁量で対応すべき

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
強くそう思う	182 19.2%	70 20.2%	112 18.7%	123 20.6%	16 16.0%	43 17.3%	53 17.5%	103 21.2%	18 15.1%	27 24.5%	154 18.6%
そう思う	508 53.7%	184 53.2%	324 54.0%	309 51.7%	60 60.0%	139 56.0%	158 52.1%	263 54.2%	70 58.8%	52 47.3%	451 54.4%
あまり思わない	229 24.2%	82 23.7%	147 24.5%	151 25.3%	17 17.0%	61 24.6%	83 27.4%	107 22.1%	28 23.5%	28 25.5%	201 24.2%
全く思わない	27 2.9%	10 2.9%	17 2.8%	15 2.5%	7 7.0%	5 2.0%	9 3.0%	12 2.5%	3 2.5%	3 2.7%	23 2.8%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
強くそう思う	22 20.0%	77 24.6%	60 18.6%	23 11.6%	100 17.4%	77 22.3%	3 15.8%	173 19.6%	7 12.5%
そう思う	56 50.9%	168 53.7%	166 51.4%	118 59.3%	316 55.0%	181 52.3%	11 57.9%	477 54.0%	28 50.0%
あまり思わない	28 25.5%	60 19.2%	87 26.9%	54 27.1%	146 25.4%	75 21.7%	4 21.1%	209 23.6%	19 33.9%
全く思わない	4 3.6%	8 2.6%	10 3.1%	4 2.0%	13 2.3%	13 3.8%	1 5.3%	25 2.8%	2 3.6%

n.多様化する院生の要求に対応できる能力をもった大学教員を養成すべき

	全体	大学分類		国公私			専門分野			性別	
		研究大学	一般大学	国立	公立	私立	文系	理系	学際他	女性	男性
強くそう思う	116 12.2%	38 11.0%	78 12.9%	72 12.0%	12 12.0%	32 12.7%	55 18.0%	35 7.2%	17 14.2%	27 24.3%	89 10.7%
そう思う	474 49.9%	164 47.4%	310 51.3%	295 49.2%	45 45.0%	134 53.4%	148 48.4%	239 49.4%	67 55.8%	47 42.3%	423 50.9%
あまり思わない	333 35.1%	134 38.7%	199 32.9%	219 36.6%	37 37.0%	77 30.7%	99 32.4%	189 39.0%	35 29.2%	36 32.4%	294 35.4%
全く思わない	27 2.8%	10 2.9%	17 2.8%	13 2.2%	6 6.0%	8 3.2%	4 1.3%	21 4.3%	1 .8%	1 .9%	25 3.0%

	年齢				職階			任期	
	20 ・30歳代	40歳代	50歳代	60代以上	教授	准教授	講師	終身	任期付き
強くそう思う	14 12.6%	44 14.1%	30 9.3%	28 14.0%	68 11.8%	45 13.0%	2 10.0%	104 11.8%	10 17.5%
そう思う	53 47.7%	138 44.1%	169 52.2%	112 56.0%	304 52.8%	156 45.1%	9 45.0%	440 49.7%	32 56.1%
あまり思わない	41 36.9%	118 37.7%	115 35.5%	59 29.5%	191 33.2%	132 38.2%	9 45.0%	316 35.7%	14 24.6%
全く思わない	3 2.7%	13 4.2%	10 3.1%	1 .5%	13 2.3%	13 3.8%	0 .0%	25 2.8%	1 1.8%

『大学院教育に関する院生調査』資料

1. 資料 1 アンケート調査票

2. 資料 2 データ集計結果

大学院教育に関する院生調査

ー協力のお願いー

●この調査は、大学院生の皆さんがどのような関心で大学院に進学し、大学院で何を学び、将来の進路についてどのようにお考えなのかを明らかにし、日本の大学院教育の改善に資することを目的とするものです。

●いただいた回答は統計的に処理され、個人の情報が他の目的で使われることはありません。

●本調査票は**12月28日（水）までに**、同封の返信用封筒（切手不要）にてご返送ください。
（28日以後も受けつけております）

●この調査は、広島大学高等教育研究開発センターが「21世紀知識基盤社会における大学・大学院改革の具体的方策に関する研究」（特別教育研究経費、研究代表：山本眞一）を得て行うものです。お問い合わせは以下にお願いします。

〒739-8512　東広島市鏡山１丁目２番２号
広島大学高等教育研究開発センター
limin@hiroshima-u.ac.jp **李敏**　(082-424-4392)

まず、あなたの所属と大学院入学以前のことについてお聞きします

問1. あなたの卒業大学、専攻、入学年度、志望順位、および現在所属する大学院、研究科、学年、入学年度、志望順位を教えて下さい。二つ以上ある方は、最後のものを記入して下さい。

	大学名	専攻	現在の学年	入学年度	志望順
卒業大学	大学	1. 人文　2. 社会　3.教育学　4.理学 5. 工学　6. 農学　7. 医・歯・薬系 8. 芸術　9.学際・他		平成 (　　)年	(　　) 志望
修士課程 博士前期	大学	1. 人文　2. 社会　3.教育学　4.理学 5. 工学　6. 農学　7. 医・歯・薬系 8. 芸術　9.学際・他	1. 1年次　2.2 年次 3. 修了	平成 (　　)年	(　　) 志望
博士後期 課程	大学	1. 人文　2. 社会　3.教育学　4.理学 5. 工学　6. 農学　7. 医・歯・薬系 8. 芸術　9.学際・他	1. 1 年次　2. 2 年次 3. 3 年次	平成 (　　)年	(　　) 志望

問2. あなたは、学部時代に下記の事柄についてどの程度、熱心に取り組んでいましたか。

(a～i それぞれに○は１つずつ)	とても熱心だった	熱心だった	あまり熱心ではなかった	全く熱心ではなかった
a. 教養科目	1	2	3	4
b. 専門科目	1	2	3	4
c. 実験・演習	1	2	3	4
d. 卒業研究	1	2	3	4
e. 語学	1	2	3	4
f. 部活動・サークル活動	1	2	3	4
g. ゼミの友人との交流	1	2	3	4
h. アルバイト	1	2	3	4
i. 読書	1	2	3	4

問3. あなたの学部時代の成績を教えて下さい。

（5段階の場合、秀、優、良、可、不可は、秀と優を併せて「優」(A)。不可は除いて下さい）

優（A）	良（B）	可（C）
割	割	割

問4. あなたは、いつ頃から大学院進学を希望していましたか。（○は一つ）

1.	大学入学前	2.	１年次	3.	２年次	4.	３年次	5.	４年次	6.	大学卒業後

問5. あなたが修士課程に進学した理由はどのようなものでしたか。a～kのそれぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。（○は一つ）

（a.～k.それぞれに○は１つずつ）	とても あてはまる	やや 当てはまる	あまり当て はまらない	全く当て はまらない
a. あと２年間は勉強を続けたかったから	1	2	3	4
b. 専門を深めたいから	1	2	3	4
c. 資格・免許がほしいから	1	2	3	4
d. 研究職にあこがれたから	1	2	3	4
e. 良い就職機会を得られるから	1	2	3	4
f. 家族からの経済的支援があるから	1	2	3	4
g. 学部時代の指導教員に勧められたから	1	2	3	4
h. 奨学金がもらえるから	1	2	3	4
i. キャリア・アップしたいから	1	2	3	4
j. 就職が決まらなかったから	1	2	3	4
k. その他（　　）	1	2	3	4

問6. あなたは、どのような選抜方法で修士課程（博士前期課程）に入学しましたか。また、入学した課程・コースに○を付けて下さい。（○は一つずつ）

入試選抜	1. 一般入試選抜	2. 社会人特別選抜	3. 外国人特別選抜
課程・コース	1. 一年制コース	2. 二年制コース	

大学院での生活についてお聞きします

問7. 今学期は、研究室にはどの程度行っていますか。また、授業にはどれくらい出席していますか。（　）に記入して下さい。

a.学期中	週に（　　）日	b.授業への出席率	1.（　　）割　2. 授業はない

問8. あなたの前期の成績を教えて下さい。博士課程の方は、修士課程の成績を記入して下さい。

（5段階の場合、秀、優、良、可、不可は、秀と優を併せて「優」(A)。不可は除いて下さい）

優（A）	良（B）	可（C）
割	割	割

問9. あなたは、学期中の平均的な一週間で、以下のような活動にどのくらい時間を使っていますか。
a～j のそれぞれについてあてはまる番号1つに○をつけてください（○は1つ）。

（a～j に○は１つずつ）	0 時間	1-5	6-10	11-15	16-20	21-25	26-30	31 時間以上
a. 授業（実験・演習を含む）の出席	1	2	3	4	5	6	7	8
b. 授業の準備	1	2	3	4	5	6	7	8
c. 論文の作成	1	2	3	4	5	6	7	8
d. 語学の学習	1	2	3	4	5	6	7	8
e. 研究室の共同研究・プロジェクト	1	2	3	4	5	6	7	8
f. 自主ゼミ	1	2	3	4	5	6	7	8
g. 専門書や論文を読むこと	1	2	3	4	5	6	7	8
h. アルバイト・非常勤講師	1	2	3	4	5	6	7	8
i. 就職活動	1	2	3	4	5	6	7	8
j. 友人との交流	1	2	3	4	5	6	7	8

修士課程（博士前期課程）の授業についてお聞きします

問 10. あなたは「コースワーク」という言葉を知っていますか。（○は一つ）

1．よく知っている	2. 知っている	3. あまり知らない	4. 全く知らない

問 11 講義科目の単位は、いつ頃までに取得される予定ですか。博士課程の人は、取得を終えた番号に○を付けて下さい。（○は一つ）

1.	１年次まで	2.	２年次前期まで	3.	２年次後期まで

問12. 授業について、あなたの考えは A と B のどちらに近いですか。当てはまる番号に○を一つ付けて下さい。

（a～e それぞれに○は１つずつ）

A	←Aに近い←		→Bに近い→		B
a. 専門を超えた幅広い授業を自由にとりたい	1	2	3	4	授業より自分の論文を重視したい
b. 必修の授業を増やしてほしい	1	2	3	4	必修の授業を減らしてほしい
c. 基礎的な内容にしてほしい	1	2	3	4	専門的な内容の方が勉強になる
d. 授業の目的や意義を明確にしてほしい	1	2	3	4	授業の目的や意義は自分で見出したい
e. 研究の方法や論文の書き方を教えてほしい	1	2	3	4	研究の方法や論文の書き方は自分で見出したい

問 13. あなたがこれまで受けた授業では、以下のことはどれくらいありましたか。また、それは必要ですか。a～jのそれぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください（○は1つ）。

（経験と必要性のそれぞれに○は１つずつ）	経験			必要性		
	とても よくあった	やや あった	あまり なかった	とても 必要	ある程度必要	必要ではない
a. 英語を使用する授業がある	1	2	3	1	2	3
b. 課題の提出が毎回重視されている	1	2	3	1	2	3
c. 出席が重視されている	1	2	3	1	2	3
d. TA などの補助的な指導がある	1	2	3	1	2	3
e. 複数教員によるオムニバス形式の授業がある	1	2	3	1	2	3
f. 学外の講師による授業がある	1	2	3	1	2	3
g. グループで1つの課題に取り組む機会がある	1	2	3	1	2	3
h. レポートに適切なコメントが付されて返却される	1	2	3	1	2	3
i. 授業中、自分の意見や考えを述べる機会がある	1	2	3	1	2	3
j . 講義科目の選択に指導教員の関与がある	1	2	3	1	2	3

問14. 以下の知識や能力について、あなたは現在どのくらい身につけていると思いますか。a～l のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください（○は1つ）。

（a～l それぞれに○は１つずつ）	とても身に付いている	身に付いている	あまり身に付いていない	全く身に付いていない
a. 専攻レベルの専門的な知識や応用力	1	2	3	4
b. 専攻レベルの基礎的知識や能力	1	2	3	4
c. 英語を読む能力	1	2	3	4
d. 英語で論文を書く能力	1	2	3	4
e. 英語で話す能力	1	2	3	4
f. わかりやすく話す能力	1	2	3	4
g. 職業汎用的な能力	1	2	3	4
h. 論文作成能力	1	2	3	4
i. ものごとを分析的・批判的に考える力	1	2	3	4
j. 問題を発見し、仮説・検証する力	1	2	3	4
k. 対人関係能力・リーダーシップ	1	2	3	4
l. 社会・政治・経済に関する教養的知識	1	2	3	4

問15. 今まで受けてきた大学院の授業の中で、あなたにとって**意味があったと思う授業**を思い出して下さい。

a. その授業はこれまで受けた授業の何割くらいですか。 （　　）割

b. それらの授業に当てはまる特徴は何ですか（○は一つ）。

（a.～f.それぞれに○は１つずつ）	あてはまる	あてはまらない
a. 最先端の研究成果にふれることができた	1	2
b. 学問の基礎を着実に教えてくれた	1	2
c. 自然や社会との関わりで学問の意義を教えてくれた	1	2
d. 将来役立つ実践的な知識や技能を教えてくれた	1	2
e. 教え方が工夫されていた	1	2
f. 自分の研究テーマや方法を考える上で役だった	1	2

問 16. あなたが所属する研究室には、あなた以外に a.修士課程、b.博士後期課程の院生は何人いますか。あてはまる番号一つに○を付けて下さい。（留学生、社会人も含みます）。

	0 人	1～3 人	4～6 人	7～9 人	10 人以上
a. 修士課程	1	2	3	4	5
b. 博士後期課程	1	2	3	4	5

問17. 所属する研究室について以下のことは当てはまりますか。a.～d.のそれぞれに○をつけてください（○は一つずつ）

（a.～d.それぞれに○は 1 つずつ）	あて はまる	あて はまらない
a. 研究室（指導教員）は入学前に決めていた	1	2
b. 複数教員による指導が行われている	1	2
c. 研究の進捗状況について適宜確認がある	1	2
d. 共同研究やプロジェクトへの参加が求められる	1	2

問18. あなたは、以下の知識や能力を身につける上で、時間割上の授業（講義、演習、実験）と研究室の教育（指導教員の指導）は、どの程度役だっていると思いますか。a.～l.のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。（○は一つずつ）

（「時間割の授業」と「研究室の教育」のそれぞれに○は 1 つずつ）	時間割上の授業				研究室（指導教員）の教育			
	とても 役立っ ている	やや 役だっ ている	あまり 役だって いない	全く役 だって ない	とても 役立っ ている	やや 役だっ ている	あまり 役だって いない	全く役 だって ない
a. 専門的な知識や応用力	1	2	3	4	1	2	3	4
b. 専門の基礎となる知識や能力	1	2	3	4	1	2	3	4
c. 英語を読む能力	1	2	3	4	1	2	3	4
d. 英語で書く能力	1	2	3	4	1	2	3	4
e. 英語で話す能力	1	2	3	4	1	2	3	4
f. わかりやすく話す能力	1	2	3	4	1	2	3	4
g. 職業汎用的な能力	1	2	3	4	1	2	3	4
h. 論文作成能力	1	2	3	4	1	2	3	4
i. ものごとを分析的・批判的に考える力	1	2	3	4	1	2	3	4
j. 問題を発見し、仮説・検証する力	1	2	3	4	1	2	3	4
k. 対人関係能力・リーダーシップ	1	2	3	4	1	2	3	4
l. 社会・政治・経済に関する教養的知識	1	2	3	4	1	2	3	4

問19. あなたは、現在の自分をどのように捉えていますか。a.～f.のそれぞれについて、A か B の近い番号1つに○をつけてください。

A	←Aに近い←		→Bに近い→		B
a. 教育の対象である	1	2	3	4	院生といえども自立した研究者である
b. 個人研究を重視している	1	2	3	4	研究室の共同研究を重視している
c. 自分の研究は将来性がある	1	2	3	4	自分の研究は将来性がない
d. 早い段階で研究業績を積みたい	1	2	3	4	じっくり基礎を学びたい
e. 研究テーマは自分で決めている	1	2	3	4	研究テーマは指導教員が決めてほしい
f. 社会に関係なく研究を深めたい	1	2	3	4	研究を通じて社会に貢献したい

あなたの将来の進路についてお聞きします

問 20. 現在や将来について、次のようなことはあてはまりますか。 a ～c のそれぞれについてあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

（a. ～c. それぞれに○は 1 つずつ）	とてもあてはまる	あてはまる	あてはまらない	全くあてはまらない
a. 将来、研究職を目指して研究を進めたい	1	2	3	4
b. 自分に何が向いているか、まだわからない	1	2	3	4
c. 課程修了後のキャリアに不安がある	1	2	3	4

問 21. 修士課程（博士前期課程）の方のみお答え下さい（博士後期課程の方は、問 21 に進んで下さい）。修士課程を修了したら、どのような進路に進みたいですか。1. 希望する番号にいくつでも○をつけて下さい。その内 2.最も希望するものと 3. もう決まっている人は一つだけ○を付けて下さい。

（「希望するもの」、「最も希望するもの」それぞれ縦に回答してください）	1. 希望するもの いくつでも○		2. 最も希望するもの たてに○は1つ		3. もう決まっている人 たてに○は1つ
a. 同じ研究科の博士後期課程に進学する	1		1		1
b. 別の研究科の博士後期課程に進学する（海外も含む）	2		2		2
c. 別の研究科の修士課程に入学する	3		3		3
d. 民間企業に就職する	4		4		4
e. 小中高の教員、医師、弁護士などの専門職につく	5		5		5
f. 官公庁の職に就く	6		6		6
g. 自営など上記以外の形で就職する	7		7		7
h. 職場に復帰する（転職も含む）	8		8		8
i. その他（具体的に：　　）	9		9		9
j. まだ考えていない（決まっていない）	１０				

問 22. 博士後期課程の方のみお答え下さい（修士課程の方は問 22 に進んで下さい）。博士課程を修了したら、どのような進路に進みたいですか。1. 希望する番号にいくつでも○をつけて下さい。その内、2.最も希望するものと 3. もう決まっている人は一つだけ○をつけて下さい。

（「希望するもの」、「最も希望するもの」それぞれ縦に回答してください）	1.希望するもの いくつでも○		2. 最も希望するもの たてに○は1つ		3. もう決まっている人 たてに○は1つ
a. 同じ研究科の特別研究員になる	1		1		1
b. 別の研究科の特別研究員になる（海外も含む）	2		2		2
c. 民間企業に就職する	3		3		3
d. 大学教員の職に就く	4		4		4
e. 官公庁の職に就く	5		5		5
f. 小中高の教員や医師、弁護士などの専門職につく	6		6		6
g. 自営など上記以外の形で就職する	7		7		7
h. 職場に復帰する（転職も含む）	8		8		8
i. その他（具体的に：　　）	9		9		9
j. まだ考えていない（決まっていない）	１０				

あなたとご家族についてお聞きします

問 23. 性別、年齢、国籍、住居、家族の状況、これまでの留学経験、職業経験について教えて下さい。(○は1つ)

a. 性別	1. 女性	2. 男性					
b. 年齢	(　　)歳						
c. 国籍	1. 日本	2. 中国	3. 韓国	4. 台湾	5. ベトナム	6. マレーシア	7. その他
d. 住居	1. 自宅	2. アパート	3. 寮	4. その他			
d. 家族状況	1. 配偶者なし	2. 配偶者あり					
e. 留学経験	1. なし	2. あり					
f. 職業経験	1. なし	2. 官公庁	3. 民間企業	4. 研究所	5. 教員・専門職	6. その他	

問 24. 大学入学後から現在まで経験したことに○を付けて下さい。(○はいくつでも)

1	大学入学後、休学した	6	修士課程入学前、非正規で働いた
2	大学入学後、転科した	7	修士課程入学前、研究生をした
3	大学入学後、留年した	8	修士課程修了後、研究生をした
4	大学入学後、他の大学へ転学した	9	修士課程修了後、フルタイムで働いた、
5	修士課程入学前、フルタイムで働いた	10	修士課程修了後、非正規で働いた

問 25. 一ヶ月の生活費と授業料の収入源を記入して下さい。生活費は金額で、授業料は全体の割合が 10 割になるように記入して下さい。

	家族等	奨学金	アルバイト・給与	その他
a. 一ヶ月の生活費	万円	万円	万円	万円
b. 授業料	割	割	割	割

問 26. 差し支えなければ、ご両親の最終学歴を教えて下さい。(○は1つずつ)

	高卒まで	高専	短大・専門学校	大学	大学院
a. 父親	1	2	3	4	5
b. 母親	1	2	3	4	5

問 27. ふだん、次のようなことを思うことがありますか。a～k.のそれぞれについて、あてはまる番号一つに○をつけてください。

(a～k. それぞれに○は 1 つずつ)	とても あてはまる	あてはまる	あて はまらない	全くあて はまらない
a. やりたい研究テーマが見つからない	1	2	3	4
b. やりたいテーマが入学した時と違ってきた	1	2	3	4
c. 授業についていけない	1	2	3	4
d. 指導教員とうまくいかない	1	2	3	4
e. 学位取得の見通しが立たない	1	2	3	4
f. 経済的に勉強を続けることが難しい	1	2	3	4
g. 可能なら、別の大学院や研究室にかわりたい	1	2	3	4
h. アルバイトで研究時間が十分とれない	1	2	3	4
i. 就職活動で研究時間が十分とれない	1	2	3	4
j. 他大学の院生と交流したい	1	2	3	4
k. 研究室の決定は入学後でも遅くない	1	2	3	4

大学院教育のあり方についてお聞きします

問 28. あなたの所属する研究科は、以下の点で成功していると思いますか。また、将来の研究科にとってどの程度、重要な課題だと思いますか。（○は一つずつ）

（「現在の評価」と「将来のあり方」それぞれに○は１つずつ）	現在の評価				将来のあり方			
	とても成功している	やや成功している	あまり成功してない	全く成功していない	とても重要課題	やや重要課題	あまり重要課題ではない	全く重要課題ではない
a. 専門分野の理論を深く学ぶ	1	2	3	4	1	2	3	4
b. 職業に役立つ知識や技能を学ぶ	1	2	3	4	1	2	3	4
c. 外国人留学生の受け入れ	1	2	3	4	1	2	3	4
d. 社会人学生の受け入れ	1	2	3	4	1	2	3	4

問 29. あなたは、将来の大学院教育のあり方について、以下の考え方をどのように思いますか。a. ～m. のそれぞれについて、あてはまる番号１つに○をつけてください。

（a～l それぞれに○は１つずつ）	強くそう思う	そう思う	あまり思わない	全く思わない
a. 専門分野を超えた授業をもっと充実する	1	2	3	4
b. 博士課程進学者に対し、授業を通じて獲得された基礎的な能力の資格試験を行う	1	2	3	4
c. 修士課程修了単位（30 単位）を少なくする	1	2	3	4
d. 職業的汎用能力を育成する	1	2	3	4
e. 院生による授業評価を導入する	1	2	3	4
f. カリキュラムをもっと体系化・標準化する	1	2	3	4
g. キャリア開発・就職指導を重視する	1	2	3	4
h. 主専攻以外に副専攻を導入する	1	2	3	4
i. 大学院教育の情報を企業や地域社会に公開する	1	2	3	4
j. 特別研究員(DC,PD)の採用枠をもっと拡大する	1	2	3	4
k. 院生への経済的支援は競争的であるべき	1	2	3	4
l. 大学院進学者をもっと増やすべき	1	2	3	4
m. 多様な院生の要求に対応できる能力をもった大学教員を養成すべき	1	2	3	4

以上で質問は、終わりです。ご協力ありがとうございました。

あなたが所属する大学院について問題点や改善してほしい点、ご意見などありましたら自由に記入して下さい。

同封の返信用封筒（切手不要）にてご返送ください。

『大学院教育に関する院生調査』資料 2 データ集計結果

問 2. 学部時代に下記の事柄についてどの程度，熱心に取り組んでいましたか。

	性別		年齢			現在の課程		修士時の専攻分野			
	男性	女性	20 代	30 代	40 以上	修士	博士	理工	人文社会	医歯薬	その他
a. 教養科目	316 48.8%	170 59.7%	428 51.8%	36 53.7%	19 57.6%	376 51.5%	96 55.5%	244 47.6%	200 60.3%	8 26.7%	44 60.2%
b. 専門科目	539 83.2%	242 84.6%	701 84.7%	49 73.1%	23 69.7%	610 83.4%	142 81.6%	430 83.7%	287 85.9%	15 51.7%	58 79.4%
c. 実験・演習	516 80.1%	233 82.6%	666 80.9%	50 74.6%	24 80.0%	580 80.2%	143 82.2%	421 82.0%	258 79.4%	18 60.0%	60 81.1%
d. 卒業研究	573 88.7%	238 83.5%	732 88.6%	49 73.2%	26 81.3%	630 86.4%	155 89.1%	475 92.6%	267 80.7%	23 76.7%	61 83.6%
e. 語学	185 28.8%	145 50.3%	284 34.3%	34 50.0%	17 53.2%	256 35.1%	67 38.5%	137 26.8%	164 49.2%	8 26.6%	29 39.2%
f. 部活動・サークル活動	353 54.8%	144 50.5%	448 54.3%	34 50.8%	12 37.5%	405 55.8%	82 46.8%	263 51.6%	180 54.0%	17 56.7%	45 61.6%
g. ゼミの友人との交流	423 65.5%	183 64.9%	549 66.7%	36 53.7%	18 56.2%	496 68.1%	96 55.8%	353 69.1%	205 62.1%	14 46.7%	44 60.3%
h. アルバイト	368 56.8%	178 62.5%	483 58.3%	38 56.7%	17 53.2%	432 59.1%	93 53.4%	288 56.0%	195 58.8%	17 56.7%	52 71.2%
i. 読書	287 44.3%	147 50.8%	381 45.8%	35 51.5%	20 60.6%	329 44.8%	95 54.3%	211 41.0%	185 55.1%	12 40.0%	35 47.3%

注）表の数字は「とても熱心だった」+「熱心だった」と回答した人数およびその割合。

問 3. あなたの学部時代の成績を教えて下さい。

	性別		年齢			現在の課程		修士時の専攻分野			
	男性	女性	20 代	30 代	40 以上	修士	博士	理工	人文社会	医歯薬	その他
優	5.28	7.07	5.69	6.93	8.74	5.65	6.50	5.28	6.72	4.72	5.65
良	3.03	2.65	2.93	2.83	1.10	2.99	2.62	3.01	2.72	3.77	2.88
可	1.72	0.96	1.53	1.65	0.13	1.54	1.39	1.74	1.11	1.65	1.51

注）表の数字は平均値。足しても 10 割にならないのは，全ての割合を足しても 10 割にならない回答者がいるため。

問 4. あなたはいつ頃から大学院進学を希望していましたか。

	性別		年齢			現在の課程		修士時の専攻分野			
	男性	女性	20 代	30 代	40 以上	修士	博士	理工	人文社会	医歯薬	その他
大学入学前	134 20.8%	39 13.4%	162 19.6%	8 11.8%	1 3.0%	117 16.0%	50 28.7%	129 25.2%	31 9.2%	2 6.7%	13 17.6%
1 年次	51 7.9%	16 5.5%	65 7.9%	0 0.0%	1 3.0%	54 7.4%	10 5.7%	48 9.4%	11 3.3%	1 3.3%	6 8.1%
2 年次	45 7.0%	15 5.2%	60 7.2%	0 0.0%	0 0.0%	46 6.3%	10 5.7%	34 6.7%	17 5.0%	2 6.7%	6 8.1%
3 年次	205 31.8%	78 26.9%	269 32.5%	10 14.7%	2 6.1%	229 31.4%	44 25.3%	175 34.2%	82 24.3%	6 20.0%	25 33.8%
4 年次	168 26.0%	90 31.0%	242 29.2%	12 17.6%	0 0.0%	220 30.1%	33 19.0%	114 22.3%	124 36.8%	9 30.0%	16 21.6%
大学卒業後	42 6.5%	52 17.9%	30 3.6%	38 55.9%	29 87.9%	64 8.8%	27 15.5%	11 2.2%	72 21.4%	10 33.3%	8 10.8%
合計	645 100%	290 100%	828 100%	68 100%	33 100%	730 100%	174 100%	511 100%	337 100%	30 100%	74 100%

注）表の数字は回答した人数およびその割合。

問 5. あなたが修士課程に進学した理由はどのようなものでしたか。

	性別		年齢			現在の課程		修士時の専攻分野			
	男性	女性	20 代	30 代	40 以上	修士	博士	理工	人文社会	医歯薬	その他
a. あと 2 年間は勉強を続けたかったから	521 81.1%	220 77.8%	687 83.2%	39 58.3%	11 39.3%	582 80.3%	131 77.0%	427 84.2%	254 77.0%	18 60.0%	52 70.2%
b. 専門を深めたいから	605 93.8%	272 95.1%	777 94.1%	64 94.1%	32 100.0%	680 93.7%	164 94.8%	478 94.2%	314 94.1%	28 93.3%	71 95.9%
c. 資格・免許がほしいから	160 25.0%	117 41.3%	239 29.0%	25 37.3%	15 50.0%	227 31.4%	41 24.0%	94 18.6%	160 48.5%	7 23.3%	21 28.4%
d. 研究職にあこがれたから	347 53.9%	147 51.9%	441 53.5%	35 51.5%	12 41.4%	352 48.6%	124 72.5%	291 57.5%	152 45.9%	14 46.7%	43 58.1%
e. 良い就職機械を得られるから	393 61.0%	106 37.4%	470 56.9%	22 32.8%	8 27.6%	431 59.5%	58 33.9%	357 70.3%	107 32.5%	9 30.0%	34 46.0%
f. 家族からの経済的支援があるから	329 51.2%	127 45.1%	433 52.6%	20 30.3%	4 13.7%	365 50.5%	76 45.0%	281 55.5%	140 42.8%	11 36.9%	32 43.2%
g. 学部時代の指導教員に進められたから	176 27.4%	101 35.8%	253 30.7%	20 29.8%	3 10.3%	208 28.8%	60 35.3%	152 30.0%	98 29.9%	9 30.0%	26 35.2%
h. 奨学金がもらえるから	68 10.6%	34 12.1%	93 11.3%	12 17.9%	1 3.4%	72 10.0%	26 15.4%	59 11.7%	35 10.7%	1 3.3%	11 14.9%
i. キャリア・アップしたいから	398 61.8%	177 62.8%	505 61.2%	46 68.6%	23 76.6%	470 65.0%	88 51.5%	335 66.1%	184 55.9%	24 80.0%	44 59.5%
j. 就職が決まらなかったから	102 15.9%	45 16.0%	141 17.1%	5 7.5%	0 0.0%	133 18.4%	12 7.1%	67 13.2%	68 20.8%	1 3.3%	14 18.9%

注）表の数字は「とてもあてはまる」+「やや当てはまる」と回答した人数およびその割合。

問 6. あなたは，どのような選抜方法で修士課程（博士前期課程）に入学しましたか。また入学した課程・コースに〇を付けて下さい。

		性別		年齢			現在の課程		修士時の専攻分野			
		男性	女性	20 代	30 代	40 以上	修士	博士	理工	人文社会	医歯薬	その他
入試選抜	一般入試選抜	610 95.3%	236 82.2%	792 96.2%	40 59.7%	5 16.1%	668 92.1%	150 87.2%	494 97.8%	270 80.4%	24 82.8%	66 91.7%
	社会人特別選抜	20 3.1%	28 9.8%	3 0.4%	21 31.3%	25 80.6%	34 4.7%	12 7.0%	5 1.0%	37 11.0%	5 17.2%	6 8.3%
	外国人特別選抜	10 1.6%	23 8.0%	28 3.4%	6 9.0%	1 3.2%	24 3.2%	10 5.8%	6 1.2%	29 8.6%	0 0.0%	0 0.0%
課程・コース	一年制コース	2 0.3%	5 1.9%	2 0.3%	2 3.4%	3 10.3%	2 0.3%	2 1.3%	3 0.6%	0 0.0%	2 6.7%	2 2.9%
	二年制コース	600 99.7%	252 98.1%	765 99.7%	57 96.6%	26 89.7%	669 99.7%	151 98.7%	471 99.4%	293 100.0%	28 93.3%	68 97.1%

注）表の数字は回答した人数およびその割合。

問 7. 今学期は，研究室にはどの程度行なっていますか。また，授業にはどれくらい出席していますか。

	性別		年齢			現在の課程		修士時の専攻分野			
	男性	女性	20 代	30 代	40 以上	修士	博士	理工	人文社会	医歯薬	その他
学期中，週に研究室に通う日数	5.18	4.51	5.12	3.78	3.19	4.99	4.96	5.42	4.38	4.96	4.38
授業への出席率	9.32	9.49	9.38	9.48	9.46	9.36	9.48	9.22	9.56	9.58	9.31

注）表の数字は平均値。

問 8. あなたの前期の成績を教えて下さい。博士課程の方は，修士課程の成績を記入してください。

	性別		年齢			現在の課程		修士時の専攻分野			
	男性	女性	20 代	30 代	40 以上	修士	博士	理工	人文社会	医歯薬	その他
優	8.10	8.61	8.16	8.75	8.74	8.11	8.75	7.87	8.71	8.46	8.62
良	1.45	1.19	1.44	1.03	1.10	1.48	0.99	1.59	1.11	1.41	1.19
可	0.44	0.19	0.39	0.18	0.13	0.40	0.25	0.53	0.17	0.11	0.17

注）表の数字は平均値。

問 9. あなたは，学期中の平均的な一週間で，以下のような活動にどのくらい時間を使っていますか。

	0 時間	1-5	6-10	11-15	16-20	21-25	26-30	31 時間以上
a. 授業（実験・演習を含む）の出席	176 13.5%	320 24.6%	208 16.0%	127 9.8%	37 2.8%	26 2.0%	17 1.3%	37 2.8%
b. 授業の準備	307 23.6%	365 28.1%	125 9.6%	74 5.7%	41 3.2%	16 1.2%	7 0.5%	12 0.9%
c. 論文の作成	187 14.4%	236 18.2%	172 13.2%	109 8.4%	71 5.5%	40 3.1%	21 1.6%	97 7.5%
d. 語学の学習	358 27.6%	421 32.4%	91 7.0%	43 3.3%	12 0.9%	5 0.4%	3 0.2%	7 0.5%
e. 研究室の共同研究・プロジェクト	388 29.9%	165 12.7%	78 6.0%	57 4.4%	46 3.5%	38 2.9%	32 2.5%	131 10.1%
f. 自主ゼミ	429 33.0%	296 22.8%	98 7.5%	46 3.5%	24 1.8%	13 1.0%	11 0.8%	13 1.0%
g. 専門書や論文を読むこと	23 1.8%	320 24.6%	249 19.2%	165 12.7%	70 5.4%	42 3.2%	16 1.2%	55 4.2%
h. アルバイト・非常勤講師	351 27.0%	231 17.8%	145 11.2%	98 7.5%	60 4.6%	28 2.2%	11 0.8%	15 1.2%
i. 就職活動	590 45.4%	206 15.9%	76 5.9%	37 2.8%	15 1.2%	4 0.3%	3 0.2%	7 0.5%
h. 友人との交流	51 3.9%	375 28.9%	268 20.6%	132 10.2%	57 4.4%	22 1.7%	8 0.6%	25 1.9%

注）表の数字は回答した人数およびその割合。

問 10. あなたは「コースワーク」という言葉を知っていますか。

	性別		年齢			現在の課程		修士時の専攻分野			
	男性	女性	20 代	30 代	40 以上	修士	博士	理工	人文社会	医歯薬	その他
よく知っている	17 2.6%	5 1.7%	14 1.7%	7 10.4%	0 0.0%	8 1.1%	13 7.4%	3 0.6%	16 4.8%	0 0.0%	3 4.1%
知っている	27 4.2%	20 6.9%	33 4.0%	8 11.9%	6 18.2%	26 3.6%	18 10.3%	18 3.5%	27 8.1%	2 6.7%	2 2.7%
あまり知らない	80 12.4%	58 20.1%	114 13.8%	12 17.9%	11 33.3%	108 14.8%	26 14.9%	61 11.9%	67 20.0%	2 6.7%	12 16.2%
全く知らない	523 80.8%	206 71.3%	668 80.6%	40 59.7%	16 48.5%	588 80.5%	118 67.4%	430 84.0%	225 62.7%	26 86.7%	57 77.0%
合計	647 100%	289 100%	829 100%	67 100%	33 100%	730 100%	175 100%	512 100%	335 100%	30 100%	74 100%

注）表の数字は回答した人数およびその割合。

問 11. 講義科目の単位はいつまでに取得される予定ですか。博士課程の人は，取得を終えた番号に〇をつけてください。

	性別		年齢			現在の課程		修士時の専攻分野			
	男性	女性	20 代	30 代	40 以上	修士	博士	理工	人文社会	医歯薬	その他
1 年次まで	360 55.7%	132 46.3%	446 54.1%	25 37.3%	18 54.5%	410 56.2%	67 39.2%	319 62.7%	123 36.9%	22 73.3%	35 47.9%
2 年次前期まで	174 26.9%	85 29.8%	229 27.8%	22 32.8%	8 24.2%	199 27.3%	53 31.0%	126 24.8%	115 34.5%	5 16.7%	21 28.8%
2 年次後期まで	112 17.3%	68 23.9%	150 18.2%	20 29.9%	7 21.2%	120 16.5%	51 29.8%	64 12.6%	95 28.5%	3 10.0%	17 23.3%
合計	646 100%	285 100%	825 100%	67 100%	33 100%	729 100%	171 100%	509 100%	333 100%	30 100%	73 100%

注）表の数字は回答した人数およびその割合。

問 12. 授業について，あなたの考えはＡとＢのどちらにちかいですか。

		性別		年齢			現在の課程		修士時の専攻分野			
		男性	女性	20 代	30 代	40 以上	修士	博士	理工	人文社会	医歯薬	その他
a	A 専門を超えた幅広い授業を自由にとりたい	347 53.5%	166 57.6%	444 53.5%	41 61.2%	25 75.7%	413 56.4%	82 47.4%	258 50.5%	207 61.6%	18 60.0%	41 55.4%
	B 授業より自分の論文を重視したい	301 46.5%	122 42.3%	386 46.5%	26 38.8%	8 24.3%	319 43.6%	91 52.6%	253 49.5%	129 38.4%	12 40.0%	33 44.6%
b	A 必修の授業を増やしてほしい	119 18.4%	74 25.7%	172 20.7%	14 21.2%	6 18.2%	150 20.5%	30 17.4%	89 17.4%	83 24.8%	8 26.7%	16 21.9%
	B 必修の授業を減らしてほしい	529 81.6%	214 74.3%	659 79.3%	52 78.8%	27 81.9%	581 79.4%	143 82.6%	423 82.6%	252 75.2%	22 73.4%	57 78.1%
c	A 基礎的な内容にしてほしい	204 31.6%	63 21.9%	244 29.5%	17 25.4%	4 12.1%	207 28.4%	48 27.8%	173 33.9%	66 19.8%	9 30.0%	21 28.4%
	B 専門的な内容の方が勉強になる	442 68.4%	224 78.0%	583 70.5%	50 74.6%	29 87.9%	521 71.5%	125 72.3%	337 66.1%	267 80.1%	21 70.0%	53 51.6%
d	A 授業の目的や意義を明確にしてほしい	461 71.2%	206 71.3%	602 72.5%	39 58.3%	19 57.6%	530 72.6%	109 62.7%	392 76.7%	210 62.7%	26 86.7%	45 60.8%
	B 授業の目的や意義は自分で見出したい	186 28.8%	83 28.7%	228 27.5%	28 41.8%	14 42.5%	200 27.4%	65 37.4%	119 23.3%	125 37.3%	4 13.3%	29 39.2%
e	A 研究の方法や論文の書き方を教えてほしい	437 67.4%	236 81.7%	591 71.2%	52 77.6%	25 75.8%	517 70.7%	129 74.2%	330 64.5%	265 79.1%	29 96.6%	58 78.4%
	B 研究の方法や論文の書き方は自分で見出したい	211 32.6%	53 18.3%	239 28.8%	15 22.4%	8 24.3%	214 29.3%	45 25.8%	182 35.6%	70 20.9%	1 3.3%	16 21.7%

注）表の数字は「A に近い(1+2)」および「B に近い(3+4)」と回答した人数およびその割合。

問 13. あなたがこれまで受けた授業では，以下のことはどれくらいありましたか。またそれは必要ですか。（経験）

	性別		年齢			現在の課程		修士時の専攻分野			
	男性	女性	20 代	30 代	40 以上	修士	博士	理工	人文社会	医歯薬	その他
a. 英語を使用する授業	69 10.6%	38 13.1%	97 11.7%	8 11.9%	3 9.1%	82 11.2%	21 12.1%	44 8.6%	41 12.2%	5 16.7%	17 23.0%
b. 課題の提出が毎回重視されている	141 21.8%	61 21.1%	174 21.0%	17 25.4%	11 34.4%	173 23.6%	22 12.8%	98 19.1%	84 25.1%	7 23.3%	18 24.3%
c. 出席が重視されている	267 41.3%	140 48.4%	365 44.0%	30 44.8%	13 39.4%	334 45.6%	67 38.7%	236 46.1%	130 38.8%	15 51.7%	33 44.6%
d. TA など補助的な指導がある	73 11.3%	28 9.7%	95 11.4%	7 10.6%	1 3.0%	88 12.1%	13 7.5%	143 28.3%	65 19.6%	6 20.0%	21 28.4%
e. オムニバス形式の授業	71 11.0%	56 19.4%	113 13.6%	8 11.9%	5 15.6%	105 14.4%	20 11.5%	67 13.1%	34 10.2%	12 40.0%	17 23.0%
f. 学外の講師による授業	58 9.0%	37 12.8%	78 9.4%	10 14.9%	5 15.6%	79 10.8%	14 8.1%	50 9.8%	33 9.9%	6 20.0%	8 10.8%
g. グループで一つの課題に取り組む授業	62 9.6%	52 18.1%	96 11.6%	15 22.4%	6 18.2%	93 12.8%	17 9.8%	42 8.2%	50 15.1%	6 20.0%	18 24.3%
h. レポートが適切なコメント付きで返却	35 5.4%	22 7.6%	47 5.7%	10 14.9%	3 9.1%	46 6.3%	13 7.5%	24 4.7%	30 9.0%	1 3.3%	4 5.4%
i. 授業中意見や考えを述べる機会がある	150 23.3%	122 42.4%	214 25.8%	35 52.2%	20 64.5%	207 28.4%	51 29.7%	59 11.5%	176 53.0%	7 23.3%	36 49.3%
j. 講義科目の選択に指導教員の関与	55 8.5%	30 10.4%	70 8.4%	13 19.4%	2 6.1%	65 8.9%	15 8.6%	32 6.2%	40 12.0%	3 10.0%	10 13.5%

注）表の数字は「とてもあった」と回答した人数およびその割合。

問 13. あなたがこれまで受けた授業では，以下のことはどれくらいありましたか。またそれは必要ですか。（必要性）

	性別		年齢			現在の課程		修士時の専攻分野			
	男性	女性	20 代	30 代	40 以上	修士	博士	理工	人文社会	医歯薬	その他
a. 英語を使用する授業	250 38.8%	115 40.6%	329 39.9%	24 36.9%	11 33.3%	284 39.1%	69 40.1%	208 40.6%	109 33.0%	16 55.2%	35 49.3%
b. 課題の提出が毎回重視されている	126 19.5%	58 20.5%	164 19.9%	14 21.5%	8 24.2%	152 20.9%	28 16.3%	89 17.4%	76 23.0%	4 13.8%	19 26.8%
c. 出席が重視されている	160 24.9%	82 29.2%	210 25.6%	20 31.8%	11 33.3%	192 26.5%	43 25.3%	126 24.7%	93 28.5%	10 35.7%	16 22.5%
d. TA など補助的な指導がある	132 20.6%	57 20.3%	177 21.6%	7 10.9%	2 6.1%	148 20.5%	36 21.1%	113 22.2%	57 17.4%	2 7.1%	18 25.4%
e. オムニバス形式の授業	95 14.8%	51 18.1%	133 16.2%	12 18.5%	3 9.4%	122 16.9%	23 13.4%	79 15.5%	52 15.8%	9 31.0%	10 14.3%
f. 学外の講師による授業	202 31.5%	89 31.8%	268 32.7%	18 28.1%	4 12.5%	235 32.5%	53 31.4%	176 34.5%	91 28.0%	8 27.6%	23 32.4%
g. グループで一つの課題に取り組む授業	225 35.0%	85 30.2%	284 34.6%	21 32.8%	4 12.1%	256 35.4%	46 26.9%	172 33.7%	107 32.6%	9 31.0%	28 39.4%
h. レポートが適切なコメント付きで返却	285 44.3%	136 48.7%	376 45.8%	35 54.7%	10 32.3%	328 45.3%	81 47.6%	224 43.8%	158 48.6%	11 37.9%	32 45.1%
i. 授業中意見や考えを述べる機会がある	323 50.2%	174 61.9%	423 51.5%	47 73.4%	24 72.7%	376 52.0%	101 59.1%	210 41.0%	232 70.9%	14 48.3%	50 71.4%
j. 講義科目の選択に指導教員の関与	50 7.8%	38 13.5%	76 9.2%	10 15.6%	3 9.1%	73 10.1%	13 7.6%	35 6.9%	40 12.2%	2 6.9%	12 16.9%

注）表の数字は「とても必要」と回答した人数およびその割合。

問 14. 以下の知識や能力について現在どのくらい身につけていると思いますか。

	性別		年齢			現在の課程		修士時の専攻分野			
	男性	女性	20 代	30 代	40 以上	修士	博士	理工	人文社会	医歯薬	その他
a. 専攻レベルの専門的な知識・応用力	425 65.6%	167 57.8%	516 62.1%	42 77.6%	23 69.7%	436 59.6%	132 75.8%	323 63.1%	219 65.1%	17 56.7%	44 59.5%
b. 専攻レベルの基礎的知識・能力	509 78.9%	233 80.9%	656 79.2%	56 83.6%	26 81.3%	572 78.5%	142 81.6%	402 78.8%	276 82.7%	22 73.3%	56 75.7%
c. 英語を読む能力	358 55.5%	141 48.8%	458 55.1%	27 40.3%	14 43.8%	364 49.9%	120 69.0%	300 58.6%	157 46.9%	15 50.0%	33 45.2%
d. 英語で論文を書く能力	86 13.3%	35 12.1%	106 12.7%	9 13.5%	9 27.3%	69 9.4%	46 26.4%	77 15.1%	32 9.5%	2 6.6%	11 14.9%
e. 英語で話す能力	92 14.2%	55 19.0%	127 15.3%	14 20.9%	8 24.2%	103 14.0%	38 21.9%	78 15.3%	51 15.2%	5 16.6%	14 19.0%
f. わかりやすく話す能力	384 59.3%	161 55.9%	475 57.3%	47 70.1%	23 69.7%	427 58.4%	99 57.2%	307 60.1%	196 58.5%	9 30.0%	43 58.1%
g. 職業汎用的な能力	374 57.9%	153 53.1%	450 54.3%	52 77.6%	23 69.7%	416 56.9%	98 56.9%	292 57.1%	193 57.8%	15 50.0%	41 55.4%
h. 論文作成能力	317 48.9%	143 49.6%	397 47.8%	44 65.6%	19 57.6%	343 46.9%	102 59.0%	235 46.0%	184 55.4%	10 33.3%	37 50.0%
i. ものごとを分析的・批判的に考える力	513 79.2%	200 69.5%	636 76.8%	53 79.1%	22 66.7%	550 75.1%	136 79.1%	397 77.6%	252 75.2%	20 66.6%	54 73.0%
j. 問題を発見し仮説・検証する力	466 71.9%	187 64.9%	576 69.4%	51 76.1%	22 66.7%	501 68.4%	132 76.3%	368 72.0%	225 67.0%	20 66.7%	51 69.0%
k. 対人関係能力・リーダーシップ	413 63.9%	193 67.2%	525 63.4%	50 74.6%	26 78.7%	474 65.0%	107 61.8%	332 65.1%	215 64.2%	17 56.7%	48 64.8%
l. 社会・政治・経済に関する教養的知識	272 42.0%	122 42.5%	326 39.3%	50 74.6%	19 57.6%	308 42.2%	72 41.6%	195 38.2%	162 48.4%	12 40.0%	31 41.9%

注）表の数字は「とても身に付いている」+「身に付いている」と回答した人数およびその割合。

問 15. 今まで受けてきた大学院の授業の中で意味があったと思う授業に当てはまる特徴はなんですか。

	性別		年齢			現在の課程		修士時の専攻分野			
	男性	女性	20 代	30 代	40 以上	修士	博士	理工	人文社会	医歯薬	その他
a. 最先端の研究成果に触れられた	382 59.6%	177 61.9%	486 59.1%	47 71.2%	25 75.8%	423 58.2%	119 70.0%	315 62.3%	189 56.8%	21 72.4%	44 59.5%
b. 学問の基礎を着実に教えてくれた	505 78.9%	235 81.9%	656 79.7%	52 80.0%	26 78.8%	583 80.2%	130 76.9%	397 78.5%	273 82.2%	24 80.0%	57 77.0%
c. 自然や社会との関わりで学問の意義を教えてくれた	294 46.0%	168 58.5%	401 48.8%	35 53.8%	20 60.6%	362 49.9%	88 52.1%	231 45.7%	184 55.4%	17 56.7%	40 54.1%
d. 将来役立つ実践的な知識や技能を教えてくれた	419 65.4%	195 67.9%	539 65.4%	46 70.8%	25 75.8%	498 68.4%	103 60.9%	326 64.3%	225 67.8%	24 80.0%	50 67.6%
e. 教え方が工夫されていた	363 56.7%	178 62.0%	472 57.4%	45 68.2%	21 65.6%	427 58.7%	96 56.5%	287 56.7%	198 59.6%	17 56.7%	46 62.2%
f. 自分の研究テーマや方法を考える上で役立った	457 71.3%	224 77.8%	593 72.0%	57 86.4%	28 84.8%	521 71.6%	140 82.4%	363 71.6%	259 77.8%	24 80.0%	48 64.9%

注）表の数字は「あてはまる」と回答した人数およびその割合。

問 16. あなたが所属する研究室には，あなた以外に a. 修士課程，b. 博士後期課程の院生は何人いますか。（修士課程）

	性別		年齢			現在の課程		修士時の専攻分野			
	男性	女性	20 代	30 代	40 以上	修士	博士	理工	人文社会	医歯薬	その他
0 人	52 8.0%	31 10.8%	67 8.1%	9 13.4%	6 18.8%	63 8.6%	16 9.2%	30 5.8%	42 12.7%	4 13.3%	7 9.5%
1～3 人	206 31.8%	105 36.6%	271 32.7%	24 35.8%	11 34.4%	251 34.4%	49 28.3%	154 30.0%	129 38.9%	8 26.7%	26 35.1%
4～6 人	177 27.4%	74 25.8%	228 27.5%	12 17.9%	10 31.2%	199 27.3%	43 24.9%	151 29.4%	77 23.2%	13 43.3%	14 18.9%
7～9 人	112 17.3%	43 15.0%	144 17.4%	9 13.4%	2 6.2%	112 15.3%	35 20.2%	95 18.5%	45 13.6%	1 3.3%	15 20.3%
10 人以上	100 15.5%	34 11.8%	119 14.4%	13 19.4%	3 9.4%	105 14.4%	30 17.3%	83 16.2%	39 11.7%	4 13.3%	12 16.2%
合計	647 100%	287 100%	829 100%	67 100%	32 100%	730 100%	173 100%	513 100%	332 100%	30 100%	74 100%

注）表の数字は回答した人数およびその割合。

問 16. あなたが所属する研究室には，あなた以外に a. 修士課程，b. 博士後期課程の院生は何人いますか。（博士課程）

	性別		年齢			現在の課程		修士時の専攻分野			
	男性	女性	20 代	30 代	40 以上	修士	博士	理工	人文社会	医歯薬	その他
0 人	263 43.0%	103 39.2%	329 42.5%	24 37.5%	8 29.6%	321 48.0%	35 20.3%	203 41.1%	131 44.6%	5 17.9%	29 42.6%
1～3 人	263 43.0%	107 40.7%	335 43.2%	22 34.4%	11 40.7%	271 40.5%	84 48.8%	242 49.0%	92 31.3%	11 39.3%	28 41.2%
4～6 人	62 10.1%	38 14.4%	77 9.9%	14 21.9%	7 25.9%	57 8.5%	37 21.5%	41 8.3%	43 14.6%	10 35.7%	8 11.8%
7～9 人	13 2.1%	4 1.5%	19 2.5%	1 1.6%	0 0.0%	12 1.8%	7 4.1%	3 0.8%	14 4.8%	0 0.0%	2 2.9%
10 人以上	10 1.6%	11 4.2%	15 1.9%	3 4.7%	1 3.7%	8 1.2%	9 5.2%	4 0.8%	14 4.8%	2 7.1%	1 1.5%
合計	611 100%	263 100%	775 100%	64 100%	27 100%	669 100%	172 100%	494 100%	294 100%	28 100%	68 100%

注）表の数字は回答した人数およびその割合。

問 17. 所属する研究室について以下のことは当てはまりますか。

	性別		年齢			現在の課程		修士時の専攻分野			
	男性	女性	20 代	30 代	40 以上	修士	博士	理工	人文社会	医歯薬	その他
a. 研究室は入学前に決めていた	382 58.9%	215 74.4%	513 61.7%	55 82.1%	25 75.8%	453 61.8%	125 71.8%	266 51.9%	259 77.1%	23 76.7%	61 82.4%
b. 複数教員による指導が行われている	358 55.3%	147 50.9%	462 55.7%	31 46.3%	12 36.4%	390 53.4%	92 52.9%	306 59.8%	148 44.2%	20 66.7%	38 51.4%
c. 研究の進捗状況について適宜確認がある	581 89.7%	242 83.7%	738 88.8%	50 74.6%	30 90.9%	654 89.3%	144 82.8%	468 91.2%	281 83.9%	24 80.0%	63 85.1%
d. 共同研究やプロジェクトへの参加が求められる	257 39.7%	113 39.1%	335 40.4%	24 35.8%	9 27.3%	281 38.4%	77 44.3%	229 44.7%	103 30.7%	14 46.7%	31 41.9%

注）表の数字は「あてはまる」と回答した人数およびその割合。

問 18. 以下の知識や能力を身に付ける上で，時間割上の授業と研究室の教育はどの程度役立っていると思いますか。（時間割上の授業）

	性別		年齢			現在の課程		修士時の専攻分野			
	男性	女性	20 代	30 代	40 以上	修士	博士	理工	人文社会	医歯薬	その他
a. 専門的な知識や応用力	420 65.1%	217 77.3%	535 67.2%	51 78.4%	27 90.0%	501 69.0%	113 66.5%	312 61.0%	272 82.9%	16 57.1%	49 67.2%
b. 専門の基礎となる知識や能力	495 77.0%	240 85.7%	651 79.2%	53 81.5%	28 93.4%	578 79.8%	132 78.2%	385 75.6%	280 85.6%	22 78.6%	61 83.5%
c. 英語を読む能力	240 37.5%	113 40.2%	313 38.2%	313 38.2%	26 40.0%	279 38.7%	66 38.8%	169 33.3%	143 43.6%	14 50.0%	31 43.1%
d. 英語を書く能力	106 16.5%	51 18.1%	136 16.5%	16 24.6%	6 20.0%	122 16.8%	31 18.2%	84 16.5%	56 17.1%	5 17.9%	17 23.6%
e. 英語で話す能力	83 12.9%	46 16.4%	113 13.8%	12 18.5%	5 16.6%	93 12.9%	29 17.0%	66 13.0%	46 14.1%	3 10.7%	14 19.4%
f. わかりやすく話す能力	277 42.8%	158 56.6%	368 44.6%	43 65.2%	19 63.4%	353 48.5%	72 42.8%	170 33.4%	216 65.4%	9 32.2%	216 65.4%
g. 職業汎用的な能力	242 37.4%	242 37.4%	316 38.3%	38 57.6%	18 58.1%	318 43.7%	48 28.3%	171 33.6%	164 49.7%	9 32.2%	36 48.7%
h. 論文作成能力	178 27.6%	119 42.5%	243 29.5%	38 57.6%	22 71.0%	234 32.2%	54 31.8%	85 18.7%	170 51.5%	11 39.2%	30 40.6%
i. ものごとを分析的・批判的に考える力	357 55.3%	187 66.5%	461 55.9%	54 81.8%	25 80.7%	428 58.8%	119 58.6%	231 45.3%	253 76.6%	16 57.2%	52 71.2%
j. 問題を発見し仮説・検証する力	302 46.8%	173 62.0%	398 48.4%	49 75.4%	26 83.9%	375 51.6%	90 53.3%	188 36.9%	234 71.3%	13 46.4%	49 67.1%
k. 対人関係能力・リーダーシップ	215 33.3%	111 40.0%	284 34.6%	26 39.4%	15 50.0%	263 36.3%	54 31.9%	144 28.2%	146 44.8%	5 17.9%	36 48.7%
l. 社会・政治・経済に関する教養的知識	219 34.0%	109 38.8%	280 34.0%	31 46.9%	12 40.0%	268 36.9%	54 31.9%	142 27.8%	149 45.4%	7 25.0%	34 46.0%

注）表の数字は「とても役立っている」+「やや役立っている」と回答した人数およびその割合。

問 18. 以下の知識や能力を身に付ける上で，時間割上の授業と研究室の教育はどの程度役立っていると思いますか。（研究室の教育）

	性別		年齢			現在の課程		修士時の専攻分野			
	男性	女性	20 代	30 代	40 以上	修士	博士	理工	人文社会	医歯薬	その他
a. 専門的な知識や応用力	608 95.2%	268 95.4%	783 95.8%	58 90.6%	30 90.9%	687 95.5%	157 92.9%	485 97.4%	308 93.3%	26 86.6%	70 98.6%
b. 専門の基礎となる知識や能力	605 94.6%	263 93.9%	775 94.9%	58 90.6%	29 87.9%	682 94.9%	154 91.2%	479 95.2%	306 93.0%	26 86.7%	69 97.2%
c. 英語を読む能力	437 68.4%	157 56.0%	542 66.4%	33 50.8%	14 43.8%	459 64.1%	114 66.6%	389 76.9%	157 48.0%	18 60.0%	35 50.0%
d. 英語を書く能力	284 44.5%	95 34.0%	349 42.7%	20 30.8%	9 29.0%	267 37.3%	96 56.4%	269 53.1%	76 23.3%	8 26.6%	29 41.4%
e. 英語で話す能力	206 32.3%	77 27.4%	257 31.5%	17 26.2%	7 22.6%	205 28.6%	65 38.4%	193 38.2%	65 19.9%	6 20.0%	21 30.0%
f. わかりやすく話す能力	575 89.7%	226 80.4%	718 87.8%	50 76.9%	26 81.3%	638 89.0%	134 78.4%	458 90.4%	266 81.5%	25 83.3%	63 88.7%
g. 職業汎用的な能力	435 67.9%	178 63.3%	541 66.1%	47 72.3%	21 65.6%	497 69.3%	96 56.1%	352 69.5%	204 62.3%	19 63.3%	47 66.2%
h. 論文作成能力	557 86.7%	236 84.3%	701 85.7%	57 87.7%	27 87.1%	610 85.0%	150 88.2%	425 83.8%	285 87.7%	28 83.3%	65 91.6%
i. ものごとを分析的・批判的に考える力	605 94.4%	253 90.1%	765 93.5%	57 87.6%	29 90.6%	667 83.2%	158 92.9%	477 94.1%	295 90.5%	27 90.0%	68 95.8%
j. 問題を発見し仮説・検証する力	591 92.3%	247 88.3%	745 91.2%	58 89.2%	29 90.6%	659 91.9%	149 87.7%	474 93.7%	281 86.2%	28 93.3%	65 91.6%
k. 対人関係能力・リーダーシップ	445 69.6%	169 60.5%	558 68.3%	37 56.9%	17 54.8%	485 67.6%	106 62.7%	371 73.4%	187 57.2%	12 40.0%	49 69.1%
l. 社会・政治・経済に関する教養的知識	275 42.9%	128 46.2%	347 42.5%	38 58.5%	16 51.6%	325 45.4%	69 40.8%	197 39.0%	168 51.6%	11 36.7%	34 47.9%

注）表の数字は「とても役立っている」+「やや役立っている」と回答した人数およびその割合。

問 19. あなたは現在の自分をどのように捉えていますか。

		性別		年齢			現在の課程		修士時の専攻分野			
		男性	女性	20 代	30 代	40 以上	修士	博士	理工	人文社会	医歯薬	その他
a	A 教育の対象である	333 51.4%	143 49.7%	443 53.2%	21 32.3%	13 39.4%	420 57.3%	44 25.5%	259 50.5%	170 50.9%	12 40.0%	41 55.4%
	B 院生といえども自立した研究者である	315 48.6%	145 50.4%	389 46.7%	44 67.7%	20 60.6%	313 42.7%	128 74.4%	254 49.5%	164 49.1%	18 60.0%	33 44.6%
b	A 個人研究を重視している	507 78.5%	252 87.2%	667 80.3%	58 87.9%	28 84.8%	589 80.6%	167 85.0%	377 73.6%	304 91.0%	23 76.6%	66 89.1%
	B 研究室の共同研究を重視している	139 21.5%	37 12.8%	163 19.6%	8 12.1%	5 15.1%	142 19.4%	26 15.0%	135 26.4%	30 9.0%	7 23.3%	8 10.9%
c	A 自分の研究は将来性がある	457 70.8%	204 70.9%	573 69.1%	54 81.8%	31 93.9%%	514 70.5%	133 77.3%	358 70.1%	240 71.8%	23 76.7%	54 74.0%
	B 自分の研究は将来性がない	189 29.3%	84 29.2%	256 30.9%	12 18.2%	2 6.0%	216 29.6%	39 22.7%	153 29.9%	94 28.2%	7 23.3%	19 26.0%
d	A 早い段階で研究業績を積みたい	341 52.8%	137 47.8%	410 49.4%	49 75.4%	20 60.6%	325 44.5%	140 81.9%	277 54.1%	165 49.5%	14 46.7%	30 41.1%
	B じっくり基礎を学びたい	305 47.3%	150 52.3%	419 50.5%	16 24.6%	13 39.4%	406 55.6%	31 18.1%	235 45.9%	168 50.4%	16 53.3%	43 58.9%
e	A 研究テーマは自分で決めている	402 62.2%	228 79.2%	536 64.6%	58 87.9%	32 97.0%	459 62.7%	150 87.2%	261 51.1%	301 89.9%	25 83.4%	55 74.3%
	B 研究テーマは指導教員が決めてほしい	245 37.8%	60 20.9%	294 35.4%	8 12.1%	1 3.0%	273 37.3%	22 12.8%	250 48.9%	34 10.2%	5 16.7%	19 25.7%
f	A 社会に関係なく研究を深めたい	173 26.8%	65 22.6%	222 26.8%	11 16.7%	4 12.2%	175 23.9%	51 29.6%	138 27.0%	85 25.4%	3 10.0%	14 19.0%
	B 研究を通じて社会に貢献したい	474 73.3%	223 77.4%	608 73.3%	55 83.3%	29 87.9%	557 76.0%	121 70.4%	373 72.9%	250 74.6%	27 90.0%	60 81.0%

注）表の数字は「A に近い(1+2)」および「B に近い(3+4)」と回答した人数およびその割合。

問 20. 現在や将来について，次のようなことはあてはまりますか。

	性別		年齢			現在の課程		修士時の専攻分野			
	男性	女性	20 代	30 代	40 以上	修士	博士	理工	人文社会	医歯薬	その他
a. 将来研究職を目指して研究を進めたい	327 50.3%	144 49.7%	400 48.0%	44 74.7%	20 60.6%	297 40.7%	153 87.4%	268 52.3%	152 45.4%	16 53.3%	40 54.8%
b. 自分に何が向いているかまだわからない	303 46.7%	138 47.9%	412 49.6%	22 32.8%	4 12.1%	362 49.8%	70 40.3%	277 54.1%	117 35.2%	17 56.7%	38 52.0%
c. 課程修了後のキャリアに不安がある	381 58.7%	182 63.2%	507 61.0%	40 59.7%	13 39.4%	406 55.8%	133 76.4%	303 59.2%	199 59.9%	18 60.0%	48 65.7%

注）表の数字は「とてもあてはまる」+「あてはまる」と回答した人数およびその割合。

問 21. 修士課程を修了したら，どのような進路に進みたいですか（修士課程の学生のみ）。

		性別		年齢			修士時の専攻分野			
		男性	女性	20 代	30 代	40 以上	理工	人文社会	医歯薬	その他
a. 同じ研究科の博士後期課程に進学する	希望するもの	88 21.5%	55 29.4%	123 22.6%	10 37.0%	7 33.3%	58 18.1%	66 30.7%	10 50.5%	9 19.6%
	最も希望するもの	38 9.4%	21 12.5%	48 9.2%	5 20.0%	4 19.0%	23 7.2%	23 11.7%	5 29.4%	7 16.7%
	もう決まっている	18	4	20	0	2	12	6	0	4
b. 別の研究科の博士後期課程に進学する（海外も含む）	希望するもの	49 12.0%	28 15.0%	67 12.3%	5 18.5%	5 23.8%	31 9.7%	37 17.2%	4 20.0%	5 10.9%
	最も希望するもの	10 2.5%	3 1.8%	9 1.7%	2 8.0%	2 9.5%	4 1.3%	8 4.1%	1 5.9%	0 0.0%
	もう決まっている	0	1	1	0	0	1	0	0	0
c. 別の研究科の修士課程に入学する	希望するもの	17 4.1%	7 3.7%	20 3.7%	1 3.7%	2 9.5%	14 4.4%	7 3.3%	0 0.0%	4 8.7%
	最も希望するもの	2 0.5%	1 0.6%	3 0.6%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.6%	1 0.5%	0 0.0%	0 0.0%
	もう決まっている	1	0	1	0	0	1	0	0	0

d. 民間企業に就職する	希望するもの	297 72.4%	96 51.3%	380 69.7%	9 33.3%	3 14.3%	274 85.6%	85 39.5%	9 45.0%	27 58.7%
	最も希望するもの	239 59.0%	58 34.5%	291 55.6%	4 16.0%	1 4.8%	241 75.8%	35 17.8%	4 23.5%	18 42.9%
	もう決まっている	177	29	204	1	0	182	17	1	7
e. 小中高の教員，医師，弁護士などの専門職に付く	希望するもの	119 29.0%	82 43.9%	184 33.8%	10 37.0%	5 23.8%	62 19.4%	121 56.3%	8 40.0%	11 23.9%
	最も希望するもの	74 18.3%	56 33.3%	120 22.9%	7 28.0%	2 9.5%	22 6.9%	98 49.7%	4 23.5%	7 16.7%
	もう決まっている	44	25	64	3	2	14	51	3	1
f. 官公庁の職に就く	希望するもの	106 25.9%	54 28.9%	158 29.0%	3 11.1%	0 0.0%	95 29.7%	44 20.5%	4 20.0%	19 41.3%
	最も希望するもの	30 7.4%	16 9.5%	46 8.8%	0 0.0%	0 0.0%	22 6.9%	16 8.1%	0 0.0%	8 19.0%
	もう決まっている	15	3	18	0	0	14	2	0	2
g. 自営など上記以外の形で就職する	希望するもの	37 9.0%	18 9.6%	48 8.8%	2 7.4%	5 23.8%	26 8.1%	22 10.2%	1 5.0%	6 13.0%
	最も希望するもの	3 0.7%	3 1.8%	3 0.6%	1 4.0%	2 9.5%	1 0.3%	5 2.5%	0 0.0%	0 0.0%
	もう決まっている	0	1	0	0	1	0	1	0	0
h. 職場に復帰する（転職も含む）	希望するもの	13 3.2%	15 8.0%	8 1.5%	9 33.3%	12 57.1%	5 1.6%	19 8.8%	5 25.0%	0 0.0%
	最も希望するもの	6 1.5%	5 3.0%	0 0.0%	6 24.0%	5 23.8%	1 0.3%	8 4.1%	2 11.8%	0 0.0%
	もう決まっている	4	6	0	6	5	1	9	1	0
i. その他	希望するもの	4 1.0%	8 4.3%	10 1.8%	0 0.0%	3 14.3%	2 0.6%	7 3.3%	1 5.0%	3 6.5%
	最も希望するもの	3 0.7%	5 3.0%	3 0.6%	0 0.0%	5 23.8%	2 0.6%	3 1.5%	1 5.9%	2 4.8%
	もう決まっている	2	5	2	2	3	0	4	1	2
j. まだ考えていない（決まっていない）		25 6.1%	25 13.4%	44 8.1%	5 18.5%	1 4.8%	18 5.6%	24 11.2%	2 10.0%	7 15.2%

注）表の数字は回答した人数およびその割合。

問 22. 博士課程を修了したら，どのような進路に進みたいですか（博士課程の学生のみ）。

		性別		年齢			修士時の専攻分野			
		男性	女性	20 代	30 代	40 以上	理工	人文社会	医歯薬	その他
a. 同じ研究科の特別研究員になる	希望するもの	70 58.3%	50 67.6%	95 63.3%	22 66.7%	4 40.0%	43 55.8%	62 63.9%	6 85.7%	10 62.5%
	最も希望するもの	8 6.9%	9 14.5%	12 8.7%	2 6.7%	3 37.5%	6 8.2%	10 12.0%	0 0.0%	0 0.0%
	もう決まっている	2	0	2	0	0	1	1	0	0
b. 別の研究科の特別研究員になる（海外も含む）	希望するもの	65 54.2%	30 50.0%	83 55.3%	17 51.5%	3 30.0%	40 51.9%	45 46.4%	6 85.7%	11 68.8%
	最も希望するもの	17 14.7%	6 9.7%	22 15.9%	2 6.7%	0 0.0%	14 19.2%	6 7.2%	0 0.0%	4 25.0%
	もう決まっている	3	0	3	0	0	2	1	0	0
c. 民間企業に就職する	希望するもの	49 40.8%	2 29.7%	65 43.3%	5 15.2%	0 0.0%	48 62.3%	17 17.5%	2 28.6%	5 31.2%
	最も希望するもの	24 20.7%	4 6.5%	27 19.6%	1 3.3%	0 0.0%	25 34.2%	2 2.4%	0 0.0%	1 6.2%
	もう決まっている	5	1	6	1	0	4	1	0	2
d. 大学教員の職に就く	希望するもの	81 67.5%	57 77.0%	104 69.3%	26 78.8%	8 80.0%	45 58.4%	75 77.3%	6 85.7%	14 87.5%
	最も希望するもの	59 50.9%	32 51.6%	63 45.7%	22 73.3%	3 37.5%	20 27.4%	56 67.5%	6 100.0%	8 50.0%
	もう決まっている	3	5	0	7	1	1	4	2	1
e. 官公庁の職に就く	希望するもの	28 23.3%	18 24.3%	38 25.3%	7 21.2%	0 0.0%	21 27.3%	19 19.6%	3 42.9%	5 31.2%
	最も希望するもの	4 3.4%	2 3.2%	4 2.9%	2 6.7%	0 0.0%	4 5.5%	3 3.6%	0 0.0%	0 0.0%
	もう決まっている	2	1	1	1	0	2	1	0	0

f. 小中高の教員や医師，弁護士などの専門職につく	希望するもの	13 10.8%	20 27.0%	27 18.0%	2 6.1%	4 40.0%	5 6.5%	21 21.6%	3 42.9%	4 25.0%
	最も希望するもの	1 0.9%	4 6.5%	5 3.6%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.4%	4 4.8%	0 0.0%	0 0.0%
	もう決まっている	1	2	2	0	1	1	2	0	0
g. 自営など上記以外の形で就職する	希望するもの	11 9.2%	10 13.5%	18 12.0%	3 9.1%	0 0.0%	7 9.1%	7 7.2%	2 28.6%	4 25.0%
	最も希望するもの	1 0.9%	4 6.5%	4 2.9%	1 3.3%	0 0.0%	2 2.7%	1 1.2%	0 0.0%	2 12.5%
	もう決まっている	1	1	2	1	0	1	2	0	0
h. 職場に復帰する（転職も含む）	希望するもの	6 5.0%	5 6.8%	3 2.0%	5 15.2%	3 30.0%	2 2.6%	4 4.1%	4 57.1%	1 6.2%
	最も希望するもの	1 0.9%	1 1.6%	0 0.0%	0 0.0%	2 25.0%	1 1.4%	1 1.2%	0 0.0%	0 0.0%
	もう決まっている	1	1	0	0	2	1	1	0	0
i. その他	希望するもの	7 5.8%	2 2.7%	7 4.7%	2 6.1%	0 0.0%	2 2.6%	2 2.1%	2 28.6%	3 18.8%
	最も希望するもの	1 0.9%	0 0.0%	1 0.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.2%
	もう決まっている	1	0	0	1	0	0	1	0	0
j. まだ考えていない（決まっていない）		10 8.3%	11 14.9%	21 14.0%	1 3.0%	1 10.0%	8 10.4%	13 13.4%	0 0.0%	2 12.5%

注）表の数字は回答した人数およびその割合。

問 24. 大学入学後から現在まで経験したことに〇を付けて下さい。

	性別		年齢			現在の課程		修士時の専攻分野			
	男性	女性	20 代	30 代	40 以上	修士	博士	理工	人文社会	医歯薬	その他
1. 大学入学後休学した	26 16.0%	13 12.5%	24 13.5%	9 15.8%	4 13.3%	21 12.1%	14 17.1%	11 12.1%	24 17.3%	0 0.0%	4 14.3%
2. 大学入学後転科した	3 2.9%	3 2.9%	4 2.2%	1 1.8%	0 0.0%	4 2.3%	2 2.4%	0 0.0%	4 2.9%	0 0.0%	2 7.1%
3. 大学入学後留年した	38 23.3%	5 4.8%	36 20.2%	5 8.8%	2 6.7%	30 17.3%	11 13.4%	28 30.8%	10 7.2%	1 7.1%	4 14.3%
4. 大学入学後他大学へ転学した	18 11.0%	5 4.8%	20 11.2%	2 3.5%	0 0.0%	15 8.7%	7 8.5%	11 12.1%	11 7.9%	0 0.0%	1 3.6%
5. 修士課程入学前フルタイムで働いた	47 28.8%	38 36.5%	24 13.5%	37 64.9%	23 76.7%	58 33.5%	23 28.0%	12 13.2%	56 40.3%	10 71.4%	10 35.7%
6. 修士課程入学前非正規で働いた	43 26.4%	30 28.8%	54 30.3%	12 21.1%	6 20.0%	60 34.7%	10 12.2%	26 28.6%	36 25.9%	3 21.4%	9 32.1%
7. 修士課程入学前研究生をした	19 11.7%	13 12.5%	30 16.9%	1 1.8%	0 0.0%	25 14.5%	7 8.5%	13 14.3%	18 12.9%	0 0.0%	2 7.1%
8. 修士課程修了後研究生をした	5 3.1%	6 5.8%	6 3.4%	4 7.0%	1 3.3%	0 0.0%	10 12.2%	2 2.2%	8 5.8%	0 0.0%	0 0.0%
9. 修士課程修了後フルタイムで働いた	15 9.2%	15 14.4%	10 5.6%	13 22.8%	8 26.7%	7 4.0%	24 29.3%	7 7.7%	21 15.1%	2 14.3%	2 7.1%
10. 修士課程修了後非正規で働いた	13 8.0%	14 13.5%	17 9.6%	9 15.8%	2 6.7%	5 2.9%	21 25.6%	3 3.3%	16 11.5%	4 28.6%	4 14.3%

注）表の数字は回答した人数およびその割合。

問 25. 一ヶ月の生活費と授業料の収入源を記入してください。

		性別		年齢			現在の課程		修士時の専攻分野			
		男性	女性	20 代	30 代	40 以上	修士	博士	理工	人文社会	医歯薬	その他
家族等	一ヶ月の生活費（万円）	4.70	4.81	4.79	5.03	4.41	5.14	3.35	5.31	4.19	3.79	3.88
	授業料の割合	6.05	5.33	6.36	2.33	0.12	6.55	2.99	6.59	4.91	3.54	5.26
奨学金	一ヶ月の生活費（万円）	4.06	3.80	4.13	3.63	0.10	3.49	5.97	4.35	3.53	2.71	3.85
	授業料の割合	2.22	1.90	2.20	1.85	0.00	2.02	2.63	2.37	1.75	2.54	1.95
アルバイト・給与	一ヶ月の生活費（万円）	3.60	4.91	3.26	8.23	15.2	3.01	7.37	2.51	5.46	9.85	6.00
	授業料の割合	1.04	1.50	0.86	3.98	3.45	0.76	2.81	0.62	1.95	1.93	1.56
その他	一ヶ月の生活費（万円）	0.51	0.81	0.36	1.64	4.88	0.41	1.38	0.33	0.84	1.50	1.02
	授業料の割合	0.44	0.84	0.39	1.21	3.63	0.41	1.08	0.25	0.84	1.79	0.94
一ヶ月の生活費（合計）（万円）		12.9	14.3	12.5	18.6	25.0	12.1	18.1	12.5	14.0	17.8	14.9

注）表の数字は平均値。

問 26. 差し支えなければ，ご両親の最終学歴を教えて下さい。（父親）

	性別		年齢			現在の課程		修士時の専攻分野			
	男性	女性	20 代	30 代	40 以上	修士	博士	理工	人文社会	医歯薬	その他
高卒まで	198 32.1%	87 32.1%	231 29.7%	30 46.2%	22 81.5%	214 31.6%	56 34.1%	155 32.5%	100 32.2%	10 33.3%	22 33.3%
高専	16 2.6%	13 4.8%	28 3.6%	1 1.5%	0 0.0%	21 3.1%	5 3.0%	14 2.9%	11 3.5%	0 0.0%	4 6.1%
短大・専門学校	30 5.0%	19 7.0%	48 6.2%	1 1.5%	0 0.0%	42 6.2%	6 3.7%	25 5.2%	17 5.5%	2 6.7%	5 7.6%
大学	319 52.6%	131 48.3%	409 52.5%	31 47.7%	5 18.5%	353 52.1%	79 48.2%	253 53.0%	155 49.8%	18 60.0%	28 42.4%
大学院	43 7.1%	21 7.7%	63 8.1%	2 3.1%	0 0.0%	47 6.9%	18 11.0%	30 6.3%	28 9.0%	0 0.0%	7 10.6%
合計	606 100%	271 100%	779 100%	65 100%	27 100%	677 100%	164 100%	477 100%	311 100%	30 100%	66 100%

注）表の数字は回答した人数およびその割合。

問 26. 差し支えなければ，ご両親の最終学歴を教えて下さい。（母親）

	性別		年齢			現在の課程		修士時の専攻分野			
	男性	女性	20 代	30 代	40 以上	修士	博士	理工	人文社会	医歯薬	その他
高卒まで	251 41.0%	107 39.2%	298 37.9%	32 49.2%	25 92.6%	272 40.0%	73 43.7%	191 39.8%	131 41.7%	11 36.7%	28 41.2%
高専	4 0.7%	3 1.1%	7 0.9%	0 0.0%	0 0.0%	6 0.9%	2 1.2%	4 0.8%	4 1.3%	0 0.0%	0 0.0%
短大・専門学校	196 32.0%	89 32.6%	269 34.2%	10 15.4%	1 3.7%	227 33.4%	42 25.1%	158 32.9%	99 31.5%	7 23.3%	22 32.4%
大学	151 24.7%	69 25.3%	198 25.2%	22 33.8%	1 3.7%	165 24.3%	45 26.9%	119 24.8%	74 23.6%	11 36.7%	18 26.5%
大学院	10 1.6%	5 1.8%	14 1.8%	1 1.5%	0 0.0%	10 1.5%	5 3.0%	8 1.7%	6 1.9%	1 3.3%	0 0.0%
合計	612 100%	273 100%	786 100%	65 100%	27 100%	680 100%	167 100%	480 100%	314 100%	30 100%	68 100%

注）表の数字は回答した人数およびその割合。

問 27. ふだん，次のようなことを思うことがありますか。

	性別		年齢			現在の課程		修士時の専攻分野			
	男性	女性	20 代	30 代	40 以上	修士	博士	理工	人文社会	医歯薬	その他
a. やりたい研究テーマが見つからない	176 27.1%	72 25.2%	228 27.5%	16 23.9%	2 6.1%	207 28.7%	32 18.4%	135 26.4%	90 27.4%	10 33.3%	17 23.6%
b. やりたいテーマが入学した時と違ってきた	316 48.7%	152 52.9%	421 50.8%	34 50.0%	12 36.4%	379 52.4%	75 43.4%	246 48.2%	182 54.9%	18 60.0%	28 39.5%
c. 授業についていけない	131 20.2%	53 18.4%	170 20.5%	10 14.7%	4 12.1%	162 22.4%	14 8.1%	118 23.1%	49 14.7%	5 16.6%	14 19.5%
d. 指導教員とうまくいかない	96 14.8%	37 12.8%	129 15.5%	5 7.4%	1 3.0%	102 14.1%	24 13.8%	73 14.4%	54 16.2%	4 13.3%	5 7.0%
e. 学位取得の見込みが立たない	80 12.3%	45 15.7%	109 13.2%	15 22.1%	2 6.1%	69 9.5%	49 28.1%	50 9.8%	61 18.1%	7 23.3%	9 12.5%
f. 経済的に勉強を続けることが難しい	104 16.0%	61 21.3%	142 17.1%	18 26.5%	4 12.2%	118 13.2%	43 24.7%	67 13.2%	81 24.4%	5 16.6%	11 15.3%
g. 可能なら別の大学院や研究室にかわりたい	89 13.7%	42 14.6%	123 14.8%	8 11.8%	3 9.1%	105 14.5%	21 12.1%	72 14.1%	44 13.3%	8 26.6%	11 15.3%
h. アルバイトで研究時間が十分取れない	75 11.5%	63 21.9%	114 13.8%	18 26.5%	5 15.2%	101 13.9%	32 18.4%	45 8.8%	74 22.3%	7 23.3%	15 20.9%
i. 就職活動で研究時間が十分取れない	164 25.3%	62 21.6%	217 26.1%	217 26.1%	7 10.5%	210 29.0%	7 4.0%	158 30.9%	53 16.0%	3 10.0%	14 19.4%
j. 他大学の院生と交流したい	431 66.3%	192 66.7%	559 67.3%	48 70.6%	13 39.4%	475 65.4%	127 73.0%	316 61.8%	240 72.0%	18 60.0%	53 73.6%
k. 研究室の決定は入学後でも遅くない	336 51.9%	136 47.2%	433 52.3%	453 52.3%	25 36.8%	386 53.4%	67 38.5%	287 56.2%	149 44.9%	13 43.4%	26 36.1%

注）表の数字は「とてもあてはまる」+「あてはまる」と回答した人数およびその割合。

問 28. あなたの所属する研究科は以下の点で成功していると思いますか。また将来の研究科にとってどの程度重要な課題だと思いますか。

（現在の評価）

	性別		年齢			現在の課程		修士時の専攻分野			
	男性	女性	20 代	30 代	40 以上	修士	博士	理工	人文社会	医歯薬	その他
a. 専門分野の理論を深く学ぶ	564 87.0%	223 77.7%	703 84.8%	51 76.1%	27 81.8%	626 85.8%	137 78.2%	442 86.4%	275 72.1%	20 69.1%	59 79.7%
b. 職業に役立つ知識や技能を学ぶ	362 56.0%	173 60.1%	464 56.1%	45 67.2%	26 78.7%	438 60.1%	83 47.7%	269 52.6%	212 63.3%	18 62.1%	48 65.8%
c. 外国人留学生の受け入れ	383 59.5%	198 69.5%	504 61.1%	47 71.2%	21 70.0%	448 62.0%	117 67.7%	293 57.5%	225 67.5%	15 55.5%	57 79.2%
d. 社会人学生の受け入れ	339 52.8%	209 72.8%	572 62.1%	45 69.2%	28 90.4%	421 58.0%	110 64.3%	222 43.6%	255 76.8%	22 75.9%	58 79.5%

注）表の数字は「とても成功している」+「やや成功している」と回答した人数およびその割合。

問 28. あなたの所属する研究科は以下の点で成功していると思いますか。また将来の研究科にとってどの程度重要な課題だと思いますか。

（将来のあり方）

	性別		年齢			現在の課程		修士時の専攻分野			
	男性	女性	20 代	30 代	40 以上	修士	博士	理工	人文社会	医歯薬	その他
a. 専門分野の理論を深く学ぶ	590 92.4%	267 94.3%	756 92.5%	62 95.4%	32 97.0%	669 92.7%	162 94.2%	466 91.9%	307 93.9%	30 100.0%	69 94.6%
b. 職業に役立つ知識や技能を学ぶ	547 85.5%	257 90.4%	708 86.5%	62 94.0%	30 90.9%	628 86.9%	152 87.8%	432 85.0%	295 89.7%	29 96.7%	63 86.3%
c. 外国人留学生の受け入れ	444 69.7%	208 73.5%	571 69.9%	49 75.4%	23 74.2%	506 70.5%	129 74.5%	356 70.3%	236 72.4%	17 56.7%	54 65.0%
d. 社会人学生の受け入れ	410 64.2%	211 74.6%	528 64.7%	55 83.3%	28 90.3%	493 68.5%	111 64.5%	302 59.5%	257 78.8%	19 63.3%	54 75.0%

注）表の数字は「とても重要課題」+「やや重要課題」と回答した人数およびその割合。

問 29. あなたは将来の大学院教育のあり方について，以下の考え変え方をどのように思いますか。

	性別		年齢			現在の課程		修士時の専攻分野			
	男性	女性	20 代	30 代	40 以上	修士	博士	理工	人文社会	医歯薬	その他
a. 専門分野を超えた授業をもっと充実する	417 64.2%	197 68.2%	544 65.3%	46 68.7%	20 60.6%	477 65.2%	119 68.0%	324 63.2%	228 67.8%	19 63.4%	55 74.3%
b. 博士課程進学者に，授業により獲得された基礎能力の試験を行う	268 41.4%	106 37.0%	353 42.8%	20 29.9%	4 12.1%	307 42.3%	59 33.7%	215 42.1%	125 37.3%	13 43.4%	29 40.2%
c. 修士課程修了単位を少なくする	271 41.8%	78 27.0%	328 39.4%	17 25.4%	2 6.1%	289 39.5%	52 29.7%	219 42.6%	98 29.1%	9 30.0%	30 40.5%
d. 職業的汎用能力を育成する	430 66.3%	215 74.4%	574 69.0%	45 68.1%	22 66.6%	527 72.1%	100 57.5%	358 69.8%	220 65.7%	25 83.3%	51 69.0%
e. 院生による授業評価を導入する	271 41.7%	140 48.6%	361 43.4%	30 44.8%	19 57.6%	321 43.9%	71 40.5%	203 39.5%	160 47.7%	17 56.6%	35 47.3%
f. カリキュラムをもっと体系化・標準化する	270 41.7%	144 49.9%	374 45.0%	33 49.2%	14 42.5%	332 45.5%	67 38.3%	214 41.9%	158 47.0%	17 56.6%	33 44.6%
g. キャリア開発・就職指導を重視する	359 55.3%	161 55.7%	473 56.9%	35 52.2%	13 39.4%	414 56.7%	92 52.5%	296 57.7%	175 52.2%	17 56.6%	38 51.3%
h. 主専攻以外に副専攻を導入する	250 38.6%	124 42.9%	328 39.4%	33 50.0%	11 33.4%	285 39.0%	77 44.2%	193 37.7%	145 43.1%	13 43.3%	29 39.2%
i. 大学院教育の情報を企業や地域社会に公開する	414 63.8%	200 72.2%	541 65.1%	50 74.7%	22 66.7%	477 65.4%	115 65.7%	320 62.5%	229 68.1%	22 73.3%	54 73.0%
j. 特別研究員（DC,PD）の枠を拡大する	391 60.5%	192 66.4%	513 61.7%	52 77.6%	15 46.8%	418 57.3%	144 82.3%	307 59.9%	214 63.8%	19 63.3%	52 70.2%
k. 院生への経済的支援は競争的であるべき	249 38.3%	80 27.7%	294 35.3%	25 37.3%	13 39.4%	244 33.4%	73 41.7%	203 39.6%	93 27.6%	11 36.7%	27 36.5%
l. 大学院進学者をもっと増やすべき	250 38.5%	100 34.7%	311 37.4%	27 40.3%	14 42.5%	286 39.2%	57 32.6%	192 37.4%	126 37.7%	12 40.0%	28 37.9%
m. 多様な院生の要求に対応できる教員を養成すべき	468 82.2%	228 79.2%	614 73.9%	53 80.3%	28 84.9%	543 74.3%	127 73.4%	366 71.5%	254 75.6%	28 93.4%	58 79.5%

注）表の数字は「強くそう思う」+「そう思う」と回答した人数およびその割合。

資料

１．資料１ アンケート調査票

２．資料２ データ集計結果

※資料２のクロス表の検定結果を下記の通り示した。

＊ p<0.05，＊＊ p<0.01，＊＊＊ p<0.001

資料１　アンケート調査票

日本の大学院教育の人材養成機能とその問題点に関する調査

回答ご協力のお願い

知の高度化が進み、イノベーション創出のプロセスは複雑化しており、その状況に対応するためには、大学と産業界の双方において、将来のイノベーションを生みだすための先端的な研究と、それを支える高度な人材が質・量ともに充実し、有機的に融合しあうよう、産学間の連携・協力関係を強化する必要があります。

欧米では、博士人材の高度な専門性と幅広い知識を活かし、企業や大学等におけるイノベーション創出の中核的人材として活躍しています。また、アジア諸国を始め途上国においても、海外留学だけではなく、国内における博士課程の充実に力を入れています。こうしたなかで、研究者・技術者が国際場裏でプレゼンスを示すためには、博士号の取得が不可欠な要件の一つとなっています。

わが国では、第1期科学技術基本計画において、「ポストドクター等1 万人支援計画」が打ち出されるなど、博士課程の量的拡充が図られてきましたが、修了後の進路については十分考慮されてきませんでした。こうしたなかで、アカデミアにおいて定職につける者は限られる一方、産業界でも十分な活躍の場が与えられず、多くが不安定な身分で研究者としての生活を続けるといった、いわゆる「ポスドク問題」が生じています。

以上の背景の下、本調査は、高度な研究・教育の場として飛躍的な充実が期待される大学院博士課程のあり方について明らかにするために、文部科学省から交付された『**21世紀知識基盤社会における大学・大学院改革の具体的方策**（代表者　山本眞一）』の一環として実施するものです。

ご多忙中まことに恐縮に存じますが、皆様の学習歴、仕事の状況、大学院教育に対する考え方等について、どうか率直なご意見をお寄せ下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

調査の結果につきましては、皆様方にご利用いただけるような形で公刊する所存でおりますが、結果の公表によって皆様にご迷惑をおかけすることのないよう、細心の注意を払う所存です。

２０１１年１１月

広島大学　高等教育研究開発センター
21 世紀知識基盤社会における大学・大学院改革の具体的方策に関する研究会
研究代表者　　山本　眞一

記入上のご注意

１．無記名でお願いします。
２．各設問にある選択肢の中から、該当するものを選んで、その番号に○印をつけて下さい。
３．ご意見等を記入するときは、（　）や〔　〕の中にあてはまる文字や値をご記入下さい。
４．質問が多岐にわたっており答えにくい質問もあるとは思いますが、最後までよろしくお願い申し上げます。
５．複数の大学・大学院を卒業（修了）されている場合は、最近卒業(修了）された大学・大学院についてお答え下さい。
６．結果は全て統計的にまとめますので、お答えいただいた方々にご迷惑をかけることは一切ございません。
７．お済みになりましたら、同封の返信用封筒に入れて、１２月２６日（月）までにご投函下さい。
８．調査についての問い合わせは e-メールにて広島大学・高等教育研究開発センター・研究員 安部保海（yasumi@hiroshima-u.ac.jp）までお願いします。

質問をよくお読みいただき、回答して下さい。回答は選択肢の番号を○印で囲むか、（ ）内に記入して下さい。

A. あなたの学歴・職歴を教えてください。

A1. あなたはいつ大学（学部）を卒業されましたか。

（　　）年３月　（　　）大学（　　）学部卒業

A2. あなたはいつ常勤の職業に就かれましたか。

（　　）年（　　）月就職

A3. あなたはいつ現在の会社に就職されましたか。

（　　）年（　　）月就職

A4. あなたの最終学歴を教えてください。当てはまるものを１つ選んで番号に○を付けてください（以下、「１つ選択」と省略します）。

１．学士　　２．修士　３．博士　４．その他（　　）

↓

C1 から回答ください　　A5 から回答してください

A5. あなたはいつ修士課程（博士前期課程・専門職学位課程を含む）を進学されましたか。

（　　）年（　　）月　（　　）大学（　　）研究科進学

A6. どのような選抜方法であなたは修士課程に進学されましたか。

１．一般選抜　２．社会人特別選抜　３．留学生特別選抜　４．その他（　　）

A7. あなたはいつ博士後期課程を進学されましたか。博士後期課程に進学されていない方は B1 からご回答ください。

（　　）年（　　）月　（　　）大学（　　）研究科進学

B　あなたの受けた大学院教育について

以下、B1 から B7 までは、貴殿が受けた大学院教育に対する評価をしていただきます。修士課程まで進学された方は、修士課程で受けた教育についてご回答ください。博士後期課程まで進学された方は、博士後期課程を含む大学院教育全体についてご回答ください。

B1. 多くの大学院の中から、進学された大学院を選ぶ際に重視したことは何でしたか。当てはまるものを全て選んで番号に○（以下、「複数選択」と省略）、その中で最も重要なもの１つに◎を付けてください。「その他」と回答した場合、（　　）内に具体的にご記入ください。

１．場所が便利だった　　２．教員が魅力的だった
３．同級生などとの人的交流が魅力的だった
４．講義が魅力的だった　　５．ゼミが魅力的だった　　６．有名な大学の大学院だった
７．学費が安かった　　８．設備が整っていた　９．開講の時間帯が合っていた
10．入試方法が合っていた　11．勤務先から指定されていた　12．自分が卒業した大学だった
13．卒業生からの情報や評判が高かった　14．そこしか受からなかった
15．その他（　　）

B2. 以下の項目は、あなたの大学院での学習状況にどの程度当てはまりますか？（複数選択）

１．座学形式の授業を熱心に受講した
２．ディスカッション形式の授業・ゼミで積極的に発言した
３．与えられたレポートや課題を着実にこなした
４．授業以外でも教員に対して、積極的に質問や意見交換を行った
５．教員に紹介された参考文献を進んで読んだ
６．予習・復習などのため、自分一人でしっかり学習した
７．予習・復習などのため、同級生などと一緒に学習した
８．学習以外でも、同級生などと積極的に交流した
９．ゼミや自主的な学内外の研究会に進んで参加した
10．大学院の図書館・コンピュータ端末などの施設を積極的に利用した

B3. あなたは大学院在籍中、課程に関連した授業外学習（予習・復習等）を１日平均何時間されましたか。学期中と休暇中で分けてご回答ください。

学期中（　　）時間　　休暇中（　　）時間

B4. 大学院での学習によって、以下の能力等はどの程度高まったと思いますか。各事項ごと当てはまるものを１つ選んで番号に○を付けてください（以下、「各事項１つずつ選択」と省略します）。

	とても高まった	高まった	どちらともいえない	あまり高まらなかった	高まらなかった
１．専門分野の理論的知識	1	2	3	4	5
２．専門分野の先端的な知識	1	2	3	4	5
３．専門分野の基礎的な知識	1	2	3	4	5
４．専門分野の方法論や研究方法	1	2	3	4	5
５．学際的な知識や方法論	1	2	3	4	5
６．論文作成能力	1	2	3	4	5
７．専門分野の研究能力	1	2	3	4	5
８．実務に必要な知識・スキル	1	2	3	4	5
９．実務に必要な問題解決能力	1	2	3	4	5
10．コミュニケーション能力	1	2	3	4	5
11．プレゼンテーション能力	1	2	3	4	5
12．幅広い教養的知識	1	2	3	4	5
13．ものごとを分析的・批判的に考える力	1	2	3	4	5
14．倫理観	1	2	3	4	5
15．社会人として必要な態度	1	2	3	4	5
16．豊かな人間性・感受性	1	2	3	4	5
17．人と協力しながら物事に取り組む力	1	2	3	4	5
18．目標に向かって人や集団をひっぱる力	1	2	3	4	5
19．国際的なビジネス感覚	1	2	3	4	5
20．語学能力（読む、書く、話す）	1	2	3	4	5

B5. 大学院入学時、大学院修了後にどのような職種を希望していましたか。主なものを２つまで選んでください。

１．大学教員　　２．民間企業・政府・地方自治体の研究開発職　　３．ポストドクター
４．民間企業等の職員　　５．官公庁等の行政職　　６．初等中等教育の教育職
７．特に考えていなかった　　６．その他（　　）

B6. 修了された大学院での学習等の各項目について、満足されましたか。（各事項１つずつ選択）

	非常に満足している ↓	満足している ↓	あまり満足していない ↓	満足していない ↓
１．教員の教育に対する意欲	1	2	3	4
２．教員の教育方法	1	2	3	4
３．教員による研究指導	1	2	3	4
４．専攻全体での研究指導体制	1	2	3	4
５．カリキュラムの内容	1	2	3	4
６．研究施設・設備	1	2	3	4
７．学習施設・設備	1	2	3	4
８．キャリアに関するセミナー・個別相談	1	2	3	4

B7. あなたは、将来の大学院のあり方について、以下の考え方をどのように思いますか。1～13 のそれぞれについて、あてはまる番号１つに○をつけてください。（各事項１つずつ選択）

	強くそう思う	そう思う	どちらともいえない	あまり思わない	全く思わない
1. 専攻分野を超えた授業をもっと充実する	1	2	3	4	5
2. 授業の充実は研究時間が保障されないおそれがある	1	2	3	4	5
3. 博士課程進学者に対し、授業を通じて獲得された基礎的な能力の試験を行う	1	2	3	4	5
4. 修士課程修了単位（30 単位以上）を少なくする	1	2	3	4	5
5. 院生による授業評価を導入する	1	2	3	4	5
6. カリキュラムをもっと体系化・標準化する	1	2	3	4	5
7. キャリア開発・就職指導を重視する	1	2	3	4	5
8. 主専攻以外に副専攻を導入する	1	2	3	4	5
9. 大学院教育の情報を企業や地域社会に公開する	1	2	3	4	5
10. ＤＣ、ＰＤの採用枠をもっと拡大する	1	2	3	4	5
11. 院生への経済的支援をもっと競争的にする	1	2	3	4	5
12. 大学院進学者をもっと増やすべき	1	2	3	4	5
13. 学位取得のプロセスをもっと円滑にすべき	1	2	3	4	5

B8. 大学院修了後、大学の教員や企業等の研究職以外の職につくことについて、以下の意見の中からあなたの意見に最も近いものを１つ選んでください。（１つ選択）

１．修士課程・博士前期課程修了者が増えれば、大学の教員や企業等の研究職以外の職に就職する者が増えることは当然または望ましいことである。
２．大学教員や企業等の研究職のポストが限られているので、大学の教員や企業等の研究職以外の職に就職する者が増えることはやむを得ない。
３．大学教員や企業等の研究職のポストを増やすべきであり、大学の教員や企業等の研究職以外の職に就職する者が増えることは望ましくない。
４．その他（　　）

➔ B8 に回答いただいた後は、C3 からご回答ください

C　今後の大学院進学について

C1. 学部卒業時、あなたは修士課程への進学を考えましたか？（１つ選択）

１．進学を考えた　　２．進学は考えなかった　　３．その他（　　）
↓　　↓　　↓
「１」を選択された方は C2 に進んでください　　**「２」またじゃ「３」を選択された方は C3 に進んでください**

C2. なぜ修士課程へ進学されなかったのですか？（複数選択）

１．大学院入試で不合格になったので　　２．大学での成績が良くなかったので
３．大学院進学にメリットが感じられなかったので　　４．回りの者に就職を勧められたので
５．就職の方がメリットがあると思ったから　　６．お金に余裕がなかったので
７．研究（勉強）したいことがなかったから　　８．希望の職場に就職が内定していたので
９．先輩や同級生で大学院進学する者が少なかったので　　10．大学院の情報が少なかったので
11．生活に満足していたので　　12．時間に余裕がなかったから
13．その他（　　）

C3. 現在、あなたは大学院への入学を考えていますか？（１つ選択）

１．条件が合えば修士課程に入学したい　→ C4 からご回答ください
２．条件が合えば博士後期課程に入学したい　→ C4 からご回答ください
３．考えていない　　４．その他（　　）　→ C12 からご回答ください

C4. 大学院に入学希望の理由として以下の事項の内あてはまるもの<u>全てに○</u>を付けてください。なお、<u>最も重要な理由に◎</u>を付けてください。

１．現在の仕事に関して、より専門的な知識や技術を身につけるため
２．仕事に必要な基礎的なスキル（コミュニケーション能力や問題解決能力など）を身につけるため
３．現在在職している会社での処遇の向上（昇進・昇給）のため
４．これまでの仕事経験を理論的に整理するため
５．教員や同級生などと交流し、人的ネットワークを充実させるため
６．仕事に関係なく、興味・関心のある分野の勉強がしたいから
７．論理的にものごとを考える力を高めるため
８．転職や独立開業のため、知識と技能を身に付けたい
９．研究職に就くため
10．大学院修了という学歴が欲しいから
11．生活に刺激が欲しいから
12．キャリアを変えるため
13．大学の教員から誘われたので
14．時間に余裕ができたから
15．その他（　　）

C5. どのような進学形態を望みますか。（複数選択）

１．通信制　　２．夜間部　　３．昼夜開講制　　４．昼間部　　５．まだわからない
７．その他（　　）

C6. 大学院に入学する際、現在の職場とどのような関係で入学したいですか？（１つ選択）

１．そのまま勤めながら進学する　　２．退職してから進学する　　３．休職して進学する
４．転職して進学する　　５．わからない　　６．その他（　　）

C7. 大学院で学びたい内容は以下のどの分野が一番近いですか？（１つ選択）

１．人文科学系　　２．社会科学系　　３．理学系　　４．工学系　　５．農学系
６．医歯薬系　　７．保健科学系　　８．福祉系　　９．教育系　　10．その他（　　）

C8. 進学したい大学院は決まっていますか？（１つ選択）

１．決まっている（既に候補が１つに絞られている）
→　もしよろしければ大学・研究科名を教えてください
（　　）大学（　　）研究科
２．複数候補があるが、１つには絞れていない
３．まだ決まっていない（候補もあがっていない）
４．その他（　　）

C9. 大学院を選ぶ基準は？（複数選択）

１．学びたい授業（学部、学科）がある
２．社会人が授業を受けやすいカリキュラムを実施している
３．通学しやすい立地条件　４．学びたい分野で定評がある　５．取得できる資格がある
６．学びたい先生がいる　７．授業料　８．研究施設や設備が充実している
９．自分の母校である　10．有名な大学である　11．受験科目
12．その他（　　）

C10. あなたは、大学院に進学するにあたって不安がありますか。（１つ選択）

１．ある　　２．ない

C11. それはどのような不安ですか。（複数選択）

１．学費の負担　　２．学校に行く時間を確保できるかどうか
３．家での勉強時間を確保できるかどうか
４．会社が進学に対して理解を示してくれるかどうか
５．勉強についていけるかどうか　　６．卒業できるかどうか
７．家族が進学に対して理解を示してくれるかどうか
８．その他（　　）

C12. あなたは、大学院教育での学習によって、以下の能力や技術の習得をどの程度期待しますか？（各事項１つずつ選択）

	とても期待する	期待する	どちらともいえない	期待しない	まったく期待しない
１．専門分野の理論的知識	1	2	3	4	5
２．専門分野の先端的な知識	1	2	3	4	5
３．専門分野の基礎的な知識	1	2	3	4	5
４．専門分野の方法論や研究方法	1	2	3	4	5
５．学際的な知識や方法論	1	2	3	4	5
６．論文作成能力	1	2	3	4	5
７．専門分野の研究能力	1	2	3	4	5
８．実務に必要な知識・スキル	1	2	3	4	5
９．実務に必要な問題解決能力	1	2	3	4	5

⇨ 続き

	とても期待する	期待する	どちらともいえない	期待しない	まったく期待しない
10. コミュニケーション能力	1	2	3	4	5
11. プレゼンテーション能力	1	2	3	4	5
12. 幅広い教養的知識	1	2	3	4	5
13. ものごとを分析的・批判的に考える力	1	2	3	4	5
14. 倫理観	1	2	3	4	5
15. 社会人として必要な態度	1	2	3	4	5
16. 豊かな人間性・感受性	1	2	3	4	5
17. 人と協力しながら物事に取り組む力	1	2	3	4	5
18. 目標に向かって人や集団をひっぱる力	1	2	3	4	5
19. 国際的なビジネス感覚	1	2	3	4	5
20. 語学能力（読む、書く、話す）	1	2	3	4	5

D．ご自身について

D1. あなたの性別（１つ選択）　　1．男　　2．女

D2. あなたの誕生年　　（　　）年

D3. あなたは以下のどれに該当しますか。（１つ選択）

１．結婚している・パートナーがいる
２．独身である==> D 6. から回答して下さい
３．その他（具体的に記述して下さい：　）

D4. あなたの配偶者（ﾊﾟｰﾄﾅｰ）は、お仕事をお持ちですか。（1つ選択）

１．はい、常勤職（ﾌﾙﾀｲﾑ）である　２．はい、非常勤職（ﾊﾟｰﾄﾀｲﾑ）である　３．いいえ

D5. あなたには同居するお子さんがいらっしゃいますか。（１つ選択）

１．いません　　２．１人います　　３．２人います　　４．３人以上います

D6. 現在の職場の職種は何ですか。（１つ選択）

１．大学教員　　２．民間企業・政府・地方自治体の研究開発職
３．民間企業等の職員　　４．官公庁等の行政職　　５．初等中等教育の教育職
６．その他（　　）

D7. あなたが現在の職に就こうと思ったのはいつの時点ですか。（１つ選択）

１．大学（学部）入学前　２．大学（学部）入学後卒業時まで
３．大学院在学中　　４．大学院修了後　　５．その他（　　）

D8. あなたは現在の仕事に、全体としてどの程度満足していますか。（１つ選択）

１．とても満足している　　２．満足している　　３．どちらともいえない
４．不満である　　５．とても不満である

D9. あなたは現在の仕事（分野）において、どの段階まで達していると、上司や顧客から思われていますか。下記の段階のうち、最も近いと思われるものをお選びください。（１つ選択）

１．第１段階（仕事の基本ややり方を習得しつつある段階）
２．第２段階（ひとり立ちしている段階）
３．第３段階（常に、期待以上の成果をあげ続けている段階）
４．第４段階（自分ならではの知識や技術、やり方が高く評価されている段階）
５．第５段階（その道をきわめ、第一人者として社会的に広く認められている段階）

D10. あなたはこれからどのような働き方をしたいと考えていますか。（１つ選択）

１．現在の職場で働き続けて、高い役職に就きたい
２．現在の職場で働き続けて、専門性を高めたい
３．別の企業・組織に転職し、高い役職を目指したい
４．別の企業・組織に転職し、専門性を高めたい
５．自分でビジネスを営みたい
６．大学や学術研究機関等の研究者になりたい
７．その他（　　）

職業を経験した立場から、わが国の大学・大学院教育のあり方についてご意見がございましたら以下にご自由に記入して下さい。

本調査結果をふまえて、大学院教育に関する職業人へのインタビューを考えております。もしインタビューにご協力いただける場合にはメールで連絡した上で日時を調整して訪問させていただきたいと思います。インタビューに対応して頂ける可能性のある方は以下にメールアドレスをご記入いただければ幸いです。

（　　@　　）

最後まで回答にご協力いただきまして感謝申し上げます。

資料２ データ集計結果

B1. 進学された大学院を選ぶ際に重視したことは何でしたか

	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
			n. s.				n. s.					n. s.			n. s.		n. s.
1. 場所が便利だった	86	74	12	25	26	22	10	4	15	40	17	7	0	79	7	77	8
	31.3%	32.6%	26.1%	41.0%	24.5%	29.7%	34.5%	50.0%	31.9%	32.0%	29.3%	36.8%	0.0%	32.4%	33.3%	33.6%	26.7%
			n. s.				n. s.					*			n. s.		n. s.
2. 教員が魅力的だった	92	79	12	17	41	20	12	6	18	36	25	3	0	83	9	83	9
	33.5%	34.8%	26.1%	27.9%	38.7%	27.0%	41.4%	75.0%	38.3%	28.8%	43.1%	15.8%	0.0%	34.0%	42.9%	36.2%	30.0%
			n. s.				n. s.					n. s.			n. s.		n. s.
3. 同級生などとの人的交流が魅力的だった	42	38	4	7	17	11	7	1	6	23	10	1	0	40	2	35	7
	15.3%	16.7%	8.7%	11.5%	16.0%	14.9%	24.1%	12.5%	12.8%	18.4%	17.2%	5.3%	0.0%	16.4%	9.5%	15.3%	23.3%
			n. s.				n. s.					***			n. s.		*
4. 講義が魅力的だった	31	23	7	8	11	4	6	2	15	6	7	0	0	29	2	23	8
	11.3%	10.1%	15.2%	13.1%	10.4%	5.4%	20.7%	25.0%	31.9%	4.8%	12.1%	0.0%	0.0%	11.9%	9.5%	10.0%	26.7%
			n. s.				n. s.					n. s.			n. s.		n. s.
5. ゼミが魅力的だった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
			n. s.				n. s.					n. s.			n. s.		n. s.
6. 有名な大学の大学院だった	31	25	6	11	10	7	3	1	10	12	6	2	0	27	4	26	5
	11.3%	11.0%	13.0%	18.0%	9.4%	9.5%	10.3%	12.5%	21.3%	9.6%	10.3%	10.5%	0.0%	11.1%	19.0%	11.4%	16.7%
			n. s.				*					n. s.			n. s.		n. s.
7. 学費が安かった	45	39	6	17	12	9	7	2	9	16	11	5	0	40	4	39	5
	16.4%	17.2%	13.0%	27.9%	11.3%	12.2%	24.1%	25.0%	19.1%	12.8%	19.0%	26.3%	0.0%	16.4%	19.0%	17.0%	16.7%
			n. s.				n. s.					n. s.			n. s.		n. s.
8. 設備が整っていた	19	16	3	5	7	3	4	2	2	9	5	1	0	18	1	18	1
	6.9%	7.0%	6.5%	8.2%	6.6%	4.1%	13.8%	25.0%	4.3%	7.2%	8.6%	5.3%	0.0%	7.4%	4.8%	7.9%	3.3%
			n. s.				*					n. s.			n. s.		***
9. 開講の時間帯が合っていた	5	3	2	0	0	3	2	0	3	1	0	0	0	5	0	0	5
	1.8%	1.3%	4.3%	0.0%	0.0%	4.1%	6.9%	0.0%	6.4%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	0.0%	16.7%
			n. s.				n. s.					**			n. s.		n. s.
10. 入試方法が合っていた	23	18	4	8	6	7	1	0	8	4	9	1	0	22	1	20	3
	8.4%	7.9%	8.7%	13.1%	5.7%	9.5%	3.4%	0.0%	17.0%	3.2%	15.5%	5.3%	0.0%	9.0%	4.8%	8.7%	10.0%
			n. s.				*					**			n. s.		***
11. 勤務先から指定されていた	14	12	2	0	7	7	0	1	7	5	0	0	0	13	1	0	14
	5.1%	5.3%	4.3%	0.0%	6.6%	9.5%	0.0%	12.5%	14.9%	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%	4.8%	0.0%	46.7%
			n. s.				n. s.					***			**		***
12. 自分が卒業した大学だった	187	157	28	41	70	52	19	4	15	102	44	14	0	175	11	182	3
	68.0%	69.2%	60.9%	67.2%	66.0%	70.3%	65.5%	50.0%	31.9%	81.6%	75.9%	73.7%	0.0%	71.7%	52.4%	79.5%	10.0%
			n. s.				n. s.					**			n. s.		n. s.
13. 卒業生からの情報や評判が高かった	8	6	2	2	5	0	1	0	5	1	1	0	0	8	0	6	2
	2.9%	2.6%	4.3%	3.3%	4.7%	0.0%	3.4%	0.0%	10.6%	0.8%	1.7%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%	2.6%	6.7%
			n. s.				n. s.					n. s.			n. s.		n. s.
14. そこしか受からなかった	12	12	0	4	7	1	0	0	3	8	1	0	0	12	0	11	0
	4.4%	5.3%	0.0%	6.6%	6.6%	1.4%	0.0%	0.0%	6.4%	6.4%	1.7%	0.0%	0.0%	4.9%	0.0%	4.8%	0.0%

注） 表の数字は大学院を選択する際に重視したと回答した人数

	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
			n. s.				n. s.						n. s.
1. 場所が便利だった	34 35.1%	31 28.4%	18 31.0%	19 32.8%	41 29.3%	19 40.4%	4 21.1%	33 36.3%	9 21.4%	16 35.6%	16 29.1%	3 27.3%	9 29.0%
			n. s.				n. s.						**
2. 教員が魅力的だった	26 26.8%	42 38.5%	21 36.2%	16 27.6%	54 38.6%	14 29.8%	4 21.1%	39 42.9%	19 45.2%	10 22.2%	18 32.7%	2 18.2%	4 12.9%
			n. s.				n. s.						n. s.
3. 同級生などとの人的交流が魅力的だった	10 10.3%	21 19.3%	8 13.8%	9 15.5%	24 17.1%	5 10.6%	2 10.5%	17 18.7%	6 14.3%	7 15.6%	6 10.9%	2 18.2%	4 12.9%
			n. s.				n. s.						n. s.
4. 講義が魅力的だった	12 12.4%	12 11.0%	5 8.6%	8 13.8%	13 9.3%	6 12.8%	2 10.5%	14 15.4%	3 7.1%	8 17.8%	4 7.3%	0 0.0%	2 6.5%
			n. s.				n. s.						n. s.
5. ゼミが魅力的だった	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
			n. s.				n. s.						n. s.
6. 有名な大学の大学院だった	11 11.3%	10 9.2%	10 17.2%	12 20.7%	15 10.7%	3 6.4%	1 5.3%	17 18.7%	4 9.5%	2 4.4%	4 7.3%	1 9.1%	3 9.7%
			n. s.				n. s.						n. s.
7. 学費が安かった	16 16.5%	18 16.5%	10 17.2%	9 15.5%	21 15.0%	12 25.5%	2 10.5%	18 19.8%	10 23.8%	3 6.7%	9 16.4%	2 18.2%	3 9.7%
			n. s.				n. s.						n. s.
8. 設備が整っていた	7 7.2%	7 6.4%	4 6.9%	5 8.6%	10 7.1%	2 4.3%	2 10.5%	7 7.7%	5 11.9%	2 4.4%	0 0.0%	1 9.1%	4 12.9%
			n. s.				n. s.						n. s.
9. 開講の時間帯が合っていた	0 0.0%	3 2.8%	2 3.4%	0 0.0%	2 1.4%	3 6.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 5.5%	1 9.1%	1 3.2%
			n. s.				n. s.						*
10. 入試方法が合っていた	11 11.3%	9 8.3%	2 3.4%	4 6.9%	15 10.7%	2 4.3%	1 5.3%	12 13.2%	0 0.0%	6 13.3%	3 5.5%	2 18.2%	0 0.0%
			n. s.				n. s.						n. s.
11. 勤務先から指定されていた	3 3.1%	5 4.6%	6 10.3%	2 3.4%	7 5.0%	3 6.4%	2 10.5%	5 5.5%	0 0.0%	3 6.7%	4 7.3%	1 9.1%	1 3.2%
			n. s.				n. s.						*
12. 自分が卒業した大学だった	68 70.1%	73 67.0%	38 65.5%	43 74.1%	95 67.9%	30 63.8%	12 63.2%	67 73.6%	34 81.0%	33 73.3%	30 54.5%	6 54.5%	17 54.8%
			n. s.				n. s.						n. s.
13. 卒業生からの情報や評判が高かった	4 4.1%	4 3.7%	0 0.0%	2 3.4%	5 3.6%	1 2.1%	0 0.0%	4 4.4%	1 2.4%	0 0.0%	2 3.6%	0 0.0%	1 3.2%
			n. s.				n. s.						n. s.
14. そこしか受からなかった	7 7.2%	4 3.7%	1 1.7%	2 3.4%	6 4.3%	2 4.3%	2 10.5%	1 1.1%	3 7.1%	4 8.9%	1 1.8%	0 0.0%	3 9.7%

注） 表の数字は大学院を選択する際に重視したと回答した人数

B2. 以下の項目は、あなたの大学院での学習状況にどの程度当てはまりますか？

	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
		n. s.				n. s.						n. s.			n. s.		*
1. 座学形式の授業を熱心に受講した	110 40.0%	91 40.1%	17 37.0%	25 41.0%	43 40.6%	26 35.1%	13 44.8%	3 37.5%	26 55.3%	53 42.4%	19 32.8%	4 21.1%	0 0.0%	99 40.6%	10 47.6%	89 38.9%	18 60.0%
		n. s.				n. s.						*			n. s.		n. s.
2. ディスカッション形式の授業・ゼミで積極的に発言した	107 38.9%	89 39.2%	17 37.0%	28 45.9%	34 32.1%	27 36.5%	16 55.2%	6 75.0%	25 53.2%	41 32.8%	23 39.7%	5 26.3%	0 0.0%	95 38.9%	12 57.1%	90 39.3%	15 50.0%
		n. s.				n. s.						n. s.			*		n. s.
3. 与えられたレポートや課題を着実にこなした	156 56.7%	124 54.6%	30 65.2%	31 50.8%	62 58.5%	43 58.1%	17 58.6%	6 75.0%	34 72.3%	69 55.2%	32 55.2%	12 63.2%	0 0.0%	146 59.8%	9 42.9%	131 57.2%	22 73.3%
		n. s.				n. s.						n. s.			*		n. s.
4. 授業以外でも教員に対して、積極的に質問や意見交換を行った	92 33.5%	76 33.5%	15 32.6%	15 24.6%	43 40.6%	25 33.8%	7 24.1%	5 62.5%	19 40.4%	36 28.8%	20 34.5%	5 26.3%	0 0.0%	80 32.8%	12 57.1%	78 34.1%	13 43.3%
		n. s.				n. s.						n. s.			n. s.		n. s.
5. 教員に紹介された参考文献を進んで読んだ	94 34.2%	80 35.2%	12 26.1%	22 36.1%	34 32.1%	26 35.1%	8 27.6%	3 37.5%	18 38.3%	36 28.8%	26 44.8%	5 26.3%	0 0.0%	84 34.4%	9 42.9%	79 34.5%	13 43.3%
		n. s.				n. s.						***			n. s.		**
6. 予習・復習などのため、自分一人でしっかり学習した	68 24.7%	54 23.8%	12 26.1%	16 26.2%	31 29.2%	14 18.9%	4 13.8%	2 25.0%	23 48.9%	24 19.2%	12 20.7%	3 15.8%	0 0.0%	63 25.8%	5 23.8%	52 22.7%	14 46.7%
		n. s.				***						***			n. s.		n. s.
7. 予習・復習などのため、同級生などと一緒に学習した	57 20.7%	46 20.3%	10 21.7%	19 31.1%	27 25.5%	4 5.4%	4 13.8%	1 12.5%	17 36.2%	31 24.8%	5 8.6%	0 0.0%	0 0.0%	53 21.7%	4 19.0%	48 21.0%	7 23.3%
		n. s.				n. s.						n. s.			n. s.		n. s.
8. 学習以外でも、同級生などと積極的に交流した	116 42.2%	97 42.7%	18 39.1%	27 44.3%	48 45.3%	27 36.5%	11 37.9%	3 37.5%	20 42.6%	57 45.6%	23 39.7%	10 52.6%	0 0.0%	109 44.7%	7 33.3%	101 44.1%	14 46.7%
		n. s.				*						n. s.			n. s.		n. s.
9. ゼミや自主的な学内外の研究会に進んで参加した	73 26.5%	61 26.9%	12 26.1%	20 32.8%	34 32.1%	12 16.2%	5 17.2%	3 37.5%	12 25.5%	34 27.2%	17 29.3%	3 15.8%	0 0.0%	65 26.6%	8 38.1%	67 29.3%	6 20.0%
		n. s.				*						n. s.			n. s.		n. s.
10. 大学院の図書館・コンピュータ端末などの施設を積極的に利用した	106 38.5%	83 36.6%	22 47.8%	28 45.9%	47 44.3%	26 35.1%	4 13.8%	5 62.5%	25 53.2%	41 32.8%	24 41.4%	7 36.8%	0 0.0%	94 38.5%	11 52.4%	90 39.3%	15 50.0%

注） 表中の数値は「当てはまる」と回答した人数、比率は「当てはまる」と回答した比率

	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
			n. s.				n. s.						n. s.
1. 座学形式の授業を熱心に受講した	37 38.1%	45 41.3%	25 43.1%	25 43.1%	62 44.3%	12 25.5%	7 36.8%	41 45.1%	14 33.3%	19 42.2%	19 34.5%	7 63.6%	10 32.3%
			n. s.				n. s.						n. s.
2. ディスカッション形式の授業・ゼミで積極的に発言した	37 38.1%	38 34.9%	28 48.3%	24 41.4%	53 37.9%	19 40.4%	7 36.8%	41 45.1%	21 50.0%	18 40.0%	16 29.1%	3 27.3%	8 25.8%
			n. s.				n. s.						n. s.
3. 与えられたレポートや課題を着実にこなした	51 52.6%	67 61.5%	33 56.9%	38 65.5%	80 57.1%	21 44.7%	11 57.9%	48 52.7%	23 54.8%	30 66.7%	29 52.7%	10 90.9%	16 51.6%
			n. s.				n. s.						n. s.
4. 授業以外でも教員に対して、積極的に質問や意見交換を行った	29 29.9%	39 35.8%	21 36.2%	17 29.3%	55 39.3%	15 31.9%	3 15.8%	32 35.2%	17 40.5%	17 37.8%	17 30.9%	3 27.3%	6 19.4%
			n. s.				n. s.						n. s.
5. 教員に紹介された参考文献を進んで読んだ	36 37.1%	37 33.9%	17 29.3%	23 39.7%	44 31.4%	18 38.3%	7 36.8%	35 38.5%	14 33.3%	20 44.4%	15 27.3%	1 9.1%	9 29.0%
			n. s.				n. s.						n. s.
6. 予習・復習などのため、自分一人でしっかり学習した	26 26.8%	27 24.8%	12 20.7%	16 27.6%	33 23.6%	14 29.8%	3 15.8%	25 27.5%	8 19.0%	17 37.8%	7 12.7%	2 18.2%	9 29.0%
			n. s.				n. s.						n. s.
7. 予習・復習などのため、同級生などと一緒に学習した	25 25.8%	21 19.3%	10 17.2%	13 22.4%	30 21.4%	8 17.0%	5 26.3%	16 17.6%	11 26.2%	14 31.1%	8 14.5%	0 0.0%	8 25.8%
			n. s.				n. s.						n. s.
8. 学習以外でも、同級生などと積極的に交流した	37 38.1%	52 47.7%	23 39.7%	27 46.6%	63 45.0%	13 27.7%	10 52.6%	43 47.3%	15 35.7%	24 53.3%	20 36.4%	3 27.3%	11 35.5%
			n. s.				n. s.						**
9. ゼミや自主的な学内外の研究会に進んで参加した	29 29.9%	28 25.7%	12 20.7%	20 34.5%	39 27.9%	8 17.0%	4 21.1%	28 30.8%	17 40.5%	15 33.3%	8 14.5%	2 18.2%	3 9.7%
			n. s.				n. s.						n. s.
10. 大学院の図書館・コンピュータ端末などの施設を積極的に利用	45 46.4%	41 37.6%	19 32.8%	21 36.2%	60 42.9%	15 31.9%	8 42.1%	33 36.3%	24 57.1%	19 42.2%	17 30.9%	5 45.5%	8 25.8%

注） 表中の数値は「当てはまる」と回答した人数、比率は「当てはまる」と回答した比率

B3. あなたは大学院在籍中、課程に関連した授業外学習（予習・復習等）を１日平均何時間されましたか。学期中と休暇中で分けてご回答ください。

	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
			n. s.				n. s.					n. s.			n. s.		n. s.
学期中	3.5	3.6	3.1	3.5	4.0	2.9	3.2	3.4	4.3	3.4	3.3	2.3	－	3.5	3.6	3.5	3.6
			n. s.				n. s.					***			n. s.		n. s.
休暇中	3.5	3.6	2.9	3.4	3.8	3.3	3.5	1.8	5.6	3.4	2.7	2.0	－	3.5	3.7	3.4	3.8

	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
			n. s.				n. s.						n. s.
学期中	3.4	3.6	3.6	3.6	3.6	3.3	3.1	3.5	3.5	4.2	3.1	3.0	3.2
			n. s.				n. s.						n. s.
休暇中	3.0	3.6	4.1	3.5	3.5	3.7	2.9	3.5	3.6	4.2	3.6	2.9	2.9

注）　表中の数値は平均時間

B4. 大学院での学習によって、以下の能力等はどの程度高まったと思いますか。

1. 専門分野の理論的知識

	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
		n. s.		n. s.				n. s.									n. s.
とても高まった	68	56	12	15	28	15	9	2	14	28	15	4	-	58	10	59	9
	26.0%	25.6%	29.3%	26.8%	27.2%	21.4%	32.1%	25.0%	31.8%	23.0%	25.9%	22.2%		24.0%	52.6%	25.9%	30.0%
高まった	163	141	21	32	67	46	16	4	24	82	37	11	-	153	9	143	17
	62.2%	64.4%	51.2%	57.1%	65.0%	65.7%	57.1%	50.0%	54.5%	67.2%	63.8%	61.1%		63.2%	47.4%	62.7%	56.7%
どちらともいえない	22	14	7	5	6	7	2	2	5	10	2	2	-	22	0	17	4
	8.4%	6.4%	17.1%	8.9%	5.8%	10.0%	7.1%	25.0%	11.4%	8.2%	3.4%	11.1%		9.1%	0.0%	7.5%	13.3%
あまり高まらなかった	6	5	1	3	1	1	1	0	1	1	2	1	-	6	0	6	0
	2.3%	2.3%	2.4%	5.4%	1.0%	1.4%	3.6%	0.0%	2.3%	0.8%	3.4%	5.6%		2.5%	0.0%	2.6%	0.0%
高まらなかった	3	3	0	1	1	1	0	0	0	1	2	0	-	3	0	3	0
	1.1%	1.4%	0.0%	1.8%	1.0%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	3.4%	0.0%		1.2%	0.0%	1.3%	0.0%

	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
	n. s.			n. s.				n. s.					
とても高まった	22	26	18	17	37	8	5	22	13	13	13	1	6
	23.9%	24.5%	32.7%	29.3%	27.2%	19.0%	27.8%	24.7%	31.0%	29.5%	26.0%	9.1%	23.1%
高まった	58	67	33	33	87	28	9	56	25	26	31	9	16
	63.0%	63.2%	60.0%	56.9%	64.0%	66.7%	50.0%	62.9%	59.5%	59.1%	62.0%	81.8%	61.5%
どちらともいえない	7	10	3	6	9	4	2	8	3	4	4	1	2
	7.6%	9.4%	5.5%	10.3%	6.6%	9.5%	11.1%	9.0%	7.1%	9.1%	8.0%	9.1%	7.7%
あまり高まらなかった	4	1	1	1	2	1	2	2	1	1	1	0	1
	4.3%	0.9%	1.8%	1.7%	1.5%	2.4%	11.1%	2.2%	2.4%	2.3%	2.0%	0.0%	3.8%
高まらなかった	1	2	0	1	1	1	0	1	0	0	1	0	1
	1.1%	1.9%	0.0%	1.7%	0.7%	2.4%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	3.8%

2. 専門分野の先端的な知識

		*		n. s.				n. s.								*	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
とても高まった	66 25.4%	56 25.7%	10 24.4%	10 18.2%	29 28.2%	18 25.7%	7 25.0%	3 37.5%	12 27.9%	29 24.0%	14 24.1%	3 16.7%	－	57 23.8%	9 47.4%	58 25.7%	8 26.7%
高まった	130 50.0%	112 51.4%	17 41.5%	31 56.4%	47 45.6%	34 48.6%	17 60.7%	2 25.0%	16 37.2%	65 53.7%	32 55.2%	10 55.6%	－	123 51.3%	6 31.6%	116 51.3%	11 36.7%
どちらともいえない	48 18.5%	34 15.6%	14 34.1%	7 12.7%	24 23.3%	14 20.0%	2 7.1%	3 37.5%	13 30.2%	18 14.9%	10 17.2%	3 16.7%	－	45 18.8%	3 15.8%	36 15.9%	11 36.7%
あまり高まらなかった	10 3.8%	10 4.6%	0 0.0%	5 9.1%	2 1.9%	1 1.4%	2 7.1%	0 0.0%	2 4.7%	7 5.8%	0 0.0%	1 5.6%	－	9 3.8%	1 5.3%	10 4.4%	0 0.0%
高まらなかった	6 2.3%	6 2.8%	0 0.0%	2 3.6%	1 1.0%	3 4.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 1.7%	2 3.4%	1 5.6%	－	6 2.5%	0 0.0%	6 2.7%	0 0.0%

	n. s.			n. s.				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
とても高まった	20 21.7%	25 23.8%	17 30.9%	17 29.3%	35 25.9%	7 16.7%	5 27.8%	19 21.3%	13 31.7%	16 37.2%	10 20.0%	2 18.2%	6 23.1%
高まった	44 47.8%	55 52.4%	28 50.9%	25 43.1%	70 51.9%	24 57.1%	6 33.3%	46 51.7%	20 48.8%	17 39.5%	24 48.0%	8 72.7%	15 57.7%
どちらともいえない	20 21.7%	21 20.0%	6 10.9%	12 20.7%	26 19.3%	6 14.3%	4 22.2%	19 21.3%	6 14.6%	7 16.3%	13 26.0%	1 9.1%	2 7.7%
あまり高まらなかった	4 4.3%	3 2.9%	3 5.5%	2 3.4%	4 3.0%	2 4.8%	2 11.1%	4 4.5%	1 2.4%	1 2.3%	2 4.0%	0 0.0%	2 7.7%
高まらなかった	4 4.3%	1 1.0%	1 1.8%	2 3.4%	0 0.0%	3 7.1%	1 5.6%	1 1.1%	1 2.4%	2 4.7%	1 2.0%	0 0.0%	1 3.8%

3. 専門分野の基礎的な知識

		n. s.		n. s.				n. s.					n. s.			n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
とても高まった	71 27.1%	59 26.9%	12 29.3%	12 21.4%	38 36.9%	11 15.7%	9 32.1%	3 37.5%	14 31.8%	31 25.4%	18 31.0%	0 0.0%	－	61 25.2%	10 52.6%	61 26.8%	9 30.0%
高まった	153 58.4%	128 58.4%	23 56.1%	31 55.4%	54 52.4%	47 67.1%	17 60.7%	4 50.0%	23 52.3%	73 59.8%	34 58.6%	14 77.8%	－	143 59.1%	9 47.4%	135 59.2%	16 53.3%
どちらともいえない	29 11.1%	24 11.0%	5 12.2%	9 16.1%	10 9.7%	9 12.9%	1 3.6%	1 12.5%	7 15.9%	14 11.5%	4 6.9%	2 11.1%	－	29 12.0%	0 0.0%	23 10.1%	5 16.7%
あまり高まらなかった	8 3.1%	7 3.2%	1 2.4%	4 7.1%	0 0.0%	3 4.3%	1 3.6%	0 0.0%	0 0.0%	4 3.3%	1 1.7%	2 11.1%	－	8 3.3%	0 0.0%	8 3.5%	0 0.0%
高まらなかった	1 0.4%	1 0.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.7%	0 0.0%	－	1 0.4%	0 0.0%	1 0.4%	0 0.0%

	n. s.			n. s.				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
とても高まった	19 20.7%	30 28.3%	19 34.5%	17 29.3%	37 27.2%	10 23.8%	5 27.8%	26 29.2%	9 21.4%	12 27.3%	14 28.0%	3 27.3%	7 26.9%
高まった	55 59.8%	65 61.3%	27 49.1%	31 53.4%	83 61.0%	27 64.3%	7 38.9%	54 60.7%	23 54.8%	23 52.3%	32 64.0%	6 54.5%	15 57.7%
どちらともいえない	14 15.2%	8 7.5%	7 12.7%	7 12.1%	13 9.6%	3 7.1%	5 27.8%	6 6.7%	8 19.0%	7 15.9%	3 6.0%	1 9.1%	4 15.4%
あまり高まらなかった	4 4.3%	2 1.9%	2 3.6%	3 5.2%	2 1.5%	2 4.8%	1 5.6%	2 2.2%	2 4.8%	2 4.5%	1 2.0%	1 9.1%	0 0.0%
高まらなかった	0 0.0%	1 0.9%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

4. 専門分野の方法論や研究方法

		n. s.		n. s.				n. s.					***			n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
とても高まった	67	55	12	12	33	14	6	3	5	30	17	5	-	58	9	62	5
	25.8%	25.1%	30.8%	21.8%	32.4%	20.0%	21.4%	42.9%	11.6%	24.6%	29.3%	27.8%		24.2%	47.4%	27.4%	16.7%
高まった	141	121	19	31	46	45	17	3	21	74	31	10	-	134	6	119	19
	54.2%	55.3%	48.7%	56.4%	45.1%	64.3%	60.7%	42.9%	48.8%	60.7%	53.4%	55.6%		55.8%	31.6%	52.7%	63.3%
どちらともいえない	46	37	8	10	20	10	5	1	15	16	10	2	-	43	3	39	6
	17.7%	16.9%	20.5%	18.2%	19.6%	14.3%	17.9%	14.3%	34.9%	13.1%	17.2%	11.1%		17.9%	15.8%	17.3%	20.0%
あまり高まらなかった	5	5	0	2	2	1	0	0	1	2	0	1	-	5	0	5	0
	1.9%	2.3%	0.0%	3.6%	2.0%	1.4%	0.0%	0.0%	2.3%	1.6%	0.0%	5.6%		2.1%	0.0%	2.2%	0.0%
高まらなかった	1	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	-	0	1	1	0
	0.4%	0.5%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%	5.3%	0.4%	0.0%

	n. s.			n. s.				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
とても高まった	21	28	15	15	31	13	4	22	13	13	11	1	7
	23.1%	26.4%	27.3%	25.9%	23.0%	31.0%	22.2%	25.0%	31.0%	29.5%	22.0%	9.1%	28.0%
高まった	49	57	31	31	78	22	8	48	24	22	26	7	14
	53.8%	53.8%	56.4%	53.4%	57.8%	52.4%	44.4%	54.5%	57.1%	50.0%	52.0%	63.6%	56.0%
どちらともいえない	18	19	8	11	24	5	5	17	3	6	13	3	4
	19.8%	17.9%	14.5%	19.0%	17.8%	11.9%	27.8%	19.3%	7.1%	13.6%	26.0%	27.3%	16.0%
あまり高まらなかった	3	1	1	1	1	2	1	1	2	2	0	0	0
	3.3%	0.9%	1.8%	1.7%	0.7%	4.8%	5.6%	1.1%	4.8%	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%
高まらなかった	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%

5. 学際的な知識や方法論

		n. s.		n. s.				n. s.					n. s.			n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
とても高まった	26 10.0%	21 9.6%	5 12.5%	7 12.5%	10 9.8%	6 8.7%	2 7.1%	1 12.5%	6 14.0%	11 9.1%	3 5.2%	2 11.1%	－	22 9.2%	4 21.1%	23 10.2%	3 10.0%
高まった	123 47.3%	101 46.3%	21 52.5%	26 46.4%	45 44.1%	34 49.3%	16 57.1%	2 25.0%	17 39.5%	57 47.1%	35 60.3%	7 38.9%	－	115 47.9%	7 36.8%	107 47.3%	13 43.3%
どちらともいえない	89 34.2%	76 34.9%	12 30.0%	16 28.6%	37 36.3%	24 34.8%	10 35.7%	5 62.5%	15 34.9%	41 33.9%	17 29.3%	8 44.4%	－	84 35.0%	5 26.3%	76 33.6%	12 40.0%
あまり高まらなかった	18 6.9%	16 7.3%	2 5.0%	6 10.7%	9 8.8%	3 4.3%	0 0.0%	0 0.0%	4 9.3%	10 8.3%	3 5.2%	1 5.6%	－	16 6.7%	2 10.5%	16 7.1%	2 6.7%
高まらなかった	4 1.5%	4 1.8%	0 0.0%	1 1.8%	1 1.0%	2 2.9%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.3%	2 1.7%	0 0.0%	0 0.0%	－	3 1.3%	1 5.3%	4 1.8%	0 0.0%

		n. s.		n. s.				**					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
とても高まった	11 12.1%	7 6.6%	8 14.8%	7 12.1%	13 9.7%	3 7.1%	3 16.7%	5 5.7%	10 23.8%	8 18.2%	2 4.0%	0 0.0%	1 4.0%
高まった	43 47.3%	51 48.1%	26 48.1%	27 46.6%	67 50.0%	19 45.2%	6 33.3%	46 52.3%	20 47.6%	21 47.7%	19 38.0%	8 72.7%	9 36.0%
どちらともいえない	28 30.8%	37 34.9%	19 35.2%	18 31.0%	45 33.6%	15 35.7%	7 38.9%	32 36.4%	10 23.8%	12 27.3%	19 38.0%	3 27.3%	13 52.0%
あまり高まらなかった	7 7.7%	9 8.5%	1 1.9%	5 8.6%	8 6.0%	3 7.1%	2 11.1%	4 4.5%	1 2.4%	2 4.5%	10 20.0%	0 0.0%	1 4.0%
高まらなかった	2 2.2%	2 1.9%	0 0.0%	1 1.7%	1 0.7%	2 4.8%	0 0.0%	1 1.1%	1 2.4%	1 2.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.0%

6. 論文作成能力

		n. s.		n. s.				n. s.					n. s.			n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
とても高まった	56 21.5%	46 21.0%	10 25.0%	12 21.4%	25 24.3%	12 17.4%	6 21.4%	1 12.5%	10 22.7%	30 24.6%	11 19.3%	2 11.1%	－	48 19.9%	8 42.1%	51 22.5%	5 16.7%
高まった	127 48.7%	109 49.8%	16 40.0%	27 48.2%	50 48.5%	36 52.2%	11 39.3%	4 50.0%	19 43.2%	61 50.0%	29 50.9%	10 55.6%	－	120 49.8%	6 31.6%	108 47.6%	16 53.3%
どちらともいえない	58 22.2%	46 21.0%	12 30.0%	10 17.9%	23 22.3%	14 20.3%	10 35.7%	3 37.5%	11 25.0%	24 19.7%	11 19.3%	4 22.2%	－	54 22.4%	4 21.1%	49 21.6%	8 26.7%
あまり高まらなかった	19 7.3%	18 8.2%	1 2.5%	7 12.5%	4 3.9%	7 10.1%	1 3.6%	0 0.0%	4 9.1%	7 5.7%	5 8.8%	2 11.1%	－	18 7.5%	1 5.3%	18 7.9%	1 3.3%
高まらなかった	1 0.4%	0 0.0%	1 2.5%	0 0.0%	1 1.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.8%	0 0.0%	－	1 0.4%	0 0.0%	1 0.4%	0 0.0%

		n. s.		n. s.				*					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
とても高まった	18 19.6%	24 22.6%	14 25.9%	10 17.2%	35 25.9%	7 16.7%	3 16.7%	14 15.7%	18 42.9%	13 30.2%	7 14.0%	0 0.0%	4 15.4%
高まった	43 46.7%	52 49.1%	26 48.1%	33 56.9%	62 45.9%	19 45.2%	9 50.0%	45 50.6%	17 40.5%	21 48.8%	24 48.0%	6 54.5%	14 53.8%
どちらともいえない	18 19.6%	25 23.6%	12 22.2%	10 17.2%	30 22.2%	10 23.8%	5 27.8%	22 24.7%	4 9.5%	6 14.0%	15 30.0%	5 45.5%	6 23.1%
あまり高まらなかった	12 13.0%	5 4.7%	2 3.7%	5 8.6%	7 5.2%	6 14.3%	1 5.6%	8 9.0%	3 7.1%	3 7.0%	4 8.0%	0 0.0%	1 3.8%
高まらなかった	1 1.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.8%

7. 専門分野の研究能力

		n. s.		n. s.				n. s.					**			n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
とても高まった	44	35	9	6	18	11	8	3	6	17	11	3	－	38	5	39	4
	16.9%	16.1%	22.5%	10.7%	17.8%	15.7%	28.6%	37.5%	13.6%	14.0%	19.3%	16.7%		15.8%	26.3%	17.2%	13.8%
高まった	141	123	16	31	53	38	16	4	18	73	33	10	－	133	8	127	12
	54.2%	56.4%	40.0%	55.4%	52.5%	54.3%	57.1%	50.0%	40.9%	60.3%	57.9%	55.6%		55.4%	42.1%	55.9%	41.4%
どちらともいえない	60	46	14	13	25	17	4	1	16	25	10	4	－	56	4	47	12
	23.1%	21.1%	35.0%	23.2%	24.8%	24.3%	14.3%	12.5%	36.4%	20.7%	17.5%	22.2%		23.3%	21.1%	20.7%	41.4%
あまり高まらなかった	14	13	1	6	4	4	0	0	3	6	3	1	－	13	1	13	1
	5.4%	6.0%	2.5%	10.7%	4.0%	5.7%	0.0%	0.0%	6.8%	5.0%	5.3%	5.6%		5.4%	5.3%	5.7%	3.4%
高まらなかった	1	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	－	0	1	1	0
	0.4%	0.5%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%	5.3%	0.4%	0.0%

	n. s.			n. s.				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
とても高まった	12	18	12	7	27	7	2	12	11	10	7	2	2
	13.2%	17.1%	21.8%	12.1%	20.1%	16.7%	11.1%	13.8%	26.2%	22.7%	14.0%	18.2%	7.7%
高まった	46	56	34	35	68	25	7	52	21	25	21	7	15
	50.5%	53.3%	61.8%	60.3%	50.7%	59.5%	38.9%	59.8%	50.0%	56.8%	42.0%	63.6%	57.7%
どちらともいえない	23	27	8	12	34	6	7	20	7	5	19	2	7
	25.3%	25.7%	14.5%	20.7%	25.4%	14.3%	38.9%	23.0%	16.7%	11.4%	38.0%	18.2%	26.9%
あまり高まらなかった	10	3	1	4	4	4	2	3	3	3	3	0	2
	11.0%	2.9%	1.8%	6.9%	3.0%	9.5%	11.1%	3.4%	7.1%	6.8%	6.0%	0.0%	7.7%
高まらなかった	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%

8. 実務に必要な知識・スキル

		n.s.		n.s.				n.s.								n.s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
とても高まった	19 7.3%	12 5.5%	7 17.1%	8 14.3%	7 6.8%	1 1.4%	2 7.1%	1 12.5%	6 13.6%	6 4.9%	4 6.9%	1 5.6%	－	18 7.4%	0 0.0%	16 7.0%	2 6.7%
高まった	98 37.4%	83 37.9%	14 34.1%	16 28.6%	40 38.8%	27 38.6%	13 46.4%	2 25.0%	19 43.2%	40 32.8%	25 43.1%	7 38.9%	－	88 36.4%	10 52.6%	82 36.0%	15 50.0%
どちらともいえない	85 32.4%	75 34.2%	9 22.0%	19 33.9%	33 32.0%	24 34.3%	8 28.6%	3 37.5%	7 15.9%	43 35.2%	21 36.2%	7 38.9%	－	79 32.6%	6 31.6%	75 32.9%	9 30.0%
あまり高まらなかった	43 16.4%	35 16.0%	8 19.5%	10 17.9%	14 13.6%	13 18.6%	5 17.9%	1 12.5%	11 25.0%	22 18.0%	5 8.6%	2 11.1%	－	41 16.9%	2 10.5%	38 16.7%	4 13.3%
高まらなかった	17 6.5%	14 6.4%	3 7.3%	3 5.4%	9 8.7%	5 7.1%	0 0.0%	1 12.5%	1 2.3%	11 9.0%	3 5.2%	1 5.6%	－	16 6.6%	1 5.3%	17 7.5%	0 0.0%

	n.s.			n.s.				n.s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
とても高まった	10 10.9%	6 5.7%	1 1.8%	7 12.1%	7 5.1%	3 7.1%	1 5.6%	4 4.5%	5 11.9%	7 15.9%	1 2.0%	0 0.0%	2 7.7%
高まった	26 28.3%	42 39.6%	28 50.9%	17 29.3%	58 42.6%	12 28.6%	8 44.4%	34 38.2%	9 21.4%	18 40.9%	19 38.0%	5 45.5%	13 50.0%
どちらともいえない	31 33.7%	34 32.1%	17 30.9%	17 29.3%	45 33.1%	16 38.1%	4 22.2%	35 39.3%	14 33.3%	12 27.3%	14 28.0%	4 36.4%	6 23.1%
あまり高まらなかった	18 19.6%	17 16.0%	7 12.7%	12 20.7%	22 16.2%	5 11.9%	3 16.7%	11 12.4%	11 26.2%	7 15.9%	9 18.0%	2 18.2%	3 11.5%
高まらなかった	7 7.6%	7 6.6%	2 3.6%	5 8.6%	4 2.9%	6 14.3%	2 11.1%	5 5.6%	3 7.1%	0 0.0%	7 14.0%	0 0.0%	2 7.7%

9. 実務に必要な問題解決能力

		n. s.		n. s.				n. s.					n. s.			n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
とても高まった	23 8.8%	19 8.7%	4 9.8%	8 14.3%	10 9.7%	2 2.9%	3 10.7%	1 12.5%	5 11.4%	13 10.7%	2 3.4%	0 0.0%	－	21 8.7%	1 5.3%	20 8.8%	2 6.7%
高まった	87 33.3%	74 33.9%	12 29.3%	16 28.6%	35 34.0%	23 33.3%	10 35.7%	2 25.0%	11 25.0%	38 31.1%	25 43.1%	6 35.3%	－	79 32.8%	8 42.1%	74 32.6%	11 36.7%
どちらともいえない	97 37.2%	83 38.1%	13 31.7%	21 37.5%	39 37.9%	25 36.2%	11 39.3%	3 37.5%	17 38.6%	42 34.4%	23 39.7%	8 47.1%	－	90 37.3%	7 36.8%	85 37.4%	11 36.7%
あまり高まらなかった	40 15.3%	31 14.2%	9 22.0%	9 16.1%	12 11.7%	14 20.3%	4 14.3%	1 12.5%	10 22.7%	20 16.4%	6 10.3%	3 17.6%	－	38 15.8%	2 10.5%	34 15.0%	6 20.0%
高まらなかった	14 5.4%	11 5.0%	3 7.3%	2 3.6%	7 6.8%	5 7.2%	0 0.0%	1 12.5%	1 2.3%	9 7.4%	2 3.4%	0 0.0%	－	13 5.4%	1 5.3%	14 6.2%	0 0.0%

	n. s.			*				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
とても高まった	9 9.8%	7 6.6%	5 9.3%	5 8.6%	11 8.1%	4 9.5%	2 11.1%	8 9.0%	4 9.5%	6 13.6%	0 0.0%	0 0.0%	5 19.2%
高まった	21 22.8%	43 40.6%	21 38.9%	17 29.3%	51 37.8%	11 26.2%	5 27.8%	33 37.1%	11 26.2%	16 36.4%	14 28.6%	4 36.4%	9 34.6%
どちらともいえない	39 42.4%	37 34.9%	17 31.5%	17 29.3%	52 38.5%	19 45.2%	6 33.3%	30 33.7%	15 35.7%	16 36.4%	21 42.9%	5 45.5%	10 38.5%
あまり高まらなかった	16 17.4%	14 13.2%	9 16.7%	14 24.1%	19 14.1%	2 4.8%	4 22.2%	15 16.9%	8 19.0%	6 13.6%	7 14.3%	2 18.2%	2 7.7%
高まらなかった	7 7.6%	5 4.7%	2 3.7%	5 8.6%	2 1.5%	6 14.3%	1 5.6%	3 3.4%	4 9.5%	0 0.0%	7 14.3%	0 0.0%	0 0.0%

10. コミュニケーション能力

		n. s.		n. s.				n. s.								n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
とても高まった	21 8.0%	15 6.8%	6 14.6%	10 17.9%	8 7.8%	1 1.4%	1 3.6%	1 12.5%	5 11.4%	11 9.0%	2 3.4%	0 0.0%	－	20 8.3%	1 5.3%	19 8.3%	1 3.3%
高まった	85 32.4%	75 34.2%	9 22.0%	15 26.8%	37 35.9%	23 32.9%	8 28.6%	1 12.5%	10 22.7%	41 33.6%	24 41.4%	7 38.9%	－	79 32.6%	6 31.6%	74 32.5%	10 33.3%
どちらともいえない	118 45.0%	99 45.2%	18 43.9%	25 44.6%	42 40.8%	34 48.6%	16 57.1%	5 62.5%	23 52.3%	51 41.8%	24 41.4%	10 55.6%	－	106 43.8%	11 57.9%	100 43.9%	16 53.3%
あまり高まらなかった	28 10.7%	21 9.6%	7 17.1%	4 7.1%	12 11.7%	8 11.4%	3 10.7%	1 12.5%	5 11.4%	15 12.3%	4 6.9%	1 5.6%	－	27 11.2%	1 5.3%	25 11.0%	3 10.0%
高まらなかった	10 3.8%	9 4.1%	1 2.4%	2 3.6%	4 3.9%	4 5.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.3%	4 3.3%	4 6.9%	0 0.0%	－	10 4.1%	0 0.0%	10 4.4%	0 0.0%

	n. s.			n. s.				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
とても高まった	12 13.0%	7 6.6%	1 1.8%	6 10.3%	11 8.1%	3 7.1%	0 0.0%	5 5.6%	7 16.7%	5 11.4%	1 2.0%	1 9.1%	2 7.7%
高まった	24 26.1%	36 34.0%	21 38.2%	13 22.4%	50 36.8%	11 26.2%	8 44.4%	35 39.3%	11 26.2%	19 43.2%	11 22.0%	3 27.3%	6 23.1%
どちらともいえない	41 44.6%	43 40.6%	30 54.5%	28 48.3%	58 42.6%	20 47.6%	8 44.4%	35 39.3%	18 42.9%	16 36.4%	30 60.0%	5 45.5%	14 53.8%
あまり高まらなかった	10 10.9%	16 15.1%	2 3.6%	8 13.8%	14 10.3%	5 11.9%	1 5.6%	12 13.5%	4 9.5%	3 6.8%	3 6.0%	2 18.2%	4 15.4%
高まらなかった	5 5.4%	4 3.8%	1 1.8%	3 5.2%	3 2.2%	3 7.1%	1 5.6%	2 2.2%	2 4.8%	1 2.3%	5 10.0%	0 0.0%	0 0.0%

11. プレゼンテーション能力

	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
		n. s.		n. s.				n. s.					n. s.			n. s.	
とても高まった	40 15.3%	30 13.7%	10 24.4%	14 25.0%	19 18.4%	3 4.3%	2 7.1%	1 12.5%	5 11.4%	23 18.9%	8 13.8%	1 5.6%	－	37 15.3%	3 15.8%	39 17.1%	0 0.0%
高まった	128 48.9%	113 51.6%	14 34.1%	21 37.5%	54 52.4%	37 52.9%	15 53.6%	2 25.0%	20 45.5%	62 50.8%	28 48.3%	10 55.6%	－	118 48.8%	9 47.4%	106 46.5%	20 66.7%
どちらともいえない	74 28.2%	60 27.4%	13 31.7%	17 30.4%	26 25.2%	21 30.0%	9 32.1%	5 62.5%	15 34.1%	27 22.1%	17 29.3%	7 38.9%	－	69 28.5%	5 26.3%	64 28.1%	9 30.0%
あまり高まらなかった	15 5.7%	12 5.5%	3 7.3%	3 5.4%	3 2.9%	6 8.6%	2 7.1%	0 0.0%	4 9.1%	8 6.6%	3 5.2%	0 0.0%	－	13 5.4%	2 10.5%	14 6.1%	1 3.3%
高まらなかった	5 1.9%	4 1.8%	1 2.4%	1 1.8%	1 1.0%	3 4.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 1.6%	2 3.4%	0 0.0%	－	5 2.1%	0 0.0%	5 2.2%	0 0.0%

	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
	n. s.			n. s.				n. s.					
とても高まった	16 17.4%	17 16.0%	6 10.9%	13 22.4%	22 16.2%	2 4.8%	2 11.1%	13 14.6%	9 21.4%	12 27.3%	2 4.0%	1 9.1%	3 11.5%
高まった	37 40.2%	54 50.9%	33 60.0%	25 43.1%	68 50.0%	23 54.8%	9 50.0%	46 51.7%	20 47.6%	18 40.9%	27 54.0%	4 36.4%	13 50.0%
どちらともいえない	28 30.4%	29 27.4%	13 23.6%	14 24.1%	39 28.7%	10 23.8%	7 38.9%	23 25.8%	10 23.8%	12 27.3%	16 32.0%	5 45.5%	8 30.8%
あまり高まらなかった	8 8.7%	5 4.7%	2 3.6%	4 6.9%	6 4.4%	5 11.9%	0 0.0%	7 7.9%	1 2.4%	1 2.3%	4 8.0%	1 9.1%	1 3.8%
高まらなかった	3 3.3%	1 0.9%	1 1.8%	2 3.4%	1 0.7%	2 4.8%	0 0.0%	0 0.0%	2 4.8%	1 2.3%	1 2.0%	0 0.0%	1 3.8%

12. 幅広い教養的知識

		n. s.		n. s.				n. s.								**	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
とても高まった	18 6.9%	14 6.4%	4 9.8%	5 8.9%	7 6.8%	3 4.3%	2 7.1%	2 25.0%	5 11.4%	8 6.6%	1 1.7%	1 5.6%	－	14 5.8%	4 21.1%	16 7.0%	2 6.7%
高まった	68 26.0%	60 27.4%	7 17.1%	6 10.7%	30 29.1%	21 30.0%	10 35.7%	3 37.5%	18 40.9%	28 23.0%	15 25.9%	3 16.7%	－	66 27.3%	2 10.5%	53 23.2%	14 46.7%
どちらともいえない	108 41.2%	86 39.3%	21 51.2%	26 46.4%	42 40.8%	26 37.1%	11 39.3%	3 37.5%	15 34.1%	53 43.4%	23 39.7%	8 44.4%	－	101 41.7%	7 36.8%	92 40.4%	14 46.7%
あまり高まらなかった	53 20.2%	45 20.5%	8 19.5%	15 26.8%	18 17.5%	16 22.9%	4 14.3%	0 0.0%	4 9.1%	25 20.5%	16 27.6%	6 33.3%	－	47 19.4%	5 26.3%	52 22.8%	0 0.0%
高まらなかった	15 5.7%	14 6.4%	1 2.4%	4 7.1%	6 5.8%	4 5.7%	1 3.6%	0 0.0%	2 4.5%	8 6.6%	3 5.2%	0 0.0%	－	14 5.8%	1 5.3%	15 6.6%	0 0.0%

	n. s.			n. s.				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
とても高まった	7 7.6%	6 5.7%	4 7.3%	5 8.6%	9 6.6%	2 4.8%	1 5.6%	8 9.0%	4 9.5%	2 4.5%	0 0.0%	2 18.2%	2 7.7%
高まった	20 21.7%	25 23.6%	20 36.4%	18 31.0%	35 25.7%	8 19.0%	5 27.8%	23 25.8%	9 21.4%	11 25.0%	17 34.0%	2 18.2%	6 23.1%
どちらともいえない	39 42.4%	47 44.3%	21 38.2%	21 36.2%	59 43.4%	19 45.2%	6 33.3%	36 40.4%	19 45.2%	19 43.2%	23 46.0%	2 18.2%	9 34.6%
あまり高まらなかった	21 22.8%	20 18.9%	8 14.5%	10 17.2%	28 20.6%	7 16.7%	6 33.3%	18 20.2%	8 19.0%	10 22.7%	8 16.0%	4 36.4%	5 19.2%
高まらなかった	5 5.4%	8 7.5%	2 3.6%	4 6.9%	5 3.7%	6 14.3%	0 0.0%	4 4.5%	2 4.8%	2 4.5%	2 4.0%	1 9.1%	4 15.4%

13. ものごとを分析的・批判的に考える力

		n. s.		n. s.				n. s.					*			n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
とても高まった	36 13.8%	31 14.3%	5 12.2%	7 12.7%	21 20.4%	4 5.8%	3 10.7%	2 25.0%	11 25.0%	16 13.1%	4 7.1%	2 11.1%	－	29 12.1%	7 36.8%	29 12.8%	6 20.0%
高まった	126 48.5%	108 49.8%	16 39.0%	30 54.5%	42 40.8%	37 53.6%	15 53.6%	5 62.5%	21 47.7%	59 48.4%	27 48.2%	9 50.0%	－	120 50.0%	6 31.6%	111 49.1%	14 46.7%
どちらともいえない	80 30.8%	63 29.0%	17 41.5%	16 29.1%	32 31.1%	22 31.9%	8 28.6%	1 12.5%	11 25.0%	37 30.3%	21 37.5%	5 27.8%	－	75 31.3%	4 21.1%	69 30.5%	9 30.0%
あまり高まらなかった	15 5.8%	12 5.5%	3 7.3%	1 1.8%	8 7.8%	4 5.8%	2 7.1%	0 0.0%	1 2.3%	9 7.4%	3 5.4%	2 11.1%	－	13 5.4%	2 10.5%	14 6.2%	1 3.3%
高まらなかった	3 1.2%	3 1.4%	0 0.0%	1 1.8%	0 0.0%	2 2.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.8%	1 1.8%	0 0.0%	－	3 1.3%	0 0.0%	3 1.3%	0 0.0%

		n. s.			n. s.				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業						
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
とても高まった	12 13.2%	15 14.3%	8 14.5%	8 13.8%	18 13.3%	4 9.5%	5 29.4%	14 15.9%	6 14.3%	9 20.9%	3 6.0%	1 9.1%	3 11.5%
高まった	41 45.1%	46 43.8%	32 58.2%	28 48.3%	66 48.9%	23 54.8%	4 23.5%	40 45.5%	26 61.9%	20 46.5%	23 46.0%	5 45.5%	12 46.2%
どちらともいえない	34 37.4%	35 33.3%	11 20.0%	16 27.6%	44 32.6%	12 28.6%	7 41.2%	28 31.8%	7 16.7%	11 25.6%	20 40.0%	5 45.5%	9 34.6%
あまり高まらなかった	3 3.3%	8 7.6%	3 5.5%	4 6.9%	7 5.2%	2 4.8%	1 5.9%	6 6.8%	2 4.8%	3 7.0%	3 6.0%	0 0.0%	1 3.8%
高まらなかった	1 1.1%	1 1.0%	1 1.8%	2 3.4%	0 0.0%	1 2.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.4%	0 0.0%	1 2.0%	0 0.0%	1 3.8%

14. 倫理観

		n. s.		n. s.				n. s.								*	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
とても高まった	5 1.9%	5 2.3%	0 0.0%	2 3.6%	2 1.9%	0 0.0%	1 3.6%	1 12.5%	0 0.0%	2 1.7%	2 3.4%	0 0.0%	－	4 1.7%	1 5.3%	5 2.2%	0 0.0%
高まった	40 15.4%	32 14.7%	8 20.0%	8 14.3%	15 14.6%	12 17.6%	4 14.3%	2 25.0%	8 18.6%	17 14.0%	7 12.1%	3 16.7%	－	38 15.8%	2 10.5%	32 14.1%	8 27.6%
どちらともいえない	155 59.6%	127 58.3%	26 65.0%	35 62.5%	64 62.1%	36 52.9%	17 60.7%	4 50.0%	28 65.1%	71 58.7%	35 60.3%	12 66.7%	－	142 59.2%	12 63.2%	132 58.1%	20 69.0%
あまり高まらなかった	38 14.6%	34 15.6%	4 10.0%	7 12.5%	13 12.6%	13 19.1%	4 14.3%	1 12.5%	4 9.3%	20 16.5%	9 15.5%	1 5.6%	－	36 15.0%	2 10.5%	37 16.3%	0 0.0%
高まらなかった	22 8.5%	20 9.2%	2 5.0%	4 7.1%	9 8.7%	7 10.3%	2 7.1%	0 0.0%	3 7.0%	11 9.1%	5 8.6%	2 11.1%	－	20 8.3%	2 10.5%	21 9.3%	1 3.4%

	n. s.			n. s.				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
とても高まった	2 2.2%	1 1.0%	2 3.7%	1 1.8%	4 2.9%	0 0.0%	0 0.0%	3 3.4%	2 4.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
高まった	15 16.3%	13 12.4%	9 16.7%	4 7.0%	24 17.6%	8 19.5%	2 11.1%	11 12.4%	4 9.8%	10 22.7%	9 18.0%	1 9.1%	5 20.0%
どちらともいえない	53 57.6%	65 61.9%	34 63.0%	39 68.4%	83 61.0%	19 46.3%	11 61.1%	54 60.7%	23 56.1%	27 61.4%	29 58.0%	6 54.5%	16 64.0%
あまり高まらなかった	13 14.1%	17 16.2%	6 11.1%	9 15.8%	17 12.5%	8 19.5%	2 11.1%	12 13.5%	9 22.0%	5 11.4%	7 14.0%	3 27.3%	2 8.0%
高まらなかった	9 9.8%	9 8.6%	3 5.6%	4 7.0%	8 5.9%	6 14.6%	3 16.7%	9 10.1%	3 7.3%	2 4.5%	5 10.0%	1 9.1%	2 8.0%

15. 社会人として必要な態度

	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
		n. s.		n. s.				n. s.					n. s.			n. s.	
とても高まった	11 4.2%	6 2.7%	5 12.5%	1 1.8%	7 6.9%	1 1.4%	2 7.1%	0 0.0%	2 4.5%	5 4.1%	2 3.4%	1 5.6%	－	9 3.7%	2 10.5%	11 4.8%	0 0.0%
高まった	47 18.0%	40 18.3%	7 17.5%	14 25.0%	18 17.6%	11 15.7%	3 10.7%	1 12.5%	6 13.6%	22 18.2%	11 19.0%	4 22.2%	－	45 18.7%	2 10.5%	41 18.1%	6 20.0%
どちらともいえない	132 50.6%	113 51.6%	17 42.5%	26 46.4%	49 48.0%	37 52.9%	17 60.7%	6 75.0%	23 52.3%	61 50.4%	25 43.1%	11 61.1%	－	121 50.2%	10 52.6%	111 48.9%	18 60.0%
あまり高まらなかった	47 18.0%	39 17.8%	8 20.0%	10 17.9%	18 17.6%	14 20.0%	4 14.3%	0 0.0%	11 25.0%	22 18.2%	13 22.4%	1 5.6%	－	44 18.3%	3 15.8%	42 18.5%	4 13.3%
高まらなかった	24 9.2%	21 9.6%	3 7.5%	5 8.9%	10 9.8%	7 10.0%	2 7.1%	1 12.5%	2 4.5%	11 9.1%	7 12.1%	1 5.6%	－	22 9.1%	2 10.5%	22 9.7%	2 6.7%

	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
	n. s.			n. s.				n. s.					
とても高まった	5 5.4%	5 4.8%	1 1.8%	3 5.3%	6 4.4%	0 0.0%	2 11.1%	4 4.5%	2 4.8%	3 6.8%	1 2.0%	0 0.0%	1 3.8%
高まった	18 19.6%	18 17.1%	8 14.5%	9 15.8%	25 18.4%	10 23.8%	2 11.1%	12 13.5%	5 11.9%	12 27.3%	7 14.3%	2 18.2%	9 34.6%
どちらともいえない	41 44.6%	52 49.5%	34 61.8%	26 45.6%	77 56.6%	16 38.1%	8 44.4%	51 57.3%	22 52.4%	17 38.6%	25 51.0%	6 54.5%	11 42.3%
あまり高まらなかった	18 19.6%	20 19.0%	8 14.5%	15 26.3%	18 13.2%	9 21.4%	3 16.7%	15 16.9%	7 16.7%	10 22.7%	9 18.4%	3 27.3%	3 11.5%
高まらなかった	10 10.9%	10 9.5%	4 7.3%	4 7.0%	10 7.4%	7 16.7%	3 16.7%	7 7.9%	6 14.3%	2 4.5%	7 14.3%	0 0.0%	2 7.7%

16. 豊かな人間性・感受性

		n. s.		n. s.				n. s.								n. s.
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
とても高まった	10 3.8%	7 3.2%	3 7.3%	2 3.6%	6 5.9%	0 0.0%	1 3.6%	0 0.0%	3 6.8%	2 1.7%	2 3.4%	0 0.0%	－	8 3.3%	2 10.5%	9 4.0%	1 3.3%
高まった	59 22.6%	45 20.6%	14 34.1%	14 25.0%	30 29.4%	12 17.1%	3 10.7%	3 37.5%	11 25.0%	24 19.8%	14 24.1%	7 38.9%	－	56 23.2%	3 15.8%	52 22.9%	6 20.0%
どちらともいえない	144 55.2%	126 57.8%	16 39.0%	32 57.1%	45 44.1%	43 61.4%	21 75.0%	3 37.5%	23 52.3%	70 57.9%	30 51.7%	11 61.1%	－	135 56.0%	8 42.1%	122 53.7%	19 63.3%
あまり高まらなかった	30 11.5%	25 11.5%	5 12.2%	4 7.1%	13 12.7%	10 14.3%	2 7.1%	1 12.5%	6 13.6%	17 14.0%	6 10.3%	0 0.0%	－	26 10.8%	4 21.1%	26 11.5%	4 13.3%
高まらなかった	18 6.9%	15 6.9%	3 7.3%	4 7.1%	8 7.8%	5 7.1%	1 3.6%	1 12.5%	1 2.3%	8 6.6%	6 10.3%	0 0.0%	－	16 6.6%	2 10.5%	18 7.9%	0 0.0%

	n. s.			n. s.				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
とても高まった	6 6.5%	3 2.9%	1 1.8%	2 3.4%	7 5.2%	1 2.4%	0 0.0%	3 3.4%	2 4.8%	3 6.8%	1 2.0%	0 0.0%	1 3.8%
高まった	26 28.3%	21 20.0%	11 20.0%	16 27.6%	29 21.5%	10 23.8%	3 16.7%	23 25.8%	6 14.3%	11 25.0%	10 20.4%	3 27.3%	6 23.1%
どちらともいえない	41 44.6%	62 59.0%	35 63.6%	30 51.7%	80 59.3%	17 40.5%	12 66.7%	47 52.8%	27 64.3%	23 52.3%	30 61.2%	5 45.5%	12 46.2%
あまり高まらなかった	12 13.0%	11 10.5%	5 9.1%	7 12.1%	13 9.6%	8 19.0%	0 0.0%	11 12.4%	3 7.1%	6 13.6%	4 8.2%	1 9.1%	5 19.2%
高まらなかった	7 7.6%	8 7.6%	3 5.5%	3 5.2%	6 4.4%	6 14.3%	3 16.7%	5 5.6%	4 9.5%	1 2.3%	4 8.2%	2 18.2%	2 7.7%

17. 人と協力しながら物事に取り組む力

		n. s.		*				n. s.								n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
とても高まった	27 10.3%	19 8.7%	8 19.5%	10 17.9%	12 11.7%	3 4.3%	1 3.6%	1 12.5%	5 11.4%	14 11.5%	2 3.4%	2 11.1%	－	24 9.9%	3 15.8%	25 11.0%	2 6.7%
高まった	100 38.2%	87 39.7%	13 31.7%	23 41.1%	46 44.7%	21 30.0%	9 32.1%	3 37.5%	13 29.5%	47 38.5%	27 46.6%	8 44.4%	－	94 38.8%	5 26.3%	90 39.5%	8 26.7%
どちらともいえない	97 37.0%	79 36.1%	16 39.0%	16 28.6%	28 27.2%	35 50.0%	15 53.6%	2 25.0%	20 45.5%	42 34.4%	24 41.4%	7 38.9%	－	90 37.2%	7 36.8%	79 34.6%	16 53.3%
あまり高まらなかった	25 9.5%	22 10.0%	3 7.3%	3 5.4%	14 13.6%	6 8.6%	2 7.1%	2 25.0%	5 11.4%	12 9.8%	3 5.2%	0 0.0%	－	22 9.1%	3 15.8%	23 10.1%	2 6.7%
高まらなかった	13 5.0%	12 5.5%	1 2.4%	4 7.1%	3 2.9%	5 7.1%	1 3.6%	0 0.0%	1 2.3%	7 5.7%	2 3.4%	1 5.6%	－	12 5.0%	1 5.3%	11 4.8%	2 6.7%

	n. s.			n. s.				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
とても高まった	12 13.0%	11 10.4%	4 7.3%	7 12.1%	15 11.0%	4 9.5%	1 5.6%	5 5.6%	8 19.0%	9 20.5%	2 4.0%	0 0.0%	3 11.5%
高まった	40 43.5%	36 34.0%	20 36.4%	25 43.1%	51 37.5%	14 33.3%	7 38.9%	42 47.2%	14 33.3%	15 34.1%	14 28.0%	7 63.6%	8 30.8%
どちらともいえない	28 30.4%	41 38.7%	25 45.5%	18 31.0%	53 39.0%	14 33.3%	7 38.9%	31 34.8%	13 31.0%	14 31.8%	26 52.0%	4 36.4%	9 34.6%
あまり高まらなかった	8 8.7%	12 11.3%	4 7.3%	4 6.9%	14 10.3%	6 14.3%	1 5.6%	9 10.1%	4 9.5%	5 11.4%	4 8.0%	0 0.0%	3 11.5%
高まらなかった	4 4.3%	6 5.7%	2 3.6%	4 6.9%	3 2.2%	4 9.5%	2 11.1%	2 2.2%	3 7.1%	1 2.3%	4 8.0%	0 0.0%	3 11.5%

18. 目標に向かって人や集団をひっぱる力

	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
		**				n. s.				n. s.							n. s.
とても高まった	14 5.4%	7 3.2%	7 17.1%	6 10.7%	4 3.9%	2 2.9%	1 3.6%	0 0.0%	3 7.0%	7 5.8%	2 3.4%	0 0.0%	－	13 5.4%	1 5.3%	14 6.2%	0 0.0%
高まった	52 20.0%	48 22.1%	4 9.8%	12 21.4%	23 22.5%	12 17.4%	4 14.3%	2 25.0%	7 16.3%	25 20.7%	11 19.0%	6 33.3%	－	50 20.8%	2 10.5%	43 18.9%	8 27.6%
どちらともいえない	132 50.8%	109 50.2%	21 51.2%	24 42.9%	52 51.0%	38 55.1%	15 53.6%	4 50.0%	21 48.8%	57 47.1%	38 65.5%	8 44.4%	－	120 50.0%	11 57.9%	115 50.7%	14 48.3%
あまり高まらなかった	39 15.0%	32 14.7%	7 17.1%	10 17.9%	14 13.7%	9 13.0%	6 21.4%	2 25.0%	10 23.3%	19 15.7%	3 5.2%	2 11.1%	－	34 14.2%	5 26.3%	33 14.5%	6 20.7%
高まらなかった	23 8.8%	21 9.7%	2 4.9%	4 7.1%	9 8.8%	8 11.6%	2 7.1%	0 0.0%	2 4.7%	13 10.7%	4 6.9%	2 11.1%	－	23 9.6%	0 0.0%	22 9.7%	1 3.4%

	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
	n. s.				n. s.						n. s.		
とても高まった	8 8.8%	2 1.9%	3 5.6%	5 8.8%	8 5.9%	0 0.0%	0 0.0%	4 4.5%	5 12.2%	3 6.8%	0 0.0%	0 0.0%	2 8.0%
高まった	19 20.9%	19 17.9%	13 24.1%	14 24.6%	20 14.8%	14 33.3%	3 16.7%	22 24.7%	5 12.2%	9 20.5%	6 12.0%	3 27.3%	7 28.0%
どちらともいえない	41 45.1%	60 56.6%	26 48.1%	24 42.1%	78 57.8%	16 38.1%	9 50.0%	45 50.6%	19 46.3%	25 56.8%	27 54.0%	8 72.7%	8 32.0%
あまり高まらなかった	16 17.6%	12 11.3%	10 18.5%	8 14.0%	19 14.1%	8 19.0%	3 16.7%	13 14.6%	7 17.1%	4 9.1%	9 18.0%	0 0.0%	6 24.0%
高まらなかった	7 7.7%	13 12.3%	2 3.7%	6 10.5%	10 7.4%	4 9.5%	3 16.7%	5 5.6%	5 12.2%	3 6.8%	8 16.0%	0 0.0%	2 8.0%

19. 国際的なビジネス感覚

		*		**				*								**	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
とても高まった	5 1.9%	2 0.9%	3 7.3%	4 7.1%	1 1.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 4.5%	3 2.5%	0 0.0%	0 0.0%	－	5 2.1%	0 0.0%	5 2.2%	0 0.0%
高まった	21 8.0%	15 6.8%	6 14.6%	3 5.4%	9 8.7%	6 8.6%	2 7.1%	1 12.5%	10 22.7%	5 4.1%	2 3.4%	1 5.6%	－	19 7.9%	2 10.5%	14 6.1%	7 23.3%
どちらともいえない	78 29.8%	66 30.1%	10 24.4%	12 21.4%	27 26.2%	27 38.6%	9 32.1%	4 50.0%	13 29.5%	30 24.6%	23 39.7%	5 27.8%	－	71 29.3%	6 31.6%	62 27.2%	13 43.3%
あまり高まらなかった	71 27.1%	60 27.4%	11 26.8%	14 25.0%	22 21.4%	21 30.0%	13 46.4%	1 12.5%	9 20.5%	36 29.5%	15 25.9%	5 27.8%	－	67 27.7%	4 21.1%	64 28.1%	6 20.0%
高まらなかった	87 33.2%	76 34.7%	11 26.8%	23 41.1%	44 42.7%	16 22.9%	4 14.3%	2 25.0%	10 22.7%	48 39.3%	18 31.0%	7 38.9%	－	80 33.1%	7 36.8%	83 36.4%	4 13.3%

		**		n.s.				*					
		仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業						
		第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
とても高まった	5 5.4%	0 0.0%	0 0.0%	2 3.4%	1 0.7%	2 4.8%	0 0.0%	1 1.1%	2 4.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 7.7%
高まった	5 5.4%	8 7.5%	6 10.9%	3 5.2%	12 8.8%	3 7.1%	1 5.6%	9 10.1%	1 2.4%	6 13.6%	0 0.0%	3 27.3%	2 7.7%	
どちらともいえない	26 28.3%	31 29.2%	18 32.7%	14 24.1%	45 33.1%	10 23.8%	7 38.9%	26 29.2%	12 28.6%	16 36.4%	16 32.0%	3 27.3%	5 19.2%	
あまり高まらなかった	19 20.7%	29 27.4%	22 40.0%	22 37.9%	33 24.3%	14 33.3%	1 5.6%	20 22.5%	14 33.3%	5 11.4%	20 40.0%	3 27.3%	9 34.6%	
高まらなかった	37 40.2%	38 35.8%	9 16.4%	17 29.3%	45 33.1%	13 31.0%	9 50.0%	33 37.1%	13 31.0%	17 38.6%	14 28.0%	2 18.2%	8 30.8%	

20. 語学能力（読む、書く、話す）

		n. s.		***				n. s.								n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
とても高まった	15	9	6	8	4	1	1	0	5	7	2	0	－	13	2	13	2
	5.7%	4.1%	14.6%	14.3%	3.9%	1.4%	3.6%	0.0%	11.4%	5.7%	3.4%	0.0%		5.4%	10.5%	5.7%	6.7%
高まった	81	65	15	14	41	18	6	4	15	33	22	5	－	73	7	70	10
	30.9%	29.7%	36.6%	25.0%	39.8%	25.7%	21.4%	50.0%	34.1%	27.0%	37.9%	27.8%		30.2%	36.8%	30.7%	33.3%
どちらともいえない	91	78	12	23	29	29	8	4	13	42	17	10	－	87	4	76	13
	34.7%	35.6%	29.3%	41.1%	28.2%	41.4%	28.6%	50.0%	29.5%	34.4%	29.3%	55.6%		36.0%	21.1%	33.3%	43.3%
あまり高まらなかった	50	44	6	4	20	14	12	0	7	24	14	2	－	48	2	45	4
	19.1%	20.1%	14.6%	7.1%	19.4%	20.0%	42.9%	0.0%	15.9%	19.7%	24.1%	11.1%		19.8%	10.5%	19.7%	13.3%
高まらなかった	25	23	2	7	9	8	1	0	4	16	3	1	－	21	4	24	1
	9.5%	10.5%	4.9%	12.5%	8.7%	11.4%	3.6%	0.0%	9.1%	13.1%	5.2%	5.6%		8.7%	21.1%	10.5%	3.3%

	*			n. s.				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
とても高まった	9	3	3	6	8	1	0	7	5	2	0	0	1
	9.8%	2.8%	5.5%	10.3%	5.9%	2.4%	0.0%	7.9%	11.9%	4.5%	0.0%	0.0%	3.8%
高まった	25	34	17	12	46	16	4	30	14	15	12	3	7
	27.2%	32.1%	30.9%	20.7%	33.8%	38.1%	22.2%	33.7%	33.3%	34.1%	24.0%	27.3%	26.9%
どちらともいえない	39	35	16	21	48	13	7	29	11	19	16	4	12
	42.4%	33.0%	29.1%	36.2%	35.3%	31.0%	38.9%	32.6%	26.2%	43.2%	32.0%	36.4%	46.2%
あまり高まらなかった	8	25	16	12	22	9	6	14	8	3	17	3	5
	8.7%	23.6%	29.1%	20.7%	16.2%	21.4%	33.3%	15.7%	19.0%	6.8%	34.0%	27.3%	19.2%
高まらなかった	11	9	3	7	12	3	1	9	4	5	5	1	1
	12.0%	8.5%	5.5%	12.1%	8.8%	7.1%	5.6%	10.1%	9.5%	11.4%	10.0%	9.1%	3.8%

B5. 大学院入学時、大学院修了後にどのような職種を希望していましたか。

	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
			*				*					**			***		n. s.
1. 大学教員	42	39	3	3	19	11	9	4	7	11	15	3	0	30	12	40	2
	15.3%	17.2%	6.5%	4.9%	17.9%	14.9%	31.0%	50.0%	14.9%	8.8%	25.9%	15.8%	0.0%	12.3%	57.1%	17.5%	6.7%
			n. s.				n. s.					***			n. s.		**
2. 民間企業・政府・地方自治体の研究開発職	99	80	18	17	40	27	13	2	6	46	32	10	0	88	10	94	4
	36.0%	35.2%	39.1%	27.9%	37.7%	36.5%	44.8%	25.0%	12.8%	36.8%	55.2%	52.6%	0.0%	36.1%	47.6%	41.0%	13.3%
			n. s.				n. s.					n. s.			n. s.		n. s.
3. ポストドクター	4	3	1	2	2	0	0	0	0	2	2	0	0	3	1	4	0
	1.5%	1.3%	2.2%	3.3%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	3.4%	0.0%	0.0%	1.2%	4.8%	1.7%	0.0%
			n. s.				*					n. s.			n. s.		*
4. 民間企業等の職員	77	62	14	25	31	14	5	2	13	45	10	5	0	75	2	72	4
	28.0%	27.3%	30.4%	41.0%	29.2%	18.9%	17.2%	25.0%	27.7%	36.0%	17.2%	26.3%	0.0%	30.7%	9.5%	31.4%	13.3%
			n. s.				n. s.					n. s.			*		*
5. 官公庁等の行政職	126	104	20	31	45	33	13	2	21	62	29	5	0	120	6	114	9
	45.8%	45.8%	43.5%	50.8%	42.5%	44.6%	44.8%	25.0%	44.7%	49.6%	50.0%	26.3%	0.0%	49.2%	28.6%	49.8%	30.0%
			n. s.				n. s.					n. s.			n. s.		n. s.
6. 初等中等教育の教育職	12	11	1	3	4	3	1	1	0	7	2	0	0	12	0	9	3
	4.4%	4.8%	2.2%	4.9%	3.8%	4.1%	3.4%	12.5%	0.0%	5.6%	3.4%	0.0%	0.0%	4.9%	0.0%	3.9%	10.0%
			n. s.				n. s.					n. s.			n. s.		**
7. 特に考えていなかった	15	13	2	0	7	4	4	0	2	8	3	2	0	15	0	10	5
	5.5%	5.7%	4.3%	0.0%	6.6%	5.4%	13.8%	0.0%	4.3%	6.4%	5.2%	10.5%	0.0%	6.1%	0.0%	4.4%	16.7%

	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
			n. s.				n. s.						n. s.
1. 大学教員	9	16	13	9	17	10	5	20	6	6	9	1	0
	9.3%	14.7%	22.4%	15.5%	12.1%	21.3%	26.3%	22.0%	14.3%	13.3%	16.4%	9.1%	0.0%
			n. s.				n. s.						n. s.
2. 民間企業・政府・地方自治体の研究開発職	28	43	22	22	49	18	5	34	16	17	14	4	14
	28.9%	39.4%	37.9%	37.9%	35.0%	38.3%	26.3%	37.4%	38.1%	37.8%	25.5%	36.4%	45.2%
			n. s.				n. s.						n. s.
3. ポストドクター	3	0	1	0	3	0	1	2	0	1	0	0	1
	3.1%	0.0%	1.7%	0.0%	2.1%	0.0%	5.3%	2.2%	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	3.2%
			n. s.				n. s.						n. s.
4. 民間企業等の職員	32	32	12	17	43	11	4	26	15	11	12	2	11
	33.0%	29.4%	20.7%	29.3%	30.7%	23.4%	21.1%	28.6%	35.7%	24.4%	21.8%	18.2%	35.5%
			n. s.				**						***
5. 官公庁等の行政職	43	54	25	34	69	13	6	55	21	23	20	5	2
	44.3%	49.5%	43.1%	58.6%	49.3%	27.7%	31.6%	60.4%	50.0%	51.1%	36.4%	45.5%	6.5%
			n. s.				n. s.						n. s.
6. 初等中等教育の教育職	5	4	3	3	6	2	1	3	0	1	4	1	3
	5.2%	3.7%	5.2%	5.2%	4.3%	4.3%	5.3%	3.3%	0.0%	2.2%	7.3%	9.1%	9.7%
			n. s.				n. s.						n. s.
7. 特に考えていなかった	5	5	5	2	6	3	3	4	5	2	3	0	1
	5.2%	4.6%	8.6%	3.4%	4.3%	6.4%	15.8%	4.4%	11.9%	4.4%	5.5%	0.0%	3.2%

B6. 修了された大学院での学習等の各項目について、満足されましたか。

1. 教員の教育に対する意欲

		n. s.		n. s.				n. s.						n. s.			n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位				進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学	その他	学士号	修士号	博士号		就職前進学	就職後進学
非常に満足している	70	59	11	16	28	20	5	2	10	32	17	2	度数	64	6		61	9
	26.8%	26.9%	27.5%	29.1%	27.2%	28.6%	17.9%	28.6%	22.7%	26.2%	29.3%	11.1%	#VALUE!	26.6%	31.6%		26.9%	30.0%
満足している	138	116	20	26	54	37	17	1	27	68	28	12	度数	130	7		117	19
	52.9%	53.0%	50.0%	47.3%	52.4%	52.9%	60.7%	14.3%	61.4%	55.7%	48.3%	66.7%	#VALUE!	53.9%	36.8%		51.5%	63.3%
あまり満足していない	42	36	6	10	18	8	6	4	5	19	10	3	度数	37	5		38	2
	16.1%	16.4%	15.0%	18.2%	17.5%	11.4%	21.4%	57.1%	11.4%	15.6%	17.2%	16.7%	#VALUE!	15.4%	26.3%		16.7%	6.7%
満足していない	11	8	3	3	3	5	0	0	2	3	3	1	度数	10	1		11	0
	4.2%	3.7%	7.5%	5.5%	2.9%	7.1%	0.0%	0.0%	4.5%	2.5%	5.2%	5.6%	#VALUE!	4.1%	5.3%		4.8%	0.0%

	n. s.			n. s.				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
非常に満足している	22	31	16	13	42	9	4	24	17	12	11	0	6
	24.2%	29.2%	29.1%	22.4%	31.1%	21.4%	22.2%	27.3%	40.5%	27.3%	22.0%	0.0%	23.1%
満足している	51	53	28	29	70	21	12	49	17	21	28	8	15
	56.0%	50.0%	50.9%	50.0%	51.9%	50.0%	66.7%	55.7%	40.5%	47.7%	56.0%	72.7%	57.7%
あまり満足していない	15	19	6	12	20	9	1	13	7	7	8	3	4
	16.5%	17.9%	10.9%	20.7%	14.8%	21.4%	5.6%	14.8%	16.7%	15.9%	16.0%	27.3%	15.4%
満足していない	3	3	5	4	3	3	1	2	1	4	3	0	1
	3.3%	2.8%	9.1%	6.9%	2.2%	7.1%	5.6%	2.3%	2.4%	9.1%	6.0%	0.0%	3.8%

2. 教員の教育方法

		n. s.		n. s.				n. s.					n. s.			n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
非常に満足している	41	37	4	7	18	12	3	0	7	23	7	0	度数	36	5	35	6
	15.7%	16.9%	10.0%	12.7%	17.5%	17.1%	10.7%	0.0%	15.9%	18.9%	12.1%	0.0%	#VALUE!	14.9%	26.3%	15.4%	20.0%
満足している	148	125	21	31	56	39	18	2	25	71	34	11	度数	140	7	127	19
	56.7%	57.1%	52.5%	56.4%	54.4%	55.7%	64.3%	28.6%	56.8%	58.2%	58.6%	61.1%	#VALUE!	58.1%	36.8%	55.9%	63.3%
あまり満足していない	58	45	13	13	26	13	6	5	9	26	12	6	度数	53	5	51	5
	22.2%	20.5%	32.5%	23.6%	25.2%	18.6%	21.4%	71.4%	20.5%	21.3%	20.7%	33.3%	#VALUE!	22.0%	26.3%	22.5%	16.7%
満足していない	14	12	2	4	3	6	1	0	3	2	5	1	度数	12	2	14	0
	5.4%	5.5%	5.0%	7.3%	2.9%	8.6%	3.6%	0.0%	6.8%	1.6%	8.6%	5.6%	#VALUE!	5.0%	10.5%	6.2%	0.0%

	n. s.			n. s.				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
非常に満足している	12	20	8	8	25	5	2	12	10	10	4	0	5
	13.2%	18.9%	14.5%	13.8%	18.5%	11.9%	11.1%	13.6%	23.8%	22.7%	8.0%	0.0%	19.2%
満足している	51	58	33	29	77	25	12	53	22	22	29	7	15
	56.0%	54.7%	60.0%	50.0%	57.0%	59.5%	66.7%	60.2%	52.4%	50.0%	58.0%	63.6%	57.7%
あまり満足していない	23	23	10	17	28	8	3	20	9	7	14	4	4
	25.3%	21.7%	18.2%	29.3%	20.7%	19.0%	16.7%	22.7%	21.4%	15.9%	28.0%	36.4%	15.4%
満足していない	5	5	4	4	5	4	1	3	1	5	3	0	2
	5.5%	4.7%	7.3%	6.9%	3.7%	9.5%	5.6%	3.4%	2.4%	11.4%	6.0%	0.0%	7.7%

3. 教員による研究指導

		*		n. s.				n. s.								n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
非常に満足している	50	43	7	12	20	12	5	1	7	28	9	1	度数	44	6	45	5
	19.2%	19.6%	17.5%	21.8%	19.4%	17.1%	17.9%	14.3%	15.9%	23.0%	15.5%	5.6%	#VALUE!	18.3%	31.6%	19.8%	16.7%
満足している	141	124	15	25	60	37	16	2	20	73	30	11	度数	133	7	122	16
	54.0%	56.6%	37.5%	45.5%	58.3%	52.9%	57.1%	28.6%	45.5%	59.8%	51.7%	61.1%	#VALUE!	55.2%	36.8%	53.7%	53.3%
あまり満足していない	59	42	17	14	21	17	6	4	14	19	16	6	度数	55	4	49	9
	22.6%	19.2%	42.5%	25.5%	20.4%	24.3%	21.4%	57.1%	31.8%	15.6%	27.6%	33.3%	#VALUE!	22.8%	21.1%	21.6%	30.0%
満足していない	11	10	1	4	2	4	1	0	3	2	3	0	度数	9	2	11	0
	4.2%	4.6%	2.5%	7.3%	1.9%	5.7%	3.6%	0.0%	6.8%	1.6%	5.2%	0.0%	#VALUE!	3.7%	10.5%	4.8%	0.0%

	n. s.			n. s.				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
非常に満足している	18	19	12	9	30	5	4	17	15	7	5	0	6
	19.8%	17.9%	21.8%	15.5%	22.2%	11.9%	22.2%	19.3%	35.7%	15.9%	10.0%	0.0%	23.1%
満足している	42	63	31	30	73	24	9	47	19	25	28	7	15
	46.2%	59.4%	56.4%	51.7%	54.1%	57.1%	50.0%	53.4%	45.2%	56.8%	56.0%	63.6%	57.7%
あまり満足していない	26	19	11	17	28	9	4	22	7	9	14	4	3
	28.6%	17.9%	20.0%	29.3%	20.7%	21.4%	22.2%	25.0%	16.7%	20.5%	28.0%	36.4%	11.5%
満足していない	5	5	1	2	4	4	1	2	1	3	3	0	2
	5.5%	4.7%	1.8%	3.4%	3.0%	9.5%	5.6%	2.3%	2.4%	6.8%	6.0%	0.0%	7.7%

4. 専攻全体での研究指導体制

		n. s.		n. s.				n. s.					n. s.			n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
非常に満足している	29	22	7	6	12	9	2	1	7	12	5	1	度数	27	2	24	5
	11.1%	10.0%	17.5%	10.9%	11.7%	12.9%	7.1%	14.3%	15.9%	9.8%	8.6%	5.6%	#VALUE!	11.2%	10.5%	10.6%	16.7%
満足している	128	111	16	28	43	35	19	3	19	66	27	8	度数	122	5	107	19
	49.0%	50.7%	40.0%	50.9%	41.7%	50.0%	67.9%	42.9%	43.2%	54.1%	46.6%	44.4%	#VALUE!	50.6%	26.3%	47.1%	63.3%
あまり満足していない	92	75	16	18	46	20	6	3	16	41	23	8	度数	81	11	84	6
	35.2%	34.2%	40.0%	32.7%	44.7%	28.6%	21.4%	42.9%	36.4%	33.6%	39.7%	44.4%	#VALUE!	33.6%	57.9%	37.0%	20.0%
満足していない	12	11	1	3	2	6	1	0	2	3	3	1	度数	11	1	12	0
	4.6%	5.0%	2.5%	5.5%	1.9%	8.6%	3.6%	0.0%	4.5%	2.5%	5.2%	5.6%	#VALUE!	4.6%	5.3%	5.3%	0.0%

	n. s.			*				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
非常に満足している	7	15	6	5	16	5	2	7	10	4	5	1	2
	7.7%	14.2%	10.9%	8.6%	11.9%	11.9%	11.1%	8.0%	23.8%	9.1%	10.0%	9.1%	7.7%
満足している	43	51	31	33	66	18	8	50	18	24	18	5	13
	47.3%	48.1%	56.4%	56.9%	48.9%	42.9%	44.4%	56.8%	42.9%	54.5%	36.0%	45.5%	50.0%
あまり満足していない	36	36	16	18	50	16	4	26	13	14	23	5	11
	39.6%	34.0%	29.1%	31.0%	37.0%	38.1%	22.2%	29.5%	31.0%	31.8%	46.0%	45.5%	42.3%
満足していない	5	4	2	2	3	3	4	5	1	2	4	0	0
	5.5%	3.8%	3.6%	3.4%	2.2%	7.1%	22.2%	5.7%	2.4%	4.5%	8.0%	0.0%	0.0%

5. カリキュラムの内容

		n. s.		n. s.				n. s.								*	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
非常に満足している	17	16	1	0	9	5	3	1	6	6	2	0	度数	15	2	12	5
	6.5%	7.3%	2.5%	0.0%	8.7%	7.2%	10.7%	14.3%	13.6%	4.9%	3.5%	0.0%	#VALUE!	6.3%	10.5%	5.3%	16.7%
満足している	154	124	29	36	58	42	15	5	25	78	33	8	度数	146	7	132	20
	59.2%	56.9%	72.5%	65.5%	56.3%	60.9%	53.6%	71.4%	56.8%	63.9%	57.9%	44.4%	#VALUE!	60.8%	36.8%	58.4%	66.7%
あまり満足していない	80	70	9	17	34	17	10	1	12	37	18	9	度数	71	9	73	5
	30.8%	32.1%	22.5%	30.9%	33.0%	24.6%	35.7%	14.3%	27.3%	30.3%	31.6%	50.0%	#VALUE!	29.6%	47.4%	32.3%	16.7%
満足していない	9	8	1	2	2	5	0	0	1	1	4	1	度数	8	1	9	0
	3.5%	3.7%	2.5%	3.6%	1.9%	7.2%	0.0%	0.0%	2.3%	0.8%	7.0%	5.6%	#VALUE!	3.3%	5.3%	4.0%	0.0%

	n. s.			n. s.				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
非常に満足している	1	11	4	0	11	3	2	6	3	2	3	1	2
	1.1%	10.5%	7.3%	0.0%	8.2%	7.1%	11.1%	6.9%	7.1%	4.5%	6.0%	9.1%	7.7%
満足している	53	60	37	37	79	24	9	57	23	29	27	6	12
	58.2%	57.1%	67.3%	63.8%	59.0%	57.1%	50.0%	65.5%	54.8%	65.9%	54.0%	54.5%	46.2%
あまり満足していない	33	31	13	21	39	13	5	22	15	12	15	4	12
	36.3%	29.5%	23.6%	36.2%	29.1%	31.0%	27.8%	25.3%	35.7%	27.3%	30.0%	36.4%	46.2%
満足していない	4	3	1	0	5	2	2	2	1	1	5	0	0
	4.4%	2.9%	1.8%	0.0%	3.7%	4.8%	11.1%	2.3%	2.4%	2.3%	10.0%	0.0%	0.0%

6. 研究施設・設備

		n. s.		n. s.				*								n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
非常に満足している	39	31	8	9	21	6	2	3	6	18	6	3	度数	37	2	37	2
	14.9%	14.2%	20.0%	16.4%	20.4%	8.6%	7.1%	42.9%	13.6%	14.8%	10.3%	16.7%	#VALUE!	15.4%	10.5%	16.3%	6.7%
満足している	135	110	24	35	45	39	14	2	22	63	34	9	度数	122	12	116	17
	51.7%	50.2%	60.0%	63.6%	43.7%	55.7%	50.0%	28.6%	50.0%	51.6%	58.6%	50.0%	#VALUE!	50.6%	63.2%	51.1%	56.7%
あまり満足していない	78	69	8	8	35	22	11	2	16	37	18	3	度数	73	5	65	11
	29.9%	31.5%	20.0%	14.5%	34.0%	31.4%	39.3%	28.6%	36.4%	30.3%	31.0%	16.7%	#VALUE!	30.3%	26.3%	28.6%	36.7%
満足していない	9	9	0	3	2	3	1	0	0	4	0	3	度数	9	0	9	0
	3.4%	4.1%	0.0%	5.5%	1.9%	4.3%	3.6%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%	16.7%	#VALUE!	3.7%	0.0%	4.0%	0.0%

	n. s.			n. s.				*					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
非常に満足している	14	15	8	5	23	4	4	16	6	12	2	0	3
	15.4%	14.2%	14.5%	8.6%	17.0%	9.5%	22.2%	18.2%	14.3%	27.3%	4.0%	0.0%	11.5%
満足している	55	49	27	36	67	21	8	45	22	18	26	5	19
	60.4%	46.2%	49.1%	62.1%	49.6%	50.0%	44.4%	51.1%	52.4%	40.9%	52.0%	45.5%	73.1%
あまり満足していない	19	40	17	16	42	14	4	24	13	14	17	6	4
	20.9%	37.7%	30.9%	27.6%	31.1%	33.3%	22.2%	27.3%	31.0%	31.8%	34.0%	54.5%	15.4%
満足していない	3	2	3	1	3	3	2	3	1	0	5	0	0
	3.3%	1.9%	5.5%	1.7%	2.2%	7.1%	11.1%	3.4%	2.4%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%

7. 学習施設・設備

		n. s.		n. s.				n. s.						n. s.			n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位				進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学	その他	学士号	修士号	博士号		就職前進学	就職後進学
非常に満足している	34	30	4	9	15	6	3	1	6	16	4	3	度数	32	2		31	3
	13.0%	13.7%	10.0%	16.4%	14.6%	8.6%	10.7%	14.3%	13.6%	13.1%	6.9%	16.7%	#VALUE!	13.3%	10.5%		13.7%	10.0%
満足している	139	111	26	33	58	32	13	3	24	62	37	9	度数	127	11		121	16
	53.3%	50.7%	65.0%	60.0%	56.3%	45.7%	46.4%	42.9%	54.5%	50.8%	63.8%	50.0%	#VALUE!	52.7%	57.9%		53.3%	53.3%
あまり満足していない	79	70	9	11	28	28	11	3	13	40	17	4	度数	73	6		66	11
	30.3%	32.0%	22.5%	20.0%	27.2%	40.0%	39.3%	42.9%	29.5%	32.8%	29.3%	22.2%	#VALUE!	30.3%	31.6%		29.1%	36.7%
満足していない	9	8	1	2	2	4	1	0	1	4	0	2	度数	9	0		9	0
	3.4%	3.7%	2.5%	3.6%	1.9%	5.7%	3.6%	0.0%	2.3%	3.3%	0.0%	11.1%	#VALUE!	3.7%	0.0%		4.0%	0.0%

	n. s.			n. s.				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階	現在の	現在の職	転職	その他	中央省	東京都	新潟県	広島県	香川県	大・
非常に満足している	10	15	8	5	18	6	4	16	4	7	3	0	4
	11.0%	14.2%	14.5%	8.6%	13.3%	14.3%	22.2%	18.2%	9.5%	15.9%	6.0%	0.0%	15.4%
満足している	59	48	27	35	74	18	7	45	24	26	25	5	14
	64.8%	45.3%	49.1%	60.3%	54.8%	42.9%	38.9%	51.1%	57.1%	59.1%	50.0%	45.5%	53.8%
あまり満足していない	18	41	18	17	39	17	4	24	13	11	18	6	7
	19.8%	38.7%	32.7%	29.3%	28.9%	40.5%	22.2%	27.3%	31.0%	25.0%	36.0%	54.5%	26.9%
満足していない	4	2	2	1	4	1	3	3	1	0	4	0	1
	4.4%	1.9%	3.6%	1.7%	3.0%	2.4%	16.7%	3.4%	2.4%	0.0%	8.0%	0.0%	3.8%

8. キャリアに関するセミナー・個別相談

		n.s.		n.s.				n.s.							n.s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
非常に満足している	10	8	2	4	3	1	1	1	3	4	0	0	度数	10	0	8	2
	3.9%	3.7%	5.3%	7.4%	2.9%	1.5%	3.6%	16.7%	7.1%	3.3%	0.0%	0.0%	#VALUE!	4.2%	0.0%	3.6%	7.1%
満足している	73	63	10	22	23	18	9	0	10	40	14	6	度数	71	2	63	10
	28.4%	29.0%	26.3%	40.7%	22.5%	26.5%	32.1%	0.0%	23.8%	32.8%	24.6%	33.3%	#VALUE!	29.8%	11.1%	28.0%	35.7%
あまり満足していない	116	94	20	19	47	34	13	2	19	52	29	9	度数	105	10	100	13
	45.1%	43.3%	52.6%	35.2%	46.1%	50.0%	46.4%	33.3%	45.2%	42.6%	50.9%	50.0%	#VALUE!	44.1%	55.6%	44.4%	46.4%
満足していない	58	52	6	9	29	15	5	3	10	26	14	3	度数	52	6	54	3
	22.6%	24.0%	15.8%	16.7%	28.4%	22.1%	17.9%	50.0%	23.8%	21.3%	24.6%	16.7%	#VALUE!	21.8%	33.3%	24.0%	10.7%

	n.s.			n.s.				n.s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階	現在の	現在の職	転職	その他	中央省	東京都	新潟県	広島県	香川県	大・
非常に満足している	5	4	0	1	7	0	1	3	1	2	2	0	2
	5.5%	3.8%	0.0%	1.7%	5.3%	0.0%	5.6%	3.5%	2.4%	4.5%	4.1%	0.0%	7.7%
満足している	28	27	18	18	39	10	5	29	10	13	11	2	8
	30.8%	26.0%	33.3%	31.0%	29.5%	23.8%	27.8%	33.7%	23.8%	29.5%	22.4%	20.0%	30.8%
あまり満足していない	38	46	29	24	57	22	9	40	23	19	19	6	9
	41.8%	44.2%	53.7%	41.4%	43.2%	52.4%	50.0%	46.5%	54.8%	43.2%	38.8%	60.0%	34.6%
満足していない	20	27	7	15	29	10	3	14	8	10	17	2	7
	22.0%	26.0%	13.0%	25.9%	22.0%	23.8%	16.7%	16.3%	19.0%	22.7%	34.7%	20.0%	26.9%

B7. 将来の大学院のあり方について、以下の考え方をどのように思いますか。

1. 専攻分野を超えた授業をもっと充実する

		性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
	全体	男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
		n. s.		n. s.				n. s.									n. s.
強くそう思う	26	21	5	7	12	4	3	1	4	16	2	1	度数	23	2	25	0
	10.0%	9.7%	12.2%	12.7%	11.8%	5.7%	11.1%	12.5%	9.3%	13.2%	3.4%	5.6%	#VALUE!	9.6%	10.5%	11.1%	0.0%
そう思う	85	68	17	18	29	26	12	4	11	43	18	6	度数	81	4	75	10
	32.8%	31.5%	41.5%	32.7%	28.4%	37.1%	44.4%	50.0%	25.6%	35.5%	31.0%	33.3%	#VALUE!	33.9%	21.1%	33.3%	33.3%
どちらともいえない	79	69	9	19	34	19	6	2	14	31	20	9	度数	75	4	64	12
	30.5%	31.9%	22.0%	34.5%	33.3%	27.1%	22.2%	25.0%	32.6%	25.6%	34.5%	50.0%	#VALUE!	31.4%	21.1%	28.4%	40.0%
あまり思わない	50	40	9	9	17	16	4	1	11	22	13	0	度数	44	6	44	6
	19.3%	18.5%	22.0%	16.4%	16.7%	22.9%	14.8%	12.5%	25.6%	18.2%	22.4%	0.0%	#VALUE!	18.4%	31.6%	19.6%	20.0%
全く思わない	19	18	1	2	10	5	2	0	3	9	5	2	度数	16	3	17	2
	7.3%	8.3%	2.4%	3.6%	9.8%	7.1%	7.4%	0.0%	7.0%	7.4%	8.6%	11.1%	#VALUE!	6.7%	15.8%	7.6%	6.7%

	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
	n. s.			*				n. s.					
強くそう思う	13	9	4	8	12	1	4	9	4	4	4	0	5
	14.4%	8.6%	7.3%	14.0%	9.0%	2.4%	22.2%	10.3%	9.5%	9.1%	8.2%	0.0%	19.2%
そう思う	21	36	27	22	49	8	4	28	15	11	20	4	7
	23.3%	34.3%	49.1%	38.6%	36.6%	19.0%	22.2%	32.2%	35.7%	25.0%	40.8%	36.4%	26.9%
どちらともいえない	32	28	14	13	40	16	6	27	13	13	14	4	8
	35.6%	26.7%	25.5%	22.8%	29.9%	38.1%	33.3%	31.0%	31.0%	29.5%	28.6%	36.4%	30.8%
あまり思わない	20	21	7	13	23	12	1	18	8	10	8	2	4
	22.2%	20.0%	12.7%	22.8%	17.2%	28.6%	5.6%	20.7%	19.0%	22.7%	16.3%	18.2%	15.4%
全く思わない	4	11	3	1	10	5	3	5	2	6	3	1	2
	4.4%	10.5%	5.5%	1.8%	7.5%	11.9%	16.7%	5.7%	4.8%	13.6%	6.1%	9.1%	7.7%

2. 授業の充実は研究時間が保障されないおそれがある

		n. s.		n. s.				***								*	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
強くそう思う	21	20	1	4	9	5	3	0	2	4	10	4	度数	17	4	21	0
	8.0%	9.2%	2.4%	7.1%	8.7%	7.1%	11.1%	0.0%	4.5%	3.3%	17.2%	22.2%	#VALUE!	7.1%	21.1%	9.3%	0.0%
そう思う	89	73	15	22	33	25	7	2	7	39	31	6	度数	82	7	83	5
	34.1%	33.5%	36.6%	39.3%	32.0%	35.7%	25.9%	25.0%	15.9%	32.2%	53.4%	33.3%	#VALUE!	34.0%	36.8%	36.6%	16.7%
どちらともいえない	88	71	16	10	38	27	10	3	20	44	11	5	度数	83	4	70	16
	33.7%	32.6%	39.0%	17.9%	36.9%	38.6%	37.0%	37.5%	45.5%	36.4%	19.0%	27.8%	#VALUE!	34.4%	21.1%	30.8%	53.3%
あまり思わない	56	47	9	18	20	12	6	3	15	28	5	3	度数	52	4	48	7
	21.5%	21.6%	22.0%	32.1%	19.4%	17.1%	22.2%	37.5%	34.1%	23.1%	8.6%	16.7%	#VALUE!	21.6%	21.1%	21.1%	23.3%
全く思わない	7	7	0	2	3	1	1	0	0	6	1	0	度数	7	0	5	2
	2.7%	3.2%	0.0%	3.6%	2.9%	1.4%	3.7%	0.0%	0.0%	5.0%	1.7%	0.0%	#VALUE!	2.9%	0.0%	2.2%	6.7%

	n. s.			n. s.				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
強くそう思う	7	11	2	2	10	5	4	5	2	7	6	0	1
	7.6%	10.4%	3.7%	3.4%	7.4%	11.9%	22.2%	5.7%	4.8%	15.9%	12.0%	0.0%	3.8%
そう思う	38	34	13	19	44	19	4	30	13	18	13	4	11
	41.3%	32.1%	24.1%	32.8%	32.6%	45.2%	22.2%	34.1%	31.0%	40.9%	26.0%	36.4%	42.3%
どちらともいえない	27	34	25	19	51	9	7	26	17	9	22	5	9
	29.3%	32.1%	46.3%	32.8%	37.8%	21.4%	38.9%	29.5%	40.5%	20.5%	44.0%	45.5%	34.6%
あまり思わない	17	24	13	17	26	8	2	25	8	9	9	2	3
	18.5%	22.6%	24.1%	29.3%	19.3%	19.0%	11.1%	28.4%	19.0%	20.5%	18.0%	18.2%	11.5%
全く思わない	3	3	1	1	4	1	1	2	2	1	0	0	2
	3.3%	2.8%	1.9%	1.7%	3.0%	2.4%	5.6%	2.3%	4.8%	2.3%	0.0%	0.0%	7.7%

3. 博士課程進学者に対し、授業を通じて獲得された基礎的な能力の試験を行う

		n. s.		n. s.				n. s.					*			n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
強くそう思う	10	10	0	0	4	3	3	0	1	8	1	0	度数	7	3	9	1
	3.9%	4.7%	0.0%	0.0%	4.0%	4.4%	11.1%	0.0%	2.3%	6.7%	1.8%	0.0%	#VALUE!	3.0%	15.8%	4.0%	3.7%
そう思う	52	43	9	18	19	10	4	2	10	23	12	1	度数	50	1	46	5
	20.2%	20.1%	22.0%	32.1%	18.8%	14.7%	14.8%	25.0%	23.3%	19.2%	21.1%	5.6%	#VALUE!	21.1%	5.3%	20.4%	18.5%
どちらともいえない	103	83	19	20	44	27	10	4	17	45	21	11	度数	95	8	88	12
	40.1%	38.8%	46.3%	35.7%	43.6%	39.7%	37.0%	50.0%	39.5%	37.5%	36.8%	61.1%	#VALUE!	40.1%	42.1%	38.9%	44.4%
あまり思わない	73	59	13	15	25	21	10	2	13	35	16	5	度数	69	4	67	6
	28.4%	27.6%	31.7%	26.8%	24.8%	30.9%	37.0%	25.0%	30.2%	29.2%	28.1%	27.8%	#VALUE!	29.1%	21.1%	29.6%	22.2%
全く思わない	19	19	0	3	9	7	0	0	2	9	7	1	度数	16	3	16	3
	7.4%	8.9%	0.0%	5.4%	8.9%	10.3%	0.0%	0.0%	4.7%	7.5%	12.3%	5.6%	#VALUE!	6.8%	15.8%	7.1%	11.1%

	*			*				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
強くそう思う	0	7	3	1	6	2	1	1	2	3	2	0	2
	0.0%	6.7%	5.8%	1.7%	4.6%	4.8%	5.6%	1.1%	4.8%	7.0%	4.3%	0.0%	7.7%
そう思う	26	20	6	16	29	7	0	21	7	8	7	1	8
	28.3%	19.2%	11.5%	27.6%	22.1%	16.7%	0.0%	23.9%	16.7%	18.6%	14.9%	9.1%	30.8%
どちらともいえない	34	39	27	24	55	11	9	25	17	20	22	6	13
	37.0%	37.5%	51.9%	41.4%	42.0%	26.2%	50.0%	28.4%	40.5%	46.5%	46.8%	54.5%	50.0%
あまり思わない	26	27	15	17	33	14	5	33	11	10	12	4	3
	28.3%	26.0%	28.8%	29.3%	25.2%	33.3%	27.8%	37.5%	26.2%	23.3%	25.5%	36.4%	11.5%
全く思わない	6	11	1	0	8	8	3	8	5	2	4	0	0
	6.5%	10.6%	1.9%	0.0%	6.1%	19.0%	16.7%	9.1%	11.9%	4.7%	8.5%	0.0%	0.0%

4. 修士課程修了単位（30単位以上）を少なくする

		n. s.		n. s.				n. s.					n. s.			n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
強くそう思う	7	7	0	1	3	3	0	0	1	2	4	0	度数	5	2	7	0
	2.7%	3.2%	0.0%	1.8%	2.9%	4.3%	0.0%	0.0%	2.3%	1.6%	6.9%	0.0%	#VALUE!	2.1%	10.5%	3.1%	0.0%
そう思う	30	23	7	5	15	9	1	1	4	13	6	4	度数	27	3	27	3
	11.5%	10.5%	17.1%	8.9%	14.6%	12.9%	3.6%	12.5%	9.1%	10.7%	10.3%	22.2%	#VALUE!	11.2%	15.8%	11.8%	10.0%
どちらともいえない	127	105	20	20	51	38	15	3	19	63	27	10	度数	117	9	109	15
	48.5%	47.9%	48.8%	35.7%	49.5%	54.3%	53.6%	37.5%	43.2%	51.6%	46.6%	55.6%	#VALUE!	48.3%	47.4%	47.8%	50.0%
あまり思わない	81	68	13	24	30	16	10	4	17	34	17	4	度数	76	5	71	9
	30.9%	31.1%	31.7%	42.9%	29.1%	22.9%	35.7%	50.0%	38.6%	27.9%	29.3%	22.2%	#VALUE!	31.4%	26.3%	31.1%	30.0%
全く思わない	17	16	1	6	4	4	2	0	3	10	4	0	度数	17	0	14	3
	6.5%	7.3%	2.4%	10.7%	3.9%	5.7%	7.1%	0.0%	6.8%	8.2%	6.9%	0.0%	#VALUE!	7.0%	0.0%	6.1%	10.0%

	n. s.			n. s.				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
強くそう思う	1	6	0	0	5	2	0	1	2	2	2	0	0
	1.1%	5.7%	0.0%	0.0%	3.7%	4.8%	0.0%	1.1%	4.8%	4.5%	4.0%	0.0%	0.0%
そう思う	11	15	3	4	16	9	1	10	3	5	7	2	3
	12.0%	14.2%	5.5%	6.9%	11.8%	21.4%	5.6%	11.2%	7.1%	11.4%	14.0%	18.2%	11.5%
どちらともいえない	43	43	35	26	65	16	13	39	22	25	26	5	10
	46.7%	40.6%	63.6%	44.8%	47.8%	38.1%	72.2%	43.8%	52.4%	56.8%	52.0%	45.5%	38.5%
あまり思わない	29	35	15	22	44	11	3	34	12	10	12	4	9
	31.5%	33.0%	27.3%	37.9%	32.4%	26.2%	16.7%	38.2%	28.6%	22.7%	24.0%	36.4%	34.6%
全く思わない	8	7	2	6	6	4	1	5	3	2	3	0	4
	8.7%	6.6%	3.6%	10.3%	4.4%	9.5%	5.6%	5.6%	7.1%	4.5%	6.0%	0.0%	15.4%

5. 院生による授業評価を導入する

		n. s. 性		n. s. 年代				n. s. 専門分野（学部）					n. s. 取得学位			n. s. 進学のタイミング	
	全体	男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
強くそう思う	21	17	4	6	8	4	3	2	4	8	4	2	度数	19	2	20	1
	8.0%	7.8%	9.8%	10.7%	7.8%	5.7%	10.7%	25.0%	9.1%	6.6%	6.9%	11.1%	#VALUE!	7.9%	10.5%	8.8%	3.3%
そう思う	96	75	20	22	34	28	10	3	23	44	17	4	度数	92	3	78	16
	36.6%	34.2%	48.8%	39.3%	33.0%	40.0%	35.7%	37.5%	52.3%	36.1%	29.3%	22.2%	#VALUE!	38.0%	15.8%	34.2%	53.3%
どちらともいえない	90	79	10	19	37	23	9	3	10	42	23	8	度数	82	8	81	7
	34.4%	36.1%	24.4%	33.9%	35.9%	32.9%	32.1%	37.5%	22.7%	34.4%	39.7%	44.4%	#VALUE!	33.9%	42.1%	35.5%	23.3%
あまり思わない	36	30	6	7	15	9	5	0	7	18	8	2	度数	31	5	31	5
	13.7%	13.7%	14.6%	12.5%	14.6%	12.9%	17.9%	0.0%	15.9%	14.8%	13.8%	11.1%	#VALUE!	12.8%	26.3%	13.6%	16.7%
全く思わない	19	18	1	2	9	6	1	0	0	10	6	2	度数	18	1	18	1
	7.3%	8.2%	2.4%	3.6%	8.7%	8.6%	3.6%	0.0%	0.0%	8.2%	10.3%	11.1%	#VALUE!	7.4%	5.3%	7.9%	3.3%

	n. s. 仕事上の発達段階			* 将来の働き方				n. s. 現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
強くそう思う	7	11	2	4	8	4	4	8	5	4	2	1	1
	7.6%	10.4%	3.6%	6.9%	5.9%	9.5%	22.2%	9.0%	11.9%	9.1%	4.0%	9.1%	3.8%
そう思う	31	40	24	25	56	11	1	29	13	18	19	6	11
	33.7%	37.7%	43.6%	43.1%	41.2%	26.2%	5.6%	32.6%	31.0%	40.9%	38.0%	54.5%	42.3%
どちらともいえない	34	36	15	20	46	13	7	30	19	16	15	4	6
	37.0%	34.0%	27.3%	34.5%	33.8%	31.0%	38.9%	33.7%	45.2%	36.4%	30.0%	36.4%	23.1%
あまり思わない	12	11	12	5	19	10	2	14	4	4	8	0	6
	13.0%	10.4%	21.8%	8.6%	14.0%	23.8%	11.1%	15.7%	9.5%	9.1%	16.0%	0.0%	23.1%
全く思わない	8	8	2	4	7	4	4	8	1	2	6	0	2
	8.7%	7.5%	3.6%	6.9%	5.1%	9.5%	22.2%	9.0%	2.4%	4.5%	12.0%	0.0%	7.7%

6. カリキュラムをもっと体系化・標準化する

		n. s.		n. s.				*								n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
強くそう思う	12	12	0	1	6	3	2	0	4	7	0	1	度数	11	1	9	2
	4.6%	5.5%	0.0%	1.8%	5.8%	4.3%	7.1%	0.0%	9.1%	5.7%	0.0%	5.6%	#VALUE!	4.5%	5.3%	3.9%	6.7%
そう思う	64	52	11	14	18	19	11	3	18	17	15	6	度数	59	4	54	8
	24.4%	23.7%	26.8%	25.0%	17.5%	27.1%	39.3%	37.5%	40.9%	13.9%	25.9%	33.3%	#VALUE!	24.4%	21.1%	23.7%	26.7%
どちらともいえない	114	95	18	22	51	31	8	4	11	59	25	9	度数	107	7	100	13
	43.5%	43.4%	43.9%	39.3%	49.5%	44.3%	28.6%	50.0%	25.0%	48.4%	43.1%	50.0%	#VALUE!	44.2%	36.8%	43.9%	43.3%
あまり思わない	53	44	9	15	19	13	6	1	9	31	11	0	度数	48	5	46	7
	20.2%	20.1%	22.0%	26.8%	18.4%	18.6%	21.4%	12.5%	20.5%	25.4%	19.0%	0.0%	#VALUE!	19.8%	26.3%	20.2%	23.3%
全く思わない	19	16	3	4	9	4	1	0	2	8	7	2	度数	17	2	19	0
	7.3%	7.3%	7.3%	7.1%	8.7%	5.7%	3.6%	0.0%	4.5%	6.6%	12.1%	11.1%	#VALUE!	7.0%	10.5%	8.3%	0.0%

	*			n. s.				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
強くそう思う	1	10	1	3	5	2	2	3	1	4	2	1	1
	1.1%	9.4%	1.8%	5.2%	3.7%	4.8%	11.1%	3.4%	2.4%	9.1%	4.0%	9.1%	3.8%
そう思う	22	24	16	14	39	8	1	30	9	9	9	2	5
	23.9%	22.6%	29.1%	24.1%	28.7%	19.0%	5.6%	33.7%	21.4%	20.5%	18.0%	18.2%	19.2%
どちらともいえない	42	38	30	28	60	15	6	29	22	22	23	7	11
	45.7%	35.8%	54.5%	48.3%	44.1%	35.7%	33.3%	32.6%	52.4%	50.0%	46.0%	63.6%	42.3%
あまり思わない	18	28	5	10	26	11	5	20	7	7	11	1	7
	19.6%	26.4%	9.1%	17.2%	19.1%	26.2%	27.8%	22.5%	16.7%	15.9%	22.0%	9.1%	26.9%
全く思わない	9	6	3	3	6	6	4	7	3	2	5	0	2
	9.8%	5.7%	5.5%	5.2%	4.4%	14.3%	22.2%	7.9%	7.1%	4.5%	10.0%	0.0%	7.7%

7. キャリア開発・就職指導を重視する

		n. s.		n. s.				n. s.					*			n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
強くそう思う	35	26	9	11	17	5	2	1	9	18	2	3	度数	30	4	31	3
	13.4%	11.9%	22.0%	19.6%	16.5%	7.1%	7.1%	12.5%	20.5%	14.8%	3.4%	16.7%	#VALUE!	12.4%	21.1%	13.6%	10.0%
そう思う	95	76	17	22	34	24	11	5	15	40	27	4	度数	92	3	87	7
	36.3%	34.7%	41.5%	39.3%	33.0%	34.3%	39.3%	62.5%	34.1%	32.8%	46.6%	22.2%	#VALUE!	38.0%	15.8%	38.2%	23.3%
どちらともいえない	77	68	9	15	34	20	8	1	11	40	14	7	度数	67	10	65	11
	29.4%	31.1%	22.0%	26.8%	33.0%	28.6%	28.6%	12.5%	25.0%	32.8%	24.1%	38.9%	#VALUE!	27.7%	52.6%	28.5%	36.7%
あまり思わない	39	34	5	6	11	15	7	0	9	17	10	2	度数	39	0	30	8
	14.9%	15.5%	12.2%	10.7%	10.7%	21.4%	25.0%	0.0%	20.5%	13.9%	17.2%	11.1%	#VALUE!	16.1%	0.0%	13.2%	26.7%
全く思わない	16	15	1	2	7	6	0	1	0	7	5	2	度数	14	2	15	1
	6.1%	6.8%	2.4%	3.6%	6.8%	8.6%	0.0%	12.5%	0.0%	5.7%	8.6%	11.1%	#VALUE!	5.8%	10.5%	6.6%	3.3%

	n. s.			n. s.				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
強くそう思う	13	15	6	8	18	5	4	9	6	9	4	1	6
	14.1%	14.2%	10.9%	13.8%	13.2%	11.9%	22.2%	10.1%	14.3%	20.5%	8.0%	9.1%	23.1%
そう思う	35	36	19	26	50	12	3	35	12	20	17	3	8
	38.0%	34.0%	34.5%	44.8%	36.8%	28.6%	16.7%	39.3%	28.6%	45.5%	34.0%	27.3%	30.8%
どちらともいえない	25	29	21	15	41	12	5	28	15	8	16	1	9
	27.2%	27.4%	38.2%	25.9%	30.1%	28.6%	27.8%	31.5%	35.7%	18.2%	32.0%	9.1%	34.6%
あまり思わない	11	20	8	7	22	8	2	11	6	4	9	6	3
	12.0%	18.9%	14.5%	12.1%	16.2%	19.0%	11.1%	12.4%	14.3%	9.1%	18.0%	54.5%	11.5%
全く思わない	8	6	1	2	5	5	4	6	3	3	4	0	0
	8.7%	5.7%	1.8%	3.4%	3.7%	11.9%	22.2%	6.7%	7.1%	6.8%	8.0%	0.0%	0.0%

8. 主専攻以外に副専攻を導入する

		n. s.		n. s.				n. s.						n. s.			n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位				進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号		就職前進学	就職後進学
強くそう思う	9	8	1	2	4	2	1	0	0	9	0	0	度数	9	0		9	0
	3.5%	3.7%	2.4%	3.6%	3.9%	2.9%	3.7%	0.0%	0.0%	7.5%	0.0%	0.0%	#VALUE!	3.8%	0.0%		4.0%	0.0%
そう思う	62	52	10	15	29	13	5	1	13	28	12	5	度数	57	4		52	8
	23.8%	24.0%	24.4%	26.8%	28.4%	18.6%	18.5%	12.5%	29.5%	23.3%	20.7%	27.8%	#VALUE!	23.8%	21.1%		23.0%	26.7%
どちらともいえない	108	86	20	21	38	33	13	4	22	43	24	9	度数	101	7		91	15
	41.5%	39.6%	48.8%	37.5%	37.3%	47.1%	48.1%	50.0%	50.0%	35.8%	41.4%	50.0%	#VALUE!	42.1%	36.8%		40.3%	50.0%
あまり思わない	58	50	8	13	22	15	7	2	7	27	17	2	度数	54	4		54	4
	22.3%	23.0%	19.5%	23.2%	21.6%	21.4%	25.9%	25.0%	15.9%	22.5%	29.3%	11.1%	#VALUE!	22.5%	21.1%		23.9%	13.3%
全く思わない	23	21	2	5	9	7	1	1	2	13	5	2	度数	19	4		20	3
	8.8%	9.7%	4.9%	8.9%	8.8%	10.0%	3.7%	12.5%	4.5%	10.8%	8.6%	11.1%	#VALUE!	7.9%	21.1%		8.8%	10.0%

	n. s.			n. s.				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
強くそう思う	3	5	1	4	3	1	1	3	3	1	2	0	0
	3.3%	4.8%	1.9%	6.9%	2.2%	2.4%	5.6%	3.4%	7.3%	2.3%	4.0%	0.0%	0.0%
そう思う	20	24	16	9	40	9	3	22	10	8	11	4	7
	21.7%	22.9%	29.6%	15.5%	29.9%	21.4%	16.7%	24.7%	24.4%	18.2%	22.0%	36.4%	28.0%
どちらともいえない	38	39	26	28	50	18	8	38	16	19	18	6	11
	41.3%	37.1%	48.1%	48.3%	37.3%	42.9%	44.4%	42.7%	39.0%	43.2%	36.0%	54.5%	44.0%
あまり思わない	22	25	10	10	32	10	3	20	9	8	15	1	5
	23.9%	23.8%	18.5%	17.2%	23.9%	23.8%	16.7%	22.5%	22.0%	18.2%	30.0%	9.1%	20.0%
全く思わない	9	12	1	7	9	4	3	6	3	8	4	0	2
	9.8%	11.4%	1.9%	12.1%	6.7%	9.5%	16.7%	6.7%	7.3%	18.2%	8.0%	0.0%	8.0%

9. 大学院教育の情報を企業や地域社会に公開する

		n. s.		n. s.				n. s.					n. s.			n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
強くそう思う	51	43	8	11	23	10	6	1	11	27	7	2	度数	48	3	46	4
	19.5%	19.6%	19.5%	19.6%	22.3%	14.3%	21.4%	12.5%	25.0%	22.1%	12.1%	11.1%	#VALUE!	19.8%	15.8%	20.2%	13.3%
そう思う	123	102	20	26	40	40	14	5	21	60	28	6	度数	113	9	103	19
	46.9%	46.6%	48.8%	46.4%	38.8%	57.1%	50.0%	62.5%	47.7%	49.2%	48.3%	33.3%	#VALUE!	46.7%	47.4%	45.2%	63.3%
どちらともいえない	68	54	13	14	34	12	7	2	12	24	19	7	度数	63	5	61	5
	26.0%	24.7%	31.7%	25.0%	33.0%	17.1%	25.0%	25.0%	27.3%	19.7%	32.8%	38.9%	#VALUE!	26.0%	26.3%	26.8%	16.7%
あまり思わない	15	15	0	5	5	5	0	0	0	8	4	2	度数	14	1	14	1
	5.7%	6.8%	0.0%	8.9%	4.9%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	6.6%	6.9%	11.1%	#VALUE!	5.8%	5.3%	6.1%	3.3%
全く思わない	5	5	0	0	1	3	1	0	0	3	0	1	度数	4	1	4	1
	1.9%	2.3%	0.0%	0.0%	1.0%	4.3%	3.6%	0.0%	0.0%	2.5%	0.0%	5.6%	#VALUE!	1.7%	5.3%	1.8%	3.3%

	*			n. s.				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
強くそう思う	20	19	10	12	25	9	4	16	6	8	10	3	8
	21.7%	17.9%	18.2%	20.7%	18.4%	21.4%	22.2%	18.0%	14.3%	18.2%	20.0%	27.3%	30.8%
そう思う	35	51	32	33	65	15	7	49	20	17	22	5	10
	38.0%	48.1%	58.2%	56.9%	47.8%	35.7%	38.9%	55.1%	47.6%	38.6%	44.0%	45.5%	38.5%
どちらともいえない	33	22	11	9	37	13	5	17	13	18	14	1	5
	35.9%	20.8%	20.0%	15.5%	27.2%	31.0%	27.8%	19.1%	31.0%	40.9%	28.0%	9.1%	19.2%
あまり思わない	3	10	2	3	7	4	1	6	1	0	3	2	3
	3.3%	9.4%	3.6%	5.2%	5.1%	9.5%	5.6%	6.7%	2.4%	0.0%	6.0%	18.2%	11.5%
全く思わない	1	4	0	1	2	1	1	1	2	1	1	0	0
	1.1%	3.8%	0.0%	1.7%	1.5%	2.4%	5.6%	1.1%	4.8%	2.3%	2.0%	0.0%	0.0%

10. ＤＣ、ＰＤの採用枠をもっと拡大する

		n. s.		n. s.				n. s.					*			n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
強くそう思う	31	27	4	4	14	9	4	1	4	16	6	3	度数	24	7	27	4
	11.9%	12.4%	10.0%	7.1%	13.7%	13.0%	14.3%	12.5%	9.1%	13.3%	10.3%	16.7%	#VALUE!	10.0%	36.8%	11.9%	13.3%
そう思う	67	54	12	14	30	14	8	4	11	32	13	3	度数	63	3	56	10
	25.8%	24.8%	30.0%	25.0%	29.4%	20.3%	28.6%	50.0%	25.0%	26.7%	22.4%	16.7%	#VALUE!	26.3%	15.8%	24.8%	33.3%
どちらともいえない	125	102	22	28	44	36	14	2	25	54	30	10	度数	119	6	111	12
	48.1%	46.8%	55.0%	50.0%	43.1%	52.2%	50.0%	25.0%	56.8%	45.0%	51.7%	55.6%	#VALUE!	49.6%	31.6%	49.1%	40.0%
あまり思わない	23	21	2	6	10	7	0	1	4	10	6	1	度数	21	2	19	3
	8.8%	9.6%	5.0%	10.7%	9.8%	10.1%	0.0%	12.5%	9.1%	8.3%	10.3%	5.6%	#VALUE!	8.8%	10.5%	8.4%	10.0%
全く思わない	14	14	0	4	4	3	2	0	0	8	3	1	度数	13	1	13	1
	5.4%	6.4%	0.0%	7.1%	3.9%	4.3%	7.1%	0.0%	0.0%	6.7%	5.2%	5.6%	#VALUE!	5.4%	5.3%	5.8%	3.3%

	n. s.			n. s.				*					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
強くそう思う	7	13	10	8	14	5	3	16	4	5	4	0	2
	7.7%	12.3%	18.5%	13.8%	10.4%	11.9%	16.7%	18.2%	9.5%	11.6%	8.0%	0.0%	7.7%
そう思う	29	27	10	12	39	10	4	18	17	11	14	2	5
	31.9%	25.5%	18.5%	20.7%	29.1%	23.8%	22.2%	20.5%	40.5%	25.6%	28.0%	18.2%	19.2%
どちらともいえない	39	50	30	29	67	17	7	39	19	19	28	6	14
	42.9%	47.2%	55.6%	50.0%	50.0%	40.5%	38.9%	44.3%	45.2%	44.2%	56.0%	54.5%	53.8%
あまり思わない	9	10	3	5	12	4	2	10	1	7	1	3	1
	9.9%	9.4%	5.6%	8.6%	9.0%	9.5%	11.1%	11.4%	2.4%	16.3%	2.0%	27.3%	3.8%
全く思わない	7	6	1	4	2	6	2	5	1	1	3	0	4
	7.7%	5.7%	1.9%	6.9%	1.5%	14.3%	11.1%	5.7%	2.4%	2.3%	6.0%	0.0%	15.4%

11. 院生への経済的支援をもっと競争的にする

		n. s.		n. s.				n. s.						n. s.			n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位				進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号		就職前進学	就職後進学
強くそう思う	27	23	4	8	11	5	3	1	2	16	8	0	度数	22	5		26	1
	100.0%	85.2%	14.8%	29.6%	40.7%	18.5%	11.1%	3.7%	7.4%	59.3%	29.6%	0.0%	7Q11 の	81.5%	18.5%		96.3%	3.7%
そう思う	72	59	12	21	27	15	8	2	12	37	10	6	度数	66	5		63	8
	27.6%	27.1%	29.3%	37.5%	26.2%	21.7%	28.6%	25.0%	27.3%	30.6%	17.2%	33.3%	#VALUE!	27.4%	26.3%		27.8%	26.7%
どちらともいえない	117	96	20	15	50	36	13	4	20	48	29	9	度数	110	7		99	16
	44.8%	44.0%	48.8%	26.8%	48.5%	52.2%	46.4%	50.0%	45.5%	39.7%	50.0%	50.0%	#VALUE!	45.6%	36.8%		43.6%	53.3%
あまり思わない	32	27	5	11	10	8	3	1	9	14	6	2	度数	32	0		27	4
	12.3%	12.4%	12.2%	19.6%	9.7%	11.6%	10.7%	12.5%	20.5%	11.6%	10.3%	11.1%	#VALUE!	13.3%	0.0%		11.9%	13.3%
全く思わない	13	13	0	1	5	5	1	0	1	6	5	1	度数	11	2		12	1
	5.0%	6.0%	0.0%	1.8%	4.9%	7.2%	3.6%	0.0%	2.3%	5.0%	8.6%	5.6%	#VALUE!	4.6%	10.5%		5.3%	3.3%

		n. s.		n. s.				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
強くそう思う	10	11	6	5	13	8	1	11	8	3	0	1	4
	37.0%	40.7%	22.2%	18.5%	48.1%	29.6%	3.7%	12.4%	19.0%	7.0%	0.0%	9.1%	15.4%
そう思う	28	29	13	18	37	12	3	24	15	12	12	2	7
	30.4%	27.6%	23.6%	31.6%	27.2%	28.6%	16.7%	27.0%	35.7%	27.9%	24.0%	18.2%	26.9%
どちらともいえない	38	48	25	27	61	16	9	40	12	19	30	6	10
	41.3%	45.7%	45.5%	47.4%	44.9%	38.1%	50.0%	44.9%	28.6%	44.2%	60.0%	54.5%	38.5%
あまり思わない	13	11	7	5	19	4	2	11	4	5	6	2	4
	14.1%	10.5%	12.7%	8.8%	14.0%	9.5%	11.1%	12.4%	9.5%	11.6%	12.0%	18.2%	15.4%
全く思わない	3	6	4	2	6	2	3	3	3	4	2	0	1
	3.3%	5.7%	7.3%	3.5%	4.4%	4.8%	16.7%	3.4%	7.1%	9.3%	4.0%	0.0%	3.8%

12. 大学院進学者をもっと増やすべき

		n. s.		n. s.				n. s.					n. s.			n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
強くそう思う	18	15	3	4	10	2	2	0	3	10	3	1	度数	16	2	14	3
	6.9%	6.8%	7.3%	7.1%	9.7%	2.9%	7.1%	0.0%	6.8%	8.2%	5.2%	5.6%	#VALUE!	6.6%	10.5%	6.1%	10.0%
そう思う	41	40	1	9	14	13	4	0	8	23	5	2	度数	39	1	33	7
	15.6%	18.3%	2.4%	16.1%	13.6%	18.6%	14.3%	0.0%	18.2%	18.9%	8.6%	11.1%	#VALUE!	16.1%	5.3%	14.5%	23.3%
どちらともいえない	109	84	23	18	37	36	16	7	18	49	23	7	度数	101	8	94	13
	41.6%	38.4%	56.1%	32.1%	35.9%	51.4%	57.1%	87.5%	40.9%	40.2%	39.7%	38.9%	#VALUE!	41.7%	42.1%	41.2%	43.3%
あまり思わない	57	48	9	12	31	10	3	0	10	23	17	6	度数	52	5	52	5
	21.8%	21.9%	22.0%	21.4%	30.1%	14.3%	10.7%	0.0%	22.7%	18.9%	29.3%	33.3%	#VALUE!	21.5%	26.3%	22.8%	16.7%
全く思わない	37	32	5	13	11	9	3	1	5	17	10	2	度数	34	3	35	2
	14.1%	14.6%	12.2%	23.2%	10.7%	12.9%	10.7%	12.5%	11.4%	13.9%	17.2%	11.1%	#VALUE!	14.0%	15.8%	15.4%	6.7%

	n. s.			*				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
強くそう思う	9	6	3	1	11	5	1	4	4	4	2	1	3
	9.8%	5.7%	5.5%	1.7%	8.1%	11.9%	5.6%	4.5%	9.5%	9.1%	4.0%	9.1%	11.5%
そう思う	12	18	10	12	26	2	0	16	8	7	7	2	1
	13.0%	17.0%	18.2%	20.7%	19.1%	4.8%	0.0%	18.0%	19.0%	15.9%	14.0%	18.2%	3.8%
どちらともいえない	33	38	31	28	51	16	7	26	20	16	27	7	13
	35.9%	35.8%	56.4%	48.3%	37.5%	38.1%	38.9%	29.2%	47.6%	36.4%	54.0%	63.6%	50.0%
あまり思わない	21	29	7	7	35	10	5	27	4	11	9	0	6
	22.8%	27.4%	12.7%	12.1%	25.7%	23.8%	27.8%	30.3%	9.5%	25.0%	18.0%	0.0%	23.1%
全く思わない	17	15	4	10	13	9	5	16	6	6	5	1	3
	18.5%	14.2%	7.3%	17.2%	9.6%	21.4%	27.8%	18.0%	14.3%	13.6%	10.0%	9.1%	11.5%

13. 学位取得のプロセスをもっと円滑にすべき

		n. s.		n. s.				n. s.					n. s.			n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
強くそう思う	12	11	1	0	6	4	2	0	2	6	4	0	度数	9	3	11	1
	4.6%	5.0%	2.4%	0.0%	5.8%	5.7%	7.1%	0.0%	4.5%	4.9%	6.9%	0.0%	#VALUE!	3.7%	15.8%	4.8%	3.3%
そう思う	66	58	7	12	22	20	11	0	15	29	14	4	度数	61	4	56	8
	25.2%	26.5%	17.1%	21.4%	21.4%	28.6%	39.3%	0.0%	34.1%	23.8%	24.1%	22.2%	#VALUE!	25.2%	21.1%	24.6%	26.7%
どちらともいえない	125	102	22	30	50	31	11	7	22	53	25	11	度数	116	9	106	17
	47.7%	46.6%	53.7%	53.6%	48.5%	44.3%	39.3%	87.5%	50.0%	43.4%	43.1%	61.1%	#VALUE!	47.9%	47.4%	46.5%	56.7%
あまり思わない	44	36	8	10	19	12	3	1	3	28	10	2	度数	41	3	41	3
	16.8%	16.4%	19.5%	17.9%	18.4%	17.1%	10.7%	12.5%	6.8%	23.0%	17.2%	11.1%	#VALUE!	16.9%	15.8%	18.0%	10.0%
全く思わない	15	12	3	4	6	3	1	0	2	6	5	1	度数	15	0	14	1
	5.7%	5.5%	7.3%	7.1%	5.8%	4.3%	3.6%	0.0%	4.5%	4.9%	8.6%	5.6%	#VALUE!	6.2%	0.0%	6.1%	3.3%

	n. s.			n. s.				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
強くそう思う	4	4	4	1	4	6	1	7	1	1	1	0	2
	4.3%	3.8%	7.3%	1.7%	2.9%	14.3%	5.6%	7.9%	2.4%	2.3%	2.0%	0.0%	7.7%
そう思う	17	28	18	17	35	10	2	23	14	12	9	3	5
	18.5%	26.4%	32.7%	29.3%	25.7%	23.8%	11.1%	25.8%	33.3%	27.3%	18.0%	27.3%	19.2%
どちらともいえない	47	52	22	32	62	16	11	36	17	24	29	6	13
	51.1%	49.1%	40.0%	55.2%	45.6%	38.1%	61.1%	40.4%	40.5%	54.5%	58.0%	54.5%	50.0%
あまり思わない	17	15	10	4	28	7	3	17	9	5	8	1	4
	18.5%	14.2%	18.2%	6.9%	20.6%	16.7%	16.7%	19.1%	21.4%	11.4%	16.0%	9.1%	15.4%
全く思わない	7	7	1	4	7	3	1	6	1	2	3	1	2
	7.6%	6.6%	1.8%	6.9%	5.1%	7.1%	5.6%	6.7%	2.4%	4.5%	6.0%	9.1%	7.7%

B8. 大学院修了後、大学の教員や企業等の研究職以外の職につくことについて

		n.s.		*				n.s.								n.s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
修士課程・博士前期課程修了者が増えれば、大学の教員や企業等の研究職以外の職に就職する者が増えることは当然	125	108	17	23	57	30	14	2	24	63	23	5	度数	116	7	103	18
	47.7%	49.5%	40.5%	41.1%	55.3%	42.9%	50.0%	25.0%	55.8%	52.1%	39.7%	27.8%	#VALUE!	48.3%	36.8%	45.4%	62.1%
大学教員や企業等の研究職のポストが限られているので、大学の教員や企業等の研究職以外の職に就職する者が増え	114	90	22	29	40	33	8	4	16	51	30	10	度数	103	11	106	7
	43.5%	41.3%	52.4%	51.8%	38.8%	47.1%	28.6%	50.0%	37.2%	42.1%	51.7%	55.6%	#VALUE!	42.9%	57.9%	46.7%	24.1%
大学教員や企業等の研究職のポストを増やすべきであり、大学の教員や企業等の研究職以外の職に就職する者が増えることは望ましく	14	12	2	2	4	6	2	2	0	4	4	2	度数	12	1	11	2
	5.3%	5.5%	4.8%	3.6%	3.9%	8.6%	7.1%	25.0%	0.0%	3.3%	6.9%	11.1%	#VALUE!	5.0%	5.3%	4.8%	6.9%
その他	9	8	1	2	2	1	4	0	3	3	1	1	度数	9	0	7	2
	3.4%	3.7%	2.4%	3.6%	1.9%	1.4%	14.3%	0.0%	7.0%	2.5%	1.7%	5.6%	#VALUE!	3.8%	0.0%	3.1%	6.9%

		n.s.		n.s.				n.s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
修士課程・博士前期課程修了者が増えれば、大学の教員や企業等の研究職以外の職に就職する者が増えることは当然	41	56	26	26	63	23	11	44	18	21	22	5	15
	44.1%	52.8%	48.1%	45.6%	46.7%	52.3%	61.1%	49.4%	43.9%	47.7%	44.0%	45.5%	55.6%
大学教員や企業等の研究職のポストが限られているので、大学の教員や企業等の研究職以外の職に就職する者が増え	45	43	20	27	61	17	4	37	17	19	23	6	12
	48.4%	40.6%	37.0%	47.4%	45.2%	38.6%	22.2%	41.6%	41.5%	43.2%	46.0%	54.5%	44.4%
大学教員や企業等の研究職のポストを増やすべきであり、大学の教員や企業等の研究職以外の職に就職する者が増えることは望ましく	6	3	4	2	8	3	1	3	4	2	5	0	0
	6.5%	2.8%	7.4%	3.5%	5.9%	6.8%	5.6%	3.4%	9.8%	4.5%	10.0%	0.0%	0.0%
その他	1	4	4	2	3	1	2	5	2	2	0	0	0
	1.1%	3.8%	7.4%	3.5%	2.2%	2.3%	11.1%	5.6%	4.9%	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%

C1. 学部卒業時に、修士課程への進学を考えたか

		n. s.		n. s.						***				n. s.				
	全体	性		年代				専門分野（学部）						取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他		学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
進学を考えた	89	73	14	19	23	28	15	10	26	30	15	6		84	3	1	－	－
	19.2%	20.0%	14.7%	21.1%	18.5%	18.9%	15.6%	18.5%	11.9%	34.9%	30.6%	16.7%		19.2%	23.1%	50.0%		
進学は考えなかった	365	286	77	68	100	115	80	42	193	53	31	29		346	9	1	－	－
	78.7%	78.4%	81.1%	75.6%	80.6%	77.7%	83.3%	77.8%	88.1%	61.6%	63.3%	80.6%		79.0%	69.2%	50.0%		
その他	10	6	4	3	1	5	1	2	0	3	3	1		8	1	0	－	－
	2.2%	1.6%	4.2%	3.3%	0.8%	3.4%	1.0%	3.7%	0.0%	3.5%	6.1%	2.8%		1.8%	7.7%	0.0%		

	n. s.			n. s.				***					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
進学を考えた	26	38	25	21	48	10	9	26	16	19	17	8	3
	22.8%	16.9%	21.4%	18.4%	19.1%	22.7%	19.1%	33.3%	28.6%	19.4%	13.1%	18.6%	5.1%
進学は考えなかった	85	184	88	90	200	32	36	51	39	79	107	34	55
	74.6%	81.8%	75.2%	78.9%	79.7%	72.7%	76.6%	65.4%	69.6%	80.6%	82.3%	79.1%	93.2%
その他	3	3	4	3	3	2	2	1	1	0	6	1	1
	2.6%	1.3%	3.4%	2.6%	1.2%	4.5%	4.3%	1.3%	1.8%	0.0%	4.6%	2.3%	1.7%

C2. なぜ修士課程に進学しなかったのか

1. 大学院入試で不合格になったので

	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
		n. s.					n. s.					n. s			n. s		
1. 大学院入試で不合格になったので	8 5.2%	7 5.8%	1 3.3%	1 3.2%	2 5.0%	5 10.4%	0 0.0%	1 7.7%	4 6.7%	2 4.9%	1 5.3%	0 0.0%	7 5.0%	1 14.3%	0 0.0%	－	－
		n. s.				*					n. s.				n. s.		
2. 大学での成績が良くなかったので	7 4.6%	6 5.0%	1 3.3%	0 0.0%	3 7.5%	0 0.0%	4 13.3%	1 7.7%	2 3.3%	3 7.3%	0 0.0%	0 0.0%	7 5.0%	0 0.0%	0 0.0%	－	－
		n. s.				n. s.					n. s.				n. s.		
3. 大学院進学にメリットが感じられなかったので	36 23.5%	26 21.5%	10 33.3%	10 32.3%	7 17.5%	11 22.9%	6 20.0%	2 15.4%	16 26.7%	9 22.0%	2 10.5%	6 40.0%	33 23.4%	0 0.0%	1 100.0%	－	－
		n. s.				n. s.					n. s.				n. s.		
4. 回りの者に就職を勧められたので	9 5.9%	7 5.8%	2 6.7%	2 6.5%	1 2.5%	4 8.3%	2 6.7%	2 15.4%	2 3.3%	4 9.8%	1 5.3%	0 0.0%	7 5.0%	1 14.3%	0 0.0%	－	－
		n. s.				n. s.					n. s.				n. s.		
5. 就職の方がメリットがあると思ったから	60 39.2%	46 38.0%	12 40.0%	15 48.4%	17 42.5%	18 37.5%	7 23.3%	2 15.4%	26 43.3%	16 39.0%	6 31.6%	7 46.7%	55 39.0%	3 42.9%	0 0.0%	－	－
		n. s.				n. s.					n. s.				n. s.		
6. お金に余裕がなかったので	33 21.6%	28 23.1%	5 16.7%	6 19.4%	6 15.0%	12 25.0%	9 30.0%	2 15.4%	13 21.7%	11 26.8%	2 10.5%	4 26.7%	32 22.7%	1 14.3%	0 0.0%	－	－
		*				n. s.					**				n. s.		
7. 研究（勉強）したいことがなかったから	17 11.1%	10 8.3%	7 23.3%	5 16.1%	3 7.5%	7 14.6%	2 6.7%	4 30.8%	6 10.0%	1 2.4%	1 5.3%	5 33.3%	15 10.6%	1 14.3%	0 0.0%	－	－
		n. s.				n. s.					n. s.				n. s.		
8. 希望の職場に就職が内定していたので	49 32.0%	39 32.2%	9 30.0%	8 25.8%	15 37.5%	14 29.2%	11 36.7%	3 23.1%	17 28.3%	14 34.1%	10 52.6%	4 26.7%	44 31.2%	3 42.9%	0 0.0%	－	－
		n. s.				n. s.					n. s.				n. s.		
9. 先輩や同級生で大学院進学する者が少なかったので	8 5.2%	5 4.1%	3 10.0%	4 12.9%	0 0.0%	3 6.3%	1 3.3%	1 7.7%	5 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.7%	7 5.0%	0 0.0%	0 0.0%	－	－
		n. s.				n. s.					n. s.				n. s.		
10. 大学院の情報が少なかったので	12 7.8%	9 7.4%	3 10.0%	5 16.1%	3 7.5%	1 2.1%	2 6.7%	1 7.7%	7 11.7%	0 0.0%	1 5.3%	1 6.7%	11 7.8%	0 0.0%	0 0.0%	－	－
		n. s.				n. s.					n. s.				n. s.		
11. 生活に満足していたので	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	－	－
		n. s.				n. s.					n. s.				n. s.		
12. 時間に余裕がなかったから	7 4.6%	7 5.8%	0 0.0%	1 3.2%	0 0.0%	2 4.2%	4 13.3%	1 7.7%	3 5.0%	1 2.4%	0 0.0%	1 6.7%	6 4.3%	1 14.3%	0 0.0%	－	－

	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
			n. s				n. s						n. s
1. 大学院入試で不合格になったので	1 2.5%	5 6.8%	2 5.1%	2 6.1%	5 5.6%	0 0.0%	1 7.1%	1 2.6%	2 9.1%	4 12.9%	1 2.4%	0 0.0%	0 0.0%
			n. s.				n. s.						n. s.
2. 大学での成績が良くなかったので	3 7.5%	3 4.1%	1 2.6%	3 9.1%	2 2.2%	2 13.3%	0 0.0%	2 5.3%	0 0.0%	1 3.2%	3 7.3%	0 0.0%	1 10.0%
			n. s.				n. s.						n. s.
3. 大学院進学にメリットが感じられなかったので	9 22.5%	17 23.3%	9 23.1%	7 21.2%	21 23.6%	4 26.7%	4 28.6%	7 18.4%	7 31.8%	6 19.4%	12 29.3%	2 18.2%	2 20.0%
			n. s.				n. s.						n. s.
4. 回りの者に就職を勧められたので	2 5.0%	5 6.8%	2 5.1%	4 12.1%	3 3.4%	0 0.0%	2 14.3%	3 7.9%	4 18.2%	1 3.2%	1 2.4%	0 0.0%	0 0.0%
			n. s.				n. s.						n. s.
5. 就職の方がメリットがあると思ったから	17 42.5%	30 41.1%	12 30.8%	15 45.5%	37 41.6%	3 20.0%	3 21.4%	11 28.9%	10 45.5%	12 38.7%	17 41.5%	4 36.4%	6 60.0%
			n. s.				n. s.						n. s.
6. お金に余裕がなかったので	7 17.5%	19 26.0%	7 17.9%	4 12.1%	17 19.1%	6 40.0%	5 35.7%	10 26.3%	4 18.2%	2 6.5%	11 26.8%	2 18.2%	4 40.0%
			n. s.				n. s.						n. s.
7. 研究（勉強）したいことがなかったから	6 15.0%	9 12.3%	2 5.1%	0 0.0%	11 12.4%	3 20.0%	3 21.4%	5 13.2%	1 4.5%	5 16.1%	5 12.2%	1 9.1%	0 0.0%
			*				n. s.						n. s.
8. 希望の職場に就職が内定していたので	12 30.0%	17 23.3%	19 48.7%	8 24.2%	33 37.1%	4 26.7%	4 28.6%	10 26.3%	6 27.3%	10 32.3%	16 39.0%	6 54.5%	1 10.0%
			n. s.				n. s.						n. s.
9. 先輩や同級生で大学院進学する者が少なかったので	3 7.5%	4 5.5%	1 2.6%	2 6.1%	4 4.5%	2 13.3%	0 0.0%	1 2.6%	0 0.0%	1 3.2%	3 7.3%	1 9.1%	2 20.0%
			n. s.				***						n. s.
10. 大学院の情報が少なかったので	2 5.0%	8 11.0%	2 5.1%	3 9.1%	4 4.5%	0 0.0%	5 35.7%	4 10.5%	1 4.5%	3 9.7%	2 4.9%	1 9.1%	1 10.0%
			n. s.				n. s.						n. s.
11. 生活に満足していたので	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
			n. s.				n. s.						n. s.
12. 時間に余裕がなかったから	1 2.5%	5 6.8%	1 2.6%	2 6.1%	2 2.2%	2 13.3%	1 7.1%	2 5.3%	0 0.0%	2 6.5%	3 7.3%	0 0.0%	0 0.0%

C3. 現在、大学院への入学を考えていますか

		n. s.		n. s.							*			***		*	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
条件が合えば修士課程に入学したい	84	63	20	20	25	24	14	13	36	17	8	7	72	12	0	10	2
	11.9%	11.2%	14.9%	14.0%	11.4%	11.5%	11.6%	21.3%	14.0%	8.6%	7.8%	13.5%	16.5%	5.2%	0.0%	4.6%	6.7%
条件が合えば博士課程に入学したい	56	45	10	18	17	14	5	2	14	23	11	4	4	50	1	42	8
	8.0%	8.0%	7.5%	12.6%	7.7%	6.7%	4.1%	3.3%	5.4%	11.7%	10.7%	7.7%	0.9%	21.6%	4.8%	19.4%	26.7%
考えていない	560	453	104	105	177	170	101	46	205	157	84	41	358	169	20	165	19
	79.7%	80.3%	77.6%	73.4%	80.5%	81.3%	83.5%	75.4%	79.5%	79.7%	81.6%	78.8%	82.1%	72.8%	95.2%	76.0%	63.3%
その他	3	3	0	0	1	1	1	0	3	0	0	0	2	1	0	0	1
	0.4%	0.5%	0.0%	0.0%	0.5%	0.5%	0.8%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.4%	0.0%	0.0%	3.3%

	n. s.			***				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
条件が合えば修士課程に入学したい	29	33	21	12	44	17	9	27	10	12	17	9	9
	14.3%	10.4%	12.7%	7.3%	11.8%	19.3%	14.3%	16.7%	10.6%	8.7%	9.7%	17.3%	11.0%
条件が合えば博士課程に入学したい	21	24	11	8	29	16	3	20	11	9	9	3	4
	10.3%	7.5%	6.7%	4.8%	7.8%	18.2%	4.8%	12.3%	11.7%	6.5%	5.1%	5.8%	4.9%
考えていない	153	259	132	145	298	54	50	115	73	116	148	40	68
	75.4%	81.4%	80.0%	87.9%	80.1%	61.4%	79.4%	71.0%	77.7%	84.1%	84.6%	76.9%	82.9%
その他	0	2	1	0	1	1	1	0	0	1	1	0	1
	0.0%	0.6%	0.6%	0.0%	0.3%	1.1%	1.6%	0.0%	0.0%	0.7%	0.6%	0.0%	1.2%

C4. 大学院に入学希望の理由

	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
		n. s.					n. s.					*			n. s.		n. s.
1. 現在の仕事に関して、より専門的な知識や技術を身につけるため	96 62.3%	74 62.2%	20 64.5%	30 76.9%	30 62.5%	22 53.7%	11 52.4%	4 25.0%	33 58.9%	31 72.1%	14 66.7%	10 76.9%	51 61.4%	42 61.8%	2 100.0%	38 66.7%	6 50.0%
		n. s.					n. s.					n. s.			n. s.		n. s.
2. 仕事に必要な基礎的なスキル（コミュニケーション能力や問題解決能力など）を身につけるため	31 20.1%	24 20.2%	6 19.4%	13 33.3%	10 20.8%	5 12.2%	2 9.5%	2 12.5%	10 17.9%	12 27.9%	5 23.8%	1 7.7%	16 19.3%	14 20.6%	0 0.0%	14 24.6%	0 0.0%
		n. s.					n. s.					n. s.			n. s.		n. s.
3. 現在在職している会社での処遇の向上（昇進・昇給）のため	16 10.4%	15 12.6%	1 3.2%	5 12.8%	8 16.7%	0 0.0%	3 14.3%	2 12.5%	7 12.5%	3 7.0%	3 14.3%	1 7.7%	11 13.3%	5 7.4%	0 0.0%	4 7.0%	1 8.3%
		n. s.				*						n. s.			n. s.		n. s.
4. これまでの仕事経験を理論的に整理するため	42 27.3%	34 28.6%	7 22.6%	7 17.9%	9 18.8%	14 34.1%	10 47.6%	3 18.8%	19 33.9%	12 27.9%	2 9.5%	4 30.8%	20 24.1%	20 29.4%	1 50.0%	15 26.3%	6 50.0%
		n. s.					n. s.					n. s.			n. s.		n. s.
5. 教員や同級生などと交流し、人的ネットワークを充実させるため	34 22.1%	25 21.0%	8 25.8%	12 30.8%	12 25.0%	4 9.8%	4 19.0%	4 25.0%	14 25.0%	7 16.3%	5 23.8%	4 30.8%	18 21.7%	15 22.1%	1 50.0%	13 22.8%	3 25.0%
		n. s.					n. s.					n. s.			n. s.		n. s.
6. 仕事に関係なく、興味・関心のある分野の勉強がしたいから	73 47.4%	57 47.9%	15 48.4%	19 48.7%	22 45.8%	21 51.2%	10 47.6%	12 75.0%	29 51.8%	16 37.2%	8 38.1%	6 46.2%	42 50.6%	30 44.1%	0 0.0%	27 47.4%	3 25.0%
		n. s.					n. s.					n. s.			n. s.		n. s.
7. 論理的にものごとを考える力を高めるため	41 26.6%	35 29.4%	6 19.4%	11 28.2%	17 35.4%	8 19.5%	5 23.8%	5 31.3%	18 32.1%	7 16.3%	7 33.3%	3 23.1%	27 32.5%	13 19.1%	0 0.0%	12 21.1%	1 8.3%
		n. s.					n. s.					n. s.			n. s.		*
8. 転職や独立開業のため、知識と技能を身に付けたい	23 14.9%	17 14.3%	5 16.1%	3 7.7%	8 16.7%	6 14.6%	5 23.8%	1 6.3%	9 16.1%	5 11.6%	6 28.6%	1 7.7%	15 18.1%	8 11.8%	0 0.0%	4 7.0%	4 33.3%
		n. s.					n. s.					n. s.			**		n. s.
9. 研究職に就くため	17 11.0%	15 12.6%	1 3.2%	6 15.4%	7 14.6%	2 4.9%	1 4.8%	1 6.3%	8 14.3%	3 7.0%	4 19.0%	0 0.0%	3 3.6%	12 17.6%	1 50.0%	9 15.8%	3 25.0%
		n. s.					n. s.					n. s.			n. s.		n. s.
10. 大学院修了という学歴が欲しいから	16 10.4%	15 12.6%	1 3.2%	4 10.3%	8 16.7%	2 4.9%	2 9.5%	0 0.0%	8 14.3%	4 9.3%	1 4.8%	3 23.1%	11 13.3%	4 5.9%	1 50.0%	3 5.3%	2 16.7%
		n. s.					n. s.					n. s.			n. s.		n. s.
11. 生活に刺激が欲しいから	24 15.6%	20 16.8%	4 12.9%	11 28.2%	5 10.4%	6 14.6%	2 9.5%	4 25.0%	9 16.1%	5 11.6%	2 9.5%	3 23.1%	12 14.5%	11 16.2%	0 0.0%	10 17.5%	1 8.3%
		n. s.					n. s.					n. s.			n. s.		n. s.
12. キャリアを変えるため	21 13.6%	15 12.6%	6 19.4%	8 20.5%	8 16.7%	4 9.8%	1 4.8%	3 18.8%	13 23.2%	3 7.0%	2 9.5%	0 0.0%	14 16.9%	7 10.3%	0 0.0%	6 10.5%	1 8.3%
		n. s.					n. s.					n. s.			n. s.		n. s.
13. 大学の教員から誘われたので	5 3.2%	4 3.4%	1 3.2%	2 5.1%	2 4.2%	1 2.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.8%	2 4.7%	1 4.8%	1 7.7%	2 2.4%	3 4.4%	0 0.0%	2 3.5%	1 8.3%
		n. s.					n. s.					n. s.			n. s.		n. s.
14. 時間に余裕ができたから	6 3.9%	5 4.2%	1 3.2%	0 0.0%	3 6.3%	1 2.4%	2 9.5%	1 6.3%	2 3.6%	2 4.7%	1 4.8%	0 0.0%	3 3.6%	3 4.4%	0 0.0%	3 5.3%	0 0.0%

	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
			n. s.				*						n. s.
1. 現在の仕事に関して、より専門的な知識や技術を身につけるため	38 70.4%	35 55.6%	22 62.9%	15 68.2%	57 70.4%	18 51.4%	4 30.8%	34 69.4%	15 71.4%	17 60.7%	13 44.8%	8 61.5%	9 64.3%
			*				**						n. s.
2. 仕事に必要な基礎的なスキル（コミュニケーション能力や問題解決能力など）を身につけるため	16 29.6%	11 17.5%	3 8.6%	9 40.9%	18 22.2%	2 5.7%	1 7.7%	15 30.6%	4 19.0%	2 7.1%	6 20.7%	2 15.4%	2 14.3%
			n. s.				n. s.						n. s.
3. 現在在職している会社での処遇の向上（昇進・昇給）のため	7 13.0%	8 12.7%	1 2.9%	3 13.6%	10 12.3%	3 8.6%	0 0.0%	4 8.2%	2 9.5%	3 10.7%	3 10.3%	3 23.1%	1 7.1%
			n. s.				n. s.						n. s.
4. これまでの仕事経験を理論的に整理するため	11 20.4%	16 25.4%	15 42.9%	2 9.1%	28 34.6%	7 20.0%	5 38.5%	14 28.6%	7 33.3%	9 32.1%	7 24.1%	2 15.4%	3 21.4%
			n. s.				n. s.						n. s.
5. 教員や同級生などと交流し、人的ネットワークを充実させるため	16 29.6%	12 19.0%	5 14.3%	7 31.8%	17 21.0%	7 20.0%	2 15.4%	12 24.5%	3 14.3%	7 25.0%	4 13.8%	3 23.1%	5 35.7%
			n. s.				n. s.						n. s.
6. 仕事に関係なく、興味・関心のある分野の勉強がしたいから	30 55.6%	26 41.3%	16 45.7%	14 63.6%	31 38.3%	18 51.4%	9 69.2%	23 46.9%	11 52.4%	10 35.7%	12 41.4%	9 69.2%	8 57.1%
			*				n. s.						n. s.
7. 論理的にものごとを考える力を高めるため	14 25.9%	22 34.9%	4 11.4%	7 31.8%	24 29.6%	6 17.1%	3 23.1%	12 24.5%	5 23.8%	8 28.6%	10 34.5%	3 23.1%	3 21.4%
			n. s.				***						n. s.
8. 転職や独立開業のため、知識と技能を身に付けたい	8 14.8%	7 11.1%	8 22.9%	0 0.0%	9 11.1%	13 37.1%	1 7.7%	6 12.2%	1 4.8%	6 21.4%	5 17.2%	2 15.4%	3 21.4%
			n. s.				n. s.						n. s.
9. 研究職に就くため	6 11.1%	10 15.9%	1 2.9%	2 9.1%	6 7.4%	8 22.9%	1 7.7%	6 12.2%	3 14.3%	3 10.7%	2 6.9%	3 23.1%	0 0.0%
			n. s.				n. s.						n. s.
10. 大学院修了という学歴が欲しいから	8 14.8%	6 9.5%	2 5.7%	2 9.1%	5 6.2%	7 20.0%	2 15.4%	7 14.3%	2 9.5%	3 10.7%	1 3.4%	2 15.4%	1 7.1%
			n. s.				n. s.						n. s.
11. 生活に刺激が欲しいから	11 20.4%	11 17.5%	2 5.7%	4 18.2%	9 11.1%	7 20.0%	4 30.8%	11 22.4%	4 19.0%	5 17.9%	2 6.9%	1 7.7%	1 7.1%
			n. s.				***						n. s.
12. キャリアを変えるため	9 16.7%	7 11.1%	5 14.3%	2 9.1%	5 6.2%	12 34.3%	2 15.4%	9 18.4%	1 4.8%	3 10.7%	4 13.8%	3 23.1%	1 7.1%
			n. s.				n. s.						**
13. 大学の教員から誘われたので	2 3.7%	2 3.2%	1 2.9%	2 9.1%	1 1.2%	2 5.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 14.3%	0 0.0%	1 7.7%	0 0.0%
			n. s.				n. s.						*
14. 時間に余裕ができたから	2 3.7%	3 4.8%	1 2.9%	2 9.1%	3 3.7%	1 2.9%	0 0.0%	0 0.0%	3 14.3%	1 3.6%	0 0.0%	2 15.4%	0 0.0%

C5. どのような進学形態を望みますか

	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
		n. s.					n. s.					n. s.			n. s.		n. s.
1. 通信制	35 22.2%	25 20.5%	8 25.0%	6 14.6%	8 16.0%	12 29.3%	7 33.3%	4 25.0%	17 29.8%	6 13.3%	4 19.0%	2 14.3%	21 24.7%	12 17.1%	1 50.0%	9 15.5%	3 25.0%
		n. s.					n. s.				*				*		n. s.
2. 夜間部	60 38.0%	43 35.2%	15 46.9%	12 29.3%	17 34.0%	18 43.9%	11 52.4%	5 31.3%	31 54.4%	12 26.7%	4 19.0%	5 35.7%	37 43.5%	20 28.6%	2 100.0%	15 25.9%	6 50.0%
		n. s.					n. s.				n. s.				**		n. s.
3. 昼夜開講制	28 17.7%	22 18.0%	6 18.8%	5 12.2%	11 22.0%	8 19.5%	4 19.0%	1 6.3%	13 22.8%	8 17.8%	3 14.3%	2 14.3%	16 18.8%	10 14.3%	2 100.0%	9 15.5%	3 25.0%
		n. s.					n. s.				n. s.				n. s.		*
4. 昼間部	38 24.1%	30 24.6%	8 25.0%	14 34.1%	15 30.0%	7 17.1%	2 9.5%	7 43.8%	9 15.8%	12 26.7%	8 38.1%	2 14.3%	15 17.6%	23 32.9%	0 0.0%	22 37.9%	1 8.3%
		n. s.					n. s.				n. s.				n. s.		n. s.
5. まだわからない	40 25.3%	32 26.2%	8 25.0%	12 29.3%	15 30.0%	8 19.5%	5 23.8%	4 25.0%	9 15.8%	15 33.3%	6 28.6%	6 42.9%	23 27.1%	17 24.3%	0 0.0%	15 25.9%	1 8.3%

	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
		*				n. s.							n. s.
1. 通信制	7 12.3%	14 21.9%	13 37.1%	3 13.6%	22 26.2%	6 17.1%	3 23.1%	6 11.8%	5 23.8%	7 25.0%	9 31.0%	3 23.1%	5 31.3%
		*				n. s.							n. s.
2. 夜間部	16 28.1%	25 39.1%	19 54.3%	6 27.3%	32 38.1%	16 45.7%	6 46.2%	14 27.5%	12 57.1%	7 25.0%	14 48.3%	5 38.5%	8 50.0%
		n. s.				n. s.							n. s.
3. 昼夜開講制	10 17.5%	11 17.2%	7 20.0%	4 18.2%	17 20.2%	4 11.4%	2 15.4%	9 17.6%	4 19.0%	6 21.4%	4 13.8%	4 30.8%	1 6.3%
		n. s.				n. s.							*
4. 昼間部	15 26.3%	18 28.1%	4 11.4%	6 27.3%	17 20.2%	10 28.6%	4 30.8%	18 35.3%	4 19.0%	9 32.1%	1 3.4%	3 23.1%	3 18.8%
		n. s.				n. s.							n. s.
5. まだわからない	18 31.6%	15 23.4%	7 20.0%	7 31.8%	23 27.4%	9 25.7%	1 7.7%	12 23.5%	6 28.6%	7 25.0%	9 31.0%	3 23.1%	3 18.8%

C6. 大学院に入学する際、現在の職場とどのような関係で入学したいですか？

	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
		n. s.		n. s.				n. s.					n. s.			n. s.	
そのまま勤めながら進学する	94	74	18	26	26	28	11	8	36	29	10	8	55	37	1	31	6
	61.0%	62.7%	56.3%	65.0%	53.1%	71.8%	52.4%	50.0%	64.3%	65.9%	47.6%	61.5%	66.3%	54.4%	50.0%	54.4%	54.5%
退職してから進学する	12	8	4	1	4	2	5	3	3	2	4	0	6	6	0	6	0
	7.8%	6.8%	12.5%	2.5%	8.2%	5.1%	23.8%	18.8%	5.4%	4.5%	19.0%	0.0%	7.2%	8.8%	0.0%	10.5%	0.0%
休職して進学する	26	18	8	10	9	3	4	3	8	5	6	3	14	12	0	9	3
	16.9%	15.3%	25.0%	25.0%	18.4%	7.7%	19.0%	18.8%	14.3%	11.4%	28.6%	23.1%	16.9%	17.6%	0.0%	15.8%	27.3%
転職して進学する	1	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0
	0.6%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%	1.8%	0.0%
わからない	17	13	2	2	7	5	1	2	7	5	1	2	7	9	1	9	0
	11.0%	11.0%	6.3%	5.0%	14.3%	12.8%	4.8%	12.5%	12.5%	11.4%	4.8%	15.4%	8.4%	13.2%	50.0%	15.8%	0.0%
その他	4	4	0	1	3	0	0	0	2	2	0	0	1	3	0	1	2
	2.6%	3.4%	0.0%	2.5%	6.1%	0.0%	0.0%	0.0%	3.6%	4.5%	0.0%	0.0%	1.2%	4.4%	0.0%	1.8%	18.2%

	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
	n. s.			***				n. s.					
そのまま勤めながら進学する	32	40	22	15	56	19	4	24	15	17	18	9	11
	58.2%	63.5%	64.7%	68.2%	68.3%	54.3%	30.8%	49.0%	71.4%	60.7%	64.3%	69.2%	73.3%
退職してから進学する	4	5	3	1	4	3	4	3	2	3	1	1	2
	7.3%	7.9%	8.8%	4.5%	4.9%	8.6%	30.8%	6.1%	9.5%	10.7%	3.6%	7.7%	13.3%
休職して進学する	11	11	3	3	12	8	2	12	3	4	4	2	1
	20.0%	17.5%	8.8%	13.6%	14.6%	22.9%	15.4%	24.5%	14.3%	14.3%	14.3%	15.4%	6.7%
転職して進学する	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0
	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%
わからない	7	3	6	3	9	4	0	7	1	2	5	1	1
	12.7%	4.8%	17.6%	13.6%	11.0%	11.4%	0.0%	14.3%	4.8%	7.1%	17.9%	7.7%	6.7%
その他	1	3	0	0	1	0	3	3	0	1	0	0	0
	1.8%	4.8%	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%	23.1%	6.1%	0.0%	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%

C7. 大学院で学びたい内容は以下のどの分野が一番近いですか

		**		n. s.				***					n. s.			n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
人文科学系	14	8	6	3	5	3	3	6	5	1	1	1	11	3	0	3	0
	9.7%	7.0%	20.0%	8.1%	10.4%	7.9%	14.3%	37.5%	9.4%	2.4%	5.3%	8.3%	13.9%	4.8%	0.0%	5.7%	0.0%
社会科学系	68	61	7	23	19	15	11	6	40	13	4	4	39	27	2	21	7
	46.9%	53.0%	23.3%	62.2%	39.6%	39.5%	52.4%	37.5%	75.5%	31.7%	21.1%	33.3%	49.4%	42.9%	100.0%	39.6%	63.6%
理学系	3	1	2	0	2	1	0	0	0	0	2	1	0	3	0	3	0
	2.1%	0.9%	6.7%	0.0%	4.2%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.5%	8.3%	0.0%	4.8%	0.0%	5.7%	0.0%
工学系	23	20	3	1	10	10	1	0	0	21	0	1	7	16	0	14	2
	15.9%	17.4%	10.0%	2.7%	20.8%	26.3%	4.8%	0.0%	0.0%	51.2%	0.0%	8.3%	8.9%	25.4%	0.0%	26.4%	18.2%
農学系	14	10	4	5	3	4	2	0	0	1	12	0	7	6	0	6	0
	9.7%	8.7%	13.3%	13.5%	6.3%	10.5%	9.5%	0.0%	0.0%	2.4%	63.2%	0.0%	8.9%	9.5%	0.0%	11.3%	0.0%
医歯薬系	3	3	0	1	0	2	0	1	0	0	0	2	1	2	0	2	0
	2.1%	2.6%	0.0%	2.7%	0.0%	5.3%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	1.3%	3.2%	0.0%	3.8%	0.0%
保健科学系	6	2	4	2	1	1	2	0	2	0	0	3	5	1	0	0	1
	4.1%	1.7%	13.3%	5.4%	2.1%	2.6%	9.5%	0.0%	3.8%	0.0%	0.0%	25.0%	6.3%	1.6%	0.0%	0.0%	9.1%
福祉系	1	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0
	0.7%	0.9%	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%	1.9%	0.0%
教育系	5	3	2	1	2	1	1	3	2	0	0	0	5	0	0	0	0
	3.4%	2.6%	6.7%	2.7%	4.2%	2.6%	4.8%	18.8%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	8	6	2	1	5	1	1	0	3	5	0	0	4	4	0	3	1
	5.5%	5.2%	6.7%	2.7%	10.4%	2.6%	4.8%	0.0%	5.7%	12.2%	0.0%	0.0%	5.1%	6.3%	0.0%	5.7%	9.1%

	n. s.			n. s.									***
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
人文科学系	7 13.7%	4 6.6%	3 9.4%	2 9.5%	6 8.1%	5 14.3%	1 7.7%	5 10.4%	1 5.0%	2 7.7%	3 11.5%	1 7.7%	2 16.7%
社会科学系	25 49.0%	29 47.5%	14 43.8%	11 52.4%	34 45.9%	14 40.0%	8 61.5%	25 52.1%	6 30.0%	12 46.2%	15 57.7%	8 61.5%	2 16.7%
理学系	2 3.9%	0 0.0%	1 3.1%	1 4.8%	1 1.4%	1 2.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.8%	1 3.8%	0 0.0%	1 8.3%
工学系	6 11.8%	13 21.3%	4 12.5%	3 14.3%	15 20.3%	4 11.4%	1 7.7%	4 8.3%	10 50.0%	5 19.2%	1 3.8%	1 7.7%	2 16.7%
農学系	4 7.8%	7 11.5%	3 9.4%	0 0.0%	10 13.5%	3 8.6%	1 7.7%	8 16.7%	1 5.0%	3 11.5%	2 7.7%	0 0.0%	0 0.0%
医歯薬系	3 5.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.7%	0 0.0%	1 7.7%	1 2.1%	0 0.0%	1 3.8%	0 0.0%	1 7.7%	0 0.0%
保健科学系	1 2.0%	2 3.3%	3 9.4%	1 4.8%	3 4.1%	1 2.9%	1 7.7%	0 0.0%	1 5.0%	1 3.8%	3 11.5%	0 0.0%	1 8.3%
福祉系	0 0.0%	1 1.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.8%	0 0.0%	0 0.0%
教育系	2 3.9%	1 1.6%	1 3.1%	0 0.0%	2 2.7%	2 5.7%	0 0.0%	5 10.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
その他	1 2.0%	4 6.6%	3 9.4%	3 14.3%	1 1.4%	4 11.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.0%	1 3.8%	0 0.0%	2 15.4%	4 33.3%

C8. 進学したい大学院は決まっていますか？

		n. s.		n. s.				n. s.					n. s.			n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
決まっている	14 9.4%	13 11.0%	1 3.2%	1 2.6%	3 6.3%	7 17.5%	3 14.3%	1 6.3%	6 11.1%	4 9.5%	1 5.0%	0 0.0%	5 6.3%	9 13.6%	0 0.0%	6 10.7%	3 27.3%
複数候補があるが、１つには絞れていない	30 20.1%	21 17.8%	9 29.0%	10 25.6%	9 18.8%	7 17.5%	4 19.0%	3 18.8%	13 24.1%	10 23.8%	2 10.0%	1 8.3%	13 16.3%	16 24.2%	0 0.0%	14 25.0%	2 18.2%
まだ決まっていない	105 70.5%	84 71.2%	21 67.7%	28 71.8%	36 75.0%	26 65.0%	14 66.7%	12 75.0%	35 64.8%	28 66.7%	17 85.0%	11 91.7%	62 77.5%	41 62.1%	2 100.0%	36 64.3%	6 54.5%
その他	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

		n. s.			n. s.				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業						
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
決まっている	4 7.7%	5 8.1%	5 14.7%	0 0.0%	7 9.0%	5 14.3%	1 7.7%	5 10.2%	3 14.3%	3 11.5%	1 3.6%	1 7.7%	1 8.3%
複数候補があるが、１つには絞れていない	12 23.1%	9 14.5%	8 23.5%	4 19.0%	15 19.2%	7 20.0%	3 23.1%	11 22.4%	7 33.3%	3 11.5%	3 10.7%	3 23.1%	3 25.0%
まだ決まっていない	36 69.2%	48 77.4%	21 61.8%	17 81.0%	56 71.8%	23 65.7%	9 69.2%	33 67.3%	11 52.4%	20 76.9%	24 85.7%	9 69.2%	8 66.7%
その他	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

C9. 大学院を選ぶ基準は？

	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
		n. s.					n. s.					*			n. s.		n. s.
1. 学びたい授業（学部、学科）がある	111	85	26	33	34	31	13	13	46	24	16	8	65	43	2	35	9
	70.3%	69.7%	81.3%	80.5%	68.0%	75.6%	61.9%	81.3%	80.7%	53.3%	76.2%	57.1%	76.5%	61.4%	100.0%	60.3%	75.0%
		n. s.					n. s.					*			n. s.		n. s.
2. 社会人が授業を受けやすいカリキュラムを実施している	84	65	19	19	26	23	15	10	34	26	4	6	51	31	1	26	6
	53.2%	53.3%	59.4%	46.3%	52.0%	56.1%	71.4%	62.5%	59.6%	57.8%	19.0%	42.9%	60.0%	44.3%	50.0%	44.8%	50.0%
		n. s.					n. s.					n. s.			n. s.		n. s.
3. 通学しやすい立地条件	68	54	14	15	26	17	10	8	25	17	8	8	39	27	1	22	5
	43.0%	44.3%	43.8%	36.6%	52.0%	41.5%	47.6%	50.0%	43.9%	37.8%	38.1%	57.1%	45.9%	38.6%	50.0%	37.9%	41.7%
		*					n. s.					n. s.			*		n. s.
4. 学びたい分野で定評がある	58	41	17	19	18	12	8	8	21	17	6	5	24	31	2	28	5
	36.7%	33.6%	53.1%	46.3%	36.0%	29.3%	38.1%	50.0%	36.8%	37.8%	28.6%	35.7%	28.2%	44.3%	100.0%	48.3%	41.7%
合計		n. s.					n. s.					n. s.			n. s.		n. s.
5. 取得できる資格がある	18	13	5	5	7	6	0	2	9	1	2	1	12	5	0	5	0
	11.4%	10.7%	15.6%	12.2%	14.0%	14.6%	0.0%	12.5%	15.8%	2.2%	9.5%	7.1%	14.1%	7.1%	0.0%	8.6%	0.0%
		n. s.					n. s.					n. s.			*		n. s.
6. 学びたい先生がいる	48	37	11	9	18	14	7	3	16	15	9	3	20	26	2	24	4
	30.4%	30.3%	34.4%	22.0%	36.0%	34.1%	33.3%	18.8%	28.1%	33.3%	42.9%	21.4%	23.5%	37.1%	100.0%	41.4%	33.3%
		n. s.					n. s.					n. s.			**		n. s.
7. 授業料	34	30	4	6	14	9	4	2	15	10	3	3	12	19	2	18	3
	21.5%	24.6%	12.5%	14.6%	28.0%	22.0%	19.0%	12.5%	26.3%	22.2%	14.3%	21.4%	14.1%	27.1%	100.0%	31.0%	25.0%
		n. s.					n. s.					**			n. s.		n. s.
8. 研究施設や設備が充実している	22	14	8	7	9	4	2	7	6	4	5	0	8	14	0	12	2
	13.9%	11.5%	25.0%	17.1%	18.0%	9.8%	9.5%	43.8%	10.5%	8.9%	23.8%	0.0%	9.4%	20.0%	0.0%	20.7%	16.7%
		n. s.					n. s.					n. s.			n. s.		n. s.
9. 自分の母校である	14	13	1	2	5	6	1	3	2	5	1	3	6	8	0	8	0
	8.9%	10.7%	3.1%	4.9%	10.0%	14.6%	4.8%	18.8%	3.5%	11.1%	4.8%	21.4%	7.1%	11.4%	0.0%	13.8%	0.0%
		n. s.					n. s.					n. s.			n. s.		n. s.
10. 有名な大学である	6	5	1	3	2	1	0	1	3	2	0	0	3	3	0	2	1
	3.8%	4.1%	3.1%	7.3%	4.0%	2.4%	0.0%	6.3%	5.3%	4.4%	0.0%	0.0%	3.5%	4.3%	0.0%	3.4%	8.3%
		n. s.					n. s.					n. s.			n. s.		n. s.
11. 受験科目	6	5	1	2	0	3	1	2	2	1	1	0	4	2	0	1	1
	3.8%	4.1%	3.1%	4.9%	0.0%	7.3%	4.8%	12.5%	3.5%	2.2%	4.8%	0.0%	4.7%	2.9%	0.0%	1.7%	8.3%

	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
			n. s.				n. s.						n. s.
1. 学びたい授業（学部、学科）がある	43 75.4%	45 70.3%	23 65.7%	14 63.6%	59 70.2%	27 77.1%	10 76.9%	36 70.6%	13 61.9%	18 64.3%	20 69.0%	13 100.0%	11 68.8%
			*				n. s.						n. s.
2. 社会人が授業を受けやすいカリキュラムを実施している	28 49.1%	29 45.3%	26 74.3%	13 59.1%	45 53.6%	17 48.6%	6 46.2%	21 41.2%	12 57.1%	15 53.6%	17 58.6%	7 53.8%	12 75.0%
			n. s.				n. s.						n. s.
3. 通学しやすい立地条件	21 36.8%	33 51.6%	13 37.1%	10 45.5%	39 46.4%	11 31.4%	6 46.2%	15 29.4%	10 47.6%	14 50.0%	14 48.3%	8 61.5%	7 43.8%
			n. s.				n. s.						n. s.
4. 学びたい分野で定評がある	24 42.1%	24 37.5%	10 28.6%	8 36.4%	28 33.3%	17 48.6%	5 38.5%	23 45.1%	11 52.4%	4 14.3%	10 34.5%	5 38.5%	5 31.3%
合計			n. s.				n. s.						n. s.
5. 取得できる資格がある	9 15.8%	6 9.4%	3 8.6%	2 9.1%	12 14.3%	2 5.7%	0 0.0%	3 5.9%	1 4.8%	7 25.0%	4 13.8%	1 7.7%	2 12.5%
			n. s.				***						n. s.
6. 学びたい先生がいる	15 26.3%	23 35.9%	9 25.7%	5 22.7%	18 21.4%	20 57.1%	4 30.8%	14 27.5%	8 38.1%	5 17.9%	9 31.0%	6 46.2%	6 37.5%
			n. s.				*						n. s.
7. 授業料	14 24.6%	11 17.2%	9 25.7%	5 22.7%	11 13.1%	12 34.3%	5 38.5%	10 19.6%	4 19.0%	4 14.3%	6 20.7%	3 23.1%	7 43.8%
			n. s.				n. s.						n. s.
8. 研究施設や設備が充実している	8 14.0%	12 18.8%	1 2.9%	3 13.6%	11 13.1%	7 20.0%	0 0.0%	7 13.7%	4 19.0%	3 10.7%	3 10.3%	2 15.4%	3 18.8%
			n. s.				*						n. s.
9. 自分の母校である	3 5.3%	6 9.4%	5 14.3%	5 22.7%	8 9.5%	1 2.9%	0 0.0%	3 5.9%	3 14.3%	4 14.3%	3 10.3%	1 7.7%	0 0.0%
			n. s.				n. s.						n. s.
10. 有名な大学である	2 3.5%	4 6.3%	0 0.0%	1 4.5%	2 2.4%	3 8.6%	0 0.0%	2 3.9%	1 4.8%	1 3.6%	1 3.4%	1 7.7%	0 0.0%
			n. s.				***						n. s.
11. 受験科目	2 3.5%	2 3.1%	2 5.7%	0 0.0%	1 1.2%	1 2.9%	4 30.8%	3 5.9%	0 0.0%	1 3.6%	1 3.4%	0 0.0%	1 6.3%

C10. 大学院に進学するにあたって不安がありますか。

		n. s.		n. s.				n. s.					n. s.			n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
ある	132	103	29	32	47	37	16	12	50	37	17	11	73	56	2	48	9
	83.5%	84.4%	90.6%	78.0%	94.0%	90.2%	76.2%	75.0%	87.7%	82.2%	81.0%	78.6%	85.9%	80.0%	100.0%	82.8%	75.0%
ない	17	15	2	8	1	3	4	4	4	5	3	1	7	10	0	8	2
	10.8%	12.3%	6.3%	19.5%	2.0%	7.3%	19.0%	25.0%	7.0%	11.1%	14.3%	7.1%	8.2%	14.3%	0.0%	13.8%	16.7%

	n. s.			n. s.				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
ある	46	56	29	17	70	31	11	41	19	24	26	11	11
	80.7%	87.5%	82.9%	77.3%	83.3%	88.6%	84.6%	80.4%	90.5%	85.7%	89.7%	84.6%	68.8%
ない	7	6	4	4	7	4	2	8	2	2	1	2	2
	12.3%	9.4%	11.4%	18.2%	8.3%	11.4%	15.4%	15.7%	9.5%	7.1%	3.4%	15.4%	12.5%

C11. どのような不安ですか。

				n. s.			*					n. s.			n. s.		n. s.
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
				n. s.			*					n. s.			n. s.		n. s.
1. 学費の負担	78	65	13	19	34	17	8	6	34	18	9	9	38	38	1	33	5
	49.4%	53.3%	40.6%	46.3%	68.0%	41.5%	38.1%	37.5%	59.6%	40.0%	42.9%	64.3%	44.7%	54.3%	50.0%	56.9%	41.7%
				n. s.			n. s.					n. s.			*		n. s.
2. 学校に行く時間を確保できるかどうか	87	68	19	24	30	25	8	10	31	26	9	8	53	31	2	30	3
	55.1%	55.7%	59.4%	58.5%	60.0%	61.0%	38.1%	62.5%	54.4%	57.8%	42.9%	57.1%	62.4%	44.3%	100.0%	51.7%	25.0%
				n. s.			n. s.					n. s.			n. s.		n. s.
3. 家での勉強時間を確保できるかどうか	45	32	13	12	15	14	4	7	19	8	4	4	27	16	1	13	4
	28.5%	26.2%	40.6%	29.3%	30.0%	34.1%	19.0%	43.8%	33.3%	17.8%	19.0%	28.6%	31.8%	22.9%	50.0%	22.4%	33.3%
				n. s.			n. s.					n. s.			n. s.		n. s.
4. 会社が進学に対して理解を示してくれるかどうか	49	36	13	14	21	10	4	4	16	12	8	6	22	25	1	19	6
	31.0%	29.5%	40.6%	34.1%	42.0%	24.4%	19.0%	25.0%	28.1%	26.7%	38.1%	42.9%	25.9%	35.7%	50.0%	32.8%	50.0%
				n. s.			n. s.					n. s.			n. s.		n. s.
5. 勉強についていけるかどうか	28	20	8	7	12	7	2	4	9	9	3	1	15	11	1	9	2
	17.7%	16.4%	25.0%	17.1%	24.0%	17.1%	9.5%	25.0%	15.8%	20.0%	14.3%	7.1%	17.6%	15.7%	50.0%	15.5%	16.7%
				n. s.			*					n. s.			*		n. s.
6. 卒業できるかどうか	18	15	3	9	2	6	1	2	5	7	3	0	12	4	1	3	2
	11.4%	12.3%	9.4%	22.0%	4.0%	14.6%	4.8%	12.5%	8.8%	15.6%	14.3%	0.0%	14.1%	5.7%	50.0%	5.2%	16.7%
				n. s.			n. s.					n. s.			n. s.		n. s.
7. 家族が進学に対して理解を示してくれるかどうか	24	21	3	3	9	9	3	2	11	7	3	1	11	12	1	10	3
	15.2%	17.2%	9.4%	7.3%	18.0%	22.0%	14.3%	12.5%	19.3%	15.6%	14.3%	7.1%	12.9%	17.1%	50.0%	17.2%	25.0%

	n. s.			n. s.				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
	n. s.			n. s.				n. s.					
1. 学費の負担	29	33	15	12	40	18	6	22	12	15	15	8	6
	50.9%	51.6%	42.9%	54.5%	47.6%	51.4%	46.2%	43.1%	57.1%	53.6%	51.7%	61.5%	37.5%
	n. s.			n. s.				n. s.					
2. 学校に行く時間を確保できるかどうか	32	36	18	12	49	19	4	27	12	17	16	8	7
	56.1%	56.3%	51.4%	54.5%	58.3%	54.3%	30.8%	52.9%	57.1%	60.7%	55.2%	61.5%	43.8%
	n. s.			n. s.				n. s.					
3. 家での勉強時間を確保できるかどうか	15	20	10	8	28	8	1	9	10	8	10	4	4
	26.3%	31.3%	28.6%	36.4%	33.3%	22.9%	7.7%	17.6%	47.6%	28.6%	34.5%	30.8%	25.0%
	n. s.			n. s.				n. s.					
4. 会社が進学に対して理解を示してくれるかどうか	19	21	9	4	26	13	4	15	8	9	5	7	5
	33.3%	32.8%	25.7%	18.2%	31.0%	37.1%	30.8%	29.4%	38.1%	32.1%	17.2%	53.8%	31.3%
	n. s.			n. s.				n. s.					
5. 勉強についていけるかどうか	11	15	2	4	15	6	3	9	4	3	8	2	2
	19.3%	23.4%	5.7%	18.2%	17.9%	17.1%	23.1%	17.6%	19.0%	10.7%	27.6%	15.4%	12.5%
	n. s.			n. s.				n. s.					
6. 卒業できるかどうか	7	8	3	4	10	2	2	6	5	4	2	1	0
	12.3%	12.5%	8.6%	18.2%	11.9%	5.7%	15.4%	11.8%	23.8%	14.3%	6.9%	7.7%	0.0%
	n. s.			n. s.				n. s.					
7. 家族が進学に対して理解を示してくれるかどうか	6	11	6	3	15	3	2	6	3	5	5	3	2
	10.5%	17.2%	17.1%	13.6%	17.9%	8.6%	15.4%	11.8%	14.3%	17.9%	17.2%	23.1%	12.5%

C12. 大学院教育での学習によって、以下の能力や技術の習得をどの程度期待しますか

1. 専門分野の理論的知識

		性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
	全体	男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
		n. s.				n. s.					n. s.				**		n. s.
とても期待する	269	214	55	55	99	71	43	26	84	84	41	23	154	98	14	98	12
	40.1%	39.7%	42.6%	39.9%	45.8%	36.8%	37.1%	42.6%	34.7%	42.9%	41.8%	52.3%	37.7%	42.8%	70.0%	45.4%	41.4%
期待する	348	283	63	73	98	106	65	31	133	102	52	18	213	123	5	111	16
	51.9%	52.5%	48.8%	52.9%	45.4%	54.9%	56.0%	50.8%	55.0%	52.0%	53.1%	40.9%	52.2%	53.7%	25.0%	51.4%	55.2%
どちらともいえない	41	32	9	8	14	12	7	4	21	7	2	2	34	3	1	3	0
	6.1%	5.9%	7.0%	5.8%	6.5%	6.2%	6.0%	6.6%	8.7%	3.6%	2.0%	4.5%	8.3%	1.3%	5.0%	1.4%	0.0%
期待しない	9	7	2	2	4	3	0	0	3	3	2	1	4	5	0	4	1
	1.3%	1.3%	1.6%	1.4%	1.9%	1.6%	0.0%	0.0%	1.2%	1.5%	2.0%	2.3%	1.0%	2.2%	0.0%	1.9%	3.4%
まったく期待しない	3	3	0	0	1	1	1	0	1	0	1	0	3	0	0	0	0
	0.4%	0.6%	0.0%	0.0%	0.5%	0.5%	0.9%	0.0%	0.4%	0.0%	1.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
	n. s.			n. s.				n. s.					
とても期待する	87	106	72	55	140	42	27	76	33	49	70	13	28
	44.6%	34.9%	45.9%	35.0%	39.3%	48.3%	46.6%	49.0%	36.3%	37.7%	42.7%	24.5%	36.4%
期待する	94	172	74	87	192	41	25	67	50	76	76	34	45
	48.2%	56.6%	47.1%	55.4%	53.9%	47.1%	43.1%	43.2%	54.9%	58.5%	46.3%	64.2%	58.4%
どちらともいえない	13	17	10	11	18	4	5	7	7	4	14	5	4
	6.7%	5.6%	6.4%	7.0%	5.1%	4.6%	8.6%	4.5%	7.7%	3.1%	8.5%	9.4%	5.2%
期待しない	1	6	1	3	4	0	1	4	0	1	3	1	0
	0.5%	2.0%	0.6%	1.9%	1.1%	0.0%	1.7%	2.6%	0.0%	0.8%	1.8%	1.9%	0.0%
まったく期待しない	0	3	0	1	2	0	0	1	1	0	1	0	0
	0.0%	1.0%	0.0%	0.6%	0.6%	0.0%	0.0%	0.6%	1.1%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%

2. 専門分野の先端的な知識

		n. s.		n. s.				n. s.						*		n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
とても期待する	280	223	57	62	99	73	44	27	87	89	47	16	150	113	12	110	13
	41.8%	41.4%	44.2%	44.9%	45.8%	37.8%	37.9%	44.3%	36.0%	45.4%	48.0%	36.4%	36.8%	49.3%	60.0%	50.9%	44.8%
期待する	322	256	64	66	89	100	62	29	132	86	42	23	208	103	6	94	14
	48.1%	47.5%	49.6%	47.8%	41.2%	51.8%	53.4%	47.5%	54.5%	43.9%	42.9%	52.3%	51.0%	45.0%	30.0%	43.5%	48.3%
どちらともいえない	52	47	5	7	23	14	8	4	19	17	5	4	38	9	2	9	1
	7.8%	8.7%	3.9%	5.1%	10.6%	7.3%	6.9%	6.6%	7.9%	8.7%	5.1%	9.1%	9.3%	3.9%	10.0%	4.2%	3.4%
期待しない	12	9	3	3	4	4	1	1	2	4	3	1	8	4	0	3	1
	1.8%	1.7%	2.3%	2.2%	1.9%	2.1%	0.9%	1.6%	0.8%	2.0%	3.1%	2.3%	2.0%	1.7%	0.0%	1.4%	3.4%
まったく期待しない	4	4	0	0	1	2	1	0	2	0	1	0	4	0	0	0	0
	0.6%	0.7%	0.0%	0.0%	0.5%	1.0%	0.9%	0.0%	0.8%	0.0%	1.0%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

	n. s.			n. s.				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
とても期待する	98	116	60	59	150	39	28	73	32	49	76	19	31
	50.3%	38.2%	38.2%	37.6%	42.1%	44.8%	48.3%	47.1%	35.2%	37.7%	46.3%	35.8%	40.3%
期待する	78	158	80	78	178	36	24	64	53	65	75	25	40
	40.0%	52.0%	51.0%	49.7%	50.0%	41.4%	41.4%	41.3%	58.2%	50.0%	45.7%	47.2%	51.9%
どちらともいえない	16	21	14	16	20	10	5	12	3	15	9	7	6
	8.2%	6.9%	8.9%	10.2%	5.6%	11.5%	8.6%	7.7%	3.3%	11.5%	5.5%	13.2%	7.8%
期待しない	3	6	2	2	6	2	1	5	2	1	2	2	0
	1.5%	2.0%	1.3%	1.3%	1.7%	2.3%	1.7%	3.2%	2.2%	0.8%	1.2%	3.8%	0.0%
まったく期待しない	0	3	1	2	2	0	0	1	1	0	2	0	0
	0.0%	1.0%	0.6%	1.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.6%	1.1%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%

3. 専門分野の基礎的な知識

		n. s.		n. s.				n. s.						***		n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
とても期待する	193	156	37	43	72	56	21	17	59	60	30	13	94	83	13	86	9
	28.9%	29.0%	28.9%	31.2%	33.5%	29.2%	18.1%	27.9%	24.5%	30.6%	30.6%	30.2%	23.2%	36.2%	65.0%	39.8%	31.0%
期待する	294	231	61	56	93	86	56	28	105	89	47	16	177	107	5	93	17
	44.0%	42.9%	47.7%	40.6%	43.3%	44.8%	48.3%	45.9%	43.6%	45.4%	48.0%	37.2%	43.6%	46.7%	25.0%	43.1%	58.6%
どちらともいえない	126	104	22	31	38	31	24	9	56	31	15	11	89	30	2	29	2
	18.9%	19.3%	17.2%	22.5%	17.7%	16.1%	20.7%	14.8%	23.2%	15.8%	15.3%	25.6%	21.9%	13.1%	10.0%	13.4%	6.9%
期待しない	50	42	8	8	11	17	13	7	18	16	5	3	41	9	0	8	1
	7.5%	7.8%	6.3%	5.8%	5.1%	8.9%	11.2%	11.5%	7.5%	8.2%	5.1%	7.0%	10.1%	3.9%	0.0%	3.7%	3.4%
まったく期待しない	5	5	0	0	1	2	2	0	3	0	1	0	5	0	0	0	0
	0.7%	0.9%	0.0%	0.0%	0.5%	1.0%	1.7%	0.0%	1.2%	0.0%	1.0%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

	n. s.			n. s.				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
とても期待する	66	79	45	39	103	32	15	58	23	28	52	6	26
	33.8%	26.0%	29.0%	24.8%	29.1%	36.8%	25.9%	37.4%	25.6%	21.5%	31.7%	11.5%	33.8%
期待する	83	140	64	66	165	35	24	61	44	64	66	25	34
	42.6%	46.1%	41.3%	42.0%	46.6%	40.2%	41.4%	39.4%	48.9%	49.2%	40.2%	48.1%	44.2%
どちらともいえない	39	54	32	33	64	14	12	24	18	29	27	14	14
	20.0%	17.8%	20.6%	21.0%	18.1%	16.1%	20.7%	15.5%	20.0%	22.3%	16.5%	26.9%	18.2%
期待しない	7	28	13	17	20	6	6	11	4	8	17	7	3
	3.6%	9.2%	8.4%	10.8%	5.6%	6.9%	10.3%	7.1%	4.4%	6.2%	10.4%	13.5%	3.9%
まったく期待しない	0	3	1	2	2	0	1	1	1	1	2	0	0
	0.0%	1.0%	0.6%	1.3%	0.6%	0.0%	1.7%	0.6%	1.1%	0.8%	1.2%	0.0%	0.0%

4. 専門分野の方法論や研究方法

		n. s.		n. s.				n. s.						***		n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
とても期待する	221	173	48	56	77	53	34	24	67	73	29	15	113	92	13	91	12
	33.1%	32.2%	37.2%	40.6%	35.6%	27.7%	29.3%	39.3%	27.8%	37.4%	29.6%	34.1%	27.8%	40.4%	65.0%	42.1%	42.9%
期待する	350	278	70	66	110	103	65	31	129	98	57	23	217	121	6	111	15
	52.4%	51.8%	54.3%	47.8%	50.9%	53.9%	56.0%	50.8%	53.5%	50.3%	58.2%	52.3%	53.3%	53.1%	30.0%	51.4%	53.6%
どちらともいえない	75	67	8	14	22	26	13	4	38	18	7	5	60	10	1	10	0
	11.2%	12.5%	6.2%	10.1%	10.2%	13.6%	11.2%	6.6%	15.8%	9.2%	7.1%	11.4%	14.7%	4.4%	5.0%	4.6%	0.0%
期待しない	16	13	3	1	5	7	3	2	5	5	3	1	13	3	0	2	1
	2.4%	2.4%	2.3%	0.7%	2.3%	3.7%	2.6%	3.3%	2.1%	2.6%	3.1%	2.3%	3.2%	1.3%	0.0%	0.9%	3.6%
まったく期待しない	6	6	0	1	2	2	1	0	2	1	2	0	4	2	0	2	0
	0.9%	1.1%	0.0%	0.7%	0.9%	1.0%	0.9%	0.0%	0.8%	0.5%	2.0%	0.0%	1.0%	0.9%	0.0%	0.9%	0.0%

	n. s.			n. s.				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
とても期待する	78	86	52	48	115	36	18	63	32	41	49	14	22
	40.0%	28.3%	33.5%	31.0%	32.3%	41.4%	31.0%	40.6%	35.6%	31.5%	29.9%	26.4%	28.9%
期待する	96	170	77	82	198	39	26	75	48	72	84	29	42
	49.2%	55.9%	49.7%	52.9%	55.6%	44.8%	44.8%	48.4%	53.3%	55.4%	51.2%	54.7%	55.3%
どちらともいえない	20	33	21	18	32	12	11	10	8	16	24	7	10
	10.3%	10.9%	13.5%	11.6%	9.0%	13.8%	19.0%	6.5%	8.9%	12.3%	14.6%	13.2%	13.2%
期待しない	1	10	4	4	8	0	3	5	1	1	5	3	1
	0.5%	3.3%	2.6%	2.6%	2.2%	0.0%	5.2%	3.2%	1.1%	0.8%	3.0%	5.7%	1.3%
まったく期待しない	0	5	1	3	3	0	0	2	1	0	2	0	1
	0.0%	1.6%	0.6%	1.9%	0.8%	0.0%	0.0%	1.3%	1.1%	0.0%	1.2%	0.0%	1.3%

5. 学際的な知識や方法論

		*		n. s.				**					**			n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
とても期待する	142	110	32	40	44	36	21	21	37	45	21	7	77	53	8	54	5
	21.3%	20.6%	24.8%	29.0%	20.5%	18.8%	18.3%	34.4%	15.4%	23.1%	21.6%	15.9%	19.0%	23.1%	42.1%	25.1%	17.2%
期待する	324	251	72	55	113	93	60	25	108	97	54	28	184	128	7	117	17
	48.6%	46.9%	55.8%	39.9%	52.6%	48.7%	52.2%	41.0%	45.0%	49.7%	55.7%	63.6%	45.3%	55.9%	36.8%	54.4%	58.6%
どちらともいえない	168	149	19	36	51	49	30	13	78	50	16	7	122	40	3	36	6
	25.2%	27.9%	14.7%	26.1%	23.7%	25.7%	26.1%	21.3%	32.5%	25.6%	16.5%	15.9%	30.0%	17.5%	15.8%	16.7%	20.7%
期待しない	21	15	5	5	4	9	2	2	11	2	4	1	16	5	0	4	1
	3.2%	2.8%	3.9%	3.6%	1.9%	4.7%	1.7%	3.3%	4.6%	1.0%	4.1%	2.3%	3.9%	2.2%	0.0%	1.9%	3.4%
まったく期待しない	11	10	1	2	3	4	2	0	6	1	2	1	7	3	1	4	0
	1.7%	1.9%	0.8%	1.4%	1.4%	2.1%	1.7%	0.0%	2.5%	0.5%	2.1%	2.3%	1.7%	1.3%	5.3%	1.9%	0.0%

	n. s.			n. s.				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
とても期待する	53	60	28	36	72	25	9	35	27	28	28	7	17
	27.2%	19.8%	18.2%	23.1%	20.4%	28.7%	15.5%	22.6%	30.0%	21.5%	17.2%	13.2%	22.7%
期待する	89	140	86	75	176	41	22	83	37	67	72	29	36
	45.6%	46.2%	55.8%	48.1%	49.9%	47.1%	37.9%	53.5%	41.1%	51.5%	44.2%	54.7%	48.0%
どちらともいえない	44	86	37	38	88	19	23	30	23	30	52	15	18
	22.6%	28.4%	24.0%	24.4%	24.9%	21.8%	39.7%	19.4%	25.6%	23.1%	31.9%	28.3%	24.0%
期待しない	7	10	2	4	13	1	1	4	1	4	7	2	3
	3.6%	3.3%	1.3%	2.6%	3.7%	1.1%	1.7%	2.6%	1.1%	3.1%	4.3%	3.8%	4.0%
まったく期待しない	2	7	1	3	4	1	3	3	2	1	4	0	1
	1.0%	2.3%	0.6%	1.9%	1.1%	1.1%	5.2%	1.9%	2.2%	0.8%	2.5%	0.0%	1.3%

6. 論文作成能力

		n. s.		n. s.							**			***			n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
とても期待する	137	109	28	37	54	32	13	13	35	51	19	12	57	67	10	70	6
	20.5%	20.3%	21.7%	26.8%	25.1%	16.7%	11.3%	21.7%	14.5%	26.2%	19.4%	27.3%	14.0%	29.4%	50.0%	32.6%	20.7%
期待する	290	230	59	56	90	83	57	26	89	91	50	20	162	113	9	100	21
	43.5%	42.9%	45.7%	40.6%	41.9%	43.2%	49.6%	43.3%	36.9%	46.7%	51.0%	45.5%	39.9%	49.6%	45.0%	46.5%	72.4%
どちらともいえない	171	141	30	31	51	58	31	16	85	34	23	8	133	33	1	32	1
	25.6%	26.3%	23.3%	22.5%	23.7%	30.2%	27.0%	26.7%	35.3%	17.4%	23.5%	18.2%	32.8%	14.5%	5.0%	14.9%	3.4%
期待しない	56	43	12	12	16	16	10	5	26	15	4	4	44	12	0	10	1
	8.4%	8.0%	9.3%	8.7%	7.4%	8.3%	8.7%	8.3%	10.8%	7.7%	4.1%	9.1%	10.8%	5.3%	0.0%	4.7%	3.4%
まったく期待しない	13	13	0	2	4	3	4	0	6	4	2	0	10	3	0	3	0
	1.9%	2.4%	0.0%	1.4%	1.9%	1.6%	3.5%	0.0%	2.5%	2.1%	2.0%	0.0%	2.5%	1.3%	0.0%	1.4%	0.0%

	n. s.			n. s.				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
とても期待する	48	58	29	32	77	18	10	31	29	30	24	11	12
	24.6%	19.2%	18.6%	20.5%	21.7%	20.7%	17.5%	20.1%	32.2%	23.1%	14.7%	20.8%	15.6%
期待する	88	121	74	66	156	44	18	80	36	53	65	18	38
	45.1%	40.1%	47.4%	42.3%	43.9%	50.6%	31.6%	51.9%	40.0%	40.8%	39.9%	34.0%	49.4%
どちらともいえない	40	89	41	46	83	18	20	29	17	35	53	17	20
	20.5%	29.5%	26.3%	29.5%	23.4%	20.7%	35.1%	18.8%	18.9%	26.9%	32.5%	32.1%	26.0%
期待しない	17	26	10	9	33	6	6	11	6	9	18	6	6
	8.7%	8.6%	6.4%	5.8%	9.3%	6.9%	10.5%	7.1%	6.7%	6.9%	11.0%	11.3%	7.8%
まったく期待しない	2	8	2	3	6	1	3	3	2	3	3	1	1
	1.0%	2.6%	1.3%	1.9%	1.7%	1.1%	5.3%	1.9%	2.2%	2.3%	1.8%	1.9%	1.3%

7. 専門分野の研究能力

		n. s.		n. s.				n. s.						**		n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
とても期待する	239	186	53	57	87	63	31	27	71	73	37	17	127	94	12	94	10
	35.8%	34.6%	41.1%	41.6%	40.3%	32.8%	26.7%	44.3%	29.5%	37.2%	38.1%	38.6%	31.3%	41.0%	60.0%	43.5%	34.5%
期待する	322	258	63	59	92	104	62	27	124	94	45	22	202	108	6	96	17
	48.2%	48.0%	48.8%	43.1%	42.6%	54.2%	53.4%	44.3%	51.5%	48.0%	46.4%	50.0%	49.8%	47.2%	30.0%	44.4%	58.6%
どちらともいえない	81	73	8	17	29	17	18	6	36	23	10	3	57	22	1	20	2
	12.1%	13.6%	6.2%	12.4%	13.4%	8.9%	15.5%	9.8%	14.9%	11.7%	10.3%	6.8%	14.0%	9.6%	5.0%	9.3%	6.9%
期待しない	20	14	5	3	4	7	5	1	9	4	3	2	17	3	0	3	0
	3.0%	2.6%	3.9%	2.2%	1.9%	3.6%	4.3%	1.6%	3.7%	2.0%	3.1%	4.5%	4.2%	1.3%	0.0%	1.4%	0.0%
まったく期待しない	6	6	0	1	4	1	0	0	1	2	2	0	3	2	1	3	0
	0.9%	1.1%	0.0%	0.7%	1.9%	0.5%	0.0%	0.0%	0.4%	1.0%	2.1%	0.0%	0.7%	0.9%	5.0%	1.4%	0.0%

	n. s.			n. s.				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
とても期待する	77	107	52	54	128	34	20	62	38	37	61	14	27
	39.5%	35.3%	33.3%	34.4%	36.1%	39.5%	34.5%	40.3%	41.8%	28.5%	37.2%	26.9%	35.1%
期待する	89	149	77	70	178	40	28	72	39	70	76	25	40
	45.6%	49.2%	49.4%	44.6%	50.1%	46.5%	48.3%	46.8%	42.9%	53.8%	46.3%	48.1%	51.9%
どちらともいえない	26	33	20	27	34	11	8	13	10	19	20	11	8
	13.3%	10.9%	12.8%	17.2%	9.6%	12.8%	13.8%	8.4%	11.0%	14.6%	12.2%	21.2%	10.4%
期待しない	3	9	6	4	11	1	2	5	3	3	6	2	1
	1.5%	3.0%	3.8%	2.5%	3.1%	1.2%	3.4%	3.2%	3.3%	2.3%	3.7%	3.8%	1.3%
まったく期待しない	0	5	1	2	4	0	0	2	1	1	1	0	1
	0.0%	1.7%	0.6%	1.3%	1.1%	0.0%	0.0%	1.3%	1.1%	0.8%	0.6%	0.0%	1.3%

8. 実務に必要な知識・スキル

		n. s.		*				n. s.						**		n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
とても期待する	151	118	33	32	64	36	17	13	47	47	21	12	84	56	7	59	3
	22.5%	21.9%	25.6%	23.2%	29.6%	18.7%	14.5%	21.3%	19.4%	24.0%	21.4%	27.3%	20.5%	24.5%	35.0%	27.3%	10.3%
期待する	238	199	38	45	80	74	38	15	93	72	37	12	130	96	7	86	16
	35.5%	36.9%	29.5%	32.6%	37.0%	38.3%	32.5%	24.6%	38.4%	36.7%	37.8%	27.3%	31.8%	41.9%	35.0%	39.8%	55.2%
どちらともいえない	174	134	40	35	44	51	42	22	51	52	27	15	110	56	5	52	8
	25.9%	24.8%	31.0%	25.4%	20.4%	26.4%	35.9%	36.1%	21.1%	26.5%	27.6%	34.1%	26.9%	24.5%	25.0%	24.1%	27.6%
期待しない	88	72	15	19	24	29	14	10	42	21	9	5	68	18	1	16	2
	13.1%	13.3%	11.6%	13.8%	11.1%	15.0%	12.0%	16.4%	17.4%	10.7%	9.2%	11.4%	16.6%	7.9%	5.0%	7.4%	6.9%
まったく期待しない	20	17	3	7	4	3	6	1	9	4	4	0	17	3	0	3	0
	3.0%	3.1%	2.3%	5.1%	1.9%	1.6%	5.1%	1.6%	3.7%	2.0%	4.1%	0.0%	4.2%	1.3%	0.0%	1.4%	0.0%

	n. s.			*				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
とても期待する	50	59	40	28	92	22	6	35	15	30	34	10	27
	25.6%	19.3%	25.5%	17.7%	25.8%	25.3%	10.3%	22.6%	16.5%	23.1%	20.6%	18.9%	35.1%
期待する	62	120	50	55	135	19	25	60	31	42	58	16	31
	31.8%	39.3%	31.8%	34.8%	37.9%	21.8%	43.1%	38.7%	34.1%	32.3%	35.2%	30.2%	40.3%
どちらともいえない	54	75	42	50	80	27	14	35	29	35	48	16	11
	27.7%	24.6%	26.8%	31.6%	22.5%	31.0%	24.1%	22.6%	31.9%	26.9%	29.1%	30.2%	14.3%
期待しない	21	44	20	19	40	17	10	21	10	20	22	9	6
	10.8%	14.4%	12.7%	12.0%	11.2%	19.5%	17.2%	13.5%	11.0%	15.4%	13.3%	17.0%	7.8%
まったく期待しない	8	7	5	6	9	2	3	4	6	3	3	2	2
	4.1%	2.3%	3.2%	3.8%	2.5%	2.3%	5.2%	2.6%	6.6%	2.3%	1.8%	3.8%	2.6%

9. 実務に必要な問題解決能力

		n. s.		**				n. s.					**			n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
とても期待する	161	127	34	38	66	37	19	16	48	53	21	11	89	61	7	63	4
	24.0%	23.5%	26.4%	27.5%	30.6%	19.2%	16.2%	26.2%	19.8%	27.0%	21.4%	25.0%	21.8%	26.6%	35.0%	29.2%	13.8%
期待する	238	197	40	43	78	76	38	14	89	71	43	13	134	92	6	85	12
	35.5%	36.5%	31.0%	31.2%	36.1%	39.4%	32.5%	23.0%	36.8%	36.2%	43.9%	29.5%	32.8%	40.2%	30.0%	39.4%	41.4%
どちらともいえない	170	133	36	34	44	49	41	21	58	47	22	15	105	56	6	52	9
	25.3%	24.6%	27.9%	24.6%	20.4%	25.4%	35.0%	34.4%	24.0%	24.0%	22.4%	34.1%	25.7%	24.5%	30.0%	24.1%	31.0%
期待しない	83	68	15	15	26	28	13	10	37	22	8	5	63	19	1	15	4
	12.4%	12.6%	11.6%	10.9%	12.0%	14.5%	11.1%	16.4%	15.3%	11.2%	8.2%	11.4%	15.4%	8.3%	5.0%	6.9%	13.8%
まったく期待しない	19	15	4	8	2	3	6	0	10	3	4	0	18	1	0	1	0
	2.8%	2.8%	3.1%	5.8%	0.9%	1.6%	5.1%	0.0%	4.1%	1.5%	4.1%	0.0%	4.4%	0.4%	0.0%	0.5%	0.0%

	n. s.			*				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
とても期待する	55	66	38	30	97	22	9	37	19	31	37	9	28
	28.2%	21.6%	24.2%	19.0%	27.2%	25.3%	15.5%	23.9%	20.9%	23.8%	22.4%	17.0%	36.4%
期待する	60	116	55	61	131	20	22	57	31	46	56	16	32
	30.8%	38.0%	35.0%	38.6%	36.8%	23.0%	37.9%	36.8%	34.1%	35.4%	33.9%	30.2%	41.6%
どちらともいえない	52	73	42	45	82	26	13	38	24	34	47	16	11
	26.7%	23.9%	26.8%	28.5%	23.0%	29.9%	22.4%	24.5%	26.4%	26.2%	28.5%	30.2%	14.3%
期待しない	20	44	17	16	39	17	10	20	11	16	22	10	4
	10.3%	14.4%	10.8%	10.1%	11.0%	19.5%	17.2%	12.9%	12.1%	12.3%	13.3%	18.9%	5.2%
まったく期待しない	8	6	5	6	7	2	4	3	6	3	3	2	2
	4.1%	2.0%	3.2%	3.8%	2.0%	2.3%	6.9%	1.9%	6.6%	2.3%	1.8%	3.8%	2.6%

10. コミュニケーション能力

		n. s.		***				***					***			n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
とても期待する	84	71	13	22	37	18	5	5	26	34	9	3	37	41	4	39	5
	12.6%	13.2%	10.1%	15.9%	17.1%	9.4%	4.3%	8.2%	10.8%	17.3%	9.2%	6.8%	9.1%	17.9%	20.0%	18.1%	17.2%
期待する	184	145	38	39	66	46	32	19	50	69	24	16	88	85	8	83	8
	27.5%	27.0%	29.5%	28.3%	30.6%	24.0%	27.6%	31.1%	20.8%	35.2%	24.5%	36.4%	21.7%	37.1%	40.0%	38.4%	27.6%
どちらともいえない	258	208	50	41	70	91	54	24	103	61	49	11	171	74	7	66	14
	38.6%	38.7%	38.8%	29.7%	32.4%	47.4%	46.6%	39.3%	42.9%	31.1%	50.0%	25.0%	42.1%	32.3%	35.0%	30.6%	48.3%
期待しない	111	88	23	29	35	32	15	12	48	28	10	12	86	23	1	22	2
	16.6%	16.4%	17.8%	21.0%	16.2%	16.7%	12.9%	19.7%	20.0%	14.3%	10.2%	27.3%	21.2%	10.0%	5.0%	10.2%	6.9%
まったく期待しない	31	26	5	7	8	5	10	1	13	4	6	2	24	6	0	6	0
	4.6%	4.8%	3.9%	5.1%	3.7%	2.6%	8.6%	1.6%	5.4%	2.0%	6.1%	4.5%	5.9%	2.6%	0.0%	2.8%	0.0%

	n. s.			*				**					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
とても期待する	34	32	17	17	47	15	4	26	13	17	10	2	16
	17.4%	10.6%	10.8%	10.8%	13.2%	17.2%	6.9%	16.8%	14.3%	13.2%	6.1%	3.8%	20.8%
期待する	51	84	42	45	103	14	16	44	30	31	43	9	27
	26.2%	27.7%	26.8%	28.7%	29.0%	16.1%	27.6%	28.4%	33.0%	24.0%	26.4%	17.0%	35.1%
どちらともいえない	66	120	70	66	136	37	16	49	29	51	76	30	23
	33.8%	39.6%	44.6%	42.0%	38.3%	42.5%	27.6%	31.6%	31.9%	39.5%	46.6%	56.6%	29.9%
期待しない	34	53	23	22	57	17	15	28	13	24	29	8	9
	17.4%	17.5%	14.6%	14.0%	16.1%	19.5%	25.9%	18.1%	14.3%	18.6%	17.8%	15.1%	11.7%
まったく期待しない	10	14	5	7	12	4	7	8	6	6	5	4	2
	5.1%	4.6%	3.2%	4.5%	3.4%	4.6%	12.1%	5.2%	6.6%	4.7%	3.1%	7.5%	2.6%

11. プレゼンテーション能力

		n. s.		***				***					***			n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
とても期待する	123	97	26	36	51	22	12	16	29	44	21	5	57	54	9	55	7
	18.4%	18.0%	20.2%	26.1%	23.6%	11.5%	10.3%	26.2%	12.1%	22.4%	21.4%	11.4%	14.0%	23.6%	45.0%	25.5%	24.1%
期待する	299	237	61	61	93	95	48	26	94	106	46	19	166	122	7	114	13
	44.8%	44.1%	47.3%	44.2%	43.1%	49.5%	41.4%	42.6%	39.2%	54.1%	46.9%	43.2%	40.9%	53.3%	35.0%	52.8%	44.8%
どちらともいえない	174	142	32	33	51	52	37	15	81	32	23	13	124	42	3	36	8
	26.0%	26.4%	24.8%	23.9%	23.6%	27.1%	31.9%	24.6%	33.8%	16.3%	23.5%	29.5%	30.5%	18.3%	15.0%	16.7%	27.6%
期待しない	56	47	9	7	17	19	12	4	28	12	3	7	46	8	1	8	1
	8.4%	8.7%	7.0%	5.1%	7.9%	9.9%	10.3%	6.6%	11.7%	6.1%	3.1%	15.9%	11.3%	3.5%	5.0%	3.7%	3.4%
まったく期待しない	16	15	1	1	4	4	7	0	8	2	5	0	13	3	0	3	0
	2.4%	2.8%	0.8%	0.7%	1.9%	2.1%	6.0%	0.0%	3.3%	1.0%	5.1%	0.0%	3.2%	1.3%	0.0%	1.4%	0.0%

	n. s.			*				*					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
とても期待する	49	49	21	26	70	21	4	34	19	26	22	6	16
	25.1%	16.2%	13.4%	16.6%	19.7%	24.1%	6.9%	21.9%	20.9%	20.2%	13.5%	11.3%	20.8%
期待する	85	139	70	75	155	39	24	74	43	51	77	15	39
	43.6%	45.9%	44.6%	47.8%	43.7%	44.8%	41.4%	47.7%	47.3%	39.5%	47.2%	28.3%	50.6%
どちらともいえない	47	77	49	41	98	14	19	30	22	34	44	27	17
	24.1%	25.4%	31.2%	26.1%	27.6%	16.1%	32.8%	19.4%	24.2%	26.4%	27.0%	50.9%	22.1%
期待しない	10	31	13	11	27	11	6	14	5	13	17	3	4
	5.1%	10.2%	8.3%	7.0%	7.6%	12.6%	10.3%	9.0%	5.5%	10.1%	10.4%	5.7%	5.2%
まったく期待しない	4	7	4	4	5	2	5	3	2	5	3	2	1
	2.1%	2.3%	2.5%	2.5%	1.4%	2.3%	8.6%	1.9%	2.2%	3.9%	1.8%	3.8%	1.3%

12. 幅広い教養的知識

		n. s.		*				n. s.					n. s.			n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
とても期待する	76	55	21	19	30	18	8	12	23	23	9	3	40	30	3	28	5
	11.4%	10.2%	16.4%	13.8%	14.0%	9.4%	6.9%	19.7%	9.6%	11.7%	9.2%	7.0%	9.9%	13.2%	15.0%	13.0%	17.2%
期待する	204	159	45	33	66	70	34	14	75	64	33	10	130	69	5	59	14
	30.6%	29.6%	35.2%	23.9%	30.8%	36.5%	29.3%	23.0%	31.3%	32.7%	33.7%	23.3%	32.0%	30.3%	25.0%	27.4%	48.3%
どちらともいえない	241	205	35	50	73	66	49	21	82	76	35	17	139	87	9	87	7
	36.2%	38.2%	27.3%	36.2%	34.1%	34.4%	42.2%	34.4%	34.2%	38.8%	35.7%	39.5%	34.2%	38.2%	45.0%	40.5%	24.1%
期待しない	114	91	23	31	40	28	14	14	46	25	15	12	76	33	2	31	3
	17.1%	16.9%	18.0%	22.5%	18.7%	14.6%	12.1%	23.0%	19.2%	12.8%	15.3%	27.9%	18.7%	14.5%	10.0%	14.4%	10.3%
まったく期待しない	31	27	4	5	5	10	11	0	14	8	6	1	21	9	1	10	0
	4.7%	5.0%	3.1%	3.6%	2.3%	5.2%	9.5%	0.0%	5.8%	4.1%	6.1%	2.3%	5.2%	3.9%	5.0%	4.7%	0.0%

	n. s.			***				*					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
とても期待する	29	31	15	15	41	16	3	24	6	14	11	5	16
	15.0%	10.2%	9.6%	9.6%	11.6%	18.4%	5.3%	15.5%	6.6%	10.9%	6.7%	9.4%	21.1%
期待する	54	88	58	50	117	17	17	50	31	34	44	15	30
	28.0%	29.0%	36.9%	31.8%	33.1%	19.5%	29.8%	32.3%	34.1%	26.6%	27.0%	28.3%	39.5%
どちらともいえない	70	111	57	61	131	27	16	50	31	50	72	18	20
	36.3%	36.6%	36.3%	38.9%	37.0%	31.0%	28.1%	32.3%	34.1%	39.1%	44.2%	34.0%	26.3%
期待しない	32	56	23	26	55	20	12	28	16	24	25	12	9
	16.6%	18.5%	14.6%	16.6%	15.5%	23.0%	21.1%	18.1%	17.6%	18.8%	15.3%	22.6%	11.8%
まったく期待しない	8	17	4	5	10	7	9	3	7	6	11	3	1
	4.1%	5.6%	2.5%	3.2%	2.8%	8.0%	15.8%	1.9%	7.7%	4.7%	6.7%	5.7%	1.3%

13. ものごとを分析的・批判的に考える力

		n. s.		n. s.				n. s.						**		n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
とても期待する	139	104	35	37	50	35	16	16	39	42	21	11	74	54	7	54	7
	20.9%	19.4%	27.3%	26.8%	23.3%	18.2%	14.0%	26.2%	16.5%	21.4%	21.4%	25.0%	18.3%	23.7%	35.0%	25.1%	24.1%
期待する	309	249	59	62	100	90	54	20	110	102	47	21	172	122	9	114	14
	46.5%	46.5%	46.1%	44.9%	46.5%	46.9%	47.4%	32.8%	46.4%	52.0%	48.0%	47.7%	42.6%	53.5%	45.0%	53.0%	48.3%
どちらともいえない	171	147	24	28	53	51	38	21	68	41	23	11	120	44	4	40	7
	25.7%	27.4%	18.8%	20.3%	24.7%	26.6%	33.3%	34.4%	28.7%	20.9%	23.5%	25.0%	29.7%	19.3%	20.0%	18.6%	24.1%
期待しない	35	26	9	9	9	14	2	4	14	9	5	1	27	8	0	7	1
	5.3%	4.9%	7.0%	6.5%	4.2%	7.3%	1.8%	6.6%	5.9%	4.6%	5.1%	2.3%	6.7%	3.5%	0.0%	3.3%	3.4%
まったく期待しない	11	10	1	2	3	2	4	0	6	2	2	0	11	0	0	0	0
	1.7%	1.9%	0.8%	1.4%	1.4%	1.0%	3.5%	0.0%	2.5%	1.0%	2.0%	0.0%	2.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

	n. s.			*				**					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
とても期待する	50	56	31	31	76	25	7	42	20	20	28	7	22
	25.8%	18.5%	20.0%	19.9%	21.5%	28.7%	12.1%	27.1%	22.0%	15.5%	17.2%	13.2%	29.7%
期待する	87	138	77	70	170	35	26	71	45	56	76	24	37
	44.8%	45.5%	49.7%	44.9%	48.2%	40.2%	44.8%	45.8%	49.5%	43.4%	46.6%	45.3%	50.0%
どちらともいえない	45	82	41	47	83	23	15	30	17	48	47	15	14
	23.2%	27.1%	26.5%	30.1%	23.5%	26.4%	25.9%	19.4%	18.7%	37.2%	28.8%	28.3%	18.9%
期待しない	9	23	3	6	19	4	6	9	7	4	7	7	1
	4.6%	7.6%	1.9%	3.8%	5.4%	4.6%	10.3%	5.8%	7.7%	3.1%	4.3%	13.2%	1.4%
まったく期待しない	3	4	3	2	5	0	4	3	2	1	5	0	0
	1.5%	1.3%	1.9%	1.3%	1.4%	0.0%	6.9%	1.9%	2.2%	0.8%	3.1%	0.0%	0.0%

14. 倫理観

		n. s.		n. s.							*			n. s.			n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位				進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
とても期待する	44	33	11	7	19	14	4	5	15	14	5	1	24	16	2	16	2
	6.6%	6.1%	8.5%	5.1%	8.8%	7.3%	3.4%	8.2%	6.3%	7.1%	5.1%	2.3%	5.9%	7.0%	10.0%	7.4%	6.9%
期待する	125	102	23	18	41	40	26	13	38	46	16	4	71	48	4	39	12
	18.7%	19.0%	17.8%	13.0%	19.0%	20.8%	22.4%	21.3%	15.8%	23.5%	16.3%	9.1%	17.5%	21.0%	20.0%	18.1%	41.4%
どちらともいえない	309	251	57	65	98	88	54	24	110	86	56	23	185	108	8	105	9
	46.3%	46.7%	44.2%	47.1%	45.4%	45.8%	46.6%	39.3%	45.8%	43.9%	57.1%	52.3%	45.6%	47.2%	40.0%	48.6%	31.0%
期待しない	139	107	32	39	38	39	22	18	54	37	12	15	93	40	5	39	5
	20.8%	19.9%	24.8%	28.3%	17.6%	20.3%	19.0%	29.5%	22.5%	18.9%	12.2%	34.1%	22.9%	17.5%	25.0%	18.1%	17.2%
まったく期待しない	51	45	6	9	20	11	10	1	23	13	9	1	33	17	1	17	1
	7.6%	8.4%	4.7%	6.5%	9.3%	5.7%	8.6%	1.6%	9.6%	6.6%	9.2%	2.3%	8.1%	7.4%	5.0%	7.9%	3.4%

	n. s.			**				***					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
とても期待する	20	12	11	8	23	10	3	16	2	8	4	3	11
	10.3%	4.0%	7.0%	5.1%	6.5%	11.5%	5.2%	10.3%	2.2%	6.2%	2.5%	5.7%	14.3%
期待する	30	57	35	24	79	14	7	22	29	21	28	4	21
	15.4%	18.8%	22.3%	15.3%	22.3%	16.1%	12.1%	14.2%	31.9%	16.3%	17.2%	7.5%	27.3%
どちらともいえない	89	148	66	73	170	34	23	64	37	61	89	29	29
	45.6%	48.8%	42.0%	46.5%	47.9%	39.1%	39.7%	41.3%	40.7%	47.3%	54.6%	54.7%	37.7%
期待しない	41	62	34	39	65	20	14	38	12	31	33	13	12
	21.0%	20.5%	21.7%	24.8%	18.3%	23.0%	24.1%	24.5%	13.2%	24.0%	20.2%	24.5%	15.6%
まったく期待しない	15	24	11	13	18	9	11	15	11	8	9	4	4
	7.7%	7.9%	7.0%	8.3%	5.1%	10.3%	19.0%	9.7%	12.1%	6.2%	5.5%	7.5%	5.2%

15. 社会人として必要な態度

		**		n. s.				***					***			n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
とても期待する	41	28	13	8	20	10	3	1	13	14	6	1	23	15	1	14	2
	6.1%	5.2%	10.1%	5.8%	9.3%	5.2%	2.6%	1.6%	5.4%	7.1%	6.1%	2.3%	5.7%	6.6%	5.0%	6.5%	6.9%
期待する	116	100	16	22	40	34	20	16	30	44	18	2	59	49	7	50	5
	17.4%	18.6%	12.4%	15.9%	18.5%	17.7%	17.2%	26.2%	12.5%	22.4%	18.4%	4.5%	14.5%	21.4%	35.0%	23.1%	17.2%
どちらともいえない	272	228	43	50	84	78	56	16	102	84	44	16	150	105	10	99	14
	40.7%	42.4%	33.3%	36.2%	38.9%	40.6%	48.3%	26.2%	42.5%	42.9%	44.9%	36.4%	36.9%	45.9%	50.0%	45.8%	48.3%
期待しない	159	116	43	39	44	50	25	24	60	36	19	19	118	37	1	32	5
	23.8%	21.6%	33.3%	28.3%	20.4%	26.0%	21.6%	39.3%	25.0%	18.4%	19.4%	43.2%	29.1%	16.2%	5.0%	14.8%	17.2%
まったく期待しない	80	66	14	19	28	20	12	4	35	18	11	6	56	23	1	21	3
	12.0%	12.3%	10.9%	13.8%	13.0%	10.4%	10.3%	6.6%	14.6%	9.2%	11.2%	13.6%	13.8%	10.0%	5.0%	9.7%	10.3%

	*			n. s.				**					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
とても期待する	21	9	11	9	22	7	3	13	5	8	4	2	9
	10.8%	3.0%	7.0%	5.7%	6.2%	8.0%	5.2%	8.4%	5.5%	6.2%	2.5%	3.8%	11.7%
期待する	30	51	30	30	66	9	7	29	25	19	23	4	16
	15.4%	16.8%	19.1%	19.1%	18.6%	10.3%	12.1%	18.7%	27.5%	14.7%	14.1%	7.5%	20.8%
どちらともいえない	75	126	66	68	147	33	19	54	35	50	79	24	30
	38.5%	41.6%	42.0%	43.3%	41.4%	37.9%	32.8%	34.8%	38.5%	38.8%	48.5%	45.3%	39.0%
期待しない	45	83	30	31	85	24	18	35	11	38	44	18	13
	23.1%	27.4%	19.1%	19.7%	23.9%	27.6%	31.0%	22.6%	12.1%	29.5%	27.0%	34.0%	16.9%
まったく期待しない	24	34	20	19	35	14	11	24	15	14	13	5	9
	12.3%	11.2%	12.7%	12.1%	9.9%	16.1%	19.0%	15.5%	16.5%	10.9%	8.0%	9.4%	11.7%

16. 豊かな人間性・感受性

		n. s.		*				**					n. s.			n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
とても期待する	49	37	12	11	24	9	4	3	12	18	8	1	21	24	2	23	3
	7.4%	6.9%	9.4%	8.1%	11.1%	4.7%	3.5%	5.0%	5.0%	9.2%	8.2%	2.3%	5.2%	10.5%	10.0%	10.6%	10.3%
期待する	127	109	18	25	46	33	21	19	43	42	14	4	77	46	4	45	5
	19.1%	20.3%	14.2%	18.4%	21.3%	17.2%	18.3%	31.7%	18.0%	21.4%	14.3%	9.3%	19.1%	20.1%	20.0%	20.8%	17.2%
どちらともいえない	286	233	52	56	85	85	58	15	111	85	48	18	163	105	10	99	13
	43.0%	43.4%	40.9%	41.2%	39.4%	44.3%	50.4%	25.0%	46.4%	43.4%	49.0%	41.9%	40.4%	45.9%	50.0%	45.8%	44.8%
期待しない	136	101	35	34	34	50	18	19	47	37	15	16	96	35	3	31	6
	20.5%	18.8%	27.6%	25.0%	15.7%	26.0%	15.7%	31.7%	19.7%	18.9%	15.3%	37.2%	23.8%	15.3%	15.0%	14.4%	20.7%
まったく期待しない	67	57	10	10	27	15	14	4	26	14	13	4	46	19	1	18	2
	10.1%	10.6%	7.9%	7.4%	12.5%	7.8%	12.2%	6.7%	10.9%	7.1%	13.3%	9.3%	11.4%	8.3%	5.0%	8.3%	6.9%

	n. s.			n. s.				*					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
とても期待する	23	15	11	10	27	9	3	19	5	11	3	2	9
	11.9%	5.0%	7.1%	6.4%	7.6%	10.5%	5.2%	12.3%	5.5%	8.6%	1.9%	3.8%	11.7%
期待する	31	62	30	41	62	13	9	29	24	20	28	9	17
	16.1%	20.5%	19.2%	26.3%	17.5%	15.1%	15.5%	18.8%	26.4%	15.6%	17.3%	17.0%	22.1%
どちらともいえない	83	128	70	63	156	36	24	58	38	50	85	24	31
	43.0%	42.2%	44.9%	40.4%	44.1%	41.9%	41.4%	37.7%	41.8%	39.1%	52.5%	45.3%	40.3%
期待しない	38	68	28	25	78	18	14	31	12	33	34	13	13
	19.7%	22.4%	17.9%	16.0%	22.0%	20.9%	24.1%	20.1%	13.2%	25.8%	21.0%	24.5%	16.9%
まったく期待しない	18	30	17	17	31	10	8	17	12	14	12	5	7
	9.3%	9.9%	10.9%	10.9%	8.8%	11.6%	13.8%	11.0%	13.2%	10.9%	7.4%	9.4%	9.1%

17. 人と協力しながら物事に取り組む力

		n. s.		*				***					***			n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
とても期待する	68	54	14	19	30	13	5	3	17	26	12	2	34	30	2	28	4
	10.2%	10.1%	10.9%	13.8%	13.9%	6.8%	4.4%	4.9%	7.1%	13.4%	12.2%	4.5%	8.4%	13.2%	10.0%	13.1%	13.8%
期待する	194	153	41	45	70	48	30	23	62	72	21	10	96	85	7	85	7
	29.2%	28.6%	31.8%	32.6%	32.4%	25.0%	26.3%	37.7%	25.9%	37.1%	21.4%	22.7%	23.7%	37.4%	35.0%	39.7%	24.1%
どちらともいえない	253	210	42	47	71	79	54	16	102	62	44	20	164	76	9	71	11
	38.0%	39.3%	32.6%	34.1%	32.9%	41.1%	47.4%	26.2%	42.7%	32.0%	44.9%	45.5%	40.5%	33.5%	45.0%	33.2%	37.9%
期待しない	107	82	25	19	33	41	14	16	37	28	13	11	76	28	2	22	7
	16.1%	15.3%	19.4%	13.8%	15.3%	21.4%	12.3%	26.2%	15.5%	14.4%	13.3%	25.0%	18.8%	12.3%	10.0%	10.3%	24.1%
まったく期待しない	43	36	7	8	12	11	11	3	21	6	8	1	35	8	0	8	0
	6.5%	6.7%	5.4%	5.8%	5.6%	5.7%	9.6%	4.9%	8.8%	3.1%	8.2%	2.3%	8.6%	3.5%	0.0%	3.7%	0.0%

	n. s.			n. s.				*				
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
とても期待する	30	21	16	17	37	11	3	18	13	12	7	5	13
	15.5%	6.9%	10.3%	11.0%	10.5%	12.6%	5.2%	11.7%	14.4%	9.3%	4.3%	9.4%	16.9%
期待する	63	87	39	46	109	20	14	41	39	36	43	13	22
	32.5%	28.7%	25.2%	29.7%	30.8%	23.0%	24.1%	26.6%	43.3%	27.9%	26.5%	24.5%	28.6%
どちらともいえない	64	121	66	59	136	32	22	57	22	49	73	23	29
	33.0%	39.9%	42.6%	38.1%	38.4%	36.8%	37.9%	37.0%	24.4%	38.0%	45.1%	43.4%	37.7%
期待しない	25	52	26	22	53	19	11	24	9	27	28	9	10
	12.9%	17.2%	16.8%	14.2%	15.0%	21.8%	19.0%	15.6%	10.0%	20.9%	17.3%	17.0%	13.0%
まったく期待しない	12	22	8	11	19	5	8	14	7	5	11	3	3
	6.2%	7.3%	5.2%	7.1%	5.4%	5.7%	13.8%	9.1%	7.8%	3.9%	6.8%	5.7%	3.9%

18. 目標に向かって人や集団をひっぱる力

		**		*				**					**			n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
とても期待する	62	43	19	17	26	13	5	4	18	22	9	3	31	27	2	27	2
	9.3%	8.0%	14.8%	12.4%	12.0%	6.8%	4.3%	6.6%	7.5%	11.3%	9.2%	6.8%	7.7%	11.8%	10.0%	12.6%	6.9%
期待する	169	135	34	46	51	41	31	20	56	56	24	6	91	69	5	66	8
	25.4%	25.2%	26.6%	33.6%	23.6%	21.5%	27.0%	32.8%	23.4%	28.9%	24.5%	13.6%	22.5%	30.3%	25.0%	30.7%	27.6%
どちらともいえない	270	229	40	42	88	85	51	15	101	82	40	21	159	94	11	88	14
	40.6%	42.7%	31.3%	30.7%	40.7%	44.5%	44.3%	24.6%	42.3%	42.3%	40.8%	47.7%	39.4%	41.2%	55.0%	40.9%	48.3%
期待しない	117	87	30	26	35	40	16	21	42	26	14	13	87	27	2	23	5
	17.6%	16.2%	23.4%	19.0%	16.2%	20.9%	13.9%	34.4%	17.6%	13.4%	14.3%	29.5%	21.5%	11.8%	10.0%	10.7%	17.2%
まったく期待しない	47	42	5	6	16	12	12	1	22	8	11	1	36	11	0	11	0
	7.1%	7.8%	3.9%	4.4%	7.4%	6.3%	10.4%	1.6%	9.2%	4.1%	11.2%	2.3%	8.9%	4.8%	0.0%	5.1%	0.0%

	n. s.			*				*					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
とても期待する	28	22	12	16	32	13	1	15	11	9	9	5	13
	14.4%	7.3%	7.7%	10.3%	9.0%	14.9%	1.8%	9.8%	12.1%	7.0%	5.6%	9.4%	16.9%
期待する	48	76	40	40	92	15	18	36	31	29	33	12	28
	24.7%	25.1%	25.6%	25.6%	26.0%	17.2%	31.6%	23.5%	34.1%	22.5%	20.4%	22.6%	36.4%
どちらともいえない	75	123	70	66	150	33	16	58	32	56	76	23	25
	38.7%	40.6%	44.9%	42.3%	42.4%	37.9%	28.1%	37.9%	35.2%	43.4%	46.9%	43.4%	32.5%
期待しない	32	56	26	22	60	20	14	33	8	30	30	9	7
	16.5%	18.5%	16.7%	14.1%	16.9%	23.0%	24.6%	21.6%	8.8%	23.3%	18.5%	17.0%	9.1%
まったく期待しない	11	26	8	12	20	6	8	11	9	5	14	4	4
	5.7%	8.6%	5.1%	7.7%	5.6%	6.9%	14.0%	7.2%	9.9%	3.9%	8.6%	7.5%	5.2%

19. 国際的なビジネス感覚

		n. s.		n. s.				n. s.					n. s.			n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）					取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他	学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
とても期待する	62	46	16	16	25	12	8	7	19	26	4	2	33	24	2	23	3
	9.3%	8.6%	12.4%	11.6%	11.6%	6.3%	6.9%	11.5%	7.9%	13.3%	4.1%	4.5%	8.1%	10.5%	10.0%	10.7%	10.3%
期待する	186	153	33	35	53	60	36	19	72	52	25	11	111	69	4	62	9
	27.9%	28.5%	25.6%	25.4%	24.5%	31.4%	31.0%	31.1%	30.0%	26.7%	25.5%	25.0%	27.3%	30.3%	20.0%	28.8%	31.0%
どちらともいえない	253	205	47	50	80	69	51	17	95	69	45	17	151	86	10	83	11
	37.9%	38.2%	36.4%	36.2%	37.0%	36.1%	44.0%	27.9%	39.6%	35.4%	45.9%	38.6%	37.2%	37.7%	50.0%	38.6%	37.9%
期待しない	113	88	25	30	37	37	9	15	37	34	14	10	80	29	3	28	4
	16.9%	16.4%	19.4%	21.7%	17.1%	19.4%	7.8%	24.6%	15.4%	17.4%	14.3%	22.7%	19.7%	12.7%	15.0%	13.0%	13.8%
まったく期待しない	53	45	8	7	21	13	12	3	17	14	10	4	31	20	1	19	2
	7.9%	8.4%	6.2%	5.1%	9.7%	6.8%	10.3%	4.9%	7.1%	7.2%	10.2%	9.1%	7.6%	8.8%	5.0%	8.8%	6.9%

	n. s.			n. s.				*					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
とても期待する	20	28	14	15	27	13	7	16	10	8	9	4	15
	10.3%	9.2%	9.0%	9.6%	7.6%	14.9%	12.1%	10.4%	11.0%	6.2%	5.5%	7.5%	19.5%
期待する	45	85	51	44	93	25	19	42	29	37	42	12	24
	23.1%	28.1%	32.7%	28.2%	26.2%	28.7%	32.8%	27.3%	31.9%	28.7%	25.8%	22.6%	31.2%
どちらともいえない	81	108	60	58	149	28	14	57	30	52	72	21	21
	41.5%	35.6%	38.5%	37.2%	42.0%	32.2%	24.1%	37.0%	33.0%	40.3%	44.2%	39.6%	27.3%
期待しない	36	56	20	28	63	11	10	24	11	25	28	15	10
	18.5%	18.5%	12.8%	17.9%	17.7%	12.6%	17.2%	15.6%	12.1%	19.4%	17.2%	28.3%	13.0%
まったく期待しない	13	26	11	11	23	10	8	15	11	7	12	1	7
	6.7%	8.6%	7.1%	7.1%	6.5%	11.5%	13.8%	9.7%	12.1%	5.4%	7.4%	1.9%	9.1%

20. 語学能力（読む、書く、話す）

		n. s.		n. s.									*			*		n. s.	
	全体	性		年代				専門分野（学部）						取得学位			進学のタイミング	
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50・60歳代	人文科学系	社会科学系	理工学系	農学・水産学系	その他		学士号	修士号	博士号	就職前進学	就職後進学
とても期待する	98	74	24	26	37	23	10	9	28	35	14	4		47	42	6	42	6
	14.7%	13.8%	18.6%	18.8%	17.2%	12.0%	8.6%	14.8%	11.7%	17.9%	14.4%	9.1%		11.6%	18.5%	30.0%	19.6%	20.7%
期待する	256	207	49	60	82	69	45	29	76	78	43	21		147	96	9	94	10
	38.4%	38.6%	38.0%	43.5%	38.1%	36.1%	38.8%	47.5%	31.7%	40.0%	44.3%	47.7%		36.2%	42.3%	45.0%	43.9%	34.5%
どちらともいえない	228	188	39	39	71	69	46	13	103	58	33	13		152	68	4	59	10
	34.2%	35.1%	30.2%	28.3%	33.0%	36.1%	39.7%	21.3%	42.9%	29.7%	34.0%	29.5%		37.4%	30.0%	20.0%	27.6%	34.5%
期待しない	59	44	15	12	18	22	7	9	22	17	4	6		42	14	1	12	3
	8.9%	8.2%	11.6%	8.7%	8.4%	11.5%	6.0%	14.8%	9.2%	8.7%	4.1%	13.6%		10.3%	6.2%	5.0%	5.6%	10.3%
まったく期待しない	25	23	2	1	7	8	8	1	11	7	3	0		18	7	0	7	0
	3.8%	4.3%	1.6%	0.7%	3.3%	4.2%	6.9%	1.6%	4.6%	3.6%	3.1%	0.0%		4.4%	3.1%	0.0%	3.3%	0.0%

	n. s.			n. s.				n. s.					
	仕事上の発達段階			将来の働き方				現在の職業					
	第1段階	第2段階	第3段階以上	現在の職場で昇進	現在の職場で専門性を高める	転職	その他	中央省庁職員	東京都庁職員	新潟県庁職員	広島県庁職員	香川県庁職員	大・中・小企業従業員
とても期待する	33	43	22	22	48	21	7	28	17	13	18	7	15
	16.9%	14.2%	14.1%	14.1%	13.6%	24.1%	12.1%	18.3%	18.7%	10.1%	11.0%	13.2%	19.5%
期待する	75	116	58	57	140	32	22	68	35	53	48	21	31
	38.5%	38.4%	37.2%	36.5%	39.5%	36.8%	37.9%	44.4%	38.5%	41.1%	29.4%	39.6%	40.3%
どちらともいえない	61	103	61	52	127	25	19	44	28	47	68	18	23
	31.3%	34.1%	39.1%	33.3%	35.9%	28.7%	32.8%	28.8%	30.8%	36.4%	41.7%	34.0%	29.9%
期待しない	20	25	12	18	29	7	4	7	7	12	21	6	6
	10.3%	8.3%	7.7%	11.5%	8.2%	8.0%	6.9%	4.6%	7.7%	9.3%	12.9%	11.3%	7.8%
まったく期待しない	6	15	3	7	10	2	6	6	4	4	8	1	2
	3.1%	5.0%	1.9%	4.5%	2.8%	2.3%	10.3%	3.9%	4.4%	3.1%	4.9%	1.9%	2.6%

執筆者紹介

＊所属は本書刊行時点のもの

＊執 筆 順

山 本　眞 一	桜美林大学大学院　教授
藤 村　正 司	広島大学高等教育研究開発センター　センター長・教授
李　　敏	広島大学高等教育研究開発センター　研究員
大 膳　　司	広島大学高等教育研究開発センター　教授
安 部　保 海	広島大学高等教育研究開発センター　研究員
黄　福 涛	広島大学高等教育研究開発センター　教授
島　一 則	広島大学高等教育研究開発センター　准教授